昭和二年度直轄工事年報

内務省土木局

誤		正
口		繪
四頁	十二行	(6) ト (7) ノ寫眞入レ替ヘ
一七頁	十一行括弧内	「ノ九河川」ハ「狩野、大淀ノ十一河川」
		「一千立方米」ハ「九百七十立方米」
一三〇頁	七行	「突提」ハ「突堤」
一四三頁	十六行	「四百二十八町」ハ「四百二十町」
二三三頁	十一行	「矢津屹」ハ「矢津越」
二五八頁	三行	「各期間」ハ「冬期間」
二七七頁	一行及四行	「隧道」ハ「隧道」(四箇所アリ)
二九六頁	表中單位	「割歩」ハ「割分」
二九九頁	十五行	「低水面上」ハ「干潮面上」
三一二頁	三行	「命ジ」ハ「合シ」
四〇〇頁	表中	「一三個所」ハ「十三箇所」
四〇八頁	十五行	「附帶地低水工事」ハ「附帶低水工事」
三八一頁	十八行	「五十万」ハ「五千万」

昭和二年度直轄工事年報目次

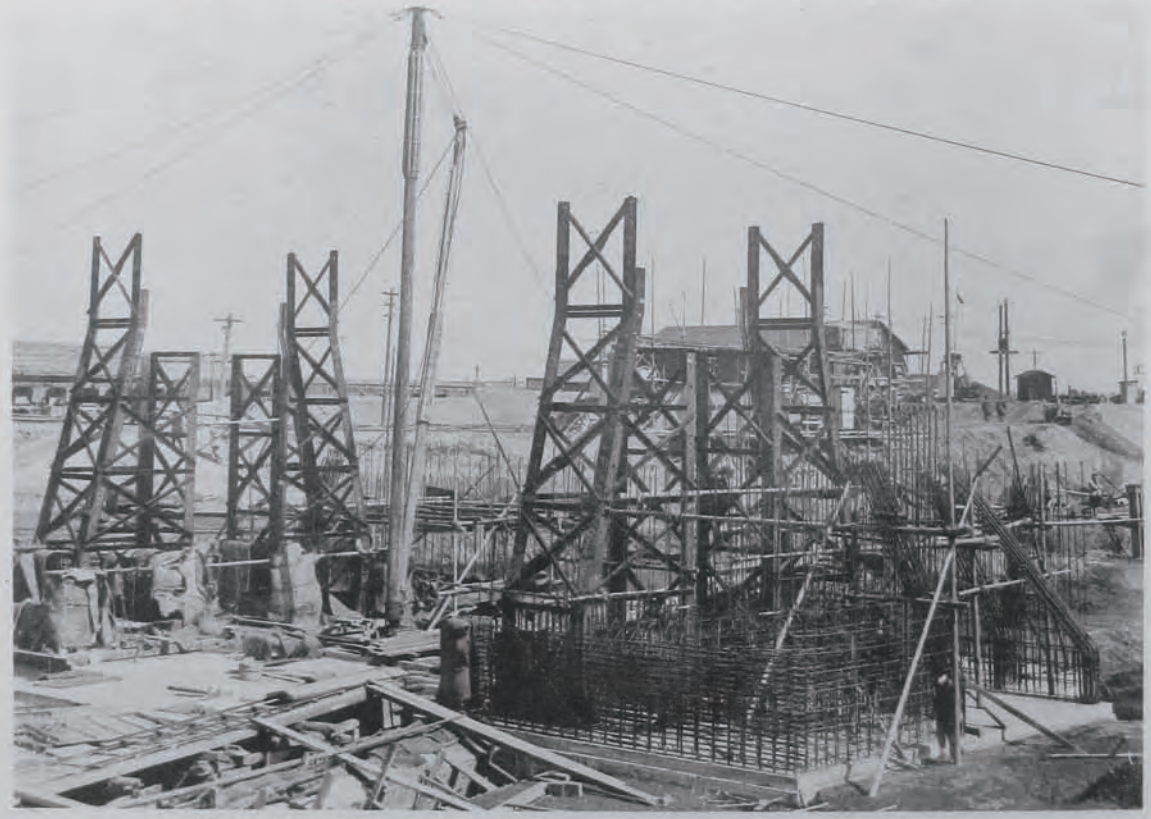
口繪寫眞（二十七面）

附圖（別冊六十七葉）

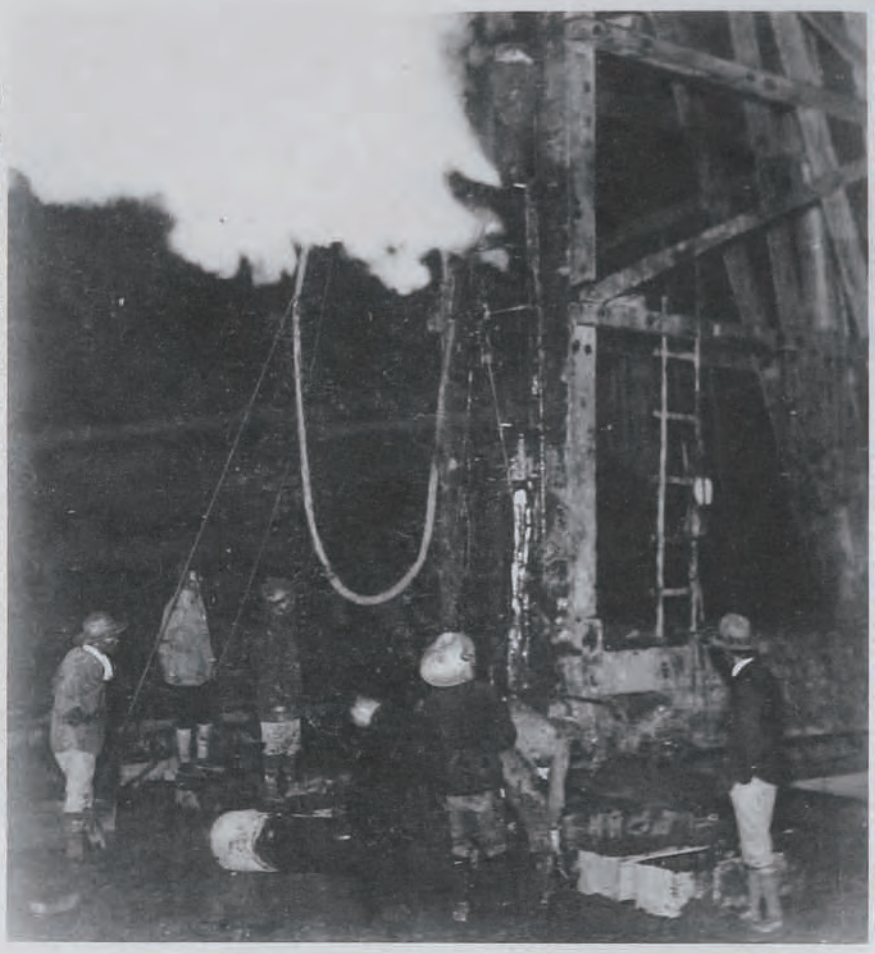
（1）淀川改修増補工事木津、宇治、桂三川合流附換工事全景

大山崎天王山ヨリ對岸橋本町八幡山及其上流ヲ望ム

（2）荒川下流改修工事小松川閘門扉室基礎床版混凝土夜間操業
（東京府南葛飾郡小松川町地先）
扉室幅十一米・閘室幅十四米四・閘室有效長九十一米・基礎床版中ニハ高二米二ノ鐵桁ヲ縱横ニ配列ス其重量前後兩扉室ヲ合セ百九十五瓲又混凝土容積一千百十立方米ニシテ各扉室混凝土ヲ三百立練混凝土混合機八臺ヲ使用シ一晝夜ニテ施工シタリ

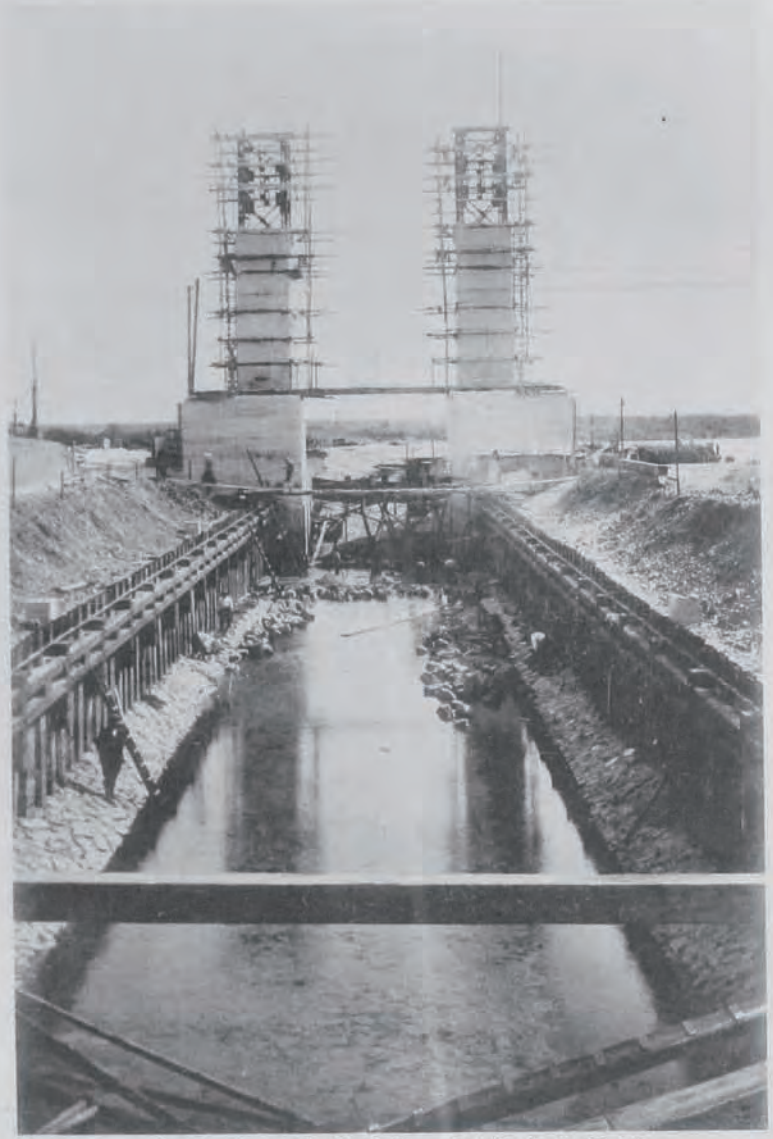


（3）荒川下流改修工事船堀閘門前扉室扉捲揚塔組立
（東京府南葛飾郡松江町地先）
扉室幅十一米・閘室幅十四米四・閘室有效長九十一米・塔高閘以上二十三米・捲揚塔鐵骨前扉室五十瓲・後扉室四十瓲



(4) 荒川下流改修工事船堀閘門基礎杭打夜間操業
（東京府南葛飾郡松江町地先）
基礎杭末口二十三糎・長二十二米七・米松丸太四百五十二本・杭間隔縦横共一米二・重量二千九百瓩・マツキヤナン・テリー蒸氣杭打機使用

（5）最上川改修工事赤川新川開鑿
（山形縣西田川郡補浦村地先）
新水路延長二千八百米・底幅百米・最大掘鑿深四十五米・掘鑿土量八百五萬立方米・寫眞ハ昭和二年七月初メテ通水セシ時下流ヨリ上流ヲ望ミシ狀況ニシテ當時迄ニ六百五十萬立方米ヲ掘鑿シタリ

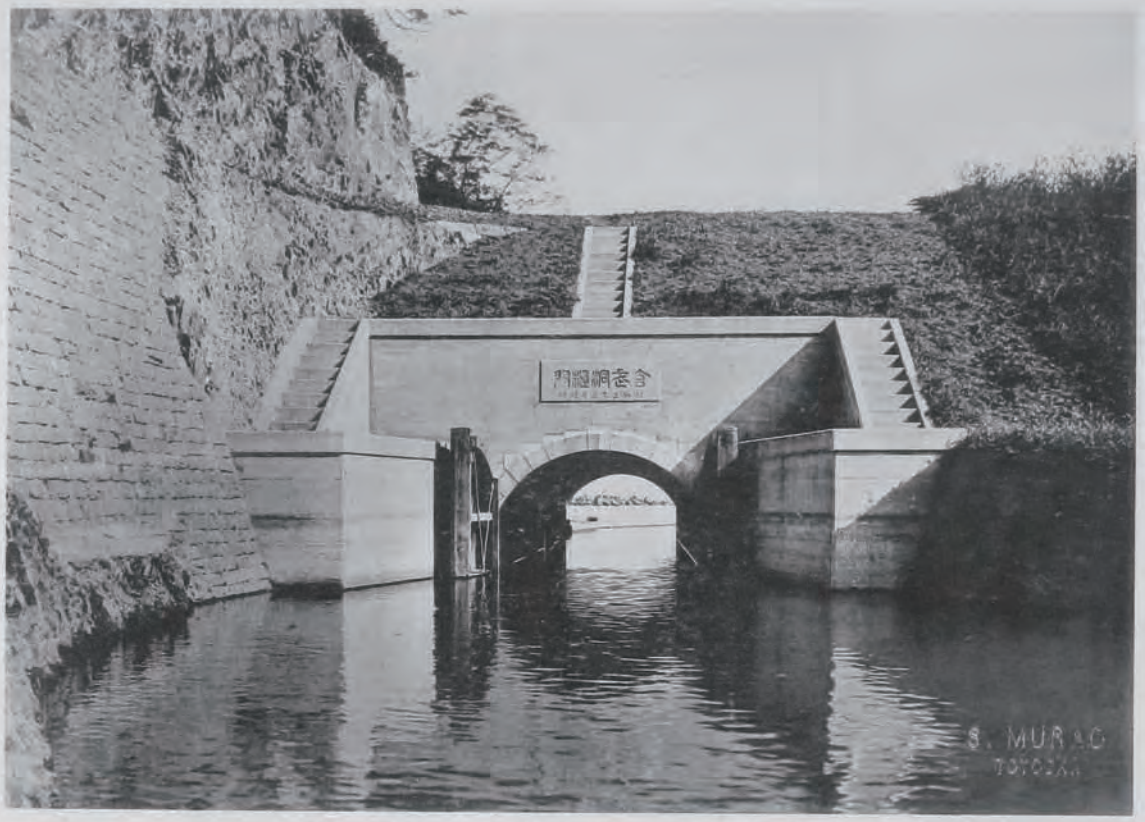


（6）淀川改修増補工事神崎川樋門
（大阪府三島郡味生村地先）
高五米三・徑間五米五・扉重量十八噸電動捲揚・
用水取入並ニ低水時通船ノ目的ヲ以テ築造セラル

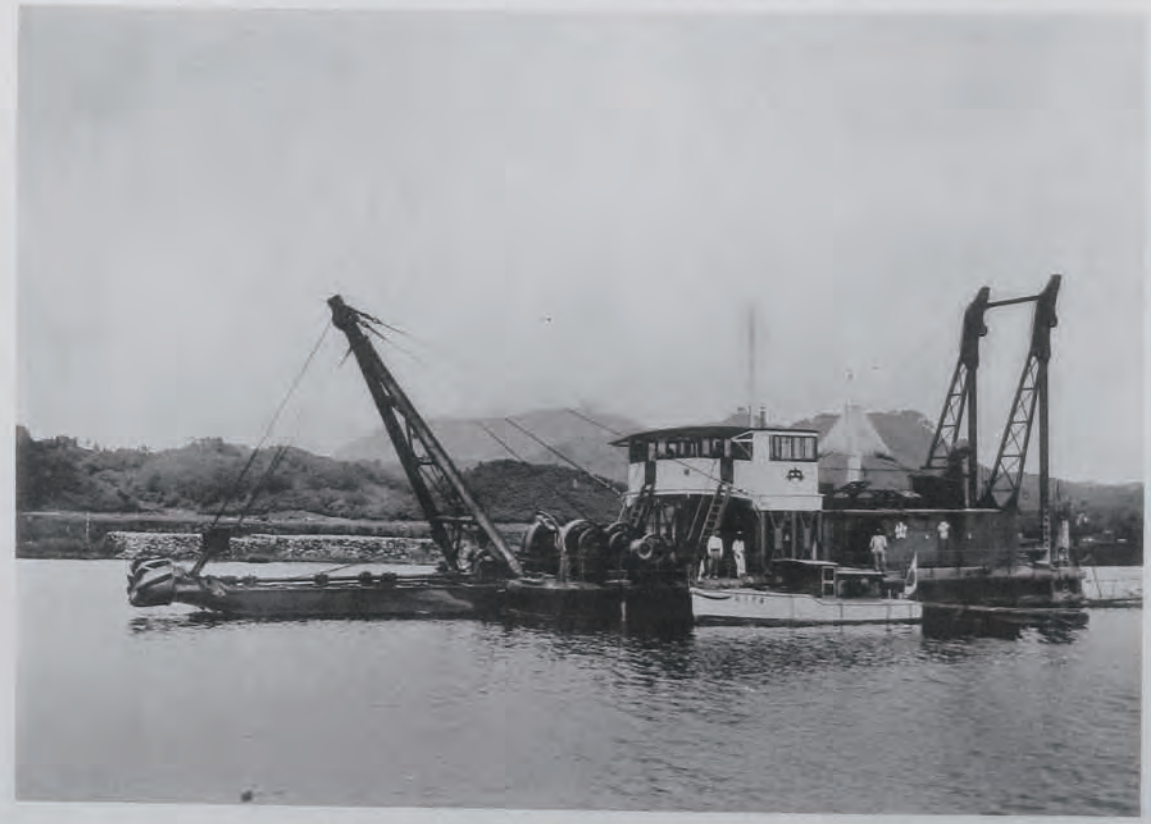
（7）淀川改修増補工事三栖閘門前扉室及閘室
（京都府紀伊郡伏見町地先）
閘室有效長八十米・扉室幅八米・閘室幅十一米・扉室
基礎混凝土井筒・閘室ラルゼン鐵矢板壁・扉捲揚塔
鐵骨鐵筋混凝土・扉ストーニー式鐵製電力操作

(8) 千曲川改修工事石張護岸
(長野縣更級郡廳崎村地先)
築堤ノ一部ハ河身内ニ築設スルタメ
木工沈床・杭柵水制及石張ヲ施行ス

(9) 富士川改修工事藤田水制
(山梨縣中巨摩郡藤田村地先)
鐵筋混凝土材合掌枠二列布設・水制長三十二米



(10) 岡山川改修工事玄武洞樋門
(兵庫縣城崎郡田鶴野村地先)
徑間三米・高三米一・本體長十八米六・翼壁長八米・本體・
翼壁及水叩鐵筋混凝土・扉鐵製自在式・基礎岩盤均混凝土



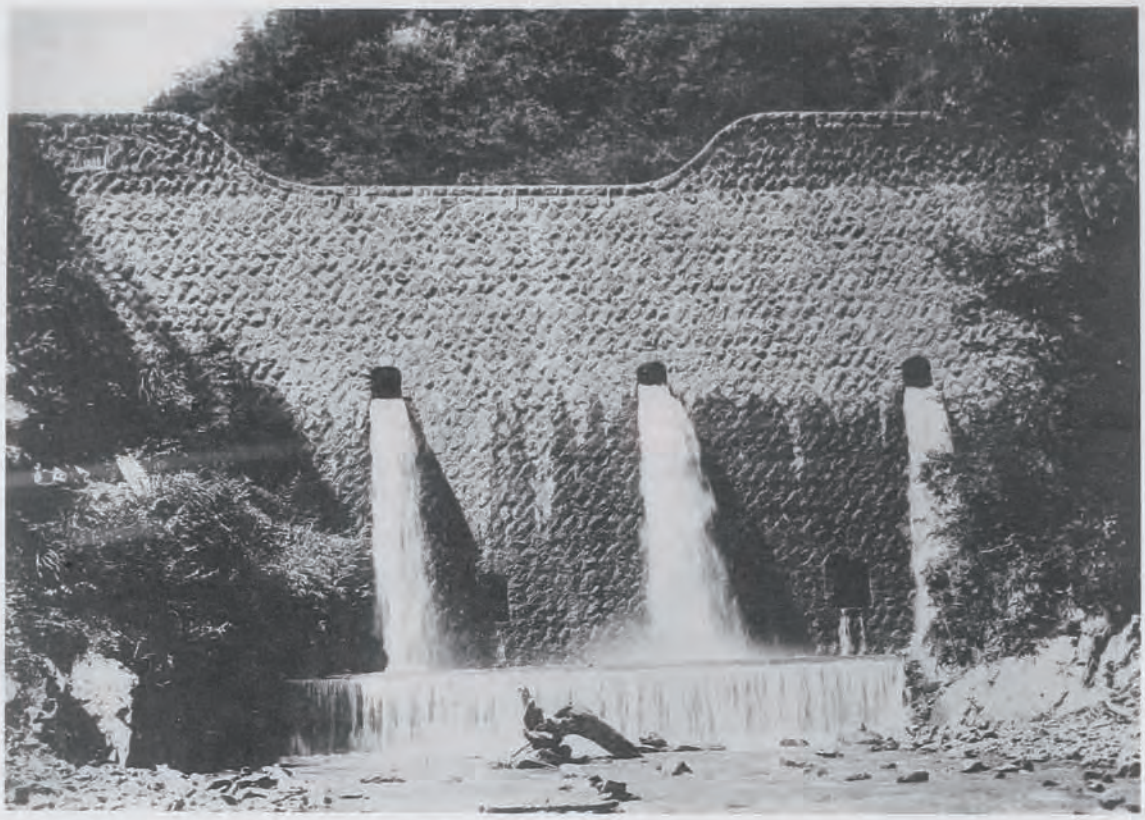
(11) 斐伊川改修工事機械浚渫
(島根縣八束郡川津村地先)
吸揚浚渫船出雲號一時間能力百二十立方米・浚渫深四米五

(12) 筑後川改修工事機械掘鑿
(福岡縣三潴郡安武村地先)
掘鑿機能力一時間百二十立方米・二十瓲機關車
ヲ使用シ三立方米積土運車三十臺餘ヲ牽引ス

(13) 千代川改修工事機械掘鑿土捨作業
(鳥取縣氣高郡千代水村地先)
土運車ハ米國製兩側開ダンプカーニシテ容量三立方米ハ

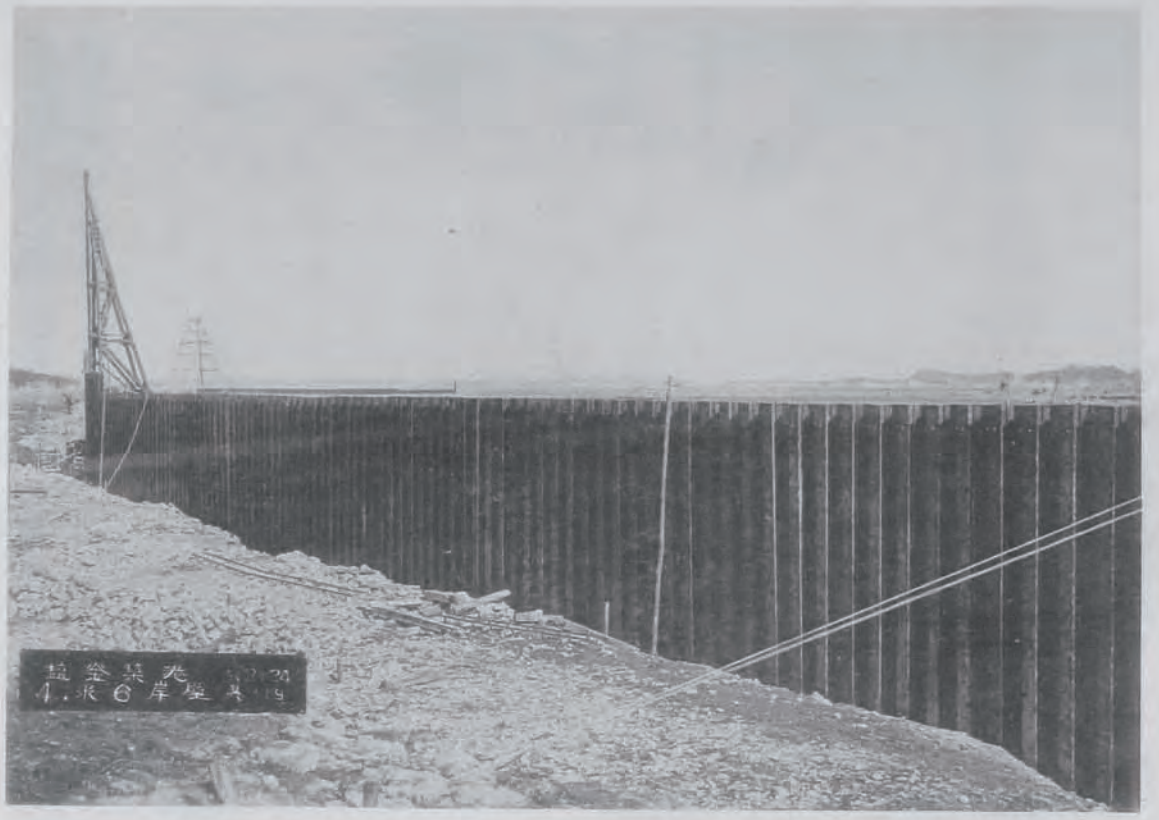
(14) 千曲川流域砂防工事木澤第十八號堰堤
(長野縣北安曇郡陸鄉村地先)
堰堤上長二十七米・下長十三米七・高九米二・水通上長六米五・下長三米五・高二米五

(15) 神通川流域砂防工事六郎谷石堰堤
(岐阜縣吉城郡船津町地先)
數多ノ石堰堤及谷止石積ヲ施工ス

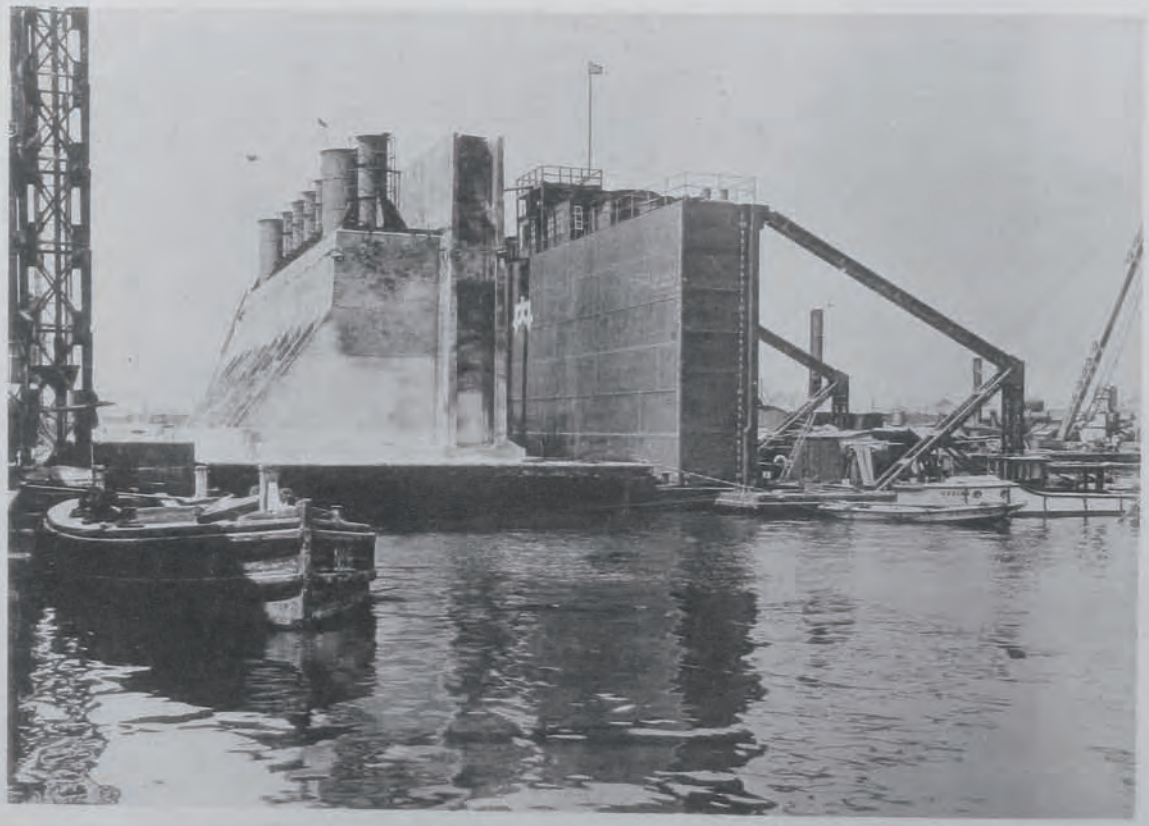


(16) 相模川流域震災復舊砂防工事道志川筋大瀬戸堰堤
(神奈川縣津久井郡青根村地先)
本堰堤高十六米・長三十二米・水通長十二米・築立立積二千五百二十五立方米・副堰堤高四米・長十三米・築立立積百五十六立方米

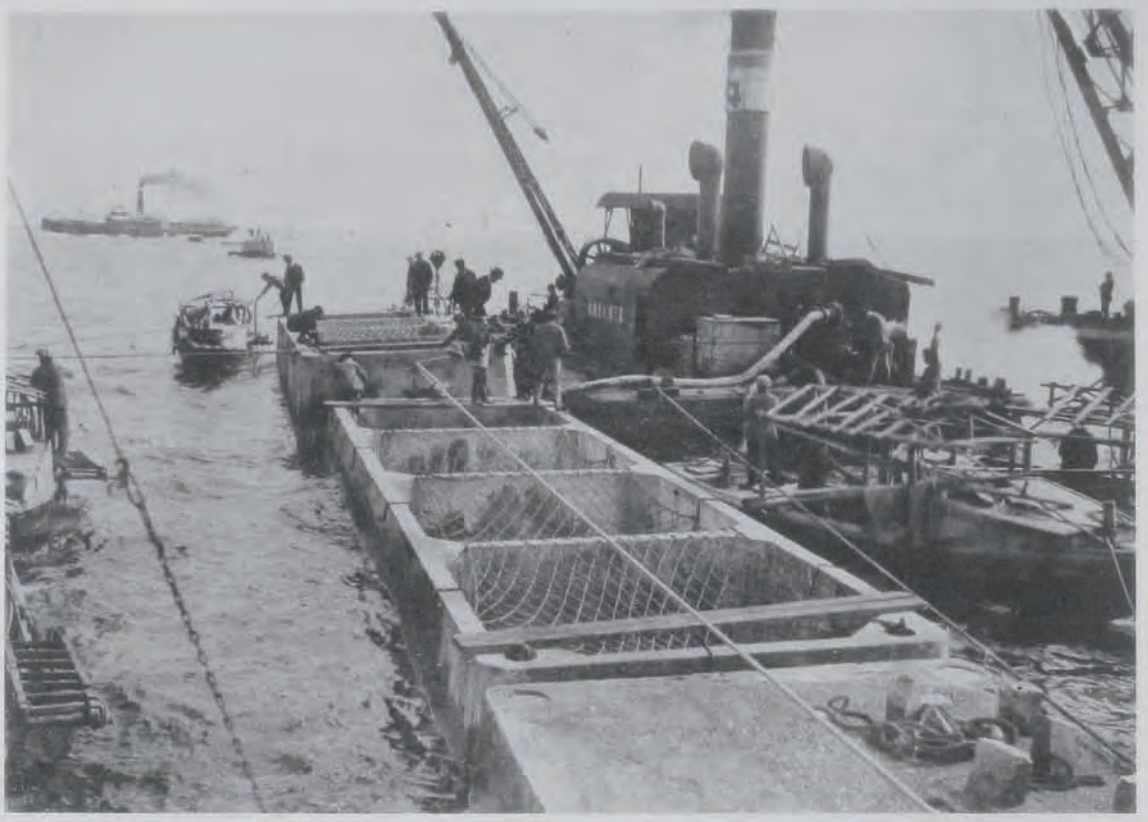
(17) 早川流域震災復舊砂防工事田山堰堤
(神奈川縣足柄下郡溫泉村地先)
本堰堤高二十米・長五十一米・水通長十六米・築立立積五千六百二十九立方米・副堰堤高五米・長二十二米・築立立積三百三十八立方米



(18) 鹽釜港修築工事四米六岸壁鐵矢板打込
ラルゼン鐵矢板第二號型長十二米使用

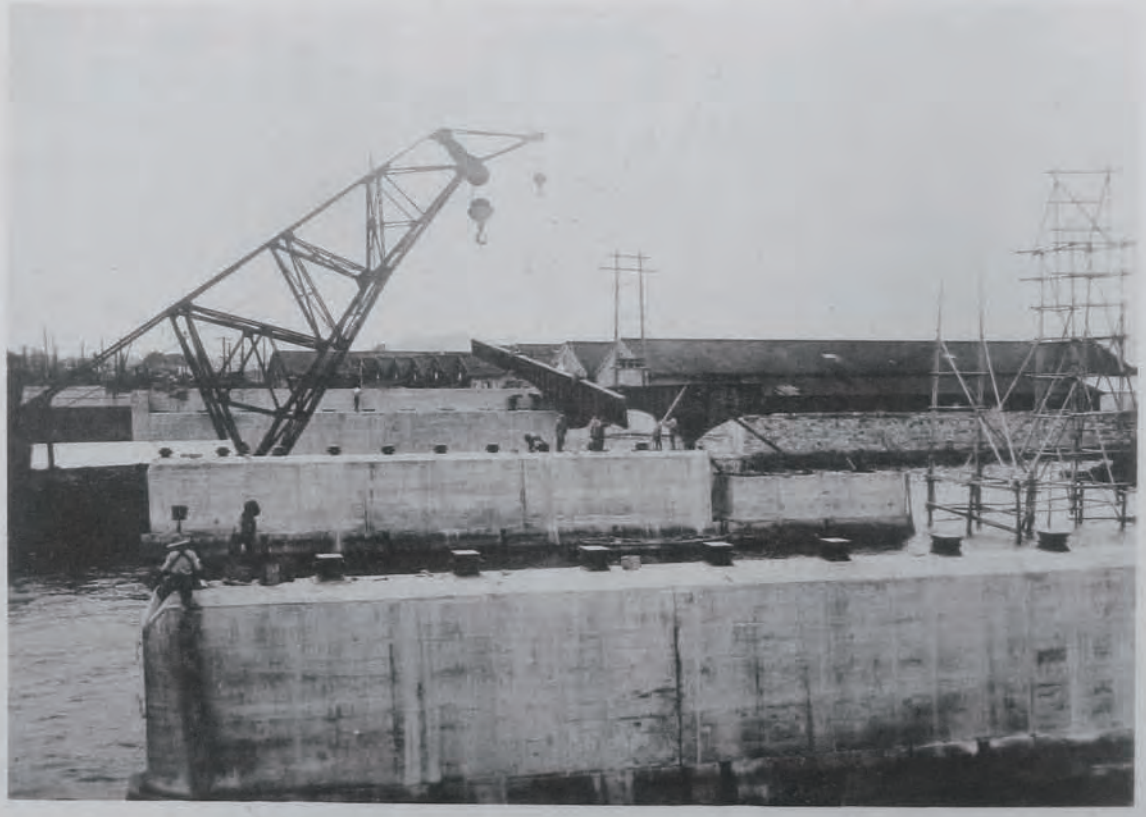


(19) 神戸港修築工事岸壁用鐵筋混凝土函
函ハ十米岸壁用ノモノニシテ長三十五米・幅十米二・高十一米八・重量一千七百瓲ニシテ能力二千瓲浮船渠ニ依リ函臺ヨリ引出シタル狀況ナリ



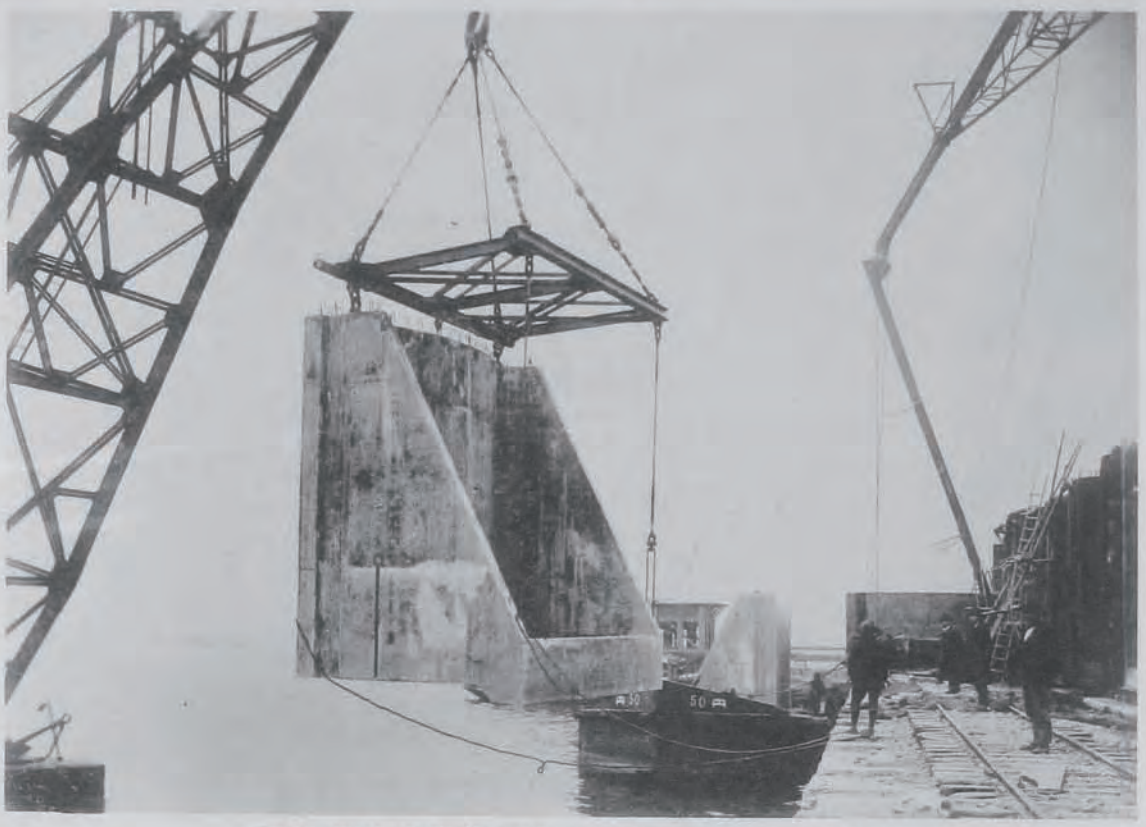
(20) 神戸港修築工事南防波堤築造

防波堤ハ粗石ヲ捨テ其上ニ鐵筋混凝土函ヲ据付ク函ノ長十四米・上幅三米六・下幅七米・高六米六ニシテ隔壁ニ依リ四區劃ニ分タル



(21) 横濱港修築工事千若町及埋立地間連絡橋梁

徑間三十六米一連・二十米二連・幅員人道橋二十四米・鐵道橋八米・桁下端高朔望平均滿潮面上五米

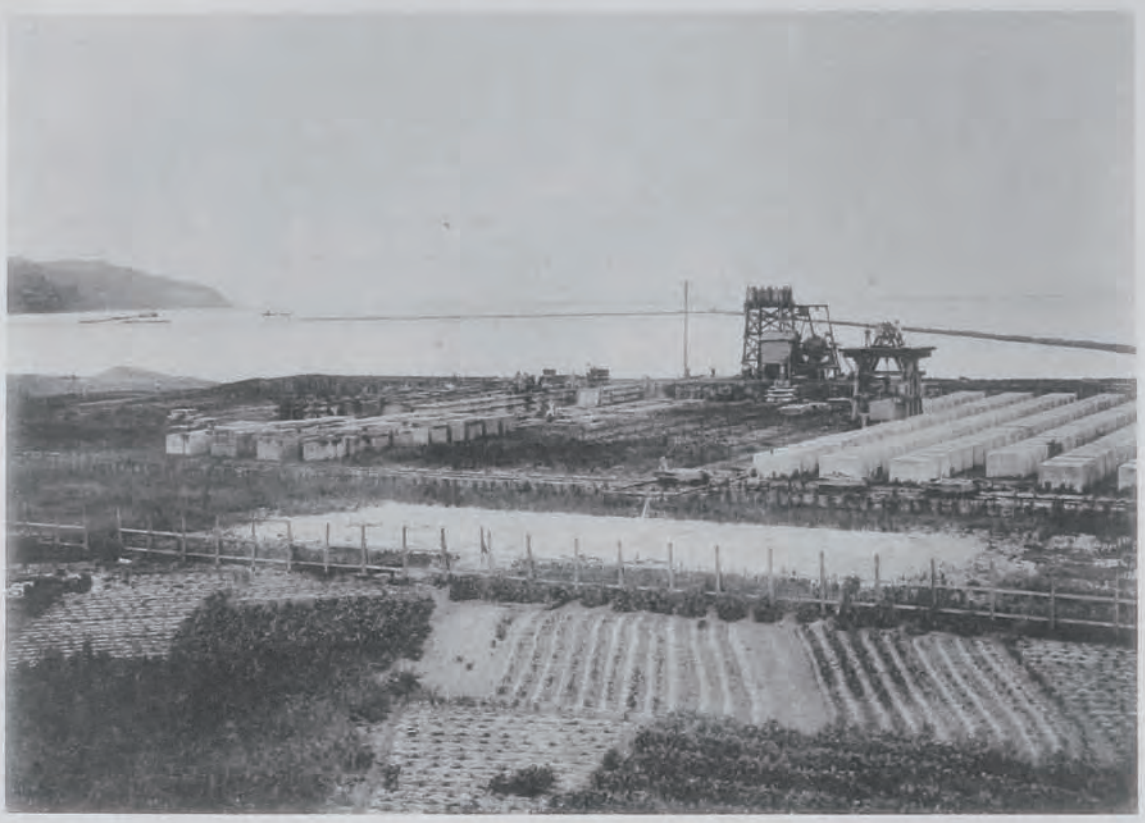


(22) 横濱港修築工事三米岸壁用扶壁體搬出

扶壁體高五米・長四米九・底幅三米五

(23) 清水港修築工事二米七物揚場

長十六米・高四米・底幅三米ノ鐵筋混凝土函ヲ沈設シ此上ニ五割勾配ノ斜面混凝土ヲ施ス繫船柱ハ十五米毎ニ斜面ノ中央ニ埋設ス

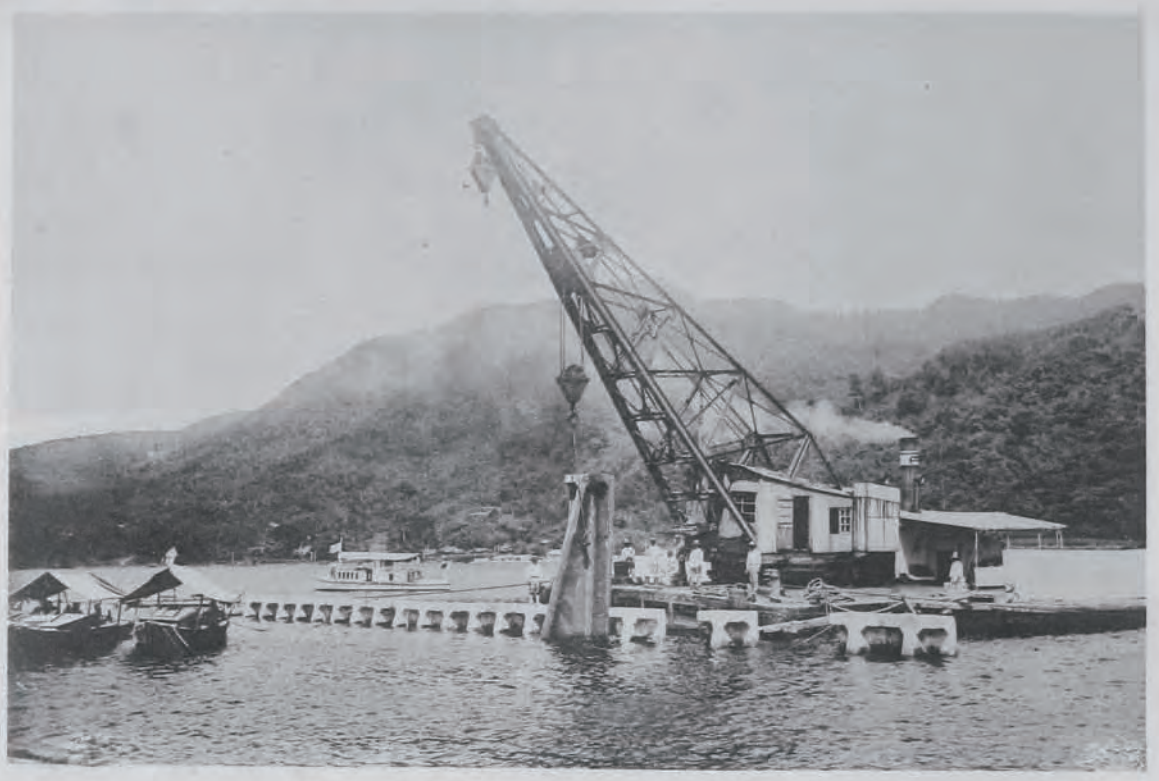


(24) 境港修築工事混凝土方塊製造場

遠ク見ユルハ捨石其他ヲ施工シタル防波堤ナリ

(25) 境港修築工事防波堤捨石均及方塊据付

干潮位附近迄海側三割港側一割五分勾配ニ捨石ヲ施シ混凝土方塊ヲ据付ク天端高干潮位以上一米五·天端幅三米六ナリ



(26) 境港修築工事五米五岸壁用塊据付

塊高七米三·長一米五·底幅四米三·塊天端干潮位上一米五

(27) 鹿兒島港修築工事機械浚渫

杓揚浚渫船能力一時間百立方米·長三十米·幅十一米五·

船首深二米六·船尾深二米三·前方ニ見ユルハ櫻島ナリ

昭和二年度直轄工事年報

總論

第一　治水事業

我國ハ古來水害多ク其損失價額モ年々數千萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ努力セルコト久シ而シテ政府ガ始テ直轄工事ヲ施行シタル河川ハ淀川ニシテ其起工ハ實ニ明治七年五月ニ在リ次デ同八年六月利根川ノ工事ニ著手シ翌九年十一月ニハ信濃川ノ工事ヲ起シ同十一年三月ニハ木曾川、同十五年六月ニハ北上川、同年七月ニハ阿賀野川、同十六年八月ニハ富士川、同年十一月ニハ庄川、同十七年四月ニハ阿武隈川、同年七月ニハ最上川及筑後川、同年八月ニハ吉野川、同十八年三月ニハ大井川、同年六月ニハ天龍川ノ工事ヲ實施スルニ至リシガ是等十四河川ノ工事ハ專ラ低水工事及砂防工事ヲ施行シタリシモノニシテ明治十九年ニ至リ始テ淀川以外ノ河川ニ高水工事ヲモ併セ行フコトトシ夫々工事ヲ進行セシメタリ其後同二十九年四月ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレタル結果、同法ニ依リ淀、筑後ノ兩川ニハ同年六月ヨリ高水防禦工事ヲ實施スル事トナリ續テ同三十三年四月ニハ庄川、九頭龍川、同年九月ニハ利根川第一期工事、同三十九年四月ニハ遠賀川、同四十年四月ニハ淀川下流、吉野川、高梁川、信濃川分水工事、同四十一年一月ニハ利根川第二期工事、同四十二年四月ニハ同川第三期工事、同四十三年四月ニハ利根川支川渡良瀨川ノ改修工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ明治四十

三年ニ於テ全國各地方大水害ノ爲メ未曾有ノ悲慘事ヲ現出セルニ依リ政府ハ臨時治水調査會ヲ設ケ根本的治水ノ計畫ヲ樹立スル事トナリ同會ニ於テ決議シタル計畫豫算ヲ第三十七回帝國議會ニ提出シテ協贊ヲ得同四十四年度ヨリ該計畫通リ事業ヲ遂行スルニ至レリ右計畫ハ河川改修ト砂防トノ二工事トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スベキ河川ヲ六十五河川ト定メ之ガ施工時期ヲ二期ニ區別シ改修ノ利益ヲ可成的全國各地ニ均霑セシメントスルモノナリ其河川名卽チ左ノ如シ

第一期河川

利根川　信濃川　木曾川　淀川　九頭龍川
吉野川　庄川　高梁川　遠賀川　北上川
雄物川　荒川　阿賀野川　富士川　最上川
神通川　岩木川　加古川　綠川　斐伊川
（以上二十河川）

第二期河川

天龍川　阿武隈川　筑後川　那珂川　庄內川
中川　手取川　矢作川　大和川　吉井川
馬淵川　紀ノ川　大淀川　由良川　多摩川
關川　米代川　鳴瀨川　久慈川　菊池川
鄕川　旭川　渡川　蘆田川　川內川
相坂川　千代川　鶴見川　大野川　球磨川
相模川　肱川　矢部川　狩野川　圓山川
肝屬川　太田川（靜岡）　豐川　白川　大分川

酒匂川　鈴鹿川　太田川(廣島)　名取川　仁淀川

(以上四十五河川)

右ノ内第一期河川ハ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣功セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣功ヲ俟チ改修ニ著手シ得ベキ準備ヲ爲スコトトシ又砂防工事ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與フルコトトセリ

以上ノ計畫ニ依リ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メタルモ大正二年度ニ至リ財政上ノ都合ニ依リ一部繰延ベノ不得止ニ至リタル爲メ第一期事業全體ノ完成年限ヲ一箇年度延長シ同十八年度迄ニ全部完成ノ事ニ變更シタルモ大正十年度ニ至リ第一期河川中既ニ竣功セルモノ三河川ト竣功ニ近ヅケルモノ數河川ニシテ未著手ノモノハ斐伊、綠ノ二河川ニ過ギザリシ(後兩川トモ著工)ト一面ニハ河狀ノ變態、產業ノ推移等治水計畫上更ニ調査ヲ必要トシタルヲ以テ第二臨時治水調査會ニ於テ愼重審議ノ結果既ニ國ニ於テ施行中ノ河川竝ニ砂防工事ノ外ニ前記第二期河川其他ヨリ改修河川ヲ選定シ大正十一年度以降二十箇年度内ニ施工スルヲ適當ナリト認メ之レガ決定ヲ見タルモノ卽チ左記河川是ナリ

鬼怒川(利根川支川)　小貝川(利根川支川)　信濃川上流(新潟縣下)　犀川(信濃川支川)
野洲川(淀川支川)　木津川(淀川支川)　北上川上流　雄物川上流
最上川上流　天龍川　阿武隈川　筑後川
那珂川　庄内川　手取川　矢作川
大和川　吉井川　馬淵川　紀ノ川

大淀川　由良川　關川　米代川
久慈川　旭川　渡川　蘆田川
川内川　千代川　鶴見川　大野川
相模川　肱川　狩野川　肝屬川
豐川　白川　大分川　酒匂川
鈴鹿川　太田川(廣島)　名取川　仁淀川
新宮川　安倍川　菊川　大井川
北川　常願寺川　小矢部川　黒部川
天神川　日野川　佐波川　那賀川
土器川　(以上五十七河川)

右ノ内帝國議會ニ於テ改修スベキ繼續事業トシテ協賛ヲ經タルモノハ天龍、紀ノ、信濃上流、筑後、千代、蘆田、鬼怒、北、旭ノ九河川ナリトス

斯ノ如ク政府ハ鋭意河川改修工事ニ努力セリト雖モ其改修區域ハ利害ノ關係極メテ重大ナル部分ノミナルヲ以テ其上流又ハ支派川改修ノ如キハ自然之ヲ關係地方ノ經營ニ委ネザルベカラズ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川工事ノ竣功後ニ非ザレバ著手スル能ハザルノ狀況ナルモ比年洪水頻リニ臻リ損害甚大ナルヲ以テ政府ハ益河川改修速成ノ緊要ナルヲ認メ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手スルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ヲ決定シ河川改良費トシテ大正六年度ヨリ江合、鳴

瀨兩川改修費中へ國庫ヨリ二分ノ一ヲ補助シ大正七年度ヨリ多摩川、信濃川上流、千曲川ノ改修工事ニモ亦工費ノ半額ヲ補助シ且其事業ヲ直接施行スルコトトナリ尙翌八年度ヨリハ太田川、阿賀、阿武隈兩川ノ改修工事、同九年度ヨリハ圓山川ノ改修工事ニ對シ孰レモ半額ノ補助ヲ與ヘ且其工事ヲ全部直接施行スル事トナリシガ以上七河川トモ大正十二年度ヨリ他ノ河川ト共ニ直轄施行ノコトトナレリ又淀川改修工事ハ大正六年九月三十日及同年十月一日ノ大洪水ニ鑑ミ更ニ增補工事ヲ施行スルノ必要ヲ認メ大正七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

第一期河川中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ淀川及同川下流、利根川第一期、木曾川下流、庄川、九頭龍川ノ幹川及同支川足羽川及日野川、遠賀川、渡良瀨川、信濃川、吉野川、高梁川ノ九河川ニシテ工事中ノモノハ淀川改修增補、利根川第二期及第三期(江戸川、中川ヲ含ム)信濃川上流(新潟縣下)千曲川、木曾川上流、北上川、阿賀野川、富士川、最上川、筑後川、荒川上下流、雄物川、加古川、江合、鳴瀨兩川、岩木川、神通川、多摩川、阿賀、阿武隈兩川、太田川(靜岡)、圓山川、斐伊川、紀ノ川、千代川、蘆田川、綠川、利根川支川鬼怒川、天龍川、北川、旭川ト新ニ狩野川、大淀川ヲ加ヘタル三十一河川ナリ而シテ右ノ內附屬物及水路維持工事トシテ實施中ノモノハ木曾川、淀川、利根、渡良瀨兩川ト新ニ信濃川ヲ加ヘタル五河川ナリ又砂防工事ノ竣功シタルハ吉野川及淀川支川野洲川ニシテ實施中ノモノハ淀川上流、同川支川桂川及木津川、利根川支川大谷川、信濃川上流千曲川、富士川、神通川、常願寺川ト新ニ木曾川支川揖斐川、手取川ヲ加ヘタル十河川ナリトス

第二　港灣改良事業

港灣改良工事ニ關シテハ明治初年以來或ハ直轄工事ヲ起シ或ハ國庫補助ヲ與ヘ之ガ助成ニ努力シタリ

シガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益々重要ヲ加ヘタレバ明治三十三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣調査會ヲ設ケ港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ同三十六年ニ至リ各種ノ調査會廢止ト共ニ一時廢絶シ其後同三十九年六月ニ至リ再ビ內務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ同四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ同會ニ於テ本邦ノ港灣ヲ三種ニ分チ第一ハ國ニ於テ修築スルモノ、第二ハ地方起工ノモノニ對シ國庫ヨリ相當補助ヲ與フルモノ、第三ハ地方ノ獨力經營ニ委ヌベキモノトニ區別シ卽チ明治四十年十月同調査會ニ於テ第一種港灣トシテハ横濱、神戸、關門海峽(下關門司)敦賀ノ五港ヲ選定シ第二種港灣トシテハ東京、伊勢灣內ノ一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新潟、船川(土崎ヲ含ム)、青森、仙臺灣內ノ一港(其後伊勢灣內ノ一港トシテハ四日市港、仙臺灣內ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定ス)ノ十港ト定メ又大正八年七月名古屋港ヲ同九年十月淸水、那覇ノ兩港ヲ同十年六月若松、高松、今治、小松島、伏木、伊萬里ノ六港ヲ加ヘ二十四港(昭和二年十月小名濱、細島、大分、浦戸、宮戸、七尾、尾道、博多ノ八港ヲ選定シ三十二港トナル)トセリ而シテ右ノ諸港灣中敦賀港ハ明治四十二年七月起工シ大正三年三月竣功セシモ其後第二期修築工事ヲ行フノ必要ヲ認メ更ニ同十一年度ヨリ起工ス又關門海峽改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ起工シ又横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事、同港修築工事、門司港修築工事ハ大正八年度ヨリ起工シ、下關港ハ同十年度ヨリ起工セシガ其內横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事ハ同十年度ヨリ各修築工事ニ包括セラレ何レモ目下工事實施中ナリ又鹽釜港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同三年度ヨリ起工シ又新潟港修築工事ハ同三分ノ一ヲ補助セラレ同六年度ヨリ起工シ同十四年度ニ於テ竣功ス又長崎港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同九年度ヨリ起工シ昭和二年度ニ於テ竣功ス又淸水港修築工事モ同率ノ補助ニ依リ同十年度ヨリ起工シ又高松港修築工事、境港修築工事ハ是亦

工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十一年度ヨリ起工シ今治港ハ今治市施工ノ後ヲ承ケ同十二年度ヨリ工費二分ノ一ヲ補助セラレテ續工シ鹿兒島及小松島ノ兩港モ同年度ヨリ起工シ伏木港ハ同十三年度ヨリ同一ノ補助率ニ依リ起工シ夫々工事實施中ナリ而シテ右補助港灣ノ工事ハ何レモ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行セルモノナリ其外四日市港ハ明治四十三年度ヨリ、船川港ハ同四十四年度ヨリ、青森港ハ大正三年度ヨリ、那覇港ハ同十一年度ヨリ何レモ工費二分ノ一ノ補助ヲ受ケ其府縣ニ於テ工事實施中ニ係レリ

第三　復舊及應急事業

大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル稀有ノ大震災ノ爲メ直轄事業其他ノ被リタル損害ハ多大ナルモノニシテ之レガ焦眉ノ急ト爲シ河川復舊工事トシテハ利根川及渡良瀨川、荒川、多摩川、富士川ノ五河川流域ニ對シ大正十二年度及同十三年度ノ兩年度ニ於テ應急施行シ又砂防復舊工事トシテハ相模川及酒匂川、早川、花水川、多摩川ノ五河川流域ニ對シ同十三年度以降十箇年度ノ繼續工事トシテ施工スルモノニシテ既ニ河川工事ハ豫定ノ如ク之ヲ完了シタリ尙横濱港ニ對シテハ同十二年度以降三箇年度施行ニ係リ其費額ハ從來ノ横濱港修築費ノ第三期工事ト共ニ横濱港復舊及修築費トシテ施行スルモノニシテ其復舊工事ハ同十四年度ヲ以テ完了シタルガ故ニ震災復舊事業トシテハ砂防工事ヲ剩スノミトナレリ又大正十四年八月中旬ニ於ケル近來稀有ノ大出水ニ因リ利根川本流筋及派川江戸川、支川渡良瀨川ノ被害ニ對シ大正十四、十五ノ兩年度ニ於テ之レガ復舊工事ヲ施行シタリ又信濃川大河津自在堰ハ昭和二年六月下旬竝ニ同年七月上旬ニ於テ突如「ピーヤ」ノ陷沒ノ爲メ水量調節ノ機能ヲ失ヒタル影響トシテ大河津下

流ノ本流及派川中ノ口川沿岸ノ灌漑ト航通トニ支障ヲ及ボシ之ガ應急工事ヲ施行セルト共ニ其復舊及附隨ノ諸工事ヲ施行スルコトトナレリ

第四　本年度施行工事

本年度ニ於テ直轄工事ヲ施行シタルハ河川改良三十四、河川附屬物及水路維持四、砂防十、港灣改良十五、復舊三、合計六十六工事ニシテ何レモ本省直轄ノ下ニ東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戸、下關ノ八土木出張所ニ於テ工事施行ノ任ニ當レリ而シテ是等ノ總工費豫算ハ河川改修工事費四億二千六百四十一萬九千十五圓、河川附屬物及水路維持工事費九百七十三萬七千三百圓、砂防工事費一千二十四萬三百三十八圓、港灣改良工事費一億一千九十九萬五千九百二十一圓、復舊及應急工事費六百三十萬二千四百十一圓、合計五億六千三百六十九萬四千九百八十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功額ヲ累算スレバ三億三千三百四十萬二千七百四十九圓ニ達シ其内本年度ノ竣功ニ屬スルモノ二千八百十四萬五千八百十三圓ナリトス而シテ本年度末竣功歩合ハ河川改良工事費ハ其總工費ノ六割ニ當リ河川附屬物及水路維持工事費ハ同三割五分、砂防工事費ハ同六割六分、港灣改良工事費ハ同六割一分、復舊及應急工事費ハ同四割五分ニシテ各工事ヲ通ジタル竣功歩合ハ五割九分ニ當レリ

今以上ノ工事費ヲ各工事ニ區別シ更ニ其工事ノ著手順ニ依リ列記スレバ左表ノ如シ但シ前年報ニ比シ差違アルハ工事費豫算ヲ改訂セルモノアルト、竣功セルモノヲ除キ新規著手ノ分ヲ加ヘタルト、誤レルヲ正シタルモノ等アルニ因ル又表中「×」ハ直營斫出石材及砂利採集使用價額「△」ハ製作品又ハ評價品價額「□」ハ管理者負擔額「◎」ハ縣負擔額「▲」ハ捨土出願者負擔額「○」ハ無償品使用見積額「■」ハ寄附物品評價額「☆」ハ保

管轉換品價額「●」ハ鐵道省依託工事費ヲ示ス

工事名及出張所	工費豫算	竣功高 前年度迄竣功高	竣功高 本年度竣功高	竣功高 合計	殘高	竣功歩合
河川改修工事						
利根川改修工事（東京）	六三、四〇三、一一七円	▲◎□ 六〇、六八一、二三四、五三五、五六五、五五円	▲◎□ 九二、一〇四、八一七、二六八、一一一、一二円	▲◎□ 六三、一三、四一、七一、二六、一一七円	一、八一三、七九〇円	〇・九七
信濃川改修工事（新潟）	二三、五四一、九〇五	□ 二三、四五一、〇二四、六〇二八	□ 八七、九六八	□ 二三、五三八、四一、二一六、〇一二	三、六八九	一・〇〇
吉野川改修工事（大阪）	一二、〇一六、二八五	◎□ 一一、六〇九、五〇、一四、一七、二一〇六、五四一	◎□ 一八一、九二四、一六六	◎□ 一一、七九、一〇一、三八、九〇八、一四五	二二四、九〇〇	一・〇〇
高梁川改修工事（大阪）	七、九二六、〇八七	○ 七、八一一、五六九、七九一七	○ 五、〇九	○ 七、八一六、二〇、九一七	九九、八八一	一・〇〇
北上川改修工事（仙臺）	一三、三二二、〇〇〇	一一、二六六、九一六	五五、五四六五	一一、八二二、三八一	一、四九九、六一九	〇・八九
荒川改修工事（東京）	五五、三四四、〇〇〇	▲□ 三八、五五、〇〇、一〇一、二一八、〇七、一一、〇一三三	▲□ 二、八二七、三〇一、一一一、五六、〇六一	▲□ 二、八二七、三〇一、一一一、五六、〇六一	一三、九六六、五九八	〇・七五
阿賀野川改修工事（新潟）	一二、〇〇〇、〇〇〇	□ 九、四三五、一四二、四六五	□ 五〇六、五二一、四四二	□ 九、九五七、一四二、四八三、〇七	二、〇四二、三三七	〇・八三
最上川改修工事（新潟）	一五、〇〇〇、〇〇〇	○◎□× 六、九五三、五九一、三七、九三八六、二四七二二八、三九七二二一	○◎□× 六二五、七六三、五一、二一、〇二四八、七四一	○◎□× 六二五、七六三、五一、二一、〇二四八、七四一	七、四二〇、六四六	〇・五一
雄物川改修工事（仙臺）	一一、七〇〇、〇〇〇	五、四九九、八四八	三五九、八一三	五、八五九、六六一	五、八四〇、三三九	〇・五〇
江合、鳴瀬兩川改修工事（仙臺）	八、八一二、〇〇〇	二、一八一、五七三	五九〇、七九〇	二、七七二、三六三	六、〇三九、六三七	〇・三二
淀川改修增補工事（大阪）	一一、八〇〇、四七七	▲○□ 一〇、六四七、二二五、七九六四、三七八、〇六九五七六	▲○□ 九九、四五、五二六、一一四、七七五、三三一、〇五	▲○□ 九九、四五、五二六、一一四、七七五、三三一、〇五	一五八、一四九	〇・九九
千曲川改修工事（新潟）	一一、八二九、〇〇〇	□ 六、三七〇、九一三、六〇、五七八	□ 四五、六、九五二〇	□ 四五、六、九五二〇	五〇〇、一、一三七	〇・五八
加古川改修工事（大阪）	七、八五〇、〇〇〇	□○▲◎ 四、三九一、八三一、五六、七一七五、三〇、四六一九三	□○▲◎ 二八三、四三一、三〇〇一、三五八五一四〇五〇	□○▲◎ 二八三、四三一、三〇〇一、三五八五一四〇五〇	三、一七四、七三八	〇・六〇
岩木川改修工事（仙臺）	一〇、四〇〇、〇〇〇	四、七三四、四二五	四一九、四七五	四一九、四七五	五、一五三、九〇〇	〇・五〇

工事名及出張所	工費豫算	竣功高 前年度迄竣功高	竣功高 本年度竣功高	竣功高 合計	殘高	竣功歩合
河川改修工						
神通川改修工事（新潟）	九、二一二、五〇〇	□▲ 四、一四四、一六六、二六六、九六九、八四〇円	□▲ 五、二二、一三三、八八、二三九、九三八円	□▲ 四、一九、四九六、〇〇〇、二二四、九七七、八八円	四、二四六、〇六二円	〇、五四
多摩川改修工事（東京）	七、五六七、九一四	□▲△ 五、二八、二九、四九、八五、六九、七五、五九、七	□▲△ 六、一〇〇、二〇、三、一八、五九、二〇、七、三、三、〇	□▲△ 五、八八、五、一、八四、五、二、一、四、六、二、七、三、三、〇	一、六八二、四六二	〇、七八
太田川改修工事（名古屋）	四、六九七、五八〇	二、七八〇、三一一	三、一五、一、五一六	三、一五、一、五一六	一、五四六、〇六四	〇、六七
富士川改修工事（東京）	一二、〇〇〇、〇〇〇	□ 四、一九四、八四、一六一、一二九	□ 五、二五、一二、二八、二七六	四、七二二、〇〇、五〇、三五〇〇	七、二七九、四九五	〇、三九
阿賀川及阿武隈川改修工事（仙臺）	一三、七二〇、一五〇	五、九一八、七九二	四、三八、三二六	六、三五七、一一八	七、三六三、〇三二	〇、四六
圓山川改修工事（大阪）	五、八〇六、〇〇〇	△○◎▲□× 二、七〇〇、二八〇、二一五 七五八八〇八二一五〇 九一〇七三一〇 八二〇五六二〇	△○◎▲□× 二、九、八三、二一一、五 一、一三、六一九 七〇九七九二 〇八八三二	△○◎▲□× 二、九、八三、二一一、五 一、一三、六一九 七〇九七九二 〇八八三二	二、八二二、五三五	〇、五一
木曾川上流改修工事（名古屋）	二〇、〇〇〇、〇〇〇	▲△ 四、七五六、八二九、八一七、六四六 三三六	▲△ 九、四三二、五一三、五七 二三七	▲△ 五、六九、二五九、一〇〇、九六七 三一三	一四、三〇〇、九六七	〇、二八
斐伊川改修工事（大阪）	六、二〇〇、〇〇〇	○▲ 七五六、二三三 二二	○▲ 一、一六二、一八、四四二 一二七	□▲ 九、一一、八六、六二、二二 三二〇	五、二八一、三二〇	〇、一五
信濃川上流改修工事（新潟）	六、六〇〇、〇〇〇	◎ 七四二、四二三、三七四、一六四	◎ 一、一一、一一、二八、三八、一八五、八三八	◎ 一、一一、一、二八、三八、一八五、八三八	五、四八八、七一九	〇、一七
筑後川改修工事（下關）	一一、三二〇、〇〇〇	△ 一四、一六五、九一一、七七、〇一四	△ 五、七〇四、七六、八三、三七、〇六八	△ 一、九七〇、一〇、〇六八、二〇七六二	九、三四九、三一八	〇、一七
天龍川改修工事（名古屋）	六、六〇〇、〇〇〇	◎△ 四四七、二九五	◎△ 三六九、二二四 七二四	◎△ 八一六、五一九 七二九	五、七八三、四八一	〇、一二
千代川改修工事（大阪）	五、六六〇、〇〇〇	▲ 七七五、二八二	▲ 四六九、〇一八 七六八	▲ 一、二四四、三〇〇 七六〇	四、四一五、七〇〇	〇、二二
蘆田川改修工事（下關）	五、六六〇、〇〇〇	▲ 七四五、七八四	▲ 三〇三、四〇八 五八七	▲ 一、〇四九、一九二 五八七六	四、六一〇、八〇八	〇、一八
紀ノ川改修工事（大阪）	四、七二〇、〇〇〇	▲ 四三六、一五四 二五一	▲ 四二九、七五四 五七三八	▲ 八六五、九〇八 五九八九	三、八五四、二九二	〇、一八
綠川改修工事（下關）	四、〇〇〇、〇〇〇	▲ 一四、三九二	▲ 三八五、五八四	▲ 三九九、九七六	三、六〇〇、〇二四	〇、一〇
鬼怒川改修工事（東京）	一四、五〇〇、〇〇〇	△ 二三、九九八	△ 四八三、三五九 一一八	△ 五〇七、三五七 一一八	一三、九九二、六四三	〇、〇三五
北川改修工事（名古屋）	二、三六〇、〇〇〇	一、四四四	一三一、一〇一	一三二、五四五	二、二二七、四五五	〇、〇六

事							
旭川改修工事（大阪）	八、〇〇〇、〇〇〇			二五、〇九七	三一、一七一	七、九六八、八二九	〇、〇四
狩野川改修工事（横濱）	六、三五〇、〇〇〇	—		一三、六二〇	一三、六二〇	六、三三六、三八〇	〇、〇〇二
大淀川改修工事（下關）	六、五〇〇、〇〇〇	—		一三、六四〇	一三、六四〇	六、四八六、三六〇	〇、〇〇二
小計（三四）	四二六、四一九、〇一五	二三九、〇九九、三六三	六、〇七四	一六、一五二、三四六	二五五、二五一、七〇九	一七一、一六七、三〇六	〇、六〇
河水川路附屬維持工物及事							
木曾川附屬物及水路維持工事（名古屋）	一、六九八、〇〇〇	※ 九〇九、一四五 一八		※ 九六、一三八	※ 一、〇〇五、二八三 一八	九九二、七一七	〇、五九
淀川附屬物維持工事（大阪）	一、二八八、一〇〇	○ 五四六、一四三 一、一八七		○ 七四、五八八 六三四	○ 六二〇、七三一 一、八二一	六六七、三六九	〇、四八
利根、渡良瀨兩川維持工事（東京）	五、八七四、八〇〇	▲ 一、三〇八、三三三 九、六五〇		▲ 四五八、〇八九 一五、七七一	▲ 一、七六六、四二二 二五、四二一	四、一〇八、三七八	〇、三〇
信濃川維持工事（新潟）	一八七六、四〇〇	—		二四五、五〇八	二四五、五〇八	六三〇、八九二	〇、二八
小計（四）	九、七三七、三〇〇	二、七六三、六二一		八七四、三二三	三、六三七、九四四	六、〇九九、三五六	〇、三五
砂防工事							
淀川流域砂防工事（大阪）	六九〇、〇〇〇	圖 六〇六、四一三 一四六		圖 三〇、四〇三 —	圖 六三六、八一六 一四六	五三、一八四	〇、九二
富士川流域砂防工事（東京）	一、四〇一、〇〇〇	一、一〇九、九五一		五一、七一二	一、一六一、六六三	二三九、三三七	〇、八三
桂川流域砂防工事（淀川支川）（大阪）	九六、〇〇〇	六五、九八五		五、五四三	七一、五二八	二四、四七二	〇、七四
大谷川流域砂防工事（利根川小々支）（東京）	六六四、五〇〇	四二九、〇五八		四五、七二三	四七四、七八一	一八九、七一九	〇、七一
千曲川流域砂防工事（信濃川上流）（新潟）	七五六、六〇〇	五二七、七四一		五一、四七五	五七九、二一六	一七七、三八四	〇、七七
神通川流域砂防工事（新潟）	二八七、九三八	一九六、九七〇		一九、七九四	二一六、七六四	七一、一七四	〇、七六
常願寺川流域砂防工事（新潟）	二、七三六、〇〇〇	一三六、三七二		一九〇、七三二	三二七、一〇四	二、四〇八、八九六	〇、一三
木津川流域砂防工事（淀川支川）（大阪）	四四七、三〇〇	—		二六、九四二	二六、九四二	四二〇、三五八	〇、〇六
揖斐川流域砂防工事（名古屋）	一、二五〇、〇〇〇	—		六二、二九五	六二、二九五	一、一八七、七〇五	〇、〇五
手取川流域砂防工事（新潟）	一、九一一、〇〇〇	—		三五、四五六	三五、四五六	一、八七五、五四四	〇、〇二
小計（一〇）	一〇、二四〇、三三八	三、〇七二、四九〇		五二〇、〇七五	三、五九二、五六五	六、六四七、七七三	〇、六六

工事名及出張所	工費豫算	竣功 前年度迄竣功高	竣功 本年度竣功高	竣功 合計	殘高	竣功歩合
港灣改良工事						
關門海峽改良工事（下關）	一三、三八八、〇一一円	△ 一一、九二八、六三二円 五一七、三五〇	△ 六、一一一、五八〇	一二、五三七、四〇〇、六〇円 三、九一六、一三三	八一七、四〇四円	〇、九四 割分
鹽釜港修築工事（仙臺）	五、一五二、八一四				一、二三六、六八一	〇、七六
神戸港修築工事（神戸）	三五、一六八、六〇一	△× 二〇、八九一、七七一 三、二四三、九八一七 九七、八七、五四	△ 一、八二六、九七八 五五〇、四四、七六 四六	二二、七一八、七五五 三、八二九、九八七 四八、三四、二七八	二、四四九、八四六	〇、六五
横濱港修築工事（横濱）	二〇、四七五、〇〇〇		△ 一、六八〇、八一三	二二、五七、四六七 三、九八六、二七七	六、六二〇、六三四	〇、三二
門司港修築工事（下關）	四、九三五、三二〇	△ 三、八四六、六四二 三七、七二九	△ 二五七、四六七 三、九九二	四、一〇四、一〇九 四一、七二〇	八三一、二一一	〇、八三
長崎港修築工事（下關）	二、三二七、二〇〇	△ 二、一七五、四五一 一五、九六七	△ 一三五、二五七 三、一六七	二、三一〇、七〇八 一九、一三〇	一、六四九二	一、〇〇
清水港修築工事（横濱）	五、七〇二、一〇〇	● 四、四七二、三三六 六五、四八八	● 六二三、八四四 一一五、七一五	五、〇九九、一八〇 三八、二〇三	六〇二、九二〇	〇、八九
下關港修築工事（下關）	三、三六三、一〇〇	△ 一、八三六、六〇 一七一	△ 三四五、一六二 二、七五二	二、二二九、〇二二 一八、九二六	一、一三四、〇七八	〇、六六
敦賀港修築工事（名古屋）	三、一九〇、〇〇〇	●○ 一、〇三一、八八〇 九七、四七 二六	●○ 一四九、五六 四五、一〇、六三 七一、一二	一、五二七、五八一二 四七、四八八 二八七	一、六六二、四八八	〇、四八
高松港修築工事（神戸）	二、〇六六、〇七五	▦× 一、五九九、〇一四 一九、七九七	▦× 四〇八、〇一一 一三、八四四二	二、〇〇七、〇二五 一三、〇三五 八三九	五九、〇五〇	〇、九七
境港修築工事（大阪）	一、六九〇、一〇〇	○△× 八八、六三、三三 一二九、九五八 五九、二一、二九 二二五	○△× 二九九、六二、九 二八、六八、七 二七五〇 九〇五〇	○△× 一、一八五、六七二 二五七〇八 二、八七二、八 二四七〇八	五〇四、四七二	〇、七〇
今治港修築工事（神戸）	二、八一七、〇〇〇	× 五三九、一四四 四八三、三四	× 九〇三、七〇〇 三七、二〇	一、四四二、八四 八五、八四 五六、九四	一、三七四、一五六	〇、五一
鹿兒島港修築工事（下關）	二、八〇五、六〇〇	△ 四四〇、六五六 一一、四七九	△ 二五七、一七七 二、一七六	六九七、八三三 三、六五五	二、一〇七、七六七	〇、二五
小松島港修築工事（神戸）	三、二四六、〇〇〇	× 三三〇、二〇八 三七、一一三	× 三〇、一、六九七 一九、三九三	六三一、九〇五 五六、五〇六	二、六一四、〇九五	〇、一九
伏木港修築工事（新潟）	四、六六九、〇〇〇				三、六四六、九四二	〇、二二
小計（一五）	一一〇、九九五、九二一	五九、二一五、一八八	八、八六八、七六五	六八、〇八三、九五三	四二、九一一、九六八	〇、六一
復舊及						
相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事（東京）	四、五五〇、〇〇〇	□ 一、一〇六、二七四	□ 四七一、八三七	□ 一、五七八、一一一	二、九七一、八八九	〇、三五
信濃川大河津自在堰應急工事（新潟）	八七〇、四一一		八六一、一、四八九九	八六一、一、四八九九	八、五一二	一、〇〇

應急工事	信濃川補修工事（新潟）	八八二、〇〇〇	□	□ 三九六、五六八 一五、四八七	□ 三九六、五六八 一五、四八七	四八五、四三二	〇・四五
小計（三）		六、三〇二、四一一	一、一〇六、二七四	一、七三〇、三〇四	二、八三六、五七八	三、四六五、八三三	〇・四五
總計（六六）		五六三、六九四、九八五	三〇五、二五六、九三六	二八、一四五、八一三	三三三、四〇二、七四九	二三〇、二九二、二三六	〇・五九

第一章　河川改修工事

第一　利根川改修工事

緒言

本工事ハ明治三十三年度ヨリ昭和四年度ニ至ル三十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費六千三百四十萬三千百十七圓四十八錢五厘ヲ以テ群馬縣佐波郡芝根村以下千葉縣海上郡銚子町海口ニ至ル二百粁及派川江戸川五十九粁、中川二十五粁、計二百八十四粁ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

本工事ハ當初工費五百八十一萬四千百二十六圓四十八錢五厘ヲ以テ第一期工事トシテ下流部タル千葉縣佐原町以下海ニ至ル間及五十一萬六千圓ヲ以テ埼玉縣妻沼町以下海ニ至ル間ト江戸川流頭附近ノ低水工事トヲ明治三十三年度ニ著手シ同四十二年度ニ於テ第一期工事ハ一旦竣功(低水工事ハ大正十一年度竣功)シタリシガ先是八百二十一萬四千七百七十五圓ヲ以テ第二期工事トシテ茨城縣取手町以下佐原町間ヲ同四十年度ニ著手シ續テ七百八十一萬一千九百十六圓ヲ以テ第三期工事トシテ其上流芝根村以下取手町間ヲ同四十二年度ヨリ著手シタリ然ルニ適々同四十三年ノ夏季ニ至リ稀有ノ出水ニ遭遇セシヲ以テ第一期、第二期及第三期ノ既定計畫ニ擴張ヲ加ヘ增工事ヲ施スノ必要起レルト派川江戸川ヲ改修スルノ得策ナルヲ認メタルニ依リ工費一千三百二十萬圓ヲ追加(工費合計三千五百五十五萬六千八百十七圓四十八錢五厘)シ大正八年度ヲ以テ竣功期限トシ工事實施中ノ處其後精確ナル調査ノ結果再ビ既定工費ニ增額ノ必要ヲ生ゼルト江戸川改修工事ノ爲メ同支川庄内古川ノ流路ヲ遮斷スルコトトナリタル

ヲ以テ之ヲ中川ニ注流セシメ(庄内古川ハ中川ノ附帶工事トシテ管理者ニ代リ國ニ於テ施行ス)且中川ノ改修工事ヲ施行センガ爲メ同五年度以降工費七百三十八萬五千三百十五圓ヲ追加(工費合計四千二百九十四萬二千百三十二圓四十八錢五厘)シ施行年限ヲ四箇年度延長シ同十二年度迄ニ竣功セシムルコトトナリ引續キ施行中ノ處三年度以來歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ諸物價及勞銀ノ昂騰著シク爲メニ工費ニ不足ヲ生ジタルト第三期中川及低水工事ニ於ケル一部追加改修ノ必要ニ因ル工費トヲ合シ二千七十六萬八千二百圓ノ增額方ヲ要求セシ處同十一年度以降ノ低水工事ハ利根渡良瀨兩川維持工事ニ包括セラルルコトトナリタルヲ以テ右低水工費ヲ控除シタル二千四十六萬九百八十五圓ヲ增額セラレ前記ノ如ク總工費ヲ六千三百四十萬三千百十七圓四十八錢五厘トシ竣功期限ヲ昭和二年度迄トセシモ其後更ニ二箇年度ヲ延長シ同四年度迄トセリ

河狀竝計畫大要

利根川ハ流域面積一萬五千七百六十二平方粁ニシテ一府六縣ニ亙リ流路總延長四千四百二粁(內幹川三百二十二粁)航路延長八百五十二粁(內幹川二百七十五粁)ニ及ビ特ニ派川タル江戶川ヲ經テ沿川各地ト帝都トノ聯絡ヲ有ス灌漑區域十一萬七千六百七十七ヘクタール(內幹川三萬三百十六ヘクタール)水害區域十三萬七千七十五ヘクタール(內幹川十二萬一千九十四ヘクタール)ニ上レリ

從來本川ノ最大洪水ハ約十年ニ一回ト稱セラレシガ近時著シク其度數ヲ增加シ明治二十三年、同二十九年、同三十一年、同三十五年、同三十九年、同四十年、同四十三年、大正三年等大水害頻ニ臻リ以上八箇年ヲ平均スルモ實ニ一千四百七十八萬四千二百九十五圓ノ損害ヲ被レルノ狀況ニシテ最近非常ニ水害ヲ輕減セ

リト雖モ尚大正五年、同八年、同九年、同十一年、同十四年ノ以上五箇年平均水害損失價額ハ五百十三萬四千五百三十四圓ノ多キニ達ス而シテ是等ハ農作物及堤防等ノ損害ノミヲ算出シタルモノニシテ其間接ノ被害タル交通、商業、衞生等數字ニ計上シ得ベカラザルモノニ至リテハ殆ンド測知スベカラザルモノアリ若シ夫レ權現堂ヨリ上流右岸堤ノ破壞ヲ見ンカ洪水帝都ヲ襲フニ至レルヲ以テ本川ノ水災關係ハ古來最モ重大視セラレタルモノナリ蓋シ洪水ノ原因種々アルベシト雖モ河狀不良ニシテ堤塘薄弱流積不足加フルニ漸次河床ノ埋沒ヲ來シタルニ起因スルナラン乎因テ本計畫ニ於テハ本川ノ流量ヲ左ノ如ク定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルニアリ

芝根村以下江戸川分派點ニ至ル	五、五七〇（毎秒立方米 支川渡良瀬川ノ流量ハ利根川最高水位ニ影響ナキモノトス）
江戸川ヘ分派	二、二三〇
江戸川ヘ分派以下鬼怒川合流點ニ至ル	三、三四〇
鬼怒川合流點以下海ニ至ル	四、三一〇（鬼怒川洪水量ノ内利根川最大高水流量ニ影響スルモノヲ毎秒一千立方米トス）

本川ノ堤防ハ前記流量ヲ標準トセル水位以上一米五乃至一米八ノ高サヲ保タシムルモノナリ元來毎秒五千五百七十立方米ノ水量ハ本川ニ於テ五年乃至十年毎ニ襲來スル最大高水ヲ標準トセルモノナレドモ明治四十三年ノ洪水ノ如キハ毎秒六千九百六十立方米ニ及ベルガ故ニ如斯場合ニ處スルガ爲メ前記ノ流量ヲ標準トセル水位以上尚〇米九ノ增水ヲ見ルモノトシテ築堤ハ〇米六乃至〇米九ノ餘裕ヲ存セシムルコトトセリ

今各區域ニ就キ改修計畫ヲ述ブレバ第三期改修區域ニ屬セル上流芝根村字沼ノ上以下妻沼町間ハ急流部ニシテ高水勾配五百分ノ一乃至一千五百分ノ一、妻沼町以下境町間ハ緩流部ニシテ二千二百分ノ一乃

至三千三百分ノ一、境町以下取手町間ハ鈍流部ニシテ五千五百分ノ一乃至一萬分ノ一ヲ有セシムルコトトセリ而シテ幅員ニ於テハ前記沼ノ上以下永樂村字赤岩ニ至ル間ハ利根川高原部ヨリ初メテ平地ニ出デタル部分ニシテ所謂汎濫部ニ屬シ其河幅ハ廣大ニシテ砂礫ノ沈澱多ク洪水毎ニ流路ヲ變ジ舊堤ハ斷續不同且河狀最モ險惡ノ部分タリ故ニ本改修計畫ニ於テハ大略現川ヲ中心トシテ五百四十五米ノ河道ヲ設ケ法線內ハ掘鑿ヲ施シ所要ノ斷面ヲ與ヘ尙兩岸ニ三百六十四米ノ堤外地ヲ存セシメ游水區域トシ以テ危險性ノ河川ニ備ヘタリ然レドモ島村附近竝ニ尾島町字前小屋附近ハ屈曲甚シク流路モ數派ニ岐レ所謂亂流區域ナルヲ以テ在來ノ河身ニ關セズ計畫法線ヲ定メ不規則ヲ匡正シ禍根ヲ斷ツコトトセリ又中瀨村及明戸村大字石塚竝ニ秦村附近ハ所謂論所堤ヲ控ヘ數百年來水論絕ユルコトナキ箇所ナルヲ以テ何レモ新堤ヲ築造シテ水害ノ根源ヲ絕ツコトトシ其結果福川吐口ニハ逆水樋門ヲ設置スルコトトセリ

支川烏川ハ殆ンド幹川ニ直角ヲ爲シ合流スルガ爲メ幹川ノ水流ハ八丁河原ニ衝突シ次デ八斗島ヲ襲フノミナラズ烏川ハ幹川ノ爲メ流路ヲ支ヘラルルヲ以テ幹川ノ流身ヲ左方ニ轉ズル樣法線ヲ選定シ赤岩以下福田村字三ツ堀間ハ五百四十五米ノ河幅ヲ標準トシ法線ヲ規定セルモ此區間ハ河狀比較的良好ナルヲ以テ大體現川ニ依リ幅員ノ足ラザル部分ハ之ヲ擴張シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ヲ行ヒ河幅ニ餘地アル部分ハ舊態ニ委ネ可及的河積ニ餘裕ヲ與フル計畫ヲ採レリ其結果左岸富永村、梅島村、千江田村、新郷村字中田、靜村字塚崎、長須村、中川村字莚打、右岸井泉村、村君村、大越村、關宿町、川間村等各地先ハ何レモ引堤ヲ爲スコトトセリ又派川權現堂川ハ分派點ニ於テ締切リ專ラ赤堀川ヲ擴張シテ本川ト爲シタリ

福田村字木ノ崎地先ハ中利根川中著名ナル狹窄部ニシテ河幅僅ニ百二十三米、河狀大屈曲ヲ成セルヲ以

テ直路ヲ開鑿スルコトトセリ

前記三ツ堀以下取手町間ハ宛然游水地ノ如ク兩岸遠ク一千六百三十米乃至三千二百七十米ヲ隔テ丶丘陵ニ依リ圍繞セラレ勾配極メテ緩ナルヲ以テ高水法線ヲ八百十八米ト定メ新堤ハ可成舊堤ヲ擴築シ游水地ノ働キヲ減殺セザル方針ヲ採レリ又鬼怒川ハ幹川ニ直角ヲ爲シテ合流シ幹川ノ洪水ヲ支ヘ其排除ヲ阻ムコト大ナルヲ以テ吐口ヲ引下ゲ逆水ノ影響ヲ減少セシムルコトトセリ而シテ堤塘高ハ計畫高水位上川俣鐵橋上流ハ一米八、其下流ハ一米五ト爲シ馬踏七米三、表裏二割法トシ川裏ニハ馬踏ヨリ一米八ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ其レ以下ヲ三割法ト爲シ川裏ハ馬踏ヨリ四米五下リテ相當前小段ヲ設クルコトトセリ

第二期改修區域ニ屬スル取手町以下佐原町ニ至ル間ハ河幅五百四十五米ヲ標準トシテ河道ヲ規定セルモ布佐、布川兩町間狹窄部ノ如キハ河幅ノ擴張ヲ許サザルニ依リ此部分ハ土砂ヲ浚渫シテ河積ヲ補フコトトシ取手町字片町、井野村字小堀間、生板村大字藤藏川岸ヨリ長戸川合流點ニ至ル間及滑河町地先竝金江津村、十餘島村間、東大戸村川尻ヨリ同村飯島ニ至ル各箇所ハ孰レモ新川ヲ開鑿シテ河道ヲ改メ流心ヲ匡正シ派川將監川ハ締切リテ廢川ト爲シ長戸川ト本川トノ合流點ニハ水門ヲ設ケ印旛沼ヘノ逆流ヲ遮斷シ霞ケ浦沿岸ノ汎濫ヲ防止スル爲メ横利根川合流口ニ閘門ヲ設置スル等ノ計畫ナリシガ明治四十三年八月ノ洪水ハ遙ニ二十九年第一期、第二期共同年ノ出水ニ甚キ流量毎秒三千七百五十立方米トシテ計畫シタルモノ)ノ水位ヲ超ヘタルヲ以テ既定計畫ヲ變更シ且追加スル必要ヲ生ジ洪水流量ハ之ヲ毎秒四千三百十立方米ト爲スノ可ナルヲ確メタリ然レドモ既ニ施行中ノ築堤ハ動カシ難キモノアリ高水波ノ推移上既定河幅ハ之ヲ變更スルノ不得策ナルヲ認メ上流ヨリ豐住村迄ハ計畫高水位ヲ更ニ〇米九ヲ高

メ其レヨリ漸次低下セシメ下流佐原町附近ニ至リ從來ノ計畫高水位ニ合セシメ築堤ハ之ヲ擴大シ下流第一期改修部内ハ約〇米三ノ嵩置ヲ施行スルコトトセリ又當初計畫ニ於テハ在來ノ堤塘ニシテ二十九年程度ノ出水ニ耐ユベキモノト認メタル所ハ其加工ヲ除キタレドモ追加計畫ニ於テハ之ヲ編入セリ即チ左岸取手町ヨリ金江津村ニ至ル間右岸我孫子町ヨリ木下町ニ至ル間及佐原町ヨリ津宮村ニ至ル間是ナリ要スルニ取手町以下小文間村ノ一部ヲ除キ總テ堤塘ヲ擴築又ハ新築連續セシメ遺漏無カラシム又橘村、椎柴村間ハ第一期改修區域ノ下流ニ位スレドモ改良河川ニ伴フ河潮兩水ノ關係及大出水等ノ影響ニ依リ水路ニ淺所ヲ生ジタルヲ以テ此部分ヲ浚渫シ佐原町地先小野川口ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スルコトトセリ

支川小貝川ハ當初其合流點ニ逆水門ヲ築設スルノ計畫ナリシガ其後調査ノ結果之ヲ廢止シ上流相馬町常磐線鐵道橋以下約七粁八ヲ改修スルコトトシ内上流半部ハ縣ノ施行ニ委ネ下流半部ハ國ニ於テ施行スルコトトナレリ而シテ幹川堤塘ハ其高ヲ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏五米五、表裏共二割法ニシテ川表ハ馬踏ヨリ二米、川裏ハ一米八ヲ下リテ各三米六ノ小段ヲ設ク但シ川裏小段以下ハ三割法ト爲シ尚法先ハ約三米六ノ餘地ヲ存セシメタリ小貝川堤塘ハ表小段及川裏ノ餘地ヲ廢シタル外幹川堤塘ト同形トス

江戸川ハ茨城縣猿島郡五霞村山王地先ヨリ開鑿シテ新川ヲ通ジ利根本川ヨリ分流セシメ其流頭ニハ床固工ヲ施シ洪水ノ注入積ヲ規定シ尚低水路ニ開閉自在ノ洗堰ヲ設ケ其低水量ヲ調節スルト同時ニ高水量ノ一部ヲモ調節スルノ具タラシム蓋シ江戸川ノ最大高水量ハ毎秒二千二百三十立方米ナルヲ以テ其大部ヲ高水敷ヨリ放流セシメ殘餘ヲ低水路ニ據ラシムルコトトシ高水敷ニ於ケル流量ノ如何ニ依リ低

水路ヨリスルモノヲ加減シ得ベカラシム低水時ニ於テ調節スルノ要ハ本流利根川ト江戸川トノ間ニ存セル既往水位ノ關係ヲ改修後ニ於テモ尙保有セシメントスルニ外ナラズ又低水路ニハ閘門ヲ設ケ水運ノ便ニ資スルモノトス

江戸川河道ノ現狀ハ甚シキ迂曲無ク大體良好ナルヲ以テ流末ヲ除ク他ノ部分ハ全ク現川ニ沿ヒ或ハ左岸ニ或ハ右岸ニ河幅ヲ擴張スルコトトシ堤防ハ多ク舊堤ヲ利用シテ之ヲ增築シ又川床ヲ掘鑿シテ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ本川ノ低水路ハ利根沿岸ヨリ帝都ニ通ズル航路トシテ船舶ノ往來頗ル頻繁ナルヲ以テ可成從來ノ低水路ニ觸ルルヲ避ケ堤外地高水敷ノ掘鑿モ亦低水位以上〇米九ニ止ムルモノトシ以テ所要ノ河幅ヲ定メタリ如斯ニシテ流頭ヨリ下流行德迄ハ全然現川ニ沿ヒ改修ヲ加フルモ行德以下ハ流路迂回スルヲ以テ稍直線ニ新川ヲ開鑿シテ高水ノミヲ海ニ注ガシメ現川ニハ航行灌漑ニ必要ナル水量ヲ通ズルモノトス

河幅ハ流頭以下川間村字金野井迄ハ二百五十四米、同所以下野田町迄ハ二百三十六米、以下海ニ至ル迄ハ四百米トス、又堤高ハ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏ハ五米五、表法ハ右岸二割五分、左岸二割ニシテ川裏ハ馬踏ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ小段迄ヲ二割夫レ以下ヲ三割法トス

中川改修區域ハ埼玉縣松伏領村下赤岩以下東京府奥戸村上平井迄延長約二十五粁、地勢平坦ナルヲ以テ利根川本流其他ノ洪水ノ餘波ヲ被ラザル限リ本川自身ニ水害ヲ起スコトナシト雖モ庄内古川外三惡水路ノ併合ニ依リ改修ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ是等ノ流量ヲ新ニ增加スルモ現在ノ高水位ヲ昂メズ且ツ沿岸ノ排水ニ惡影響ヲ與ヘザルコトヲ目的トス因テ現河底ヲ浚渫スルコト流心ニ於テ〇米九乃至一米五トシテ河積ヲ補充スルコトトシ只吉川町並潮止村地先ハ甚シク屈曲セルヲ以テ新ニ直路ヲ設ク

ルコトトス河幅ハ元荒川合流點迄ヲ百二米トシ其下流ヲ百四十五米トセリ而シテ築堤ハ前記吉川町及潮止村新水路ノ兩岸ニ新設スル外ハ二、三箇所ノ移堤又ハ增築ニ止メ其他ハ大體舊堤ヲ其儘利用スルコトトセリ

庄内古川ハ江戸川右岸地方ノ諸惡水ヲ集メタル河川ナルガ江戸川改修ニ伴ヒ之ニ接觸セル十粁二餘ノ附替ヲ要スルニ至レルモノナレドモ同川ニ併行施設スルヨリハ寧ロ近距離ノ中川ニ合流セシムル方水利上竝ニ工費節約上得策ナルヲ認メ且ツ其上流權現堂川ニ注グ羽生領(島川)及島中領、五霞村惡水ノ三惡水路ノ改修ヲ要スルモノアルヲ以テ中川改修ノ附帶工事ト爲シ管理者ニ代リ國ニ於テ施行スルコトトセリ

施工狀況

第一期工事ハ既ニ竣功セルヲ以テ茲ニハ目下施工中ノ第二期、第三期、江戸川及中川ニ於ケル工事ノ概要ヲ記述スベシ

第二期改修工事ニ於テハ第一期工事ニ使用シタル諸機械器具ヲ其儘充用シ得ルノ便宜ヲ有セシヲ以テ幸ニ施工準備ニ多クノ日子ヲ要セザリシガ土地買收ニ在リテハ明治四十年七月以降佐原、滑河、安食、木下、取手、河原代ノ各町村ニ收用事務所ヲ設ケ大正三年度迄前後九箇年度ヲ費シ殆ンド全部買收スルコトヲ得タリ而シテ其後ニ於ケル僅少ノ追加買收ヲ合スルトキハ其總段別一千四百八十四町九畝歩餘トナリ買收費百五十九萬二千二百九十五圓、地上物件移轉料五十萬五千六百五十圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ明治四十二年一月佐原町及安食町ニ各工營所ヲ設置シ滑河町ノ上流ハ安食、同下流

ハ佐原ニテ分擔セシガ大正二年四月兩所ヲ合併シ安食町ニ改修事務所ヲ置キ全區域ヲ管セリ其後年ト共ニ功程益々進捗セシガ同六年度以降漸次戰時ノ好景況ニ伴ヒ物價ノ昂騰ト勞力ノ不足トニ依リ大ニ其功程ヲ妨ゲラレ又同十二年度ニ於テハ九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害アリ更ニ同十四年八月中旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因ル被害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ不斷ノ努力ニ依リ豫定ノ功程ヲ擧ゲ得ルニ至リ本年度迄ニ築堤土運搬(利用土ヲ含ム)一千八百七十九萬三千十九立方米、浚渫土量(築堤費支辨ノ掘鑿土ヲ含ム)三千百七十一萬七百八十六立方米、護岸及水制延長三萬三立方米、特種工事三箇所、附帶工事直轄施行六十一箇所ヲ施工セリ

本年度ニ於テハ取手町以下若松村ニ至ル約七十九粁ノ間ニ取手、安食、佐原ノ三工場ヲ置キ其下ニ數箇所ノ見張所ヲ設ケ築堤一箇所土運搬二萬五千五百五十二立方米、浚渫六箇所土量十八萬四千五百二十立方米、護岸及水制十三箇所延長二千三百二十六米ヲ施工セリ左ニ各方面ニ於ケル概要ヲ述ベン

取手新水路附近ニ於テハ新低水路開鑿工事及兩岸築堤工事ハ何レモ曩ニ竣成シ前年度ヨリ續工セル中峠人力掘鑿ハ略完成シ湖北水制ハ約其九割ヲ竣成シ新ニ左岸小文間村小文間及中坪兩地先ニ水制ヲ起工シ前者ハ之ヲ竣功セシメ後者ハ約三割ノ功程ヲ擧ゲ斯クテ永年亂流セシ河道モ漸次改善ノ域ニ進ミツツアリ

木下附近ニ於テハ布佐、布川兩町間ノ狹窄部切取擴張工事及低水路機械浚渫工竝ニ兩岸築堤工事ハ曩ニ竣成シ護岸水制工亦大約其施工ヲ了リ前年度ヨリ續工セル右岸竹袋護岸ハ全部竣成シ本年度著手セル左岸布川町中宿地先水制ハ約其三割ヲ竣成セリ

安食町附近ニ於テハ新川開鑿工事、印旛水門等ノ主要工事及右岸長戸川締切ヲ含メル安食築堤工事ハ曩

ニ完成シ前年度未竣功トナリシ右岸布鎌村地先人力掘鑿竝ニ左岸源清田村字十里地先低水路浚渫及同地先水制ト其下流長竿村田川地先水制ノ四工事ハ本年度之ヲ續工シ内十里地先水制ハ其七割ヲ竣成シ他ハ全部竣功セリ又本年度著手セル左岸生板村地先堤塘嵩置工事及同村地先人力掘鑿工事ハ前者ハ其六割、後者ハ約四割ヲ竣成シ右岸安食町須賀地先護岸及一時休工中ナリシ源清田村十里地先護岸工事ハ共ニ年度内竣成セシモ後者ニ接續セル下流長竿村地先護岸ハ約一割ヲ了ヘ未竣功ニ終レリ

滑河町新水路附近ニ於テハ新低水路開鑿及兩岸築堤其他各種工事完了シ僅ニ剩セル左岸金江津村地先護岸工事ヲ年度内竣功セシメタリ

神崎新水路附近ニ於テハ新低水路開鑿及築堤其他主要工事ハ凡テ竣成シ本年度ニ於テハ左岸十余島村流作、同曲淵ノ兩地先ニ於テ人力掘鑿工ヲ起シ前者ハ約其三割ヲ了ヘ後者ハ全部竣成セリ

佐原附近ニ於テハ特種工事横利根閘門、同小野川水門等ノ主要工事ハ曩ニ竣成シ兩岸各種工事亦大略施工ヲ了リ本年度ニ於テハ左岸利根護岸ニ接續セル下流砂場地先ニ護岸工一箇所及左岸津ノ宮村地先護岸根固工ヲ施工シ前者ハ約其五割ヲ了ヘ後者ハ全部竣成セリ

第三期改修ハ明治四十二年度ニ施行準備ヲ爲シ同四十三年度ニ田中村ニ同四十四年度ニ稲戸井村ニ各工營所ヲ設置シ土地買收ニ關係ナキ箇所ヨリ先ヅ浚渫工ヲ開始セリ而シテ所要土地買收ハ同年一月以降取手、木間ケ瀬、栗橋、赤岩及境ニ各收用事務所ヲ置キ大正五年度迄約六箇年度ヲ費シ大部分ノ買收ヲ了リ其後ニ於ケル追加買收ヲ合スルトキハ總段別三千五百二十三町七段四畝歩トナリ買收費三百七十萬九千二百三十三圓及地上物件移轉料百三十八萬四千六百十八圓ヲ支出セリ

本區域ハ計畫掘鑿土量三千三百五萬八千立方米、築堤土量一千五百五十八萬二千立方米ノ大土工ナルヲ

以テ鋭意機械ノ整備ヲ圖リ掘鑿機十六臺、機關車十七臺、浚渫船大小七隻、木造工業船二百十四隻、三十瓩軌條約十五粁、十五瓩軌條五十三粁、六瓩軌條八十五粁、三立方米積土運車七百六十六臺、〇立方米六積土運車二千三百三十八臺、其他附屬諸機械ヲ備ヘ大正元年度ヨリ全工區ヲ三分シ尾島、栗橋、田中ニ各工區事務所ヲ設置シ專心功ヲ急ギタル結果同六年度末ニ至リ略成功ニ近ヅキタルヲ以テ同七年五月三區ヲ合併シ栗橋町ニ第三期改修事務所ヲ置キ殘工事全部ヲ統轄スルコトトセリ斯クテ同十年度ニ於テ殆ンド完成シ其後ハ護岸水制ヲ主トシ整理掘鑿及堤防補修等ニ努メシガ同十二年九月一日ノ大震災ニ依ル被害竝ニ同十四年八月ニ於ケル兩度ノ大出水ニ因ル被害等相踵ギ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレタルハ遺憾トスル所ナリ而シテ本年度迄ノ竣功累計ハ築堤土量二千八百十一萬七千六百四十一立方米（利用土ヲ含ム）浚渫土量四千六百十萬四百六十六立方米（築堤費支辨ノ掘鑿土ヲ含ム）護岸及水制延長十萬九千百三十一米、特種工事四箇所、附帶工事直轄施行六十八箇所ナリトス

本年度ニ於テハ沼ノ上以下取手ニ至ル百三粁ノ間ニ尾島、栗橋、田中ノ三工場ヲ置キ其下ニ數箇所ノ見張所ヲ設ケ主要工事權現堂川ノ締切其他四箇所ヲ施工セリ左ニ各方面ニ於ケル施工ノ概要ヲ述ベン

沼ノ上、赤岩間ハ掘鑿、築堤及附帶工事等凡テ竣功シ護岸及水制ハ水衝リ强キ箇所及常水路ノ新堤ニ接近セル所ハ悉ク防禦セラルルニ至リ其延長舊護岸ヲ合スレバ正ニ全河岸ノ七割九分ニ達セリト雖モ利根川ノ急流部ナルヲ以テ左岸沼ノ上、八斗島、前河原、新地、長沼、大館、小島、古海、赤岩、右岸山王堂、仁手、中瀬、間々田、出來島等ノ各地先ハ流水常ニ護岸ニ激衝シ脚部危險ナルヲ以テ更ニ根固及床固ヲ增補スルノ必要アルベシ

赤岩、境間ニ於テハ栗橋町以下ニ工事ヲ施行シ權現堂川締切築堤工事ハ前年度ニ於テ略完成シ前面ノ護

岸及床固水制亦竣功セシガ之レヨリ下流堤塘嵩置工事ニ伴ヒ本築堤モ多少高メタル結果川表ノ小段ハ低キニ失シ且ツ洪水時ニハ川裏ニ漏水スル虞アルヲ以テ年度内前小段〇米六ヲ高メタリ又護岸及水制工ハ右岸五霞村大字川妻及両新田地先ノ掘鑿跡三箇所ニ鐵筋混凝土材杭打上置及栗橋町陸閘附近ノ深堀箇所ニ船著ニ兼用セル石張沈床護岸工ヲ施工シ前者ハ七割、後者ハ四割ノ功程ヲ擧ゲ其他ノ諸工事ハ凡テ竣成シ水流激衝スル箇所ハ新舊護岸ニ依テ悉ク防禦セラレ左岸富永、梅島、千江田ノ各村及右岸村君村等ノ引堤箇所ハ水制ノ施工ニ依テ深堀ノ跡ヲ絶チ其下流大越及對岸大箇野両村地先ノ亂流箇所ハ大ニ改善セラルルニ至レリ

境、取手間ニアリテハ掘鑿築堤及附帶工事等全部完成シ僅ニ護岸及水制ノ一小部分ヲ剩セリト雖モ前年度迄ノ施工ニ依リ両岸水流激衝ノ箇所ハ悉ク防禦セラルルニ至レリ本年度ニ於テハ右岸關宿町以下川間、旭、福田ノ各村及左岸猿島村等ノ引堤箇所及鬼怒川合流口ニ床固水制ヲ施工シ深堀ニ備フルト共ニ水路ノ匡正ニ努メタリ

派川江戸川改修ハ大正二年度創業直ニ野田町及松戸町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調査ヲ行ヒ翌三年七月買收協議ヲ開始シ良好ノ成績ヲ以テ同四年三月迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ終リ同月限リ兩事務所ヲ閉鎖セリ而シテ其後ニ於ケル追加買收ヲ合スルトキハ總段別一千七十七町六段五畝三歩餘トナリ買收額二百十一萬九千二十八圓竝ニ地上物件移轉料百二十萬九千九百七十五圓ヲ支出セリ

工事施工ニ關シテハ同三年十二月野田町ニ改修事務所ヲ設置シ直ニ築堤及掘鑿工事ニ著手セシモ同年度ハ日淺ク僅ニ其一部ヲ施工シタルニ過ギザリシガ同四年度以降漸次功程進捗シ本年度迄ニ築堤土量一千六百三萬七千四百二立方米（利用土ヲ含ム）、浚渫土量一千六百七萬三千五百三十七立方米、護岸及水制延長四

萬四千二百二十米、特種工事三箇所、附帶工事直轄施行三十六箇所ヲ施工セリ而シテ其間同十二年九月一日ニ於ケル大震災及同十四年八月ニ於ケル大出水等ニ因ル被害ノ爲メ工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ不斷ノ努力ニ依リ幸ニ豫定ノ進捗ヲ見ルニ至レリ

本年度ニ於テハ江戸川筋關宿町及逆川筋五霞村以下海ニ至ル延長五十九粁ノ間ニ關宿、野田、市川ノ三工場ヲ置キ其下ニ數箇所ノ見張所ヲ設ケ各工事ヲ施工セリ左ニ其概況ヲ述ベン

築堤工事ハ五霞、權現堂、三輪野江、早稲田、流山、金町ノ各町村地先ニ於テ七箇所ヲ前年度ヨリ續工シ尙新ニ山王、松戸、市川、行德ノ各町村地先ニ於テ四箇所ヲ起工シ土量五十萬五千九百十一立方米ヲ堤敷ニ搬入シ五霞、早稲田、金町、行德ノ各地先五箇所ヲ竣功セシメタリ

浚渫工事ハ前年度末竣功トナリシ五霞村以下關宿、豐岡、三輪野江、小岩、金町、行德ノ各町村地先人力掘鑿工事七箇所ヲ續工セシ外新ニ三輪野江、早稲田、小岩ノ各村地先三箇所ヲ施工シ內關宿、豐岡、三輪野江ノ各地先三箇所ヲ竣成セシメ土量四十二萬四千九百四十八立方米ヲ擧ゲ機械浚渫工事ハ五霞村及關宿地先ノ二箇所ヲ施工シ內五霞村地先ハ竣成シ土量六千七百五十五立方米ヲ擧ゲ機械掘鑿工事ハ五霞、三輪野江、八木郷ノ各村地先ニ於テ四箇所ヲ續工セシ外關宿、行德ノ兩町地先ニ於テ二箇所ヲ施工シ內三輪野江、八木郷ノ兩村地先二箇所ヲ竣功セシメ土量十九萬一千七百六十立方米ヲ竣功セリ

護岸工事ハ五霞村地先ニ於テ四箇所、七福、新川兩村地先ニ於テ三箇所計七箇所ヲ續工セシガ尙新タニ松戸、市川ノ兩町地先ニ於テ二箇所ヲ起工シ內五霞村山王及權現堂、松戸ノ各地先ヲ除ク外全部竣成セリ

特種工事タル關宿閘門及關宿洗堰ノ二工事ハ前年度竣功セシモ之ニ關聯セル關宿高水路床固、中島築立、中島護岸ノ三工事ハ前年度ヨリ續工シ鋭意之レガ進捗ニ努メシモ未竣功ニ終レリ

附帶工事ハ前年度ヨリ繰越ニ係ル三輪野江村地先新田用水路樋管改築及堰枠新設工事ヲ續工竣功セシメ新ニ豐岡村地先木津内樋管改築及松戸町矢切地先ニ於ケル排水機鐵管繼足工事ニ著手セシモ兩者共僅ニ一分通ヲ竣功セシニ過ギズ又管理者施工ニ係ル京成電氣軌道變更工事及江戸川葛飾ノ二橋改築竝ニ工作物除却ニ對シ國庫ヨリ四萬四千八百四十七圓ヲ補助セリ

中川改修ハ大正五年度創業直ニ測量調査等ノ施工準備ニ著手シ翌六年度ヨリ土地買收ニ關係ナキ部分ヨリ工事ヲ開始セリ而シテ土地買收ハ同八年九月新宿町ニ土地收用事務所ヲ設置シ買收調査ヲ爲シ同九年度迄ニ其大部分ヲ買收シ同十一年度ニ至リテ完了セリ其總段別百三町一段歩餘、此買收金額四十八萬四千八百十一圓、地上物件移轉料十三萬三千六百二十四圓ヲ支出セリ

本工事ハ當初江戸川改修事務所所管ノ下ニ施工セシガ同八年十一月分立シテ府下南葛飾郡龜青村大字龜有ニ中川改修事務所ヲ設置シ其下ニ工場及派出所等ヲ設ケ鋭意施工ニ努メ起工以來築堤土量三十萬二千百四十六立方米、浚渫土量四百三十八萬一千十一立方米ヲ竣成セリ

附帶工事ハ庄内古川ヲ除キタル他ノ七箇所ハ全部竣成シ管理者施行ニ對シ國庫補助ヲ爲シタルモノ一萬一千三百七十三圓ナリトス

本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ吉川、龜有ノ二工場ヲ置キ浚渫船二隻ヲ以テ吉川町及龜青村地先ノ低水敷ヲ浚渫シ土量六萬八千百九十六立方米ヲ擧ゲ前者ハ年度末、後者ハ年度初ニ於テ何レモ竣成シ茲ニ中川本川筋ニ於ケル浚渫及掘鑿工ハ全部完了シ剩ストコロ吉川町地先ニ於ケル浚渫土陸上運搬及跡片付ノミトナレリ

庄内古川外三惡水路附替工事ハ中川改修附帶工事ノ一ナレドモ其實中川改修促進ノ因ヲ爲シ且ツ工事

ノ規模大ナルヲ以テ其施工ニ相當準備ヲ要シ大正六年度ニ於テ幸松村ニ土地收用事務所ヲ設ケ所要土地ノ買收(管理者負擔)ヲ爲シ翌七年度ヨリ工事ニ著手シ本年度迄ニ浚渫及掘鑿土二百四十五萬九千百三十四立方米、築堤土八十三萬七千百九十九立方米、橋梁架設二十一箇所、樋管新設六箇所、水路附替四箇所、堰一箇所及雜工事三箇所ヲ施工セリ

本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ幸松、島川ノ二工場ヲ置キ吉田村大字上宇和田地先權現堂堤防以下庄内古川筋ニ於テ本流ヲ全部締切リ廻堀水替ノ方法ニ依リ人力ヲ以テ川邊村地先現水路ニ於テ四千立方米、松伏領、旭、金杉各村地先新水路ニ於テ四萬一千立方米ノ土砂ヲ掘鑿セリ又築堤ハ吉田村新水路ノ兩岸ヲ前年度ヨリ續工シ松伏領新水路築堤ハ休工セリ

權現堂堤防ノ上流權現堂川及島川筋ニ於テハ人力ヲ以テ前者ハ二十四萬三千立方米ヲ、後者ハ十一萬一千立方米ヲ掘鑿シタル外前年度ニ於テ未竣功トナリシ水路橋竝ニ縣道橋村道橋各一箇所、水路附替一箇所ヲ施工シ尙權現堂堤防切割箇所ニ流量調節ヲ目的トスル堰及同所ニ村道橋一箇所ヲ起工シ內水路橋竝ニ村道橋一箇所ヲ竣成セリ

直營石材斫出及砂利採集兩事業ハ本改修工事愈々完成ニ近ヅキタルヲ以テ各設備費其他諸費及繰越材料等ノ一切ヲ擧ゲ本年度ヨリ利根、渡良瀨兩川維持費ヲ以テ繼承操業スルコトニ變更セリ

本改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ當初佐原、次デ明戸、栗橋、取手、野田、松戸及龜有等ノ獨立工場ヲ置キ之ニ當ラシメシガ事業ノ進捗ニ伴ヒ漸次閉鎖シ現在ニテハ僅ニ野田ノ一工場トナリ他ニ規模ヲ縮小シ改修事務所所管ノ下ニ事業ヲ續行セルモノ一、二アルノミトナレリ

本年度利根川改修工事總竣功高ハ九十萬四千七百六十二圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六千百五十八萬九

千三百二十七圓トナリ之ヲ總工費豫算六千三百四十萬三千百十七圓ニ比較スルトキハ九割七分ノ竣功トナレリ工事竣功表左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「×」ハ直營採集砂利及同斫出石材價額「△」ハ製作品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ府縣及捨土出願者提供材料及勞力「◎」ハ縣負擔額「○」ハ評價品使用價額「◉」ハ水害豫防組合提供ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	割分
本工費	築堤	※ 二四、六六一、五四〇 立方米	◉△× 六、八四八、〇二二 円	※ 二〇三、〇八九 立方米	◉△× 八六、六九三	※ 二四、八六五、〇三六 立方米	◉△× 六、九三一、〇二二 円	○・九七
	浚渫	※ 一〇六、八三四、二八一	◎▲△ 一二、一三四、七三九	※ 八五、〇六二、〇七〇	◎▲△ 二一三、九八七	※ 一〇七、六八四、九〇〇	◎▲△ 一二、三四八、七二六	○・九八
護岸水制工事費		一七六、八〇五 米	◎△× 四、二一三、四九八、〇四一	六、八〇九 米	◎△× 一六九、三三四、四二四	一八三、六一四 米	◎△× 一四、三八二、八六七	○・八八
特種工事費		未竣功 一箇所	△× 二、三六三、八五二、六三九、一九六	未竣功 一箇所	△× 三七、六三五、一四九	未竣功 一箇所	△× 五、四〇一、五三九、一九六	○・八七
障害物除却費		五三、一〇七 立方米	八、六九九			五三、一〇七 立方米	八、六九九	○・〇〇
材料採集費			一、〇七八、九〇八				一、〇七八、九〇八	
地用費		六六、三三五 円	一、七三四、三〇一	一二 隻	四〇、四五七	六六、三四七 隻	一、七七四、七五八	
附帯工事費	直轄施行	未竣功 一箇所 二八	◎○△×□ 一〇八、二四四、四六二	未竣功 箇所 三一	◎○△×□ 二一、三一八、六一一	未竣功 一箇所 三九	◎○△×□ 二一、三一八、六一一	○・九三
	管理者施行	四 二五	八一五、七〇七	四	四四、八四七	四九	八六〇、五五四	
船舶及機械費			△ 一二、九三六、五七九		△ 八〇、二八九		△ 一三、〇一六、八六八	
測量費			△× 一九四、二四一 八七〇二		△× 七、九五五		△× 二〇二、一九六 八七〇二	

本表ノ竣功額（低水工費ヲ除ク）ヲ更ニ各改修別ニスレバ左表ノ如シ

第一期改修

費目	數量	金額	竣功歩合
本工事費 築堤	三、二一四、七〇六立方米	五一六、一二六円	一・〇〇割分
浚渫	二一、四八四、七一五立方米	一、三〇二、〇三〇	一・〇〇
特種工事 障害物除却	一〇、一六四立方米	二〇、四六一	一・〇〇
地費	四、四六一段	六三五、五二四	—
附帯工事費 直轄施行	一〇箇所	四八、七一四	一・〇〇
管理者施行	五箇所	四二、六四八	竣功
船舶及機械費	—	二、八七一、七二二円	一・〇〇割分
測量費	—	三〇、〇九二	—
營繕費	—	一〇六、二六八	—
雜費	—	二五四、五四六	—
總計	—	五、八三〇、三六六 一、九六九	一・〇〇

費目	數量	金額	竣功歩合
營繕費	—	△ 六九三、五二六五	—
雜費	—	◎× 四、七六九、六七一 一五七	—
亡失毀損	—	五五八	—
共濟組合給與金	—	五八、〇〇一	—
退職手當	—	七、三五七	—
低水工費諸費共	—	六八八、七八五	一・〇〇
總計	—	◉○▲□ 六〇、六八四、五六六 一、二六三、五五五 二一八、五五五 四〇九、六八二 五二〇五	〇・九七
營繕費	—	△ 六、九三一	—
雜費	—	◎× 一七五、三〇五 一、六八一	—
亡失毀損	—	—	—
共濟組合給與金	—	九、六五三	—
退職手當	—	—	—
低水工費諸費共	—	—	—
總計	—	◉○▲□ 二〇四、七六二 六八八、一一二 八〇一、八二一 二七八、一一一	—
營繕費	—	△ 七〇〇、四五六 六五	—
雜費	—	◎× 四、九四四、九七六 一、六八一 一五七	—
亡失毀損	—	五五八	—
共濟組合給與金	—	六七、六五四	—
退職手當	—	七、三五七	—
低水工費諸費共	—	六八八、七八五	一・〇〇
總計	—	◉○▲□ 六 一、五八九、三二 一四八一、七〇三 三二七、七六六 四八〇七三二 五三二六七	〇・九七

第二期改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	※ 一四、八一一、九八〇立方米	二、九七〇、三〇七円	※ 二五、五五二立方米	一〇、〇二一円	※ 一四、八三七、五三二立方米	二、九八〇、三二八円	割分 〇、九九
浚渫	※ 一九、七六八、六四一 一一、一八六、二五	二、二七〇、三〇四	※ 一五八、九六八 二五、五五二	五一、三七六	※ 一九、九二七、六〇九 一一、一四四、一七七	二、三二一、六八〇	〇、九九
護岸水制工事費	二七、六七七米	九四三、九二九 五〇、三三一	二、三二六米	一一〇、八九七 一、三一〇	三〇、〇〇三米	一、〇五四、八二六 一、六四一	〇、九二
特種工事費	箇所 三	八二六、七〇一 一九、二六〇	× △		箇所 三	八二六、七〇一 三一九、二六〇	〇、九九
障害物除却	一七、二一四立方米	三、六五五			一七、二一四立方米	三、六五五	一、〇〇
材料採集費		五四、三九三				五四、三九三	
用地費	一四、八四一段	二、〇九七、九四五			一四、八四一段	二、〇九七、九四五	
附帯工事費 直轄施行	箇所 六二	四三四、〇六五 三、七五三 三五、二五二	竣功 ×□		箇所 六二	四三四、〇六五 三、七五三 三五、二五二	竣功 ×□
管理者施行	一二	九三、七六〇	竣功		一二	九三、七六〇	竣功
船舶及機械費		二、四三五、九四〇 三五、七、九四六	△			二、四三五、九四〇 三五、七、九四六	△
測量費		六三、二〇九				六三、二〇九	
營繕費		八五、七九七				八五、七九七	
雜費		一、二七、一九一六				一、二七、一九一六	
亡失毀損		九				九	
共濟組合給與金		六、七〇九				六、七〇九	
退職手當		三、五一二				三、五一二	
總計		□一三、五六二、一五一 三五、一二五二		□二三〇、九六六		□一三、七九三、一一七 三五、一二五二	〇、九六

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
築堤	※	一、三八八、七七二円 二、七〇七、〇六四 一、〇三三、〇〇一	※	二、二九二円 六、五一八	※	一、三九一、〇六四円 二、七〇七、〇六四 一、〇三三、〇〇一	一・〇〇
浚渫	※	四、一五九、二三五	※	一四 六、五一八	※	四、一五九、二四九	一・〇〇
護岸水制	一〇八、七〇四米	二、二六一、九六五 五四八、五二一 〇、六一二	四二七米	八、五三七 二三七 五七	一〇九、一三一	二、二七〇、五〇二 五四八、七五九 〇、六一二	〇・九九
特種工事費	箇所四	二二四、二三二 一二、四二二 三六一			箇所四	二二四、二三二 一二、四二二 三六一	一・〇〇
障害物除却費	二五、七立方米二九	二、七九四			二五、七立方米二九	二、七九四	一・〇〇
材料採集費		五五六、二〇一				五五六、二〇一	
地用費	三五、二三七㌶	五、〇九三、八五一			三五、二三七㌶	五、〇九三、八五一	
附帯工事費							
直轄施行	箇所八六	二一一、八一六、五八六 九、一五八、一一一 七三、五八一、〇一六			箇所八六	二一一、八一六、五八六 九、一五八、一一一 七三、五八一、〇一六	
管理者施行	五	七二、一六一			五	七二、一六一	
船舶及機械費		三、五八八、八九七 九七、五六二 六二五四		一、三四三		一、三四三	
測量費		五四、七六五				三、四六一	
營繕費		一九一、七九一 六二		一、八八三		一、八八三	
雜費		一、四〇五、五三九 一五七		一四、〇一七		一四、〇一七	
亡失毀損		四六七					
共濟組合給與金		三、二三二		四五〇		四五〇	

江戸川改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
退職手當		一、五〇六円				一、五〇六円	
總計		◎□ 一九、二二三〇、九二六 九、九三一		◎□ 三一、九九七 五七		◎□ 一九、二二六二、九二三 九、九三一 五七	○、九九

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	※ 一一、三九七、五三八、二一二、七九 立方米	▲△× 一、九四五、八三一〇 四二九一七二円	※ 一七一、三三四、〇八二六 立方米	▲△× 七四、三八〇円	※ 一二、三七三、〇七〇、二九一〇五 立方米	▲△× 二、〇一九、八四三、四二九一八七円	○、九〇 割分
浚渫	一五、四五〇、〇七四	◎▲△ 三、一七六、五七六 一五、三四七 九四五八	六二三、四六三	◎▲△ 一四八、四七六 五、〇八三	一六、〇七三、五三七	◎▲△ 三、三二五、〇五二 一五、五九〇 九四三 八八五三	○、九〇
護岸水制	四〇、一六四米	△× 一、〇〇二、六 三八一、五九 三七一四	四、〇五六米	△× 四九、九六〇 八四、七九五	四四、二二〇米	△× 一、〇五六 四六、二六 三六、五四 三六四	○、七〇
特種工事	竣功未竣功	△× 一、二二九、二二五、五一一二 〇三五、六〇九四	竣功未竣功	△× 三七、六三 三五、一九	竣功未竣功	△× 一、三三〇、一二五 二六〇、七〇 三〇、七〇 九八一	○、八〇
材料採集費		四六八、三一四				四六八、三一四	
用地費	一〇、七六五段	三、二八八、五四六	一二段	四〇、四五七	一〇、七七七段	三、三二九、〇〇三	
附帯工事費 直轄施行	竣功未竣功	○□△× 三〇二、五一一八 一二、三〇、二五 一五、四六、二九〇 九五八二〇	竣功未竣功	○□△× 二八二 三二五	竣功未竣功	○□△× 三〇二、五一一八 一二、三〇、二五 一五、四六、二九〇 九五八二〇	○、八〇
管理者施行	竣功未竣功	五九五、七六五	竣功	四四、八四七	竣功	六四〇、六一二	
船舶及機械費		△ 三、〇一九、七六七 四四一、一三九		△ 五四、二一七 七、二〇一		△ 三、〇七三、九八四 四四八、三四〇	

中川改修

費目	前年度迄竣功高 数量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣切高 数量	本年度竣切高 金額	合計 数量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 築堤	※		※		※		
本工事費 浚渫	一六、二七六 立方米	三九、一一七 円	一六、二七六 立方米	二、七五五 円	一六、二七六 立方米	四一、九一七 円	一〇〇 厘分
本工事費 浚渫	二八五、八七〇	二五八、一一二			二八五、八七〇	二六〇、三七〇	
本工事費 浚渫	四、三一二、八一五	▲		▲	四、三八一、〇一一	▲	〇、九八
本工事費 護岸水制	二六〇米	四、八二八			二六〇米	四、八二八	一、〇〇
本工事費 地用	一、〇三一段	六一八、四三五			一、〇三一段	六一八、四三五	
附帯工事費 直轄施行	箇所 一五	◎○□△	箇所 一	◎○□△	箇所 一五	◎○□△	〇、九五
附帯工事費 管理者施行	二	一、三七三			二	一、三七三	
船舶及機械費		一、〇二一、五九六 八〇、四二五		一、七八九 五一		一、〇二一、五九六 八〇、四二五	
測量費		七、〇一三 七九		二四六		七、〇一三 七九	
測量費							
營繕費		△		△		△	
雑費		◎		◎		◎	
亡失毀損		八二				八二	
共済組合給與金		三四、四五五		六、〇〇三		三四、四五五	
退職手當		一、三六五				一、三六五	
総計		▲◉◎□ 一六、八六五、五九六 一二〇、五四八一 一五、四二五 九九八		▲◉◎□ 五七八、二五六 六、七八二 六七六四		▲◉◎□ 一七、四四三、八 一二〇、三六一 一五、六七 九四、七六四 九二六四〇七	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營繕費		五一、五四〇円		四七九円		五二、〇一九円	割分
雜費		三九六、七五八		四、〇八三		四〇〇、八四一	
共濟組合給與金		一三、六〇五		一、五四〇		一五、一四五	
退職手當		九七四				九七四	
總計		▲◎□四、五〇六、七六七、六五六、八五九、六二五、〇二一、〇一一、二一一、〇七五、〇一一、七五四		▲◎□二一六、三七、五八、四九、三九九、〇七二		▲◎□四、五七七、〇三一、七五九、二四一、一一一、〇〇五、六二四	〇、九八

第二　信濃川改修工事

緒言

本川ハ曩ニ航路改良及洪水防禦ノ目的ヲ以テ河身工事ハ新潟縣長岡市以下新潟市ニ至ル約七十九粁ヲ工費百九十二萬五千餘圓、砂防工事ハ本川上流長野縣犀、曲兩川流域ニ於テ十一萬餘圓合計二百三萬五千餘圓ヲ以テ明治九年度ヨリ同三十八年度ニ至ル二十九箇年度間ニ於テ一旦施行ヲ了シタルモ尙治水工事ノ要アルニ依リ更ニ同四十年度ヨリ大正九年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ工費豫算一千三百萬圓(內新潟縣負擔額三百四十九萬三千圓)ヲ以テ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル新水路ノ開鑿竝新潟市地內信濃川河口ノ改修工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防禦セントシ起工セシガ時局ノ影響ト再度ノ地辷トニ因リ豫算ニ不足ヲ生ジ大正八年度ヨリ同十二年度迄五箇年度間ニ於テ一千十四萬一千九百五圓(內新潟縣負擔額二百五十三萬六千圓)ノ增額ヲ爲スト共ニ施工期間ヲ同十四年度迄繰延ベシガ大正十二年九月一日ノ關東大震災ニ因リ更ニ一箇年度ヲ延長シタリ然ルニ大正十三年十一月前回地辷箇所ニ於テ第三回ノ地辷突發シ之ヲ除去スヘク更ニ大正十四年四月四十萬圓(內新潟縣負擔額十萬圓)ヲ追加增額シ總工費豫算二千三百五十四萬一千九百五圓(內新潟縣負擔額六百十二萬九千圓)ヲ以テ大正十五年度ニ完成ノ豫定ナリシガ工事ノ都合ニ依リ施工年限ヲ更ニ一箇年度ヲ延長シ本年度ヲ以テ竣功ヲ告ゲタリ

河狀並計畫大要

本川ハ流域面積一萬二千二百六十二平方粁ヲ有シ長野、群馬、新潟ノ三縣ニ亙リ幹川流路延長三百六十九粁、航路延長六百九十九粁(内幹川百八十三粁)、灌漑面積七萬六千二百二十一ヘクタール(内幹川一萬二千百三ヘクタール)、水害區域六萬二千九百三ヘクタール(内幹川一萬九千八百七十七ヘクタール)ニシテ廣大ナル越後平野ヲ貫流スルヲ以テ灌漑ノ利甚ダ大ナリト雖モ水災亦實ニ甚シキモノアリ彼ノ明治二十九年ノ出水ノ如キハ各所ニ破堤ヲ見沿岸平野一帶ハ水底ニ葬ラレ被害住民ハ爾來數年間立ツ能ハザルノ疲弊ニ陷リシ事アリ尚本川沿岸ハ惡水停滯ノ害ヲ被ルコト亦大ニシテ明治三十八年ノ如キ格別ノ出水無カリシ場合ニ於テスラ其損害莫大ニシテ中西南ノ三蒲原郡ニ於ケル冠水面積ハ田三萬一千八百四十ヘクタール、畑九千四百六十ヘクタールニ達シ其損害高四百三十、六萬四千四百八十六圓ニ及ベリ又信濃川全川ノ大正元年乃至同十年ノ水害損失平均年額ハ百八十二萬三千二百八十三圓ニシテ其内大正二年ハ四百三十三萬三千百圓、同三年ハ五百七十二萬七千七百三十三圓、同六年ハ三百四十八萬五千七百九十圓ナリトス

上述ノ如ク惡水ノ被害ニ至リテハ殆ンド毎歲脫ガレズ其損害莫大ナルヲ以テ是等ノ除害工事トシテ本工事ヲ計畫セルモノニシテ本川中流部ノ日本海ニ最モ接近セル箇所卽チ大河津ヨリ寺泊ニ至ル間ニ延長十粁餘ノ一大新水路ヲ開鑿シ本川ノ最大流量毎秒五千五百六十五立方米ノ全部ヲ新川ニ導キ之ヲ日本海ニ放流シ大河津以下本流筋五十五粁ニ亙ル沿岸一帶ノ水災ヲ根絕セシムルニアリ而シテ大河津舊川分派口ニハ洗堰ヲ設ケテ航通及灌漑ニ必要ナル平水量ヲ送リ且同所ニ閘門ヲ設置シテ航行ノ便ヲ保

タシム其洗堰以下ノ本川水位ハ常ニ低水ニ保タルル結果沿岸破堤ノ害無キハ勿論悪水ノ停滞モ亦改善セラレ從テ本流及支流ノ維持費ヲ輕減セラルベシ尚從來洪水毎ニ惱メル河口新潟港埋塞ノ患害モ亦改修後ハ大ニ輕減スルヲ得ベシ大河津ニ於ケル新川ハ起點ヨリ稍下流ニ於テ堰堤ヲ築造シ其高ヲ本川既往ノ流水狀態ニ鑑ミ洗堰以下ニ約毎秒四百十七立方米ヲ通ズベキ水位ヲ標準トシテ之ヲ規定シ河幅七百二十七米ノ内高水敷ノ部河幅五百四十五米ハ固定堰トシ出水ノ際ハ越流セシメ低水敷幅百八十二米ハ自在堰トシ出水ノ際ハ取拂ヒ得ベカラシム而シテ新川ハ海岸ニ近ヅクニ從ヒ漏斗形ニ河幅ヲ縮メ海口ニ至リ二百十八米ト爲シ水面勾配ヲ上流ニ於テ二千分ノ一、中流ヲ八百分ノ一、下流ヲ五百分ノ一トシ堰堤ヨリ上流舊川ヲ利用シ改修ヲ加フル部分ハ三千八百三十六分ノ一ト爲ス而シテ同所ノ河幅ハ舊川ニ準ジ之ヲ定メタリ新川ノ築堤ハ掘鑿土ノ利用上其體積ヲ大ニシ馬踏十四米五、兩法二割トシ最高水位以上一米五ノ餘裕ヲ保タシメ同水位以上〇米六ノ點迄石張護岸工ヲ施行ス

新潟港ノ改良モ亦河口ノ整理トシテ本計畫ノ一部ニ屬ス本計畫ニ於テハ大河津以下本川ノ高水流量ヲ遮斷セル結果河口ニハ甚シキ濁水ノ流下ヲ見ルコトナク從テ既往ニ比シ埋塞少カルベキヲ以テ河口ニ充分ノ水深ヲ與フルコトトシ幅員百八十二米、水深低水面以下七米六ニ浚渫ス又河口ニ於テ左岸舊突堤及右岸舊導水堤ヲ增築シ以テ防波、防砂及導水ノ目的ニ供セントス

增築突堤ノ總延長ハ一千五百十七米ニシテ其構造一樣ナラザルモ大體一箇ノ重量〇瓲五乃至五瓲ノ天然石ヲ以テ舊突堤ヲ基礎トシテ上幅九米一、兩側一割五分法、高サ低水面ニ達スル山形ヲ造リ其上ニ幅七米三、高三米六ノ混凝土直壁ヲ築造シ更ニ其海側ニ於テハ一箇ノ重量十四瓲及二十五瓲ノ混凝土塊ヲ投入シテ其全部ヲ包覆シ又河側ニ於テハ十四瓲塊ヲ以テ其一部ヲ包被スルヲ規定ノ斷面トセリ

右ノ外河口工事トシテ突堤根元ヨリ上流一千百八十二米ノ左岸ヲ保護スル爲メ沈床、根杭及石張ヲ以テ護岸工ヲ施シ尙前記突堤尖端ニ燈臺ヲ新設スルモノトス

施工狀況

本工事ハ明治四十年度ノ創業ニシテ起工以來年ヲ閱スルコト二十有一年其間前後三回ニ亙レル地辷ト時局ノ影響トニ因ル諸物價ノ暴騰トノ爲メ著シク工事ノ進捗ヲ害セラレタリシガ遂ニ本年度ヲ以テ竣功ヲ告グルニ至レリ本年度ノ施工ニ係ルモノハ各種ノ殘工事ニ過ギズ今其施行ノ概要ヲ左ニ記述スベシ

掘鑿工事ハ主トシテ第三回地辷箇所ニ力ヲ注ギ人力掘鑿ヲ以テ除却ニ努メ土量十萬九千四百九十六立方米ヲ處理セリ尙殘土ハ通水上支障ナキヲ認メタルヲ以テ自然流下セシムル事トシ本掘鑿工事ハ打切竣功トシタリ

浚渫工事ハ河口ニ於テ吸揚浚渫船阿賀丸及汲揚浚渫船榛名號ノ二隻ヲ使用セルモ昭和二年五月ニ至リ信濃川維持工事ノ著手ヲ見ルニ至リシヲ以テ前者ハ同年五月十三日、後者ハ同年五月八日本工事ヲ打切リ夫々維持工事ニ使用セリ其結果年度内ニ於テ僅ニ土量六萬五千七百六十立方米ヲ浚渫シタルニ過ギザリキ又上流ナル閘門及洗堰前後ハ洪水毎ニ土砂堆積シ航行及通水ニ支障ヲ來スヲ以テ前年度ニ引續キプリストマン式浚渫船ヲ使用シ土量四千九百三十六立方米ノ浚渫ヲ了セリ

堰堤工事ハ自在堰及固定堰トモ其下流ハ堰堤ヲ流下スル激流ノ爲メ洗掘セラレ漸次堰體ニ危險ヲ及ボス虞アルヲ以テ前年度ニ引續キテ固定堰下流ノ缺潰部及ビ自在堰下流ノ洗掘部ニ一千二百四十七立方

米ノ捨石ヲ投入シ兼ネテ前年度施行ノ木工沈床ヲ補强シタリ

河口ニ於ケル西突堤工事ハ既ニ大正十年末ニ豫定ノ長サニ達シ殆ド竣功セルモ冬季常ニ荒波ノ爲メ捨石ノ沈下移動スルモノ多ク其被害ハ遂ニ直壁ニ及ブニ至リ其儘放置セバ突堤破壞ノ危險アルヲ慮リ前年來頭部及ビ海側ニ捨石ヲ補足スルト共ニ直壁ト海側捨石トノ間隙ニ場所詰混凝土ヲ塡充シ來レルモ本年度ニ於テハ僅カニ捨石(混凝土塊使用)三百五十七立方米ヲ施工シ昭和二年六月十四日ヲ以テ本工事ヲ竣ヘタリ

東突堤ハ大正十四年一月一先ヅ竣功シタルモ其先端百七十三米ハ同年三月末ニ至ル冬季間ニ屢々激浪ニ襲ハレ捨石散亂スルニ至リシヲ以テ大正十五年九月其修理ニ著手セルモ竣功ニ至ラズシテ本年度ニ繰越セリ而シテ本年度ニ於テハ割石積二百八十立方米(方塊積ハ前年度ニ施工セリ)場所詰混凝土四十立方米ヲ施工シ修理延長十八米ニシテ昭和二年七月十一日ヲ以テ全ク竣功セリ

西突堤元付ヨリ舊燈臺下ニ至ル海岸線ハ冬季波浪ノ爲メ侵蝕セラレ高浪ノ際附近低地ニ浸水スルニ至リタルヲ以テ之ガ防備ノ爲メ砂止簀立工八千米ヲ施工シ年度末之ヲ竣功セリ

採石工事ハ寺泊町大字野積海岸ニ於テ爆藥ヲ用ヒ割石ヲ採取シ三立方米積土運車ニ積込ミ二十噸機關車ヲ用ヒテ大河津村大字五千石地先堰堤箇所ニ運搬シタルモノニシテ本年度採取量一千二百四十七立方米累計四萬六千百三十七立方米ニ達セリ

自在堰及洗堰運轉ハ水位調節ノ目的ヲ以テ開閉ヲ行フコトハ大正十一年八月通水以來ノ繼續作業ナリシガ本年度ハ出水ノ著シキモノナク且昭和二年五月以降本運轉費ハ信濃川維持費ヲ以テ支辨スルコトトナリタリ

附帶工事ハ新潟縣營ニ係ル鄕本川改修工事ノミニシテ本年度ニ於テ其竣功ヲ見タルヲ以テ二分ノ一ノ補助費ヲ交附シタリ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ八萬七千九百六十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ二千三百五十三萬八千二百十六圓ナリ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	掘鑿	二八、〇七六、七三七 立方米	八、一九八、三七六 円	一〇九、四九六 立方米	二九、四二七 円	二八、一八六、二三三 立方米	八、二二七、八〇三 円	一・〇〇 割分
	浚渫	八、七九二、八七四	六四三、〇五四	七〇、六九六	一〇、七七〇	八、八六三、五七〇	六五三、八二四	一・〇〇
	築堤	四、四四六、四五九	七八七、四四六			四、四四六、四五九	七八七、四四六	一・〇〇
	舊堤取拂	一六〇、七二二	一一七、三九三			一六〇、七二二	一一七、三九三	一・〇〇
	護岸水制		一六八、七四九				一六八、七四九	一・〇〇
	床固	箇所 一	一〇、九五〇			箇所 一	一〇、九五〇	一・〇〇
	閘門	一	二〇八、四三七			一	二〇八、四三七	一・〇〇
	洗堰及堰堤	二	一、五九〇、二一六			二	一、五九一、九七九	一・〇〇
	防砂堤	一	二〇、五九二			一	二〇、五九二	一・〇〇
	突堤	二	一、〇〇〇、六四一			二	一、〇〇一、八三三	一・〇〇
	燈臺	一基	一四、一三九			一基	一四、一三九	一・〇〇
	採石	四四、八九〇 立方米	三六〇、七一八	一、二四七 立方米	一、七七五	四六、一三七 立方米	三六二、四九三	
	材料運搬		一〇七、三五七		七二八		一〇八、〇八五	
	自在堰及洗堰運轉		一八、三三七		四〇〇		一八、七三七	
用地費		四、九三三 段	九三〇、三〇五		三九	四、九三三 段	九三〇、三四四	

附帶工事費	一一箇所	□ 七七一、九六三（四一、六〇二）	一箇所	□ 二〇、七七五（―）	一二箇所	□ 七九二、七三八（四一、六〇二）	一・〇〇
船舶及機械費	―	六、三〇二、七一四	―	五、八五〇	―	六、三〇八、五六四	―
測量費	―	二七、八六二	―	四五一	―	二八、三一三	―
營繕費	―	二七一、七六九	―	九一七	―	二七二、六八六	―
雜費	―	一、八二九、三九九	―	一三、四八四	―	一、八四二、八八三	―
共濟組合給與金	―	一九、四三九	―	三九七	―	一九、八三六	―
臨時手當	―	四五、三五八	―	―	―	四五、三五八	―
退職手當	―	五、〇三四	―	―	―	五、〇三四	―
總計	―	□ 二三、四五〇、二四八（四一、六〇二）	―	□ 八七、九六八（―）	―	□ 二三、五三八、二一六（四一、六〇二）	一・〇〇

第三　吉野川改修工事

緒言

本改修工事ハ明治四十年度ヨリ大正十年度ニ至ル十五箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百萬圓(內德島縣負擔二百七萬五千圓)ヲ以テ左岸德島縣阿波郡林村字西林、右岸同縣麻植郡川田村以下海ニ至ル約四十粁間ニ工事ヲ施行スルコトトナリ大正十年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ大正八年度ニ於テ時局ノ影響ト第十堰以上ノ無堤部ニ堤防ヲ新設スル等ノ爲メ工費百三十九萬圓ヲ增額シ四箇年度ヲ延長セラレシガ十一年度ニ於テ更ニ八十萬圓ヲ、十二年度ニ於テ百八十二萬六千二百八十五圓ヲ增額セラレ結局工費總額一千二百一萬六千二百八十五圓ヲ以テ著々進捗中ノ處恰カモ十二年九月關東大震災ノ不幸アルヤ經費緊縮ノ餘波ヲ受ケテ更ニ一箇年度ノ繰延ヲ爲シ十五年度ニ於テ竣功ノ豫定ナリシモ護岸補修及新堤手入等殘工事完成ノ爲メ猶ホ引續キ工事中ノ處愈々本年度ヲ以テ完成ヲ告ゲタリ

河狀竝計畫大要

本川ハ德島、高知及愛媛ノ三縣ニ亙ル一大河川ニシテ流域面積三千六百五十平方粁ヲ有シ流路延長一千四百粁(內幹川二百四十粁)、航路延長二百四十粁(內幹川百十粁)、灌漑面積一萬三千九百四十ヘクタール、水害區域二萬三千ヘクタール(內幹川九千九百六十ヘクタール)ナリトス

河口ヨリ大凡四十粁ノ地點ナル德島縣阿波郡林村字西林ハ本川ノ山間部ニ移ル處ニシテ同所以上ハ平

地無キニアラザルモ小區域ニ屬シ水災ノ及ブ範圍亦大ナラザレドモ西林以下ハ海口ニ至ル迄平地次第ニ擴張展開シ本川ハ其中間ヲ貫流シ沿岸ハ霞堤若クハ無堤ノ狀況ナルヲ以テ一朝高水ニ際會センカ上記ノ平野一面ニ洪水汎濫シ非常ノ損害ヲ被レルヲ例トス

加之本川ノ流量ハ非常ノ巨量ニ上リ水勢モ亦急ナルヲ以テ損害ノ及ブ處一層甚シキモノアリ就中麻植郡川島町大字川島附近ニ在リテハ對岸ニ善入寺島アリ之ヲ擁シテ本川兩分シ而カモ同島ノ面積ハ四平方粁九ニシテ頭部ニハ水勢ヲ殺グノ堤防アレドモ下方ニハ堤防ノ設ケ無キヲ以テ高水ノ際ハ同島ヲ中心トシテ兩川合同シ茲ニ一大游水部ヲ形成スルガ故ニ同所ノ被害ハ特ニ著シキモノアリ又下流名西郡藍畑村大字第十以下ハ廣大ナル平野ヲ控ヘナガラ河川ハ殆ンド自然ノ狀態ニ放置セラレ適々堤防無キニ非ザルモ水勢衝突部ニ限ルヲ以テ洪水ハ各所ヨリ侵入シ平野ノ全部ハ浸水ヲ見ルノ狀態ニシテ最近十箇年間ノ水害損失平均年額九十四萬四千四百十九圓、內大正元年二百六十八萬九千百五十三圓、同四年百七萬七千四百一圓ナリ

本計畫ハ高水防禦ヲ目的トシテ改修ヲ行フモノニシテ先ヅ河狀最モ不良且ツ水災ノ及ブ範圍ノ廣大ナル第十以下ニ一大改良ヲ加ヘントスルモノナリ、卽チ別宮川ヲ以テ放水路ト爲スノ案ヲ立テ第十ニ於テ本流ヲ遮斷シ同所以下海口ニ至ル迄十四粁ニ亙リ別宮川筋ニ對シ新ニ法線ヲ定メ屈曲ヲ匡正シ河幅ヲ規定ス河幅ハ起點ニ於テ之ヲ七百二十米トシ海口ニ至リテ一千二百七十米ニ擴張スレドモ尙此河幅ニテ規定ノ流量ヲ流下スルニ不足ノ斷面ハ河身ニ浚渫及掘鑿ヲ加ヘ以テ最大流量每秒一萬四千立方米ヲ快疏スルノ河積ヲ具備セシムルモノナリ而シテ別宮川ニ改良ヲ加ヘテ放水路ト爲セシ所以ハ同川ハ第十以下稍直線ニ海ニ通シ勾配急ナルヲ以テ現狀ニアリテモ廣濶ナル河幅ヲ有シ河床低ク河積大ナルニ

反シ本流ハ迂曲ヲ極メ勾配緩ナルヲ以テ漸次埋沒ヲ來シ河狀不良ナルヲ以テ事實上ノ本流タル別宮川ニ依リテ高水ヲ疏通セシムルヲ適當ト認メタレバナリ然レドモ同川ハ第十堰ノ低水位ヲ絶ツアリテ航行ハ從來本流ニ依リシヲ以テ改修計畫ニ於テモ此點ニ關シテハ既往ノ慣行ヲ保存セシムルコトトセリ但シ現在ノ分派口ハ河床高ク低水ニ於テ淺游ヲ感ジ且ツ航行ニ不便ナルヲ以テ少シク上流ニ之ヲ附換ヘ取入口ニ水門ヲ設ケ洪水時ニハ之ヲ閉鎖スルモノトス併シ乍ラ全然洪水ヲ遮斷シ低水ノミヲ通ズルトキハ下流ニ於テ鹹水ノ害ヲ釀ス恐レ無キニ非ザルヲ以テ洪水時ニアリテハ時々二百八十立方米以内ノ水量ヲ流下シ其患害ヲ防グコトトセリ

第十ヨリ上流ハ大體ニ於テ現狀ニ委ネ舊堤ニハ一齊ニ嵩置ヲ行フモノトス而シテ其霞堤ノ部分ハ地方ノ狀況ニ鑑ミ適宜締切ル事アルベシ又上流水災ノ中心地タル善入寺島ハ之ヲ買收シテ河川敷ニ編入シ障害物ヲ取拂ヒテ游水池ノ作用ヲ完全ナラシメ沿岸並ニ下流ノ水災ヲ輕減スルノ策ヲ採レリ

第十堰ヨリ上流阿波郡林村大字西林ニ至ル區間ハ當初ノ計畫ニ依レバ左岸柿島村、右岸川島町以下ハ在來ノ堤防ニ對シ擴築ヲ施スコトトナリ居タルモ無堤地ニ對シテハ上流西林ノ市街裏洪水漲溢部ニ築堤スルノ外何等ノ計畫無カリシヲ以テ洪水ニ際シテハ依然汎濫ニ委スルノ外無キ狀態ナルノミナラズ下流改修部トノ權衡上ニ於テモ相當區間ニ堤防ヲ新設スルト同時ニ右支川川田川ノ改修ヲ行フコト最モ緊要ナルヲ認メタルヲ以テ之レガ計畫ヲ立テ追加工事トシテ施行スルコトトセリ本川ノ堤防ハ第十以下ハ馬踏ヲ七米三トシ高水位以上二米七ノ高サヲ保タシメ表裏ノ法ヲ三割トシ川裏法ニハ中腹ニ幅一米八ノ小段ヲ設ケ第十ヨリ上流ハ馬踏ヲ五米五トシ高水位以上一米八ノ高サヲ保タシメ兩法ヲ二割トシ川裏法ニハ幅一米八ノ小段ヲ設ク

徳島市ヨリ新町川ヲ經テ新川タル別宮川ニ出テ更ニ榎瀬江古川ヲ經テ板野郡撫養町ニ通ズル航路ハ現狀ヲ維持シ尚洪水ノ際別宮川ヨリ上記兩川ニ對スル浸水ヲ防グ爲メ新堤ノ兩川ヲ横斷スル所ニ水門ヲ設置ス

施工狀況

本工事ハ明治四十年度ノ著工ニシテ測量土地收用其他ノ調査ヲ行ヒ土工機械ノ整備ヲ計ル等專ラ諸般ノ準備施設ヲ進メ四十四年九月愈々工事著手ノ緒ニ就キ翌大正元年別宮川筋下流部ノ浚渫、掘鑿、築堤等ノ主要工事ノ施行ヲ見ルニ至レリ

本改修ノ眼目トスル所ハ第十ニ於テ吉野川ヲ締切リ別宮川ヲ放水路トシテ其改良ヲ行フニアルヲ以テ第一著ニ別宮川筋ノ工事完成ヲ計リ漸ヲ追フテ上流ニ進行スルノ方針ヲ採リシモノニシテ爾來概シテ順調ナル進捗ヲ續ケ大正四年末引續キ上流善入寺島ノ掘鑿ヲ始メ大正六年以降ハ第十ヨリ川島ニ至ル兩岸築堤工事及第十運河ノ掘鑿工事ニ著手ス大正九年度中別宮川ノ低水路浚渫工事終了シ翌十年度ニ至リ工事區域ヲ更ニ川島上流ニ押進メ十二年度ニハ改修起點ニ位スル川田村及林村ノ築堤ニ著手シ中間各所ニ於ケル護岸工事ト共ニ著々進捗シ今ヤ全區域ニ亙リ計畫ノ通リ全部竣功ヲ見ルニ至レリ

本改修工事ニ使傭セル人夫ハ概ネ地方ノ農民ニシテ毎年五月頃ヨリ十月頃ニ至ル農繁季ニハ出役極メテ寡少ナレドモ十一月以降四月ニ至ル間ハ著シク增加シ從ツテ人力ニ依ル工事ハ勿論機械使用工事ニアリテモ能率ノ最高ヲ示スハ冬季トス大正六年度以降歐洲戰役ノ影響ヲ受ケ地方民ノ出稼ト地方産業ノ勃興トニ伴ヒ優良人夫ヲ失ヒ勞力ノ拂底ヲ告ゲ諸物價ノ騰貴ト相俟ツテ事業ノ困難ヲ來セリ大正八

年ハ其極ニ達セルモ翌九年經濟界ノ變動ニ依リ勞力ノ供給漸次舊ニ復シ勞銀モ徐々ニ低下セリ

著工以來竣功總高ハ浚渫百七十九萬四千餘立方米此工費二十三萬五千餘圓、掘鑿九百五十九萬二千餘立方米此工費九十二萬三千餘圓、築堤一千六十六萬七千餘立方米此工費百七十一萬四千餘圓、護岸水制延長五萬一千三百餘米此工費百十一萬二千餘圓ニシテ其内本年度竣功高ハ築堤一萬七千八百餘立方米工費二萬一千六百餘圓ニシテ護岸水制延長八千百三十一米工費十二萬餘圓ナリ以下各種工事ニ就キ略述スレバ次ノ如シ

浚渫

別宮川筋榎瀬川口以下河口ニ至ル延長三千米ノ區間ノ低水路ヲ幅平均四百米、深干潮位以下三米乃至四米ニ浚渫スルモノニシテバケット式浚渫船(能力一時間百二十立方米)二隻及プリストマン一隻ヲ使用シ掘上土砂ハ曳船及六千立方米積土運船數隻ニ依リテ海上沖合ニ運搬投棄セリ大正元年度ヨリ同九年度ニ至ル間之ヲ施工シ浚渫土量百七十九萬四千餘立方米此工費二十三萬五千二百餘圓ヲ要セリ

掘鑿

別宮川筋洪水敷掘鑿ハ主トシテ掘鑿機(能力一時間百二十立方米)二十噸機關車、三立方米土運車等ノ機械力ニ依リ尚一部ハ人力及馬力ヲ使用セリ明治四十五年度川内村小松地内ノ人力掘鑿、德島市下助任地内ノ機械掘鑿工事ニ著手以來極力工事進捗ニ努メ大正九年度ニ至リ佐野塚地内ノ掘鑿工事ノ竣工ヲ以テ別宮川筋ノ掘鑿工事ヲ終了ス

此掘鑿總土量ハ九百十三萬餘立方米ニシテ工費八十六萬五千百餘圓ヲ要シタリ内機械掘鑿ハ土量六百五十六萬八千八百餘立方米、工費五十八萬九千八百餘圓ニシテ人力掘鑿ハ土量二百五十六萬一千四百餘

立方米、工費二十七萬五千二百餘圓ニシテ掘鑿土砂ハ成ルベク築堤用土ニ充當シ其殘餘ヲ低地埋立ニ利用セリ

板野郡一條地内舊右岸堤取除ハ大正九年度ニ著手シ同十年度竣功ス土量九萬三千二百餘立方米、工費二萬七千八百餘圓ニシテ人力ニ依リ掘鑿シ土砂ハ築堤用土及凹所埋立ニ利用セリ

善入寺掘鑿ハ大正四年十月著手シ全ク人力ニ依リ工事ヲ進メ昭和元年度末ヲ以テ竣功ス其掘鑿土量三十六萬九千餘立方米、工費三萬二百餘圓ヲ要シ掘鑿土砂ハ附近低地ニ運搬捨土セリ

築堤

別宮川筋ニアリテハ新ニ法線ヲ設定セシヲ以テ多クハ新堤防ニ屬シ北井上村、藍園村、川内村、加茂村地内ニ一部舊堤ヲ擴築セルモノアルニ過ギズ總テ掘鑿土ヲ利用セルヲ以テ工事ハ掘鑿工事ニ伴ヒテ進捗シ大正九年度ヲ以テ竣功ス左岸築立土量二百六十一萬九千餘立方米、工費十九萬八千九百餘圓、右岸土量三百十七萬五千餘立方米、工費十二萬九千六百餘圓ヲ要セリ

既成堤防ノ手入補修ハ大正十三年度著手以來續行シ本年度ヲ以テ完成ス此工費一萬二千六百餘圓ニシテ内本年度竣功ハ五千九百六十餘圓ナリ

第十ヨリ上流川島町ニ至ル吉野川筋ハ舊堤增築ヲ主トシ高原、牛ノ島兩村地内ニ一部新堤ヲ見ル川島町ヨリ上流ハ右岸ハ新堤ト舊堤擴築ト稍相半シ左岸ハ無堤部ニ於ケル新堤ナリトス

第十ヨリ上流ハ特ニ河道ヲ掘鑿スルノ必要ナキモ築堤用土ハ悉ク河敷内ノ寄洲ヨリ採取スルコトトシ別宮川筋ノ各種工事竣工ニ連レテ使用セシ機械ヲ順次上流ニ移送シ主トシテ機械力ヲ利用セリ然レド

モ柿島村ヨリ上流左岸一帶ノ土地ニアリテハ大型機械ノ操作不便ナルヲ認メ總テ輕便土運車ヲ用ヒ馬力及人力ニ依リ施工シ右岸第十ヨリ川島ニ至ル區間ハ大正十二年度ノ竣功ニシテ他ハ總テ十五年度ヲ以テ完成セリ

築立土量ハ右岸第十ヨリ川島二百十五萬餘立方米、川島川田間九十萬五千餘立方米、工費前者ハ五十六萬五百餘圓、後者ハ二十五萬六千百餘圓ナリ左岸第十八幡間百四十四萬二千餘立方米、同市場林村間十六萬六千餘立方米ニシテ此工費ハ四十萬五千六百餘圓及七萬六千三百餘圓ヲ要セリ

大正十一年度ヨリ既設堤防ノ手入補修ヲ續行シ本年度ヲ以テ完成ス此工費一萬三千二百餘圓ナリ

本年度ニ於テハ學島村地先及東覺圓地先ノ堤防ハ堤天ノ沈下甚シキト透水アルトニ依リ嵩置腹付ヲ施行セリ之レニ依リテ全築堤工事ノ完成ヲ見ルニ至レリ

支川川田川築堤ハ大正十二年度著工シ洪水敷寄洲ノ土砂ヲ機械及人力ニ依リテ運搬シ十四年度末ヲ以テ竣功ス土量十八萬一千餘立方米、工費四萬九千八百餘圓ヲ要セリ

護岸

本川ハ急流河川ニ屬シ河床安定ヲ缺クヲ以テ護岸ノ施設ヲ要スルモノ甚ダ多ク築堤工事ノ進捗ニ伴ヒ漸次之ガ普及ヲ企テタリ而シテ在來護岸ノ利用シ得ベキモノハ其補修ヲ行ヒシモ大部ハ新設ヲ要シ殆ンド改修ノ全區域ニ及ベリ工法ハ堤腹ニアリテハ石張工ヲ用ヒ根固及洪水敷沿ニハ狀況ニ應ジテ種々ノ工種ヲ混用セリ

別宮川筋ハ大正六年度末ヨリ著手シ河床ノ深掘甚シク急傾斜ヲ爲シテ岸ニ迫リ次第ニ侵蝕ヲ進ムル箇

所ノ水面以下ニハ概ネ柴工沈床ヲ以テ廣ク河床ヲ被覆シ上部法面ニ石張ヲ施シ大正十五年度ニ略終了シ本年度ニ至リ鶴島、上助任、中原護岸完了ト共ニ竣功ヲ見ルニ至レリ

本年度竣功延長ハ二千三百十米、工費四萬二千百餘圓ニシテ著手以來ノ竣功總延長ハ一萬七千九百五十九米、工費五十九萬四千餘圓ヲ要セリ其内左岸沿護岸ハ九千七百九十四米工費二十九萬六千九百餘圓、右岸沿護岸ハ八千百六十五米工費二十九萬七千五百餘圓ナリ

第十ヨリ上流吉野川筋ニハ舊來慣行ノ捨石、大掛、石張ノ三者ヲ踏襲セルモノ尠ナカラズ十三年度以後ニ於テハ鐵線蛇籠ヲ伏設シテ根固又ハ法留ト爲シ一部ニ合掌枠若クハ三角枠類ノ水制ヲ設ケ尙柳枝法留ヲ施行セリ

本年度ニ於テハ洪水ノ衝ニ當ル東林及西林ニ堤腹法石張ヲ施行シ西覺圓、瀨部、西條、八幡、學島其他四箇所ノ舊護岸補修ヲ終了セリ

本年度竣功延長ハ五千八百二十一米、工費七萬七千八百餘圓ニシテ著手以來竣功總延長ハ三萬三千三百四十二米、工費五十一萬七千餘圓ヲ要セリ内左岸沿護岸延長一萬四千六百五十六米工費二十六萬七千六百餘圓、右岸沿護岸延長一萬八千六百八十五米工費二十五萬百餘圓ナリ

特種工事

別宮川下流ニハ新町川、沖ノ洲川、榎瀨川、宮島川等ヲ分派シ舟筏ノ航路タルヲ以テ平時水路ノ連絡ヲ全フスル爲メ新堤ト之等派川トノ交叉點ニ樋門ヲ新設セリ内新町川ト榎瀨川トハ最モ重要ナルニ依リ幅五米五ノ二連トシ他ノ二者ハ同幅一連トセリ構造ハ杭打基礎混凝土樋體外面露出ノ部分ニ煉瓦又ハ混凝土方塊ヲ用ヒ戸當其他要所ニ花崗石ヲ配セリ尙洪水ノ侵入ヲ防グ爲メ各連四枚ヨリ成ル鐵製揚卸扉ヲ

備ヘ常時樋門ノ上ニ搦座シ必要ノ場合人力捲揚機ニ依リ所定ノ位置ニ卸下スル裝置トセリ新町川樋門ハ大正五年十一月工費六萬八千三百餘圓ニテ竣功シ大正七年度ニ宮島川樋門、翌八年度ニ沖ノ洲川樋門、同十一年七月ニハ榎瀨川樋門工費十四萬百餘圓ニテ竣功セリ

右岸新居村高崎地内ニテ排出スル支川飯尾川ニ對シテハ幅一米八ノ樋門六連ヲ設ケ之レニ鐵筋混凝土製逆水止門扉ヲ備ヘ尙內地湛水ノ減退ヲ速ニスル爲メ鮎喰川ニ向テ一小放水路ヲ開鑿セリ樋門ハ大正七年度末工費五萬五百餘圓ニテ放水路ハ大正十年十月工費七千五百餘圓ニテ竣功セリ

第十樋門ハ吉野川締切ノ結果吉野川ヘノ通水ヲ調節スル爲メ必要トナリシモノニシテ徑間五米五ノ樋門六連ヲ竝置シ各々鐵製門扉ヲ附シ上部ニ備ヘタル人力捲揚機ニ依リ必要ニ應ジ之レヲ上下シ通水ヲ制御ス構造ハ基礎根八十米餘ノ混凝土沈井三十九個ヲ沈置シ其上ニ高十二米四十糎ノ混凝土樋體ヲ築キ之ニ鐵筋混凝土ノ橋梁ヲ架セリ大正八年二月起工十二年六月工費四十一萬九千七百餘圓ニテ竣功ス

本樋門ノ位置ハ吉野川締切口ヨリ稍々上流ニ選定セラレタルヲ以テ水路連絡ノ爲メ第十運河ヲ開鑿セリ運河ノ河幅ハ低水敷幅四十四米トシ延長一千七百五十米ニ達シ毎秒二百八十立方米ノ洪水ヲ通ジ得ベキ樣兩岸ニ築堤セリ工事ハ主トシテ掘鑿機及ブリストマン浚渫船ヲ使用シ大正六年度末著手シ大正十五年度ヲ以テ竣功ス

土工用大型機械ノ使用ハ大正十三年度ヲ以テ終了シ以來土砂掘上運搬ハ人力及馬力ニ據リ隨テ機械ノ修繕モ著シク減少シ僅ニ輕便土工機械ノ手入ニ止マルヲ以テ十四年度末ニ德島機械工場ヲ閉鎖シタリ

起工以來前年度迄ノ竣功高及本年度竣功高ハ左表ノ如クナルガ總工費豫算一千二百一萬六千二百八十五圓ニ對シ其竣功總額一千百七十九萬一千三百八十五圓ニシテ二十二萬四千九百圓ノ殘餘ヲ生ジタリ

但シ表中「※」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔品價額「○」ハ無代價品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	竣功歩合
本工費 築堤	※ 四、三九六、三五二、七九八立方米	○	※ 一七、八五〇立方米	○	※ 四、三一四、二四六、三五二、七五八九立方米	○ 一、七一四、〇五八、〇三九円	一・〇〇
掘鑿	九、五九二、七六二	九二三、二七四			九、五九二、七六二	九二三、二七四	一・〇〇
浚渫	一、七九四、七八〇	二三五、二一四 二二三		○	一、七九四、七八〇	二三五、二一四 二二三	一・〇〇
護岸水制	四三、一七一米	九九二、三一七 三、四九八	八、一三一米	○	五一、三〇二米	一二〇、〇五三 二〇	一・〇〇
特種工事	一箇所九	一、一一五、六六九 三、七二八		○	一箇所九	一、三七五	一・〇〇
用地費	一一、四二七段	三、二九〇、五八八	八段		一一、四三五段	三、四〇二	
附帶工事費	一箇所二ヶ 竣功	○□ 二〇八、三二二 五〇、一〇四 一、七一〇		○□	一箇所二六 竣功	○□ 二〇八、三二二 五〇、一〇四 一、七一〇	
船舶及機械費		二、二二六、九三八				二、二二九、二八〇	
測量費		四六、五四六				五一、七〇九	
營繕費		一一一、七六四		○		一一一、一六四 五四	
雜費		七五、二、八七三 一九		○		七八〇、三二九 一九	
亡失毀損		一、一九七				一、一九七	
共濟組合給與金		一二、三八九				一三、三八二	
總計		○□ 一一、六九〇、四六一 一七、〇一〇、二〇四 五		○□ 一八、一九二四 一六六		○□ 一一、七九五、一三八五 一七、〇一〇、三九一四	一・〇〇

第四　高梁川改修工事

緒言

本工事ハ明治四十年度ノ創業ニ屬シ大正六年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシテ左岸岡山縣吉備郡總社町字湛井、右岸同縣同郡秦村以下海口ニ至ル間ヲ改修スルモノニシテ總工費豫算四百七十八萬三千三百七十圓(內岡山縣負擔百三十七萬一千圓)ヲ以テ工事ニ著手シタリシガ大正五年八月一川主義ヲ採リ一部改修計畫ヲ變更シタル結果吉備郡川邊村地內小田川落口ニ導流堤ヲ築造シ都窪郡中洲村地內ニ山腹ノ切取ヲ必要トスルニ至リタルノ外大正五年十一月高梁川東西用水組合工事ヲ附帶工事トシテ認可セラルルヤ其一部ハ本省直轄施工トナリシト其外築堤護岸ノ追加施設ヲ必要トスルニ至リタル等ノ爲メ當初豫定ノ工費年限ニテ竣功困難トナリシニ加ヘ偶々大正六年以來歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ物價勞銀漸次昇騰セシヲ以テ大正八年四月豫算六十五萬圓ヲ增額セラレタルガ其後物價騰貴ノ爲メ尙多額ノ不足ヲ告グル見込ヲ以テ大正十年四月豫算增額施工年度ヲ延長シ現在總豫算七百九十二萬六千八十七圓(內岡山縣負擔二百十五萬七千圓)トナリ大正十三年度竣功ノ豫定ナリシモ更ニ大正十二年九月ノ關東大震火災ノ結果一箇年度ヲ繰延ベ大正十四年度末竣功ノ豫定ナリシモ尙少許ノ增工事及附帶工事ヲ施行スルコトトナリ更ニ二箇年度ノ繰延ベヲ行ヒ施工中ノ處愈々本年度ヲ以テ完成ヲ告ゲタリ

河狀竝計畫大要

本川ハ廣島及岡山ノ兩縣ニ亙リ流域面積二千四百八十平方粁ヲ有シ流路延長一千百八十粁(內幹川百十粁)、航路延長百六十粁(內幹川八十粁)、灌漑面積一萬六千三百ヘクタール、水害區域二萬二百二十ヘクタールナリ而シテ本川ノ水源地方ハ酸化花崗岩質ノ禿山多キヲ以テ豪雨ノ際ハ土砂一時ニ流下シ流量モ亦甚大ニシテ流路爲メニ埋塞シ諸所破堤ヲ見沿岸ニ浸水スルコト頗ル多シ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ堤防護岸ノ破損縣費復築費ノミニテモ七十萬圓ニ上リ作物其他ノ諸損耗四百七十萬圓ニ達シ其後同三十二年ニ於テモ亦總額百八十五萬餘圓ノ水害ヲ見タルコトアリ

本改修計畫ハ左記最大流量ヲ快疏スルニ足ルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルモノナリ

本流分派點以上	六、四〇〇 毎秒立方米
小田川	一、三九〇〃
分派後ノ本流	六、九六〇〃

本川ハ河口ヨリ約十二粁ノ地點吉備郡川邊村字南山ニ於テ小田川ヲ合流シ又直ニ山ヲ擁シテ二派ニ分流ス分流後ハ平地最モ多ク其水害ノ及ブ所モ亦甚大ナルヲ以テ此部分ノ改修ハ最モ重要ノモノナリトス而シテ分派後ノ河川ニ對シテハ一川主義ヲ採リ西派ハ分流口ニ於テ之レヲ遮斷シ古地以下酒津迄東派ニ依リ酒津以下ハ西派ニ導クコトトセリ堤防ハ努メテ舊堤ヲ利用シ必要ニ應ジテ河幅ヲ擴張シ以テ上記ノ最大流量ヲ快疏スルニ足ラシム幅員ハ上流部約五百四十五米河口一千二百七十米トス

支川小田川ニ對シテハ導流堤ヲ築造シ幹川トノ合流點ヲ引下ゲ平水位ノ低下ヲ計ルモノトス

小田川合流口ヨリ上流ハ在來ノ儘ニテ相當河積ヲ有スルヲ以テ之ニ依リテ改修ヲ加フルコトトシ舊堤ヲ擴築シ又迂曲甚シキ部分ハ之ヲ矯正シ約五百四十米以上ノ河幅ヲ保タシムルモノトス

堤防ハ馬踏七米二東派締切堤ハ九米一川裏法二割五分川表二割ニシテ川表ニアリテハ中腹以下張石護岸ヲ施工ス

施工狀況

本工事ハ明治四十年度創業以來本年度迄二十一箇年度ノ星霜ヲ經タリ此間施工ノ狀況ニ依リ自ラ之レヲ四期ニ區分スルコトヲ得ベシ

第一期　自明治四十年度至明治四十三年度　實施上ノ調査期
第二期　自明治四十四年度至大正八年度　築堤工事期
第三期　自大正九年度至大正十二年度　直營附帶工事施工期
第四期　自大正十三年度至昭和二年度　改修完了期

第一期ハ實施設計資料トシテ專ラ測量調査ニ從事セシニ過ギザルモ第二期ニ至リ本川改修ノ主要工事タル堤防築造ニ著手シ之レガ使用土砂ハ主トシテ河敷内ニ堆積セル土砂ヲ用ヒ概シテ下流ヨリ工ヲ起シ順次上流ニ及ボスコトトセリ堤腹石張竝ニ堤脚護岸ニ用ヒタル石材ハ一小部分ヲ購入セシニ止マリ其大部分ハ中洲村地内新川敷トナルベキ山嶽掘鑿ヨリ生産セルモノ又ハ工事場附近ヨリ直營採石ニ依リテ得タルモノナレバ極メテ安價ニ豐富ニ花崗石ヲ使用シ得タルハ他ニ其類例ヲ見ザル所ナリトス

本期間末ヲ以テ堤防工事ハ凡ソ九歩通リノ成工ヲ告ゲタリ而シテ本川改修ノ主眼タルベキ東派締切工事ハ大正五年十一月附帶工事トシテ認可セラレタル高梁川東西用水組合工事ノ内本省ニ於テ直營施工スルコトトナリタル數多ノ特種工事ト密接ナル關係ヲ有シ且ツ至難ナル大工事タルノミナラズ其施工

箇所ハ僅々四粁ノ範圍内ニ數多ノ建設工事點在シ彼是相關連シテ之レガ施工ニハ定マレル順序アルベキヲ以テ後日ニ讓ルコトトセリ

本改修工事ニ於テ使用スル勞働者ハ主トシテ土著ノ農民ナルヲ以テ從テ勞力ノ供給ハ一年ヲ通ジテ一定セズ農ノ繁閑ニ伴ハレテ消長アリト雖モ起工以來概ネ出役人夫ニ不足ヲ訴フルコトナカリシガ歐洲大戰以來勞銀漸騰シテ人夫減少著シキヲ以テ大正六年以來數回ニ亙リテ之レヲ增額セシモ元來賃格ヲ以テ直ニ民間營利事業ト人夫職工ノ爭奪ヲ爲スハ到底堪ヘ得ザル所ナレバ常ニ彼ニ比シ多少低位ニアリシ爲メ十分ナル人夫數ヲ得ルコト能ハズ殊ニ大正八年度ニ於テハ勞銀ノ昂騰愈々甚シク已ムヲ得ズ臨機增額又ハ勤務奬勵法ヲ設ケテ出役ヲ促シタリシモ尙常ニ不足勝ナリシヲ以テ十分ナル工程ノ進捗ヲ見ル能ハザリキ

第三期ニ於テハ酒津以下新川敷内ニ於ケル舊堤取拂山地掘鑿等通水ノ準備ヲ爲スト共ニ專ラ直營附帶工事ノ進捗ニ努力セリ偶々九年度初期ヨリ世上ノ景氣ハ急轉シ民業頓ニ衰ヘ特ニ地方的副業タル花莚賃業甚ダシク不振ノ狀態トナリ出役人夫漸次增加スルニ至リタルヲ以テ一氣呵成ノ方針ヲ採リ鋭意事業ノ速成ヲ期シ本期間ノ終リニ於テハ直營附帶工事ハ勿論東派締切堤竝ニ新川敷内掘鑿工事等著シク進捗シ將ニ完成ノ域ニ達セントスルニ至レリ

第四期ニ於テハ小田川尻並ニ乙島導流堤、東高梁川締切堤、山腹切取、堤外地掘鑿、各所護岸水制工及附帶工事タル高梁川東西用水組合委託工事ヲ竣功セリ

本期間中本年度ニ於テ施工セルハ附帶工事中管理者施工ニ係ル乙島用水路附換工事ニシテ昭和二年六月ニ著手シ翌三年一月ヲ以テ竣功ヲ告ゲタリ

以上記述セル如ク本年度ヲ以テ本改修工事全部ノ完成ヲ見タリ今其竣功工事中主ナルモノヲ掲グレバ左ノ如シ

築　堤

左岸築立土量三百四萬五千五百四十七立方米此工費八十六萬六千三百七十九圓、右岸土量二百五萬八千二百六十一立方米此工費七十萬六千三百三十三圓、小田川ニ屬スルモノ土量五十萬五千八百十五立方米此工費十一萬九千七百七十九圓ニシテ此外既成手入工費一萬一千二百八十圓ヲ要シタリ此總土量五百六十萬九千六百二十三立方米ニシテ工費合計百七十萬三千七百七十一圓ナリ

掘鑿及浚渫

山地切取土量五十五萬七千九百七十七立方米此工費二十九萬九千一百二十三圓、舊堤取拂土量百二十三萬六千四百四十四立方米此工費二十三萬六千九百三十圓、掘鑿土量五十四萬六千八百四十八立方米此工費十六萬二百五十七圓、川中浚渫土量四萬六千九百八十四立方米此工費六千三百七十七圓ヲ要シタリ此總土量二百三十八萬八千二百五十三立方米ニシテ工費合計七十萬二千六百八十七圓ナリ

護岸及水制

左岸部ノ延長九千九百六十三米此工費十三萬七千九百四圓、右岸部ノ延長五千七百四米此工費八萬九千六百八十二圓ニシテ導流堤ノ石張等延長六千五百五十米此工費七十五萬三百五十九圓ヲ又床固工ノ延長二千百六十三米此工費二萬七千八百四十三圓ヲ要シタリ此總延長ハ二萬四千三百八十米ニシテ工費合計百萬五千七百八十九圓ナリ

起工以來前年度迄ノ竣功高及本年度竣功高ハ左表ノ如クナルガ總工費豫算七百九十二萬六千八十七圓

ニ對シ竣功總額七百八十二萬六千二百六圓ニシテ九萬九千八百八十一圓ノ殘餘ヲ生ジタリ但シ表中「※」ハ利用土量「○」ハ無代價品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	竣功歩合
本工事費							
築堤	※	○	※	○	※	○	
掘鑿	五、六〇一、四〇七 立方米	一、七〇三、七七一 円			五、六〇一、四〇七 立方米	一、七〇三、七七一 円	〇・〇〇 別分
浚渫	二、三四一、二六九	六九六、三一〇			二、三四一、二六九	六九六、三一〇	一・〇〇
護岸水制	四六、九八四	六、三七七			四六、九八四	六、三七七	一・〇〇
地費	二四、三八〇米	一、〇〇五、七八九			二四、三八〇米	一、〇〇五、七八九	一・〇〇
附帶工事費	四、六一八段	一、五一二、二八一			四、六一八段	一、五一二、二八一	
船舶及機械費	滿所四二	○	滿所一	○	滿所四三	○	竣功
測量費		一、八四〇、〇六二 四六一		一〇〇〇		一、八五〇、〇六二 四六一	一・〇〇
營繕費		六五九、一一七				六五九、一一七	
雜費		二四、九二〇				二四、九二〇	
亡失毀損		二七、二三〇				二七、二三〇	
共濟組合給與金		三三三、八三二		五〇九		三三四、三四一	
		一、八五九				一、八五九	
		四、一四九				四、一四九	
總計		○ 七、八一五、六九七 九一一		○ 一〇、五〇九		○ 七、八二六、二〇六 九一一	一・〇〇

第五　北上川改修工事

緒言

本川筋ニ於テ曩ニ航路改良ノ目的ノ下ニ岩手縣盛岡市ヨリ宮城縣牡鹿郡石巻港ニ至ル百九十六粁間ヲ工費百二十三萬五千六百五十六圓五十三錢九厘ヲ以テ明治十三年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十三箇年度間ニ亙リテ低水工事ヲ施行シ一旦結了ヲ告ゲタリ而シテ洪水防禦工事トシテ同四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十二箇年度繼續工費八百萬圓ヲ以テ左岸宮城縣登米郡錦織村、右岸同縣同郡上沼村以下海ニ至ル間ヲ更ニ改修スルコトトシ施行中偶々歐洲大戰亂以後物價騰貴ニ由リ工費二百六十二萬二千圓ヲ增シ合計一千六十二萬二千圓ト爲シ竣功年度ヲ二箇年度繰延ベ大正十三年度竣功ノ筈ナリシモ大正八年度末期ヨリ更ニ急激ニ勞銀物價ノ昇騰ヲ來シ大戰亂ノ終息後モ著シキ下落ヲ呈セザルニ一方大正九年度ニハ北上川筋二回ノ大洪水アリ其後全川結氷莫大ナル氷雪ノ流下、稀有ノ大雪、霖雨等年毎ニ特異ノ天禍ニ襲ハレシ爲メ春秋兩季農繁期以外ノ期間ニ連月工事休止ノ厄ニ罹リ工程ハ豫想ノ半バニモ過ギザルノ悲境ニ陷レリ大正十二年度ノミハ上半期ノ稀有ノ霖雨、帝都震災ノ一時的工事材料ノ缺乏ニ惱ミタル外ハ下半期ニ於テ天候順調ニ經過シタリシモ過去四箇年度間ノ連續的工事ノ澁滯ハ到底大正十三年度卽チ最終年度ノ一箇年度ヲ以テ挽回スベクモアラザレバ工費ヲ更ニ二百七十萬圓增額シテ總工費豫算額ヲ一千三百三十二萬二千圓ト爲シ其竣功年度ヲ六箇年度延長シテ昭和五年度迄トセリ

河狀竝計畫大要

本川ノ流域ハ宮城、岩手ノ兩縣ニ亙リ其面積一萬七百十九平方粁ヲ有スル大河川ニシテ流路延長三千七百七十九粁(內幹川二百四十五粁)灌漑面積五萬六千三百ヘクタール、水害區域五萬二千ヘクタール(內幹川二萬二千ヘクタール)、航路延長六百三粁(內幹川二百三十三粁)ナリトス而シテ本川ノ航路ハ北上運河、東名運河、貞山運河等ニ依リ阿武隈川ニ連絡ヲ有スルヲ以テ航行ノ便古來ヨリ盛ニシテ東北地方ノ一大運輸機關タリ現今鐵道ノ便開ケ稍々不況ヲ呈セシガ如キモ水運ヲ利トスル貨物モ亦少ナカラズ河道ハ幹川狐禪寺、米谷、和淵等ノ如キ狹隘部アリ狐禪寺ノ狹隘部ハ山間部ニ屬スルヲ以テ破堤無シト雖モ上流部ニ一大湖水ヲ現出シテ沿岸ノ水災ヲ釀シ米谷及和淵ノ狹隘部ハ上流ノ水位ヲ高メ破堤ノ因ヲ爲ス而シテ米谷右岸ニシテ破堤センカ南方廣大ナル平野ニ瀰漫シ直チニ支川迫川ノ堤防ヲ突キ沿岸ニ浸水スルノミナラズ逆流シテ其慘害ヲ逞フス又和淵右岸堤ノ破堤ヲ見ンカ是亦遠ク南方ニ波及シ且石卷町ヲ襲フニ至ル明治八年以降被害數萬町歩以上ニ達シタルモノ數フルニ遑アラズ尙ホ本川沿岸ハ高水直接ノ結果タル惡水ノ災害モ亦甚ダ多ク其區域登米、本吉、桃生、牡鹿、遠田、栗原ノ六郡ニ達シ就中迫川及江合川沿岸ヲ主ナル被害トス今最近十箇年(明治四十三年乃至大正八年)ノ水害高ヲ見ルニ一箇年平均二百二十九萬六千百七圓ノ多額ニ上リ例ヘバ大正二年ノ如キハ損害額八百八十一萬一千三百四十九圓ニ上レリ以テ本川沿岸ノ水害甚ダシキヲトスルニ足ラン

本川改修ノ目的ハ高水防禦ヲ主トシ傍ラ航路ヲ修正シ併セテ惡水排除ノ便ヲ圖ラントスルニアリ而シテ改修計畫ニ採用シタル最大流量ハ北上川本流每秒五千五百七十立方米、迫川同一千二百八十立方米ナ

リトス

計畫ノ主眼トスル所ハ本吉郡柳津町ニ於テ本川ヲ締切リ同所以下之ヲ合戰ケ谷ニ附替ヘ飯野川町地先ニ於テ追波川ニ合セシメ以下追波川ニ改修ヲ加ヘ以テ之ヲ本流タラシメントスルニアリ斯クスルトキハ柳津町以下舊川沿岸ニ於ケル廣大ナル平野ノ浸水ヲ根絶シ又舊川ニ合流スル迫川ノ高水流下ヲ急速ナラシメ同川沿岸ノ水災ヲ輕減スルト同時ニ惡水排除ヲ良好ナラシムルノミナラズ航路ノ改良ヲ見ル等各種ノ利益アリ

柳津町以下新川ニハ最大流量五千五百七十立方米ノ内四千七百三十立方米ヲ通ズルノ河積ヲ保タシムルモノトシ新川河幅ハ柳津町ニ於テ四百四十五米トシ合戰ケ谷ニ於テ二百九十一米乃至四百四十五米トス合戰ケ谷新川部ノ兩岸山麓ニ接スル所ハ築堤ヲ要セザレドモ平地部ニハ築堤ヲ爲シ中央ニ百九米乃至百四十五米ノ開鑿ヲ施シテ流積ヲ與フ飯野川町地先ニ於テハ新川殆ンド直角ニ方向ヲ轉ジ追波川ヲ利用シテ東方ニ向フ同所以下ノ河幅ハ四百五十五米乃至七百二十七米ニシテ築堤ヲ施シ浚渫ヲ行ヒ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ追波川右岸二俣村地先ニハ延長五千四百五十四米ノ運河ヲ設ケ其下流端ニ舊川ト航路ノ連絡ヲ保ツ爲メ閘門ヲ設置ス

柳津町舊川分派口ニハ閘門ヲ設ケ以テ既往航行ノ便ヲ失ハザラシメ又洗堰ヲ設ケテ平水量(百三十立方米)ヲ送リ以テ航路ヲ便ニシ且高水時ニハ本川最大流量五千五百七十立方米ノ内八百四十立方米ヲ分疏ス

柳津以下石卷ニ至ル舊川筋ハ航路ヲ維持スル爲メ浚渫又ハ低水工事ヲ行ヒ流末石卷ニハ突堤ヲ築キ浚渫ヲ施シテ澪筋ヲ設ケ航行ノ便ニ供セントス

柳津町ヨリ上流國境改修起點迄ハ日根牛ノ如キ狹隘部ニ限リ引堤ヲ爲シ河幅ノ擴張ヲ爲ス外河狀ヲ現狀ニ委ネ舊堤ヲ增築スルニ止メタリ

築堤ハ馬踏七米三乃至十四米六ニシテ表裏トモ二割法トシ高水位以上一米二乃至一米五ノ高サヲ有セシメ水勢ノ衝突スル箇所ノ一部ハ三割法ト爲シ且石張護岸ヲ施工ス

施工狀況

本年度初期時ナラヌ豪雨アリ沿岸堤內耕地ノ大部分冠水セリ季節柄農作ニハ被害少カリシモ引續イテ北上川大增水セシ爲メ折柄修繕工事中ノ樋管各所ニアリテ何レモ相當ノ損害アリ改修工事ニハ直接ノ被害無カリシガ沿岸ノ大損害ハ地方民ノ改修工事速成ヲ叫ブ動機トナリ之レガ爲メニ工事ノ進捗ニ頗ル好都合ナルヲ得タリ天候亦其後順調ナリシガ出役人夫最モ豐富ナルベキ冬期ヨリ初春ニ亙リ天候變調トナリ昭和三年一月、二月ニ屢々降雨ヲ見ルノ稀現象ヲ呈シ工程ノ進捗ヲ妨グルコト大ナリシハ遺憾ナリキ

浚渫工ハ前年度ニ引續キ追波川筋舊堤撤去ヲ行ヒ年度內ニ一段落ヲ見ルヲ得タリ又掘鑿工ノ內新川上流部ニ於テハ前年度ノ殘部ヲ完了シ是亦一段落トナレリ

排水路ノ開鑿工ハ皿貝川筋ニ於テハ幾分築堤ノ補修ヲ行ヒシノミニテ略竣功セシモ二俣排水路ニテハ新ニ築堤及護岸ノ修築ヲ開始セリ又上流柳津地內ノ排水路トシテ新小川開鑿ニ著手セリ

築堤工ハ追波川筋右岸二俣地內築堤、大川村橫川地內築堤及同左岸十三濱村築堤ハ年度內ニ殆ンド完成セリ唯右岸大川村福地地內築堤ハ工費ノ都合ニテ次年度ニ繰越スコトト成レリ其他沿岸用惡水路ノ爲

メニ盛土シ得ザル箇所數ハ全區域ヲ通ジテ僅小ナリ

當置工事ハ既ニ全部ノ完成ヲ見大正九年八月ニハ最大洪水ニ近キ增水アリタルモ幾分ノ補修ヲ要セシ外著シキ異狀ナク其後安定狀態ヲ持續セルガ故ニ之ヲ宮城縣ニ引渡ス準備ヲ進メタリ

洗堰閘門工ノ內鴇波洗堰ハ水通部ノ補强ヲ完了シ上面溢流部ノ石張工モ大部分ノ竣成ヲ見タリ又脇谷洗堰閘門工事ハ本年度ニ於テ約六分ノ竣功ヲ見タルニ對シ福地閘門工事ハ上流地方排水ノ關係上施工ヲ急ギタル爲メ本體工ハ年度內ニ略竣成シ四枚ノ鐵扉ヲモ無事持込ヲ了セリ唯袖石垣ノ少部ト扉開閉機ノ取付ハ次年度ニ繰越シタリ

水門工ハ本年度ニハ新ニ著手セルモノ無シ既設水門ハ孰レモ所期ノ目的ヲ達シ堤內惡水面ノ低下著シキ爲メ地方ノ耕地整理事業勃興スルニ至レリ

床固工新川可動堰築設工事ハ本年度モ引續キ工程順序ニ進捗セシモ一方ニ於テ設計變更ノ議起リ銳意之ガ調査ニ從事セリ

北上川河口突堤工ハ前年度同樣少許ノ補修ヲ加ヘタルノミ航路ノ狀態ハ前年度ニ引續キ益々良好ニシテ他縣所屬ノ大型漁船ノ出入頻繁ナルヲ見ルニ至リシモ昭和三年二月以降天候惡變シ波浪高カリシ爲メ落筋ノ水深漸次ニ減少セルガ如シ

附帶工事中追波川筋左岸大川、二俣兩村ノ分ハ全部直轄施工ノ上前年度迄ニ竣成シ本年度ニ於テハ橋浦村ノ分ヲ略竣功シ別ニ新川筋右岸桃生北方普通水理組合管理ニ係ル惡水路ノ改築竝ニ本吉郡柳津町內石生樋管ノ新設ニ著手シ年度內ニ其大部ノ竣功ヲ見タリ

本年度工費ハ其竣功額五十五萬五千四百六十五圓、起工以來ノ累計額ハ一千百八十二萬二千三百八十一

国ニシテ總豫算額一千三百三十二萬二千圓ニ對シ八割九分ノ竣功ニ當ル而シテ前年度迄及本年度ノ竣功高次表ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 掘鑿	三、九七〇、〇六九 立方米	九〇一、八七一 円	四六、四二一 立方米	一七、〇二〇 円	四、〇一六、四九〇 立方米	九一八、八九一 円	〇・七四 割分
淡渫	七、九九一、一七八	一、七五八、六八九	六五、七八九	二五、九二三	八、〇五六、九六七	一、七八四、六一二	〇・九八
築堤	五、九四一、一一三	五三〇、二九四	二〇、七九四	一七、三三〇	五、九六一、九〇七	五四七、六二四	〇・九八
堤防嵩置	九九二、〇五三	三〇五、九四六	—	—	九九二、〇五三	三〇五、九四六	一・〇〇
排水路	一、三三五、一三一	七〇三、五〇七	七三、九〇五	二七、四九二	一、四〇九、〇三六	七三〇、九九九	—
洗堰及閘門	箇所三 未竣功	四三一、四二六	箇所三 未竣功	一四六、六四六	箇所三 未竣功	五七八、〇七二	—
床固	一 〃	一六六、四九六	一 〃	一四六、三二二	一 〃	三一二、八一八	—
水門	一 竣功 未竣功	一三二、三一六	一 竣功	八〇三	二 竣功	一三三、一一九	—
護岸	一 未竣功	四八、三〇六	一 未竣功	四、七一三	一 未竣功	五三、〇一九	—
突堤	一 〃	三一一、七二八	一 〃	一、六六五	一 〃	三一三、三九三	—
附帶工事費 直轄施行用地費	七、五六八 箇所一五 竣功	一、一一三、〇六三	箇所一五 竣功 未竣功	四、五三〇	七、五六八 箇所二〇 竣功 未竣功	一、一一七、五九三	—
附帶工事費 管理者施行	三二 竣功	五〇、九六二		四六、二五一	三二 竣功	九七、二一三	—
船舶及機械費	—	三、三二一、六三三	—	三二、二一七	—	三、三五三、八五〇	—
測量費	—	一、二一一、三一六	—	六七一	—	二一、九八七	—
營繕費	—	一、六八、四〇五	—	九三六	—	一、六九、三四一	—
雜費	—	一、二七六、四二九	—	七七、〇五一	—	一、三五三、四八〇	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
亡失高	—	一、四四六円	—	—	—	一、四四六円	— 割分
共濟組合給與金	—	二三、〇八三	—	五、八九五	—	二八、九七八	—
總計	—	一一、二六六、九一六	—	五五五、四六五	—	一一、八二二、三八一	〇・八九

第六　荒川改修工事

緒言

本工事ハ分チテ上、下流ノ二工事トス卽チ下流工事ハ當初明治四十四年度ヨリ大正九年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費一千二百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ同五年度ニ於テ施行年限ヲ三箇年度延長スルト共ニ總工費ヲ一千五百十萬圓ニ增額シ施行中ノ處同七年度以降時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ同八年度ニ於テ七十四萬四千圓、同九年度以降ニ於テ時局ニ因ルモノノ外一部追加設計ノ必要ニ依ル工費ヲ合シ五百八十八萬五千圓、同十年度ニ於テ百四十萬圓、同十二年度ニ於テ六百一萬五千圓ヲ增額シテ總工費ヲ二千九百十四萬四千圓トシ施行年限ヲ昭和二年度迄延長シ十七箇年度繼續事業トセシガ新荒川下流部小名木川新交叉點ニ於ケル治水上竝航通上ノ變遷ニ伴ヒ新ニ施設ノ要ヲ認メ同二年度ニ於テ工費二百二十萬圓ヲ增額シ總工費ヲ三千百三十四萬四千圓ニ改メ昭和三年度ヲ以テ竣功期限トセリ其施行區域ハ左岸埼玉縣川口町、右岸東京府岩淵町以下海ニ至ル延長二十三粁六ナリトス

上流工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費一千四百萬圓ヲ以テ施行中ノ處是亦時局ノ影響ニ因リ當初ノ豫算ヲ以テ到底遂行シ能ハザルガ故ニ大正十二年度以降ニ於テ工費一千萬圓ヲ增額シ施行年限ヲ五箇年度延長シ昭和七年度迄十五箇年度繼續事業トシ總工費二千四百萬圓ヲ以テ施行スルコトトナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ更ニ施行年限ヲ五箇年度延長シ昭和十二年度迄ニ施行スルコトトナレリ

其區域ハ埼玉縣大里郡武川村以下同縣北足立郡川口町ニ至ル延長六十二粁三及支川入間川筋左岸同縣比企郡伊草村、右岸同縣入間郡山田村落合橋以下荒川合流點ニ至ル五粁九、同支川新河岸川筋同縣北足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府北豐島郡岩淵町地先水門下ニ至ル新水路十一粁一ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百平方粁(内支川入間川七百八十平方粁、新河岸川三百四十平方粁)、流路延長百八十粁(外入間川九十八粁、新河岸川二十八粁)ヲ有シ關東平野ノ中央ニ當レルヲ以テ其概半一千六百平方粁ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ依リ灌漑スル水田約一萬二千ヘクタールニ達ス而シテ本川ノ出水ハ主トシテ夏季豪雨ニ起因シ其流量頗ル大ニシテ出水急ニ減水緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ上リ其上流改修區域ノミヲ擧グルモ水害區域實ニ五萬七千ヘクタールニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壞シ冠水十數日ニ亙ルノミナラズ決水ハ沼々武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所、深川ト中川トノ中間ニ流下シ來リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水災關係ノ重大ナル推シテ知ルベキナリ

本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト約六十粁、埼玉縣秩父郡樋口村ニ至リ盆地東嶂ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏野平野ノ西北隅ニ出ヅ是ヨリ東流約三十粁ニシテ上流改修端武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣濶ナル川敷ヲ占有シテ亂流トナリ初メテ兩岸ニ堤塘ヲ見ル下リテ久下村附近ニ至レバ堤内ノ耕地却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤センカ洪水ハ元荒川筋ノ低地ニ奔流シ埼玉縣過半ノ平野ヲ浸シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ失ヒ低水

路ハ茲ニ一定シ幅員六、七十米ヲ保ツモ高水敷ハ益々其幅員ヲ擴大シ平方村ニ至ル間廣キハ二千七百米狹キモ尚一千米ヲ下ラズ而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑圃ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防ゲリ田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク內ニ及バズト雖モ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ控ヘ破堤ノ災ヲ被ルコト頻繁ナリ夫レヨリ平方村ニ入リ入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益々甚シク低水路ノ幅員ハ九十米ナリト雖モ高水敷ハ愈々濶ク一千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高臺近ク迫リ岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ前記久下村以下本川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園開ケ村落散在シ樹林畑圃等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ狀態ニ在ルヲ以ヲ游水地トシテハ其效頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠カラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外游水地ノ大勢ヲ保有セシメ新タニ水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ計ルト共ニ低水路ノ屈曲ヲ矯正シ下流流量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦ヲ目的トシ傍ラ水利ノ改善ヲ計リ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル川口町鐵道橋以下海ニ至ル二十三粁六ヲ改修セントス

下流改修計畫ノ主眼トスル點ハ川口町以下現川ノ外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ防禦セントスルニアリ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニアラシメ又現川(川口町以下)竝ニ其河口ニ於ケル土砂ノ埋塞ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ベキ外沿岸人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ加フルノ不利ヲ避ケ得ベケレバナリ

本計畫ニ採用シタル最大流量ハ毎秒四千百七十立方米ニシテ尚非常出水ノ場合ハ毎秒五千五百七十立

方米ヲ流下シ得ルモノトシ該流量ノ内八百四十立方米ヲ岩淵町以下ノ現川ニ流下セシメ殘餘ハ新ニ開鑿スル新川ニ放流セシム蓋シ現川ニ於ケル上記流量ハ新ニ築堤ヲ行ハズシテ汎濫ヲ見ルコトナク流下シ得ベキ適量タレバナリ

放水路トシテ開鑿スル新川ハ新荒川ト假稱シ川口町鐵道橋以下現川ノ左側ニ沿ヒ千住町ノ北端ヲ過ギ國有鐵道常磐線及私設鐵道東武線、京成電車線ヲ横斷シ奥戸村ノ南端ニ至リ更ニ總武線ヲ横斷シ之ヨリ一大彎曲ヲ爲シテ中川口ニ注ガシム其河幅ハ起點ヲ四百五十米河口ヲ五百八十米トス

新荒川ニ依テ横斷セラルル綾瀬川ハ新荒川ノ左側ニ沿ヒ中川ニ落シ中川ハ又新荒川ノ左側ニ沿ヒ海ニ通ゼシム而シテ綾瀬川ヨリ隅田川ニ通ズル航路又平井ニ於ケル舊中川ノ新荒川兩岸堤ニ依リ横斷セラルル箇所及小名木川ヨリ江戸川ヲ經テ利根運河ニ通ズル航路ナル新川(船堀川)ノ新荒川兩岸堤ニ依リ遮斷セラルル處ニハ水門又ハ閘門ヲ設置ス又右岸岩淵町現川分派口ニハ水門ヲ設置シ平時ニハ平水量ヲ通ジ高水時ニハ規定ノ流量以内ヲ通ゼシム又必要ノ場合ハ同所ニ閘門ヲ設ケ如何ナル出水時ニ於テモ既往航行ノ便ヲ保タシメントス分派口以下ノ現川ハ一部附替ヲ要スル所アルモ大體舊態ニ依リ幅員ヲ上流部百九米、下流部百四十五米ト規定シ流路ニ修整ヲ加フルノ外上述ノ如ク築堤ヲ行ハズ新荒川ノ堤防ハ掘鑿土ノ處分上其體積ヲ大ニシ右岸堤ハ帝都ヲ防護スル關係上特ニ堅牢ヲ期シ馬踏十四米五、外法三割、内法二割ト爲シ馬踏ヲ下ルコト一米八ノ所ニ三米六ノ裏小段ヲ附ス堤高ハ計畫高水位以上約二米ヲ保タシメ非常出水時ニ對シテモ尚一米内外ノ餘裕ヲ存セシム左岸堤ハ馬踏十米九ニシテ法及小段堤高等總テ右岸堤ニ同ジ

綾瀬川堤防ハ馬踏五米五馬踏ヨリ一米八下リニ一米八ノ裏小段ヲ附シ中川堤防ハ馬踏七米三ニシテ小

段ヲ附セズ兩川トモ内外法何レモ二割トス

上流改修ノ計畫流量ハ毎秒五千六百立方米ト定メ廣濶ナル游水地ヲ有スル河狀ニ鑑ミ下流ニ至ルニ從ヒ游水地面積ニ約比例シテ漸次遞減シ赤羽鐵橋下ニ至リ毎秒四千百七十立方米トナリ下流改修區域ニ入ルモノトス而シテ計畫高水位ハ既往ノ最大洪水タル明治四十三年及大正三年ノ水位ヲ標準トシテ新河道ニ要スル河積ヲ算定セリ

低水路ハ大體其現狀ヲ存置シ屈曲甚ダシクシテ水流ヲ阻碍シ河岸ノ維持困難ナル所若クハ新高水敷ヲ別ニ選定シタル所ハ新タニ之ヲ開鑿ス其幅員ハ大體現狀ニ法リ入間川合流點ノ上流部ハ五十五米同下流部ハ七十米乃至九十米ト定メタリ

高水敷ハ大里郡久下村(右岸同郡市田村)以下田間宮村ニ至ル間ハ現低水路ヲ挾デ幅員三百米乃至四百五十米田間宮村以下平方村ニ至ル間ハ低水路著シク曲折シ其兩岸高キヲ以テ新河道ハ之ヲ左岸高臺沿ヒノ低地ニ移シ四百五十米ト爲シ東吉見村地先ニ於テ新堤ヲ築設スル部分ハ特ニ之ヲ五百五十米ニ擴大セリ入間川合流點(平方村)以下ハ新川敷ノ幅員ヲ五百五十米ト定メ土合村(右岸宗岡村)ニ至ル間ハ大體現低水路ニ隨フト雖モ其間馬宮村附近ニ於テハ屈曲急ニシテ且河岸地高キヲ以テ左岸ノ低地ニ川敷ヲ選定シ土合村以下ニ於テハ低水路ノ屈曲愈々甚ダシク之ニ沿フテ適當ナル川敷ヲ索ムルコト難キヲ以テ堤外地ノ地形ニ從ヒ新タニ川敷ヲ選定シ笹目村以下ハ上流游水地ノ調節ニ依リ流量著シク緩和サレ更ニ游水地ノ必要ナキヲ以テ掘鑿ニ依リ十分ナル河積ヲ與ヘ河幅ヲ一定シテ五百五十米ト爲シ新堤ヲ築キテ川口町(右岸岩淵町)ニ至リ下流改修堤塘ニ接續セシム堤外ノ田圃及濕地ハ新高水敷ノ開鑿ニ依リ排水ヲ良好ニシ浸水ノ機會ト期間トヲ著シク減少セシムベシト雖モ猶溢水ノ流勢ヲ殺ギテ耕宅地ヲ保護

シ流水ヲ河心ニ集注セシメンガ爲メ流勢ノ强弱、堤外地ノ廣狹等ヲ參酌シテ横堤ヲ適當ノ間隔ニ築設シ改修ノ效果ヲ全フセシトス

支川入間川ニ在リテハ植木村地先ハ新タニ堤塘ニ依リテ圍繞セラレ河積ヲ縮小スルヲ以テ芳野村以下平方村ニ至ル間ハ低水路ヲ挾デ幅員百八十米ノ高水敷ヲ低水位上一米八ニ掘下ゲ疏通力ヲ增大セシム

支川新河岸川ハ現在ノ合流口ヲ遮斷シ荒川ノ新堤ニ沿ヒ新タニ新川ヲ開鑿シテ之ヲ導キ下流岩淵町地先岩淵水門下ニ於テ新隅田川(舊川)ニ合流セシメ荒川ノ高水ト全ク絶緣シ逆流ノ患ヲ除キ同沿岸惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ併セテ水運ノ便ヲ增進セシム

堤防ハ大部分舊堤ノ擴築ニシテ在來無堤ノ部分及新タニ高水敷ヲ選定セル一部ニハ新堤ヲ築造ス堤形ハ兩者共馬踏七米五(入間川筋ハ六米五)兩法二割五分ニシテ堤頂ハ計畫高水位上美谷本村附近ヨリ上流ハ一米八、同下流ハ二米一タラシメ堤頂ヨリ一米八下リテ川裏ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ小段上法ヲ二割トス横堤ハ馬踏六米乃至七米五、兩法二割ニシテ頂ハ高水位上約一米ト爲シ突端ハ三十分ノ一勾配ヲ以テ高水敷ニ傾斜セシムルモノトス

施工狀況

本工事ハ先ヅ下流ヨリ述ベンニ明治四十四年度ニ於テ創業直ニ所要土地ノ買收ヲ開始シ大正二年度ニ至リ一部買收濟ノ箇所ヨリ工事ニ著手シ爾來孜々トシテ其進捗ヲ圖リシモ用地買收未濟箇所各所ニ點在セシト改修區域內ニハ常磐、東武、總武ノ三鐵道及京成電氣軌道ノ横過セル在リ且ツ帝都聯絡ノ樞要道路無數ナルガ爲メ施工區域ヲ極限セラレ隨所ニ著手シ得ザリシガ其後用地買收ノ進ムニ隨ヒ漸次工事

ノ進捗ヲ見ルニ至レリ然レドモ尚一部買收不承諾者アリシ爲メ是等ハ同五年十一月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メ同六年五月其決定ヲ受ケ爾來鋭意進工中同年十月一日竝ニ翌七年九月二十四日暴風竝ニ海嘯襲來シ船舶及機械ノ毀損又ハ流失ヲ見更ニ同十二年九月一日ノ大震災ニ因ル被害等アリ之レガ爲メ事業ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ努メテ豫定ノ進工ヲ圖リ本年度迄ニ築堤土量一千百四十七萬六千五百三十三立方米、浚渫土量二千百三十四萬二千五百三十一立方米、護岸及水制十八箇所、特種工事七箇所、附帶工事十二箇所ヲ竣成セリ

高水調節ニ關シテハ前年度報告ニ述ベタルガ如ク同十三年九月ノ洪水ニ際シ初メテ岩淵水門ノ調節ニ依リ洪水ヲ新荒川放水路ニ流通セシメ同水門下流舊川ハ勿論上流部ノ水害ヲモ併セ輕減シ得タリ爾後數次ノ出水アリシモ同水門及芝川、綾瀬、隅田、中川、木下川各水門ノ開閉ト相俟テ其都度之ヲ調節シ本改修工事ノ偉大ナル效果ヲ實現セリ而カモ尚益々高水ノ疏通ヲ良好ナラシメンガ爲メ引續キ新荒川ノ浚渫及護岸工事ヲ施工中ナリ

本工事事務所ハ明治四十四年度創業當時東京府千住町ニ設置シ其下ニ多數ノ工場及派出所ヲ置キ各工事ヲ施工セシガ其後工事ノ進捗ニ伴ヒ漸次減少シ本年度ニ於テハ岩淵、小名木川、砂町ノ三工場及六派出所トシ改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ改修事務所隣地ニ千住機械工場ヲ置キ之ニ當ラシム

今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ浚渫工事ハ千住、吾嬬、小松川、砂町第二中川右岸舊堤(以上新荒川)、上平井、葛西第一、松江(以上新中川)、岩淵、王子間、三河島(以上舊川)ノ十箇所ニシテ鋤簾式、喞筒式及プリストマン式浚渫船ニテ作業シタル外新荒川兩岸ニ於テ人力ニ依リ高水敷整理地均ヲ施工シ總土量六十六萬九千六百四十九立方米ヲ擧ゲ其大半ハ廢川敷ニ搬入シ殘餘ハ民有地埋立ニ棄捨セリ

築堤工事ハ吾嬬村地先ニ於ケル補修及小名木川附近堤防ノ嵩置ヲ施工シ前者ハ年度内竣成シ後者ハ未竣功ニ終レリ

護岸水制工事ハ岩淵床固及川口、南平柳、熊ノ木、本宿、宮城各町村地先竝ニ新荒川左岸堤端、同第二以上新荒川(新中川左岸堤端、同第二(新中川)ノ各護岸ヲ施工シ内熊ノ木護岸ハ竣功シ他ハ未竣功ニ終レリ

特種工事タル小松川及船堀ノ二閘門ハ本年度早々著手シ孰レモ舟運ノ關係等ニ顧ミ可成的ニ工事ノ進捗ヲ圖リシモ兩者共僅ニ三割ノ功程ヲ見タルノミナリ

附帶工事ハ直轄施行セルモノ善光寺坑一箇所ニシテ約五割ヲ竣成シ同管理者施行ニ對シ二十二萬五千九百十一圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

上流改修工事ハ大正七年度ヨリ創業シ先ヅ浦和町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調査ニ著手シ同九年十月事務所ヲ鴻巣町ニ移シ同十三年度迄ニ一千五百四十九町歩ヲ買收セシガ同年度ニ於テ事業縮小ノ爲メ同十一月末日限リ事務所ヲ廢止シ其後ノ收用事務ハ改修事務所ニ於テ取扱ヒ昭和元年度迄ニ僅ニ九町歩ヲ買收セシニ過ギザリシガ下流改修工事ノ進捗ニ伴ヒ本年度ニ於テ再ビ鴻巣町ニ收用事務所ヲ設ケ年度内八十三町三段歩ヲ買收シ買收總段別一千六百四十一町八段歩餘トナレリ

工事施行ニ關シテハ大正九年一月荒川上流改修事務所ヲ古谷村ニ設置シ低水路ノ屈曲甚シク川敷ノ附替トナルベキ箇所若クハ掘鑿土量比較的多ク竣功ニ長年月ヲ要スル下流部ヨリ順次上流ニ及ブ方針ヲ以テ同年度末ヨリ工事ニ著手シ本年度迄ニ築堤土量九百十七萬二百四十一立方米、浚渫土量一千五百二十二萬四千四百九十九立方米(内機械掘鑿一千百二十萬二千六百八十二立方米、人力掘鑿三百九十萬三千七百八十九立方米、機械浚渫十一萬八千二十八立方米)護岸水制二箇所延長一千三百米ヲ竣成セリ之ヲ計

畫數量ニ對比スレバ築堤約二割五分、浚渫五割二分、護岸四分ノ功程ニ當レリ

本年度ニ於テハ前年度ト同ジク人力ニ依ル掘鑿工事ハ急施ヲ要スル箇所ノ外之ヲ避ケ主トシテ機械ニ依ル掘鑿工事ヲ續工スルコトトシ鋤、鏈型掘鑿機十臺、蒸汽ショベル型掘鑿機二臺、ドラグライン型掘鑿機一臺等ヲ使用シ土量百五十八萬二千八百九十二立方米ヲ掘鑿シ外ニ人力ニ依リ二十三萬六百二十八立方米ヲ掘鑿シ總計百八十一萬三千五百二十立方米ヲ竣成セシメ築堤用土ハ百五十三萬二千四百八十八立方米ヲ堤敷ヘ搬入セリ

是等諸工事ハ改修事務所ノ下ニ川田谷、馬宮、內間木、戸田ノ四工場及馬室、川田谷、樋詰、西遊馬、宗岡、羽根倉、內間木、白子、赤塚、志村、岩淵、新河岸川ノ十二派出所ヲ置キ各工事ヲ施工シ改修工事用器具機械ノ製作及修理ハ吉谷村ニ機械工場ヲ戸田村ニ同分工場ヲ置キ各之ニ當ラシメタリ

左ニ本年度施工ノ概況ヲ述ベン

田間宮村以下石戸村間ニ於テハ低水路附替ノ爲メ田間宮村地先所要地ノ買收ヲ了リ馬室及石戸兩村地先延長三千百五十八米ノ低水路掘鑿ハ本年度著手セシモ僅ニ其七分通ヲ竣成セシニ過ギズ

川田谷村及大石村地先ニ於ケル五箇所延長一千五百十米ノ堤防擴築ハ大正十二年度著手以來續工中ナルモ用惡水路ノ關係ニ依リ僅ニ其四割ヲ竣功セルニ止マリ右岸舊堤擴築並ニ横堤ノ新設ハ大部分未著手ナリ又現低水路ハ屈曲甚シキヲ以テ左岸丘麓ニ近ク新低水路延長三千五百七十米ヲ選定シ同十一年度以降開鑿ヲ續工シ低水路ハ機械ニ依リ高水敷ハ人力ニ依リ本年度迄ニ前者ハ其七割後者ハ八割ヲ竣成セリ又附帶工事タル大石村地先本村樋管新設工事ハ本年度著手シ年度內竣功セシメタリ

馬宮村ヨリ大久保村ニ至ル間ノ堤防ハ右岸馬宮村左岸大久保村地先ニ於ケル新設ヲ除キ他ハ全部舊堤

ノ擴築ニシテ左岸馬宮村地先ニ於テハ一部新堤高ニ盛土セルモ僅ニ築立ヲ爲セルニ止マリ右岸新堤築造箇所ハ殆ンド盛土ヲ終リ築立、芝付等ノ三割ヲ竣成セリ高水敷ノ掘鑿ハ左岸大久保村地先、右岸南畑村及宗岡村地先ニ於テ各同十三年度ヨリ續工シ左岸ハ約七割ヲ右岸ハ其八割ヲ竣成シ掘鑿土砂ハ附近堤敷ニ搬入セリ

土合村ヨリ美谷本村ニ至ル間ハ低水路ノ紆餘屈曲殊ニ甚シク所謂雜丹袋ト稱シ新ニ水路ノ附替ヲ要スルモノ四箇所、内下内間木及白子村地先ノ二箇所ハ同十二年度迄ニ竣成シ殘ル上内間木及新倉村地先ノ二箇所ハ同十三年度ヨリ開鑿ヲ續工シ兩者共高水敷ノ一部ヲ殘スノミトナリ茲ニ低水路ハ全部終了シ流路ハ約二分ノ一ヲ短縮シ流水ノ疏通頗ル良好トナレリ高水敷掘鑿ハ同十四年度著手セル美女木地先ハ其九割ヲ下内間木及白子兩地先ハ其全部ヲ竣成シ同十三年度著手セル松本新田地先ハ其三割ヲ竣成セリ此區間右岸ハ在來無堤地ナルニ加ヘ下流新倉村地先ニ於テ新河岸川合流シ一帶ニ洪水ノ汎濫區域ニ屬セルヲ以テ右岸ニハ新堤ヲ築造スルコトトシ白子及内間木兩地先ハ既ニ著手セシモ未ダ完成ニ至ラズ

笹目村ヨリ川口町ニ至ル間ハ上流改修區域ノ最下流部ニ屬シ彎曲甚シキヲ以テ笹目、戸田、横曾根ノ各村地先低水路延長三千二百八十一米ノ附替工事ヲ起工シ同十三年度ニ於テ竣成セシメタル結果各地先流路ハ八分ノ五乃至三分ノ一ニ短縮シ高水敷掘鑿ハ前記地先及赤塚地先ハ其全部ヲ志村及岩淵町地先ハ八割乃至九割ヲ竣成シ高水ノ疏通著シク佳良トナレリ

築堤ハ右岸赤塚、浮間、左岸笹目、戸田ノ各地先ニ亙リ新堤築造ニ著手シ左岸横曾根村ノ大半ハ舊堤擴築ヲ行ヒ内浮間地先一箇所ヲ完成シ其他ハ何レモ約九割ヲ竣成セリ

支川新河岸川ハ現在合流地點ナル新倉村地先ヨリ下流岩淵水門下ニ至ル延長一萬一千百米ノ内現川利用ノ部分ヲ除キタル八千八百米ノ新水路開鑿工事ニシテ其幅員川敷六十三米六、低水路九米六乃至三十米九、水深一米七乃至二米八アリドラッグライン掘鑿機ヲ使用シ同十二年度ヨリ續工シ新倉、白子ノ一部及赤塚村ヨリ志村地先舊川利用部迄ノ大部分ヲ施工シ水路延長三千五百二十米ヲ開鑿セリ

本年度竣功高ハ上下流ヲ通ジ二百八十二萬七千三百一圓ニシテ創業以來ノ累計ハ四千百三十七萬七千四百二圓トナレリ之ヲ總工費豫算五千五百三十四萬四千圓ニ比較スルトキハ七割五分ノ竣功ナリトス

工事竣功表左ノ如シ但シ「△」ハ製作品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ拾土出願者提供材料並勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
築堤	立方米 一九、一〇八、四一五	▲ 円 一、一一八、八二〇 七八、五七七	立方米 一、五三八、三五九	▲ 円 八五、六〇七	立方米 二〇、六四六、七七四	▲ 円 一、二〇四、四二七 七八、五七七	割分 〇、四三
浚渫	三四、〇八三、八六一	▲ 七、三六四、九〇八 一、五九五、五〇四	二、四八三、一六九	▲ 六五二、二二七 七一、三一九	三六、五六七、〇三〇	▲ 八、〇一七、一五 一、六六、八二三	〇、七二
護岸水制	箇所 一九	▲△ 竣功 五〇八、一四六 九一、四二八〇	箇所 九	▲△ 竣功 未竣功 一三八、五五 五、一四七	箇所 二〇	▲△ 竣功 未竣功 六四七、〇〇一 九六、五七五	〇、二九
特種工事	七	▲△ 竣功 二、六八五、五五 四四、一九、五五 二、五〇、一四〇	二	▲△ 竣功 未竣功 五九六、六三六 二四、六七〇二 九四	七	▲△ 竣功 未竣功 三、二八二、一八 四七、一八六 七、一九五	〇、七〇
用地費	二六、四九六段	九、九四四、九五二	八三三段		二七、三二九段	一〇、二一九、五七六	
附帶工事費							
直轄施行	箇所 一二	□▲△ 四九 一一〇三 二〇八三 一八 〇五九 七三〇八	箇所 一一	□▲△ 竣功 未竣功 一三、三一〇 一一、五六六	箇所 一三	□▲△ 竣功 未竣功 五〇四、三四 二〇八、一九 一九、五九八 二、三〇九	〇、四六
管理者施行	四五	四、二〇七、四二二 九、一一一、九〇七 二五三、三五九	三	二二五、九一一 四四四、九二七 九七、九〇〇	四八	四、四三三、三三三 九、五七、八二七 一、二四、六七〇	〇、八九
船舶及機械費		▲△		▲△		▲△	
測量費		▲△ 一〇、五四〇 八、〇五〇 五四、二一六六〇		▲△		▲△ 一、六一〇四 一、六〇四 五四、二一六六〇	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營繕費		▲△ 三九〇、七二四、二四一、四五二		▲△ 八一、二六九円 三、三五四		▲△ 四一、二九八、一四七、二、一九五円	〇、七五 別分
雜費		▲ 二、四八一、〇四九六七、四七六		▲ 三三、二五二六五、九八七		▲ 二、八一三、五七三、四六三	
共濟組合給與金		八三、三四九		二三、三五九		一〇六、七〇八	
亡失毀損		二、六四五				二、六四五	
退職手當		五六一				五六一	
總計		□▲ 三八、五五〇、二〇、一二八、〇九一、〇七八、三三一		□▲ 二、八二七、一〇三、一一〇、五〇〇、五六一		□▲ 四一、三七七、二、三一四、一九一、〇、三二、四四一、二九四	

本表竣功額ヲ更ニ下流ト上流トニ區別スレバ左ノ如シ

下流改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	立方米 一一、四七〇、六六二	▲ 九九五、一七八、五七七六円	立方米 五、八七一	▲ 二、九八五円	立方米 一一、四七六、五三三	▲ 九九八、一四七八、五七七一円	別分 〇、九九
本工事費 浚渫	二〇、六七二、八八二	▲ 三、八二五、〇九三一、五一二、四二八	六六九、六四九	▲ 一六八、二二〇七一、三一九	二一、三四二、五三一	▲ 三、九九三、三一三五八、三四七	〇、九八
本工事費 護岸水制	簡所 一八七	▲△ 四六、九五九一、四二八〇	簡所 九一	▲△ 一三八、八五五五、一四七	簡所 一九八	▲△ 六〇五、八〇五七八〇五	〇、五〇
本工事費 特種工事費	竣功 未竣功 七	▲△ 二、六八五、五一五九〇五四〇一四	竣功 未竣功 二	▲△ 五九六、六三六七〇二四、六九四	竣功 未竣功 二七	▲△ 三、二八二、一八六九九六七四一七、一八五九	〇、七〇
用地費	一〇、九一一段	五、八六二、四〇三			一〇、九一一段	五、八六二、四〇三	

上流改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計				竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額			
工事費 築堤	七、六三七、七五三 立方米	一三、四一〇、九七九	一、五三二、四八八 立方米	四、八四、〇〇七	九、一七〇、二四一 立方米	一五、二二四、四九九	竣功	一六、四一八 段	〇、二五 割分
浚渫		▲		▲		▲		▲	
護岸水制	箇所 二	四、一九六			箇所 二	四、一九六		四、一九六	〇、〇四
用地費	一五、五八五 段	四、一三二、五四九	八三三 段	二二四、六二四				四、三五七、一七三	
附帶工事費 直轄施行	竣功 一 箇所	四、二〇一、七五九	未竣功 一 箇所	七、二三〇、八五〇、六	竣功 未竣功 一 箇所	四、四二七、六七〇		一、〇〇	〇、九八
管理者施行	竣功 未竣功		竣功 三	二二五、九一一	竣功 未竣功 四 六				
船舶及機械費		▲△		▲△		▲△		▲△	
測量費		▲△				▲△		▲△	
營繕費		▲△				▲△		▲△	
雜費		▲		▲		▲		▲	
共濟組合給與金		五〇、一二八		一三、九五二		六四、〇八〇			
亡失毀損		二、六四五				二、六四五			
退職手當		四〇九				四〇九			
總計		□▲		□		□▲		□▲	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
附帶工事費 直轄施行	箇所	円	箇所	円	箇所	円	厘分
附帶工事費 管理者施行	竣功 二	五、六六三	竣功		竣功 二	五、六六三	〇・〇一
船舶及機械費		△二、九九三、二六九		△一五二、一〇八		△三、一四五、三七七	
測量費		三三七、二〇六		二四、九〇九		三六二、二一五	
營繕費		三八、七七二		四、九八五		四三、七五七	
雜費		一四三、四四九		△三、四九九		△一四六、九四八	
共濟組合給與金		八八七、五二五		一二〇、四三六		一、〇〇七、九六一	
退職手當		三三、二一一		九、四〇七		四二、六二八	
		一五二				一五二	
總計		□▲一一、九三九、二七五 八三、〇七六		□▲一、〇八七、七六八 三、〇六〇		□▲一三、〇二七、〇四三 八三、〇七六	〇・五四

第七　阿賀野川改修工事

緒言

本川ハ曩ニ航路改良ノ目的ヲ以テ新潟縣東蒲原郡津川町以下海ニ至ル約六十五粁ノ間ヲ工費四萬餘圓ヲ以テ明治十七年七月ヨリ起工シ同十九年度ニ至リ一時工事ヲ中止セシガ其後水災損害ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ大正四年度ヨリ大正十二年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ工費八百萬圓(内新潟縣負擔額二百二十九萬二千圓)ヲ以テ本改修工事ヲ施行スルコトトナリシガ時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月四百萬圓(新潟縣負擔額百萬圓)ヲ增額シ總工費ヲ一千二百萬圓トシ施行年限ヲ五箇年度延長シタル處更ニ財政上ノ都合ニ依リ年度割額ヲ變更シ且年限二箇年度ヲ延長シ十六箇年度繼續事業トシテ昭和五年度迄ニ施行スルコトトナレリ其施行區域ハ左岸新潟縣中蒲原郡川東村右岸東蒲原郡下條村以下海ニ至ル約三十五粁ノ間ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ福島及新潟ノ兩縣ニ亙リ流域面積八千三百四十平方粁ヲ有シ流路延長二千八百粁(内幹川百六十九粁)航路延長五百八十五粁(内幹川百四十九粁)灌漑段別四萬ヘクタール(内幹川四千四百四十六ヘクタール)水害區域二萬三千二百五十ヘクタール(内幹川七千百五十六ヘクタール)ナリ而シテ本川ノ洪水ハ春季ノ融雪ト夏秋ノ低氣壓ニ伴フ暴風雨トニ基因シ其水源地方ニ於テ一日ノ雨量百粍以上ニ達スレバ警戒

ヲ要スベキ洪水ヲ來スコト多シ其水災ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル中蒲原郡川東村馬下ヨリ海ニ至ル延長約三十五粁ノ間ニシテ地勢平坦田園開ケ西ハ遠ク信濃川沿岸ノ平野ニ連リ我國有數ノ米産地タリ兩岸概ネ堤塘ノ設ケアリト雖ドモ斷續不同屈曲迂回構造亦薄弱ナルヲ以テ洪水ノ際ハ沿川各地ニ浸水セザルコトナク又派川小阿賀野川ハ本川ノ洪水ヲ呑ミテ滿水シ啻ニ其兩岸ノ破堤汎濫ヲ惹起スルニ止ラズ信濃川ノ洪水ヲ增大シ不盡ノ流砂ハ新潟港埋塞ノ一因ヲ爲セリ水害損失額ハ大正元年ヨリ大正十年ニ至ル十箇年間平均百二十八萬圓ニシテ其内大正二年最モ甚シク浸水約二萬ヘクタール損失額五百三十七萬圓ニ達セリ

本改修計畫ハ最大洪水流量毎秒六千九百五十立方米ノ疏通ヲ期シ以テ馬下以下海ニ至ル區間ノ水災ヲ芟除セントスルモノニシテ河幅ハ起點附近ヲ四百三十米トシ約四粁ノ下流論瀬附近ニ至リテ之ヲ九百米ニ擴張シ以下河口迄同樣ノ幅員トス而シテ改修法線ハ大體現川ニ沿ヒテ之ヲ定メ中流澤海附近ノ如キ屈曲甚シキ部分ハ之レヲ矯正シ堤防ハ成ルベク舊堤ヲ利用シテ之レヲ擴築シ其ノ他ハ新堤ヲ築ク又低水敷及高水敷ニ掘鑿ヲ行ヒテ河積ノ不足ヲ補ヒ尙ホ末流部ニ對シ相當ノ浚渫ヲ施シ以テ流積ヲ完備セシム小阿賀野川ハ滿願寺ニ於テ之レヲ締切リ其處ニ一水門ヲ伏設シ一定量ノ水ヲ放流スルノ外本川ノ洪水ト絶緣セシメ其下流沿岸ノ水災ヲ絶ツト共ニ同川ニ合流スル能代川及其他惡水ノ疏通ヲ便ナラシメ又洪水毎ニ新潟港ニ流送スル土砂ヲ止メ信濃川改修ト相俟ツテ同港埋塞ノ主因ヲ除カントス而シテ信、阿兩川舟運ノ連絡ニ對シテハ滿願寺地内ニ一閘門ヲ設置スルコトトセリ

河口ニ近ク本川ニ合流セル加治川及新井郷川ニ對シテハ當初合流點ニ水門ヲ設置シ依ツテ逆水ノ侵入ヲ防止スルノ計畫ナリシガ其後新井郷川水害豫防組合ノ出願ニ依リ前記水門ニ代フルニ新水路ヲ開鑿

シ直接海ニ放流スルコトニ變更シ而シテ合流點ヲ新堤ニテ横斷スル箇所ハ別ニ幅七米二ノ水門ヲ設置シ舟運ニ支障ナカラシム堤防ハ早出川落口ヨリ下流ハ凡テ馬踏ヲ九米トシ夫ヨリ上流ハ七米二トシ何レモ表裏二割ノ法ヲ附シ洪水位上一米五ノ高サヲ保タシメ水勢衝突ノ箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施行スルモノトス掘鑿箇所ハ論瀬高山ノ堤外地ニ於ケル低水路ノ掘鑿一千百三十米及左岸巣本村一本杉右岸安田村小浮ヨリ以下流心ニ沿ヒタル五百四十五米ノ間平均低水位上〇米九乃至一米八ノ面迄之ヲ施行シ尚ホ滿願寺澤海間ノ直通水路ノ掘鑿約一千五百二十七米アリ

浚渫ハ大淵以下ニ之ヲ施行シ其深サハ平均低水面以下一米八乃至二米七トシ又小阿賀野川ニモ現在ノ流心ニ沿ヒ浚渫ヲ行フモノトス

施工狀況

本工事ハ大正四年度創業後直ニ施行準備ニ著手シ翌五年度土地買收ヲ開始シ大正六年度ヨリ起工シ本年度迄掘鑿浚渫築堤護岸水制閘門水門等ノ諸工事ヲ施行シツツ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續施行ノ三十三箇所(外四箇所休工)新ニ十五箇所及附帶工事六箇所ヲ實施ス本年度ハ七月中旬豪雨ニテ出水シ稀有ノ大洪水襲來セシモ幸ニシテ一局部ノ工程ヲ阻害セラレタルニ止リ全工事ニ對シテハ格別ノ影響ナク順調ニ工事ヲ繼續スルコトヲ得又下里地先ニ於ケル阿賀野川本川締切工事ハ秋冬兩季ニ亙リ極力施工ノ結果豫期ノ功程ヲ擧グルコトヲ得タリ今本年度内施工狀況ヲ述ブレバ次ノ如シ

掘鑿工事　前年度ヨリ引キ續キ施行ノ機械掘四箇所(外一箇所休工)新ニ一箇所手掘四箇新ニ一箇所計十

箇所ニシテ機械掘ハ短梯掘鑿機四臺ヲ用ヒ掘鑿土砂運搬ニ二十噸機關車四臺ヲ使用シ、手掘ノ土砂運搬ハ軌條ヲ配置シ輕運車ニテ人力及馬力ニ依リタル外九瓩軌條ヲ敷設シ〇・七立方米積土運車ヲ連結シ五噸機關車ヲ使用セリ機械掘土量三十五萬五千二百二十一立方米、手掘土量十一萬五千四百三十五立方米土量計四十七萬六百五十七立方米ヲ掘鑿シ機械掘一箇所、手掘一箇所ヲ竣功セリ

浚渫工事　本年度新ニ著手シタル二箇所ニシテ内一箇所ハ滿願寺、澤海間新設直通低水路ノ通水量ヲ增大セシメントスル應急人力浚渫工事ニシテ本川締切工事未ダ著手ノ運ビニ至ラザルヲ以テ夏季渴水スルニ隨ヒ新設水路ヲ流ルル水量ハ大部分在來水路ニ據ル狀態トナリ小阿賀水門竝龜田鄕用水路樋管ノ取入水量ニ支障ヲ生ジタルヲ以テ新設水路中三箇所ニ亙リ人力ニ依リ浚渫ヲ行ヒ應急制水工事ト相俟ツテ好果ヲ得ントスルモノナリ又一箇所ハ低水路ヲ低水位以下二米マデ浚渫船（每時三十立方米掘）ヲ以テ浚渫シ人力運搬船ニ依リ捨土スルモノニシテ人力浚渫土量一萬二千立方米、機械浚渫土量二萬三千六十七立方米、計三萬五千六十七立方米ヲ運搬捨土シ應急浚渫工事ハ昭和二年八月二十一日竣功セリ

築堤工事　前年度ヨリ繼續セル十一箇所（外二箇所休工）新ニ五箇所、假設築堤工事一箇所、計十七箇所ヲ實施セリ其築立ニハ一部掘鑿土ヲ利用シ他ハ採土ニ依リ築設シ採土運搬ハ人力及馬力ヲ以テ輕運車ヲ使用シ作業ス而シテ利用土ハ十八萬六百九十二立方米、採土七萬九千九百四十立方米、土量計二十六萬六百三十二立方米ヲ築立テ六箇所ヲ竣功セリ

護岸水制工事　前年度ヨリ引キ續キ施行ノ護岸工事十箇所（外一箇所休工）新ニ護岸二箇所、假護岸工事一箇所、水制工事二箇所、計十五箇所ヲ實施ス工法ハ石張、蛇籠、柴工沈床、石詰柳枝工、枠出、杭出、杭柵等ニシテ水制工事ノ内一箇所ハ前記應急浚渫工事ト相俟ツテ夏季渴水時ニ於ケル小阿賀水門竝龜田鄕用水路樋管

ノ取入水量ヲ增加セシメントスル應急工事ニシテ柴工沈床川倉枠出ヲ以テ本川床固工ヲ施行セリ而シテ本年度ニ於テハ護岸工事四箇所應急水制工事一箇所ヲ竣功セリ

小阿賀閘門工事　前年度ヨリ引キ續キ施行シ本年度ニ於テハ人力ニ依リ輕運車ヲ使用シ後方水路ノ掘鑿土砂四千三百四十五立方米ヲ運搬捨土シ階段用混凝土後庭翼壁間知積前庭翼壁混凝土石張前後庭切石積等ノ未濟ノ部分ヲ完了セシメ尙前後庭ニ橋梁二箇所前庭ニ鐵柵二箇所ヲ設ケ後方水路及舟溜ニ土堤九百八十七立方米ヲ築立テ昭和三年三月三十一日ヲ以テ全ク本工事ヲ竣功セリ

水門工事　前年度ヨリ引キ續キ施行ノ小阿賀竝通船川水門工事ノ二箇所及新ニ著手セシ新井郷川水門工事ノ三箇所ニシテ通船川水門ハ前年度ニ於テ殆ド完成シ僅ニ扉上部軸受金具ヲ被覆スル鐵板取付ヲ本年度ニ繰越シタルモ本年度全ク竣功シタリ又新井郷川水門ハ床掘矢板及基礎杭打ノ一部ヲ行ヒ小阿賀水門ト共ニ翌年度ヘ繰越シタリ

土地買收　土地ハ前年度迄ニ大略買收ヲ了シ本年度ニ於テハ中蒲原郡巢本村横越村大形村北蒲原郡安田村分田村松ヶ崎濱村地内ノ一部ヲ買收シ又河川敷地補償料等九千六百八十二圓ヲ支拂ヒタリ

附帶工事　龜田郷用水路工事及新井郷川改修工事ハ共ニ前年度ヨリ引續キ施行セシガ次年度ニ繰越シタリ又前年度ヨリ繼續ノ黑瀨樋管新設工事下山排水樋門新設工事島瀨干唐仁樋管新設工事及下山排水機移築工事ノ四工事ハ本年度竣功ヲ告ゲタリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ五十萬六千五百二十一圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計九百九十五萬七千六百六十三圓ナリ之ヲ總工費一千二百萬圓ニ比スレバ八割三分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ

但シ「ロ」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
掘鑿	三、九五七、二〇二 立方米	一、一四六、九九五 円	四七〇、六五七 立方米	一三三、六九四 円	四、四二七、八五九 立方米	一、二八〇、六八九 円	〇、七九 割分
浚渫	三六〇、〇〇〇	五四、〇三七	三五、〇六七	一六、一四九	三九五、〇六七	七〇、一八六	〇、〇二
築堤	三、七三九、三二八	五六三、二九五	二六〇、六三	四一、八七二	三、九九九、九六一	六〇五、一六七	〇、九一
護岸水制		四六〇、八四二		一一〇、五二三		五七一、三六五	
閘門	来竣功 一箇所	三二〇、三八〇	竣功 一箇所	七、六五〇	竣功 一箇所	三二八、〇三〇	
水門	来竣功 二	一二三、八九三	竣功 来竣功 二	一二、八四六	竣功 来竣功 一	一三六、七三九	
材料運搬		一五、六九六		七二八		一六、四二四	
用地費	一二、七一七 段	二、三五七、九一二	一二 段	九、六八二	一二、七二九 段	二、三六七、五九四	
附帯工事費	一九 箇所	七二四、七七九 四三五、四六五	四 箇所	五三、四六七 五二、四四二	二三 箇所	七七八、二四六 四八七、九〇七	
船舶及機械費		二、七五一、三六五		三四、〇四八		二、七八五、四一三	
測量費		一五、九二五		一、三六二		一七、二八七	
營繕費		九七、〇六〇		六、四三七		一〇三、四九七	
雜費		八〇二、二九四		七四、〇六七		八七六、三六一	
共濟組合給與金		一六、六六九		三、九九六		二〇、六六五	
總計		九、四五一、一四二 四三五、四六五		五〇六、五二一 五二、四四二		九、九五七、六六三 四八七、九〇七	〇、八三

第八　最上川改修工事

緒言

本工事ハ曩ニ政府ニ於テ工費七十六萬四千九百八十四圓ヲ以テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシテ明治十七年度ヨリ起工シ同三十六年度ニ至リ之ガ竣功ヲ告ゲタリシガ其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ洪水防禦ヲ目的トシテ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費八百二十萬圓(內山形縣負擔額二百十九萬九千圓ヲ以テ改修工事ヲ施行スルニ至レリ其區域ハ幹川左岸山形縣東田川郡清川村右岸同縣飽海郡上郷村以下海ニ至ル約三十二粁間,支川赤川ハ左岸同縣東田川郡齋村,右岸同縣同郡廣瀨村以下幹川合流點ニ至ル約二十三粁六間ナリシガ大正十年三月支川赤川ノ改修工事計畫ヲ變更シテ最上川ニ注入セシメズ大山川合流點ヨリ標高四十五米五ナル西田川郡袖浦村大字濱中地內西山砂丘ノ開鑿ニ依ル最捷水路ヲ通ジテ日本海ニ放流セシムルコトトシ尙同年五月最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ山形縣知事稟申ニ係ル酒田港修築工事ヲ百五十萬圓(全部山形縣負擔)ノ追加工費ヲ以テ同十七年度迄繼續事業ヲ延長シ併セ行フ事トセリ更ニ物價騰貴ニ依リ總工費ヲ一千五百萬圓ニ增額シ昭和七年度迄ニ工期ヲ延長セルモ偶々關東大震災ノ影響ヲ蒙リ更ニ昭和十一年度迄繰延ベシ爲メ二十箇年度ノ繼續事業トナレリ

河狀竝計畫大要

本川ハ奥羽河川中北上川ニ亞グノ大河ニシテ水源ヲ山形縣南置賜郡吾妻山ニ發シ殆ド山形縣一圓ヲ環

流シ飽海郡酒田港ニ到リ海ニ注グ其流域面積七千四百三平方粁、流路延長二千三百六十八粁（内幹川二百十六粁）、航路延長四百五十九粁（内幹川百九十六粁）、水害區域三萬七千二百九十七ヘクタール（内幹川一萬四千四百ヘクタール）、灌漑段別五萬七千三百十六ヘクタール（内幹川一千九百五十ヘクタール）ナリトス

庄内平野ハ山形縣下第一ノ米産地ナルニ本流域内ノ降水量ハ一箇年二千粍以上ヲ示シ本邦ニ於テモ有數ノ降雨地ニシテ洪水汎濫ノ害亦甚シク其損害高ハ最近十箇年ノ損失平均年額百四十三萬一千六百圓（大正元年乃至大正十年）ニ上リ就中大正二年ニ於ケル五百十五萬四千五十八圓、同九年二百四十四萬六十七圓、同十年ハ八百三十五萬三千七百七十圓ニ達スル大損害ヲ見タリ

本川改良計畫ハ高水防禦ヲ目的トスルモ傍ラ水路ノ改善ヲ計ラントシ工事ヲ水害ノ最モ大ナル範圍ニ局限シ幹川ハ東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二粁、支川赤川ハ西田川郡鶴岡市附近以下海ニ至ル約二十粁ノ間ニ施工スルモノニシテ其計畫最大流量ハ毎秒幹川六千九百五十立方米、赤川一千六百七十立方米ト定メ之ヲ快通セシムルニ遺憾無キヲ期セリ

幹川最上川ハ急流ニシテ河狀極メテ不規律ニ屬シ支川赤川ハ緩流ニシテ兩岸相當ノ堤防アルモ廣狹不同ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ次ノ如ク河幅ヲ一定セリ

幹川	清川附近	二五五米	
幹川	狩川、臼ケ澤間	三六四	
幹川	臼ケ澤、中牧田間	四五五	
幹川	中牧田、落野目間	六三六米	
幹川	落野目以下京田川合流點間	七二七	
幹川	京田川合流點以下	八一八	
支川赤川	菅原橋、横山間	二七三米	
支川赤川	横山以下大山川合流點迄	三六四	
支川赤川	大山川合流點ヨリ河口（西山閉鑿水路）迄兩岸二割法底幅百米	一〇〇	

新堤ハ左右兩岸共馬踏六米三、兩法二割トシ其天端ハ計畫高水位以上一米五タラシメ在來ノ堤防ハ相當

増築シ水勢ノ激突著シキ箇所ハ總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス而シテ三米以上ノ直高ヲ有スル築堤ニハ天端ヨリ三米下リニ幅一米八以上ノ小段ヲ裏法ニ設ケ其以下ヲ二割五分法トシ直高五米五以上ノ場合ニハ天端ヨリ五米五下リテ幅二米七以上ノ小段ヲ兩法ニ設ケ其以下ヲ三割法トス其他計畫ノ流量ヲ快通セシムル爲メ或ハ河身ヲ浚渫シ或ハ掘鑿ヲ行ヒ支川赤川ハ流末ナル西田川・郡袖浦村大字黒森地内大屈曲箇所ニ於テ西山砂丘ヲ縱貫シテ長サ二千八百米ノ新水路ヲ開鑿シ全川ヲ日本海ニ放流セシメントス其掘鑿土量八百五萬立方米・底幅百米・切割高四十五米ナリ之レガ爲メニ洪水ノ期間ヲ短縮スル效果著シキモノアルベシ

京田川ハ從來最上川・赤川兩川出水ノ都度其逆流ト自己ノ出水トノ爲メ沿岸ノ沃野ニ浸水シ汎濫ノ害ヲ免レザリシガ赤川分流ノ結果最上川左岸堤防ヲ延長シテ其合流點ヲ下流ニ移スコトヲ得自然該川ノ排水良好トナリ兼テ逆流ノ被害モ輕減スルコトヲ得ベシ

最上川河口ハ酒田港ト全然分離シテ左岸ニ偏移シ右岸堤防ハ飽海郡酒田町對岸中洲上ニ築キ其先端ニ接續シ長サ六百四十四米・水深九米ノ海中ニ達スル突堤(中央)ヲ設ケ又左岸堤防先端ニハ長サ二百二十七米ノ防砂堤(南)ヲ築造ス又酒田港ハ其港口ニ最上川前記中央突堤ト相對シテ同ジク水深九米ノ海中ニ達スル北突堤ヲ築キ港内ハ低水面以下一米八乃至七米六ニ浚渫シ且ツ適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス

附帶工事トシテハ橋梁ノ增設架換・水門ノ移設・用惡水路ノ改築及樋門工事等ヲ施工シテ惡水ノ排出ヲ良好ナラシメ從テ水害ヲ除去シ航行ノ利便ヲ增進スルモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度幹川右岸全部ノ土地買收ヲ了シ本年度迄ニ數次ニ亙リ幹川左岸ノ一部支川赤川新放水路用地竝ニ鶴岡市附近ノ買收ヲ爲シ其進捗ニ從ヒ諸工事ヲ施工セリ而シテ大正九年度ニ機械工場ヲ設置シ諸機械船舶ノ修理製作ヲ經營ス

本年度ニ於ケル本工事施行箇所ハ前年度ヨリ繼續ノ二十五箇所ト新ニ著手ノ十一箇所トノ三十六箇所及附帶工事繼續一箇所ト新ニ著手ノ一箇所トヲ施工セリ

本年度ハ通ジテ作業上支障尠ク順調ニ施工シ得タリ其竣功ノ主ナルモノハ掘鑿六十九萬八千九百五十二立方米、浚渫四萬百七十七立方米、築堤築立三十五萬二千七百五十七立方米ナリ

今本年度施工ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

掘鑿工事ハ人力掘鑿六箇所、機械掘鑿二箇所ニシテ其内繼續施工ノモノ人力掘鑿ニ於テ大宮、第三西山、宮野浦、丸沼、山寺ノ五箇所及新ニ著手ノ第四西山ノ一箇所ニシテ機械掘鑿ニ於テハ繼續施工ノモノ第三西山、宮野浦ノ二箇所トス其内主ナルモノハ支川赤川西山開鑿工事ニシテ人力及機械ヲ併用シ專ラ工事ノ進捗ニ努メタル結果昭和二年六月上旬ニハ殆ド通水ノ運ビニ至レリ偶々降雨ニ際シ新川取入口附近水位四米一ニ增水シタルヲ以テ同年七月二十七日通水ヲ試ミタルニ其結果甚ダ良好ナリキ

上記ノ結果二十噸機關車二臺、短梯掘鑿機三臺及土運車其他ノ附屬品ヲ最上川河口左岸宮野浦機械掘鑿ニ使用ノ目的ヲ以テ海岸ニ沿ヒ同地先ニ陸送シ同年九月上旬ヨリ運轉ヲ開始セリ而シテ掘鑿土ノ一部ハ海岸附近ノ官有地ニ他ハ最上川左岸新堤敷及附近底地ニ放棄セリ人力掘鑿ニ於テハ宮野浦ニ使用セ

シ四噸ガソリン機關車ハ機械掘鑿運轉開始ト共ニ最上川上流山寺ニ廻送シ其地先ノ掘鑿土運搬ニ使用セリ

又大宮ニ於テハ引續キ三噸ガソリン機關車ヲ使用シ其他ハ專ラ人力ヲ以テセリ而シテ掘鑿土ハ西山及宮野浦以外ハ全部築堤築立土ニ利用セルモノニシテ本年度ニ於テ竣工セルモノ第三西山人力掘鑿及第三西山機械掘鑿ノ二箇所トス

浚渫工事ハ前年度ヨリ續行ノ宮野浦一箇所ニシテ浚渫船最上號ヲ使用シ浚渫土ハ新堤敷附近底地ニ放棄セリ本年度ハ工事ノ都合ニ依リ浚渫船ノ運轉日數短ク殆ンド休止狀態ニアリ且ツ浚渫船浦賀丸ハ昭和二年六月四日新潟港ヘ廻航セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續ノ幹川最上川筋ニ於テハ小牧、臼ケ澤、荒鍋、山寺、宮野浦、新堀ノ六箇所及支川赤川筋ノ地藏俣、鶴岡ノ二箇所ニシテ築立ニハ掘鑿土ヲ利用セルモノト堤内外ノ官民有地ヨリ人力、馬力及ガソリン機關車等ニ依リ運搬セルモノトノ二種ニシテ本年度内ニ三十五萬二千七百五十七立方米ヲ築立テ年度内ニ竣功セルモノ宮野浦一箇所トス

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ荒鍋、宮野浦、第二宮野浦ノ三箇所及ビ新ニ著手ノ山寺、小牧、第一西山新川、九木原、下瀨ノ五箇所トヲ施工セリ山寺護岸ハ同地先新底水路左岸ニ築設セルモノニシテ昭和二年五月融雪出水ニ際シ在來ノ掘鑿地盤一夜ニシテ水路トナリ新堤ニ迫リシヲ以テ急遽施工スルコトトセリ工法ハ野面石張トシ根固ニ柴工沈床及木工沈床ヲ併用セリ其他小牧第一西山新川ハ野面石張工、九木原、下瀨假護岸ハ礫詰柵トシ根固ニ柴工單床ヲ用ヒ年度内ニ宮野浦及下瀨假護岸ヲ竣功セリ

突堤工事ハ前年度ヨリ繼續ノ二箇所ニ施行シ中央突堤ハ前年度ト殆ンド同一方法ニテ捨石及木工沈床

八組ヲ沈メ延長六十三米ノ基礎ヲ施工シ又前年施工セル部分ノ内約六十米ハ基礎沈下セルヲ以テ之ヲ均シ上部ニ方塊二段ヲ据ヘ古レールヲ以テ連絡セシメ尚上部ハ場所詰混凝土ヲ施工セリ年度内ニ据付タル方塊ハ甲號百八十四個、乙號百三十一個ニシテ捨石六千八百七十九立方米ナリ假突堤ハ根固捨石ヲ補足シ上部ハ約三十米間場所詰混凝土ヲ施工セリ

材料採取及製造ニ於テハ突堤用トシテ本年度内長サ一米八、幅一米八、厚サ一米五ノ甲號方塊二十個及長サ一米八、幅二米七、厚サ一米五ノ乙號方塊二百十二個ヲ製造セリ其他方塊製造用砂利採取、突堤用捨石採取等ヲ行ヘリ

障害物除却ハ前年度ヨリ繼續施行ノモノニシテ在來ノ導水堤ヲ除却シ船舶ノ出入ニ便ナラシムル目的ニシテ年度内竣功セリ

附帶工事トシテ前年度ヨリ繼續ノ島ノ内溝排水樋門工事ハ昭和二年七月竣功シ新ニ著手セルハ大山、酒田線橋梁新設工事一箇所ニシテ西山開鑿工事ノ進捗ニ伴ヒ大山町ヨリ酒田町ニ通ズル縣道ヲ遮斷セラルルヲ以テ長サ百三十七米七ノ土橋ヲ架設シ八月竣功セリ

尚上記諸工事ニ使用セル船舶及機械ノ修理製作ハ當所附屬ノ機械工場ニ於テ專ラ施工セシメ年度内ニ製作セル主ナルモノハ修船框、排泥管、曲鈑轆機等又修理ノ主ナルモノハ機關車、掘鑿機、浚渫船、曳船、土工用諸機械ニシテ工費六萬五千餘圓ヲ費セリ

土地收用ハ工事ノ進捗ニ伴ヒ必要ナル土地ヲ買收スルニ止メ本年度内ニ買收セシモノ宅地田畑合計二十七町二段九畝餘歩ナリ

其他營繕工事トシテ修船渠ヲ築造シ船舶ノ修理ニ備ヘタリ

以上本年度ニ於ケル竣功額ハ六十二萬七百六十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ七百五十七萬九千三百五十四圓ナリ之ヲ總工費豫算額一千五百萬圓ニ比スレバ約五割一分ノ竣功ナリトス其工事竣功表次ノ如シ「○」ハ赤川普通水利組合ヨリ「×」ハ土取出願者ヨリ「◎」ハ吉田堰普通水利組合ヨリ提供セシ額ニシテ「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
掘鑿	立方米 九、七六九、七一四	○ 一、六三一、三八九円 二三、三七一	立方米 六九八、九五二	○ 一二六、二八七円 九、五六四	立方米 一〇、四六八、六六六	○ 一、七五七、六七六円 三二、九三五	刻分 ○・六○
浚渫	五八八、〇四一	一四三、六八五	四〇、一七七	一五、二八五	六二八、二一八	一五八、九七〇	○・一二
築堤	二、九九一、六七五	× 三五九、九四四 三、八六八	三五二、七五七	× 七六、七六七	三、三四四、四三二	× 四三六、七一一 三、八六八	○・四六
護岸水制		◎○ 一〇八、三六五 六、七七二		◎○ 一九、九八九 一、三三七		◎○ 一二八、三三五四 九、〇一六	
材料採取及製造費		七四、二〇九		四七、九四〇		一二二、一四九	
突堤		七二、四八七		一五、七九三		八八、二八〇	
材料運搬		一三、六六五		一四、〇八六		二七、七五一	
導水堤除却		二、八五〇		二、一七九		五、〇二九	
用地費	四、七九七段	九四一、五三四	三七三段	九七、九五三	五、一七〇段	一、〇三九、四八七	
附帶工事費	竣功 箇所七	□○ 六四、五〇二 三九、〇二二	竣功 未竣功 箇所一二	□○ 一九、一一七八 一二、一七六 五八四	竣功 未竣功 箇所一九	□○ 七三、六八〇 一二、一七六 三九、六〇六	
船舶及機械費		○ 二、五四二、九一〇 一、〇二六		○ 一〇三、四七一		○ 二、六四六、三八一 一、〇二六	
測量費		一七、五六〇		一、九三三		一九、四九三	
營繕費		一六九、〇六一		一〇、四七九		一七九、五四〇	
雜費		七九〇、八九一		七八、四〇六		八六九、二九七	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
共濟組合給與金	—	二〇、五三九円	—	六〇、一七円	—	二六、五五六円	〇・五一
總計	—	六、九二五、三九七、三四三、五八、三九九、七六七一	—	二二、五七、〇七六三一、二四四四	—	七、五七四三九、九三六、四三五六〇、八四五四一、六七四六六、八四	

第九　雄物川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業總工費七百二十萬圓ヲ以テ施行シタリシガ大正十二年度ニ至リ物價騰貴ノ爲メ總工費ヲ一千百七十萬圓(內地方負擔金三百四萬七千圓)トシ年限ヲ昭和六年度ニ延長セリ偶々大正十二年九月一日關東大震災ノ爲メ更ニ五箇年度ヲ延長シ施行年限ヲ昭和十一年度迄繰延ベタリ

其區域ハ幹川ニアリテハ左岸秋田縣河邊郡豐岩村右岸同縣同郡川添村以下海ニ至ル間延長二十一粁及支川岩見川ニアリテハ左右岸秋田縣河邊郡豐島村以下雄物川合流點ニ至ル間五粁合計二十六粁ノ間ニ改修ヲ施工スルモノトス

河狀竝計畫大要

雄物川ハ流域面積四千百八十平方粁流路延長一千二百四十五粁(內幹川百四十九粁)航路延長三百三十四粁(內幹川百三十七粁)灌漑面積三萬九百十ヘクタール水害區域二萬二千六百九十ヘクタール(內幹川一萬一千五十八ヘクタール)ヲ有ス而シテ其沿岸ハ幹支川共無堤ノ部分多ク偶々一部ニ堤防ヲ見ルモ極メテ不規律ニシテ且河幅一定セズ殊ニ幹川ノ下流部ハ土崎港ニ至ル迄流心不定加之屈曲甚シキヲ以テ洪水ノ際ハ每々其疏通ヲ妨ゲラレ從テ支川岩見旭ノ如キハ逆流ニ依ル水害著シク明治二十九年ノ汎濫區域

一萬七千八百五十ヘクタールニ及ビ其損失價額實ニ一千三百萬圓ニ達セリ其後明治四十三年ノ被害ノ如キモ亦三百十餘萬圓ニ達シタルノ狀況ナリ

本計畫ハ秋田市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ以テ主眼トシ併セテ河口ヲ改善セントスルモノナリ而シテ計畫高水流量ハ幹川河邊郡川添村以下海ニ至ル間毎秒五千五百六十五立方米支川岩見川ハ豐島村以下幹川合流點ニ至ル間毎秒五百五十六立方米ト定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ有セシムルモノトス而シテ河邊郡新屋町ニ於テハ現水路ヲ全ク締切リ同町西方ノ丘陵ヲ横斷シテ直路日本海ニ注グベキ長サ二千米餘ノ一大新水路ヲ開鑿ス其水面幅ハ高水時ニ於テ約三百六十四米トシ上游ニ於ケル流路ニ對シテハ堤防ヲ築キ水積ヲ補ヒ屈曲ヲ矯メ水制ヲ設クル等諸般ノ施設ヲ爲スモノトス又締切堤ノ東方秋田市牛島町ニ閘門ヲ設ケ以テ航行ニ便シ之ヨリ以下舊川ハ幅五十五米乃至九十米ヲ限リ低水時一米五ノ水深ヲ保ツ程度ニ浚渫ヲ加ヘ舟筏航行ノ用ニ供シ併セテ下流幹支川惡水排除ノ便ニ備ヘントス

土崎港ハ雄物川ノ土砂河口ニ流下シ來リテ堆積スルヲ以テ船舶ノ出入ヲ妨ゲラレ不良ノ狀態ニ陷ルノ虞アルヲ以テ差當リ現在出入船舶ノ狀況ニ鑑ミ之ニ適應スルコトニ止ムルコトトシ突堤ヲ築キ浚渫ヲ爲シ以テ干潮面下四米五ノ水深ヲ保持セシムルモノトス

支川岩見川ハ其合流點附近ノ河狀不自然ナルガ爲メ一朝洪水ニ際シテハ其慘害ノ怖ルベキモノアルヲ以テ現在ノ流末水路ヲ附替ヘ適當ノ築堤ト掘鑿トヲ施シ以テ洪水ノ防禦ニ備フルモノトス

本工事施行部ハ前述ノ如ク多クハ無堤地ニ屬シ河幅一定セザルヲ以テ河狀ニ應ジ築堤ヲ以テ河幅ヲ制限シ左ノ標準ニ依リ之ヲ整正セントス

區間	堤防中心間ノ距離	備考
新川ノ部	三五五米	高水敷幅ヲ示ス
自新川ノ入口 至 $\frac{4}{2}$	六〇〇	
自 $\frac{4}{2}$ 川 至椿	三八〇—六〇〇	
支川岩見川	一四五—一八〇	

堤防ハ幹支川共馬踏五米五、表法二割トシ天端以下三米五ニ幅九米(支川岩見川ハ三米五)ノ小段ヲ設ケ以下三割法トス裏法ハ上部ヲ二割五分トシ天端以下二米五ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ夫ヨリ下部三割トス而シテ法先ノ水中ニ沒スルモノハ相當ノ犬走、下埋ヲ施ス天端高ハ幹川ニアリテハ計畫高水位上一米五トス又支川岩見川ニアリテハ一米乃至一米五トス新川下流突堤ニ接續スル部分ハ馬踏七米、表法一割五分ニシテ護岸ヲ施シ裏法ハ二割トス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌大正七年度ニ於テ一部ノ土地買收ヲ行ヒ大正八年度ヨリ河邊郡新屋町地内新川開鑿工事ニ著手シ爾來九箇年度間改修ノ主力ヲ之ニ傾注シ工事用諸機械設備漸ク完備充實ノ域ニ在リト雖モ年度割額工費ノ減少ニ依リ本年度ニ於テモ前年度同樣十分ナル活動ヲ爲ス能ハザリキ

掘鑿工事ハ新川工事ニ於テスラ一箇年度ヲ通ジ僅カニ掘鑿機三臺ヲ以テ操業シ土量六十八萬七百立方

米ヲ施行セルノミナリ又同所人力掘鑿運搬ニ於テハ土量五萬六千四百三十六立方米ヲ施行シ合計本年度七十三萬七千百三十六立方米起工以來ノ累計七百九十四萬三千九百二十五立方米ニシテ新川開鑿計畫土量ニ對シ其五割七分ヲ竣功シタリ其他ノ掘鑿ヲ合シ本年度掘鑿合計八十八萬四千六百六十三立方米ナリ

築堤工事ハ全部掘鑿土利用ニシテ本年度功程ハ岩見川右岸第一築堤、四ッ小屋第二築堤、石田坂第一築堤、合計十萬八千三百五十九立方米ノ築立ヲ施工セリ

新川開鑿部ニ於ケル法留工ハ本年度芝付面積三千三百平方米ニシテ累計六萬四千三百七十二平方米ノ芝張工ヲ施行セリ

土崎港口ニ於ケル假突堤ハ辨慶枠ヲ沈下シテ築設スルモノニシテ前年度迄右堤百七十三米六、左堤百二十五米四、合計二百九十九米ヲ施工セリ然ルニ海蟲ノ侵蝕ニ依リ枠材損傷セラレ冬期ノ激浪ト春夏ノ出水トニ依リ石枠ノ移動セラルルモノアリ又捨石ノ周圍ニ散亂セルモノヲ生ゼシニ依リ鋭意其手直シト捨石ノ補充トヲ以テ既成部分ノ原形維持ニ努メタリ又港口沿岸ニ於ケル飛砂ノ港内ニ侵入スルヲ防ギ併セテ其飛砂ノ程度、方向ヲ調査センガ爲ニ施工中ナル賽立ハ本年度ハ其生長セル砂丘上ニ更ニ延長四百十七米ヲ施工シ施工累計一千二百米ナリ

工事用石材ノ本年度採取ハ三千三百四十五立方米ニシテ所要地ヘノ運搬量ハ一千百八十七立方米ナリ

石材運搬用奥羽本線一日市驛側線二哩四十五鎖五十節ハ既ニ前年度大部分工事ヲ終ハ本年度ハ僅ニ其殘工事ヲ施工シ昭和二年六月竣功セルヲ以テ石材ノ運搬ハ漸次好成績ニシテ更ニ石材採取工場ノ諸設備完成スルニ於テハ益々其成績ノ向上ヲ期シ得ベシ

土地買收ハ工事上必要缺クベカラザル箇所ノミヲ買收シ川敷用地トシテ本年度買收セル土地ハ六町九段七畝四歩、其金額一萬七千百六十九圓ナリ

改修工事ノ本年度竣功高ハ三十五萬九千八百十三圓、起工以來本年度迄ノ竣功高ハ五百八十五萬九千六百六十一圓ニシテ總工費豫算額一千百七十萬圓ニ對シ約五割ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 掘鑿	八、〇七二、〇三二 立方米	一、八四五、一七三 円	八八四、六六三 立方米	一八五、一一二 円	八、九五六、六九五 立方米	二、〇三〇、二八五 円	〇、五九 割分
築堤	六五二、六〇〇	四六、四六二	一〇八、三五九	三、七〇九	七六〇、九五九	五〇、一七一	〇、三八
護岸水制	—	六二、四〇六	—	一、六〇八	—	六四、〇一四	—
突堤	—	三二、八八四	—	一、五八一	三、三七九 段	三四、四六五	—
用地費	三、三〇九 段	四六二、〇三四	七〇 段	一七、一七〇	三、三七九 段	四七九、二〇四	〇、六八
附帶工事費	二 箇所	六〇、三七七	—	—	二 箇所	六〇、三七七	—
船舶及機械費	—	二、二五三、五〇六	—	六七、六三七	—	二、三二一、一四三	—
測量費	—	四〇、六三二	—	二、五八一	—	四三、二一三	—
營繕費	—	一〇〇、〇三四	—	二、六六三	—	一〇二、六九七	—
雜費	—	五八二、九三七	—	七三、七七五	—	六五六、七一二	—
共濟組合給與金	—	一三、四〇三	—	三、九七七	—	一七、三八〇	—
總計	—	五、四九九、八四八	—	三五九、八一三	—	五、八五九、六六一	〇、五〇

第一〇　江合、鳴瀬兩川改修工事

緒言

本川改修ハ大正六年度ヨリ宮城縣ニ於テ起工シタル事業ニシテ大正十年度ニ至リ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ直接施行スル事トナレリ當初豫算總額五百六十九萬二千圓ノ内縣施行額百三十一萬二千圓ヲ控除シタル殘額四百三十八萬圓ヲ以テ大正十五年度ヲ竣功期限トシ爾來繼續實施中ノ處大正十二年度ニ至リ河川法ニ依ル國ノ直轄工事トナリ同時ニ物價騰貴ニ依ル工費不足額ノ内ニ百萬圓ヲ追加シ事務費ヲ別チ豫算ヲ更正シ工費總額ヲ六百四十七萬四千圓トシ大正十八年度迄ノ繼續事業ト定メタリ超エテ大正十四年度ニ至リ既往ニ於ケル工事施行ノ實績ニ鑑ミ物價騰貴ニ依ル工費不足額三百七十三萬圓ヲ追加シ工費總額ハ一千二十萬四千圓トナリ其竣功年度ハ大正二十四年度ト更定セリ前記工費總額ノ内國ノ施行工事費八百八十一萬二千圓、同施行事務費八萬圓、縣ノ施行額百三十一萬二千圓ナリ改修區域ハ鳴瀬川ニ在テハ宮城縣志田郡高倉村ヨリ河口ニ至ル五十粁六分一吉田川ハ黑川郡落合村ヨリ小川落口二子屋ヲ經テ鳴瀬川ニ沿ヒ河口ニ至ル三十一粁四分又江合川ハ江合橋上流栗原郡宮澤村ヨリ下流志田郡荒雄村大字福沼ヨリ新川ヲ開鑿シ鳴瀬川ニ合流セシムル迄ノ約七粁九分ニシテ延長約九十粁ニ達ス

河狀並計畫大要

鳴瀬川流域ハ江合川流域ニ連リ其面積八百七十九平方粁ヲ有ス本川ノ最上流ヲ夕日川ト稱シ源ヲ陸羽國境宮城縣加美郡小野田村舟ケ嶽ニ發シ同郡山間一帶ノ溪流ヲ合シテ流下シ保能川、田川、荒川、多田川ノ各支川ヲ容レ志田、遠田兩郡ノ平坦部ヲ貫流シ數多屈曲ノ後桃生郡小野村ヲ經テ同郡野蒜村ニ至リ海ニ注グ幹川ノ流路約九十粁ニ及ブ本川中治水上重要ナル區域ハ加美郡中新田附近ヨリ海口ニ至ル約五十一粁ノ間ニシテ流心概シテ統一シ流勢亦緩和シ志田郡三本木町附近以下河床ニ粗礫ヲ見ルコト稀ナリ中新田以下本川ノ右岸ハ山勢稍逼リ耕地大ナラザルモ左岸ハ末流約八粁ヲ除キ廣大ナル平野ニシテ洪水被害ノ大ナルモ亦此區域ナリトス

吉田川ハ源ヲ黑川郡吉岡町ノ西方北泉岳ニ發シ溪流ヲ集メ流程凡三十一粁ニシテ品井沼ニ入ル流域三百八平方粁落合附近ヨリ下流兩岸ハ概ネ堤防ヲ有シ新舊二個ノ潛穴ヨリ高城川ニ出デ松島灣ニ注グ

江合川ハ北上川ノ一大支川ニシテ宮城縣玉造郡荒雄嶽ニ發源シ鬼首村ヲ過ギ大澤、大谷等ノ支流ヲ加ヘ同郡岩出山町ニ至リ漸ク平地ニ臨ミ鳴瀬川ト相竝ビテ東流シ遠田郡涌谷町ヲ經テ桃生郡前谷地村和淵ニ於テ北上川ニ合ス流路約九十八粁、流域六百三十二平方粁ヲ有ス本川ハ志田郡古川町北方江合橋附近ヨリ上流ハ一般ニ流勢急激ニシテ亂流ノ狀態ヲ呈シ諸所ニ砂礫ノ寄洲アルモ同所ヨリ下流ハ河狀一變シ勾配大ニ緩ミ流心漸ク統一ス

今各川ノ灌漑面積竝ニ水害面積ヲ調査スルニ灌漑面積ハ鳴瀬川一萬二千ヘクタール、支川吉田川ハ七百ヘクタール、江合川ハ七千七百九十ヘクタールニシテ水害區域ハ鳴瀬川ニ於テ一萬四百九十ヘクタール、吉田川ニ於テ一千二百ヘクタール、江合川ニ於テ五千七百ヘクタールヲ算ス

改修計畫ハ鳴瀬、江合兩川筋ノ高水防禦ノ目的ヲ達シ竝ニ江合川ニ於テ江合橋以下約二十七粁ノ兩岸堤

防ヲ節約スル目的ヲ以テ荒雄村福沼ヨリ一條ノ新川ヲ開鑿シ以テ江合川洪水全部ヲ導キ之ヲ鳴瀬川ニ合流セシメ鳴瀬川ハ河幅ヲ擴張整理スルト同時ニ堤防ヲ堅牢ナラシメ河積不足ノ所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ爲シ著シキ屈曲ハ之ヲ直通セシメ以テ江合、鳴瀬兩川洪水ノ全部ヲ快通セシメ傍ラ吉田川ハ之ヲ鳴瀬川ヨリ分流シ河口附近ニ於テ鳴瀬川本流ニ注ガシメ品井沼ノ滯水ニ依ル害ヲ輕減セントシ尙併セテ多田川ノ逆水被害ヲ防グ爲メ現在堤防ノ嵩置ヲ爲スモノナリ

計畫高水流量ハ鳴瀬川每秒一千五百三十立方米、江合川同一千三十立方米、吉田川同五百五十七立方米ナリ又河幅ハ鳴瀬川百四十五米乃至三百六十四米、新江合川ハ百二十七米、吉田川上流ハ九十一米乃至三百六十四米、下流ハ七十三米乃至八十二米ナリ

築堤ハ其堤頂ヲ計畫高水位以上一米二トシ馬踏五米五分、兩法二割トシ尙水流衝激ノ局部ニ對シテハ特ニ護岸工事ヲ施シ其他屈曲部ヲ緩和シ用惡水路ノ改築等ヲ圖ルモノナリ

突堤ハ野蒜築港當時築造セシモノヲ利用增築スルモノニシテ東西兩突堤ニ於テ百八十一米ヲ延長ス

施工狀況

本川改修工事ハ大正六年度宮城縣ニ於テ起工シ江合、鳴瀬、吉田ノ三川共上流一部ノ築堤工事（江合川ハ舊川部鳴瀬川ハ支流多田川落合上流部吉田川ハ粕川村ヨリ上流部ノ築堤）ヲ大正九年度迄ニ完成シ大正十年度ニ至リテ內務省ノ直轄事業ニ移セリ爾來計畫、調査、機械購入等諸般ノ準備ニ幾多ノ時日ヲ費シ大正十一年十月ニ至リテ漸ク本工事ニ著手ノ運ビトナリ玆ニ鳴瀬川右岸小野村地內ノ山地切取ヲ始トシ漸次其下流又ハ上流ニ及ボシ以テ現今ニ至レリ

直轄工事ノ本年度末迄ニ施行セシモノハ鳴瀬川ハ下流部ニ於テハ野蒜運河ヨリ小野橋上流ニ至リ中流部ニ於テハ舊小川落合ヨリ木間塚橋上流ニ至ル間ト鹿島臺村舟越地内ノ二區域上流部ニ在テハ東北本線鐵道橋附近ヨリ志田橋附近ニ及ブ築堤竝ニ堤外地ノ掘鑿工事ナリトス吉田川ハ上流部小野村野蒜村地内ノ築堤及掘鑿中流部松島村二子屋地内(舊小川落合附近)岩石地ノ切取工事ヲ施行中ナリ掘鑿機械ハスチームショベル二臺ト一立方碼四分ノ一マリオン三十二番型ドラグラインエキスカヴエーター二臺短梯掘鑿機一時間百二十立方米掘一臺ヲ使用シ二十噸型機關車三臺ヲ配置シテ土砂ノ運搬ヲ掌ラシム其外人力積込小型機關車運搬又ハ人馬力トロ運搬、畚擔等ヲ併用シ掘鑿土砂ヲ利用シテ築堤ヲ完成セシムル方針ニテ工事ヲ進行セシム而シテ大正十一年度以來移動土砂ノ累計ハ二百九十八萬六千三百三十四立方米ニシテ其内八十五萬八千六百三十二立方米ハ本年度ノ施行ニ係ルモノナリ

土地買收ハ工事施行上急ヲ要スル部分ヨリ調査發表ノ方針ニテ本年度迄ニ累計二百六十四町三段歩ノ買收ヲ終ヘ本年度ニ於テハ五十八町三段歩ノ發表ヲ爲セシガ未承諾者アリシタメ結局三十三町二段歩ノ買收未濟地ヲ見ルニ至レリ

本年度ノ竣功額ハ總計五十九萬七百九十圓ニシテ本年度迄ノ直轄施行額累計ハ二百七十七萬二千三百六十三圓ナリ之ヲ國施行工事費豫算額八百八十一萬二千圓ニ比スレバ三割一分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ次ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 掘鑿	二、一二七、七〇二 立方米	四七九、四三四 円	八五八、六三二 立方米	二五一、七四七 円	二、九八六、三三四 立方米	七三一、一八一 円	〇、三三 割分
本工事費 築堤	一、四四七、八〇一	二九二、一八六	三九九、三〇八	一一、七二二	一、八四七、一〇九	三〇三、九〇八	〇、一六
本工事費 護岸	—	一一	—	四、七四二	—	四、七五三	—
用地費	二、一五六 段	六一三、二〇七	四八七 段	一五三、〇二二	二、六四三 段	七六六、二二九	〇、三六
附帶工事費	箇所 二	一〇、〇一二	箇所 二	二四、一五〇	箇所 四	三四、一六二	—
船舶及機械費	—	五五四、二三六	—	八三、二七四	—	六三七、五一〇	—
測量費	—	六、二五七	—	九五九	—	七、二一六	—
營繕費	—	二九、九二三	—	四、九六一	—	三四、八八四	—
雜費	—	一八九、二四二	—	五三、七八一	—	二四三、〇二三	—
共濟組合給與金	—	七、〇六五	—	二、四三二	—	九、四九七	—
總計	—	二、一八一、五七三	—	五九〇、七九〇	—	二、七七二、三六三	〇、三一

第一一　淀川改修增補工事

緒言

淀川改修工事ハ明治二十九年度ニ起工シ同四十四年度ニ於テ工費一千六萬餘圓ヲ以テ滋賀縣瀨田川以下海ニ至ル高水工事ヲ一旦結了シタルモ大正六年十月計畫高水ニ達スル大出水ニ際シ右岸大冠村地先淀川本堤竝ニ改修區域外ナル支川數箇所ニ破堤ヲ生ズルニ至レリ之レガ爲メ直接損害高六百餘萬圓ニ上リ其他交通、衞生ノ障害ニ因ル間接ノ影響ハ實ニ計數ヲ以テ揣リ難キモノアリ政府當局ニ於テモ此慘害ニ鑑ミ尙增補工事ヲ行ヒ安全ヲ計ルノ緊急ナルヲ認メ京都府伏見町以下ニ對シ大正七年度以降同十二年度ニ至ル六箇年間繼續事業トシテ工費五百七十六萬圓、俸給、事務費二十一萬圓、合計五百九十七萬圓ノ豫算ヲ以テ高水工事ヲ施行スルコトトナレリ其後歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ物價勞銀暴騰ノ爲メ大正十二年度ニ於テ施行年限ヲ大正十五年度迄三箇年延長スルト共ニ工費ヲ一千二百一萬三千五十一圓(內事務費二十一萬二千五百七十四圓)ニ增額スルコトトナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ施行年限一箇年度ヲ延長シ昭和二年度竣功ノ豫定ヲ以テ施行中ノ處尙追加施行ノ必要ヲ生ジ工費增額二百五十五萬七千圓、施行年限延長三箇年度卽チ總工費一千四百五十七萬五十一圓(內事務費二十一萬二千五百七十四圓)昭和五年度竣功ノコトニ目下審議中ナリ

河狀竝計畫大要

淀川ハ流域八千二十平方粁ニシテ其內五割弱ハ琵琶湖ノ水域、二割ハ木津川、一割三分ハ桂川、殘餘ノ二割

弱ハ本流沿岸ノ流域ニ屬ス幹川流路ノ延長ハ湖水流出口伏見間三十粁伏見以下海口間四十六粁合計七十六粁ニシテ其滋賀縣ニ屬スル部ヲ瀨田川京都府ニ屬スル部ヲ宇治川ト稱ヘ京都大阪兩府界ナル山崎ニ於テ宇治木津桂ノ三川合流シテ淀川本流トナル

流域内耕宅地ノ總面積ハ約十九萬八千ヘクタールトス其内沿岸平坦部ハ琵琶湖沿岸三萬四千七百ヘクタール山城平地部一萬五千九百ヘクタール攝河平野三萬四千七百ヘクタール合計八萬五千三百ヘクタールニシテ本川改修ト密接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ

既往調査ノ結果ニ依レバ洪水ノ最大流量ハ宇治川毎秒八百三十五立方米木津川四千六百五十立方米桂川一千九百五十立方米三川合流以下淀川本流五千五百六十立方米トス低水流量ハ淀川本流平均低水位ニ於テ毎秒百九十五立方米餘ニシテ如何ナル渴水時ト雖モ八十三立方米ヲ下ルコトナシ但シ渴水ノ大部分ハ宇治川ヨリ來ルモノニシテ琵琶湖貯水ノ放流ニ因ルモノナリ

今回ノ改修區域ナル伏見以下幹川ノ水面勾配ハ高水低水共ニ概ネ三千分一以下ノ緩流ニシテ舟運上最モ利用サルル區域ナリ增補工事ノ計畫ハ大正六年十月ノ洪水ニ鑑ミ第一伏見觀月橋以下ニ於ケル堤防ノ餘裕ヲ同年ノ洪水位以上一米二乃至一米五ニ增築スルコト第二伏見町ノ浸水ヲ防止スル爲メ新堤ヲ築造セルコト第三三川合流附換ヲ爲スコト第四橋本下流ニアル中洲ヲ除去スルコトヲ主要ナル工事トス尙前改修ニ於テハ包含セザリシ各支川堤防モ幹川洪水ノ及ブ範圍ニ限リ相當補强スルコトトセリ

幹川堤防ハ馬踏幅大體五米五所定洪水位以下〇米六及三米三ノ所ニ各幅三米七ノ裏小段ヲ同上三米ノ所ニ幅九米一ノ表小段ヲ設ケ法勾配ハ表小段以上二割同以下三割裏上部小段以上二割同以下二割五分ヲ標準斷面トシ地形及地質ニ應ジ小段ニ多小ノ變更ヲ爲ス大體ハ外腹付ナルモ地形上之ヲ許サザル區

間及屈曲矯正箇所ハ内腹付トス

三川合流以下堤防高ハ所定高水位以上一米五トシ非常特別流量毎秒六千六百八十五立方米ヲ疏通シ尙堤防ニ〇米九ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ宇治川筋ハ木津川合流點附換ニ因ル水位低下ヲ豫想シ所定高水位以上一米二ニ止ムルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年五月調査測量ヲ開始シ同年末略之ヲ終ヘ同八年二月ヨリ大阪府枚方町ニ事務所ヲ置キ工事ニ著手セリ爾來水防上比較的不安ナル重要區域ニ對シ先ヅ以テ工事ヲ進ムル方針ニテ人員及土工機具ヲ配置シ專ラ築堤、中洲掘鑿及護岸ノ普及ヲ圖レリ

本年度迄ノ竣功總高ハ築堤七百七十八萬六千餘立方米此工費二百三十萬五千餘圓、掘鑿及浚渫ハ四百九十四萬一千餘立方米此工費百五十萬一千餘圓、護岸水制延長三萬九千八百餘米此工費百三十六萬六千餘圓、閘門洗堰及樋門等ノ特種工事五箇所此竣功額三十五萬三千餘圓ニシテ其内本年度竣功高ハ築堤九十九萬餘立方米工費十六萬二千餘圓、掘鑿七十一萬三千餘立方米工費二十萬三千餘圓、護岸水制延長二千六百餘米工費十四萬九千餘圓、特種工事二箇所分工費十萬八千餘圓ナリ

以上本工事ノ竣功總高ハ計畫全量ニ對シ略八割四分ニ當ル此外樋門其他ノ附帶工事ノ進捗程度ハ幾分本工事ニ及バス今之ガ施工ノ概況ヲ上流部ヨリ順次述ブレバ次ノ如シ

伏見横大路、向島方面　此方面ノ主ナル工事ハ伏見締切新堤竝ニ之レニ伴ヒ必要ヲ生ジタル派川平戸川締切樋門、三栖閘門及洗堰、高瀬川附換、京都市疏水放水路、新設電車橋二箇所、府道橋二箇所ニシテ其他ハ在

來築堤ノ嵩置腹付竝ニ伏見及横大路護岸等ナリ以上ノ内三栖閘門及高瀨川築堤竝ニ之レニ關聯セル工事ハ目下施行中ナルモ其他ノ築堤及護岸ハ本年度ヲ以テ竣功セリ築堤ハ總テ堤外中島機械掘鑿土砂ヲ使用スルモノニシテ本年度ノ運搬土量ハ二十一萬四千餘立方米此掘鑿運搬費六萬三千九百餘圓ナリ横大路護岸ハ延長一千九百七十米餘工費九萬二千餘圓ヲ以テ本年度始ニ竣功ス平戸閘門ハ工費五萬七千餘圓ニシテ十四年度末竣功シ三栖洗堰ハ所要工費十萬二千圓ヲ以テ本年度竣功ス三栖閘門ハ二十五萬三千圓ノ豫算ニテ大正十五年二月著手シ本年度末迄ニ扉製作取付ヲ除キ略計畫通リ施行セリ高瀨川附換關係ノ工事ハ築堤其他ノ土運搬約六十八萬立方米餘ノ内約三分ノ二ヲ終ヘ目下殘工事ノ進行ニ努メツツアリ新川横斷ノ府道橋一箇所京阪電車橋ハ竣功シ其他府道橋一箇所用水樋二箇所工事中ニシテ尙築堤ノ進行ニ伴ヒ道路及用惡水工事ノ施行ヲ要スルモノアリ之レガ準備中ナリ疏水放水路工事ハ上流分流點ニ於ケル制水門ヲ除キ其他ハ竣功セリ

淀御牧方面　此方面ハ前回ノ淀川改修ニ依リ附換サレタル新宇治川堤防ノ嵩置腹付ヲ爲スモノニシテ左岸ハ木津川落合附近迄右岸ハ淀大橋迄何レモ前年ヲ以テ竣功セリ此土量左岸二十八萬二千餘立方米工費十七萬四千餘圓右岸二十萬六千餘立方米工費九萬餘圓ヲ要セリ左岸美豆村地先淀大橋下流堤防裏法先惡水路沿石張延長一千六百九十一米ハ工費一萬三千餘圓ニテ十四年度ニ竣功ス右岸淀大橋ヨリ下流ノ築堤ハ三川合流工事ノ掘鑿土砂ヲ利用シ前年度ヨリ引續キ施行中ニシテ京阪電車橋迄ハ計畫高迄竣功セリ

宇治、木津、桂三川合流方面　三川合流附換工事ハ宇治川ニ對スル木津川洪水ノ害ヲ緩和スル目的ニシテ現在ノ宇治、桂隔流堤ノ上半ヲ切リ取リ之ニ宇治川低水路ヲ通シ殘部下半ヲ現在ノ木津、宇治兩川末端釵

先堤防ニ取付クルモノナリ之レニ伴ヒ施行スベキ工事ハ桂川右岸山崎引堤、桂川低水路ノ附換、宇治新堤水路ノ開鑿、宇治、桂脊割堤並ニ用悪水路樋門移轉等ノ工事ニシテ此掘鑿運搬土量約百二十萬立方米、護岸延長約七千米ナリ此内施工順序上最モ急ヲ要スル山崎引堤ハ用地買收ノ調停漸ク前年度末ニ解決セルヲ以テ本年度ニ於テ極力工事ノ進捗ニ努メ引堤土量三十七萬八千餘立方米ノ八割餘ト引堤ニ關係アル樋門四箇所ノ移轉ヲ略完了セリ

桂川低水路附換ハ年度末ニ至リ舊川締切新川通水ヲ行ヒ宇治川新低水路開鑿ハ現在宇治、木津隔流堤以西ノ掘鑿ヲ概略了ヘ目下宇治、桂兩川新低水路間ノ脊割堤土工及護岸ヲ施行シツツアリ現在隔流堤上半ノ附換ハ明三年度冬期ニ於テ施行ノ豫定ナリ

此外八幡町地内淀川本流筋左岸築堤、護岸及木津川筋兩岸築堤ハ既ニ完了ス此築堤土量二十七萬五千餘立方米工費十三萬六千餘圓、護岸延長千九百米工費三萬三千餘圓ヲ要セリ

樟葉、牧野、島本、五領方面　此方面ノ工事ハ在來堤防ニ對スル嵩置腹付、中島掘鑿及護岸ニシテ起工以來引續キ施工ノ結果略竣功セリ殘工事ハ僅カニ府界ニ近キ電車軌道併用堤防四百米ノミナリ掘鑿土量ハ樟葉村六十萬九千餘立方米、牧野村六十三萬餘立方米、島本村十七萬三千餘立方米、五領村三十四萬三千餘立方米、合計百七十五萬餘立方米ニ達ス此内機械掘鑿約百萬立方米工費二十二萬八千餘圓ニシテ掘鑿土砂ハ大部分築堤ニ利用セリ護岸ノ主ナルモノハ上牧護岸延長四百五十五米、前島護岸延長一千七百米、合計二千百五十五米此工費十四萬三千餘圓ヲ要セリ

枚方、大冠、三箇牧方面　此方面ハ水防上重要區域ナルヲ以テ大正八年著工以來極力築堤土工ノ進捗ヲ計リ表小段上九十糎迄ノ腹付ハ既ニ十年度迄ニ大體終了シ大正十年九月ノ出水ハ枚方標最高五米四十四

糎ヲ示シ同六年ノ大洪水ニ比シ僅ニ十二糎ノ下位ニシテ馬踏以下一米ニ達スル大出水ナリシモ水防上危險ト認ムル事故ヲ見ザリキ是レ殆ド前例ナキ事實ニシテ増補腹付工事進捗ノ效果ト認ムルヲ得ベシ其後機械掘鑿土砂ヲ利用シ計畫馬踏高迄ノ嵩置腹付ヲ施シ前年度迄ニ本支川全部竣功セリ但シ蹉跎村字出口樋門及友呂岐村字木屋樋門箇所ハ枚方以下左岸八樋管合同ノ議目下進行中ノ爲メ擴築未濟ナリ

蹉跎村、友呂岐村、大冠村及三箇牧村地先洪水敷又ハ中島ノ掘鑿ハ主トシテ機械ニ依リ大正九年度以降同十四年度迄ニ完了セリ此掘鑿土量百三十六萬四千餘立方米工費三十八萬七千餘圓ナリ掘鑿土砂ハ總テ下流方面ニ運搬シ左岸庭窪村及守口町、右岸大阪市部江口町、大道町、豐里町方面ニ於ケル築堤土砂ノ不足ヲ補ヒタリ之レガ爲メ運搬距離遠キハ十粁ニ及ビ運搬用機關車ハ常時一線ニ二臺ヲ使用セリ

護岸ハ總テ大正十二年度迄ニ竣功シ此總延長七千五百餘米工費二十三萬九千餘圓ナリ此内主ナルモノハ左岸枚方護岸延長一千九百十八米工費五萬一千三百餘圓、右岸三箇牧護岸延長三千四百二十五米工費十四萬九千百餘圓ナリ以上何レモ幅三米六十四米乃至四糎五十四糎ノ石張ニシテ根固トシテ杭打又ハ粗朶沈床ヲ施工ス

佐太、鳥飼方面　此方面モ枚方方面ト同樣急速腹付施工ノ必要アルヲ以テ表小段上九十糎高迄ハ大正十一年度迄ニ略全區域ニ亙リ施工ヲ終リ其後上流部洪水敷機械掘鑿土砂ヲ利用シ大正十四年度迄ニ全築堤ヲ完成セリ殘工事ハ左岸二樋管工事ノミニシテ樋管合同ノ議解決ヲ俟ツテ施行ノ豫定ナリ

築堤土量ハ左岸九箇庄村二十二萬餘立方米、庭窪村四十四萬餘立方米、右岸鳥飼村三十五萬二千餘立方米、味生村十萬三千餘立方米、中洲掘鑿ハ九箇庄機械及人力掘鑿土量十六萬六千餘立方米工費四萬一千七百餘圓、鳥飼村機械及人力掘鑿土量十一萬五千餘立方米工費四萬二千百餘圓ナリ掘鑿土砂ハ何レモ大部分

下流部築堤箇所ニ運搬セルモノナリ

護岸ハ何レモ大正十二年度迄ニ竣功シ其總延長九千五百七十米工費三十八萬四千餘圓ヲ要セリ何レモ上流部ト同樣ノ石張護岸ニシテ之レヲ村別ニ區分スレバ左岸九箇庄村三千三百四十五米工費十萬四千餘圓、庭窪村二千四百四十五米工費十四萬一千餘圓、右岸鳥飼村三千七百八十米工費十三萬九千餘圓ナリ

守口、大道、豐里方面　此方面ハ上流各樋門ト合同ノ議懸案トナレル左岸二樋門箇所築堤ヲ除ク他ノ工事ハ全部竣功ス

築堤ノ土量ハ左岸橋寺、赤川間二十六萬五千餘立方米、右岸大道町六萬七千餘立方米、豐里町二十四萬立方米ニシテ此方面ハ全川中土砂最モ拂底ニシテ何レモ地先中洲採取土砂ノミニテハ不足セシヲ以テ上下流中洲掘鑿土砂ヲ以テ補充セリ護岸ノ竣功總延長二千六百七十四米工費五萬九千七百餘圓ニシテ總テ石張護岸トシ大正十四年度迄ニ竣功セリ

毛馬、赤川、柴島方面　此方面ノ築堤ハ大正十三年度ニ著手シ前年度ニ全部完了セリ此總土量左岸毛馬町及赤川町二十二萬八千餘立方米、右岸柴島町十二萬九千餘立方米ニシテ毛馬及赤川ハ地先川中寄洲ヨリ土砂ヲ自辨採取シ柴島ハ地先洪水敷掘鑿土砂ヲ利用セリ柴島築堤ハ交通頻繁ニシテ沿道人家櫛比セル馬踏府道併用箇所ノ嵩置腹付ナルヲ以テ施工上最モ困難セリ柴島護岸ハ大正十四年度ニ著手シ同年度ニ於テ殆ンド完成セリ此延長五百五十四米工費二萬三千餘圓ヲ要セリ

新淀川方面　左岸築堤ハ大正十四年度ニ著手シ下流傳法町ヨリ上流ニ向ツテ工事ヲ進メ本年度末迄ニ二十七萬五千餘立方米右岸築堤ハ前年度ノ著手ニシテ下流ニ向ツテ進ミ十八萬七千餘立方米ノ土運搬ヲ終ヘタリ全築堤ニ對シ左岸ハ約七割右岸ハ約四割ノ功程ニ達ス長柄護岸ハ延長八百五十九米内百三

十四米ハラルゼン一號型鐵矢板、七十二米ハテルルージュ二號型鐵矢板、六百五十三米ハ鐵筋混凝土矢板護岸トシ深掘ノ箇所ニハ粗朶沈床ヲ施工スルモノトシ昭和二年五月著手以來極力工事進捗ヲ計リ本年度末迄ニ矢板打ハ略終了シ引續キ沈床及石張施行中ナリ

今後起工スベキ主ナル工事ハ毛馬閘門及洗堰補强繼足、長柄給水工、長柄運河頭部制水門等ナリ

附帶工事　附帶工事トシテ施行セル工事ノ起工以來本年度末迄ノ竣功工費百二十六萬二千餘圓（內國庫補助額八十萬八千餘圓）施行箇所四十二箇所ニシテ總附帶工事費ノ約七割三分ニ當ル其內本年度竣功高ハ工費十五萬七千餘圓內國庫補助額十萬五千餘圓）施行場所十四箇所ナリ

本年度竣功附帶工事ノ主ナルモノハ府道橋三栖橋四萬餘圓、島本村字山崎惡水樋管九千餘圓等ナリ

目下施工中ノ主ナルモノハ京都府下ニ於テハ新高瀨川筋ヲ橫斷スル府道橋繩手橋ノ新規架設工事、大池樋門補修、大山崎村用惡水施設等ニシテ大阪府下ニ於テハ京阪電車橋桁上ゲ工事二箇所、神崎樋門改築工事等ナリ

土地買收　起工以來本年度迄ノ總支出額ハ前年度末ト同ジク百七十五萬一千餘圓ニシテ其內田畑三百三十一町餘價額百三十九萬九千餘圓、宅地工場敷地ハ二町七段餘價額八萬三千五百餘圓、雜種地ハ六十七町六段餘價額十萬六千九百餘圓、地上物件移轉補償等十六萬一千餘圓ニシテ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ本年度末ニ於ケル未解決數件中ニハ協議買收ノ見込ナキモノアリ之等ハ後年度ニ於テ土地收用法ニ依リ處理スルコトトセリ

以上工事ノ狀況ヲ綜合スルニ京都府下ニ於テハ伏見觀月橋以下本川筋兩岸ノ築堤、護岸等ハ大略終了シ目下伏見町三栖閘門及高瀨川關係ノ工事並ニ三川合流附換關係工事ノ進捗ニ努メツツアリ

大阪府下ニ於テハ京都府界以下大阪市毛馬町ニ至ル間ノ諸工事ハ殆ンド成功シ目下同町以下兩岸ノ築堤及長柄護岸工事中ニシテ今後起工スベキ主ナル工事ハ毛馬閘門及洗堰補强繼足工事ナリ

淀川增補工事ノ本年度竣功額ハ九十九萬四千五百六十四圓ニシテ起工以來ノ累計一千百六十四萬二千三百二十八圓ナリ之ヲ總工費豫算一千百八十萬四百七十七圓ニ比較スレバ九割八分ノ竣功トナレドモ目下豫算增額要求中ノ工費二百五十五萬七千圓ヲ合算シタル一千四百三十五萬七千四百七十七圓ニ比較スルトキハ八割一分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔品價額「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無代價品評價額「△」ハ製作品使用價額「×」ハ占用禁止補償額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
築堤	※	▲○ 二、一四二、三五五、三八八、五七九円	※	▲○ 一六二、二一七、八四五、一四八、五七七円	※	▲○ 二、三〇五、二二七、五二三、七四六円	〇・八七
掘鑿	三、三六四、五三二、四三一、三三五 立方米	▲○ 一、二八六、七三五、三六三、二〇九	二、七六四、〇七〇、一四〇、二四 立方米	▲○ 二〇三、五二六、五一、三三〇、三五	四、八九三、九八〇	▲○ 一、四九〇、二六一、八三、九六七、九六三	
浚渫	九、六〇六	▲ 三、八八六、四六四	三、七、七二五	▲ 七、二七五、八五六、三三	四、七、三三一	▲ 一、一六一、九、〇二七一	
護岸水制	三、七、二〇八米	▲○ 一、二一六、七四八、二六、八四八、三五四五	二、六四〇米	▲○ 一四九、二六三、四六六、七二、六六〇、三五七、二五四	三九、八四八米	▲○ 一、三六六、〇一一、三三、一六、六二〇、九四四	〇・六三
特種工事	箇所 四	▲○ 二四四、七八四、六三五、一四九	箇所 一	▲○ 一〇八、二五四、一四三	箇所 五	▲○ 三五三、〇三八、七七五、九四九	〇・五一
用地費	四、〇一段	× 一、七四七、四六六、一六五			四、〇一段	▲ 一、七四七、四六六、一六五	
附帶工事費	箇所 二二	□○ 七〇三、二一七、二五五、九五四、六四	箇所 六八	□○ 一〇五、二一六、五二、二一一、一〇	箇所 三四八	□○ 八〇八、九六六、二七八、一五四、七五	〇・七三
船舶及機械費		△ 二、一五七、一七四三、九七二、二四		△ 一一七、一九四		△ 二、二七四、九二三、一九二四	
測量費		▲ 四一、一八四		▲ 四、三六七、三六〇		▲ 四、五五一、三六〇	
營繕費		一五三、一七四		六、七五二		一五九、九二六	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
雜費	—	〇	—	〇	—	〇	割分
亡失毀損費	—	八九六、二四六円 五七七	—	一二一、四六円 一八二	—	一、〇一七、七一円 七五九〇	—
共濟組合給與金	—	一、〇〇五	—	—	—	一、〇〇五	—
	—	二九、〇九五	—	八、四一八	—	三七、五一三	—
總計	—	□▲〇	—	□▲〇	—	□▲〇	〇、八一
	—	一〇、六四七、七 二三七二、六五四 五八〇六五四 九〇五七五 四六七五	—	九 一九四、五六 五〇五七四、 二五七六、 一三一四 一八五	—	一一、六四二、三 二一、八四三、三 七四〇二、二八 八三三七 一三三五 五九〇八 七五	

第一二　千曲川改修工事

緒言

本川ハ長野縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ流域ノ廣大ナルト共ニ其水害モ亦甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百五十萬圓(內長野縣負擔額四百二十五萬圓)ヲ以テ起工セシニ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年三百三十二萬九千圓(內長野縣負擔額五十二萬一千五百圓)ヲ增額スルト同時ニ施行期限ヲ昭和六年度迄繰延ベタルモ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ更ニ五箇年度ヲ延長シ其工期ヲ昭和十一年度迄ニ繰延ベ總工費豫算一千二百十萬四千圓(內事務費二十七萬五千圓)ヲ以テ施行スルコトトナレリ

本工事ハ幹川ニアリテハ左岸上田市,右岸小縣郡神川村以下下高井郡高丘村大字立ケ花ニ至ル五十七粁竝ニ其下流左岸下水內郡秋津村,右岸下高井郡倭村以下同郡瑞穗村,左岸下水內郡太田村ニ至ル十三粁,支川犀川ニアリテハ右岸更級郡共和村以下幹川合流點ニ至ル十粁延長八十粁ノ間ニ於テ河身ノ改修ヲ爲シ以テ洪水ノ害ヲ防禦セントスルニアリ

河狀竝計畫大要

本川ハ流路延長一千五百九十一粁(內幹川二百粁)流域面積七千百十平方粁(內平地面積一千三十三平方粁)ニシテ灌漑面積五萬百七十ヘクタールナリ而シテ改修區域內ニ於ケル水害區域一萬五千百九十三ヘク

タール、水害損失平均年額百十八萬六千七百五十八圓(明治三十九年ヨリ大正九年ニ至ル十五箇年間)ナリトス

本川改修ノ目的ハ主トシテ沿岸地ノ洪水防禦ニアリテ被害激甚ナル地方ノ無堤部ニ堤防ヲ築造シ有堤部ニアリテモ其構造薄弱ナル箇所ハ之レヲ補強シ以テ堤内地ノ安全ヲ計ラントス卽チ改修區域内下高井郡高丘村大字立ケ花以下下水内郡秋津村大字蓮ニ至ル狹搾部ヲ除キ河積足ラザル所ハ之ヲ掘鑿シ常ニ汎濫スル箇所ハ堤防ヲ築キ以テ河狀ヲ整理スルト同時ニ舊堤ハ努メテ之ヲ利用シ洪水ノ疏通及惡水ノ排除ニ遺憾ナキヲ期セリ

流量ハ主トシテ明治四十三年及大正三年ニ於ケル高水位ニ據リ調査考究ノ末千曲、犀兩川合流點迄ハ兩川共各毎秒二千七百八十三立方米トシ合流點以下ノ幹川ヲ毎秒五千五百六十五立方米ト定メタルモ元來河狀著シク不規則ニシテ且屈曲甚シク霞堤或ハ無堤ノ箇所斷續シ到底河幅ノ整一ヲ期シ難キモ大體次ノ如ク整理スルモノトス

上田附近	二二〇米	
鼠附近	三六五	
稻荷山附近	四二〇	
稻荷山附近以下犀川合流點迄	四九〇	
犀川合流點以下	九一〇米	
飯山平	八二〇	
犀川	五四五	

築堤ハ馬踏七米二、兩法ヲ各二割トシ其天端ヲ計畫高水位上一米五トシ成ルベク舊堤ヲ利用シテ嵩置腹付ヲ施シ尙其安全ヲ期センガ爲メ裏法ニ小段ヲ設ケ堤高三米六以上四米五未滿ハ小段幅二米七(堤頂以下二米七)、堤高四米五以上五米五未滿ハ小段幅四米五、堤高五米五以上ハ小段幅七米二トス而シテ築堤ノ

總延長ハ百三十九粁、其土量ハ五百七十八萬九千九百立方米トス

掘鑿ハ土量多カラザルニヨリ悉ク人力掘トシ土運車ニ依リ大部分築堤敷ニ運搬投棄スルモノニシテ其總土量九十五萬九千四百立方米トス

護岸ハ大體石張工ニシテ堤腹ノ法面直接河水ニ接觸スル所若クハ其侵害ヲ被ムルノ虞アル箇所ニ施行ス其高サハ大體ニ於テ高水位ニ達セシムルモノトシ又流勢並ニ河狀ヲ參酌シテ木工沈床、金網蛇籠、片枠留等ノ根固工事ヲ施行シ或ハ杭柵、聖枠等ノ水制工事ヲ增設スルモノトス

特種工事ハ支川蛭川、赤野田川、百々川、淺川、篠井川、樽川其他小支流ニ水門ヲ設ケ洪水ノ際ニハ門扉ニ依リ逆流ヲ防止スルモノトス

附帶工事ハ用惡水樋門用惡水路、道路及橋梁ノ新築或ハ改築ヲ要スルモノアルヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ノ創業ニシテ直チニ施行準備ニ著手シ同八年二月ヨリ土地買收ヲ始メ其進捗ニ從ヒ千曲、犀兩川ノ左右兩岸ニ築堤ヲ主トシ護岸、水制並ニ水門其他ノ諸工事ヲ施行シツツ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ施行ノ工事四十八箇所及新タニ著手セシモノ十四箇所、計六十二箇所ヲ實施シ築堤四箇所、護岸五箇所、水制一箇所、水門二箇所、採石一箇所、附帶工事暗渠二箇所、計十五箇所ノ竣功ヲ見タリ又土地買收ハ上流左岸小縣郡川邊村以下更級郡力石村、右岸小縣郡鹽尻村以下埴科郡坂城町ニ至ル延長約二十粁及各所ニ於テ小部分ノ買收未濟ヲ殘シ殆ンド全線ニ亙リ買收ヲ了セリ作業出

役者ノ多クハ沿岸住民ニシテ農蠶業ノ餘暇ヲ以テ出役スルモノナレバ夏季ニ勞力ノ不足ヲ告グルヲ以テ冬季農閑期ニ於テ特ニ進展ヲ圖リ居レリ今本年度施行ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

築堤工事　前年度ヨリ繼續施行セル二十六箇所及新タニ著手ノ三箇所、計二十九箇所ノ工事ヲ實施シ內四箇所ヲ竣功セリ而シテ築立ニハ根掘土ヲ利用ノ外舊堤及堤外地ヨリ採土シ運搬ニハ人力又ハ馬力ニ依リ土運車、笊等ヲ使用シ土量四十七萬五千二百五十七立方米ノ築立ヲ了セリ

護岸工事　前年度ヨリ繼續セル六箇所及新タニ著手ノ三箇所、計九箇所ヲ實施シ內五箇所ヲ竣功セリ卽チ石張、木工沈床並ニ捨石工ヲ施設シ延長一千四百七十六米ヲ竣功セリ

水制工事　前年度ヨリ繼續セルモノ一箇所ニシテ殆ンド竣功セシモ河水ノ狀勢ニ鑑ミ一部ニ補足工事ヲ施シ竣功ヲ告ゲタリ

水門工事　前年度ヨリ繼續セル篠井川、生仁川及蛭川ノ三箇所及新タニ赤野田川及宮川ノ二箇所ニ著手シ何レモ掘鑿、埋戻、基礎混凝土、本體擁壁混凝土等ヲ實施シ生仁川及蛭川等ノ二水門ヲ竣功セリ混凝土ハ手煉又ハ混凝土混合機ヲ使用シ又河水ノ滲透、地下水ノ涌出等ノ排水ニハ石油發動機及電動機ニ依リ渦卷喞筒ヲ使用セリ

採石工事　前記諸工事ニ使用スル石材ヲ人力ニ依リ採取ノ上使用各地ヘ荷馬車ヲ以テ運搬配給スルモノニシテ四千百五十二立方米ノ石材ヲ斫出シ各使用箇所ヘ九百五立方米ヲ搬出シタリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ改修工事區域內ニ屬スル飯山町外十三箇町村內ノ堤敷及堤外地ノ買收並ニ地上物件ノ移轉ヲ實施ス右ハ何レモ土地收用法ニ據ラズ協議ヲ以テ施行シ支拂金額四萬四百二圓ナリトス

機械工場ニアリテハ本川使用ノ諸機械ノ修理製作ニシテ規模大ナルモノハ新潟機械工場ニ依囑シ他ハ現場附近ノ民間鐵工場ニ請負ハシメタリ

附帶工事トシテハ前年度ヨリ繼續セル樋管工事六箇所、道路附換一箇所及新タニ著手ノ樋管工事五箇所、道路附換一箇所、計十三箇所ヲ實施シタリ

本年度ニ於ケル竣功額四十五萬六千九百五十圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計六百八十二萬七千八百六十三圓ナリ之レヲ工事費豫算一千百八十二萬九千圓ニ比スレバ五割八分ノ竣功ナリ今其工事竣功表ヲ示セズ左ノ如シ「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費（築堤）	三、三七一、八六八 立方米	二、〇〇四、四六五 円	四七五、二五七 立方米	二一六、四〇三 円	三、八四七、一二五 立方米	二、二二〇、八六八 円	〇、六六 割分
護岸水制	—	八七七、六二七	—	四三、四二九	—	九二一、〇五六	〇、三八
水門	竣功 三箇所	一、七六、四九五	竣功 二箇所 未竣功 三箇所	三七、一二二	竣功 未竣功 三箇所	二一三、六一七	〇、二五
用地費	二、六六二段	一、七四六、一五七	三三段	四〇、四〇二	二、六九五段	一、七八六、五五九	〇、六六
附帶工事費	竣功 二九箇所	□ 一〇六、三五二 六〇、五七八	竣功 未竣功 二〇箇所	□ 二五、六一一 八、五二二	竣功 未竣功 二〇箇所	□ 一三一、九六三 六九、一〇〇	—
船舶及機械費	—	六〇六、六八九	—	二一、五八九	—	六二八、二七八	—
測量費	—	三九、四一五	—	一、九七八	—	四一、三九三	—
營繕費	—	九七、〇九四	—	七、六六八	—	一〇四、七六二	—
雜費	—	七〇六、〇二四	—	五九、九四四	—	七六五、九六八	—
共濟組合給與金	—	一〇、五九五	—	二、八〇四	—	一三、三九九	—
總計	—	□ 六、三七〇、九一三 六〇、五七八	—	□ 四五六、九五〇 八、五二二	—	□ 六、八二七、八六三 六九、一〇〇	〇、五八

第一三　加古川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算四百八十五萬圓ナリシガ物價騰貴ノ爲メ大正十二年三百萬圓ヲ增額シ總額七百八十五萬圓ヲ以テ昭和八年度迄延長施行ノコトトナレリ其區域ハ左岸兵庫縣加東郡市場村、右岸同縣同郡來住村以下海ニ至ル間ニシテ左岸ハ十六粁六、右岸ハ十七粁二ナリ

河狀並計畫大要

本川ハ流域面積一千八百五十平方粁、流路延長八百四十四粁（內幹川九十二粁）、航路延長九十粁（內幹川七十五粁）、灌漑面積一萬一千九百ヘクタール（內幹川四千六百ヘクタール）ヲ有スル河川ニシテ一名印南川又ハ氷河ト稱ス其源ヲ兵庫縣氷上郡神樂村稻土粟鹿山ニ發シ氷上郡內ニアリテハ神樂川又ハ佐治川ト稱シ丹波、播磨ノ國界ニ至リテ篠山川ト合シ初テ大河トナリ南流シテ多可郡ニ入リ幾多ノ河川ヲ併合シテ國包ニ至リテ加古川ト稱ス夫ヨリ山陽線加古川驛ノ西南ニ於テ東西二派ニ分レ其幹流ハ高砂ト尾上トノ間ニ於テ海ニ入リ派流ハ高砂ヲ抱圍シテ荒井村ノ西ニ於テ海ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ播州ノ沃野ヲ橫斷シテ古來灌漑ノ利ト運輸ノ便トニ依リテ流域內ノ文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ナルノミナラズ比年上流ノ土砂流出

シテ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク明治四十年ノ水害ノ如キハ浸水田畑一萬八千百ヘクタール、損失價額百萬六千百六十六圓ニ上レリト云フ(大正十年ニモ亦百一萬八百二十五圓ノ損害アリ)而シテ是等大洪水ハ凡四年目毎ニ發生シ小水害ニ至リテハ殆ンド枚擧ニ遑アラザル狀態ナレバ全川ヲ通ジテ洪水防禦ノ必要ヲ感ズルコト切ナレドモ上流ハ被害區域比較的狹ク損害ノ程度著シカラザルヲ以テ本計畫ニ於テハ先ヅ下流水害ノ最モ顯著ナル部分約十七粁七ノ區域ヲ限リ改修工事ヲ施スコトトシ左支美囊川合流點附近河積ノ充分ナラザル所ハ河幅ヲ擴メ或ハ河底ヲ掘リ下ゲ又同所以下加古川町ニ至ル間ハ在來ノ堤防中利用シ得可キモノハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ河狀ヲ整理シ以テ必要ナル河積ヲ與ヘ又無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ高水量四千四百五十立方米ヲ快疏セシムルヲ程度トシ尙堤防ハ高水以上堤頂迄ノ餘裕ヲ一米五ト定メタリ

本川ハ加古川町ノ下ニ於テ東西ニ分派スレドモ派川洗川ノ方ハ維持上ノ必要ニ依リ之ヲ締切リテ唯平水量ノミヲ通ズルニ止メ幹川ノ方ハ河積充分ナラザルヲ以テ河幅ヲ擴メ尙感潮部ハ河底ヲ浚渫スルコトトス又河口ニ於ケル高砂港ハ從來非常出水ノ場合ニハ必ズ浸水ヲ免カレザリシヲ以テ同町ノ堀川ハ新堤ヲ以テ之ヲ本川ト隔離シ其上端ニハ樋門ヲ設ケ平時ハ通水通船ノ用ニ供シ洪水ノ際ニハ之ヲ閉鎖シ以テ高砂町ヲシテ全然洪水ノ害ヲ免カレシムルモノトス

河幅ハ在來ノ堤防位置極メテ不整ナレドモ河積不足ノ爲メニ已ムヲ得ザル場合ノ外ハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ法線ヲ定メタルヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦河幅ノ廣狹一樣ナラズ卽チ改修區域ノ上端(左岸加東郡市場村右岸同郡來住村間)ニ於テハ三百二十七米ニシテ夫レヨリ以下一縮一張シテ左岸加古郡加古川町、右岸印南郡米田村間ニ於テハ四百九米トナリ特ニ加古川町以下ハ從來兩派ニ分流シタル洪

水量ヲ一川ニ合併スルコトトナリタルガ爲メ勢ヒ廣大ナル河幅ヲ要スルヲ以テ河口（左岸加古郡尾上村、右岸同郡高砂町間）ニ於テ六百二十四米ト定メタリ

堤防ハ全川左右岸共馬踏七米二、表二割、裏二割五分トシ天端ヲ計畫高水位上一米五タラシム唯洗川締切ノ箇所ニ限リ堤裏ニ於テ堤頂ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ附シ小段以下ノ法ヲ三割ト爲サントス而シテ是等築堤用土ハ全部掘鑿土ト舊堤土トヲ充用スルノ方針ナリ又堤防法先ハ全川ニ亙リ張石工ヲ施シ堤天ハ礫ヲ散布シテ路面ヲ形成シ堤腹ニハ適宜張芝若クハ筋芝ヲ施スモノトス左ニ堤防ノ延長及土量等ヲ表示ス

種別	區域	延長	土量	張石	張石平均法高	芝付	地盤上平均高
左岸	海口ヨリ 一六・六粁	一六・二三〇米	九二九・八二〇立方米	一二一・一五〇平方米	七・四米	二三九・六六〇平方米	三・六米
右岸	同 一四・〇	一四・三九〇	一・一〇一・七三〇	一一〇・二五〇	七・六	二二三・一四〇	四・六
總計	—	三〇・六二〇	二・〇三一・五五〇	二三一・四〇〇	六・五	四六二・八〇〇	四・四

掘鑿土量ハ左岸百七十三萬三千四百三十立方米、右岸百八十八萬四千九百立方米、合計三百六十一萬八千三百三十立方米ニシテ掘鑿運搬ハ主トシテ人力、牛馬力ニ依ラントス而シテ掘鑿土ノ内二百三萬一千五百五十立方米ハ左右兩岸ノ築堤ニ充用シ殘餘ハ之ヲ捨土處分ニ委スルモノトス

浚渫ハ主ニ下流部ニ於テ行フコトトセリ蓋シ洪水ノ疏通ヲシテ良好ナラシムルト同時ニ潮汐ノ昇騰ヲシテ容易ナラシメ將來舟船ヲシテ昇潮ノ際ニハ高砂堀川ヲ通過セズシテ高砂鐵橋附近迄遡航スルノ便ヲ得セシメ又退潮ノ際ニハ之ガ流勢ヲ利用シテ些少タリトモ河底維持ノ作用アラシメントスルニアリ

而シテ浚渫ノ深サハ上端ニ於テ平均低水面以下約〇米九トシ之ヨリ深サヲ増シ零粁ノ箇所ニ於テ二米二ト爲シ夫ヨリ中等潮位以下二米四ノ水深線ニ達シテ止ム此土量約百三十二萬二千三百立方米ニシテ内十三萬二千三百立方米ハ人力ニ依リ百十九萬立方米ハ浚渫船ニ依リテ掘上ゲ其土砂ヲ堤内ニ捨土シ或ハ海上ニ投棄スルモノトス

加古川下流ノ舟航ハ高砂港内碇泊船トノ連絡ノ必要上高砂樋門ノ爲メ安全トナレル高砂堀川ヲ常航路トスルノ傾向アルニ依リ設計ヲ變更シ本川ノ浚渫計畫ヲ打切リ之ニ代フルニ高砂堀川ノ浚渫ヲ爲スコトトセリ卽チ零粁ノ箇所ヨリ上流一粁二ノ間ハ中等潮位以下二米七ニ夫レヨリ上流高砂樋門迄ハ中等潮位以下一米五ニ浚渫スルモノニシテ浚渫敷幅ハ下流一粁二ノ區間ハ平均約七十米夫レヨリ上ハ平均約十八米ニシテ土量十六萬四千立方米ナリ

堤腹ニハ總テ堅固ナル張石ヲ施ス計畫ナレドモ更ニ堤法保護ノ爲メ流心ノ彎曲部、堤防ノ低水路ニ接近セル部分等水勢ノ激突スル箇所ニハ護岸工ヲ施スモノトス其總延長一萬八千八百三十米ナリ

流末二千百八十米間ヲ浚渫スル結果上流河床ノ低下ヲ來タシ既設工作物ニ影響スル處尠カラザルベキヲ慮リ浚渫區域ノ上端適當ノ位置ニ平水路ヲ横斷シ床固堰堤ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス

現在ノ左岸堤防ハ海口ニ於テ急ニ喇叭狀ヲ成シ爲メニ退潮ノ流勢ヲ殺ギ土砂ノ沈澱ヲ誘致スル傾向アリ由テ本計畫ニ於テハ左岸堤防ヲ延長シテ右岸ノモノト略々同長ナラシメ其構造ハ根元四十五米五ハ普通土堤ニシテ夫ヨリ堤端迄二百九十一米ノ間ハ全部張石堤トシ馬踏七米二、兩法二割、堤面ハ高潮面上一米五ト定メ洪水ノ際モ平常ニ於テモ流水ヲシテ成ルベク海中ノ深所ニ射出セシメントス

樋門ノ大ナルモノハ洗川樋門、高砂堀川樋門ノ二ニシテ前者ハ幅三米六、高サ三米五後者ハ幅三米六、高サ

四米二トス

附帯工事ノ主ナルモノハ播州鐵道株式會社ノ高砂鐵橋及相生、加古川、都染ノ三人道橋延長若クハ架換其他全區域内兩岸ノ用悪水樋門ノ擴築若クハ改築又ハ同水路ノ附換等ナリトス

施工狀況

本改修工事ハ大正七年度ノ著工ニシテ七、八兩年度ハ主トシテ準備測量、九、十兩年度ハ土地收用及工事ノ一部ヲ施行シ以後專ラ工事ヲ施シタリ本年度工事施行區域ハ前年度ニ引續キ右岸加古郡荒井村、印南郡米田村、東神吉村、平莊村及上莊村地先、左岸ハ加古郡氷丘村及神野村、印南郡上莊村地先ニシテ左ニ其大要ヲ述ベン

築堤工事ハ左岸ハ上莊村地先一部、八幡村以下海ニ至ル全部、右岸ハ平莊村地先ノ一部及東神吉村地先以下海ニ至ル全部ヲ成功セリ

掘鑿工事ハ一時間百二十立方米掘梯形掘鑿機一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三立方米積側開土運車八十七臺、一立方米積鍋土運車五十臺、〇・六立方米積箱土運車七百四臺、〇・三立方米積鍋土運車五十臺ヲ使用シ人力、馬力ヲ併用シ左岸上莊村地先ノ一部及神野村地先以下、右岸ハ上莊村、平莊村地先ノ一部及東神吉村地先以下海ニ至ル全部ヲ成功セリ

浚渫工ハ前年度同樣神戸土木出張所ニ於テ引續キ埋立土砂ノ必要上同所ニ代行セシム昭和二年八月設計變更ノ結果ニ依ル高砂堀川浚渫ハ工費不足ノ爲メ著手ニ至ラズ

護岸工ハ前年度ト同ジク工費年度割少額ノ爲メ已ムヲ得ザル箇所ノミニ止メタリ卽チ左岸ハ神野村及

氷丘村地先ニ於テ施工シ八幡村中西條以下海ニ至ル全部、右岸ハ平莊村、東神吉村、米田村及荒井村地先ニ施工シ東神吉村舛田以下海ニ至ル全部ノ區域ヲ成功セリ

斯ノ如クニシテ本年度迄ノ築堤ハ全延長ノ約七割二分、掘鑿ハ全土量ノ約八割四分、浚渫ハ全土量ノ約四割、護岸工ハ施工豫定延長二萬八千五百六十二米ノ約六割九分ノ成功ニシテ加古川沿岸加古、印南兩郡ノ大平野ハ洪水ノ憂ナキニ至レリ特種工事高砂樋門及洗川樋門ハ竣功シ洗川ハ完全ニ締切ラレタルヲ以テ右岸ノ惡水排除上大ナル利益アリ

附帶工事ハ左岸八幡村長管理宗佐樋門及用水路附換、上莊村長管理都染惡水樋管及用水路附換、氷丘村長管理曇川樋門ノ殘工事ヲ終ヘ右岸ハ上莊村長管理用水路附換、平莊村長管理用惡水樋管及東神吉村長管理上部樋門ノ殘工事ヲ終ヘ兵庫縣管理ノ上莊橋ハ年度內ニ竣功シ美囊川合流點以下ニ於テ附帶工事ノ全部ヲ終レリ上莊橋架換補助額ハ年度內ニ支拂フ運ニ至ラザリキ

本年度竣功高ノ主ナルモノヲ揭グレバ築堤二十四萬二千五百五十五立方米工費二萬三千九百六十七圓、掘鑿二十八萬四千百五十八立方米工費七萬九千三百九十一圓、護岸四千九百四十七米工費九萬一千六百七十圓等ナリ

本年度竣功高ハ二十八萬六千四百三十一圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四百六十七萬八千二百六十二圓ナリ之ヲ總工費七百八十五萬圓ニ比較スレバ六割ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔品價額「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無代價品評價額「◎」ハ土木試驗所ヘ流用減額「×」ハ占用補償ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工費 築堤	※ 二、〇三七・〇一二立方米	一七三、六四二円	※ 二四二、五五五立方米	二三、九六七円	※ 二、二七七・〇一二立方米	一九七、六〇九円	〇・八八厘分
掘鑿	三、七五九・一〇七	○▲ 一、〇八〇、三八三 五六、七七五 四〇	二八四、一五八	○▲ 七九、三九一 五四五	三、〇四三、二六五	○▲ 一、一五九、七七四 五七、三二〇 四〇	〇・七七
浚渫	四八七・四四九	九五、二八三			四八七・四四九	九五、二八三	〇・五四
護岸水制	一四、九四六米	○ 四二三、九九七 四六	四、九四七米	○ 九一、六七〇	一九、八九三米	五一五、六六七 四六	〇・五四
特種工事	二箇所	○ 一一二、九一七	一段 一箇所	○ 一、五二七 一八	三段 一箇所	一一四、四四四 一八	一・〇〇
用地費	一、四七 一九〇段	一、〇九七、〇九一 四、五一三		一七八	一、四七 一九一段	一、〇九七、二六九 四、五一三	
附帶工事費	一箇所	□○ 三六四、一一八 三〇、四三二七 六九	六二箇所	□○ 一一、五八六 三、五四二五 六三	六三箇所	□○ 三七、五七〇四 三、〇七五二 三二	○・六九
船舶及機械費		七二九、七八四		三〇、八一五		七六〇、五九九	
測量費		一五、七二六		二、二一一		一七、九三七	
營繕費		三三、四四〇		一、一八八		三四、六二八	
雜費	一 ○◎	二五二、五八二	一 ○◎	三八、七九七 三、〇七〇 七四〇	一 ○◎	二九、三七九 三、〇七〇 七四〇	
共濟組合給與金		八、三五五		二、一〇一		一〇、四五六	
總計		□◎▲◎ 四、三九一、八三一 五六、七四五 三〇、四一七 九三五		□○▲◎ 二八三、四三 三、〇五〇 八四〇 五、六一五 三七五〇		□○▲◎ 四、六七五、二六二 五七、三三〇 一、二二〇 三四、〇三二 二〇〇	○・六〇

第一四　岩木川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費七百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシモ諸物價昂騰ノ爲メ既定豫算範圍内ニテハ工事ノ遂行不可能ノ爲メ三百四十萬圓ヲ增額シ總工費一千四十萬圓ト爲セリ尙時局ノ影響ヲ蒙リ繼續年限ヲ昭和十一年度迄繰延ベタリ

施行區域ハ幹川ニアリテハ左岸中津輕郡新和村大字種市、右岸北津輕郡鶴田村大字大性以下十三湖迄四十四粁九、支川十川ニアリテハ右岸北津輕郡梅澤村以下新合流點迄六粁八又支川山田川ニアリテハ車力村地内田光沼下流約十粁ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ水源ヲ秋田縣界ニ發シ流域面積二千六百六十八平方粁、流路延長八百三十七粁(内幹川九十粁)、航路延長百六粁(内幹川七十一粁)灌漑面積二萬四千ヘクタール、水害區域九千二百ヘクタールヲ有シ青森縣西津輕郡、中津輕郡、南津輕郡、北津輕郡ノ四郡ニ跨ル大河ニシテ流末十三湖ト稱スル周圍約二十四粁面積二千ヘクタールノ湖水ヲ通ジテ一小口ヲ以テ日本海ニ注グ岩木川ハ流路甚ダ不規則ニシテ其下流部川幅最モ挾キ故ニ出水毎ニ必ズ破堤或ハ溢水ヲ來シ沿岸耕地ニ汎濫スルヲ以テ本計畫ニ於テハ堤防ノ改築竝ニ河敷ノ掘鑿ヲ爲シ河積ヲ擴張シ以テ洪水量ヲ安全ニ流下セシメ又支川十川ハ流路甚ダ狹ク且迂曲

甚シク殆ンド無堤ノ狀態ナルヲ以テ出水毎ニ湛水シ殊ニ春季融雪ノ際ノ如キハ沿川一帶ニ湛水數週間ニ亙ルコトアリ故ニ十川上流部ノ水量ハ新川延長約三粁三ヲ掘鑿シテ現在ノ合流點ヨリ約十六粁上流ニ於テ岩木川ニ合流セシメ十川下流部ニ對シテハ逆水門ヲ設置シテ岩木川ノ逆流ヲ防グモノトス

岩木川海口卽チ十三水戸口ハ其ノ閉塞ヲ防ギテ排水ヲ完全ナラシメ十三湖沿岸湛水ノ害ヲ防ガンガ爲メニ突堤ヲ築設セントス又十三湖ニ直接注入セル山田川沿岸ニ就テハ岩木川擴築ノ結果其破堤及湛水ヨリ來ル可キ水害ハ除去セラレ又十三湖ノ逆水ヨリ生ズル湛水ハ水戸口ノ施工ヲ以テ輕減スル方針ナリシモ尙更ニ調査ノ上直接相當工事ヲ施シ其ノ完成ヲ期スルノ方針ナリ

計畫高水流量ハ十川上流部ヲ毎秒ノ三百三十四立方米下流部ヲ百六十七立方米トス岩木川ハ上流ニ於テ一千三百九十立方米十川舊合流點以下一千六百七十立方米ト定メ其幅員ハ上流ニ於テ二百十八米トシ漸次擴ゲ下流ニ於テ六百三十六米トス支川十川ハ幅六十四米ト定ム

掘鑿土量ハ七百八十四萬三千七百立方米浚渫五百二十三萬五千百立方米總計掘上土量一千三百七萬八千八百立方米ニシテ大部分ハ築堤用土ニ使用ス築堤ハ大部分新堤築設ニシテ舊堤增築ハ一小部分ニ過ギズ築堤延長幹川約八萬米支川十川約一萬三千米合計九萬三千米ニシテ其構造ハ馬踏五米五外法二割內法ハ二割及二割五分ノ勾配トナシ芝付ヲ施シ必要ノ箇所ニ護岸工ヲ施スモノトス

海口突堤ハ大體ニ於テ捨石並ニ混凝土塊ヲ用ヒ兩岸ヨリ各三百六十米ヲ築造シ先端ニ於テ二百七十米ノ間隔ヲ保タシムルモノトス

附帶工事ノ主ナルモノハ木橋架換七箇所用水伏越樋二箇所水門三箇所其他用水路附換等ナリトス

施工狀況

本工事ハ大正七年六月ノ創業ニシテ初年度及八年度ニ於テハ測量其他施行準備ニ著手シ九、十兩年度ハ一部分人力ヲ以テ掘鑿シ十一年度以降ニ至リテハ土工用諸機械稍々完備セルヲ以テ人力竝ニ機械ヲ以テ掘鑿セリ掘鑿工事ノ進行ニ伴ヒ其土砂ヲ利用シ築堤工事モ著々進行セシムルコトヲ得タリ當地方ハ冬季十二月ヨリ翌年三月迄ハ嚴寒降雪多量ニシテ工事施行全然不可能ナリ十、十一、四ノ各月亦天候不良ノ爲メ工事殆ンド中止ノ狀態ニアリテ五、六、九ノ各月ハ工事ノ進行ヲ計ルニ最モ好時期ナルニモ拘ラズ農繁期ナル爲メ勞力供給ノ點ニ於テ滿足シ得ズ要スルニ一箇年ヲ通ジテ本工事ノ生命トスル處ハ唯七、八兩月アルノミナリ

本年度ニ於ケル掘鑿工事ハ人力掘鑿ニテハ〇・四立方米積土運車ヲ以テ人力運搬、馬匹運搬ヲ爲シ地形ニ依リ叉運搬ヲモ施行セリ機械掘鑿ニアリテハ掘鑿機二臺、機關車三臺及三立方米積土運車ヲ運轉シ極力工程ノ進捗ニ努メタリ

掘鑿施行ノ區域ハ幹川筋北津輕郡五所川原町、中川村、三好村、武田村、西津輕郡柏村、川除村、出精村、稻垣村、車力村ノ各地先ニシテ掘鑿總土量四十一萬一千四百六十五立方米此工費十二萬六千百六十九圓ニシテ其土砂ハ該區域ニ於ケル築堤用ニ供シタリ

浚渫工事トシテハ岩木川ノ十三湖ニ注グ河口ニ沈積セル土砂ヲ人力ヲ以テ浚渫シ附近ノ水中又ハ陸上ニ運搬投棄スルモノニシテ浚渫土砂量八百九十四立方米此工費約四百七十四圓ナリトス

築堤工事ニアリテハ既述ノ如ク掘鑿土ヲ利用シ且不足土砂補充ノ爲メ附近官有地ヨリ土運搬ヲ爲セリ

其區域ハ北津輕郡鶴田村、五所川原町、三好村、武田村、中津輕郡新和村、西津輕郡水元村、稻村、川除村、稻垣村ノ各地先ニ亙リ之ヲ施行セリ築立土量ハ十二萬三千百五十八立方米此工費約三萬三千二百二十九圓ニシテ竣功延長二千八百十五米一ナリトス

護岸工事ハ北津輕郡鶴田村、榮村、西津輕郡川除村、出精村ノ各地先ニ施行セルモノニシテ工法ハ箇所ニ依リ小異アルモ主トシテ根固工トシテハ沈床、單床又ハ杭柵等ヲ施シ法留工トシテハ石張、礫詰又ハ柳枝工等ヲ施セリ此竣功延長百八十米ニシテ此工費約三萬九千六百四十圓トス

突提工事ハ西津輕郡十三村地先海口ニ辨慶枠ヲ沈下据付ケ更ニ捨石ヲ爲シタル假突堤ヲ施シ且其基部保護ノ爲メ留杭ヲ打付ケ石張工ヲ施セリ而シテ本工事ニ必要ナル石材ハ北津輕郡小泊村大字下前海岸附近ノ轉石ヲ小舟及十八立方米積土運船ニ積込ミ石油發動機船竝ニ十五噸汽船ニテ曳船シ十三湖水戸口附近ヘ運搬シタリ此工費二萬四千九百四圓トス

障害物除却ハ掘鑿竝築堤敷ニ存在スル木根、密生セル柳樹其他工事ニ障害トナルベキモノノ除却ニシテ此工費約二百二十一圓ヲ要セリ

假設工事トシテハ西津輕郡水元村地先ヘ假水制工事ヲ施シタルモノニシテ元付工ニハ杭柵及礫詰柳枝工、根固工ハ沈床、上層工ハ杭柵ト爲セル假水制ヲ出シ流心ヲ河岸ヨリ遠ザカラシムルヲ目的トス此工費一千百六十七圓ナリ

附帶工事ハ西津輕郡水元村大字野木地内ヘ鐵筋混凝土管内徑四十五糎、延長二十一米ノ排水樋管一箇所、同地内ヘ鐵筋混凝土管内徑四十五糎延長十四米ノ排水樋管一箇所、西津輕郡柏村大字桑野木田地内ヘ鐵筋混凝土管内徑六十糎延長十九米十糎ノ排水樋管一箇所ヲ各新設完了セリ

道路兼用堤防路面工事ニシテ當所ニ於テ直接施行セルモノハ北津輕郡鶴田村大字大卷地内へ一千七百面坪ニ亙リ砂利敷ヲ施セルモノトス工事ノ都合上一部分ハ次年度へ繰越セリ此工費六千七百五十八圓ニシテ内二千八十七圓ハ管理者負擔トス

土地買收ハ工事ノ都合上必要ニ迫リ已ムヲ得ザル箇所ノミ買收セルモノニシテ土地買上料竝ニ物件移轉料四萬四千七百二十九圓トス

本工事ノ本年度竣功額四十一萬九千四百七十五圓起工以來累年竣功額ハ五百十五萬三千九百圓ニシテ之ヲ總工費一千四十萬圓ニ比スレバ五割弱ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
掘鑿	二、六〇三、〇七九 立方米	八六九、四四六 円	四一一、四六五 立方米	一二六、一六九 円	三、〇一四、五三九 立方米	九九五、六一五 円	〇、三八 割分
浚渫	—	—	八九四	四七四	八九四	四七四	—
突堤築堤	二、二〇六、七六五	一八二、七七八	一二三、一五八	三三、二二九	二、三二九、九二三	二一六、〇〇七	〇、六九
護岸	—	八一、三六一	一八〇米	三九、六三九	—	一二一、〇〇〇	—
障害物除却	—	五二、七五二	—	二二〇	—	五二、九七二	—
假設工	—	三〇、三二七	—	一、一六七	—	三一、四九四	—
用地費	四、三一四 段	一、四六三、四二七	八 段	四四、七二九	四、三二二 段	一、五〇八、一五六	〇、三九
附帶工事費	箇所五	六九、六八三	箇所四	一〇、六一六	箇所九	八〇、二九九	—
船舶及機械費	—	一、三五七、〇二九	—	六一、五四八	—	一、四一八、五七七	—
測量費	—	三六、五七〇	—	四、六五七	—	四一、二二七	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營繕費	—	一五二、〇五一円	—	五、九一七円	—	一五七、九六八円	割分
雜費	—	四〇八、一四五	—	六二、六二四	—	四七〇、七六九	—
共濟組合給與金	—	一〇、三九八	—	三、五八二	—	一三、九八〇	—
總計	—	四、七三四、四二五	—	四一九、四七五	—	五、一五三、九〇〇	〇、五〇

第一五　神通川改修工事

緒言

本川ハ富山縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ源ヲ飛驒國ニ發シ其流域ハ富山、岐阜兩縣ニ跨リ富山縣ハ其下流ニ位シ水害甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百五十萬圓(富山縣負擔額百七十六萬三千圓)ヲ以テ起工セシガ其後富山縣知事ノ稟申ニ依リ本川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ之ト同時ニ東岩瀬港修築工事ヲモ施スベク工費五十八萬圓(全部富山縣負擔)ヲ增額シ又起工以來時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年二百十三萬二千五百圓(內富山縣負擔額五十三萬四千圓)ヲ增額スルト共ニ施行期限ヲ昭和五年度迄繰延ベシガ更ニ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ止ムナク四箇年度ヲ延長シ昭和九年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算九百二十一萬二千五百圓ヲ以テ右岸富山縣上新川郡大澤村、左岸婦負郡杉原村以下海ニ至ル約三十二粁ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ洪水ノ被害ヲ除却セントスルモノナリ

河狀竝計畫大要

本川ハ飛驒北半ノ一部庄川流域ヲ除ケル一帶ノ諸水ヲ集メテ越中ニ入リ富山平野ヲ北流シテ東岩瀬港ニ至リ海ニ注グ其流域面積二千七百七十六平方粁、內飛驒ニ屬スルモノ二千五平方粁ニ達スレドモ平地僅ニ百七十平方粁ニ過ギズ流水急ニシテ舟筏ヲ通ゼズ越中ニ屬スルモノハ七百七十一平方粁ニシテ其

内平地面積二百六十二平方粁ヲ有シ河口ヨリ上流二十七粁笹津ニ至ル迄舟揖ノ便アリ地勢平坦ニシテ其汎濫面積七千ヘクタールニ達ス水害ノ狀況ハ急流河川ノ特性トシテ大水ノ襲來極メテ迅速且猛烈ニシテ忽チ堤防護岸ヲ破壞シ濁流市街村落ニ奔流シ家屋ヲ流失シ人畜ヲ損傷シ耕地ハ砂礫ノ埋沒スル所トナリ其害實ニ甚大ナリ今既往洪水ノ被害高ヲ示セバ大正元年乃至同十年ノ平均年額六百四十萬三千八百八十圓ニシテ此十箇年間中ノ最大水害ハ大正三年ノ九百三十一萬八千四百四十圓之ニ次グモノハ大正九年ノ三百六十六萬九千三十圓ナリトス

本川改修ノ目的ハ洪水防禦ニアリテ富山市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トスルモ一面東岩瀬港ノ改善ヲ圖ラントスルモノニシテ本川ノ計畫洪水量ヲ毎秒五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ放流セシムルニ足ルノ河積ヲ有セシメ東岩瀬港ニ在テハ本川ヲ附換ヘ全ク港内ヲ分離シ突堤ヲ築キ以テ水深ヲ保チ船舶ノ出入ニ便ナラシメントスルモノナリ

由來本川ハ堤防ノ築設比較的普及スレドモ未ダ統一的施設ニナレルモノ無ク多クハ不規則ナル霞堤ヲ爲シ河積概ネ狹小ニシテ堤高亦不足シ屢々破堤汎濫ノ因ヲ爲セリ故ニ全川ヲ通ジテ河幅ヲ擴メ所要ノ掘鑿ヲ行ヒテ專ラ河積ノ增加ヲ圖リ兩岸ニハ堅固ナル堤防護岸ヲ施シ以テ洪水ノ横溢ヲ防ガントス

河道ノ位置ハ比較的良好ナルヲ以テ多クハ現狀ニ準據シ努メテ在來ノ堤防ヲ利用セントス上流起點城生以下成子ニ至ル間流路東西ニ分ルル所モ之ヲ合一セズ現在ノ形狀ニ依リ兩岸ニ築堤シ添島以下熊野川落合ニ至ル亂流部ハ河幅廣濶ナレバ兩岸舊堤ヲ增築スルニ止ム富山市附近ノ新舊兩川ノ内舊川ハ平時全ク通水ヲ見ズ且高水ノ疏通ニ對シ其利用甚ダ乏シキヲ以テ之ヲ締切リ新川卽チ馳越川ヲ多少擴大シテ全流量ヲ之ニ依リ疏通セシメ舊川ノ落合ハ之ヲ閉鎖シ其惡水ハ本川ニ沿ヒテ水路ヲ造リ下流ニ導

キ以テ富山市ノ逆水ニ因ル水害ヲ輕減スルモノトス又河口ニ近ク土砂堆積スルヲ以テ要所ニ水制工ヲ配置シ河狀ヲ整理シ且0/18以下河道ヲ西ニ移動シ瀨割堤及突堤ヲ設ケ適當ニ河口ヲ掘鑿シ全ク東岩瀨港ト分離セシメ直ニ海ニ通ゼシム而シテ其連絡ハ水門ニ依ルコトトセリ又東岩瀨港ハ港内ヲ低水位以下四米五ノ水深ニ浚渫シ東突堤ヲ水深九米一迄延長シ堆砂ノ西遷ヲ防ギ新川ノ右岸突堤ト相俟テ水深ノ維持ヲ圖リ以テ船舶ノ出入ニ便ナラシメントス

兩岸堤防中心間距離ハ凡ソ左ノ標準ニ據リ施行スルコトトセリ

區間	兩岸堤中心間距離
岩木・成子間	三二七米
同上派川部	一四五
成子・添島間	自三六四 至四〇〇

區間	兩岸堤中心間距離
添島・布瀨間	自四七二七三米 至四七三七五
布瀨・四ツ谷間	自四三六九 至五〇
四ツ谷・河口間	自四七三五 至五四

堤防ハ總テ馬踏七米二、表裏共二割法トシ其高サハ計畫高水位上一米五ノ餘裕ヲ存セシメ必要ナル箇所ニハ小段ヲ設ク其用土ハ合計二百十六萬立方米、其延長四萬四千五十米ニシテ一般ニ掘鑿土ヲ以テ之ニ充當スベキモ其運搬遠距離ニ亙ルカ又ハ特ニ良質ノ土砂ヲ要スル場合ニハ他ニ土採場ヲ求メザルベカラズ其土量約三十萬五百立方米ナリ

掘鑿工事トシテハ流積擴大ノ爲メ河幅ノ整理ヲ行フモ尙掘鑿ニ俟ツベキモノ尠カラズ其土量二百九十八萬七千二百立方米ニシテ築堤用土ニ充用シタル殘餘ハ卑低地ノ埋立等ニ使用シ或ハ民有地ニ投棄シ又河口ニ近キ所ニ在テハ海中ニ放棄ス

浚渫工事ハ0/18以下海ニ至ル間ニシテ其底幅ハ二百五十五米ヨリ三百六十四米ニ達シ其深度ハ上流ニ於テ基線以下二米二ニ始マリ順次四米八ニ遞下ス其土量ハ百二十萬二千百立方米ナリ

護岸工事ハ本計畫中特ニ必要ナルモノニシテ石張、沈床、沈枠等ヨリ成ル卽チ築堤ニハ十二粁附近ヨリ上流ハ表法全部ニ同下流ハ計畫高水位以下ニ張石ス又水面以下ノ保護ニ關シテハ富山市ヨリ上流ハ川倉蛇籠、木床、沈枠及混凝土單床等ヲ適宜按配シ下流ハ概シテ柴工沈床ヲ用ユルモノトス

水制工事ハ主トシテ下流流路ヲ限定スベキ區域ニ配設シ浚渫ト相俟テ流心ヲ定メ水深ヲ維持セントス總テ柴工沈床、木工沈床及石張ヲ用ユルモノトス

突堤工事中右岸突堤ハ瀨割堤防ノ末端ニ接續シ其長サ三百十八米ニシテ緩曲線ヲ以テ水深九米一ノ箇所ニ達セシメ本川ヲ流下スル土砂ヲ深水ニ導クト同時ニ現在東岩瀨地先突堤ノ延長工事ト共ニ兩々相俟テ港口ノ保護及港内ヘノ土砂侵入ヲ防止セシム又左岸突堤ハ延長百四十五米ニシテ單ニ沿岸漂砂ノ東進ヲ防止スルモノナリ

水門工事ハ富山市ヲ貫流スル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ設計ヲ變更シ水路ヲ設クルヲ良策ト認メタルニ依リ之ヲ廢止（逆水門ヲ廢シ水路ヲ造リ惡水ヲ下流ニ導キ且之ニ因リテ本川トノ舟運ヲ計リ逆水ノ害ヲ輕減シ舊神通廢川地帶ノ利用ニ便ナラシム）セリ其他右岸0/7附近ニ設置スル一箇所ハ本川ト東岩瀨港トノ聯絡用ニ供スルモノナリ

附帶工事ハ用惡水樋門、用惡水路、道路及橋梁等改築ヲ要スルモノ多キヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

東岩瀨港ハ神通川ノ河口ニ位シ富山市唯一ノ海門ニシテ往時帆船時代ニアリテハ日本海ノ要港トシテ繁榮ヲ極メタリシガ時勢ノ變遷ハ汽船海運ノ時代トナリ河口ノ狀況ハ其入港ヲ妨ゲ偶々寄港スルモノ

アルモ河口ヲ隔ル遠キ沖合ニ碇繫シ貨物ノ揚卸ヲ爲サザルベカラズ殊ニ秋冬ノ候ニ際シテハ波浪土砂ヲ壓シテ河口ヲ閉塞シ水深漸ク〇米六ニ過ギザルコトアリ明治四十三年河口右岸ニ突堤ヲ增築シ對岸草島地内ニ水制工ヲ施シ更ニ左岸ニ突堤ヲ築造スル等河口ノ改良ヲ企圖セリト雖モ規模小ニシテ其效果大ナラズ依然トシテ航路閉塞シ小船ノ出入ニモ不便ヲ來スコト尠カラズ從テ出入貨物ハ益々減退シ明治四十一、二年頃ニ比スレバ其量三分ノ一ニ減ジタリ富山市ヨリノ出入貨物モ亦其價格ニ於テ僅ニ十分ノ一ニモ達セザルノ悲境ニ在リ玆ニ於テカ神通川改修ヲ好機トシ本港ヲ修築シ航路閉塞ノ源ヲ絕チ其利用ノ途ヲ增進シ從來ノ衰運ヲ挽回スル所アラントス是レ本港修築ノ起リタル所以ナリ

曩ニ神通川改修工事ノ計畫ヲ立ツルヤ併テ河口ノ改良ヲ企圖シ東岩瀨港沿岸ニハ特殊ノ護岸工事ヲ施シ其終端ヨリ水深九米一ニ至ル迄突堤ヲ築造シ地先ノ水面ハ之ヲ水深五米二ニ浚渫シ河流自然ノ水勢ニ依リ其水深ヲ維持セシメ一千噸内外ノ船舶出入碇繫ニ便セシムルコトトセシモ一般河口ニ見ルガ如ク自然ノ水勢ニ依ル水深ノ維持極メテ困難ニシテ殊ニ本港ノ如キハ日本海ノ漂砂ト神通川ヨリ流下シ來ル土砂トハ港内ニ堆積シ常ニ浚渫ヲ施サザレバ到底所要ノ水深ヲ維持スルコト能ハザルナリ故ニ若シ河口ヲ完全ニ港灣トシテ利用セントセバ神通川ト東岩瀨港トヲ全然分離スルヲ以テ得策ナリトス本改修計畫ハ以上ノ理由ニ依リ神通川改修計畫中下流ノ一部ヲ變更シ河道ヲ西方ニ移動セシメ下流現在ノ低水路ノ水面積ヲ本港灣ノ施設ニ提供スルコトトシ港口ハ現在ノ東突堤ヲ約四百十米延長增築シテ東岸ヨリスル漂砂ヲ防ギ之ト相對シテ改修工事ニ於テ築造スベキ右岸突堤(延長三百十八米)ニ依リテ西方ヨリノ漂砂ヲ防ギ内部ノ水面十二萬五千六百二十平方米ヲ水深四米五ニ浚渫シテ一千噸級船舶ノ碇繫及貨物ノ揚卸ニ便ナラシメントス然ルニ最近ニ至リ低水路ノ水面積ノミヲ以テ港灣施設ニ供セント

スルハ將來港域擴張ノ要ヲ生ジタル場合不利ナルヲ以テ寧ロ更ニ河道ヲ西方ニ移シテ舊左岸堤敷ニ新右岸堤ヲ築造シ河敷全部ヲ港域ニ供スルヲ得策ト認メタルヲ以テ此變更ニ要スル土地、材料、勞力等約二十萬圓ヲ地元東岩瀨町ヲシテ提供セシムルコトトシ大正十四年十二月再ビ計畫ヲ變更シタリ

施工狀況

本工事ハ大正七年七月ノ創業ニ係リ先ヅ河口附近水制工事ニ著手シ次デ土地買收ノ調査ヲ開始シ其進捗ニ從ヒ逐年下流ヨリ上流ニ溯リ左岸ニ於テハ草島、百塚、神明、鵜坂、熊野、宮川ノ六箇村及富山市右岸ニ於テハ大廣田、豐田、奥田、堀川、蜷川、新保ノ六箇村及富山市ノ各地先ニ於テ掘鑿、築堤、護岸等ノ諸工事ヲ實施スルニ至リ其區域兩岸各十七粁七ニ達セリ

左ニ本年度施工ノ概況ヲ述ベン

掘鑿工事ハ前年度以來繼續ノ七箇所ト新ニ著手セル二箇所、計九箇所ニ施工シ内三箇所ハ年度内ニ竣功セリ本工事ハ全ク人力ニ依リ〇・六立方米積及〇・四立方米積土運車ヲ使用シ人力又ハ馬力ヲ以テ運搬スルモノニシテ其功程十二萬一千二百八十五立方米ナリトス此等掘鑿土量ノ内九萬一千九百九十三立方米ハ築堤敷ニ投棄シ殘リノ一部ハ高水敷ノ低濕ナル箇所ニ他ハ附近民地ニ投棄セリ

浚渫工事ハ前年度ノ開始ニ係リ本年度モ引繼キ喞筒式自航浚渫船神通丸ヲ用ヒテ其進捗ニ努メ年度内ニ二十三萬六千五百三十四立方米ノ竣功ヲ見タリ土砂ハ主トシテ港外深淵ニ投棄シ一部ハ冬期荒天ノ候排除管ヲ使用シテ東岩瀨町側材料置場ノ埋立ニ充用セリ

築堤工事ハ主トシテ掘鑿土ヲ利用シテ築立テ左岸熊野村下流、右岸新保村下流延長二十九粁ノ間ニ於テ

十一箇所ニ施工シ内四箇所ハ竣功セリ本年度中ニ施行セル盛土ハ總計十四萬七千八立方米ニシテ内五萬三千八百六十五立方米ハ採取土ナリトス

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ十二箇所新ニ著手セル四箇所、計十六箇所ニ施工シ内五箇所ハ本年度内ニ竣功セリ其功程石張四萬三千四百七十五平方米、木工沈床五千六百九十八平方米、柴工沈床三千八百三十一平方米、鐵線蛇籠二百十三本、竹蛇籠二十本、川倉六十四個ナリトス此等ノ工事ニ使用スル石、栗石、及砂利等ハ從前ノ如ク主トシテ本川ノ上下流ヨリ、一部ハ早月川ヨリ直營採取セリ

突堤工事ハ前年度ニ引續キ主トシテ東突堤ノ第二區ニ力ヲ注ギ第一區ハ僅ニ三百七十五瓩ノ捨石三百餘個ヲ投ゼルニ過ギズ第二區ハ基礎柴工沈床ノ殘部三千七百七十五平方米ヲ沈設シテ之ニ百十三瓩以上ノ捨石約六千五百立方米ヲ投下シ其上ニ混凝土方塊ノ積疊ヲ開始セルモ荒天ニ際シ僅ニ其一部ヲ施工シテ止ミタルモ混凝土方塊製造ハ之ヲ續行シ約六百個ヲ製造セリ

中央突堤ハ本年度ノ著手ニ依リ基礎柴工沈床一千五百四十八平方米ヲ沈設セルニ過ギズ

西突堤ハ流末工事法線一部變更ノ爲メ中止中ナリシガ河水導流ニ障碍トナルヲ以テ取拂ニ著手セリ

水路開鑿工事ハ前年度ニ於テ大部分竣功セルモノニシテ本年度ハ築堤仕上ノ殘部ヲ完成シ護岸根固ノ完全ヲ期スル爲メ追加工事トシテ全線ニ亙リ鐵線蛇籠工ヲ施シ年度内ニ全部ノ竣功ヲ見タリ

以上本工事ヲ通觀スルニ本年度ハ大ナル出水モナク頗ル順調ニ工事ノ進捗ヲ見タルモノニシテ特ニ東岩瀬港ノ浚渫開始以來期年ナラズシテ一千噸級船舶ノ出入ヲ見ルニ至レリ

土地買收ハ本年度ニ於テハ三十件ノ買收ヲ爲セリ此段別二段四畝八歩ナリトス

船舶機械修理製作ハ其程度ノ大ナルモノハ新潟機械工場ニ依托シ其他ハ附近鐵工業者ニ請負ハシメタ

リ

附帶工事ハ全川ニ渉リ其數多キヲ以テ逐年是等ノ竣成ニ努メツツアリ

附帶工事中前年度ヨリ引續キ施行又ハ本年度ヨリ工事ニ著手シ本年度內ニ竣功シ管理者ニ引渡シヲ了シタルモノハ

新切用水路附換、中井川排水樋管新設、有澤橋繼足及松ノ木用水路附換ノ四工事ナリ此外昭和二年十二月舊井田川排水樋管新設工事ニ著手シ功程半ニ達セリ

尙大正十四年十二月流末工事法線一部再變更ニ要スル土地、材料、勞力等ハ總テ東岩瀨町ニ於テ負擔スルモノニシテ爾來今日迄ニ土地ノ買收セルモノ二十二町六段餘、工事トシテハ草島地先築堤、不用堤防取拂、不用突堤取拂等ニシテ何レモ竣功ニ近シ

本年度ニ於ケル竣功額ハ五十二萬五千九百圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ四百九十六萬六千四百四十圓ナリ之ヲ總工費九百二十一萬二千五百圓ニ比スレバ五割四分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「▲」ハ東岩瀨町提供土地、材料及勞力費、「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
本工							
掘鑿	一、九九三、五一六	七七八、四〇〇	一二一、二八五	五九、七三一	二、一一四、八〇一	八三八、一三一	〇、六一
浚渫	一六六、四〇〇	二五、二三一	二三六、五三四	三八、一一七	四〇二、九三四	六三、三四八	〇、三〇
築堤	一、三八二、〇五五	二二一、八五二	▲一四七、〇〇八	四一、一九六	一、五二九、〇六三	二六三、〇四八	〇、八四
護岸		九六三		二、二一六		三、一七九	
水制		九一一、七六二		一四一、〇七七		一、〇五二、八三九	〇、三一
突堤		二〇三、七七九		一〇二、三五九		三〇六、一三八	〇、四三

事費	水路	未竣功 一箇所	八八、四三七	竣功 一箇所	六、七九五	竣功 一箇所	九五、二三二	一・〇〇
	雑工事	ー	六、三六七 ▲一二、九八五	ー	ー ▲一七、二一六	ー	六、三六七 ▲三〇、二〇一	ー
	材料運搬	ー	三、九九四	ー	二、一九二	ー	六、一八六	ー
用地費		一、七二八段	八三二、一五六 ▲一五二、四四六	二段	九九一 ▲四、四〇一	一、七三〇段	八三三、一四七 ▲一五六、八四七	一・〇〇
附帯工事費		竣功 一一箇所	五五、九八一 □二六、九六八	竣功 未竣功 一三箇所	四七、三一六 □一三、三二九	竣功 未竣功 一四箇所	一〇三、二九七 □四〇、二九七	ー
船舶及機械費		ー	九一五、七八七	ー	二五、三六八	ー	九四一、一五五	ー
測量費		ー	一三、九三三	ー	二、三四七	ー	一六、二八〇	ー
営繕費		ー	五一、二二二	ー	四、九七八	ー	五六、二〇〇	ー
雑費		ー	三二一、三八九	ー	五一、一四七	ー	三七二、五三六	ー
臨時手当		ー	二、六五五	ー	ー	ー	二、六五五	ー
共済組合給与金		ー	七、五九五	ー	二、二八六	ー	九、八八一	ー
総計		ー	四、四四〇、五四〇 ▲一六六、三九四 □二六、九六八	ー	五二五、九〇〇 ▲二三、八三三 □一三、三二九	ー	四、九六六、四四〇 ▲一九〇、二二七 □四〇、二九七	〇・五四

第一六　多摩川改修工事

緒言

本工事ハ當初明治三十年法律第三十七號ニ依リ河川改良費トシテ大正七年度ヨリ同十四年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシ工費五百六十萬圓、事務費二十八萬圓合計五百八十八萬圓ヲ以テ左岸東京府北多摩郡砧村、右岸神奈川縣橘樹郡高津村以下海ニ至ル約二十二粁ヲ改修スル計畫ナリシガ歐洲大戰以來勞銀及諸物價ノ昂騰ヲ來セル爲メ當初ノ豫算ニテハ到底遂行シ能ハザルヲ以テ同十二年度ニ至リ總工費ヲ七百七十六萬二千圓(內事務費十九萬四千八十六圓)ニ增額シ同時ニ改良費ヲ治水費ニ改メ河川法第八條ニ依リ施行スルコトトナリ施行年限ヲ昭和三年度迄延長セシガ其後更ニ二箇年度ヲ延長シ同五年度迄ニ竣功セシムルコトトセリ

河狀竝計畫大要

本川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小菅、日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ更ニ秋、淺ノ二支川ヲ合流シ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ流レ下流東京府荏原郡羽田町ニ至リ海老取、八幡等數條ノ澪ヲ分岐シテ東京灣ニ注グ流路延長百二十八粁、流域一千六十四平方粁ニ過ギザルモ其清流ハ東京市ヲ初メ附近一帶ノ飲料水トシテ上水ノ源ヲ爲ス外沿岸ノ灌漑、下流部ノ舟揖等其利便尠シトセズ然レドモ其水路ハ京濱間ヲ貫流スルヲ以テ其利害ハ直接帝都ニ係リ一朝溢水破堤ノ慘ヲ見ンカ

其損害實ニ甚シキモノアリ今既往明治四十三年乃至大正八年ニ於ケル水害損失額ヲ算スレバ平均年額約五十萬圓ヲ下ラザルノミナラズ交通ノ杜絶衞生其他ニ因ル損害蓋シ計ルベカラザルモノアルベシ改修ノ計畫ハ既往ノ洪水量ヲ參酌シテ定メタル毎秒四千百七十立方米ノ水量ヲ快疏スベキ河積ヲ有セシムル爲メ從來ノ無堤霞堤等廣狹一樣ナラザルモノヲ河狀ニ應ジ上流三百八十三米河口五百四十五米ノ間ニ河幅ヲ整正シ其兩岸ニ天端ヲ計畫高水位上一米五トシ馬踏五米五兩法各二割川裏ニ一米八下リテ三米ノ小段ヲ附シタル堤防ヲ新設又ハ擴築シテ其高水敷ヲ定メ障害物ヲ除却シテ流水ヲ圓滑ナラシメ尙水積不足ノ箇所ハ掘鑿或ハ浚渫シテ之ヲ補フコトトセリ

低水路ハ下流地方ノ狀勢ニ鑑ミ上流ニ於テハ平均干潮時水深一米五底幅七十三米トシ漸次增大シテ河口ニ至リ水深三米六底幅百四十六米ニ達セシメ以下澪筋ニ於テハ水深三米六底幅百九米ヲ保持セシムルコトトセリ

水流急ナル箇所ニハ護岸工事ヲ施工シ又惡水路樋門竝ニ水路附換等ノ附帶工事ヲ施工スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年度創業直ニ所要土地ノ買收調査ニ著手シ翌八年四月川崎市小向(元橘樹郡御幸村)ニ土地收用事務所ヲ設置シ同年度內ニ全部ノ調査ヲ終ヘ同九年五月ヨリ買收ヲ開始シ爾來同十三年十一月迄ニ其大部分買收濟トナリシヲ以テ同月限リ土地收用事務所ヲ閉鎖シ殘餘ノ分ハ改修事務所ニ於テ處理スルコトトシ本年度迄ニ總段別四百二十八町八段五畝歩餘計畫買收段別ノ九割八分ニ當ル)ヲ買收シ用地費二百五十二萬八百十五圓ヲ支出セリ

工事施工ニ關シテハ同八年六月改良事務所ヲ同所ニ設置セシガ縣道改修其他ノ都合ニ依リ同十四年十二月川崎市久根崎ニ移轉シ工事ハ同九年度ニ於テ土地買收濟ノ箇所ヨリ掘鑿工事ヲ開始シ次デ浚渫・築堤及護岸工事ニ著手セリ

浚渫工事ハ河狀及掘鑿ノ高低・土量ノ多少等ヲ考慮シ同九年十月先ヅ人力掘鑿工事ヲ開始シ傍ラ機械ノ購入其他ノ準備ニ努メ同十年十月ヨリ機械掘鑿工事ヲ同十三年四月ヨリ低水路機械浚渫工事ニ著手シ本年度迄ニ總土量六百十七萬六千八立方米ヲ竣成セリ

築堤工事ハ全部掘鑿土ヲ利用シ本年度迄ニ土量二百四十三萬三千三百九十一立方米ヲ竣成シ護岸工事ハ兩岸地先ニ三箇所ヲ施工シ延長五千八十八米ヲ竣成セリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ベン

浚渫工事ハ前年度未竣功トナリシ左岸調布・矢口・六郷・羽田各町村地先・右岸中原町・川崎市各地先人力掘鑿工事九箇所及右岸高津村・川崎市各地先機械掘鑿工事二箇所ヲ續工セシ外新タニ六郷・高津兩村地先ニ人力掘鑿工事ヲ起工シ内高津地先機械掘鑿一箇所及六郷・羽田各地先人力掘鑿工事二箇所ヲ竣成セシメ尚下流部ニ低水路機械浚渫四箇所ヲ施工シ年度内總土量六十二萬三千九百四十八立方米ヲ竣成セリ

築堤工事ハ左岸上流砧村以下調布・矢口・六郷・羽田各地先ニ於ケル七箇所及右岸高津村以下中原・川崎各地先七箇所・計十四箇所ヲ前年度ヨリ續工シ尚新タニ川崎地先一箇所ヲ起工シ土量九萬四千四百五十六立方米ヲ堤敷ニ搬入シ矢口・川崎兩地先各一箇所ヲ竣成セシメタリ

附帶工事ハ本年度著手セル川崎市上平間地先ニ於ケル内法二米角・長二十二米八ノ二聯ヨリ成ル鐵筋混凝土樋門一箇所ニシテ年度内ニ竣功セリ

本工事用器具機械ノ修理及製作ハ同十年四月事務所内ニ工場ヲ設置シ操業シ來リシモ其作業繁激トナリシニ依リ同十四年度ニ於テ事務所移轉ヲ機トシ同一敷地内(川崎市久根崎)ニ獨立工場ヲ設置シ之ニ當ラシメタリ

本川沿岸ハ概ネ低地ニシテ濕潤荒蕪ノ地尠カラザリシガ適當改修工事施工セラルルヤ浚渫又ハ掘鑿ヨリ生ズル剩餘土ヲ利用シ土地ノ改良ヲ企テ民有地ニ捨土出願スルモノ多キヲ以テ概ネ其希望ヲ容レ捨土運搬ニ要スル材料及勞力等ヲ提供セシメ同九年度以降實施シ來リ本年度末迄ニ土量三百四十二萬立方米ヲ捨土シ改良セラレタル土地三百九十ヘクタールニ及ベリ之ガ爲メ沿岸附近ハ工場或ハ住宅地トシテ其面目ヲ一新シ交通機關ノ設備ト相俟テ地方民ノ受益ハ蓋シ尠少ナラザルベシ

本年度竣功高ハ六十萬五百五十五圓ニシテ創業以來ノ累計ハ五百八十八萬五千四百五十二圓トナレリ之ヲ總工費豫算七百七十六萬二千圓ヨリ大正十一年度迄ノ事務費十九萬四千八十六圓ヲ控除シタル七百五十六萬七千九百十四圓ニ比較スレバ七割八分ノ竣功ナリトス工事竣功左表ノ如シ但シ表中「△」ハ製作品價額「□」ハ附帶工事管理者負擔額「▲」ハ捨土出願者提供勞力竝ニ材料費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	二、三三八、九三五 立方米	一四〇、九七八円	九四、四五六 立方米	七〇、六六六円	二、四三三、三九一 立方米	二一一、六四四円	〇、九一 割分
		▲ 一八、五一三		▲ 八、四九一		▲ 二七、〇〇四	
浚渫	五、五五二、〇六〇	一、九四七、五二二	六二三、九四八	二九七、八九七	六、一七六、〇〇八	二、二四五、四一九	〇、九六
		▲ 九八三、四九五		▲ 一二五、〇四五		▲ 一、一〇八、五四〇	
護岸水制費	五、〇八八米			三、六三四	五、〇八八米	三、六三四	〇、〇二
		▲		▲ 二八、九七四		▲ 四七、六一二	
用地費	四、一五五段	二、四九八、八六六	五三段	二、九四九	四、二〇八段	二、五二〇、八一五	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
附帶工事費		円	箇所	円	箇所	円	割分
船舶及機械費		□▲△		□▲△		□▲△	
測量費		一、〇八一、一二九、五六九	竣功	三一、四〇〇、〇〇〇	竣功	三一、四〇〇、〇〇〇	〇・一四
營繕費		三〇・一六七		二一三、七〇〇、三〇四		二一九、四一八、八一二、三四六、八七三	
雜費		五七、八五三		五、二九八		三五・四六五	
共濟組合給與金		四五五、〇三七		八、五六七		六六・四二〇	
		一八・七五四		八八・二四八		五四三・二八五	
				六・七〇五		二五・四五九	
總計		□▲△		□▲△		□▲△	〇・七八
		五、二八四、八九七、二九二、五六九、一二五五		六〇〇、五五五、三一九、八一〇、八四五		五、八八五、四五二、二五四、一八二、七三七、〇三三	

第一七　阿賀川及阿武隈川改修工事

緒言

本工事ハ大正八年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トシテ工事費一千三百七十二萬百五十圓(内阿賀川七百三十三萬九百七十七圓、阿武隈川六百三十八萬九千百七十三圓)事務費二十萬七千九百六十圓、合計一千三百九十二萬八千百十圓ヲ以テ施行ノ計畫ナリシガ大正十二年帝都ノ大震災ニ依リ財政上年割額ヲ變更シ昭和十一年度(大正二十五年度)迄三箇年度ノ繰延ベヲ爲セリ

阿賀川改修區域ハ幹川北會津郡大戸村大字雨屋以下河沼郡川西村大字長井ニ至ル二十九粁五、支川宮川ハ同縣北會津郡荒井村以下阿賀川合流點ニ至ル二粁八、支川湯川ハ若松市以下阿賀川合流點ニ至ル二粁三、合計三十四粁六ニシテ阿武隈川改修區域ハ幹川安積郡永盛村以下田村郡小泉村ニ至ル間、同縣安達郡本宮町附近及福島市ヨリ下流伊達郡五十澤村ニ至ル三十七粁、支川荒川筋ハ同縣信夫郡荒井村地藏原以下合流點ニ至ル十三粁一、合計五十粁一ニ達シ郡山平野、本宮市街地並ニ信達平野ノ主要部ヲ包含ス卽チ兩川ヲ通ジタル改修區域延長ハ八十四粁七ナリトス

河狀並計畫大要

阿賀川ハ阿賀野川ノ上流福島縣ニ屬スル部分ノ稱呼ニシテ阿賀野川全部ノ流域面積八千九十七平方粁(内福島縣管内六千四百十六平方粁)流路延長ハ二百二十八粁(内福島縣管内百二十四粁)ヲ有ス而シテ支川

只見川及同川合流點以下ハ概ネ山間部ニ屬シ灌漑ノ利ニ乏シク水害モ亦少シト雖モ只見川合流點ヨリ上流ハ會津平野ヲ貫流シ灌漑ノ利多キニ伴ヒ水害モ亦甚シク明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年ノ損害平均年額八十六萬三千百十六圓ニ達ス加之河道亂レ堤防薄弱若クハ無堤部ノ部分多キニ依リ之ヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明カナリ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ卽チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シ在來堤防薄弱ナルモノハ之ヲ補强シ低キモノハ之ヲ高メ無堤地ニハ堤防ヲ築キ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝ニ浚渫等工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニアリ

高水流量ハ阿賀川最大每秒時四千二百五十七立方米、宮川三百八十九立方米、湯川百八十立方米ト定メ河幅ハ大體阿賀川平地部三百六十米乃至五百四十五米、山間部百五十米、宮川九十米、湯川七十三米ニ整理セントス

阿武隈川ハ福島、宮城ノ兩縣ニ亙ル流域面積四千九百三十五平方粁（內福島縣管內四千二十五平方粁）流路延長二百五十九粁（內福島縣管內百九十六粁）ニ及ビ灌漑ノ利ヲ享クルコト多シト雖モ水害ヲ被ムルコト亦甚シク殊ニ福島附近信達平野及郡山附近安積平野ニ於テ甚大ナリトス又信達平野左岸ニ存在スル各支川ハ急流ニシテ其水源地ヨリ土砂ノ搬出甚シク從テ亂流ノ狀態ニ陷リ且洪水流量比較的多キヲ以テ一朝洪水ニ際會センカ其慘狀激甚ヲ極メ以テ本流ノ河狀ヲ害シ之レヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明カナリ

本改修計畫ノ主眼ハ所謂洪水防禦ニシテ卽チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シテ在來ノ無堤部ニ堤防ヲ築キ其薄弱ナルモノハ之ヲ補强シ低キモノハ之ヲ高メ河積不足ノ箇所ニハ掘鑿竝ニ浚渫等必要ノ工事ヲ

施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニアリ高水流量ハ本流ノ下流終端ニ於テ最大毎秒五千二百九十立方米、支川荒川ハ一千二百五十立方米ト定メ河幅ハ大體本流百八十二米乃至四百米、支川荒川ハ百四十五米乃至二百十八米ニ整理セントス

施工狀況

阿賀川改修工事ハ大正十年二月ノ創業ニ係リ諸般ノ設備ハ稍々整ヒタレドモ尙測量調査中ニ屬スルモノアリ從テ用地ノ買收ハ其一部分ニ過ギズ本年度ノ施行工事ハ前年度同樣廣瀨村靑津、慶德村大字山科間、同大畑川原子間、同泡ノ卷地內、同土堀地內及川西村大字長井字袋原地內ノ新川掘鑿竝ニ堂島村赤星、大澤間ノ右岸切擴ゲヲ續行シ更ニ廣瀨村靑木、靑津間ノ掘鑿ヲ起シ大畑、川原子間及土堀地內、袋原地內ノ掘鑿竣功部分ニ對シテハ護岸工事ヲ施行セリ

而シテ本年度ノ功程ハ三十萬三千五百二十二立方米ニシテ掘鑿、護岸ヲ併セ工費十一萬二千五百六十三圓ナリ

本改修工費竣功額ハ本年度二十二萬七千七百八圓、累年二百二十一萬四千七百六十二圓ニシテ總工費豫算額七百三十三萬九百七十七圓ニ對シ約三割ノ竣功ナリ

阿武隈川改修工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ諸般準備殆ド完了セリト雖モ豫算ノ關係上緊縮方針ヲ採リ著シク工事ノ進捗ヲ見ザルハ頗ル遺憾トスル處ナリ其施工區域ハ前年度ト同樣幹川筋福島下流、信達平野、本宮市街地、郡山平野及支川荒川筋トシ其工事モ大部分前年度ニ引續キ施工シ本工事トシテハ掘鑿、築堤及護岸工事等ナリ又附帶工事ノ內前年度ヨリ施工中ナリシ福島下流伊達崎村地內惡水吐工事ハ昭

和二年五月竣功シ更ニ本年度著手セルハ郡山附近郡山市地内惡水樋管附帶工事三箇所ニシテ何レモ施工中ナリ

本改修工事竣功額ハ本年度分二十一萬六百十八圓ニシテ累計四百十四萬二千三百五十六圓ナリ而シテ總工費六百三十八萬九千百七十三圓ニ對シ六割五分ノ竣功ナリ

阿賀川及阿武隈川兩川改修工事本年度竣功額四十三萬八千三百二十六圓累年竣功額六百三十五萬七千百十八圓ニシテ總工事費一千三百七十二萬百五十圓ニ對シ四割六分ノ竣功ナリ其竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
本工事費 浚渫	八一六、四三九	四六一、六七七	—	—	八一六、四三九	四六一、六七七	
掘鑿	三、〇八〇、三九九	九二一、七六一	七一一、〇七四	一九九、〇三七	三、七九一、四七三	一、一二〇、七九八	〇、三八
築堤	一、四一一、八一八	四一七、五五二	一七三、八八一	一七、七七二	一、五八五、六九九	四三五、三二四	
護岸水制	—	一一一、四六二	—	三三、〇一二	—	一四四、四七四	
堰堤	箇所 一	一四三、七一〇	—	—	箇所 一	一四三、七一〇	
樋門	二	四三、五〇三	—	—	二	四三、五〇三	
用地費	五、九一三段	一、〇〇六、七四八	二九五段	四六、〇六四	六、二〇八段	一、〇五二、八一二	〇、七九
附帶工事費	箇所 六	一二、八〇四	箇所 三	三、八七六	箇所 九	一六、六八〇	
船舶及機械費	—	二、一九一、九〇〇	—	五九、六八六	—	二、二五一、五八六	
測量費	—	七、二二六	—	一二〇	—	七、三四六	
營繕費	—	七八、二三五	—	二、六一五	—	八〇、八五〇	
雜費	—	五一一、三八七	—	七二、八三九	—	五八四、二二六	

共濟組合給與金						
總計	—	一〇、八二七	—	三、三〇五	—	一四、一三二
	—	五、九一八、七九二	—	四三八、三二六	—	六、三五七、一一八
						〇・四六

本表ヲ更ニ河川別ニ區分スレバ次ノ如シ

阿賀川改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 浚渫	二二五、八五〇 立方米	一〇八、九六七 円	— 立方米	— 円	二二五、八五〇 立方米	一〇八、九六七 円	〇・一八 割分
掘鑿	一、一一九、四二三	四五六、〇〇五	三〇三、五二二	九九、〇九八	一、四二二、九四五	五五五、一〇三	
護岸水制費	—	一、七二四	—	一三、四六五	—	一五、一八九	—
用地費	一、一三五 段	二〇二、三七九	二九二 段	四二、九〇七	一、四二七 段	二四五、二八六	〇・三六
附帶工事費	—	—	一 箇所	一、〇七九	一 箇所	一、〇七九	—
船舶及機械費	—	九四五、一七〇	—	三〇、九八九	—	九七六、一五九	—
測量費	—	二、七二七	—	四七	—	二、七七四	—
營繕費	—	二四、八〇〇	—	一、二五三	—	二六、〇五三	—
雜費	—	二三九、五四〇	—	三六、九六三	—	二七六、五〇三	—
共濟組合給與金	—	五、七四二	—	一、九〇七	—	七、六四九	—
總計	—	一、九八七、〇五四	—	二二七、七〇八	—	二、二一四、七六二	〇・三〇

阿武隈川改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 浚渫	五九〇、五八九 立方米	三五二、七一〇 円	— 立方米	— 円	五九〇、五八九 立方米	三五二、七一〇 円	〇・四九 割分
本工事費 掘鑿	一、九六〇、九七六	四六五、七五六	四〇七、五五二	九九、九三九	二、三六八、五二八	五六五、六九五	〇・四〇
本工事費 築堤	一、四一一、八一八	四一七、五五二	一七三、八八一	一七、七七二	一、五八五、六九九	四三五、三二四	〇・三六
本工事費 護岸水制	—	一〇九、七三八	—	一九、五四七	—	一二九、二八五	—
本工事費 堰堤	一箇所	一四三、七一〇	—	—	一箇所	一四三、七一〇	—
本工事費 樋門	二	四三、五〇三	—	—	二	四三、五〇三	—
用地費	四、七七八段	八〇四、三六九	三段	三、一五七	四、七八一段	八〇七、五二六	一・〇〇
附帶工事費	六箇所	一二、八〇四	二箇所	二、七九七	八箇所	一五、六〇一	—
船舶及機械費	—	一、二四六、七三〇	—	二八、六九七	—	一、二七五、四二七	—
測量費	—	四、四九九	—	七三	—	四、五七二	—
營繕費	—	五三、四三五	—	一、三六二	—	五四、七九七	—
雜費	—	二七、八四七	—	三五、八七六	—	三〇七、七二三	—
共濟組合給與金	—	五、〇八五	—	一、三九八	—	六、四八三	—
總計	—	三、九三一、七三八	—	二一〇、六一八	—	四、一四二、三五六	〇・六五

第一八　太田川改修工事

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ當初工費三百四十四萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百六十五萬圓(內靜岡縣負擔百八十二萬五千圓)ヲ以テ河川改良工事トシテ大正十四年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシ起工セシガ大正十二年度ノ初メニ至リ時局ノ影響ヲ受ケ物價及勞銀ノ騰貴ニ因リ工費百十九萬圓ヲ增額シ又財政上ノ都合ニ依リ施行年限ヲ延長シ昭和四年度ニ至ル十一箇年度繼續事業ト爲シ同時ニ河川法ニ基キ工事ヲ國ニ於テ直轄施行スルコトトナリ地方費負擔額モ十二年度以降ノ分ハ同法ニ據ルコトトナレルヲ以テ結局工費四百六十九萬七千五百八十圓、事務費十四萬五千四百二十圓、合計四百八十四萬二千圓(內地方費負擔二百六萬九千圓)ニ變更セラレタルガ更ニ同年九月一日ノ關東地方大震火災ノ影響ニ因ル一般事業繰延ノ爲メ更ニ施行年限ヲ昭和六年度迄ニ延長セラレタリ其施行區域ハ幹川筋ニアリテハ靜岡縣周智郡森町以下海ニ至ル約二十二粁、支川敷地川ニアリテハ同縣磐田郡三川村以下幹川合流點ニ至ル約七粁、支川原野谷川ニアリテハ同縣小笠郡原谷村以下幹川合流點ニ至ル約十九粁、小支川逆川ニアリテハ同縣小笠郡西山口村以下原野谷川合流點ニ至ル十粁、小々支川倉眞川ニアリテハ同縣小笠郡西下郷村以下逆川合流點ニ至ル二粁餘、其他是等諸川ニ相關聯セル支川ノ一部ヲ合セ總計約六十粁ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ大井及天龍ノ二大河ノ間ニ介在シ中遠ノ南部ヲ貫流スル一小河ニシテ流域面積五百八平方粁降水量饒多ナレドモ急流ニシテ平時水量乏シク殆ンド水運ノ便ヲ有セズ幹川流路ハ僅ニ四十四粁ニ過ギズト雖モ分合スル支派川二十有餘アリテ其總延長三百粁ニ達ス從テ灌漑面積比較的多ク九千七百六十ヘクタールニ亙リ其利益大ナルモノアレドモ水害區域モ亦廣ク九千二百ヘクタールヲ算シ小河川ノ割合ニ損失ヲ受クルコト甚大ナリ而シテ其原因ハ主トシテ河狀ノ不良及堤防ノ薄弱ニ歸ス明治四十三年乃至大正八年ノ十箇年間ニ於ケル水害損失價額ノ如キハ平均年額三十二萬百七十五圓ニ當リ就中明治四十四年ノ水害ハ百二十六萬二千六百七十二圓ノ多額ニ達シタリ而シテ本川ノ水害ハ獨リ田畑ヲ荒廢セシムルノミナラズ第一號國道タル東海道ヲ初メ重要道路ヲ數箇所ニテ横斷スルヲ以テ一朝出水ノ際ハ忽チ交通ヲ杜絶シ從テ鐵道東海道線ノ如キモ不通ノ災厄ニ會フコト稀ナラザルノ狀態ニアリ

本計畫ハ主トシテ洪水ノ疏通ヲ良好ナラシメ之ヲ防禦スルニアリ改修ノ方法トシテハ在來ノ不規則ナル堤防ヲ改廢整理シ其薄弱ナルモノハ之ヲ擴築シ必要ノ箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ河積不足ノ箇所ハ引堤或ハ掘鑿ヲ施シ以テ河狀ヲ矯正シ屈曲ヲ緩和シ時ニ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ支川ニシテ逆流ノ虞アルモノ及各用惡水路等ニハ必要ニ應ジ水門等ヲ築設シテ洪水ノ浸水ヲ防ガントス

本計畫ニ採用セル最大流量及河幅等ハ次ノ如シ

河川名	流量	河幅	高水位勾配	河川名	流量	河幅	高水位勾配
太田川（原野谷川合流點以下）	毎秒立方米 一、九五〇 自 至	四二〇米 自 至	一、二〇〇分一 自 至	原野谷川	毎秒立方米 九、三三〇 自 至	九七五米 自 至	一、二〇〇分一 自 至
同　川上流	七〇 九〇 自 至	九〇 自 至	二四三分一 八七〇分一 自 至	逆川	二五〇 五七〇 自 至	六三〇 八六〇 自 至	五二五分一 七五〇分一 自 至
敷地川	二五〇 三〇五 自 至	四五〇 五五〇 自 至	四三〇分一 七三〇分一 自 至	倉眞川	一六〇 一六五 自 至	三〇 三六 自 至	二〇四分一 六三〇分一 自 至

堤防ノ標準斷面ハ太田川、原野谷川合流點以下河口ニ至ル間ハ馬踏三米五、表法二割、裏法二割五分トシ太田川、原野谷川合流點以上及敷地川、逆川ハ大部分馬踏三米乃至三米五、兩法共ニ二割トシ其他ノ小支川ハ馬踏幅二米七、兩法二割トス尙勾配ノ急ナル箇所及水勢ノ激突スル虞アル箇所ニハ相當ノ保護工事ヲ施スモノトス

施工狀況

本工事ハ大正八年度創業以來施行準備ニ著手シ同八年度及九年度ニ於テ實地測量竝ニ土地買收調査ヲ爲シ同十年度ヨリ同十二年度ニ至ル三箇年度間ニ於テ前後三回ニ亙リ全改修區域ノ殆ンド全部約百五十三町歩ノ土地買收及地上物件ノ移轉ヲ完了シ續テ大正十三年度ニ於テ約一町三段歩ノ局部買收ヲ行ヒタルガ本年度ニ至リ更ニ小々支川倉眞川上流未買收土地約九段歩ノ買收ノ必要ヲ生ジ年度內ニ於テ之ガ土地買收竝ニ地上物件移轉ヲ終了セシメタリ而シテ本年度支拂ヒタル買收費ハ右土地買收費四千四百三十四圓餘、地上物件移轉料八十六圓餘ノ外既買收土地ニ殘存セル井戸一箇所ノ移設費九十七圓ナリトス

工事ニアリテハ大正十年度中買收區域ノ一部ヨリ著手シ漸次本支川ノ各所ニ及ボシ大正十二年度ニ至リテ區域殆ンド全川ニ亙リ專ラ築堤掘鑿工事ノ進捗ニ努メ特ニ太田川本川中流部竝ニ支川原野谷川、逆川合流附近ノ新開鑿工事ニ力ヲ致セシガ右開鑿工事モ前年度迄ニ於テ全ク完成セシメ其他ノ箇所ニ於テモ本年度ハ前年度迄ニ殘サレタル支川逆川及敷地川上流部ノ殘工事ヲモ全部著手シ年度內ニ於テ總築堤掘鑿土量ノ約八割强ヲ竣成セシムルニ至レリ尙低水路ノ開鑿及切擴箇所ニハ大正十二年度以來必

要ニ應ジ各所ニ護岸工事ヲ施行シ以テ水勢ヲ緩和シ堤脚竝ニ沿岸ノ侵蝕ヲ防止セシメツツアリ又附帶工事ニ於テハ本工事ノ施行ニ伴ヒ必要箇所ニ樋管水路等逐次施行シ來リシガ前年度ヨリ新タニ逆川支川垂木川下流ノ改良工事ヲ附帶工事トシテ直轄施行スルコトトナリ本年度内ニ於テ下流東海道以下ノ新水路開鑿ヲ略々完成セシメタリ

本年度中ニ於テ工事ニ著手セルモノハ築堤二箇所、掘鑿一箇所、護岸十三箇所、附帶工事六箇所ニシテ前年度ヨリ施行ノモノヲ合セ本年度施行中ニ屬スルモノ築堤二十三箇所、掘鑿十四箇所、護岸二十八箇所、附帶工事七箇所ニシテ内本年度中竣功セルモノ築堤五箇所、掘鑿三箇所、護岸十一箇所、附帶工事三箇所ナリトス本年度ノ功程ハ掘鑿土砂約二十二萬八千七百立方米ニシテ内掘鑿費支辨ノモノ三萬九千三百立方米此工費一萬四千三百十一圓、築堤工事土量約三十三萬三百立方米内築堤費支辨ノモノ三十二萬三千百立方米ニシテ此工費十四萬五千八十五圓餘ナリトス而シテ工事ハ爾來主トシテ人力ニ依リ又場所ニ依リ土運搬ニ牛馬力ヲ以テシタルガ土取箇所ハ總テ低水路ノ開鑿或ハ切擴ニシテ土質亦概ネ硬粘土若クハ砂利ナルニ加ヘ土盛箇所狹長ニシテ而モ多クハ中間ニ民有地ヲ存シ掘鑿、運搬共ニ困難ヲ感ズルトコロニシテ人夫ノ出役者亦從ツテ少ナク人力ノミニテハ充分ノ工程ヲ擧グル能ハズ工事區域ノ擴大スルニ從ヒ其度ヲ增大スルニ至ルヲ以テ大正十二年度ヨリ更ニ小型ドラグライン掘鑿機竝ニ四噸ガソリン機關車各一臺ヲ使用シ專ラ逆川筋新川掘鑿箇所ニ利用セシメ人力ニ依ル工程ノ不進ヲ補ハシメツツアリシモ本川ノ如キ掘鑿箇所ノ狹隘ナルト土捨箇所ノ狹小ナル所ニ於テハ機械竝ニ運搬線路ノ移動ヲ頻繁ナラシメ機械ノ能率ヲ充分發揮セシムル事能ハズ從テ工費ノ廉ヲ計ル事困難ナリ

本年度太田川改修工事ノ竣功額ハ三十七萬一千二百五圓ニシテ創業以來本年度迄ノ總竣功額三百十五

萬一千五百十六圓トナリ總工費豫算四百六十九萬七千五百八十圓ニ對シ六割七分ニ當ル其工事竣功表ハ次ノ如シ但シ「●」ハ利用土量ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	● 二、三六七、四九三 立方米 七、七六二	九〇〇、九七一 円	● 三二三、一一二 立方米 七、二〇一	一四五、〇八六 円	● 二、六九〇、六〇五 立方米 一四、九六三	一、〇四六、〇五七 円	〇・八四 割分
掘鑿	● 一、一五一、六五二 一、八二四、一八八	四四、六〇二	● 三九、三一〇 一八九、四七六	一四、三一一	● 一、九〇、九六二 二、〇一三、六六四	五八、九一三	〇・六五
假設工事 護岸		九七、三七八		一一、六七		二一一、五四五	
假設工事		一一、〇三一				一一、〇三一	
用地費	一、五三九 段	一、〇七七、一七〇	九 段	四、六〇八	一、五四八 段	一、〇八一、七七八	
附帶工事費	五〇 箇所	七〇、一二九	一七 箇所	四六、〇三二	六七 箇所	一一六、一六一	
船舶及機械費		二七〇、三三九		五、二九〇		二七五、六二九	
測量費		一四、一二三		七五九		一四、八八二	
營繕費		一二、四二三		一一三		一二、五三六	
雜費		二七六、〇三九		三九、一五四		三一五、一九三	
共濟組合給與金		六、一〇六		一、六八五		七、七九一	
總計		二、七八〇、三一一		三七一、二〇五		三、一五一、五一六	〇・六七

第一九　富士川改修工事

緒言

本工事ハ大正九年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費九百三十萬圓上流部七百萬圓、下流部二百三十萬圓）ナリシガ豫算編成當時ニ比シ一般物價及勞銀ノ昂騰甚シク工費ニ不足ヲ告ゲタルヲ以テ大正十二年度以降增額シテ一千二百萬圓（上流部九百萬圓、下流部三百萬圓）ニ改メ施行年限ヲ延長シテ昭和六年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トセリ然ルニ財政緊縮ニ依リ更ニ同十一年度迄延長施行スルコトトセリ其區域ハ上流部ニテハ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同縣南巨摩郡五開村ニ至ル二十粁、支川笛吹川同縣東八代郡石和町ヨリ同縣西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル十九粁又下流部ニテハ靜岡縣庵原郡富士川町以下海ニ至ル八粁、計四十七粁ナリトス

河狀並計畫大要

富士川ハ幹川ヲ上流ニ於テ釜無川ト稱シ源ヲ山梨縣ノ西北隅ニ屹立セル駒ケ嶽ノ西麓ニ發シ甲信ノ境ヲ北流スルコト十八粁餘ニシテ南折シ同縣北巨摩郡ニ入リ一大斷層谷ヲ流レ大武川、小武川、鹽川、御勅使川等ノ支川ヲ合シ龍王村ニ至リ初メテ甲府盆地ニ出ヅ甲府盆地ハ太古一大湖水ナリシガ富士川ノ作用ニ依リ陸化シタル所ニシテ地形平夷面積一萬三千ヘクタールニ達シ灌漑ノ便全シト雖モ一朝洪水ニ際會セバ水災最モ慘狀ヲ來ス地方ナリ釜無川ハ之ヨリ盆地ヲ貫キ中巨摩郡忍村ニ至リ笛吹川及蘆川ノ東

ヨリ來ルニ會ヒ之ヨリ以下ヲ富士川ト稱シ南巨摩郡鰍澤町地先禹ノ瀨ニ至リテ再ビ山地ニ入リ南流シ早川、芝川等ノ支川ヲ合シ靜岡縣富士郡岩松村ニ至リ再ビ平原ニ出デ駿河灣ニ注グ此平原モ亦本川砂礫ノ冲積セルモノニシテ其面積五千ヘクタールニ達シ古來水災激甚ノ地ナリトス而シテ水源ヨリ笛吹川合流點迄ノ流程五十八粁、合流點ヨリ河口迄ノ流程七十一粁、合計百二十九粁ナリ又支川笛吹川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ノ北隅甲武信ケ嶽、國師ケ嶽及奥千丈嶽ニ發シ山嶽ノ間ヲ西南ニ流レ同郡日部下村ニ於テ甲府盆地ニ出デ重川、日川、金川、荒川等ノ支川ヲ集メ忍村ニ至リ釜無川ニ合流ス其流程五十粁ナリ

本川流域ハ長野、山梨、靜岡ノ三縣ニ跨リ流域面積四千五百三十平方粁ナレドモ其大部ハ山嶽部ニシテ平地ハ六百十平方粁ニ過ギズ支川ヲ合セ流路延長一千七百八十粁、航路延長九十粁、灌漑區域一萬八千二百ヘクタールニ及ビ水害區域一萬三千五百ヘクタールヲ算ス而シテ流域ハ山地大部分ヲ占ムルニ依リ夏期颱風ノ候ニ於テハ豪雨頻々トシテ來リ山林濫伐ノ爲メ水源荒廢セルモノ尠カラズ又花崗岩閃綠岩等ヨリ成レル山地ノ風化崩壞スルモノ多キヲ以テ出水量多大ナルノミナラズ時トシテハ土砂流ヲ生ジ而モ河床勾配急峻、流勢急激ナルニ依リ堤塘ヲ破壞シ沿川ノ耕地ヲ變ジテ礫川ト化セシメ大慘害ヲ釀セシコト稀ナラズ殊ニ明治四十年ノ大出水ニ際シテハ笛吹川支川重川、日川、金川等ノ水源大崩壞ヲ來シ土砂ヲ以テ甲府平原ノ一半ヲ埋沒スルニ至リ其水害損失價額ハ一千二百萬圓ノ巨額ニ上レリト云フ近時水害減少シタリト雖モ尙大正五年以降同十四年ニ至ル十箇年間ニ於ケル水害損失平均年額ハ約四十三萬九千圓ニ達ス

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ採用シタル高水流量及河幅ハ左ノ如シ

縣名	河川名	區間	高水流量	河幅
山梨縣	釜無川	龍王村ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル區間	毎秒立方米 三、一〇〇	自 二七〇〇米 至 四五〇〇
		石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル區間	二、二〇〇	
	笛吹川	荒川合流點ヨリ蘆川合流點ニ至ル區間	二、五〇〇	自 一八〇〇 至 二九〇〇
		蘆川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル區間	二、八〇〇	
	富士川	笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル區間	五、六〇〇	自 三六〇〇 至 七三〇〇
静岡縣	富士川	松野村ヨリ海ニ至ル區間	九、八〇〇	自 三四〇〇 至 一、四五〇〇

改修方法トシテハ上流部山梨縣下ニ屬スル區域中釜無川筋龍王村以下花輪村地先淺原橋ニ至ル間ハ兩岸堤防堅固且其位置宜シキヲ以テ在來ノ儘トシ唯兩岸堤脚ヨリ水制ヲ出シ流心ノ堤脚ニ接近スルヲ防ガントス又支川笛吹川ニ於テハ河積不足ナル箇所ハ河幅ヲ擴張シ掘鑿ヲ施シ又一部河床ノ隆起著シキ部分ハ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル箇所ハ嵩置腹付ヲ爲サントス而シテ笛吹、蘆ノ兩川ハ共ニ忍村ニ於テ釜無川ニ合シ而モ釜無川及蘆川ハ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ兩川ノ間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ其合流口閉塞セラレ洪水ノ排疏頗ル困難ナルヲ以テ笛吹川ハ蘆川ト共ニ新河道ニ依リテ三籾ノ下流ニ導キ西八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ笛吹川ノ疏通ヲ助ケントス

富士川（釜無、笛吹、蘆ノ三川合流點以下ヲ富士川ト稱ス）ハ鰍澤町地先禹ノ瀨ニ於テ狹塞セラレ水面勾配緩トナリ從テ三川合流點以下ノ現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ前述ノ如ク笛吹川ヲ分流シ河幅ヲ擴張シ堤塘ヲ嵩置シ加フルニ掘鑿ヲ施シ充分ナル流積ヲ與ヘントス又禹ノ瀨以下ニアリテハ大柳川殆ンド直角ニ本川ニ流入シテ其洪水ノ疏通ヲ阻ム虞アルニ依リ床固ヲ築造シテ河床ヲ整正セン

トス尙蘆川、戸川及小柳川等ニモ床固ヲ設クルモノトス

下流部靜岡縣下ニ屬スル區域中岩松村以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ激衝スル部分略々一定スルヲ以テ現存工作物ノ機能ヲ增進セシムルニ努メ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ノ激衝スル堤脚ニハ水制ヲ出シ左岸下流無堤ノ箇所ニハ新ニ堤塘ヲ設ク尙上下流部改修區域ヲ通ジ堤塘、護岸等ハ必要ニ應ジテ擴築或ハ增築ヲ爲スモノトス

山梨縣南巨摩郡五開村ヨリ靜岡縣庵原郡富士川町ニ至ル約五十粁ノ間ハ殆ンド山間部ニシテ平地少ク洪水ニ因ル被害比較的重大ナラザルヲ以テ本改修計畫ニ計上セズ

堤防ハ上流部釜無川及富士川ニテハ馬踏六米、兩法二割五分、笛吹川ニテハ馬踏六米、兩法二割トシ天端ヲ計畫高水位以上鰍澤町附近ニテ一米八ト爲シ上流ニ至ルニ從ヒ漸次此餘裕ヲ減ジ釜無川筋淺原橋ニテ一米五、笛吹川筋鵜飼橋ニテ一米二タラシム又下流部ニテハ左岸堤ハ馬踏八米ニシテ岩松村地先ニ於ケルモノハ表法三十割、裏法二割、加島村及田子浦村地先ニ於テハ表法二割、裏法六割トシ右岸堤ハ馬踏六米、表法二割、裏法二割五分ヲ標準トシ天端ヲ計畫高水位以上一米八トシ河口ニ至ルニ從ヒ此餘裕ヲ減ジ一米タラシム

河幅ハ上流部釜無川及富士川ニテハ多クハ在來堤ヲ擴築セシニ止マリ釜無川ニテ三百米乃至四百米、富士川ニテ三百六十米乃至五百米ナリ笛吹川ハ河積不足ノ爲メ引堤セシ部分尠カラズ二百米乃至二百九十米ナリ又下流部ニ於テハ多クハ在來堤ヲ擴築シ左岸無堤ノ箇所ニ新堤ヲ築設セシ爲メ河幅著シク不同ナリ卽チ改修上流端一番出ニテハ三百六十米ナレドモ雁堤附近ニテハ九百米以上ニ增大シ國道橋ニテハ再ビ四百米ニ縮小シ鐵道橋ニテハ五百七十米トナリ以下漸次擴大シ宮下突出部ニテ一千米、堤防末

端ニテ一千七百米ニ達ス

施工狀況

本工事ハ大正九年度創業直ニ上流及下流ニ各土地收用事務所ヲ開設シテ土地買收調査ニ著手シ翌十年度ヨリ買收協議ヲ開始シ事務ノ進捗ニ伴ヒ同十年八月下流土地收用事務所ヲ又同十三年六月上流土地收用事務所ヲ閉鎖シ殘務ハ上流及下流兩改修事務所ニテ處理シ同十四年度迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ終レリ其總段別百八十八町三段二十六歩ニシテ買收費、地上物件移轉料及補償費ヲ合セ用地費九十三萬四百五十六圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ下流ハ同十年四月靜岡縣富士郡岩松村ニ上流ハ翌十一年一月山梨縣西八代郡市川大門町ニ各改修事務所ヲ開設シ其下ニ數箇所ノ工場及派出所ヲ設ケ各工事ヲ施工シ本年度末迄ニ築堤土量三百十六萬二千四十七立方米、浚渫土量二百四十四萬九千二百四十二立方米(利用土ヲ含ム)、護岸水制延長六千百三十八米ヲ竣成セリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ上流部ニテハ前年度未竣功ノ築堤工事十二、人力掘鑿工事六、護岸水制工事六及附帶工事一箇所、計二十五工事ノ內築堤工事二、人力掘鑿工事五、護岸水制工事二、計九工事ハ都合上休工シ其他ノ十六工事竝ニ本年度著手ノ築堤工事四、人力掘鑿工事三、護岸水制工事十一及附帶工事一箇所計十九工事、合計三十五工事ヲ施行シ內人力掘鑿工事二、護岸水制工事八及附帶工事一箇所、計十一工事ハ竣功セリ

工事施行區域ハ釜無川筋淺原橋附近ヨリ下流鰍澤町地先ニ至ル間及笛吹川筋白井河原橋ヨリ下流三川

落合ニ至ル間ニシテ人力掘鑿工事ニテハ釜無川、富士川ノ高水敷及寄洲並ニ笛吹川高水敷及低水路ヲ全部築堤費支辨ニテ掘鑿シ年度内土砂二十八萬七千四百三十三立方米ヲ竣成シ築堤工事ハ富士川、釜無川及笛吹川ノ新堤築設並ニ舊堤擴築ノ爲メ前記土砂ノ外笛吹川左岸大塚村地内民地ヨリ一萬二百四十八立方米(無償)同右左口村及境川村地内民地土取場ヨリ七萬九千九百四十二立方米(有償)、合計三十七萬七千六百二十三立方米ノ土砂ヲ築堤敷ニ搬入シ五十萬七千五百五十一立方米ヲ築立テ法面芝付九萬四千百四十八平方米ヲ施工ス此外朝井築堤ノ一部法先ニ杭柵九百五十米ヲ施工セリ

護岸水制工事ハ釜無川筋淺原橋下流ニ於テ鐵筋混凝土大聖牛四組、鐵筋混凝土合掌枠二箇所及混凝土杭出ノ殘工事ヲ右岸ニ混凝土杭出一箇所、既設水制頭部根固五箇所ヲ左岸ニ施工シ新蘆川筋ニ於テハ蘆川床固及若宮護岸ノ大部分ヲ施工シ新印川ニ印川護岸、新戸川ニ新地水制ヲ竣成シ功程石張三千四百二十平方米、床固百八十米、混凝土杭出五十四米、根固用方格枠四十米、大聖牛十一米、合掌枠六十四米、鐵筋混凝土柱製作四千八百六十六本、玉石及割石採集運搬一千九百一立方米ナリトス

附帶工事ハ前年度ヨリ續工セル高田樋門ハ竣功シ南巨摩郡增穂村ノ起業ニ係ル當所直轄施工ノ增穂樋門工事ハ昭和二年十月著手年度末迄ニ本體上床版ノ混凝土ヲ了レリ

下流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ築堤工事五、護岸水制工事五、計十工事並ニ本年度著手セル築堤根固工事一、護岸水制工事八、計九工事、合計十九工事ヲ施工シ以上ノ内築堤根固工事一、護岸水制工事六、計七工事ハ竣功セリ築堤工事ハ尙一部未完成ノ箇所アレドモ施工ノ時期ニ達セザルガ故ニ單ニ修補ノ程度ニ止メ甲子浦築堤ハ要所ニ大聖牛十組、其末端ニ木工沈床二百九十二平方米ヲ敷設シ既設ノ混凝土大聖牛ト相俟テ法先ノ洗掘ニ備ヘタリ

護岸水制工事ハ左岸岩松村地先ニ於テ前年度ヨリ繼續施行セル松岡水制ノ大部分ヲ完成シ田子浦護岸延長二百六十二米ヲ竣功シ引續キ田子浦第二護岸ヲ起工シ又宮下水制ノ下流ニ一ノ堤下水制ヲ田子浦護岸ノ上流ニ中堀水制ヲ田子浦第二護岸ノ下流端ニ五貫島水制ヲ施工セシガ何レモ鐵筋混凝土大聖牛又ハ合掌枠ヲ使用セリ此外石材斫出、石材運搬方格枠及聖牛用鐵筋混凝土柱製作等ヲ施工シ功程混凝土方格枠一千二百平方米、木工沈床二百九十二平方米、大聖牛三十九組、石張二千五百五十三平方米、石材斫出一千八百六十四立方米、石材運搬一千八百六十六立方米、鐵筋混凝土柱製作一萬一千三百四十四本ナリトス

本年度竣功高ハ五十二萬五千八百七十六圓ニシテ創業以來ノ累計ハ四百七十二萬五百五圓トナリ之ヲ總工費豫算一千二百萬圓ニ比スレバ三割九分ノ竣功トナレリ其工事竣功左表ノ如シ但シ表中「△」ハ製作品價額「□」ハ管理者負擔額「＊」ハ利用土量ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	二、七八四、四二四 立方米	△ 一、八二二、五四六円	三七七、六二三 立方米	△ 二四八、三五二円	三、一六二、〇四七 立方米	△ 二、〇七〇、八九八円	〇・六六 割分
浚渫	＊ 二、〇八〇、四九四 八一、三一五	五六、七六九	＊ 二八七、四三三	一九	＊ 二、三六七、九二七 八一、三一五	五六、七六九	〇・四〇
護岸水制	四、三二一 米	△ 五八八、四一六 八四八	一、八一七 米	△ 一五九、三八六 七七	六、一三八 米	△ 七四七、八〇二 九二五	〇・一七
地費	一、八八三 段	九三〇、四五六			一、八八三 段	九三〇、四五六	
附帶工事費 直轄施行	未竣功 箇所 一	□ 一八、〇五〇 八、一一三	竣功 箇所 一 未竣功 一	□ 一四、〇八〇 一二、二三七	竣功 箇所 一 未竣功 一	□ 一三、〇八〇 一二、二三七	〇・一四
管理者施行	竣功 九 未竣功	一八、八五六	竣功 三	四、二五四	竣功 一二	二三、一一〇	
船舶及機械費		△ 三九六、五七三 八〇		△ 二八、八七二 五〇八		△ 四二五、四四五 五八八	

測量費	一六、三五一	一、六一四	一八、九六五	〇・三九			
營繕費	二二、七四八	五〇〇	二三、二四八				
雜費	三一六、五二五	五五、五九五	三七二、一二〇				
共濟組合給與金	七、三三九	二、二二三	九、五六二				
總計	四、一九四、六二九 八、一一三	五二五、八七六 一二、二三七	四、七二〇、五〇五 二〇、三五〇				

第二〇　圓山川改修工事

緒言

本川ハ第二期川ニ屬シタルモ關係地方ニ於テ急施ヲ請願シ第一期川ニ準ジ大正九年七月ニ於ケル臨時議會ノ協賛ヲ經テ國庫ヨリ工費ノ半額ヲ補助シ且明治三十年法律第三十七號ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルコトトナレルモノニシテ當初大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百萬圓(事業費四百六十五萬圓、事務費三十五萬圓)ナリシガ其後歐洲戰亂後ノ物價及勞銀ノ昂騰ニ依リ豫算額ノ約一割八分ヲ增額サレタルガ總工費豫算五百九十一萬一千圓(工事費五百八十萬六千圓、事務費十萬五千圓)トシ施行年度又延長セラレ昭和九年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トナレリ

工事施行區域ハ幹川左岸兵庫縣城崎郡國府村、右岸同郡中筋村以下海ニ至ル二十三粁三、支川出石川左岸同縣出石郡室埴村、右岸同郡出石町以下圓山川合流點ニ至ル九粁三ナリ

河狀並計畫大要

圓山川ハ其源ヲ兵庫縣朝來郡生野町圓山字内尾谷ニ發シ兵庫縣下ニ於テハ加古川ニ次グ大河ニシテ其流域但馬ノ大部分ヲ占メ沿川ニハ豐岡町ヲ初メトシ城崎、出石、八鹿、和田山ノ諸名邑アリ河口ニハ津居山ノ要津ヲ有シ但馬唯一ノ平野ヲ南北ニ貫流シ日本海ニ入ル水運ノ便、灌漑ノ利アルモ比年洪水頻ニ臻リ

維新後ニ於テハ明治十八年及二十六年ヲ其最ナルモノトシ近年ニ於テハ明治四十年八月以來大正元年、同七年、同八年同十年及同十二年九月ノ洪水ノ如キ其被害甚大ニシテ沃野、家屋殆ンド水底ニ葬ラレ一望大湖ノ觀アリ加フルニ其減水遲々トシテ數日ニ亙リ慘狀言語ニ絶ス然レドモ沿岸概ネ低濕且堤防矮小ニシテ中位ノ出水ニ際シテモ其汎濫區域廣ク被害又大ナリトス

本川全流域面積一千三百二十平方粁餘、幹川流路延長六十七粁餘ニシテ支川ヲ合スレバ六百四十粁ニ達ス其平地面積凡ソ百九十平方粁ニシテ全流域ノ約一割四分强ヲ占ム支川ノ主ナルモノヲ大屋、八木及出石ノ各川トス

本流域ハ降水日數極メテ多ク大正七年以來昭和二年ニ至ル十箇年ノ平均ニ據ルニ豐岡ニ於ケル一箇年ノ降水日數二百二十一日ニ及ビ其平均降水總量二千五十七粍ニシテ流域內ニ於ケル最大降水日量二百五十粍(明治四十年八月西氣、城崎)ニ達ス水害ハ殆ンド毎年之ヲ見ザルハ無ク時ニ一箇年數回ニ及ブ事アリ明治四十年、大正元年、同七年、同八年、同十年及同十二年ハ近來ニ於ケル顯著ナルモノニシテ大正七年ノ洪水ニ於テモ湛水面積四千ヘクタール、浸水家屋三千餘戸ニ及ビ其損失見積價額二百十三萬圓ニ達シ同十年ニハ同ジク百十六萬圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ要旨ハ高水防禦ニアリ從テ高水量ニ對スル相當ノ河積ヲ與ヘ高水時間ノ短縮ヲ圖ランガ爲メ屈曲甚シキ箇所ニハ新川ヲ開鑿匡正シ以テ疏通ヲ速カナラシメ堤防ハ新設又ハ增築シテ汎濫ヲ防ギ各小支川ハ逆水樋門ニ依リ逆水ヲ防禦セントス

計畫高水量ハ出石川合流點以上幹川ニ於テハ毎秒二千五百立方米、同下流二千八百立方米、出石川ニ於テハ五百立方米トシ計畫高水位ハ大體ニ於テ大正元年ノ高水位ニ準據シ其勾配一千五十分一ヨリ三千六

百分一ノ間ニ變化シ中流部豐岡町附近新川開鑿區域ヲ二千六百分ノ一トス

幹川城崎郡國府村松岡以下同村上佐野左小支川八代川合流點附近ニ至ル間ハ大體現狀ニ依リ河狀ヲ整理シ舊堤ノ補强ニ止メ以下豐岡町ニ至ル間ハ河幅ノ擴張ヲ爲スト共ニ同郡中筋村加陽八條村佐野間及同新田村今森鹽津間竝ニ同新田村立野ニ新川ヲ開鑿シ之ニ依リ高水ヲ快疏セシム豐岡町以北玄武洞ニ至ル間ハ又河積ヲ擴張スルノ要アリ之ヨリ下流ハ所謂山間部ニシテ所々河積狹隘ノ箇所アルモ比較的不急ノ工事ナルヲ以テ其特ニ著シキ障碍トナル箇所ニ除却工事ヲ施シ城崎町ハ一部之ニ築堤包圍ス河幅ハ出石川合流點附近ニテ三百米トシ漸次擴大シテ同郡田鶴野村赤石ニ於テ約三百六十米ニ達セシム幹川堤防ハ馬踏幅五米五表法勾配二割ニシテ堤防頂天ヨリ四米下リニ於テ幅五米乃至八米ノ表小段ヲ置ク裏法ハ二割ヲ以テ下リ堤防頂天ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ小段ヲ置キ以下二割五分勾配ヲ以テ下ル計畫堤防ハ計畫高水位ニ對シ一米二ノ餘裕アラシム支川出石川ハ兩岸堤防ノ位置甚不規則ナルモ河幅概シテ廣濶ナルヲ以テ概ネ現狀ニ則ルコトトシ唯其中流部及下流部ニ於テ特ニ狹隘ナル箇所介在セルヲ以テ其最小幅員ヲ百米トシテ擴大ス其堤防ハ馬踏幅五米五法勾配ハ表裏共二割トシ馬踏高ハ計畫高水位ヨリ零米九乃至一米二ノ餘裕アラシム

堤防總延長四十粁餘ニシテ築堤土量約三百萬立方米其掘鑿竝ニ浚渫土量三百八十五萬立方米トス

護岸工ハ河道ノ彎曲セル部分又ハ流勢激衝スル部分ニ施工シ現在定著セル河岸ハ成ルベク之ヲ利用セントス

樋門ノ主ナルモノヲ擧グレバ六方川八代川及奈佐川ノ逆水樋門ニシテ其他城崎町ニ於テハ大溪川吐口ニ又豐岡町ニテハ其北端舊川締切箇所ニ樋門ヲ設置シ逆水ヲ防禦スルト共ニ惡水排除及舟運ヲ司ラシ

ム

附帶工事ハ用惡水路ノ新堤ヲ貫流スル箇所ニ施行スベキ樋門類ヲ初メトシ橋梁水路等三十箇所ニ及ブ

施工狀況

本改修工事ハ大正九年度ニ著手セリト雖モ同年度ハ測量準備ニ止マリ同十年度及十一年度共ニ實施測量ト共ニ下流部ノ幅杭ヲ設置シ大正十二年五月以降幹川町杭一里三十一町ヨリ同三里三町半間ノ掘鑿及築堤ニ著工シ大正十三年度ニ於テハ幹川三里十町ニ及ボセリ三里三町半以上ハ高水敷ノ整理ト共ニ新低水路ノ機械掘鑿準備ニ供ヘタリ

大正十四年度ニ於テハ前年度ニ引續キ同區域ノ工事ヲ進ムルト共ニ新田村立野區域ニ於テ新川開鑿ニ著手シ一時間百二十立方米掘掘鑿機及二十噸機關車ノ運轉ヲ開始シ本川吐口卽チ城崎郡港村津居山ニ於テハ右岸ニ土砂堆積シ河口ノ疏通ヲ缺クヲ以テ此浚渫ニ從事シ之ガ爲メ二百噸掘浚渫船竝ニ曳船足羽丸各一隻及四十八立方米積木製土運船二隻六十立方米積鋼製土運船一隻ニ依リ十四年度及十五年度ニ於テ合計約四萬八千五百立方米ノ土砂ヲ浚渫シ日本海ニ投棄シ凡ソ所期ノ目的ヲ達セルヲ以テ一先ヅ竣功トシ後日ノ變化ヲ調査スルコトトセリ

昭和元年度ニ於テハ引續キ著工部分ノ進捗ニ努メタリ大正十四年度及本年度ニ於テハ北但竝ニ奥丹震災ニ因リ堤防ノ龜裂沈下崩壞セル箇所生ゼルハ遺憾トスルトコロナリ

本年度施工區域ハ前年度ニ引續キ唯右岸ハ出石川合流點迄延長セリ

右岸城崎郡田鶴野村船町以北(町杭一里三十一町ヨリ二里二十九町ニ至ルノ掘鑿及築堤ハ殆ンド竣成シ

高水防禦ノ目的ヲ達セルモ左岸豐岡町以下ハ築堤用土採場ノ關係ニ依リ工事遲々タルハ遺憾トス

町杭三里五町半ヨリ同十五町ニ至ル延長四百五十米ノ立野新水路ハ既ニ竣功シ其兩端締切部大約ヲ撤去シ新川ノ通水近キニアリ以テ高水ノ低下及快疏著シカルベシ由テ之ニ使用セシ掘鑿機ハ之ヲ上流新田村今森ニ移シ延長約五百七十米ノ新川掘鑿ヲ施シ其大部分ヲ終了シ掘上土砂ニ依リ町杭四里五町ニ至ル築堤ノ約七割ヲ竣功セシメタリ

斯ノ如クシテ本年度迄ニ築堤ハ全部ノ約三割三分、掘鑿及浚渫ハ同ジク約四割五分ヲ竣功セシメタリ

昭和二年度ニ於テ使用土工機械ノ主ナルモノハ一時間百二十立方米掘掘鑿機一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三噸瓦斯倫機關車一臺、三立方米積側開土運車百臺、〇・六立方米積土運車五百五十臺竝ニ〇・三立方米積鐵製土運車百七十臺トス

土地收用ハ第一次ニ於テ城崎郡新田村立野町杭三里三町半以下、第二次トシテ三里三町半以上新田村今森ニ於ケル町杭三里二十八町半以下、第三次トシテ町杭三里二十八町半以上出石川合流點迄ノ右岸堤外地、第四次トシテ同區域堤内地全部ノ買收協議ヲ開始シタリ

附帶工事ハ豐岡町外十四箇町村治水事務組合ノ申請ニ係ル田鶴野村地内宮島樋門及一日市吸水管竣成シ下鶴井惡水路及玄武洞樋門亦竣功ニ近シ

本年度ノ竣功高二十八萬三千二百十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計二百九十八萬三千四百六十五圓ナリ之ヲ總工費豫算額五百八十萬六千圓ニ比スレバ約五割一分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「#」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔品價額「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無代價品評價額「×」ハ直營斫出石材及砂利、砂採取使用價額「●」ハ保管轉換品價額「△」ハ製作品使用價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
築堤	※		※		※		
	一、一八六、四九〇 立方米	○×◉▲ 四、四〇八、〇八一円	一七四、一七六、四九二 立方米	○×◉▲ 四四、〇八一円	一、三五四、八三六、二三九 立方米	○×◉▲ 八八、八八、七〇二円	割分
掘鑿	一、四一六、六二一 二	×◉▲ 四七、八一一、七四一 三四、一五九 一、〇	二七〇、五二〇	×◉▲ 一〇、三三、五八 一、六五八四 七	一、六八七、一四一 二	×◉▲ 五八、一一、四七〇 五、三三 一、〇	〇・四二
浚渫	四八、五二八	二一、九四〇			四八、五二八	二一、九四〇	〇・一六
特種工事費							
護岸水制	一、一四七 米	×　七六、四四 二五、九六〇	二〇七 米	×　一五、四八六	三、六二〇 米	×　九一、九 三五、九六〇	〇・一三
用地費	一、四八三 段	一、五一八、一二二	七 段	六、七二四	一、四八九 段	五二四、八四六	
附帶工事費	箇所 三 未竣功	×○□ 二二、三四二 一、四六五〇 一二、〇三六五	箇所 一三 竣功 未竣功	×○□ 一三、四二五 八、一九二五	箇所 一三 竣功 未竣功	×○□ 三五、七六七 一、四六〇〇 二〇、二四八〇	〇・一二
船舶及機械費		◉△ 三二、七五七 一七、九九二 九四八		◉△ 四九、九七七 一七、五〇 二五		◉△ 三七、五七二 二九、六八九 一六八	
測量費		一九、四〇八		一、九五〇		二一、三五八	
營繕費		一、八〇二八 二〇		五、五一九		二三、五四七 二〇	
雜費		○◉▲ 一六、七、三四 四一、五二六 六七〇		○◉▲ 四〇、二九 一、九一五 七四五〇		○◉▲ 二〇、七六三 五三、一六八 七	
亡失毀損		四〇二				四〇二	
共濟組合給與金		五、七二三		二、一九九		七、九二二	
總計		△□○×◉▲ 二、七〇〇、二 四三、八八 二、八、五八八五 七〇、一一〇七五 九三、二二〇五〇 八六		△□○×◉▲ 二八 一三、二 三六七一 八、九七一五 一一一一 七九〇 〇二八		△□○×◉▲ 二、九八 五三、七七、四 二、八一五 〇、八六八一四 九二一九六 八八〇二八五	〇・五一

第二一　木曾川上流改修工事

緒言

本川ノ流域ハ長野、岐阜、滋賀、三重、愛知ノ五縣下ニ跨リ其流末ノ貫流スル所ハ卽チ尾、濃、勢ノ平野ニシテ最モ重大ナル部分ナリ此區域ハ人口稠密田野遠ク啓ケ農桑ノ業盛ニシテ交通ノ便開ケ產業大ニ發達セリ灌漑ノ利、舟楫ノ便等古來河川ノ惠澤ニ浴スルコト多大ナルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ亦莫大ニシテ一朝堤防ノ決潰ヲ見ンカ廣袤幾萬町歩ノ平野ハ忽チ水底ニ沒シ人畜ノ死傷、財產ノ損耗擧ゲテ數フベカラズ就中明治二十九年ノ洪水ノ如キハ其慘害言語ニ絕シ尙世人ノ記憶ニ新ナル所ナリ而シテ尾ノ一部、濃勢大部ノ平地ハ地勢低濕ナルヲ以テ假令破堤ノ難ヲ免ルト雖モ少シク霖雨ニ際會セバ惡水停滯シテ容易ニ排疏セズ稻田爲メニ水腐ニ歸シ三年一穫ノ如キハ寧ロ竊カニ僥倖トスル所ナリ事情此ノ如キヲ以テ古來屢々改修ノ擧アリシト雖モ其施工多クハ局部ニ止マリシガ爲メ未ダ充分ノ效果ヲ奏スルニ至ラザリキ然ルニ明治ノ昭代ニ至リ上段ニ述ブルガ如キ慘狀一日モ看過スベカラザルヲ以テ內務省ハ夙ニ木曾、長良、揖斐三川ノ改修ヲ企テ明治二十年度ヨリ改修工事ニ著手セリ其目的ハ洪水ノ被害ヲ避ケ惡水ノ疏通ヲ圖リ兼テ舟揖ノ便ヲ改良セントスルニアリ而シテ其方法ノ主眼トスル所ハ三川ヲ分流シテ伊勢灣ニ注ガシムルモノニシテ所謂三川分流是レナリ爲メニ彼此連絡ノ諸派流ヲ閉塞シ河路ヲ矯正シ水量ニ應ジテ河幅ヲ規定シ堤防ノ改築ヲ行ヘリ斯ノ如クシテ右分流ノ工事ヲ終結シタルハ同三十三年ニシテ全部ノ完成ヲ告ゲシハ大正元年ナリキ其結果ハ豫期ノ效益ヲ擧グルコトヲ得テ關係區

域ハ全ク在來ノ面目ヲ一新セルノ觀アリ然ルニ右改修區域ノ上流ニ屬スル部分ハ河幅狹隘屈曲當ヲ得ザルノ箇所アリ且河底埋堆シ堤防亦薄弱ナルノミナラズ無堤ノ箇所スラアリテ洪水ノ脅威ヲ感ズルコト痛切ニシテ出水毎ニ地方民ハ必死ノ努力ヲ費シテ水防ニ努メ以テ僅カニ破堤ヲ免ルルノ現狀ナリ若シ夫レ一朝破堤ノ厄ニ會センカ啻ニ上流廣漠タル平野ヲ水底ニ沒スルノミナラズ濁流更ニ下流ヲ襲ヒ下流改修ノ效果ヲ沒却スルノ虞レアリ是レ上流改修ノ必要ナル所以ナリ

本工事ハ當初大正十一年度ヨリ向フ十箇年度繼續事業ノ豫定ナリシガ同十一年度ニ至リ十二箇年度繼續事業トナリ更ニ同十二年九月一日關東大震災ノ影響ニ因リ施工年度ヲ五箇年度延長シ結局十七箇年度繼續事業トシ總工費二千萬圓(內愛知縣負擔六十八萬四千圓、岐阜縣負擔四百七十四萬五千圓)ヲ以テ木曾川ニアリテハ愛知縣丹羽郡犬山町以下既成部分ニ至ル間約三十一粁、長良川ニアリテハ岐阜市以下約二十七粁、揖斐川ハ岐阜縣揖斐郡北方村以下約十八粁、藪川ハ岐阜縣本巢郡山添村根尾川分派口以下揖斐川合流點ニ至ル間約十二粁、牧田川ハ流末約四粁ヲ改修セントスルモノナリ

河狀竝計畫大要

木曾川ハ源ヲ長野縣西筑摩郡木祖村ナル鉢伏山ニ發シ高山峻岳重疊タル木曾溪谷ヲ奔流シ大小數多ノ溪流ヲ併セ藪原、福島、上松等ノ山村ヲ過ギ岐阜縣下ニ入リ丘陵ノ間ヲ經過シ迂餘曲折數次八百津町ヲ過ギ大支飛彈川ヲ右方ヨリ合セ太田ニ至リ少許ニシテ尾、濃ノ國界ヲ流レ愛知縣丹羽郡犬山町ニ至ル之ヨリ地勢俄然展開シ所謂尾、濃、勢ノ平野ニ出デ以下初メテ堤防ノ設ケアリ犬山町以下少許ニシテ亂流數條ニ岐レ岐阜縣羽島郡川島村ヲ擁シ更ニ西流スルコト約三十一粁同郡桑原村ニ至ル夫レヨリ下流ハ卽チ

既改修部分ニシテ流下スルコト約三十一粁三重縣桑名郡伊曾島村、木曾岬村ノ間ニ於テ伊勢灣ニ朝宗ス流路長約二百二十粁ニシテ灌漑面積約二萬四千五百九十ヘクタール、流域面積約五千二百七十五平方粁ニシテ内山地面積四千百十八平方粁、平地面積一千百五十七平方粁ナリ

長良川ハ岐阜縣郡上郡高鷲村奥本谷ニ發源シ南流シテ八幡町、美濃町等ヲ過ギテ吉田、板取、武儀、津保ノ諸川ヲ容レ方向ヲ西ニ轉ジ金華山ノ北麓ヲ經テ岐阜市ニ至リ平地ニ出ヅ次デ右方長良古川ヲ分派シ本流ハ市ノ北境ヲ流レテ本巣郡河渡村一日市場ニ至リ再ビ古川ヲ容レ西南ニ折レ東海道鐵道橋ノ上ニ至リ右支糸貫川ヲ合ス夫レヨリ墨俣町ヲ經テ海津郡吉里村大字成戸ニ達ス之ヨリ以下ハ卽チ既改修部分ニシテ南流スルコト約二十四粁、三重縣桑名郡伊曾島村地先ニ至リ揖斐川ト合シ伊勢灣ニ注グ下流改修前ニアリテハ前記成戸ニ於テ木曾川ニ合流セシモ改修ノ結果分流スルニ至リシモノナリ流路ノ長サハ約百四十九粁ニシテ灌漑面積約一萬二千七百三十ヘクタールニ及ビ流域面積約二千三百十三平方粁ニシテ内山地面積約一千八百九十七平方粁、平地面積四百十六平方粁ナリ

揖斐川ハ源ヲ岐阜縣揖斐郡德山村ナル奥山ニ發シ始メハ東南ニ流レ後南折シテ同郡北方村ニ至リ平坦部ニ出デ初メテ堤塘ノ設ケアリ夫レヨリ揖斐町ヲ經テ養基村大字脛永ニ至リ右支粕川ヲ容レ更ニ本巣郡川崎村大字宮田ニ於テ根尾川ノ分派藪川ヲ容ル夫レヨリ南流呂久ヲ過ギ東海道鐵道橋ニ達ス以下ハ既改修部分ニシテ養老郡池邊村ニ至リ右支牧田川ヲ合シテ今尾ヲ經更ニ津屋川ヲ合シ濃勢ノ國界千本松ニ至リ以下長良川ト瀨割堤ヲ距テテ相竝ビ遂ニ同川ト合シ三重縣桑名町ヲ經テ同郡城南村ニ至リ海ニ注グ流路ノ長サ約九十八粁ニシテ灌漑面積約一萬四千七百二十ヘクタール、流域面積約一千五百十一平方粁ニシテ内山地面積一千二平方粁、平地面積五百九平方粁ナリ

支川根尾川ハ源ヲ岐阜縣本巢郡根尾村ノ山中ニ發シ南流シテ山添村大字山口ニ至リ初メテ平坦部ニ出デ二派ニ岐ル右派ハ藪川ト稱シ西南ニ流ルルコト約十粁、本巢郡川崎村ニ於テ揖斐川ニ入ル左派ハ糸貫川ト稱シ東南ニ流ルルコト約十六粁ニシテ同郡生津村ニ至リテ長良川ニ注グ流域面積ハ約四百十六平方粁ニシテ流路長ハ約五十九粁ナリ

木曾川ノ水害ハ古來激甚ニシテ其度數モ亦頻繁ナリ特ニ西濃地方ハ我邦ニ於ケル稀有ノ水害地ニシテ是レ地勢低窪ノ致ストコロナリト雖モ一ハ河川ノ狀況不良ナルニ起因セズンバアラズ而シテ各川有堤部ニシテ一朝破堤センカ水害ヲ被ルベキ虞アル部分ハ岐阜縣管内四萬七千四百三十四ヘクタール、愛知縣管内四萬四千七十二ヘクタール、三重縣管内四千七百ヘクタール、合計九萬六千二百六ヘクタールナリ而シテ上流改修計畫ハ主トシテ下流改修工事既成部分ノ上流ヲ改修セントスルモノニシテ其方法ヲ擧グレバ左ノ如シ

木曾川ハ局部ヲ除キ河狀概シテ良好ニシテ相當ノ河幅ヲ保チ不良ノ屈曲無ク河底甚シク埋堆セルモノ無キヲ以テ大體現狀ニ依リテ著シキ變更ヲ加ヘズ唯近年出水ノ趨勢ニ鑑ミ兩岸舊堤ヲ擴築シテ馬踏幅七米、兩法二割トシ小段ヲ附シ天端ノ高サヲシテ高水面上二米五ノ餘裕ヲ保タシメントス唯川島村地先ニ於テハ河身數派ニ岐レ出水ノ都度其趨勢ヲ異ニシ爲メニ堤防ニ惡影響ヲ及ボシ其危險ヲ惹起スルノ虞レアルヲ以テ數多ノ支派流ヲ遮斷シテ河身ヲ固定シ以テ洪水ノ際其快流ヲ圖リ併セテ堤防ニ向ヒ奔流スルノ危險ヲ防止セントス而シテ本水路ハ相當ノ河積ヲ保タシムル爲メ多少ノ掘鑿ヲ施シ兩岸ハ前後ノ護岸高ニ準ジ適宜之ヲ施工シ以テ該附近ノ耕地ヲ保護セントス

長良川ハ岐阜市附近ニ於テ古川、古々川ノ兩川ヲ分派シ洪水ノ際ハ其幾分ヲ兩派ニ依リテ疏通スルノ現

狀ナルモ此ノ如キハ河狀荒廢ノ原因トナリ得策ニ非ラザルヲ以テ今回兩派川ヲ締切リ本流ハ河幅狹隘ノ部分ヲ擴大シ三百米乃至四百米ト爲サントス而シテ現在河幅ノ之ヨリ廣キ部分ハ其儘トシ舊堤ニハ增築ヲ施シ堤防ノ大サハ馬踏幅七米、兩法二割トシ尙小段ヲ附シ天端ノ高サハ大體ニ於テ高水位以上二米五ノ餘地ヲ保タシメントス而シテ必要ナル河積ヲ與フル爲メ堤防間ニ於テ適當ノ幅ヲ定メ掘鑿ヲ施シ且河渡以下ハ低水敷ヲ規定シ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ニ連絡セシメントス

揖斐川ハ藪川合流點以上ハ局部ヲ除キ現在河幅可ナリ廣キヲ以テ增大スルヲ要セズ大體ニ於テ舊堤擴築ヲ施シ同川合流點以下ハ從來無堤ニシテ洪水ノ際兩岸廣濶ナル區域ニ汎溢セルヲ以テ今回之ヲ防止スル爲メ適當ノ河幅ヲ定メ兩岸ニ築堤ヲ爲サントス堤防ノ大サハ藪川合流點以上ハ馬踏幅五米五、兩法二割、同合流點以下ハ馬踏幅七米、兩法二割トシ高サ大ナル箇所ニハ小段ヲ附シ天端ノ高サハ高水位上二米五トス尙必要ナル河積ヲ與フルガ爲メ相當ノ掘鑿ヲ爲シ又藪川合流點以下ノ低水路ヲ定メ少許ノ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ノ低水路ニ接續セシメント

根尾川ノ一派ナル糸貫川ハ其分派口附近ニ於テ締切リヲ施シ尙樋門ヲ設ケ灌漑等ニ必要ナル水量ヲ流過セシム從テ根尾川ノ洪水ハ總テ藪川ニ流下セシム

藪川ハ大體ニ於テ現在ノ河幅廣大ナルヲ以テ局部ノ外ハ別ニ擴大セズ舊堤ノ增築ヲ施スニ止ム堤防ノ大サハ馬踏幅五米五、兩法二割ニシテ成ルベク小段ヲ附シ天端ハ高水位上二米ノ高サヲ保タシメ尙河中ニ於テ必要ナル掘鑿ヲ施スモノトス

牧田川ハ高淵ノ狹窄部以下ニ改修ヲ加フルモノトス木曾、長良、揖斐、藪、牧田ノ五河川共必要ナル箇所ニ相當ノ護岸並ニ水制ヲ施工シ尙締切箇所等ノ必要ナル所ニハ樋門ノ設備ヲ爲サントス而シテ既成改修工

事ニ屬スル區域ト雖モ近時出水ノ趨勢ニ鑑ミ前回改修ノ際工事費等ノ都合ニ依リ充分改良ヲ加フルコト能ハズシテ現時尚堤防薄弱、惡水排除ニ障害アル箇所等差シ措クベカラザルモノニ對シテハ精査ノ上相當ノ施設ヲ加フルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十年度ノ創業ニシテ所要土地買收ノ爲メ翌十一年一月土地收用事務所ヲ竹ケ鼻町ニ開設シ木曾川筋神明津地先竝ニ川島村地先、長良川筋小藪村以北墨俣間、揖斐川筋下宮村以北粕川合流口間ノ用地ヲ買收シ同十三年四月該事務所ヲ加納町ニ移セシモ同年十一月限リ之ヲ閉鎖シ爾來其事務ハ改修事務所ニ於テ取扱フコトトシ羽島郡小熊村及福壽村ニ跨ル築堤敷ノ買收ト同郡堀津村及八神村地先ニ於ケル少許ノ河川敷占用禁止ヲ爲セリ而シテ創業以來本年度末迄ノ收用面積三百五十九町餘歩ニシテ本年度ニ於テハ僅カニ三町餘歩ヲ追加買收シタルニ過ギズ

工事施行ニ關シテハ大正十二年一月岐阜市忠節町ニ木曾川上流改修事務所ヲ設置シ揖斐川、長良川、木曾川ノ順序ニ工ヲ起シ各川筋ニ各一工場ヲ設ケ其下ニ若干ノ派出所ヲ置キ揖斐川ニアリテハ施工區域中ノ下流部タル新川附換ノ箇所ヲ竣功セシメテ高水疏通ノ效果ヲ擧ゲ長良川ニアリテハ下流改修工事ニヨリ殘サレタル舊川締切堤ヲ完成シ尚其上流部約五町間ハ既ニ洪水ノ被害ナカラシメ木曾川ニアリテハ亂流劇シキ川島村地先ニ於テ河身固定工ノ主要部分ヲ竣成セリ而シテ大正十二年八月著工以來本年度末迄ニ掘鑿土坪三百六十三萬七千餘立方米、築堤土量四百七十九萬九千餘立方米、護岸八千二百五十一米、水制一千八百三十二米六及附帶工事一箇所、假工事三箇所ヲ竣功セシメタリ而シテ使用セシ主要機械

ハ掘鑿機三臺、二十噸機關車三臺、五噸機關車四臺、其他自働杭打機、混合機等ニシテ是等諸機械ノ修理製作ハ總　岐阜機械工場ニ於テ掌ラシム

本年度施工區域ハ揖斐川筋自（右岸下宮村　左岸鷲田村）至（右岸池田村　左岸揖斐町）間、長良川筋自（右岸東江村　左岸福壽村）至（右岸名森村　左岸小熊村）間、木曾川筋川島村地先ニシテ機械掘鑿工六箇所、人力掘鑿工二箇所、築堤工十箇所、護岸水制工十五箇所、直轄施工ノ附帶工事三箇所外ニ管理者施工ノ附帶工事二箇所、是等總竣功額六十三萬四千餘圓（但シ管理者施工ノ附帶工事費ヲ省ク）、土捨出願者提供材料及勞力費三千三百餘圓ナリ今各川筋ニ依リ其施工概況ヲ擧グレバ揖斐川ニアリテハ既ニ竣工セシ呂久附近ノ新川附換箇所ヲ除キ其上流ニ於テハ總テ河積充分ナルヲ以テ掘鑿工事ノ必要ナキモノニシテ從來繼續施工ノ呂久右岸、北平野、鷺及本年度著工ノ北平野第二ノ四築堤工事ハ何レモ用惡水ノ關係箇所ヲ除キ全部竣工シ揖斐築堤工ノミ其六割ヲ施行セリ是等築堤用土ハ方向ヲ一定シタル計畫河身ノ箇所ヨリ掘鑿シタルヲ以テ河道ノ狀態頗ル良好トナリ洪水ノ減水時間ヲ短縮セシメタリ又兩岸水流激衝ノ箇所ニ於テハ呂久右岸池田、神戸等ノ各護岸及各水制ノ六工事ヲ施行シ何レモ竣功セシメタル結果ハ洪水ノ脅威ヲ免ガレシメタリ長良川ハ八神村方面ニ於ケル舊水路ノ締切堤及新水路ノ洪水敷掘鑿工事ハ前年度迄ニ既ニ竣功シ其上流右岸洪水敷ニ於ケル從來施行ノ海西機械掘鑿工ハ本年度ヲ以テ完成シ名森機械掘鑿土ハ約五割ノ工程ヲ擧ゲ洪水ノ疏通漸ク佳良トナレリ、右岸ノ大藪築堤工ハ前年度ニ著手シテ約九割ヲ、名森築堤工ハ本年度ニ著工シテ六割ヲ竣成セリ左岸小熊村附近ニ於ケル小熊人力掘鑿、小熊築堤並ニ將來境川ノ堤防トナルベキ境川小熊築堤工ハ何レモ本年度著工セシモノニシテ小熊築堤工ノミ約二割ノ功程ヲ殘シ他ハ總テ竣成セリ又下流改修區域內ニシテ出水ノ趨勢ニ鑑ミ擴築ノ必要ヲ認メタル東江築堤工ハ五割ヲ竣成セリ

木曾川筋川島村方面亂流區域內計畫河身ノ下流狹窄部ノ掘鑿工事トシテ昨年度ヨリ著手セル松原島機械掘鑿工竝ニ本年度著手ノ松原島第二機械掘鑿工ハ何レモ竣功シ稍々上流部ノ松原島第三機械掘鑿工ハ四割ヲ進工セシメ機械掘鑿土ヲ以テ亂流河身ヲ埋立テ又附近兩岸ノ護岸工事タル笠田第二、松原島第二ノ二護岸工ハ竣成シ松原島第三護岸工モ亦九割ノ功程ヲ見、永年亂流ナリシ河身ハ漸次良好ナル趨勢ヲ示シツツアリ笠田第三護岸及ビ川島村上流部ニ於ケル小網島、松倉島ノ三護岸工ハ著工ノ日尙淺ク其レ等ノ一部ヲ施行シタルニ過ギズ

附帶工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノ逆川樋門工事ハ約二割ヲ殘シテ殆ンド完成シ尙本年度著手ノ中竝ニ森部輪中ノ樋管工事ハ約八割ヲ竣成シ本年度支出ノ工費ハ國庫補助額九萬九百四十九圓二錢二厘六毛管理者支辨五萬四千三百二十圓八十四錢四厘ニシテ外ニ管理者施工ニ係ル本庄惡水路附換工竝ニ桑原輪中排水機新設工ニ對シ三萬八千四百六十圓ヲ補助セリ

本改修工事本年度ノ竣功高ハ九十四萬二千百五十七圓ニシテ起工以來ノ累計ハ五百六十九萬九千三十三圓トナリ總工費二千萬圓ニ對シ二割八分ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「＊」ハ利用土量「▲」ハ民費支辨「△」ハ岐阜機械工場製作品及評價品代價ナリ

費目		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	
木工事 築堤		＊ 一、二五四、八八九立方米 二、二八二、一九四	五二三・〇〇三円	＊ 八一六、四七五立方米 四四六、三一四	二六二・一〇四円	＊ 二、〇七一、〇六四立方米 二、七二八、五〇八	七八五・一〇七円 四〇五・七六四	類分 〇・四六 〇・二六
木工事 掘鑿		▲ 二、七〇四、一六九 二三八、一七九	▲ 六六七、九二一 二一、六五三	▲ 六五二、七四五 四二、七二八	▲ 一五一、四八六 三、三二〇	▲ 三、三五四、九一四立方米 二八〇、九〇七	▲ 八一九、四〇七 二、九七三	〇・一九 〇・二六
木工事 護岸水制		▲ 六、二九五・六米	▲ 二七六、〇六四	▲ 三、七八八米	▲ 一二九、七〇〇	▲ 一、〇八三・六米	▲ 四〇五、七六四	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
假設工費		円 九、〇二四		円		円 九、〇二四	割分
用地費	二、五六四段	一、九五三、四三九	一二五段	一六、五四二	二、六八九段	一、九六九、九八一	
附帶工事費	箇所 一	△ 一九、〇〇一 四五七	箇所 一	△ 一二〇、六七一 八、七三九〇	箇所 二	△ 一三九、六七一 九、一九六	
船舶及機械費		△ 八一〇、六一七 九七、二八四		△ 一五〇、一八九 四四、七四五		△ 九六〇、八〇六 一四二、〇二九	
測量費		△ 二五、二四〇 一一七		△ 三、四〇八 五四		△ 二八、六四八 一七一	
營繕費		△ 六六、八〇〇 五二七		△ 七、三八九		△ 七四、一八九 五二七	
雜費		△ 三九一、一九一 二八		△ 九五、〇七六		△ 四八六、二六七 二八	
共濟組合給與金		一四、五七六		五、五九三		二〇、一六九	
總計		△▲ 四、七五六、八七六 九八、二一六、五三 四一、五三		△▲ 九四二、一五七 五三、三二、三 八〇		△▲ 五、六九九、〇三三 一五二四、九七三 一九、〇三 五一	〇・二八

第二二　斐伊川改修工事

緒言

木工事ハ大正十一年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十二箇年度間ノ繼續事業トシテ總工費六百二十萬圓ヲ以テ起工セシガ大正十四年度末ニ至リ施行年限ヲ延長シテ昭和十一年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業ニ改メラレ島根縣簸川郡出西村岩樋以下宍道湖(定川吐口)ニ至ル一五粁六及下流大橋川卽チ松江市白潟魚町ヨリ中海ニ至ル七粁七ノ改修工事ヲ施行スルモノナリ

河狀並計畫大要

斐伊川ハ山陰屈指ノ大河ニシテ源ヲ鳥取、島根兩縣界ニ聳ユル船通山ノ鳥上瀧ニ發シ島根縣下ヲ貫流ス上流ヲ横田川ト稱シ西流シテ仁多郡横田村ニ至リ左支下横田川ヲ容レ尙西流シテ同郡三成村ニ於テ左方ニ大馬木川ヲ合セ同郡溫泉村ニ至リ左支阿井川ヲ容レ飯石郡田井村ニ於テ左支深野川ヲ收メ更ニ方向ヲ變ジ北流シテ大原郡木次町ニ於テ久野川ヲ右方ヨリ納レ三刀屋村ニ至リ大支三刀屋川ヲ左方ヨリ併セ稍々西ニ轉ジ簸川郡出西村ニ至リ左支赤川ヲ容レ西流スルコト七粁八急ニ方向ヲ變ジテ北ニ向ヒ初メテ簸川平野ニ出デ直チニ新川ヲ右方ニ分派シ同郡伊波野村ヲ經テ東北ニ轉ジ同郡出東村ニ至リ定川ヲ左方ニ派シ東ニ向ヒ更ニ二十間川、北二十間川等ヲ分派シ次デ宍道湖ニ注グ其支派川ノ數七十五、流路延長五百七十五粁八ナリ而シテ宍道湖ハ面積八千三百ヘクタールヲ有スル淡水湖ニシテ略々長方形

ヲ爲シ東西ニ長ク其長サ約十六粁三、幅約六粁、周圍約四十七粁ニシテ湖岸ハ出入極メテ少シ斐伊川ハ其西端ヨリ注ギ其他數多ノ小流ヲ併ス湖脚ハ東端ニアリテ三川ニ依リ海ニ排疏ス卽チ一ハ佐陀川ニシテ濱佐陀ヨリ分派シ宍道山脈ノ低部ヲ横斷シ西北ニ流レ惠曇村ニ至リ直ニ日本海ニ注グ流路八粁三往昔人工ヲ加ヘ開鑿セシモノナリト云フ二ハ大橋川ニシテ松江市ヨリ分派シ市中ヲ貫キ東流スルコト七粁八馬潟ニ至リ中海ニ注グ三ハ天神川ニシテ人工河川タリ同ジク松江市ヨリ分レ東流四粁一三津田村ニ至リ大橋川ニ合流ス湖ノ東端ニハ松江市アリ其他沿湖ニハ小都邑乏シカラズ又多少ノ田園ヲ存ス

斐伊川ノ流域ハ島根縣下仁多、飯石、大原、簸川ノ四郡ニ跨リ面積一千六十六平方粁ニ達ス域内ハ流末簸川平野ヲ除ケバ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ巒嶽起伏セリ簸川平野ハ其東方ノ宍道湖、松江平野竝ニ中海ト共ニ日本海ノ一部タリシニ主トシテ斐伊川ノ流送セシ土砂堆積シテ水面上ニ顯ハレタルモノニシテ面積約一萬五千四百ヘクタール現今ニ於テモ尙增大シツツアリ土地肥沃ニシテ山陰最大ノ農産地タリ

宍道湖及大橋川等ノ流域ハ松江市竝ニ簸川、八束兩郡ニ跨リ南ハ斐伊川流域ヲ劃スル山地、北ハ宍道山脈ニ境シ西ハ簸川平野ニ東ハ中海ニ依リテ限ラル面積ハ斐伊川流域ヲ除キ約四萬五千六百二十ヘクタール（湖ノ面積ヲ含ム）アリ松江市附近ハ小平野ヲ爲シ土地豐沃産業亦發達セリ

流域内山地ノ狀況ハ概シテ良好ニシテ山林濫伐ノ爲メ著シク荒廢ニ歸セルトコロナキガ如シト雖モ唯到ル所砂鐵ヲ産スルヲ以テ古來山地ヲ崩壞シ其採取ノ事業ヲ經營スルモノ多數ニシテ主トシテ土砂流出ノ原因ヲ爲セリ

灌漑面積ハ斐伊川ニアリテハ八千六百七十三ヘクタール、宍道湖及大橋川等ニテハ二千四百七十八ヘクタール、合計一萬一千百五十一ヘクタールニ達ス

斐伊川ハ古來屢次水害アリ往古流末ハ現今ノ川跡村附近ヨリ西流シテ日本海ニ注ギシガ寛永年間ノ洪水ニテ東流宍道湖ニ注流スルニ至レリト云フ爾來出水毎ニ屢々其位置ヲ變ジ或ハ人爲ニ依リ派川ヲ改鑿スル等幾多ノ變遷ヲ經テ以テ現今ノ河道ヲ形成スルニ至レリ卽チ右派新川ハ水害ヲ免レンガ爲メニ天保年間ニ於テ新鑿セシモノニ係リ左派定川モ其後更ニ開鑿セシモノニシテ佐陀、天神二川ノ如キモ亦湖ノ水害ヲ輕減センガ爲メ人工ニ依リ開鑿セシモノニ係ル維新以後ニ至リテハ被害特ニ著大ニシテ人畜ノ溺死、家屋ノ流失、破壞、耕地ノ荒廢、生產ノ損耗等擧ゲテ算フベカラズ之ガ復舊ニ要スル經費モ亦莫大ナリトス明治二十六年ノ洪水ノ如キハ特ニ其最モ甚シキモノナリ今水害ヲ受クベキ區域ヲ擧グレバ斐伊川本川ニアリテハ其面積一萬一千五百一ヘクタール、宍道湖以下ニ於テ六百四十四ヘクタール、合計一萬二千百四十五ヘクタールニ達ス內出西村以下改修區域ニ屬スルモノハ總テ一萬二百七十ヘクタールナリ斐伊川ハ上流ニ於テ多少ノ水害ナキニ非ズト雖モ其被害甚大ナルハ下流地方ナルヲ以テ改修ハ出西村以下卽チ簸川平野ニ屬スル部分ニ止メ計畫流量ハ三千六百立方米トシ定川分派口ニ至ルマデハ單ニ舊堤ニ嵩置ヲ施スニ止ム然レドモ兩堤間ノ狀況甚ダ不規則ニシテ且河積不足ナルヲ以テ若干ノ掘鑿ヲ施シ之ヲ整正シ以テ前記流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ラシム定川分派口以下ハ本川ヲ捨テ定川ヲ擴築シ必要ナル河積ヲ與フルモノトス

堤防ハ舊堤擴築竝ニ新堤共總テ天端ヲ計畫洪水位以上一米五ノ高サニアラシメ馬踏幅七米五、兩法二割ノ勾配ヲ與ヘ總テ芝ヲ附シ必要ナル箇所ニ石張其他護岸ヲ設クルモノトス

新川ヲ締切リ廢川ト爲シ締切點ニハ新ニ樋門ヲ設ケ用水ヲ分派セシム又更ニ宍道湖ニ一時瀦溜スル水ヲ迅速ニ排疏セシメンガ爲メ大橋川ヲ擴張シ兼テ舟運ノ便ヲ計ラントス卽チ現在河幅ノ狹隘ナル所ハ

之ヲ擴張シテ七十二米トシ夫ヨリ廣キトコロハ河中ニ於テ幅七十二米ノ部分ヲ浚渫シ兩法ニハ適當ノ勾配ヲ附シ尙崩壞ノ虞レアル箇所ニハ護岸ヲ施スモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正十一年度ノ創業ニシテ同年度及十二年度ハ實施測量ニ著手シ十三年度ハ專ラ諸種ノ調査ヲ爲スト共ニ船舶、機械ノ整備ヲ爲シ大正十三年十一月ヨリ大橋川筋ノ浚渫ヲ開始シ前年度迄ニ四十二萬八千九百十二立方米ヲ浚渫シ此工費九萬二千百七十八圓ヲ要シタリ

本年度施行ノ浚渫工事ハ大橋川筋松江市、八束郡津田、川津、朝酌、竹矢等ノ各村地先ニシテ一千二百立方米掘鋤鏈式浚渫船二隻、同電動喞筒式浚渫船一隻、曳船三隻、六十立方米積土運船五隻、二十延積工業船十隻ヲ使用シ年度內ニ浚渫三十五萬二千九百三十五立方米此工費三萬七千六百五十九圓、掘鑿四萬五千八百三十立方米此工費一萬四千九百八十一圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ大正十三年度ニ改修事務所ヲ建設シ十四年度ニハ事務所構內ニ吉野川改修德島機械工場ノ仕上場、機關場、製罐場及倉庫ノ四棟ヲ移築シ十五年度ニ機械工場事務室ヲ移築スルト共ニ鍛工場、鑄工場、木工及木型場、守警詰所等ヲ新築シテ十五年四月一日ヨリ松江機械工場ヲ開設シ斐伊川改修工事及境港修築工事ニ使用スル機械器具ノ製作及修理ヲ爲シ本年度ニ至リ雜工場及職工浴場ヲ新築セリ」

土地收用ニ關シテハ大正十五年六月一日ヨリ松江市新材木町ニ收用事務所ヲ開始シ大橋川筋用地買收調査ニ著手シ八束郡川津、朝酌、津田、各村地內十九町歩餘ノ買收ヲ了シ昭和二年一月十日簸川郡平田町ニ移轉シ斐伊川筋ノ調査ヲ開始シ本年度ニ於テハ引續キ調査中ニ屬ス大橋川浚渫工事ノ土砂ノ處分ハ起

工當初專ラ中海水中ニ於テ成ルベク漁業其他ニ支障ナキ箇所ヲ選ミ投棄シ來リシガ同川沿岸ハ無堤地ニシテ土地低ク潮水ノ害ヲ受クルコト屢々アルヲ以テ一般ニ良田ナラズ爲メニ松江市及八束郡津田村ニ於テハ聯合耕地整理組合ヲ組織シ面積四十八ヘクタール餘ノ民有地ニ浚渫土ヲ捨土方出願シ其他個人ニテ出願スル希望者ニ材料及勞力ヲ提供セシメ元年度ヨリ捨土ヲ開始セリ其合計面積五十二ヘクタール餘ニ達シ捨土量ハ前年度ニハ五萬六千八百五十四立方米、本年度ニ於テハ二十九萬三百二十二立方米、提供民費ハ浚渫費ニ於テ一萬四千六百八十九圓、掘鑿費ニ於テ四千百三十三圓、合計一萬八千八百二十二圓ナリトス

本年度竣功高十六萬二千四百四十七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計九十一萬八千六百八十圓ナリ之ヲ總工費豫算六百二十萬圓ニ比スレバ一割五分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ハ無代價品評價額「▲」ハ提供品價額及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
		▲	四五、八三〇	▲	四五、八三〇	▲	〇・〇一
				一四、九八一 四、一三三		一四、九八一 四、一三三	
浚渫	四二八、九一二	▲	三五二、九三〇	▲	七八一、八四二	▲	〇・一四
		九二、一七八		三七、六五九 一四、六八九		一二九、八三七 一四、六八九	
用地費	一九二段		五段		一九七段		
		八五、九一五		三、〇九九		八九、〇一四	
船舶及機械費							
		四三三、一一四		五四、二八三		四八七、三九七	
測量費		○		○		○	
		一二、一五九 二一		八七〇		一三、〇二九 二一	
營繕費							
		一五、一二七		二、一二五		一七、二五二	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
雜費		○		○		○	
共濟組合給與金		一一二、八八三円 四・八五七		四六、一八〇円 三・二五〇		一五九、〇六三円 八・一〇七	割分
總計		○▲ 七五六、二三三 二二		○▲ 一六二、四四七 一八、八二二 一一		○▲ 九一一、六八〇 一八、八二二 三三	○・一五

第二三　信濃川上流改修工事

緒言

本川ハ昔時航路改善、洪水防禦ノ目的ヲ以テ新潟縣長岡市以下ノ河身ノ改修ヲ實施セラレ明治三十八年度ニ其工ヲ終了シタルモ尙治水工事ノ必要ヲ認メ同市下流約十六粁ノ地點タル大河津村ヨリ新水路ヲ開鑿スルコトトナリ又上流長野縣下ニ於テハ千曲川及犀川ノ水患ヲ除却セシムル目的ヲ以テ是亦其方策ヲ定メタリ卽チ前者ハ明治四十年度ニ起工シ後者ハ大正七年度ヨリ著手シタリシニ依リ本改修工事ノ急施ヲ促進シ大正十二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算額六百六十萬圓(內新潟縣負擔額二百三十四萬九千圓)ヲ以テ起工セシガ大正十二年九月一日關東震災突發ノ爲メ四箇年度ノ繰延トナリ昭和十年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ其區域ハ左岸三島郡片貝村、右岸古志郡六日市村ヨリ下流南蒲原郡中之島村地內信濃川締切堤防ニ至ル約三十一粁ノ間ナリトス

河狀竝計畫大要

本川ハ源ヲ甲武信ケ嶽ニ發シ流域ハ長野、群馬、新潟ノ三縣五市二十四郡ニ跨リ總面積一萬二千二百六十二平方粁、流路延長三百六十九粁、航路延長六百九十九粁、灌漑面積七萬六千二百二十一ヘクタールヲ有シ越後平野ヲ貫流ス其灌漑ノ利大ナリト雖モ水害モ亦劇甚ナリトス

本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ候颱風ニ伴フ暴雨トニ起因スルモノニシテ上流長野縣下ニ於テ一日ノ

降雨量七十粍以上ニ達セバ警戒スベキ洪水ヲ醸生スルコト多シ其水災ノ最甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル古志郡六日、市村妙見以下約三十一粁ノ間ニシテ地勢平坦東ハ遠ク下越平野ニ連リ産業ノ發展地タリ然ルニ兩岸ハ構造薄弱ナル堤防ニ抱擁セラルルノミナラズ斷續屈曲シ河狀亦著シク惡化シ其幅員一定セズ廣キハ一千六百三十六米、狹キハ五百四十五米ヲ示シ恰モ瓢ノ連結セルガ如ク所々ニ砂礫又ハ芝生ノ寄洲介在シ甚シキニ至リテハ長約二千二百米、幅五百五十米ニ亙ル一大島地ヲ現出シ中ニ數多ノ人家及田畑ヲ有スル等流水ハ常ニ阻害セラレ亂流ス故ニ一旦出水ノ際ハ兩岸ヲ破壞シ中越平野ヲ泥海ト變ジ交通ヲ杜絶シ人畜ヲ害スルコト甚シク其水害區域一萬八千五百九ヘクタールニ及ベリ今其水害損失價額ヲ見ルニ明治四十一年ヨリ大正六年ニ至ル十箇年間ノ平均年額ハ四十三萬六千二百六圓ニシテ內最大ハ大正三年ノ百五十四萬七千圓ナリトス

本計畫ハ妙見以下大河津締切堤防ニ至ル間ノ水災ヲ絶ツヲ目的トシ最大流量ヲ每秒五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ疏通セシムルニ足ル流積ヲ有セシム而シテ現在ノ河幅ハ前述ノ通リ廣狹不規則亂雜ナルヲ以テ全川ヲ通ジ八百十八米トシ地形ニ應ジ最小六百十八米、最大一千二百十八米ニ整理シ無堤部ニハ堤防ヲ新設シ有堤部ハ成ルベク舊堤ヲ利用シ其構造薄弱ナル箇所ハ增築シ堤內ノ安全ヲ計ルト共ニ流積不足ノ部分ニハ掘鑿浚渫ヲ施シ以テ洪水ノ疏通ヲ圖リ逆流ノ甚シキ支川及惡水路ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スル等水害ノ因ヲ一掃セシムルニアリ

築堤工事ハ全川ニ亙リ馬踏七米二、表裏共二割法トシ其高ハ計畫高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘ成ルベク舊堤ヲ利用シ河幅或ハ屈曲ノ關係上舊堤ニ依ルヲ得ザル箇所ハ河狀ニ應ジ適當ノ位置ニ新設ス長岡市附近ニ合流スル大田、澁海兩川ノ落口ハ新堤ヲ瀨割堤ト爲シ新落口ヨリ上流舊落口ニ至ル間各一千九

十一米ノ舊堤ハ嵩置工事ヲ施行スルコトトセリ築堤ニ要スル總土量ハ三百四十二萬六千立方米ニシテ内八十四萬一千四百立方米ハ掘鑿土ヲ利用シ其他ハ附近ヨリ採土スルモノトス

掘鑿工事ハ左岸脇川新田ヨリ金ケ崎間、右岸長呂ヨリ中條間ニ於テ平均低水位上零米九ノ面迄施工ス此外全川ヲ通ジ新堤外部ノ舊堤取拂ヲ爲スモノニシテ總土量二百二十二萬三千九百立方米ニ達ス浚渫工事ハ下流大河津分水路ニ接續セル區域ニシテ底幅八十二米乃至百八十二米、深平均低水面下一米八ニ施工ス其土量百四十四萬二千五百立方米ナリ

護岸及水制工事中護岸ハ主トシテ長岡ヨリ上流兩岸堤防及下流沿岸ニシテ流衝ニ面セル箇所竝ニ堤脚ノ平水ニ落ツル部分ニ對シ表法高水面以下ヲ石張トシ低水ニ接セル箇所ハ沈床工ヲ又水制工ニアリテハ流心ノ匡正ヲ要スル部分ニ石張沈床工ヲ施行スルモノトス

水門工事ハ新川外二三ノ惡水路ニ設置シ何レモ逆水止門扉トセリ

附帶工事ハ長生橋、與板橋ノ改築、黑川外二箇川ノ改修用惡水路ノ樋管伏替又ハ水路附替等ニシテ樋管伏替八十五箇所ノ多キニ及ブヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十二年十二月實施測量ニ著手シ翌十三年度之ガ完了ヲ告ゲ十四年度ハ用地ノ買收、土工機機ノ整備及附帶工事タル黑川外二箇川改修工事ノ實施測量ヲ了シ同年十一月南蒲原郡中之島村地内ニ先ヅ掘鑿工事ヲ起セリ由來此地方夏期ハ恙蟲發生、冬期ハ數尺ノ積雪等作業上ノ障害ヲ有スト雖モ一意工事ノ進展ヲ企圖シ本年度ニ及ベリ

本年度内施行工事ハ主トシテ掘鑿工事ニシテ前年度來繼續三箇所、本年度起工二箇所、内二箇所竣功ヲ告ゲ土量二十七萬二百七十立方米ヲ施行シタリ其他築堤三箇所延長一千百米、護岸一箇所長二百五十米ヲ施行セリ

附帶工事トシテ目下施行中ノモノハ黑川外二箇川改修ニシテ大正十四年度ヨリ昭和四年度ニ至ル五箇年度繼續工費百八十四萬一千圓、内國庫補助五十一萬二千圓、縣費負擔百三十二萬九千圓（内地元負擔三十五萬五千三百五十四圓）ヲ以テ直接施行中ナリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ三十六萬八千八百五十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計百十一萬一千二百八十一圓ナリ之ヲ總工費六百六十萬圓ニ比スレバ一割七分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「◎」ハ新潟縣負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 掘鑿	二五四、九五六 立方米	九五、七六三 円	二七〇、二七〇 立方米	九九、八六二 円	五二五、二二六 立方米	一九五、六二五 円	〇・二四 割分
築堤	一八九、一五七	一二、五二九	七三、九一三 米	二一、八三二	二六三、〇七〇 米	三四、三六一	
護岸			二五〇	七、〇九〇	二五〇	七、〇九〇	
用地費	九一九 段	三六八、七九一	七二 段	一一五、五七八	九九一 段	四八四、三六九	〇・三六
附帶工事費	箇所 三	一、八三五 三七四、一六四	箇所 三	四、〇九一 三二九、一八三	箇所 三	五、九二六 七〇三、三四七	
船舶及機械費	未竣功	一五四、八七一	未竣功	六四、〇七六	未竣功	二一八、九四七	
測量費		一七、九九一		六〇〇		一八、五九一	
營繕費		一七、〇四四		四、七〇〇		二一、七四四	

雜費	—	七一、五一三	四九、一二五	一二〇、六三八	—
共濟組合給與金	—	二、〇八六	一、九〇四	三、九九〇	—
總計	—	◎七四二、四二三 三七四、一六四	◎三六八、八五八 三二九、一八三	◎一、一一一、二八一 七〇三、三四七	〇・一七

第二四　筑後川改修工事

緒言

本工事ハ工費一千百三十二萬圓内福岡縣及佐賀縣負擔三百九十六萬圓)ヲ以テ最初大正十二年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ其後事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十二年度迄延長スルコトトナレリ其區域ハ幹川福岡縣浮羽郡千年村以下河口ニ至ル六十二粁其他支川小石原川、佐田川、派川早津江川、諸富川等ヲ加ヘ合計七十六粁餘トス

河狀竝計畫大要

筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ源ヲ熊本縣ノ東北部ニ發シ大分、福岡、佐賀ノ三縣内ヲ貫流シ有明海ニ注グ流路延長百三十八粁其流域ハ前記四縣ニ跨リ全面積二千八百六十平方粁ヲ有ス本川下流福岡縣及ビ佐賀縣ニ屬スル部分ハ沿岸肥沃ナル田園相連リ所謂筑紫平野ノ米産地ニシテ其灌漑ハ一ニ本川ニ依リ總面積實ニ四萬五千ヘクタールト稱ス加フルニ舟揖ノ便亦宜シク古來其惠澤ニ浴スルコト多大ナルモノアルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ルコトモ甚シク全流域水害面積ハ三萬二千ヘクタール餘ニシテ年々出水毎ニ受クル損害莫大ナルモノアリ本川ハ曩ニ明治十六年度政府ニ於テ河口ヨリ大分縣隈町ニ至ル間ノ改修工事ヲ企圖シ工費約百二十萬圓ヲ投ジ同三十一年度竣功セリ然レドモ該工事ノ目的ハ主トシテ低水路改良ニアリ高水防禦工事ノ如キハ全然地方ノ經營ニ委シ其負擔ニ耐フル範圍内ニテ施行セル

ニ過ギザルヲ以テ金島、小森野、天建寺、坂口ノ四放水路開鑿セラレタリト雖モ未ダ充分ナル效果ヲ擧グルニ至ラズ而モ工事中途ニシテ明治二十二年ノ大洪水ニ際會シ激甚ノ損害ヲ被ルニ及ビ第一次高水工事ノ機運ヲ齎シ遂ニ明治二十九年度之ヲ起工シ八箇年度ノ歳月ト百四十餘萬圓ノ財ヲ費シ同三十六年度其工成ルニ及ンデ稍々被害ノ程度ヲ輕減スルヲ得タリ然ルニ本工事モ財政上其他ノ理由ニ依リ局部的ノ工事ニ止マリシヲ以テ再ビ大正十年ノ非常洪水ヲ來シ其慘害ノ度ハ明治二十二年ニ讓ラズ玆ニ第二次改修トシテ本工事ノ計畫ヲ見ルニ至レリ

本計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ第一次改修ヲ補足シ全川ヲ通ジ一貫シタル工事ヲ爲スニアリ改修ノ方法トシテハ河狀ヲ正シ或ハ掘鑿ヲ施シ現在ノ不規則ナル堤防ヲ改築若クハ增築シ必要ノ箇所ニハ堤防ヲ新設シテ汎濫ヲ防ギ河積ヲ擴張シテ洪水ノ疏通ヲ計リ支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケテ其侵入ヲ防止ス又金島以下四放水路ハ之ヲ本流ニ開鑿シ洪水ノ疏通ヲ圖リ下流感潮區域ニシテ出水ノ影響少キ部分ニ於テモ必要ニ應ジ堤防ヲ一層强固ニシ其安全ヲ期シ兼ネテ高潮ノ脅威ニ備ヘシム尙諸富及若津港ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ適宜之ヲ浚渫シ河積ノ增大竝ニ航路ノ改良ニ資セントス

計畫洪水量ハ幹川筋每秒五千立方米トシ派川早津江川ハ其內一千七百立方米、諸富川ハ同二千五百立方米ヲ分流スルモノトス又計畫河幅ハ幹川筋二百五十米乃至九百五十米、早津江川二百米乃至七百五十米、諸富川二百米乃至二百三十米トス堤防ノ標準斷面ハ馬踏七米、兩法二割、高サハ、計畫洪水位上一米五トシ支川、派川等ハ之ニ準ジ實地ノ狀況ニ應ジ其斷面ヲ定ム

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業ト共ニ直ニ準備及測量ニ從事シ翌年度ニ入リテ工事ニ著手シ又土地買收ヲモ開始シ以後漸次區域ヲ擴張スルニ伴ヒ本年度三工場ヲ設置シ工事ノ進捗ヲ圖レリ

本年度施行區域ハ前年度ニ引續キ久留米市小森野放水路以下下流大中島ニ至ル延長二十粁餘ノ間ニシテ改修區域ノ中央以下ニ當リ又總テ感潮區ニ屬ス前年度ヨリ繼續セル工事九箇所及本年度新ニ著手セシ工事八箇所計十七箇所ノ兩側高水敷竝ニ低水敷掘鑿及築堤工事ヲ實施シ內築堤、掘鑿各一箇所ヲ竣功セリ

掘鑿ハ武島及天建寺ニ於テ一千二百立方米掘掘鑿機及二十瓲機關車ヲ用ヒ土運車ハ從來ノ三立方米積ノモノ及三立方米八積ダンプカーヲ使用セリ其他人力掘鑿運搬ニハ馬力ヲ主トシ長距離ニハ三臺ノガソリン機關車ヲ以テセリ本年度著手セル下流大中島及道海島掘鑿等ハ潮差甚シク大部分滿潮位以下ノ工事ナルヲ以テ豫メ潮止堤ヲ築造スル要アリ又土質軟弱ナルヲ以テ運搬ハ多クハ人力ニ依レルガ施工ニ著シク困難ヲ感ゼリ掘鑿土砂ハ本年度モ一部分ヲ築堤土ニ充用シ大部分ヲ附近民地等ニ捨土シ土量九十三萬四千六百九十四立方米ヲ竣功セリ又築堤ハ總テ掘鑿土ヲ利用シ土量二十八萬五千八百七十五立方米ノ築立ヲ爲セリ

古川逆水門ハ右岸久留米市大字長門石地內古川吐口ニ新設スル徑間四米二連ノ鐵筋混凝土造拱形樋門ニシテ鐵製扉ヲ附ス前年度大部分ヲ施行シ昭和二年出水期前竣功セリ

土地買收ハ本年度豫算ノ關係上買收ヲ見合セタルヲ以テ記スベキモノナシ

本年度竣功高ハ五十萬四千七百六十八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百九十七萬六百八十二圓ヲ算シ工費總豫算一千百三十二萬圓ニ對シ一割七分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ表中「△」ヲ附シタルハ提供材料勞力及評價品價額ナリトス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
掘鑿	立方米 一、六一八、四二二	円 二八六、九二七 一〇九、八三六	立方米 九三四、六九四	円 一五四、七五三 八二、九〇九	立方米 二、五五三、一一六	円 四四一、六八〇 一九二、七四五	割分 〇、二二
築堤	三九五、八九九	三三、三九六 四、六九九	二八五、八七五	二一、八五二	箇所 一、六八一、七七四	五五、二四八 四、六九九	〇、〇八
水門	△	三三、五九九 六七八	箇所 一	一一、〇二七 四六三	箇所 一	四四、六二六 一、一四一	
用地費	六九八段	五八七、五二二	九六段	七一、三〇四	七九四段	六五八、八二六	
附帶工事費	箇所 二	四、四八九 二、二四七			箇所 一	四、四八九 二、二四七	
船舶及機械費	△	四〇〇、〇四七 二一三	△	一九一、五五七	△	五九一、六〇四 二一三	△
測量費		二一、〇五九		二、一一六		二三、一七五	
營繕費	△	七、七〇一 七	△	二〇、〇五七	△	二七、七五八 七	△
雜費	△	八八、四五二 二四	△	三〇、六六二	△	一一九、一一四 二	
共濟組合給與金		二、七二二		一、四四〇		四、一六二	
總計	△	一、四六五、九一四 一一七、七〇四	△	五〇四、七六八 八三、三七二	△	一、九七〇、六八二 二〇一、〇七六	〇、一七

第二五　天龍川改修工事

緒言

本川ハ曩ニ主トシテ水害除去ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ明治十五年測量調査ヲ始メ次デ改修ノ計畫ヲ樹テ靜岡縣磐田郡二俣町以下河幅ヲ整理シテ新堤ヲ築キ舊堤ヲ增築シ其他護岸・水制・床固等ノ施設ヲ爲セリ同十八年度ヨリ地方ト協同シテ工費六十六萬圓ヲ以テ工事ニ著手シ兼テ磐田郡二俣町上流長野縣下伊那郡龍丘村大字時又ニ至ル迄山間狹窄部ニ於ケル危岩暗礁ヲ破碎シテ幾分舟航ニ便シタリシガ明治三十三年度ニ至リテ一先ヅ竣功シ河狀ハ匡正セラレ流路稍々安定シ地方廳ハ爾來其維持ヲ爲スト共ニ漸次新工事ヲ施シツツ現今ニ至レリ然ルニ東海道鐵道橋下流ハ依然トシテ荒廢ノ狀態ニアリ其上流ト雖モ堤防ノ鞏固ヲ誇ルニ足ラズ尙治水ノ要アルヲ以テ大正十二年度ヨリ昭和七年度迄十箇年度繼續事業トシテ工費六百六十萬圓(內靜岡縣負擔額二百二十九萬九千圓)ヲ以テ更ニ改修セントスルモノニシテ關東大震火災ノ影響ニ依リ事業年度ヲ四箇年度卽チ昭和十一年度迄繰延ベタリ而シテ上流長野縣管內ニ於テモ相當ノ水害無キニ非ラザレバ早晩改修ノ必要ヲ認ムルモ先ヅ以テ急務トスル下流靜岡縣ニ屬スル部分二俣町以下海ニ至ル二十八粁間ヲ施工スルモノトス

河狀竝計畫大要

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ長野縣ヲ經テ愛知・靜岡ノ兩縣界ヲ流レ遂ニ靜岡縣ニ入リ遠州灘ニ注グ幹川

流路長約二百十六粁ニシテ其流域面積四千八百八十平方粁ナリ灌漑區域ハ全流域ニアリテハ一萬七千八百二十ヘクタールニシテ改修區域ニ屬スルモノ三千二百十六ヘクタールナリ

上流部ニアリテハ沿川ニ廣大ナル平地アレドモ中流ハ全ク山間部ニシテ耕地田園ノ展クルモノナク靜岡縣二俣町ニ至リテ更ニ廣濶ナル平野ハ田園展ケ農桑ノ業盛ナリ加之濱松市ヲ始メ數多ノ名邑アリ東海道鐵道竝ニ國道此附近ヲ通過シ交通ノ便備ハリ商工業亦發達セリ

本川ハ古來屢々水害アリ最近ニ於テハ明治四十四年ノ洪水ヲ以テ最モ甚シトス當時河水暴漲シ堤防ノ決壞セルモノ數箇所ニ達シ家屋ノ流失若クハ損壞セルモノ又田園ノ荒廢ニ歸シタルモノ多ク浸水區域數千ヘクタールニ及ビタリ而シテ水害ヲ受クベキ區域ハ靜岡縣下ノミニテ總計一萬一千八百四十二ヘクタールニシテ其殆ンド全部ハ改修區域ニ屬ス以テ利害關係區域ノ廣大ナルヲ見ルベキナリ

計畫流量ハ萬延元年以來ノ洪水ト稱セラルル明治四十四年ノモノヲ標準トシ其後流量實測ノ結果ニ依リ雨量等ヲ參酌シテ當時ノ最大流量ヲ推定スルニ毎秒一萬一千百三十立方米ヲ得タリ依テ改修計畫ニ於テハ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ目途トシ計畫洪水位モ亦局部ヲ除キテハ大體ニ於テ當時ノ最大高水位ヲ超過セシメザルヲ程度トセリ

東海道鐵道橋ヨリ上流ハ前年改修工事ノ際河幅ヲ整理セルヲ以テ大體ニ於テ相當ノ幅員ヲ有スルガ故ニ河幅ノ擴張ヲ要セズ單ニ多少ノ掘鑿ニ依リ河積ヲ擴大シ舊堤ヲ增築スルニ止メ從來ノ霞堤トナレル箇所ハ大體其儘ニ存置シ鐵道橋ヨリ下流ハ現在三派ニ分レ河狀不整河積亦不足ナルヲ以テ本計畫ニアリテハ中流ヲ擴張シテ適當ナル河幅ヲ與ヘ舊堤ノ利用シ得ルモノハ之ヲ增築シ然ラザル箇所ニハ新堤ヲ築設シ又掘鑿竝浚渫ニ依リ洪水疏通ニ必要ナル河積ヲ有セシメ東西ノ兩派ハ之ヲ締切ルモノトス

堤防ハ新堤竝ニ舊堤增築共ニ總テ其天端ヲ計畫高水位上一米八ノ高サニアラシメ馬踏幅九米、兩法ニハ二割五分ノ勾配ヲ與ヘ堤高ノ大ナル箇所ニハ小段ヲ設ク尙必要ナル部分ニハ石張其他ノ適當ナル護岸ヲ施スモノトス

從前施行セル水制ハ成ルベク之ヲ利用シ尙必要ナル地點ニハ之ヲ新設セントス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業以來諸般ノ準備ニ從事スルト共ニ同十四年度中實施測量ニ著手シ東海道鐵橋下流改修法線ノ決定ト共ニ幅杭設置ヲ完了シ先ヅ以テ用地買收ヲ爲ス爲メ大正十五年二月一日土地收用事務所ヲ濱名郡中ノ町村地內改修事務所トシテ建設セラレタル事務所內ニ設ケ該事務ヲ開始シタリ而シテ潰地トナルベキ集團セル地域ハ鐵橋下ニ於テ右岸二箇所、左岸一箇所トシ何レモ四十町歩內外ノ地積ニ亙リ水流ニ依リ劃然ト區分セラレ日常ノ慣習又自ラ相違スル所アリ依テ同時ニ買收スルヨリハ各別ニ工事ト關聯シテ買收スルガ諸種ノ點ニ付キ得策ナルヲ以テ期ヲ分チ調査スルコトトシ前年度ニ於テ之ガ第一次買收區域右岸下流河輪村約四十町歩ノ土地買收物件移轉ヲ完了セルヲ以テ本年度ハ更ニ第二次トシテ濱名郡芳川村、飯田村ノ一部一名川中島ト稱スル孤立シタル島ノ東南部買收地積約四十九町歩、移轉家屋六十九戸、墳墓改葬三箇所其他立木、桑園等ニ對シ第一次ト同樣ナル方法ニ據リ諸種ノ調査ヲ進メ昭和三年二月十日ヲ以テ協議ヲ開始シ年度內ニ全部ノ契約ヲ終了セシムルコトヲ得タリ

工事施行ニ關シテハ昭和二年七月一日改修事務所ヲ開設シ所屬機械工場ヲ濱名郡河輪村芋瀨ニ新設シ之ガ機械等ノ設備ヲ爲スト共ニ機關車、掘鑿機ノ組立竝ニ工事用諸器具材料等ノ整備ヲ待チテ昭和三年

一月十六日ヨリ第一次買收區域ナル濱名郡河輪村地内ニ於テ河輪機械掘鑿工事ニ著手シ本年度内工程土量一萬一千四百立方米、工費三千八百圓ヲ費セリ

本年度竣功高ハ三十六萬九千二百二十四圓ニシテ起工以來本年度迄累計竣功額ハ八十一萬六千五百十九圓トナリ總工費六百六十萬圓ニ對シ一割二分ニ當ル其工費竣功表ハ次ノ如シ但シ「△」ハ製作品價額「◎」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費(掘鑿		円	立方米 一一、四〇〇	円 三、八〇〇	立方米 一一、四〇〇	円 三、八〇〇	割分
用地費	四〇〇段	三七〇、一四三	二七八段	二七三、四〇七	六七八段	六四三、五五〇	
船舶及機械費		四八、四三八		六二、九〇九		一一一、三四七	
測量費		一、三〇九		二七五		一、五八四	
營繕費		一、四九六		六、九五九		八、四五五	
雜費		二五、四六一		二一、一七三		四六、六三四	
共濟組合給與金		四四八		七〇一		一、一四九	
總計		四四七、二九五		三六九、二二四		八一六、五一九	〇・一二

第二六　千代川改修工事

緒言

本改修工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百六十六萬圓ヲ以テ施行スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川筋鳥取縣八頭郡河原村以下海ニ至ル約十七粁、支川袋川筋岩美郡宇部野村下流本川合流點ニ至ル約七粁二及野坂川筋約一粁五、砂見川筋零粁九、合計二十六粁六ノ間ニ施工スルモノトス

河狀竝計畫大要

千代川ハ源ヲ鳥取縣八頭郡山郷村大字駒歸宿字沖ノ山ニ發シ大體北流シ左支新見、佐治、曳田、砂見、野坂、湖山ノ六川及右支智頭、八東、袋ノ三川ヲ合シ氣高郡賀露村ニ於テ日本海ニ注グ其流域ハ鳥取、岩美、氣高、八頭ノ一市三郡ニ跨リ集水面積一千百八十平方粁餘、幹川流路延長五十三粁、灌漑面積七千ヘクタール、水害區域八千ヘクタール餘ヲ算シ沿川ニハ縣ノ首都鳥取市ヲ有シ其河口ニ當レル賀露港ハ漁港トシテ又避難港トシテ將又支川袋川ヲ經テ鳥取市ニ物資ヲ供給スル關門トシテ重要視セラル流域内ニ於ケル都邑ハ古來本川ニ依リ水運ノ便、灌漑ノ利等惠澤ニ浴スルコト尠カラズト雖モ一面比年生ズル洪水ノ慘害ニ苦シメラルルコト亦莫大ナリ乏シキ舊記ヲ搜リ僅ニ知リ得タル所ノミヲ以テスルモ天文年間以降約三百八十有餘年間ニ大洪水ト認ムベキモノ實ニ四十六回ヲ數フ就中大正七年九月ノ洪水ノ如キハ沿川ノ平

野ハ悉ク水底ニ沒シ鳥取全市ヲ擧ゲテ一米五乃至四米餘ノ冠水數日ニ亙リ一望大海ノ觀ヲ呈シ其汎濫面積約八千ヘクタールノ多キニ及ベリ

今現況ヲ見ルニ該川堤防ハ薄弱不規則ニシテ河幅廣狹常ナク河積ノ不足ナル部分隨所ニ介在シ一朝洪水ニ際會セバ破堤ノ厄ヲ被ルト同時ニ汎濫度ナク田畑ノ荒廢、財物ノ流失、人畜ノ死傷等其慘害目ヲ掩ハシムルモノ多大ナルノミナラズ其支流ナル袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ其河積ハ既往洪水ヲ流下スルニ必要ナル河積ノ半ニモ足ラザル部分多キヲ以テ未ダ大洪水ト稱シ得ザル程度ノ出水ニテモ市内ニ溢流シ産業交通ニ累スルコト鮮少ナリトセズ本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメ高水時間ノ短縮ヲ圖リ併セテ沿岸一帶惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ尙河口ニ於ケル舟揖ノ便ヲ圖ラントスルモノニシテ本川筋河原村(終點)以下八千代橋ニ至ル間ハ大體現況ニ準據シ在來堤ヲ利用、擴築、補强シ其甚シク突出シテ河幅狹ク洪水ノ排疏ニ支障アル箇所ハ之ヲ退ケ無堤部ニハ相當河幅ヲ定メ新堤ヲ築造シ河積ノ足ラザルハ掘鑿ニ依リ之ヲ補フモノナリ

八千代橋以下現在河道ハ稍々北東ニ向ヒ濱坂地先ニ於テ更ニ西北ニ大屈折ヲ爲シ且沿岸ニハ秋里、江津ノ二部落アリ、現狀ニ依リ改修セントスル時ハ江津ノ部落ヲ移轉セシメザルベカラザルノミナラズ現在袋川合流點ニ於ケル洪水位ハ之ヲ低下セシムル事能ハズシテ鳥取市ノ排水ニ不利ヲ來スベキヲ以テ八千代橋附近ヨリ北、北西ニ向ヒ大體直流スル新河ヲ開鑿シ江津ノ下流ニ於テ現在ノ河道ニ合シ河口ニ至ラシム支川袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ河積足ラザルノミナラズ曲折甚シク現在ニ依リ改修セントセバ工費巨額ニ上ルベキヲ以テ若櫻街道ノ東方ヨリ新川ヲ開鑿シ千代橋上流ニ於テ千代川本流ニ注ギ現在河道ハ單ニ袋川ノ平水流路ニ供セラルルコトトナルヲ以テ全ク市内ノ汎濫ヲ防止スルヲ得ベシ

野坂川ハ本川ト殆ンド直角ニ交加シ爲メニ排水ヲ沮害セラルルコト甚シキヲ以テ其合流點ヲ八千代橋附近迄引下ゲ水位ノ低下、洪水ノ排疏ヲ便ナラシム

砂見川モ亦同一ノ理由ニ依リ其合流點ヲ稍々下流ニ導キ湖山川ニハ本川合流點ニ樋門ヲ設ケ本川逆流ヲ防止セントス

本川ノ計畫洪水位ハ大體既往ノ最大洪水タル大正元年九月及同七年九月ノ洪水位ニ準據シタルモノニシテ河狀不正ノ爲メ特ニ水位ノ昇騰ヲ來シタリト認メタル區間ニ對シテハ之ヲ整正シ水位ノ低下ヲ計レリ而シテ計畫高水流量ハ大正九年以降普通洪水ニ對スル實測ヲ重ネ是ニ由リテ得タル結果ト流域內ノ降雨量及附近類似河川ノ高水流量ヲ資料トシテ既往ノ最高水位ニ對スル高水流量ヲ推算スルニ袋川合流點以上ニ於テ毎秒三千立方米、其以下ニ於ケルモノ毎秒三千三百立方米ト定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ期セリ支川袋川ノ流量毎秒五百五十立方米ト定ムルノ妥當ナルヲ認メタリ

河幅ハ幹川筋上流河原村附近ニ於テ約二百十米トシ以下順次擴大シ大正村附近ニ於テハ三百米、新袋川合流點以下八千代橋附近迄三百四十六米、千代川新開鑿ノ部分ハ三百十八米、賀露村附近ニ於テ約三百七十米ヲ保タシム袋川筋ニアリテハ上流ハ大體現狀ノ儘トシ其新川ニ屬スル部分ハ上流部六十四米、下流部若櫻街道附近以下ハ八十五米トス

堤防ハ幹川筋ヲ馬踏下流部七米五、上流部六米、法ハ表裏共二割五分トシ高距ノ大ナル箇所ハ小段ヲ設ケ其天端ハ計畫洪水位以上一米二ヲ保タシム之ニ要スル土砂ハ直接掘鑿セルモノヲ利用セントス法ハ土羽付ヲ爲シ必要ニ應ジ石張ヲ施工シ其他適當ニ護岸ヲ設クルモノナリ支川袋川ノ堤防ハ馬踏五米五、法ハ表裏共二割トシ天端ハ計畫洪水位以上零米九トス又之ニ要スル土砂及土羽付ハ前同斷トス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度創業以來專ラ實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ測量トシテハ幹川及支川袋川筋ノ法線杭又ハ敷幅杭ノ變更竝ニ縱横斷及平面測量ノ一部ヲ施工セリ一方土地收用ハ前年度ヨリ引續キ鳥取縣氣高郡賀露村ヨリ同千代水村ニ亙ル新川及野坂川新開鑿區域内ノ買收ヲ了シ更ニ袋川新開鑿區域内ノ買收ヲ殆ンド完了セリ

機械掘鑿工事ハ前年度ニ引續キ鳥取縣氣高郡千代水村地内ニ於テ千代水第一及同第二機械掘鑿工事ヲ續行ス何レモ二十噸機關車及一千二百立方米掘掘鑿機各一臺宛ヲ使用シ三立方米積土運車竝ニ米國製三立方米八積ダンプカーヲ併用シ鋭意工事ノ進捗ヲ圖レリ本年度内ノ工程ハ掘鑿運搬土量五十二萬八千八百十五立方米ニシテ工費八萬九千六百八十二圓ヲ費セリ而シテ本年度ノ竣功高ハ四十六萬九千十八圓起工以來ノ累計ハ百二十四萬四千三百圓ニシテ總工費豫算五百六十六萬圓ニ比スレバ二割二分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「▲」ハ提供品價額及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費(掘鑿用地費	一〇五、九八二立方米	三六、一七〇四	五二八、八一五立方米	八九、六八二円	六三四、七九七立方米	一二六、三八六円	〇・一二割分
	▲七一〇段		▲三五六段		▲一、〇六六段		
船舶及機械費	—	四六七、二二五	—	二七九、四六七	—	七四六、六九二	—
測量費	—	一五八、七三三	—	五三、五二九	—	二一二、二六二	—
	—	一一、三七五	—	八二〇	—	一二、一九五	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營繕費	—	一二、五二八円	—	二、四一七円	—	一四、九四五円	割分
雜費	—	八六、三二七	—	四〇、九四二	—	一二七、二六九	—
共濟組合給與金	—	二、三九〇	—	二、一六一	—	四、五五一	—
總計	—	▲七七五、二八二	—	▲四六九、〇一八七六	—	▲一、二四四、三〇〇七六	〇・二二

第二七　蘆田川改修工事

緒言

本工事ハ工費五百六十六萬圓(内廣島縣負擔百九十八萬九千圓)ヲ以テ大正十二年度ヨリ昭和七年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十一年度迄延長施行スルコトトナレリ其區域ハ幹川筋廣島縣蘆品郡府中町以下海ニ至ル二十七粁五、左支高屋川筋深安郡湯田村以下幹川合流點ニ至ル六粁五及右支瀨戸川筋ノ幹川合流點附近ナリトス

河狀竝計畫大要

蘆田川ハ廣島、岡山ノ兩縣下一市八郡ニ亙リ(主トシテ廣島縣)源ヲ廣島縣世羅郡神田村甲山ニ發シ漸次溪流ヲ收メ蘆品郡川邊村ニ至リ右支御調川ノ合流スルヤ流量頓ニ倍加ス流路ハ之ヨリ漸ク峽谷ヲ脫シ府中町ヲ過グルヤ地勢全ク展開シテ廣濶ナル備後平野ニ出デ神谷川、有地川其他ノ小支流ヲ合セ東流シテ深安郡中津原村ニ至リ急ニ百三十餘度回轉シテ西南ニ方向ヲ轉ジ左支高屋川ヲ合セ福山市ノ西ヲ繞リテ更ニ右小支瀨戸川ヲ入レ沼隈郡水呑村竹ノ端ニ至リテ燧灘ニ注グ而シテ府中町ヨリ上流ハ山間ノ急流ニシテ奔湍岩ヲ衝キテ流レ府中町ヨリ蘆品郡新市町落合ニ至ル間モ亦勾配急ニシテ河底ハ礫又ハ小砂利ノミナレドモ神谷川合流點以下ハ河狀一變シテ細砂緩勾配トナリ高屋川合流點以下ニ至レバ所々ニ寄洲ヲ生ジ河口ニ至リテハ殆ンド河底ヲ游塞セルノ觀アリ

本川ハ流域面積八百七十平方粁、流路延長七百三十四粁幹川七十八粁）灌漑面積七千百七ヘクタールヲ有スル中國有數ノ河川ニシテ沿川都邑ノ受クル産業上ノ利益頗ル大ナルモノアリ然レドモ比年洪水汎濫シテ慘害ヲ逞ウシ彼ノ大正八年七月及九月兩度ノ出水ノ如キハ上流府中町ヨリ下流川口村ニ亙ル五千八百六十三ヘクタールノ沃野ヲ變ジテ一大沼湖ト化シ福山市ヲ初メ沿川ノ都邑浸水ヲ見ザルナク人畜ノ死傷、家屋ノ倒壞、堤防及道路、橋梁ノ破壞流失等直接ノ損害額實ニ四百三十餘萬圓ノ多キニ上レリ之ニ加フルニ産業、交通、衞生等諸方面ニ亙ル被害ヲモ考慮スル時ハ其慘害ノ著シキヲ知ルベク明治四十三年以降十箇年間ノ水害損失平均年額四十七萬八千餘圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ主眼トスル所ハ洪水量排疏ニ充分ナル河積ヲ與ヘテ汎濫ヲ防止シ併セテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ支川ニ對シテハ逆水ノ被害ヲ輕減シ以テ沿川一帶ノ平野ノ水害ヲ除却シ且惡水ノ排除ヲ容易ナラシメムトスルモノナリ

計畫高水流量ハ上流府中町附近ニ於テハ毎秒一千百立方米トシ以下順次增加シ高屋川合流點以下一千九百五十立方米、瀨戸川合流點以下二千百立方米トシ支川高屋川ハ上流川北村附近ニ於テ二百立方米、千田村字横尾以下四百二十立方米ト定ム

河幅ハ府中町附近ニテ百二十米ニ始マリ最下流部ニ於テ四百米トシ高屋川ニアリテハ上流ニ於テ四十七米、本川合流點附近ニ於テ九十米ヲ保タシム

堤防ハ幹川筋ニアリテハ馬踏五米五乃至七米、兩法二割五分トシ堤高大ナル箇所ニハ小段ヲ設ケ天端ハ洪水位以上一米二乃至一米五ノ餘裕ヲ存セシム支川高屋川ハ馬踏幅三米七、兩法二割、天端ハ洪水位以上一米ヲ保タシム支川高屋川及瀨戸川ノ下流部ハ幹川ノ汎濫ヲ被リ湛水時間長期ニ亙ル低濕地ナルヲ以

テ背割堤ヲ築キテ合流點ヲ引下ゲ惡水ノ排除ト逆水ノ低下トヲ圖ルコトトセリ

計畫高水勾配ハ府中町附近ニ於テ三百二十分一、最下流部ニ於テ二千四百分一トス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度以來實施測量其他諸種ノ調査ニ從事シ同十五年九月一日ヲ以テ沼隈郡草戸村地內ノ掘鑿及築堤工事ニ著手セリ其後工事ノ進展ニ伴ヒ昭和三年一月一日本川斷面九粁ヲ境界トシ其下流部沼隈郡草戸村地內ニ草戸工場及上流部深安郡本庄村地內ニ鄕分工場ノ二工場ヲ新設シ夫々擔當區域內ノ掘鑿、築堤工事ヲ行フコトトセリ掘鑿ハ總テ人力ニ依リ運搬ハ馬力ヲ主トシ之ニ人力ヲ適宜併用セリ

土地買收ニ關シテハ昭和二年八月及同三年二月ニ深安郡本庄村、沼隈郡水呑村、草戸村、神島村、山手村、鄕分村地內ノ用地約六十町歩ニ對シ協議ヲ開始シタルモ鄕分村地內ハ買收價額低廉ナリトテ未ダ承諾セザルモノ多ク其他ノ地內ニモ尙未承諾ノモノアリ從テ本年度內協議段別ニ對シ買收ヲ終ヘタルモノ三割四分ニ過ギズ、

本年度竣功高ハ三十萬三千四百八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百四萬九千百九十二圓ヲ算シ工費總豫算五百六十六萬圓ニ對シ一割八分强ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ表中「▲」ハ提供材料及勞力費ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費（掘鑿）	五九、〇九七立方米	▲一六、〇一八円	一七四、〇五九立方米	▲三九、二七五円	二三三、一五六立方米	▲五五、二九三円	〇・〇八割分
本工事費（築堤）	五四、一〇〇	一、一四二	一四九、六〇二	四、八〇九	二〇三、七〇二	五、九五一	〇・〇六
用地費	九〇〇段	六四五、〇六七	二一六段	一三二、七五三	一、一一六段	七七七、八二〇	
附帶工事費				三九、七〇五		三九、七〇五	
船舶及機械費		三四、七一五		三六、〇六二		七〇、七七七	
測量費		一三、七五四		一、七六四		一五、五一八	
營繕費		六、四七三		一、五四七		八、〇二〇	
雜費		二七、八一八		四六、九一九		七四、七三七	
共濟組合給與金		七九七		五七四		一、三七一	
總計		▲七四五、七八四		▲三〇三、四〇八五、八七六		▲一、〇四九、一九二五、八七六	〇・一八

第二八　紀ノ川改修工事

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費豫算四百七十二萬圓(内和歌山縣負擔百六十二萬五千圓)ヲ以テ施行スルモノトシ其區域ハ左岸和歌山縣那賀郡小倉村右岸同縣同郡岩出町卽チ貴志川合流點以下海ニ至ル幹川筋約二十粁ノ間ナリトス

河狀竝計畫大要

本川ハ源ヲ大和伊勢ノ國境ナル大臺原山附近ニ發シ西北流シテ山間ヲ迂餘曲流スルコト數回奈良縣吉野郡國樔村ニ至リテ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ納レ同郡上市町ニ至リテ方向ヲ西微南ニ轉ジ吉野山ノ北麓ヲ流レテ吉野川ト稱シ五條町ニ於テ左支黑龍川ヲ併セテ和歌山縣下ニ入リ玆ニ初メテ紀ノ川ト稱セラル夫ヨリ橋本町ヲ過ギ九度山町ニ至リテ左支丹生川ヲ容レ尙モ同方向ニ流レ妙寺名手粉河等ノ小都邑ヲ經其間左右ヨリ數多ノ小支ヲ併セ更ニ岩出町ノ東端ニ至リテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ納レ同町ノ狹窄部ヲ經テ初メテ和歌山平野ニ出デ更ニ流ルルコト約十八粁和歌山市ノ北端ヲ擁流シ左方ニ和歌川水軒川ヲ分派シ右方ヨリ土入川ヲ入レ尙二三ノ中洲ヲ擁シ數派ニ離合シ末端ハ一川トナリテ海ニ注グ

幹川流路ノ延長約百三十粁ノ内奈良縣下ヲ流ルルコト約七十五粁和歌山縣下ヲ流ルルコト五十五粁ナ

リ又水面勾配ハ高水時岩出町ニ於テ凡ソ四百分一、最下流部ニ於テ凡ソ一千五百分一トス流域面積ハ奈良縣下ニ屬スルモノ約九百五十六平方粁、和歌山縣下ニ屬スルモノ九百六十平方粁、合計一千九百十六平方粁トシ此内八割二分ハ山地ニシテ平地ハ僅カニ一割八分ニ過ギズ而カモ該平地中ノ約八割ハ和歌山縣ニ屬ス

斯ノ如ク全流域ノ約八割ハ山地ニ屬シ而カモ水源地方ハ主トシテ古生層ヨリ成レル峯巒重疊セルヲ以テ水清ク豐ニシテ平時舟揖、灌漑上ノ利益相當ニ大ナルモノアリト雖モ一朝非常洪水ノ場合ニハ和歌山市街ノ一部ヲ初メ沿岸ノ低地部ニ汎濫シテ耕地ノ荒廢、家屋ノ倒破、堤塘、橋梁等ノ損壞甚シク之ニ加フルニ一般産業、交通、衞生上等ノ諸方面ニ被ムル損害ヲ具ニ計上スル時ハ其額尠カラズ就中近年ニアリテハ明治三十二年及大正六年ノ洪水ヲ其最タルモノトス

本改修計畫ハ洪水防禦ヲ主眼トシ其流量竝ニ水位ハ從來ノ最大洪水タル大正六年十月ノモノヲ基準トス卽チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大洪水量毎秒五千六百立方米ヲ安全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設スルニアリ然ルニ紀ノ川ハ現在河幅ハ概シテ廣濶ニシテ岩出狹窄部ノ百七十米ヲ除ケバ他ハ三百三十米乃至七百六十米ヲ有スルニ依リ岩出狹窄部ヲ二百七十米ニ切リ擴ゲ其他二、三ノ狹隘ナル箇所ハ四百三十米乃至四百九十米ニ擴張ス然レドモ河中ハ現在ノ儘ニテハ河積不充分ナルヲ以テ必要ノ掘鑿及浚渫ヲ行ヒテ前記ノ計畫流量ヲ快疏スルニ充分ナラシメ上流ノ洪水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮小セシメントス

堤防ハ舊堤擴築部竝ニ新堤共總テ其天端ヲ計畫高水位以上一米五ニアラシメ其標準斷面ハ馬踏幅七米、表法ハ二割トシ尙高サノ大ナル堤防ニアリテハ天端以下四米ヲ下リテ十割法、幅五米ノ表小段ヲ附シ小

段以下ハ三割法トシ必要ナル箇所ニハ石張其他適當ナル施設ヲ行フモノトス次ニ裏法ハ通ジテ二割トシ天端ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ裏小段ヲ附スル豫定ナリ

其他必要ニ應ジテ支派川入口ニ樋門ヲ設置シ尙河口ニハ突堤ヲ設ケントス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度ノ著手ニシテ以來實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ大正十五年八月第一回土地買收協議ヲ爲シ同年十一月初メテ右岸海草郡楠見村地先ニ工ヲ起シ續イテ昭和二年八月左岸同郡四箇郷村地先ノ掘鑿ニ著手シ以テ今日ニ至レリ

本年度ハ氣候順調ニシテ出水一回モナク爲メニ工事大ニ進捗シ右支鳴瀧川築堤ハ全部竣功シ鳴瀧川尻附換工事、鳴瀧護岸ハ昭和二年十月著手シ殆ンド竣功セリ

左岸ニ於テハ同年八月ニ四箇郷村地先ニ人力掘鑿ヲ開始シ十二月六噸瓦斯倫機關車三臺到著セルヲ以テ翌三年一月ヨリ人力盛込機關車運搬ヲ始メ成績頗ル良好ニシテ一箇月一臺一萬立方米以上ヲ運搬シ得ルノ狀況ナリ

尙同年三月容量四分三立方米デイーゼル、ショベル到著セルモ遂ニ年度內ニ運轉スルノ運ビニ至ラズ斯ノ如ク準備時代ナルニモ拘ラズ掘鑿ハ著々進捗シ其土砂ノ大部分ハ築堤ニ利用シ一部分民地捨土セリ而シテ本年度ノ掘鑿總土量ハ二十七萬二千八百四十立方米ナリ

築堤ハ掘鑿土ヲ利用シ右支鳴瀧川左右兩岸ノ舊堤擴築ヲ竣功シ本川ニ於テハ右岸楠見村、左岸四箇郷村地先ニ著手シ七分通リノ土盛ヲ爲セリ

土地買收ニ關シテハ第一回發表區域內卽チ右支千手川合流點下流海草郡野崎村大字北島、北島橋ニ至ル間及左岸同郡四箇鄕村大字松島ヨリ和歌山市字治、北島橋ニ至ル間河川敷地三十二町歩ノ補償ヲ爲シ引續キ上流右岸直川村、紀伊村、川永村ノ買收地調査ヲ爲セリ

而シテ本年度竣功高ノ主ナルモノハ築堤十三萬七千九百七十九立方米工費九千三十八圓、掘鑿二十七萬二千八百四十立方米工費七萬三千八百八十圓、護岸四百二十米工費九千七百七十九圓等ナリトス

本年度竣功額ハ四十二萬九千七百五十四圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ八十六萬五千九百八圓ナルヲ以テ總工費豫算額四百七十二萬圓ニ對シ一割八分ノ成功トナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「▲」ハ提供品價額及勞力費「×」ハ占用補償ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
築堤	※ 二、六四七 立方米	三四二 円	※ 一三七、九七九 立方米	九、〇三八 円	※ 一四〇、六二六 立方米	九、三八〇 円	〇・〇八 割分
突堤		四、七九八				四、七九八	
掘鑿	三〇、〇八四	一一、五三〇 二五一	二七二、八四〇	七三、八八〇 五、七二九	三〇二、九二四	八五、四一〇 五、九八〇	〇・〇六
護岸水制	▲		▲ 四二〇米	九、七七九	▲ 四二〇米	九、七七九	〇・〇二
附帶工事費							
用地費	× 二八四段	二六、九八九二	× 二一九六段	一三、九三四 一三五、三二四	× 二一九〇段	二八三、八二六 一三五、三二四	
船舶及機械費		六四、七六九		一四二、五八二		二〇七、三五一	
測量費		一五、一六〇		三、七七四		一八、九三四	
營繕費		九、八七四		四、七四四		一四、六一八	
雜費		五八、一一二		三四、九一二		九三、〇二三	

共済組合給與金				
一・六七七	一・七二五	三・四〇二	〇・一八	
▲四三六、一五四二五一	▲四二九、七五四五、七三八	▲八六五、九〇八五、九八九		
總計				

第二九　綠川改修工事

緒言

本工事ハ工費四百萬圓(內熊本縣負擔百十七萬四千圓)ヲ以テ大正十四年度以降十二箇年度繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋熊本縣下益城郡杉上村以下河口ニ至ル約十六粁.支川加勢川筋飽託郡日吉村以下幹川合流口ニ至ル約三粁及派川嘉永新川ナリトス

河狀並計畫大要

綠川ハ源ヲ熊本縣阿蘇郡小峯村三方嶽ニ發シ西北ニ向ヒ深山幽谷ノ間ヲ奔流シテ上益城郡白糸村ニ至リ高サ四十五米餘ノ瀑布トナリ同郡宮內村上揚ニ達シ初メテ平地ヲ見更ニ甲佐町ニ下レバ鵜瀨堰アリテ全川ヲ横斷ス之ヨリ流路北折シ乙女村ヨリ再ビ西北流シ上島村ニ於テ支川御舟川ヲ合シ水勢漸ク大トナリ勾配稍々緩トナル尙下リテ下益城郡杉合村釋迦堂ニ至リ加勢川ノ合流スルヤ河幅却テ狹小ナリ流路亦迂回曲折ス爲メニ洪水疏通ノ障碍ヲ爲スコト甚シク上流ニ多大ノ損害ヲ來スヲ以テ既往ニ於テ別ニ堀川放水路ヲ設ケ杉合村小岩瀨ニテ本川ニ合セシメタルヲ以テ今日ニテハ平水ハ主トシテ放水路ヲ流下シ本流ハ加勢川ノ流路タルノ狀態ヲ爲セリ夫ヨリ更ニ西流スルコト須臾ニシテ流路急ニ南折シ大彎曲シテ走潟村ヲ抱擁ス因テ此處ニ嘉永新川ヲ設ケ川口村方丈ニテ本川ニ落合セシメ洪水時ノ放水路ト爲ス而シテ同所ヨリ下流ハ河幅頓ニ增大シ西流シテ筑紫海ニ注ギ其流路延長約九十八粁ニ達ス

本川ハ流域面積一千八十平方粁ニシテ大河ナリト謂フベカラザルモ沿岸一帶ノ耕地低濕ニシテ一朝非常洪水ニ會セバ殆ンド平地部全區域ニ汎濫シ其災害甚大ナルモノアリ由來本川ノ水害ハ比較的勾配急ナル幹川上流ヨリ急奔シ來リタル洪水忽チ杉合村地内ノ狹窄部ニ扼セラレテ漸次水位ヲ昇騰シ終ニ堤防ノ決潰等ヲ誘起シ又支川ニ逆流スルニ因リテ生ズルモノニシテ非常洪水ナラザルモ湛水數日ニ亙ルコト多ク年々ノ損害少カラズ之ヲ以テ古來本川ノ治水ニ關シ或ハ各所ニ放水路ヲ開鑿シ或ハ堅固ナル堤防ヲ築設スル等高水防禦ニ苦心ヲ拂ヒタル跡歴然タルモノアリト雖モ是等ノ多クハ局部ノ施設ニ止マリ未ダ根本的ニ水害ヲ一掃スルニ至ラズ現ニ大正元年ノ大洪水ノ如キハ其損害額實ニ百五十萬圓ノ多キニ達シタリト云フ本川ノ夙ニ第一期河川トシテ改修ノ必要ヲ認メタル宜ナリト謂フベシ

本川ノ水害ハ前記ノ如ク杉合村附近ニ於ケル河積不足ノ爲メニ洪水ヲ疏通シ能ハザルニ因ルヲ以テ本改修ニ於テハ堀川ヲ擴幅開鑿シテ本流ト爲スト同時ニ同所以下ノ本流ヲモ河幅ヲ增大シ河狀ヲ矯正シ又走潟村附近現在ノ迂回水路ハ甚シク洪水ノ疏通ヲ阻碍スルヲ以テ嘉永新川ヲ擴張シテ之ヲ本流トナシ其他河口ヨリ上流御舟川合流口附近ニ至ル區間ニ於テ數箇所河幅ヲ擴大スル外多クハ舊堤ノ增築ニ止メントス

計畫洪水量ハ幹川筋毎秒三千三百四十立方米,支川加勢川同四百二十立方米ト定ム又計畫河幅ハ幹川筋杉合村鐵道橋附近ノ二百二十米ヲ最狹トシ之ヨリ上流ハ二百八十米乃至三百二十米,下流ハ三百二十米ヨリ漸次增加シ嘉永新川附近ニ至リ三百五十米トシ以下河口ニ至リ四百五十米乃至六百六十米ヲ有セシメ加勢川ニ對スルモノハ八十五米ヲ保タシムルコトトセリ

堤防ハ馬踏五米五,兩法二割,天端高計畫洪水位以上一米乃至一米五トス

施工狀況

本工事ハ先ヅ施工準備トシテ大正十四年十月ヨリ實施測量ニ著手シ翌十五年度ニ亙リテ縱橫斷測量ノ大體ヲ終了シ引續キ諸般ノ調査ヲ進メタリ

本年度ニ於テハ前年度ニ著手セル事務所竝ニ倉庫敷地ノ埋立ヲ竣功セシメ昭和二年八月事務所竝ニ倉庫ノ建設ヲ了ヘ土工機械ノ購入幅杭ノ設定平面測量ノ補測等ヲ施工セシモ未ダ本工事施行ノ運ビニ至ラズ

土地買收ニ關シテハ昭和二年五月土地收用事務所ヲ開設シ直チニ諸般ノ調査ヲ進メ同年十二月第一次買收トシテ左岸飽託郡走潟村地內六段四畝歩及同郡中綠村川口村海路口村三村ニ亙リテ三十七町九段五畝歩ノ買收協議ヲ開始セシニ關係者ノ一部ニ於テハ直チニ集會ヲ爲シ價額ニ就キ不服ヲ唱フル者アリシガ漸次承諾シ來リテ年度內ニハ不在者其他事故者ヲ除ク外ハ全部應諾スルニ至レリ

本年度竣功高ハ三十八萬五千五百八十四圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ三十九萬九千九百七十六圓ヲ算シ工費總豫算四百萬圓ニ對シ約一割ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	—	—	三七四段	二七六、六三九円	三七四段	二七六、六三九円	割分 —
船舶及機械費	—	二、〇一一	—	九二、九九八	—	九五、〇〇九	—
測量費	—	五、八三六	—	一、八七二	—	七、七〇八	—

營繕費	—	—	—	—	一、六〇二	一、六〇二	—	〇・一〇
雜費	六、三八〇	一二、一七一	一八、五五一	一四、三九二	三八五、五八四	三九九、九七六		
共濟組合給與金	一六五	三〇二	四六七					
總計	—	—	—	—	—	—	—	

第三〇　鬼怒川改修工事

緒言

本工事ハ大正十五（昭和元年）年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算一千四百五十萬圓ヲ以テ栃木縣鹽谷郡三依、栗山、藤原ノ三箇村及同縣同郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル延長約百十粁及同郡取手町並ニ千葉縣東葛飾郡田中村地先約十粁ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

河狀並計畫大要

鬼怒川ハ其源ヲ栃木縣鹽谷郡ノ西邊鬼怒沼ニ發シ日光山塊ノ北麓ヲ繞リテ一路東流シ同郡藤原村ニ至リテ左ニ大支男鹿川ノ南下スルヲ併セ之ヨリ山谷ノ間ヲ東南ニ奔リテ漸ク平原ニ出デ右ニ大支大谷川ノ東流スルニ會シ河内、鹽谷兩郡ノ界ヲ流レ羽黑村地内ニ於テ西鬼怒川ヲ分派シ阿久津村ニ至リテ再ビ之ヲ併合ス之ヨリ南流スルコト四十二粁ニシテ水戸線鐵道橋ノ上流ニ於テ茨城縣管内ニ入リ幾クモナクシテ右ニ大支田川ヲ容レ田圃、臺地ノ間ヲ迂餘曲折シテ南流スルコト四十五粁餘北相馬郡大野村地先ニ於テ利根川ニ注グ其幹川延長百七十粁（内栃木縣管内百二十粁、茨城縣管内五十粁）ニシテ平地部ニ於ケル流路ハ兩縣ヲ通ジテ百二十粁ニ達ス

大谷川合流點以上ハ河路概ネ峽谷ヲ成シ堤防、護岸等稀ニシテ其下流水戸線鐵道橋ニ至ル延長七十粁ノ

間ハ水勢急ニシテ川敷廣ク河水礫洲ノ間ヲ亂流シ兩岸ノ低坦地ハ概ネ堤防ヲ以テ保護セラル派川西鬼怒川ハ往時一用水路タリシガ明和年間ニ於ケル大洪水ノ際河水溢流シテ一大河道ヲ成スニ至リシモノナリ同鐵道橋以下卽チ茨城縣管內ニ屬スル部分ハ河狀一變シ緩流トナリ兩岸ハ大體堤防ヲ以テ保護セラルルモ河幅過狹ニシテ所々ニ急曲アリ爲メニ洪水ノ疏通ヲ阻ミ水位ノ嵩上甚シ水海道町以下ニ於テハ往時東流シテ小貝川ニ合シタリシモ德川時代ニ於テ洪水排疏ヲ速カナラシメンガ爲メ丘陵ノ谷間ヲ開鑿シテ新タニ河道ヲ通ジ直ニ利根川ニ注ガシメタルモノニシテ內守谷村大字大木迄ハ河道特ニ狹隘ナリ而シテ流末大木以下延長二粁餘ノ部分ハ利根川ト同時ニ國ニ於テ旣ニ改修ヲ施行シタルモノナリ本川ノ流域ハ栃木縣宇都宮、鹽谷、河內、上都賀、下都賀、芳賀、茨城縣眞壁、結城、猿島、北相馬ノ一市九郡ニ亙リ總而積一千八百八十平方粁ニシテ其內譯栃木縣（山地一千百六十平方粁、平地五百平方粁）茨城縣平地二百二十平方粁ナリトス

流域ハ大體南北ニ長ク東西ニ狹クシテ水源山地ハ栃木縣ノ西北部ヲ占メ北ハ帝釋山脈ヲ以テ福島縣阿賀川流域ト隣シ東ハ那須火山系ヲ介シテ那珂川流域ニ接シ西及南ハ足尾山系ヲ以テ片品、渡良瀨兩川（共ニ利根川ノ大支ナリ）ト流域ヲ分ツ日光火山塊ハ其南部ニ盤踞シテ支川大谷川ノ水源ヲ成シ湯湖、西湖、中禪寺湖等其間ニ橫タハル水源ノ地質ハ大體東北部ハ花崗岩屬ノ堅岩ニシテ南部ハ安山岩、凝灰岩等ノ大山岩ヨリ成ル支川男鹿川ハ約二百六十平方粁ノ流域ヲ有シ岩代國境ヨリ發スル五十里、湯西ノ二小支ノ合シタルモノニシテ其合流點附近ハ川道廣濶ナル湖盆狀ヲ形成シ二百年以前ニ於テ數十年間一大湖ヲ成セルモノニシテ今尙海跡ノ名アリ幹川ノ最上流部及男鹿川流域ハ針、濶混生ノ樹木多ク山相一般ニ良好ナルモ幹川ノ南、大谷川ノ北部ヲ占ムル日光山塊ノ兩斜面ハ其岩質ノ關係ヨリ荒廢甚シク崩潰度ナキ

狀態ニシテ大谷川ニ合スル諸溪流ハ現ニ國及縣ニ於テ砂防工事ヲ實施シツツアリ大谷川合流點以下水戸線鐵道橋ニ至ル間ハ河道概ネ河水ノ流送堆積セル砂礫層上ニ横タハルモ東岸ニ於テ所々第三紀ノ臺地アリ河水ノ衝突ニ因リテ決潰甚シク吉壁數粁ニ連ナルモノ尠カラズ同鐵道橋以下ハ大體豐饒ナル冲積壤埴土ナルモ所々第三紀ノ丘陵臺地ヲ見ル流末利根川トノ間ニ介存スル菅生低濕地ハ富饒ナル腐埴土ヨリ成リ現在ハ利根川洪水ノ游水地タリ

本川改修區域ハ水害最モ甚シキ栃木縣鹽谷郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル部分ニシテ其延長百十粁、内栃木縣管内六十粁、茨城縣管内五十粁ナリ

本川改修區域ニ於ケル洪水ノ狀況ヲ見ルニ水源山地ヨリ改修上流端ニ流下シ來ル洪水ハ其流量大ニ其勢極メテ激烈ナルモ栃木縣下延長六十粁ノ間ハ河幅廣大ニシテ所々無堤地アリ加フルニ大洪水ノ際ハ所々破堤溢流等ヲ生ジ游水面積極メテ大ナルヲ以テ洪水ハ其流量ニ於テモ亦流勢ニ於テモ大ニ緩和サレタル後ニ茨城縣ニ入ルノ狀況ナリ然リト雖水戸線鐵道橋以下ニ於テハ河道狹小ニシテ堤防亦矮小薄弱ナルヲ以テ破堤、溢流等尚頻繁ナルモノアリ而シテ流末既改修部ニアリテハ毎秒二千五百立方米ノ高水流量ヲ安全ニ疏通シ得ルモ合流點以下ニアリテハ兩川最大流量ノ遲速ヲ考慮シ利根川ノ河積ハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水量ヲ毎秒約一千立方米ト見積リテ決定セルモノナリ

鬼怒川ノ現狀竝ニ利根川トノ關係上記ノ如クナルヲ以テ本川ノ水害ヲ救ハンガ爲メ單ニ無堤地ノ汎濫、堤防ノ缺潰、溢流等ヲ防止シ他ニ何等ノ方法ヲ講ゼザルニ於テハ必然游水面積ヲ縮小シ洪水ノ流量ヲ增加シ其流下ヲ速カナラシムル結果ヲ招致シ茨城縣管内ニ於テハ河幅ノ大擴張ヲ要シ延テハ利根川ニ流出スル高水流量ヲ愈々大ナラシメ合流點以下ノ河道ニ對シ少ナカラザル脅威ヲ及ボスコトトナルヲ以

テ本川ノ改修ニ當リテハ下流ニ排疏スル高水流量ヲ現狀以上絶對ニ增大セシメザルヲ以テ根本方針ト爲サザルベカラズ依テ先ヅ改修區域ノ河道外汎濫地ニ代テ洪水ノ調節ヲ爲シ其流量ヲ低減センガ爲メ男鹿川海跡ノ河袋ニ一大貯水池(容量約五千五百萬立方米)ヲ設ケ大雨ノ際水源ヨリ流下シ來ル洪水ヲ池中ニ停滯セシメ排水門ヲ設ケテ徐々ニ之ヲ排疏シ依テ以テ改修上流端ニ於ケル最大流量毎秒五千立方米ヲ四千立方米ニ低減シ之ヨリ以下ハ現在ノ河道ノ調節作用ニ依リ高水流量ヲ次第ニ低減セシメ流末既改修部ニ亙リテ毎秒二千五百立方米ニ止ムルノ方法ヲ採用セリ卽チ本川ノ計畫高水流量ハ改修區域上流端ニ於テ毎秒四千立方米ト定メ之ヨリ次第ニ減ジテ水戸線鐵道橋ニ於テ毎秒三千立方米、改修末端ニ於テ毎秒二千五百立方米ト定メタリ

而シテ改修工事ハ大體現在ノ河幅ヲ保持シ其過狹ナル部分ヲ擴張シ栃木縣管內ニ於テ四百五十米乃至一千米、茨城縣管內ニ於テ百七十米乃至五百米ノ河幅ヲ有セシメ堤防ノ薄弱ナル部分ハ之ヲ增築シ無堤地ニシテ汎濫ノ害著シキモノハ新タニ堤防ヲ繞ラシ以テ沿川ノ水害ヲ根絶セントス改修堤防ハ大體馬踏三米五乃至七米、兩法二割乃至三割ト爲シ天端ハ計畫高水位以上一米二ノ高サヲ有セシムルモ現在河幅廣大ナル部分ハ之ヲ一米ニ止メタリ而シテ水流ノ衝ニ當ル河岸ニ對シテハ護岸、水制等ノ補足又ハ改修ヲ行ヒ以テ岸地ノ決潰ヲ防ギ堤防ノ安固ヲ圖ラントス

水源ニ於ケル洪水調節ノ結果西鬼怒分派點ニ於ケル計畫流量ハ毎秒四千立方米ニ低下スルヲ以テ現在ノ本流タル東鬼怒川ニ於テ多少ノ堤防增築ヲ行ヘバ一川ノ河幅ニ依リ能ク全流量ヲ疏通シ得ベキヲ以テ西鬼怒川ヲ其分派口ニテ締切リ其川敷及游水地約百五十ヘクタールノ開墾ヲ可能ナラシム水戸線鐵道橋附近ハ河幅過狹ニシテ高水ノ疏通、堤防、護岸ノ維持共ニ困難ナルノミナラズ屢々鐵道ヲ不通ナラシ

ムルヲ以テ橋長ヲ増大シ河積ノ擴張ヲ行ヒ茨城縣管内宗道村附近ハ河道ノ屈曲特ニ甚シク水位ノ嵩上、工作物ノ被害共ニ著シキモノアルヲ以テ新タニ直路ヲ開鑿シテ高水ノ疏通ヲ助ケントス

前述ノ如ク利根川改修ニ於テハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水流量ヲ毎秒一千立方米ト見積リタレドモ近年ノ洪水狀況ヲ調査スルニ一千四百立方米以上ニ達スル場合アルヲ以テ鬼怒川改修後ニ於ケル該流量ヲ一千六百立方米ト定メ利根河積ニ對シテ過大ナル部分毎秒六百立方米ハ合流點附近ニ於テ一時滯溜セシムルノ策ヲ採レリ卽チ茨城縣北相馬郡菅生沼沿岸及千葉縣東葛飾郡田中村ヨリ我孫子ニ亙ル利根川游水地ニ新堤ヲ繞ラシテ二大調節池ヲ設ケ數箇所ニ溢流部ヲ置キ下流端ニ排水門ヲ設ケ以テ水位過嵩ノ際河水ヲ流入滯溜セシメ河道ノ減水ヲ待テ池内ノ滯水ヲ排出セシメントス而シテ此等調節池地域ノ荒蕪地ハ從來堤外游水地ニシテ出水毎ニ水底ニ沒スルノ狀態ナリシガ改修後ニ於テハ大洪水ノ場合ニ於テノミ溢流ノ爲メニ冠水スルコトトナリ從テ約一千二百ヘクタールノ低坦地ハ大ニ其利用率ヲ高ムルニ至ルベシ

施工狀況

本工事ハ先ヅ施行準備トシテ大正十五年九月栃木縣鹽谷郡藤原村ニ同年十二月茨城縣結城郡宗道村及栃木縣河内郡本郷村ニ各測量員詰所ヲ置キ實地測量調査ヲ行ヒ翌昭和二年一月宗道村ニ宗道土地收用事務所ヲ設ケ結城郡大形村新河道開鑿用地ノ買收調査ヲ開始シ同年二月鬼怒川改修事務所ヲ茨城縣眞壁郡伊讃村ニ置キ右岸栃木縣河内郡平石村以下茨城縣北相馬郡内守谷村ニ至ル間及左岸栃木縣芳賀郡清原村以下茨城縣北相馬郡小絹村ニ至ル間ヲ事業區域ト定メ同年度内測量調査ヲ爲シ併セテ事務所及

倉庫敷地ノ地均等ヲ施行セリ

本年度ニ於テハ五月一日上流鹽谷郡三依村大字五十里字關門ニ鬼怒川上流改修事務所ヲ設ケ同郡三依、栗山、藤原ノ三村ヲ事業區域ト定メ大支、男鹿川(湯西川ヲ含ム)筋ニ一大貯水池ヲ設クル爲メ堰堤築設箇所ノ地質試鑽其他施工ニ關聯スル測量及調査等ヲ爲セリ又下流部ニ於テハ五月一日改修事務所ヲ鬼怒川下流改修事務所ト改稱シ前年度來調査中ノ前記大形村新河道開鑿用地總段別五十二町一段七畝歩餘ヲ買收シ用地費二十三萬七千五百八十二圓ヲ支出セリ而シテ同村字鎌庭地先舊河道ハ屈曲最モ甚シキヲ以テ適當ノ地點ニ鎌庭派出所ヲ設ケ新川附換工事ニ著手セリト雖モ年度内日淺ク人力ヲ以テ僅カニ土量一萬九千百十四立方米ヲ掘鑿運搬セシニ過ギズ其他ハ前年度末開始セシ土浦、小山間延長約百三十四粁ノ精密水準測量及新ニ菅生沼測量ノ外平面縱横斷流量等各種ノ測量調査ヲ施行シ尚改修工事用掘鑿機、機關車竝ニ諸機械、器具ノ製作及修理ヲ千住及野田ノ雨機械工場ニ依囑シ之ガ整備ニ努メ又電話架設、倉庫及傭人溜、湯沸場、自動車置場等ノ建設ヲ了リタリ

本工事本年度竣功高ハ四十八萬三千三百五十九圓ニシテ創業以來ノ累計ハ五十萬七千三百五十七圓トナレリ之ヲ總工費豫算一千四百五十萬圓ニ比較スルトキハ零割三分五厘ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費			立方米 一九、一一四	円 四、一一三	立方米 一九、一一四	円 四、一一三	厘分
浚渫			五二二段	二三七、五八二	五二二段	二三七、五八二	
用地費							

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		△六、三四七円		△一三七、〇〇三円		△一四三、三五〇円	〇・〇三五
測量費		六、七五二		一八、五三五		二五、二八七	
營繕費		二、五四九		三〇、七六二		三三、三一一	
雜費		八、一一三		五三、五一三		六一、六二六	
共濟組合給與金		二三七		一、八五一		二、〇八八	
總計		△二三、九九八		△四八三、三五九一一八		△五〇七、三五七一一八	

本表竣功額ヲ更ニ上下流ニ區別スレバ次ノ如シ

上流改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		△円		△四一、四五三円六二		△四一、四五三円六二	〇・〇二五
測量費		四、一二〇		一二、一三五		一六、二五五	
營繕費		一、一七〇		六、九七三		八、一四三	
雜費		三、九六一		一六、四九二		二〇、四五三	
共濟組合給與金		一二六		三四九		四七五	
總計		△九、三七七		△七七、四〇二六二		△八六、七七九六二	

下流改修

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費〔浚渫	—	円 —	立方米 一九、一一四	円 四、一一三	立方米 一九、一一四	円 四、一一三	割分厘 —
用地費	—	—	五二二	二三七、五八二	五二二	二三七、五八二	—
船舶及機械費	—	△ 六、三四七	—	△ 九五、五五〇 五六	—	△ 一〇一、八九七 五六	—
測量費	—	二、六三二	—	六、四〇〇	—	九、〇三二	—
營繕費	—	一、三七九	—	二三、七八九	—	二五、一六八	—
雜費	—	四、一五二	—	三七、〇二一	—	四一、一七三	—
共濟組合給與金	—	一一一	—	一、五〇二	—	一、六一三	—
總計	—	△ 一四、六二一	—	△ 四〇五、九五七 五六	—	△ 四二〇、五七八 五六	〇、〇三八

第三一　北川改修工事

緒言

本川ハ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシ總工費二百三十六萬圓(地方負擔八十三萬一千圓)ヲ以テ改修セントスルモノニシテ其區域ハ幹川北川ニテハ福井縣遠敷郡三宅村以下海ニ至ル約十四粁、支川南川ニテハ同縣同郡口名田村以下海ニ至ル六粁又支川遠敷川約二粁、合計二十二粁ナリ

河狀並計畫大要

北川ハ源ヲ滋賀縣高島郡三谷村ノ山地ニ發シ溪谷ヲ流レ二、三ノ細流ヲ併セ南流スルコト數里ニシテ急ニ方向ヲ轉ジ北西ニ向ヒ福井縣ニ入ル遠敷郡熊川村ヲ經テ兩岸漸ク開ケ三宅村以下兩岸堤塘ノ設ケアリ川ハ一路直流數個ノ小支ヲ容レ遠敷村ニ至リ左支遠敷川ヲ併セ雲濱村ニ至リ多田川ヲ呑ミ次デ南川ト合シ少許ニシテ海ニ注グ流路延長約三十五粁トス河口ハ左岸ニ突堤ノ設アリテ小濱港ヲ成ス又河口近ク右方ニ江湖川アリ其北川ニ接近セルトコロ北川右岸堤上ニ古來三箇所ノ溢流堰ヲ設ケ以テ洪水ノ際其一部ヲ江湖川ニ放流スルノ用ニ充ツ

南川ハ源ヲ遠敷郡奥名田村ヨリ發シ溪間ヲ略々東流シ細流ヲ集メ知三村ニ至リ方向ヲ轉ジテ東北ニ向ヒ口名田村ニ至リ兩岸漸ク開ケ今富村ニ至リテ初メテ堤塘ノ設ケアリ次デ大彎ヲ畫キ小濱町ヲ經テ北川ニ合ス流路延長約四十粁ナリトス

流域ハ滋賀縣高島郡福井縣遠敷郡ニ跨リ全面積四百四十二平方粁ニシテ一般ニ山岳ニ富メリト雖モ著シキ峻峯ナシ山地ハ殆ンド古生層ニ屬スル粘板岩、硅岩等ヨリ成リ平地ハ第四紀新層ニ屬スル冲積地ナリ山地ノ森林狀態ハ必ズシモ良好ナルニアラズト雖モ又甚シキ荒廢ノ跡ナシ

沿岸ノ平地ハ總テ北川本支流ヨリ灌漑ノ惠ヲ受クルモノニシテ其面積二千四百十ヘクタールナリ其殆ンド全部ハ福井縣下ニ屬シ而カモ改修區域內ニアリ

舟運ハ著シキモノナク唯河口附近ヲ小舟ノ通ズルニ止マル河口ハ卽チ小濱港ニシテ風光明媚ナル小濱灣ノ奥底ニ横ハリ古來著名ナル港津ナリト雖モ惜ラクハ水深小ニシテ大船巨舶ヲ容ルル能ハズ

北川ハ從來河幅狹隘堤防薄弱ナルヲ以テ出水ニ會セバ堤防決潰シテ浸水ノ害ヲ被リ甚ダシキハ每年數回ニ及ブコトアリ特ニ流末地方ニアリテハ南北兩川ノ洪水相會シ而カモ河口狹隘ナルヲ以テ疏通ノ快速ナルヲ得ズ爲メニ小濱町ノ一部及雲濱村ノ如キハ濁水人家ヲ沒シ慘害ヲ逞フス舊藩時代ニ於テ北川堤防ニ溢流部ヲ設ケ洪水ノ一部ヲ江湖川ニ放流スルノ施設ヲ爲シタルモ尙不充分タルヲ免レズシテ災害ヲ被ルコト頻繁タルヲ見ル明治二十九、三十二、四十、大正六、十年ノ洪水ノ如キハ其被害特ニ著シキモノアリ今水害ヲ受クベキ面積ヲ揭グレバ全流域內ニテハ一千五百十九ヘクタールニシテ內一千四百四十ヘクタールハ改修ニ由リテ被害ヲ免ルル區域ニアリ大正四年ヨリ同十三年ニ至ル最近十箇年間ニ於ケル水害ニ因ル平均損失年額ハ十五萬四千八百八十圓ニシテ內十四萬七千圓ハ改修ニ由リ全ク之ヲ免ルルヲ得ルナリ

計畫流量ハ從來ノ最高洪水ヲ基準トシ實測等ヲ參酌シ次ノ如ク決定セリ

北川　上流改修起點ヨリ烏羽川合流點ニ至ル　三〇〇（每秒立方米）

烏羽川合流點ヨリ杉山川合流點ニ至ル	四六〇（毎秒立方米）
杉山川合流點ヨリ日笠川合流點ニ至ル	五〇〇
日笠川合流點ヨリ宮川合流點ニ至ル	六〇〇
宮川合流點ヨリ遠敷川合流點ニ至ル	七〇〇
遠敷川合流點ヨリ海ニ至ル	九五〇
南川	一、〇〇〇
遠敷川	三〇〇

計畫高水位モ亦從來ノ最高洪水位ヲ基準トシテ之ヲ定メ前記流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ改修計畫ノ主眼トセリ

幹川北川筋ニアリテハ上流改修起點ヨリ宮川合流點ニ至ル迄ハ河幅大體充分ナルヲ以テ單ニ舊堤ヲ擴築スルニ止ム同點以下ハ河幅概シテ不足ナルヲ以テ多少之ヲ擴張シ或ハ新堤ヲ設ケ或ハ舊堤ノ利用スベキハ之ヲ擴築ス又國富村大字丸山以下ハ現川ヲ右方ニ導キ現在ノ江湖川ヲ擴張シテ之ニ充ツルモノトシ江湖川ハ之ニ竝行シテ新水路ヲ設ケ西津村ニ至リ新北川ニ合流セシメントス

支川南川ハ上流改修起點ヨリ今富村大字湯岡ニ至ル間ハ在來ノ堤防ヲ擴築スルニ止メ同上以下ハ多少河幅ヲ擴張シ尙現在ノ水路ハ著シク迂回セルヲ以テ雲濱村地內ニ一條ノ直路ヲ開鑿シ同村大字竹原ニ至リ北川ノ現水路ニ合セシメ以下ハ北川ノ現水路ヲ以テ南川ノ新水路ニ充ツ斯クシテ南北兩川ハ全ク分流セシメントス

支川遠敷川ハ小支松永川合流點以下本川トノ合流點ニ至ル間河幅ハ充分ナリト雖モ堤防薄弱ナルヲ以

テ之ヲ擴築スルモノトス

堤防ハ馬踏幅四米五、兩法二割乃至三割トシ天端ハ計畫洪水位以上一米五トシ尙堤高ノ大ナル堤防ニハ小段ヲ附ス堤防及河岸ノ必要ナル箇所ニハ適當ナル護岸工ヲ施シ河敷內ニアリテハ河積ノ不足ナル部分ハ掘鑿若クハ浚渫ヲ行ヒテ充足セシメ下流ニ於テハ兼テ舟運ニ便ナラシメントス

施工狀況

本改修工事ハ大正十五年度ノ創業ニシテ以來引續キ實施測量竝ニ諸般ノ調査ヲ行ヒ昭和二年四月土地收用事務所竝ニ改修事務所ヲ福井縣遠敷郡雲濱村ニ併置シ北川筋ニ於テハ右岸福井縣遠敷郡西津村ヨリ同郡國富村ニ至ル間、左岸同郡雲濱村ヨリ同郡今富村ニ至ル間、南川筋ニ於テハ左右岸共同郡雲濱村ヨリ同郡今富村ニ至ル區間ノ幅杭設置測量ヲ完了シ此區間ノ用地面積二十一町歩餘ノ買收調査ヲ爲シ同年十二月十日之ガ買收協議ヲ開始シタリト雖モ年度內ニ完了スルニ至ラズ約六割ノ承諾ヲ得タリ尙其他事務所新築用地ノ盛土竝ニ建築及ビ軌條其他土工器械ノ購入等諸般ノ準備ヲ爲シタリト雖モ用地ノ關係上未ダ工事著手ニ至ラズシテ年度ヲ經過セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ十三萬一千百一圓ニシテ創業以來本年度迄ノ竣功額ハ十三萬二千五百四十五圓トナリ總工費二百三十六萬圓ニ對シ僅カニ零割六分ナリ其竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	—	—	三二段	七六、六八三円	三三段	七六、六八三円	一割六分

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	—	九五円	—	四〇、一〇七円	—	四〇、二〇二円	割分 —
測量費	—	六〇九	—	六一二	—	一、二二一	—
營繕費	—	—	—	二、六九三	—	二、六九三	—
雜費	—	七三八	—	一〇、八一五	—	一一、五五三	—
共濟組合給與金	—	二	—	一九一	—	一九三	—
總計	—	一、四四四	—	一三一、一〇一	—	一三二、五四五	〇・〇六

第三二　旭川改修工事

緒言

本工事ハ工費八百萬圓(内岡山縣負擔二百七十五萬九千圓)ヲ以テ昭和元年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ岡山縣御津郡牧石村以下海ニ至ル約十七粁餘ノ間ナリ

河狀並計畫大要

旭川ハ流域面積一千七百二十三平方粁ニシテ内山地面積一千四百八平方粁、平地面積三百十五平方粁、流路延長約百五十粁ナリ灌漑面積一萬九百ヘクタールヲ有スル河川ニシテ其大部分ハ岡山市附近ノ平野ニ屬スルモノナリ而シテ本川ハ其源ヲ岡山縣眞庭郡ノ北境ナル鷲ケ峰ヨリ發シ初ハ略々東流シテ同郡茅部村ヲ過ギ方向ヲ南ニ轉ジ山間ノ諸溪流ヲ併セ勝山町ニ至リ右支新庄川ヲ容レ東南ニ轉向シ久世町ヲ過ギ左支目木川ヲ併セ落合町ニ至リ更ニ右支備中川ヲ收メ山間ヲ迂餘曲流シテ久米郡福渡町ニ至リ左支誕生川ヲ合セ更ニ下リテ御津郡金川町ヲ經テ右支宇甘川ヲ容レ次デ方向ヲ略々南ニ變ジ同郡牧石村ニ至リ山間ヲ離レテ平野ニ出ヅ次ニ左方ニ百間川ヲ分派シ岡山市内ヲ貫流シテ再ビ方向ヲ稍々東南ニ轉ジ上道郡三幡村ニ至リ兒島灣ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ岡山ノ沃野ヲ横斷シ古來灌漑ノ利ト運輸ノ便トニ依リテ流域内文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ

然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ニシテ流域ハ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ丘巒群起セリ而シテ此等山嶽ハ主トシテ古生層ニ屬スル粘板岩及凝灰岩若クハ花崗岩ヨリ成ル後者ハ其性質上風化甚シキヲ以テ之ヨリ構成セラルル山岳ニハ禿裸ノ地多ク土砂流出ノ因ヲ爲シ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク古來屢々水害ニ惱マサレタリ舊藩時代ニ入ルニ及ビ洪水ノ被害ヲ受クル事頻繁タリシヲ以テ貞享三年(二百四十年前光政時代)遂ニ百間川ナル放水路ヲ開鑿スルニ至レリ然レドモ爾來尙洪水ノ害ヲ絕タズシテ屢々市街ノ浸水、堤防ノ決潰、橋梁及家屋ノ流亡、田畑ノ荒廢、人畜ノ死傷等慘害ヲ被ムルノ事實ハ記錄ニ依リ之ヲ窺フニ足ルモノアリ近年幸ニシテ大洪水ニ遭遇セザルモ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ浸水田畑一萬一千百ヘクタールニシテ損失價額四百九十七萬餘圓ニ上レリト云フ

今水害ヲ受クベキ面積ヲ揭グレバ全流域內ニテハ約一萬一千五百ヘクタールニシテ特ニ岡山市ノ發達ニ伴ヒ市街ヲ浸水スルガ如キハ戰慄ニ堪ヘザルモノナルガ改修ニ依リ之ヲ除キ且水害ヲ免レシムル面積ハ約九千百ヘクタールナリ

本計畫ニ於テ改修區域ハ岡山縣御津郡牧石村以下海ニ至ル約十七粁間ニシテ卽チ岡山市附近ノ平野ニ屬スル部分ナリ

而シテ計畫流量ハ旣往ニ於ケル最高水位ヲ基準トシ毎秒五千立方米トシ尙洪水位ハ旣往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザル樣之ヲ定メタリ

上流改修起點ヨリ岡山市上流ニ至ル約七粁間ハ大體現在河幅廣濶ナルヲ以テ局部ヲ除ク外ハ現在堤防ヲ補强スルニ止ム以下岡山城ト後樂園トノ間ニ橫ハル部分ハ河幅狹隘、河積又不充分ニシテ之ヲ擴張ス

ル必要アルモ其餘地ナキヲ以テ新ニ後樂園ノ上流ヨリ其後方ヲ經過スル新川ヲ開鑿シ岡山市内相生橋附近ニテ現河川ニ合セシメ以下河口ニ至ル迄ハ現在河幅概シテ狹小ナルヲ以テ多少之ヲ擴張ス而シテ河口ヨリ上流岡山市内京橋ニ至ル約八粁間ハ低水路ヲ規正シ之ニ浚渫ヲ施シ舟運ノ便ヲ計リ尙堤外地ニハ掘鑿ヲ行ヒ以テ所要ノ河積ヲ與フルモノトス

又必要ナル箇所ニハ護岸若クハ水制ヲ施シ流路ノ擾亂ヲ防ギ河岸ノ崩壞ヲ止メ又ハ堤防ノ安全ヲ計ラントス

堤防ハ馬踏七米五、兩法二割乃至三割、天端高ハ計畫洪水位上一米五トシ尙適當ナル小段ヲ前後ニ附スルモノトス

施工狀況

本年度ニ於テハ工事ニ關シテ施設セルモノナシ

調査作業ニ於テハ原案ニ對スル比較線タル百間川矢津屹及ビ旭川上流等ノ調査測量ヲ終リ後ニ改修區域内上流一部ノ實施横斷測量ヲ施行ス

本年度ニ於テ竣功セシ工費二萬五千九十七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計參萬一千百七十一圓ナリ之ヲ總工費豫算八百萬圓ニ比スレバ約四分ノ竣功トナル其竣功表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		一、五七六円		八、四二八円		一〇、〇〇四円	割分
測量費		一、五八六		八、〇〇九		九、五九五	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	員數	金額	員數	金額	
營繕費	—	円 —	—	円 一、〇九四	—	円 一、〇九四	割分 —
雜費	—	二、八一九	—	七、二六六	—	一〇、〇八五	—
共濟組合給與金	—	九三	—	三〇〇	—	三九三	—
總計	—	六、〇七四	—	二五、〇九七	—	三一、一七一	〇、〇四

第三三　狩野川改修工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費豫算六百三十五萬圓(內靜岡縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ施行スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川靜岡縣田方郡修善寺町ヨリ海ニ至ル約二十六粁、支川黃瀨川筋駿東郡大岡村ヨリ合流點ニ至ル約一粁、合計二十七粁ノ間ナリトス

河狀竝計畫大要

狩野川ハ上流ヲ湯ケ島川ト言ヒ源ヲ天城、猫越兩火山ノ裾合谷ナル靜岡縣田方郡上狩野村湯ケ島ニ發シ下田街道ニ沿フテ北ニ奔流スルコト二十二粁其間猫越川、船原川、修善寺川及大見川ヲ容レ同郡田中村ニ至リテ北方ニ開展セル一大平原ニ出ヅ之ヨリ更ニ北ニ向ツテ蛇行スルコト約十粁、同郡函南村ニ至リテ西北ニ流路ヲ轉ジ箱根山腹ヲ流下スル來光川、大場川、境川ノ諸支川ヲ併セ水量漸ク增加シ駿東郡清水村德倉ニ於テ高臺ノ間ニ入リテ西ニ向ヒ同村字長澤ニ至リテ右支黃瀨川ヲ合シ水量益々增大シ沼津市ニ至ルヤ南ニ急轉シ我入道ニ於テ駿河灣ノ東北隈ニ注グ其流路五十餘粁ナリ

支川黃瀨川ハ源ヲ富士山麓ナル同縣駿東郡玉穗村字中畑ニ起シ富士、愛鷹ノ兩火山ト箱根、大山トノ間ヲ南流シ大澤川ト蘆ノ湖ヨリ發スル深良川ヲ容レテ水量ヲ加ヘ清水村ニ於テ東海道ヲ橫斷シ幹川狩野川ニ注グ其流路約三十二粁ナリ

本川ノ流域ハ静岡縣沼津市、駿東、田方ノ一市二郡ニ跨リ總面積八百五十三平方粁(内山地六百六十二平方粁、平地百九十一平方粁)内支川黄瀬川ノ流域ハ駿東一郡ニシテ總面積二百八十一平方粁(内山地二百二十四平方粁、平地五十七平方粁)ヲ算ス而シテ之ガ流路ハ大、小支川三十有七ヲ合シ四百十六粁、灌漑區域ハ三千四百九十ヘクタール、水害區域ハ三千七百九十ヘクタールナリ

本川ハ元ヨリ大河川ニアラズト雖モ沿川修善寺町以下耕地廣濶、農桑、牧畜ノ業夙ニ開ケ其流末ニハ沼津市ヲ擁シ河口ハ沼津港ニシテ伊豆沿岸交通ノ關門タリ加フルニ兩岸一帶ノ地風光明媚到ル所史料遺蹟ニ富ミ又諸所ニ溫泉地帶ヲ控ヘ所謂東海ノ勝區ニ屬シ交通發達殷賑ヲ極ム然ルニ本川ノ水源地天城連山ハ本邦多雨ノ地域ニシテ上流湯ケ島ニテ年雨量四千粍ニ及ビ夏秋ノ颱風ハ概ネ此附近ヲ通過スルヲ以テ暴風雨屢々起リ嘗テ上狩野ニ於テ日雨量二百八十五粍ニ達シタルコトアリ而カモ一般ノ地質火成岩ナルヲ以テ豪雨至レバ忽チ洪水起リ修善寺、沼津間ノ沃野ハ濁流滿溢シテ慘狀ヲ極ム就中大正九年ノ大出水ノ如キハ損害二百四十萬餘圓ニ達シ死傷者モ亦尠カラザリキ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ採用シタル高水流量及河幅ハ左ノ如シ

河川名	區間	高水流量	河幅
狩野川	修善寺町ヨリ海ニ至ル區間	自 一、七〇〇(毎秒立方米) 至 三、五〇〇	自 一四〇(米) 至 二三五
黄瀬川	大岡村ヨリ合流點ニ至ル區間	八四〇	自 一一〇 至 二〇〇

而シテ右岸ハ大體川ニ沿ヒ新ニ堤防ヲ設ケ左岸ハ所々斷續シテ築堤ヲ施シ大平村地内舊堤ノ一部ヲ補

強ノ上利用スルノ外悉ク新堤ナリ尙同村地先ナル河身ノ大屈曲部ハ捷路ヲ鑿チテ直通セシメ又堰ノ上及德倉ノ狹隘部ハ掘鑿工ヲ施シテ河積ヲ增大シ以テ洪水ヲ快通セシムルト同時ニ高水位ノ低下ヲ圖ル下流沼津市內ノ地域ハ概シテ河幅過小ナルニ依リ之ヲ擴張シテ新ニ堤防ヲ築キ堤外地ノ掘鑿ト低水路ノ浚渫トニ由リ適當ナル水積ヲ與フルト共ニ併セテ舟運ノ利便ヲ圖レリ尙支川黃瀨川ハ其流末右岸ニ堤防ヲ設ケテ耕地ヘノ汎濫ヲ防ギ又各小支川及惡水路ニ對シテハ地勢ニ應ジテ或ハ卷込堤ヲ築キ或ハ樋門ヲ備ヘ其他沿川必要ナル箇所ニハ夫々護岸若クハ制水工ヲ按配シテ亂流及河岸ノ崩壞ヲ制シ河口ニハ突堤ヲ施設シテ海口ノ變動ヲ防グモノトス

堤防ハ馬踏六米、內法二割五分、外法二割、天端高ヲ計畫高水位以上一米五十糎トシ內法ニハ天端ヨリ二米ヲ下リ幅三米ノ小段ヲ附スルヲ標準トス但シ沼津市內ニアリテハ地價ノ關係上潰地ヲ節スル爲メ混凝土堤ヲ築設スルモノトス

施工狀況

昭和二年八月沼津市ニ測量員詰所ヲ設ケ同九月改修假事務所開設、同年十二月同市上香貫字大洞ニ新築セル事務所ヘ移轉セリ

本年ハ創業年度ナルヲ以テ專ラ施工準備ニ關スル各種ノ測量調査ヲ施行セリ特ニ沼津市街地ニ接スル沿岸ヲ精査シ既ニ左岸上香貫地內ニ法線ノ一部ヲ設定セリ其他大仁、上香貫、御成橋ノ三箇所ニハ流量觀測設備ヲ爲シ又量水標ハ新ニ五箇所ヲ增設シ從來ノモノト合シ九箇所ト爲シ外ニ河口附近我入道ニ自記驗潮器ヲ新設セリ

本年度ノ工事竣功額ハ一萬三千六百二十圓ニシテ之ヲ總工費六百三十五萬圓ニ比スレバ僅カニ二厘ニ過ギズ左ニ其竣功表ヲ掲グ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
般舶及機械費		円		六、一九二円		六、一九二円	割分厘
測量費				三、一二九		三、一二九	
營業費				一、一一七		一、一一七	
雜費				三、一〇一		三、一〇一	
共濟組合給與金				八一		八一	
總計				一三、六二〇		一三、六二〇	〇、〇〇二

第三四　大淀川改修工事

緒言

本工事ハ工費六百五十萬圓(內宮崎縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋宮崎縣東諸縣郡倉岡村以下海ニ至ル約十四粁、支川本庄川筋同郡本庄町以下幹川合流點ニ至ル約十二粁及小支川深年川筋同郡本庄町以下本庄川合流點迄約二粁、合計二十八粁餘トス

河狀竝計畫大要

大淀川ハ九州屈指ノ大河ニシテ幹川ハ其源ヲ鹿兒島縣贈唹郡末吉村金御嶽ニ發シ山麓ヲ南東ヨリ北西ニ向ツテ迂回シ宮崎縣北諸縣郡都城盆地ニ出テ都城市ノ西端ヲ北流シ萩原川、沖水川、横市川、安永川、東嶽川、高崎川ノ諸水ヲ容レ盆地ノ北隅ニ於テ轟ノ峽谷ニ入リ岩瀨川ヲ加ヘテ著シク流量ヲ增大シ東轉シテ鰐塚山脈北部ノ峽谷ヲ作リ迂餘屈折シテ東諸縣郡高岡町ニ至リ浦之名川ヲ容レ次第ニ山ヲ離レ東諸縣郡倉岡村ニ於テ本庄川ノ來リ注グニ會ヒ川ハ愈々大トナリ宮崎平野ヲ南東ニ流レ宮崎市ヲ貫キ宮崎郡赤江町ニ於テ日向灘ニ朝スソノ流路約百二十六粁、大小支川七十八ヲ合セテ約八百六十粁ヲ算ス

支川本庄川ハ其源ヲ熊本縣球磨郡黑原山ニ發シ山谿ヲ東南流シテ宮崎縣東諸縣郡綾村ニ至リ綾南川ト合シ水量倍加シテ同郡本庄町地內ノ水田ノ間ヲ亂流シツツ同郡木脇村ニ於テ北ヨリ來レル東諸縣郡掃

部嶽ヲ水源トセル深年川ヲ容レテ大淀川ニ注グ其流路約八十一粁ナリ

大淀川ハ流域面積二千百二十四平方粁九州南部産業界ノ一大動脈ヲ成シ上ハ都城市ヲ中心トセル肥沃ナル都城平野ヲ涵養シ下ハ宮崎市ヲ中心トセル豊穣ナル宮崎平野ヲ灌漑スルノミナラズ此流域内ハ本邦有數ノ森林地帶ニシテ數多ノ良材ハ皆本川ヲ利用シテ搬出セラレ宮崎市及河口赤江ハ其集散地ノ中心ナリ然ルニ本川流域タルヤ本邦ニ於ケル著名ナル降雨地ノ一ニ數ヘラレ宮崎市ノ平均降水年量ハ約二千六百粍、山嶽地方ハ三千粍ヲ示シ而カモ八、九月ノ候ニ於テハ強烈ナル颱風屢々通過シテ之ニ伴フ豪雨甚ダ多ク宮崎市ニ於テハ明治十九年九月二十四日ノ如キ降雨量四百九十粍ニ達シ大正五年九月二十二日ハ實ニ四時間ニテ二百七十七粍ヲ示セリ從ツテ出水量多大ニシテ一箇年内數度ノ大水害ニ苦シムコト稀ナラズ

由來此地方ハ土地廣ク人煙稀薄ナリシカバ敢テ治水ノ業ニ從フモノナク從テ未ダ何等堤塘護岸ノ設ケナク全ク洪水ノ汎濫横溢ニ委スルノミナルヲ以テ一朝出水センカ宮崎、都城ノ兩市街ヲ初メ沿川都邑ハ濁流ニ沒シ耕、宅地ノ荒廢、家屋ノ倒壞、道路、橋梁ノ破壞、流失等甚シク之ニ加フルニ一般産業、交通、衞生上等ノ諸方面ニ被ル損害ヲ計上スル時ハ其額尠ナカラザルモノアリ是本改修ノ計畫ヲ見ルニ至リシ所以ナリ

本改修計畫ニアリテハ幹川ニ於テハ大體倉岡村以下海ニ至ル間左右岸ニ新ニ堤塘ヲ築キ、左支本庄川ハ河身不整ニシテ亂流甚シキガ故ニ河身ヲ整ヘ堤塘ヲ設ケ又小支深年川ハ本庄川トノ合流點ノ位置不適當ニシテ其逆流甚シキヲ以テ合流點ノ位置ヲ變ジテ之ガ緩和ヲ圖ルモノニシテ全川ニ亙リ必要箇所ニハ掘鑿竝ニ浚渫ヲ施シ以テ洪水ノ疏通ヲ圖リ河岸ノ崩壞、流失ノ虞アル箇所ニハ護岸工ヲ施シ支流ニシ

テ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケ尚漂砂ニ因ル河口ノ變動ヲ防止センガ爲メニハ突堤ヲ設クルモノトス

計畫高水流量ハ幹川筋ニ於テ本庄川合流點以上ヲ毎秒三千六百立方米以下ヲ毎秒五千五百立方米トシ支川本庄川ハ小支深年川合流點以上ヲ毎秒二千立方米以下ヲ毎秒二千二百立方米トシ深年川ハ毎秒四百立方米トス

計畫河幅ハ幹川筋三百四十米乃至八百八十米本庄川筋二百十米乃至二百七十六米深年川筋九十五米乃至百三十米トス而シテ堤塘標準斷面ハ馬踏七米表二割裏二割五分トシ計畫高水位下五十糎ノ箇所ニ幅三米五ノ裏小段ヲ設ク堤高ハ計畫高水位上一米五ノ高サヲ保タシムルモノトス

施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニシテ本工事施行ノ爲メ改修事務所ヲ設置セシハ昭和三年一月一日ナルガ是ヨリ先キ昭和二年八月宮崎市所在元宮崎郡役所ノ建物ヲ一部借受ケ之ヲ測量員詰所ニ宛テ實施準備測量ニ著手シ年度末迄ニ本庄川合流點以下海ニ至ル十三粁間ノ法線設定及縱横斷測量ヲ終了セリ

昭和二年十月改修事務所敷地トシテ宮崎市上別府ニ土地三段二畝十六歩ヲ借入レ事務所及倉庫其他附屬物ノ建設ニ著手シ翌三年一月十九日完成セルヲ以テ事務所ヲ此所ニ移セリ

本年度ノ竣功高ハ一萬三千六百四十圓ニシテ總工費六百五十萬圓ニ對シ二厘ノ竣功ナリ其内譯左表ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				三、六九四 円		三、六九四 円	割分厘
測量費				四、五二一		四、五二一	
營繕費				一、三四一		一、三四一	
雜費				四、〇〇三		四、〇〇三	
共濟組合給與金				八一		八一	
總計				一三、六四〇		一三、六四〇	〇・〇〇二

第二章　河川附屬物及水路維持工事

第一　木曾川附屬物及水路維持工事

緒言

木曾川附屬物及水路維持工事ハ明治三十五年度ヨリ毎年工費三萬圓ヲ以テ維持修繕ヲ爲スコトトシ明治四十年度ヨリ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシテ年々工費三萬圓、總工費六十九萬圓ヲ以テ更ニ維持スルコトトナリシガ爾後諸物價暴騰ノ爲メ當初豫算ニテハ維持困難トナリシヲ以テ大正九年度以降年額五萬四千圓、總工費九十三萬圓トナリ更ニ大正十一年度ハ年額九萬六千圓、總工費九十七萬二千圓ニ增額セラレ大正十二年度以降ハ年額九萬六千圓、總工費百七十四萬六千圓トナリ大正十三年度以降年度割額更正ノ爲メ四萬八千圓減額トナリ年額八萬四千圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ昭和十年度迄延長セラレタルヲ更ニ年度割額更正ノ爲メ十四年度ヨリ年額八萬圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ更ニ昭和十一年度迄延長セラレタリ而シテ維持ノ目的物ハ左ノ如シ

一　成戸、船頭平間木曾川、長良川兩川瀨割堤
一　油島締切堤防ヨリ桑名町地先長良、揖斐兩川瀨割堤
一　以上瀨割堤防ニ直接關聯セル護岸及水制
一　船頭平間門及前後附屬物

一　木曾川河口導水土堤及石堤
一　揖斐川河口導水土堤及石堤
一　揖斐川流末低水敷

施工狀況

本年度施行ノ工事中前年度ヨリ繰越シタル楠村地内堤防補修工事及上立田地内水制新設工事ノ二箇所及本年度新ニ著手シタル葛木、大成間水制修繕工事、立田地内新設護岸工事、大成地先水制修繕工事ノ四箇所ヲ竣功セシメ本年度新ニ著手シタル第二楠村堤防補修工事、日原堤防補修工事、上立田及立田間水制修繕工事、上立田護岸水制新設工事、下立田水制修繕工事ノ五箇所ハ未竣功ノ儘次年度ニ繰越セリ

船頭平閘門ノ狀況ハ本年度ニ於ケル通航數ヲ示セバ大船（六十石積以上）四千五百五十四隻、中船（六十石積未滿）一千六百六十四隻、小船（二十石積未滿）四千五百七十三隻、合計一萬七百九十一隻外ニ木、竹筏（一組長サ九米一乃至十二米七、幅一米八乃至四米二）一千七百二十七組通過セリ

本年度維持工事竣功額ハ九萬六千百三十八圓ニシテ起工以來ノ累計百萬五千二百八十三圓トナリ總工費百六十九萬八千圓ニ比スレバ五割九分トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ保管換材料價額ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 水護岸制		二一二、五三九円		五一、一二〇円		二六三、六五九円	
本工事費 堤防		六二、六三六		二、七〇三		六五、三三九	
本工事費 導水堤		一九八、五七二		二三、一九七		二二一、七六九	
本工事費 浚渫		六五、五〇〇				六五、五〇〇	
本工事費 閘門		五五、八四九				五五、八四九	
本工事費 假設工		四九、五六二				四九、五六二	
船舶及機械費		六、一〇六				六、一〇六	
測量費		六三、七七七		二、九九五		六六、七七二	
營繕費		二三、二六六一八		一、〇〇〇		二四、二六六一八	
雜費		一八、一四四		一、一八四		一九、三二八	
共濟組合給與金		一五一、六〇八		一三、四四三		一六五、〇五一	
		一、五八六		四九六		二、〇八二	
總計		九〇九、一四五一八		九六、一三八		一、〇〇五、二八三一八	〇、五九

第二　淀川附屬物維持工事

緒言

淀川改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ竣功ヲ告ゲ堤防其他ノ工事ハ夫々所屬府縣ニ引繼ヲ了セルモ同川筋一部ノ築造物卽チ瀨田川洗堰、毛馬洗堰、毛馬第一閘門、六軒屋閘門、傳法閘門、西島閘門、正蓮寺川締切堰堤ニ對シテハ內務省ニ於テ直接管理ノ任ニ當リ明治四十四年度以降大正十七年度ニ至ル十八箇年度ニ亙リ年額一萬一千圓、總豫算十九萬八千圓ヲ以テ之ガ維持修繕ヲ行フコトトナリシガ大正五年四月工費一萬一千圓ヲ增額スルト共ニ年限一箇年度ヲ延長シ尙大正七年度ニ至リ淀川下流改修工事ニテ竣功シタル毛馬第二閘門、長柄起伏堰、毛馬第一、第二兩閘門前後ノ水路維持ヲモ行フコトトナリタルニ依リ年額ヲ二萬五千圓ニ改定シ豫算總額ヲ三十七萬七千圓トシ翌八年度ニ於テ長柄運河頭部開閉扉ノ維持ヲ加ヘ又大正十年度ニ於テ物價騰貴ノ爲メ年額ヲ四萬圓ニ改メ豫算總額五十一萬二千圓ヲ以テ維持ヲ行フコトトナリシガ大正十一年度ヨリハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル傳法第二閘門及六軒屋洗堰並ニ「サイホン」ヲ更ニ管理スルコトトナリタルト堰桁ノ取換其他ノ修繕ト毛馬閘門前後航路ノ浚渫ヲ爲ス爲メ二萬圓ヲ要スルト大正九年度ニ高梁川ヨリ流用セシ一萬三千五百圓ヲ返還スル爲メ大正十一年度ニ三萬三千五百圓ヲ增額シタリ又大正十二年度ハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル六軒屋第二閘門ヲ追加シタルト閘門及洗堰ノ大修理ヲ要スル爲メ年度割額四萬圓ノ外四萬二千六百圓ヲ增額シ尙十三年度ハ六萬圓十四年度以降昭和十年度迄ハ各七萬六千圓宛ニ最終年度昭和十一年度ハ四萬四千圓ニ改メ豫算總

額百二十八萬八千百圓(昭和元年度以降七十二萬八千圓)トナリ年限モ亦昭和十一年度迄延長セラレタリ而シテ本費ハ元全部國庫費ヲ以テ支辨シ來リシガ大正十二年度以降ハ關係地方ニ其費用ヲ負擔セシメラルルコトトナリ國費六十二萬二千二百圓,地方費六十六萬五千九百圓ノ割合トナレリ

是等附屬物維持ノ目的ヲ達スル爲メ滋賀縣栗太郡下田上村大字黑津ニ瀨田川看守場,大阪市東淀川區北長柄濱通ニ淀川看守場ヲ設置シ各擔當技術者ヲ配置シ專用電話ヲ備ヘテ通信ヲ敏活ナラシメ又各所ニ量水標ヲ設ケテ水位ノ觀測ヲ行ヒ尙降雨ノ際ニハ水源地方ニ於ケル雨量觀測所及森林測候所ヨリ電報ヲ以テ雨量ノ報告ヲ受ケ洪水ニ際シテ起ルベキ水位ヲ豫知シ以テ被害ノ輕減ニ努メ又渴水時ニ際シテモ常ニ灌漑ト航運トニ支障ナキ流量ヲ持續スル樣調節ヲ行ヒツツアリ

正蓮寺川堰堤ハ大阪府ニテ施行セシ中津川改修ノ結果大正十二年九月公用ヲ廢止シタリ

施工狀況

施工ノ主ナルモノハ前述ノ如ク閘門,洗堰,起伏堰其他ノ開閉修繕及航路維持ノ爲メ浚渫ヲ行ヒ本年度ニアリテハ毛馬洗堰上流水制工修繕,西島閘門護岸修繕,長柄起伏堰上流床固,瀨田川洗堰魚梯改築ノ四工事ヲ施行竣功セリ

本年度竣功額七萬四千五百八十八圓ニシテ創業以來ノ累計支出高ハ六十二萬七百三十一圓ニシテ既定豫算百二十八萬八千百圓ニ比較スルトキハ約四割八分ノ竣功トナル而シテ其工事竣功高左表ノ如シ但シ表中「○」ハ無代價品見積價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
閘門及洗堰開閉	—	円 二一四、四八五	—	円 二〇、六五七	—	円 二三五、一四二	割分
同修繕	—	一五二、五〇〇	—	二二、八一〇	—	一七五、三一〇	—
浚渫	—	一、一五九	—	六三四	—	一、七九三	—
船舶及機械費	—	一五、七四六	—	—	—	一五、七四六	—
測量費	—	一〇、八七二	—	六、一七一	—	一七、〇四三	—
營繕費	—	六八、七一一	—	四、八一三	—	七三、五二四	—
雜費	—	一九、五六五 二八	—	五、二三八	—	二四、八三〇 二八	—
共濟組合給與金	—	五九、五四七	—	一三、三五三	—	七二、九〇〇	—
	—	四、七一七	—	一、五四六	—	六、二六三	—
總計	—	円 〇	—	円 〇	—	円 〇	〇・四八
	—	五四六、一四三 一、一八七	—	七四、五八八 六三四	—	六二〇、七三一 一、八二一	

第三　利根、渡良瀬兩川維持工事

緒言

本工事ハ當初大正十二年度ヨリ昭和九年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ工費四百一萬四百圓ヲ以テ利根川筋竝ニ渡良瀬川下流部ニ於ケル維持修補ヲ施行ノ豫定ナリシガ大正十三年度ニ至リ工費二萬三千圓ヲ增額シ施行年限ヲ昭和十一年度迄延長シ更ニ前年度ヨリ利根川ノ派川タル江戸川筋竝ニ渡良瀬川上流部ヲ併セ施行スルコトトシ工費百八十四萬一千四百圓ヲ增額シ總工費ヲ五百八十七萬四千八百圓ニ改メ施行スルコトトナレリ

其區域ハ利根川筋群馬縣佐波郡芝根村以下（左岸茨城縣鹿島郡矢田部村右岸千葉縣海上郡椎柴村）ニ至ル約百八十一粁及其派川江戸川筋流頭以下千葉縣行徳町地先海ニ至ル五十九粁竝ニ渡良瀬川筋栃木縣足利郡毛野村以下茨城縣猿島郡新郷村大字中田地先利根川合流口ニ至ル三十五粁、計二百七十五粁ノ間ナリトス

兩川改修工事ハ大正十一年度迄ニ八、九歩通リ竣成（渡良瀬川改修工事ハ十五年度末竣功）シ水路矯正、堤塘ノ連續等相俟テ河狀整齊シ復タ往年ノ慘害ヲ見ザルニ至レリト雖モ既成部ニ於ケル工作物ハ其竣功古ク堤塘ノ沈下、護岸及水制ノ破損等相當多ク是等ハ年ト共ニ加ハリ其儘放置スルトキハ遂ニハ昔日ノ險惡ナル狀態ニ戻リ所謂九仞ノ功ヲ一簣ニ缺クノ虞ナシトセズ且其利害ノ及ブトコロ數府縣ニ跨リ重大ナル關係アルヲ以テ之ガ維持上常時修補ノ緊切ナルヲ認メ第四十七議會ノ協贊ヲ經前記ノ如ク施行スルコトトナレリ

施工狀況

工事施行ニ關シテハ利根川第二期、同第三期竝ニ渡良瀬川各改修事務所ニ於テ分擔施行スルコトトシ派出所及所要器具、機械ハ各改修用ノ一部ヲ共儘使用シ得ルノ便宜ヲ有シタルヲ以テ大正十二年八月ヨリ工事ヲ施行シ來リシガ昭和元年末ニ於テ江戸川部內（江戸川改修事務所施行）ヲ併セ施工スルコトトナリ且同年度末渡良瀬川改修工事ノ竣功ニ伴ヒ埼玉縣栗橋町ニ利根、渡良瀬兩川維持事務所ヲ設置シ利根川三期部內及渡良瀬川部內ノ維持工事ヲ統轄施行スルコトトセリ

今各工區別ニ本年度施工ノ狀況ヲ述ベン

利根川第二期部內ニ於テハ全區域ニ亙リ兩岸高水敷ノ沈澱土砂ヲ掘鑿シ土量七千二百三十立方米ヲ擧ゲ堤防ノ沈下、崩壞等ノ小修補九箇所ヲ施工シ土量一萬四千七十立方米ヲ竣成シ護岸工事ハ前年度ニ於テ未竣功ノ佐原町向洲地先修補ノ外小修補工四箇所ヲ起工シ年度內石張一千三百八十九平方米、犬走九百四十六平方米、下埋百五十立方米、沈床二百四十平方米、割石粗朶工五百九十八平方米等ノ工程ヲ見延長四百五米ヲ竣成セシメ水制工事ハ小修補八箇所ヲ施工シ下埋二百九十立方米、沈床一千四百七十平方米上層五十平方米、蛇籠上置四百九米、詰石上置三百五十五米等ノ工程ヲ見延長一千十九米ヲ竣成セリ尙横利根閘門裏小門扉上部取付金具一組ノ取換ヲ爲シ同閘門管理費五千二百六十七圓ヲ支出セリ

利根川第三期部內沼ノ上、赤岩間ニ於テハ島、大川、永樂、妻沼ノ各町村地先堤防小修補五千五百三十米ヲ施工シタル外秦村地先ノ堤防修補ヲ前年度ヨリ續工竣功セシメタリ此區間ハ利根川ノ急流部ナルニ因リ護岸水制ニハ最モ力ヲ注ギ旭村山王堂地先舊水制頭部破損箇所ニ鐵筋材方格枠ヲ沈設シ島村大字前河

原地先護岸流失箇所ヲ石張及鐵筋材沈枠ニテ修補シ尾島町大字南前小屋地先堤外崩壞箇所ニ鐵筋材合掌枠及沈枠ノ床固水制ヲ設置セシガ内山王堂地先ヲ除キ其他ハ何レモ竣功セリ又長井村地先ニ於テハ柳籠護岸ノ犬走ヲ修補シ永樂村大字舞木地先ハ堤外地ノ崩壞ヲ防グ爲メ法面ヲ石張トシ床固ニ鐵筋材合掌枠ヲ設置スルコトトシ前者ハ全部後者ハ六分通リ竣功セリ其他仁手、島、世良田、男沼、大川、永樂ノ各村地先ハ何レモ水衝リ强キヲ以テ鐵筋材合掌枠、同杭打上置及鐵線籠ヲ設置シ護岸水制ノ根固ヲ堅固ニセリ

赤岩、境間ニ於テハ右岸大越村地先及左岸新郷村以下境町ニ至ル間ノ堤防ハ零米五乃至一米沈下セシニ依リ嵩置ヲ施工シ北河原、須賀、佐貫、村君、五霞ノ各村地先ニ於テ馬踏ノ沈下ヲ修補セリ又川妻地先堤外地ハ低水法線内ニ著シク突出セルニ依リ掘鑿及浚渫船ニテ除却工事ヲ施行シ年度内四分通リ竣功セシメタリ

護岸ハ須賀、千江田、川俣、大箇野各村地先舊石張ヲ修補シ前年度起工ニ係ル佐貫村地先石張、柳籠工ヲ續行シ尙村君村地先ニ柳枝工ヲ施行シ何レモ竣成セシメタリ水制工事ハ前年度起工ニ係ル江口及稻子ノ兩地先ヲ竣功セシメタル外堤脚保護ノ爲メ新タニ富永、佐貫、梅島、千江田、利島、原道、五霞ノ各村地先ニ鐵筋材合掌枠、同杭打上置及上層ヲ設置シ水路匡正ノ爲メ梅島、千江田、大箇野、大越ノ各村地先舊水制ヲ鐵筋材合掌枠及同杭打上置ニテ修補セリ又五霞村地先ハ掘鑿工事ノ進捗ニ伴ヒ既設水制ノ根纖ヲ施行シ低水路維持ニ關シテハ川邊、香取及五霞各地先ノ既設水制三箇所ヲ鐵筋材杭打上置及沈床ニテ修補セリ

境、取手間ニ於テハ關宿、旭、田中ノ各村地先堤防沈下セシヲ以テ嵩置工事ヲ施行セリ

此區間ハ努メテ低水路ノ維持匡正ヲ圖リ猿島以下森戸、關宿、二川、大野、高野、田中、稻戸井、富勢ノ各町村地先

ニ於テ鐵筋材杭打上置、同合掌枠及杭打上置ニ因ル水制修補ヲ施工シ鬼怒川合流口ニ於ケル杭柵一部流失箇所ヲ前年度ニ續工竣成セシメ福田村大字木野崎地先ニ堤脚保護ノ爲メ合掌枠ヲ沈設セリ而シテ前記修補、水制ノ幹部及頭部ニハ何レモ柳枝ヲ栽植シテ土砂ノ沈澱ヲ圖レリ

江戸川部内ニ於テハ未ダ工事施行ノ運ビニ至ラズ僅ニ材料購入及關宿閘門ノ管理ヲ施工セシニ過ギズ

渡良瀬川部内上流部ハ植野村大字船津川地先ニ於テ低水路ノ一部附換ヲ行ヒ流水ノ疏通ヲ良好ナラシメ築堤ハ前小段增築ヲ急務トシ毛野、吾妻、界、西谷田ノ各村地先ニ之ヲ施工シ梁田、久野、富田ノ各村地先ニ於ケル堤防ノ龜裂及小沈下箇所ノ修補ヲ施工セリ

護岸ハ毛野村大字北猿田地先ニ於テ沈床ヲ修補セシト共ニ鐵線籠ヲ增補シ其下、流久野村大字川耕地及大島村兩地先既設護岸ノ法面ヲ石張ニテ修補シ床固ニ鐵筋材中聖牛又ハ同合掌枠ヲ置クコトトシ石張ハ大半竣功セシメ西谷田村大字西岡及除川地先ニ沈床ヲ補充セリ

其他小修補トシテ毛野村大字川崎及渡瀬村大字下早川田兩地先ハ法石張及上層ヲ修補シ川崎及久野村大字茂木、同上野田、吾妻村大字高橋各地先ハ鐵線籠腐朽セシヲ以テ茂木地先ハ換ユルニ石張ヲ以テシ其他ハ之ヲ新タニセリ又久野村字下野田地先ハ竝杭護岸脚部保護ノ爲メ包柴工ヲ沈設シ毛野村大字岩井地先ハ高水敷ノ軟弱ナル箇所ニ張石ヲ施工セリ

渡良瀬川下流部ニ於テハ生井、部屋、川邊及新郷各村地先堤防小沈下ヲ來セルヲ以テ之ヲ修補シ新郷村大字新久田地先堤防ニ嵩置ヲ施工セリ而シテ藤岡新川低水路敷ハ年々低下シ既設床止流失セルヲ以テ包柴工ヲ沈設シ尙兩岸法石張根固ノ捨石ヲ補充シ又新川落口ノ高水敷洗掘セラレタルニ依リ床固トシテ柳籠ヲ置キ新堀吐口ニハ石張護岸ヲ施工シ内柳籠工ハ年度内竣成セリ

其他游水地沿岸ハ柳枝工及柳栽植ノ手入ヲ爲シ低水路ノ杭柵護岸ヲ修補セリ

石材斫出及砂利採集兩事業ハ當初利根川改修工事ニ使用スル石材及砂利ヲ供給スル目的ヲ以テ國ノ直營トシ前者ハ大正五年度栃木縣下都賀郡小野寺村ニ岩舟工場ヲ設ケ其裏山ヨリ斫出ヲ後者ハ同九年度ヨリ同縣同郡穗積村地先思川筋砂利洲ヨリ採集ヲ開始セシガ同改修工事モ略々完成ニ近ヅキタル結果是等材料ノ需要漸ク減少セルト他方維持工事ニ要スルモノ增加セル關係上本年度ヨリ利根渡良瀨兩川維持工事費ヲ以テ之ヲ繼承操業シ年度內斫出石材九千五百四十立方米採集砂利八百四十立方米ヲ各所要地ヘ配送セリ

利根渡良瀨兩川維持工事本年度竣功高ハ四十五萬八千八十九圓ニシテ創業以來ノ累計ハ百七十六萬六千四百二十二圓トナレリ之ヲ總工費豫算五百八十七萬四千八百圓ニ比較スルトキハ約三割ノ竣功ナリトス工事竣功表左ノ如シ但シ表中「▲」ハ關係町村提供勞力「△」ハ製作品價額「×」ハ直營斫出石材及砂利價額ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 築堤	四五五、二三四 立方米	二一八、一三四円 九、六五〇	一九九、四〇九 立方米	七五、九五〇円 一四、〇八〇	六五四、六四三 立方米	二九四、〇八四円 二三、七三〇	割分
本工事費 浚渫	五九、〇四二	▲	六五、三四四	▲	一二四、三八六	▲	
本工事費 護岸水制	三九、七二二 米	七七四、五五一	一二、五三五 米	一九三、三〇〇 二五、二八五	五二、二五七 米	九六七、八五一 二五、二八五	
特種工事			箇所 一	二八三	箇所 一	二八三	
材料採集費				五五、一三四		五五、一三四	
船舶及機械費		△		△		△	
		四三、三五八 一〇一		一三、〇五三 一四六		五六、四一一 二四七	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量費		一三、一一四円		三、六三〇円		一六、七四四円	四分
營繕費		二〇、一九九		七、七四五		二七、九四四	
雜費		二〇七、八四〇		九六、〇〇三		三〇三、八四三	
共濟組合給與金		八、三二六		五、一四〇		一三、四六六	
總計		▲一、三〇八、三三九、六五〇		▲四五八、〇八一五、七七一		▲一、七六六、四二二二五、四二一	〇・三〇

本表ノ本工事竣功高ヲ細別スレバ左表ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
第二期内部 築堤	四三、九二九立方米	二七、一二八円	一四、〇七〇立方米	一一、七〇五円	五七、九九九立方米	三八、八三三円	
浚渫			七、二三〇	四、八一六	七、二三〇	四、八一六	
護岸水制	四、五六七米	一四、二八七〇	一、四二四米	二五、三五四	五、九九一米	一六、八、二二四	
特種工事			箇所一	二八三	箇所一	二八三	
計				四二、一五八		二一、二、五六	
第三期内部 築堤	三八七、六三二立方米	▲一七六、二二八九、六五〇	一二六、六五〇立方米	▲四五、三六七七、二八二	五一四、二八二立方米	▲二二、一、五九五一六、九三二	
浚渫	四二、二四二	一六、三五一	四三、四一四	一、六三四	八五、六五六	一七、九八五	
護岸水制	三二、五六七米	五六二、九三一	八、一六二米	×一二八、七五七一〇、四九五	四〇、七二九米	×六九一、六八八一〇、四九五	
計		▲七五五、五一〇九、六五〇		▲一七五、七五八七、二八二		▲九三一、二六八一六、九三二	

内部瀬良渡				
護浚築				
計岸				
水				
制渫堤				
二三、六七三 立方米	一四、七七八	五八、六八九 立方米	八二、三六二 立方米	三三、六五六円
▲	▲	▲	▲	▲
一六、八〇〇	六、四六〇	一四、七〇〇	三一、五〇〇	七、八六一、六九一
×	×	×	×	×
二、五八八米	六八、七五〇	二、九四九米	五、五三一米	一〇七、九三九一、四七九〇
	八九、九八八			一四九、四五六八、四八九
		一八、八七八六、七九八		
		一一、四〇一一、六九一		
		三九、一八九一四、七九〇		
		五九、四六八八、四八九		

第四　信濃川維持工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル五箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費八十七萬六千四百圓（一箇年十七萬五千二百八十圓）ヲ以テ新潟縣三島郡大河津村地内ニ於ケル信濃川附屬物卽チ自在堰、固定堰、洗堰、閘門ノ維持及新潟市内通船川合流點以下海ニ至ル水路ノ維持ヲ爲スモノトス

施工狀況

前記附屬物及水路維持ハ昭和二年五月ヨリ本維持費ヲ以テ支辨スルコトトナリシガ六月二十四日突如トシテ自在堰第六號乃至第八號「ピーヤ」ノ陷沒ヲ起シ次デ七月上旬第三號乃至第五號「ピーヤ」亦陷落シ自在堰扉ノ完全ニ操作シ得ルモノ僅ニ第一號及第二號ノ二徑間ヲ剩スノミトナリテ全ク水位調節ノ機能ヲ失ヒ本川全水量ハ分水路ニ放流セラレ一時大河津下流ノ本川及派川中ノ口川沿岸ノ灌漑ト航運トニ支障ヲ及ボスニ至リシヲ以テ之ガ應急工事（信濃川應急工事及同補修工事ハ別ニ記述セリ）ト相俟ツテ自在堰及固定堰ノ補强工事ヲ施行スルト共ニ自在堰下流約六百米ノ位置ニ低水路ヲ横斷シテ床留工事ヲ施行セリ今其施工ノ概要ヲ左ニ記述スベシ

大河津分水附屬物維持

浚渫工事ハ閘門上下流ノ沈澱土砂ヲ浚渫セルモノニシテ吸揚浚渫船及人力鋤簾掻上ヲ併用シ前者ハ七

百二十立方米、後者ハ一千百五十三立方米、合計一千八百七十三立方米ノ浚渫ヲ了セリ

堰堤下流捨石工事ハ堰堤ヲ流下スル激流ノ爲メニ水叩下流ノ地盤ハ常ニ著シク洗掘セラルルヲ以テ絶ヘズ捨石ヲ補充シ之ガ防護ヲ行ヒタルモノニシテ自在堰下流ヘ一千三百十五立方米、固定堰下流ヘ二百四十四立方米、合計一千五百五十九立方米ノ捨石ヲ投入セリ

自在堰上下流補强竝ニ下流床留工事ハ自在堰陷沒ニ伴ヒ河床ノ低下甚シキヲ加ヘタルヲ以テ之ヲ防止スルト共ニ應急工事ト相俟ツテ自在堰殘存部ノ安全ヲ圖ランガ爲メ上流部ニハ透水防止ノ爲メ砂詰三百立方米ヲ施行シ下流水叩補强ノ爲メニハ蛇籠二千六百本、捨石二千百五十七立方米ヲ施行シタリ床留工事ハ自在堰下流約六百米ノ位置ニ於テ低水路ヲ横斷シテ、木工沈床三百九十六平方米ヲ沈設セリ

固定堰修理工事ハ自在堰第五號乃至第八號徑間ノ水位調節機能全ク失ハレタルガ爲メニ洪水時固定堰溢流水增加シ下流ノ水蝕決潰益々激シキヲ加ヘタリシガ故ニ其最モ甚シキ區間延長二百八米ニ亙リ施行セルモノニシテ年度内ニ粗朶沈床一千三十平方米、單床二百十平方米、蛇籠六十七本、杭打四百四十九本、捨石二千三百六十九立方米ヲ竣功セリ

採石工事ハ前述各工事ニ使用スル割石ヲ寺泊町大字野積海岸ヨリ又土丹岩ヲ第三回地辷箇所ヨリ採取シ機關車ニテ運搬配給シタルモノニシテ其採取量割石一萬四千九百七立方米、土丹岩八千二百八十立方米トス

河口維持

浚渫工事ハ吸揚浚渫船大阪丸、浦賀丸ノ二隻竝ニ吸揚浚渫船榛名號一隻ヲ使用セリ大阪丸及浦賀丸ハ主トシテ所々ニ點在セル淺瀨ヲ浚渫シ榛名號ハ西突堤燈臺沖ヨリ上流ニ向ケ航路幅員八十米、水深六米五

ヲ基準トシテ浚渫セシメ十二月末マデニ延長約一千五百米ヲ浚渫シ本年度内ニ於テ合計三十三萬八千二百二十八立方米ヲ浚渫セリ

右ノ結果繫船浮標迄吃水六米七ノ汽船ヲ出入セシメ得タルモ各期間ニ於テ屢々襲來セル激浪ハ東突堤沖合ニ堆積セル土砂ヲ攪亂侵入セシムルト共ニ河口内ノ淺瀨ヲモ攪亂シ河口ヨリ臨港株式會社船渠入口附近ニ至ル延長約六百米ノ部分ヲ埋沒シ水深ヲ五米五ニ低下セシメタリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ二十四萬五千五百八圓ニシテ總工費八十七萬六千四百圓ニ比スレバ二割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
			立方米	円	立方米	円	厘分
本工事費 浚渫	—	—	三四〇、一〇一	五六、七九三	三四〇、一〇一	五六、七九三	〇・〇九
堰堤捨石	—	—	一、七六六	五九、八九九	一、七六六	五九、八九九	—
自在堰並洗堰及閘門運轉	—	—	—	五八四	—	五八四	—
採石	—	—	二三、八七〇	二七、八二四	二三、八七〇	二七、八二四	—
材料運搬	—	—	—	七、八三〇	—	七、八三〇	—
船舶及機械費	—	—	—	三九、二九七	—	三九、二九七	—
測量費	—	—	—	一、二〇二	—	一、二〇二	—
營繕費	—	—	—	一、五八二	—	一、五八二	—
雜費	—	—	—	四八、五二三	—	四八、五二三	—
共濟組合給與金	—	—	—	一、九七四	—	一、九七四	—
總計	—	—	—	二四五、五〇八	—	二四五、五〇八	〇・二八

第三章　砂防工事

第一　淀川流域砂防工事

緒言

本工事ハ淀川流域全體ニ亙リ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年度ヨリ十箇年度繼續事業トシテ毎年工費三萬圓ヲ以テ主ニ淀川流域中木津、瀨田ノ兩支川ニ於テ施行スルコトトナリ其後兩度ニ之ヲ追加延長シテ昭和四年度ニ至ル二十三箇年度ノ繼續事業トシ總工費六十九萬圓ヲ以テ施行ノコトニ改マリ進工中ノ處本年度ヨリ木津川流域分ハ別途計畫トナリシヲ以テ本川ハ元計畫ノ下ニ於テ年額三萬圓ヲ以テ施行ノコトトナレリ

施工狀況

本年度工費ハ既定年額三萬圓ヲ以テ本川流域内下田上、雲井(滋賀縣内)ノ二工場ニテ施行シ其竣功セル兀崩面積ハ新設十五ヘクタール〇四ニシテ之ニ對スル本工事費二萬一千六百七十圓五十一錢(一アール平均十四圓四十錢當リ)修繕工事百十一圓五十八錢、合計二萬一千七百八十二圓九錢ナリ

今明治四十年度以降直接工事ニ支出シタル金額ヲ掲グレバ五十五萬四千二百十三圓ニシテ之ヲ關係府縣ニ區別スレバ左表ノ如シ

工種	滋賀	三重	京都	奈良	合計
新設工事	三〇九、二四〇円	八八、五九九円	七〇、五七八円	四五、二三五円	五一三、六五二円
修繕工事	三七、一八六	二、〇六〇	九五三	三六二	四〇、五六一
總計	三四六、四二六	九〇、六五九	七一、五三一	四五、五九七	五五四、二一三

尚同四十年度ヨリ本年度迄ニ竣功シタル總金額ハ六十三萬六千八百十六圓ニシテ總工費六十九萬圓ニ比シ九割二分ニ當ル其内譯ヲ示セバ左表ノ如シ但シ筋工藁工ニハ手入費ヲ含ミ又苗木植付ニハ補植費ヲ含ム「■」印ハ寄付ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
石積	二、〇五六、一三六米	二七一、五二四円	二〇、五四〇米	九、八三七円	二、〇七六、六七六米	二八一、三六一円	割分
苗	一六〇、一七六	二七、七六七	六、二八五・五	四、九一八	一六六、四六一・五	三二、六八五	
積	二六九、一立方米五一	二九、六四七	二、五〇〇立方米	五二五	二七一、六立方米五一	三〇、一七二	
崖	一四、五六八	一二、八四四	四六九	一、〇四〇	一五、〇三七	一三、八八四	
堰	二、三九二米	四、九五八	五〇米	六六	二、四四二米	五、〇二四	
護	二、二七七平方米	八、二五四			二、二七七平方米	八、二五四	
床	九、六二五米	八、八四六	米		九、六二五米	八、八四六	
石	八四、五三〇	一〇、〇三四	一一、三六〇	二、三二七	九五、八九〇	一二、三六一	
垣	二六〇、〇二一	七、〇〇六			二六〇、〇二一	七、〇〇六	
筋	一五、一二四、六四九本	一一九、〇〇三	一四五、五〇〇本	二、九八三	一五、二七〇、一四九本	一二、九八六	
藁	二八、七七五	一四六			二八、七七五	一四六	
工							
苗木植付							

事費																		
藁伏工	九、〇五九平方	九六三			九、〇五六		
柴石水叩	六九	六五			六九		
堰堤修繕	一、三一七立方米	二、五七八			一、三一七		
積苗修繕	六二、一二二米	八、九二六	二五〇米	八七	六二、三七二		
石積修繕	二、八一七	一、二五二			二、八一七		
崖法切修繕	二四、九五五立方米	九〇六			二四、九五五		
護岸修繕	一九九、九米	五三			一、九九九		
床固修繕	一、〇六一平方米	四七四			一、〇六一		
諸係費		四、〇〇五					
船舶及機械費		三、八二五					
測量費		一、六五三					
營繕費		一、〇九二					
雜費		七九、八一八					
共濟組合給與金		九二〇					
總計		六〇六、四一三 一四六		三〇、四〇三		六三六、八一六 一四六	〇・九二

第二　富士川流域砂防工事

緒言

本工事ハ明治四十四年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十九箇年度繼續事業トシテ毎年度工費七萬五千圓、總工費百四十二萬五千圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後既定工費ヲ百四十萬一千圓ニ改メ同時ニ年割額ヲ變更シ且施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ施行スルコトトナレリ其區域ハ富士川支流笛吹川小支日川筋及釜無川支流御勅使川筋ニ施行スルモノトス

河狀並計畫大要

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺(標高二千五十九米)ニ發シ流域面積百八平方粁、流路延長二十八粁ニシテ勝沼町地先祝橋迄二十一粁ノ間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尚約三十分一ナリトス祝橋以下笛吹川合流點ニ至ル六粁ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅廣ク水面勾配四十分一以下ナルヲ以テ上流ヨリ流下セル土砂石礫ハ此部内ニ堆積シ水流ハ亂流シテ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスル傾向アリ明治四十年八月ニ於ケル大水害ノ際ハ本川流域山地ニ數百箇所ノ崩壞ヲ生ジ多量ノ土砂ヲ流下シ强大ナル土石流ヲ起シ勝沼町地先ニ於テハ重量十噸以上ノ大轉石ヲモ移動シ亂流ハ兩岸ノ高地ヲ崩壞シ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ

由テ先ヅ祝橋上流一粁一下流一粁九、計三粁間ノ兩岸ニ多數ノ水制ヲ施設スルノ外法線内ノ浚渫ヲ行ヒ水路ヲ一定シ河岸ノ崩壞ヲ防止シ尚上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ防止スルモノトス

御勅使川ハ駒ケ嶽ヨリ南ニ連亙スル山脈中辻山(標高二千五百八十五米)、大崖頭山(標高二千百八十六米)等ノ連峯ヲ分水界トシ「トコノヤ」峠附近ヨリ其主流ヲ發シ流域面積八十五平方粁、流路延長十九粁ニシテ釜無川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ

水源ヨリ中巨摩郡源村大字駒場地先迄約十二粁間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尚約三十分一ナリトス之ヨリ以下釜無川合流點ニ至ル七粁ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅急激ニ擴ガリ甚シキハ七百米ニ及ビ上流ヨリ流下スル多量ノ土石ハ此部分ニ堆積シ河床ハ沿岸ノ田畑ニ比シ遙ニ高ク亂流ハ屢々堤防ヲ破壞シ沿川各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘ縣下ニ於ケル難治第一ノ荒廢河川ナリトス

河狀斯ノ如クナルヲ以テ山間部幹、支川ノ適當ナル位置ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下、岸腹ノ決潰ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ明治四十四年度ヨリ著手シ大正五年度迄ハ主トシテ日川筋勝沼町以下ニ施工シ此期間ニ水制七十四箇所、護岸一箇所、堰堤一箇所及低水路浚渫約二十四萬立方米ヲ完成セリ之ガ爲メ水流ハ一定ノ法線内ニ集リ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ石河原ハ豐饒ナル田畑ト化スルニ至リ極メテ良好ナル結果ヲ收ムルヲ得タリ由テ其後ニ於ケル同川ノ工事ハ修補ノ程度ニ止メシガ同九年度ニ至リ曩ニ

施工セル區域ノ上流山間部ニ鶴瀬、駒飼、長垣、横吹、矢方平、水野田ノ各堰堤ヲ起工シ同十四年度迄ニ各其本堰堤ヲ完成スル事ヲ得タリ

御勅使川筋ニ於テハ大正五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源村地内ニ於テ起工シ蘆安、源、御庵澤、桃木、桃木上流、藤尾、沓澤、沓澤上流ノ各堰堤ヲ同十四年度迄ニ竣功セリ

本年度日川筋ニ於テハ駒飼、横吹、長垣、水野田ノ堰堤及鶴瀬水叩保護工事ハ休工シ丸林堰堤及水制根固工事ヲ續工セル外新タニ一ノ畑、山口、初鹿野ノ三堰堤工事ヲ施工シ内水制根固工事ヲ竣成セシメ丸林堰堤ハ年度内一千五百三十六立方米ヲ築立テ累計二千二百三十七立方米ヲ以テ築立ヲ完成セリ一ノ畑及山口ノ兩堰堤ハ支流曲澤ニ築設スルモノニシテ前者ハ高サ六米ニシテ七月一日著手シ三百三十五立方米ヲ築立テ後者ハ高サ十米ニシテ八月一日著手シ七百七十七立方米ヲ築立テ何レモ主要工事ヲ終リシモ未竣功トナレリ初鹿野堰堤ハ中央線鐵道橋ノ上流三百七十四米ノ本川ニ築設スルモノニシテ本副兩堰堤ヨリ成リ準備及掘鑿ニ著手セシニ過ギズ

水制根固工事ハ既設水制左岸第十四號及同第三十五號ノ修補工事ニシテ前者ハ前年度ニ於テ後者ハ年度内何レモ竣功セリ

御勅使川筋ニテハ前年度ヨリ繼續セル蘆安堰堤增設、唐澤護岸、源床固捨石並ニ本年著手ノ藤尾護岸、第二床固捨石工事ヲ施行シ蘆安堰堤增設、唐澤護岸、藤尾護岸ノ三工事ハ何レモ竣功セリ

前記藤尾護岸ハ藤尾堰堤ノ右側山腹ニ施工シ上流ヨリノ滲透水ヲ輕減シ其崩壞ヲ防止セントスルモノニシテ年度内完成シ前年度ヨリ繼續ノ床固捨石工事及本年度起工ノ第二床固捨石工事ハ上流諸工事ノ完成ヲ告ゲタル後源堰堤下流床固ノ低下ヲ緩和センガ爲メ捨石ヲ行フモノニシテ何レモ未竣功ニ終レ

リ

本年度竣功高ハ五萬一千七百十二圓ニシテ創業以來ノ累計百十六萬一千六百六十三圓トナレリ之ヲ總工費豫算百四十萬一千圓ニ比スレバ約八割三分ノ竣功ナリトス工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高			本年度竣功高			合計			竣功歩合
	數量		金額	數量		金額	數量		金額	
本工事 浚渫	二六五・〇四七	立方米	六七・二五八 円				二六五・〇四七	立方米	六七・二五八 円	割分
護岸水制	七六	箇所	二三六・二六五	二	箇所	七・五九一	七八	箇所	二四三・八五六	
堰堤	一一	竣功	六二九・一一三	一〇	竣功	三四・〇〇八	一二〇	竣功	六六三・一二一	
費	六	未竣功			未竣功			未竣功		
用地費			二・一八三			二六一			二・一八三	
船舶及機械費			三七・九三五						三八・一九六	
測量費			八・一〇八			七〇			八・一七八	
營繕費			一一・七〇六			五八二			一二・二八八	
雜費			一一六・〇三三			八・八五八			一二四・八九一	
共濟組合給與金			一・二九一			三四二			一・六三三	
退職手當			五九						五九	
總計			一・一〇九・九五一			五一・七一二			一・一六一・六六三	〇・八三

第三　桂川流域砂防工事

緒言

本流域内京都府南桑田郡ハ明治十一年度ヨリ同船井郡ハ明治十二年度ヨリ明治二十六年度迄國費ヲ以テ砂防工事ヲ施行シ來リシガ事業上都合ニ依リ一時中止シ其後京都府ハ國庫ノ補助ヲ得テ南桑田郡ニ屬スル區域ノ繼續施行ヲ開始シ今尚施工中ニシテ船井郡ニ屬スル工事ハ本省ニ於テ大正五年度ヨリ直轄施行スルコトトナリ總工費六萬圓(國庫四萬圓,京都府負擔貳萬圓)年割額六千圓ヲ以テ十箇年度繼續事業トシテ施行シ來リ大正十四年度ヲ以テ施行年限終了セシモ尚繼續施行ノ必要ヲ認メ豫算三萬六千圓ヲ增額(年額六千圓)シ年限ヲ昭和六年度迄六箇年度延長セラレタリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ箇所ハ桂川小支鼾谷川水源船井郡新庄村大字船枝,同小支谷川水源同郡川邊村大字佐切,同小支千谷川水源,同郡新庄村大字諸畑ニシテ年度內竣功セル兀崩面積三ヘクタール〇八ニシテ之ニ對スル本工事費三千百八十圓九錢(一アール平均約十圓三十二錢當)ナリ大正五年度起工以來本年度迄ニ竣功シタル總額ハ七萬一千五百二十八圓ニシテ總工費九萬六千圓ニ比シ七割四分ノ竣功トナル其內譯ヲ示セバ左表ノ如シ但シ苗木植付ニハ補植費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
積苗	七九、六〇八米	二一、〇六二円	六、五四三米	一、九九一円	八六、一五一米	二三、〇五三円	割分
山腹石積	一〇〇	三七	五六	一九	一五六	五六	
崖法切	二六、〇〇一立方米	二、六二五			二六、〇〇一立方米	二、六二五	
谷止石積	四〇五平方米	一、〇七一			四〇五平方米	一、〇七一	
筋工	一四、〇三四米	一、九八三	三、〇三七米	三八〇	一七、〇七一米	二、三六三	
根固	五二平方米	七四			五二平方米	七四	
粗朶伏	八二三	一三八			八二三	一三八	
苗木植付	七九、〇九二本	一三、〇九七	四二、三〇〇本	七九〇	八三三、三九二本	一三、八八七	
積苗修繕	四三四米	一〇三			四三四米	一〇三	
諸係費		七五八				七五八	
船舶及機械費		一、二四八		一一九		一、三六七	
測量費		一四五		一		一四六	
營繕費		二二二				二二二	
雜費		二三、〇七五		二、一六一		二五、二三六	
共濟組合給與金		三四七		八二		四二九	
總計		六五、九八五		五、五四三		七一、五二八	〇・七四

第四　大谷川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正六年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費三十九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後諸物價騰貴ノ爲メ同八年度以降三回ニ亙リ二十七萬四千五百圓ヲ增額シ總工費ヲ六十六萬四千五百圓ニ改メ施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ竣功セシムルコトトナレリ其區域ハ栃木縣上都賀郡日光町大谷川流域ニシテ起工以來其支流稻荷川筋ニ施工シ來リシガ同元年度ヨリ新タニ支流荒澤筋ニ施工ヲ開始セリ

河狀並計畫大要

稻荷川ハ其源ヲ日光町ノ北部女峰山及赤薙山ニ發シ幾多ノ溪流ヲ合セ神橋ノ下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長八粁五流域面積九平方粁アリ平均水面勾配十分一强ニシテ大谷川合流點附近ニ於テモ尙十三分一ノ急勾配ヲ示セリ流域山地ハ地質極メテ軟弱ナルト地勢急峻ニシテ林相粗ナルニ加ヘ屢々豪雨アルヲ以テ山地ハ歲ト共ニ崩壞ノ度ヲ增シ出水ノ際ハ多量ノ土石ヲ流下シ時ニ土石流ヲ起シテ一個ノ大サ數十立方米ノ大轉石ヲ押流ス事アリ是等ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積スルヲ以テ河床ニハ轉石累々横タハリ流身變動シ亂流ハ兩岸ヲ侵蝕崩壞シ治水上多大ノ障害ヲ來タシ本邦稀ニ見ル荒廢河川ナリ依テ中流部ニ十數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下ヲ防止シ尙

合流點附近ニ數箇所ノ床固付水制ヲ設ケ流身ノ矯正ヲ圖ラントス

荒澤ハ源ヲ小眞名子山(標高二千二米)ニ發シ女峰山、男體山等ヨリ發スル數多ノ溪流ヲ合セ大谷川ニ合流ス流路延長十一粁、流域面積二十四平方粁アリ水面勾配ハ稻荷川ニ比シ緩ニシテ大谷川合流點附近ニ於テハ二十五分一ナリ而シテ本川地質ハ稻荷川ノ如ク不良ナラズ裏見瀧(川口ヨリ二千七百米)以上ニハ瀑布多ク川床ハ殆ンド岩盤ヲ露出シ侵蝕作用甚シカラズト雖モ男體山ヨリ發スル溪流ハ其厚キ火山灰層ノ山腹ヲ侵蝕スルヲ以テ土石ノ流下ハ激甚ナリトス依テ適當ノ地點ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ於テ支川稻荷川筋ニ起工シ以來前年度迄ニ堰堤十五箇所(內未竣功一箇所)、床固四箇所(內未竣功一箇所)ヲ施工シ本年度ニ於テハ日向堰堤竝ニ第四床固ヲ前年度ニ續工シ前者ハ五分通リ後者ハ四分通リヲ竣成セリ

斯クテ荒廢稀ナル本川モ昭和元年度迄ノ施工ニ依リ河狀大ニ革マリ水害ハ殆ンド其跡ヲ絕ツニ至リシヲ以テ同年度ヨリ新タニ第二ノ荒廢河川タル荒澤筋ニ大久保堰堤ヲ起工シ本年度之ヲ續工シテ二千百二十六立方米ヲ築立テ八分通リヲ竣功セシメ尙其上流九百九十米ノ位置ニ高サ十米、長サ四十米、築立立積一千七十三立方米ヨリ成ル丹勢山堰堤ヲ起工セシモ未竣功ニ終レリ

本年度竣功高ハ四萬五千七百二十三圓ニシテ創業以來ノ累計ハ四十七萬四千七百八十一圓トナリ之ヲ總工費豫算六十六萬四千五百圓ニ比スレバ七割一分ノ竣功トナレリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 堰堤	竣功 一箇所 未竣功 二四	円 二九九・九四四	未竣功 三箇所	円 三二・二二三	竣功 一箇所 未竣功 三四	円 三三二・一六七	割分
本工事費 床固	竣功 三 未竣功 一	四三・八五一	未竣功 一	六・〇六四	竣功 三 未竣功 一	四九・九一五	
船舶及機械費		二四・二三一		九五〇		二五・一八一	
測量費		二・八二九		一四七		二・九七六	
營繕費		九・一七八				九・一七八	
雜費		四七・九九三		六・一〇四		五四・〇九七	
共濟組合給與金		一・〇三二		二三五		一・二六七	
總計		四二九・〇五八		四五・七二三		四七四・七八一	〇・七一

第五　千曲川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ五箇年度繼續事業トシテ工費豫算三十一萬四千百圓ニテ長野縣下千曲川及左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施スモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ工程ヲ擧ゲ得タリシニ因リ追加工事ヲ企テ工費三萬四千五百圓ヲ增額シ工費豫算三十四萬八千六百圓(內長野縣負擔額十一萬六千二百圓)ヲ以テ同十一年度ニ結了セシモ尙引續キ砂防施行ヲ要スル箇所多キヲ認メ工費四十萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ昭和六年度迄九箇年度繼續事業トシテ續行スルコトトナレリ因ニ創業以來ノ豫算總額ハ七十五萬六千六百圓(內長野縣負擔額二十五萬二千二百圓)ナリ

施工狀況

千曲川右支橫湯川筋ニ於テハ前年度ヨリ引續キ石堰堤、筋工、積苗工、張石工等ノ五工事ト新ニ著手ノ石堰堤、山腹石積工復築工事ヲ實施シ年度內ニ於テ石堰堤二箇所ヲ竣功シ其他八分通リ竣功セシメタリ

犀川筋ニアリテハ木澤ニ新ニ堰堤三箇所、堰堤增補一箇所、堰堤床止一箇所、堰堤復築一箇所ノ六工事ヲ實施シ年度內ニ堰堤復築工事ノミ未竣功ニテ其他ハ全部竣功シ八代澤ニハ新ニ著手ノ堰堤補修工事一箇所ヲ實施シ是亦年度內ニ竣功セリ

岡田川、女烏羽川及薄川ハ專ラ山地ノ動靜ヲ監視スルニ止メ工事ヲ施セルモノナク本年度全流域ニ於ケル竣功額ハ五萬一千四百七十五圓ニシテ創業以來ノ累計ハ五拾七萬九千二百十六圓ナリ之ヲ總工費豫算額七十五萬六千六百圓ニ比スレバ七割七分ノ竣功ニシテ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數重	金額	
本工事							
横湯川		一七〇・四八九 円		二四・〇三七 円		一九四・五二六 円	〇・六五 割分
木澤		五五・四七五		一一・八二六		六七・三〇一	〇・八五
八代澤		二六・五九〇		九〇五		二七・四九五	〇・六五
岡田川		九・〇一八				九・〇一八	〇・九五
女烏羽川		九〇・三九八				九〇・三九八	〇・九〇
薄川		八九・七三八				八九・七三八	一・〇〇
材料運搬費		三・八八三		三・九八〇		七・八六三	
用地費		四六		四六		九二	
船舶及機械費		一〇・四二三		一・一二二		一一・五四五	
測量費		三八八				三八八	
營繕費		三・九四〇		一八五		四・一二五	
雜費		六四・五二一		九・〇二八		七三・五四九	
臨時手當		一・七六三				八・七六三	
退職手當		四七				四七	
共濟組合給與金		一・〇二二		三四六		一・三六八	
總計		五二・七四一		五一・四七五		五七九・二一六	〇・七七

第六　神通川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニ係リ九箇年度繼續事業、工費二十萬九千三十八圓ヲ以テ神通川上流岐阜縣下宮川及高原川流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施行スルモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ擧ゲ得タリシニ依リ追加工事ヲ企テ工費一萬八千九百圓ノ增額ヲ爲シ總工費豫算二十二萬七千九百三十八圓(內岐阜、富山兩縣負擔額七萬五千九百八十圓)ヲ以テ昭和二年度迄ニ竣功セシムル豫定ナリシモ尙追加工事ヲ要スルモノアルニヨリ工費六萬圓ヲ增額シ工期三年延長ノ豫定ナリ

施工狀況

前年度ヨリ繼續ノ六郎谷上流本谷筋ニ於ケル谷止石積工事ハ本年度初メニ終リタルヲ以テ專ラ山腹ノ整理ニ努メタリ卽チ山腹ノ荒廢シテ急峻ナル箇所ニハ石積工ヲ施シテ崩壞ヲ止メ凹凸アル箇所ハ切均シテ傾斜ヲ整ヘ之ニ芝萱筋植、土羽積立、積芝等ノ諸工事ヲ施シ更ニ苗木ヲ植付ケ山腹ノ整正、草木ノ生育ヲ期セリ

本年度ハ天候概ネ順調ナリシヲ以テ功程モ進ミ相當ノ成績ヲ收メタリ

本年度內ノ施行工事ハ谷止石積工七個ノ外山腹石積工一千二百五十四平方米、積芝工一千七百米、芝萱筋

植工二萬一千三百三十三米、木苗植付工二萬一千三百三十三米ニシテ其施行額一萬六千二百七十六圓之ニ施工中ノ諸費ヲ加ヘテ一萬九千七百九十四圓ナリトス而シテ起工以來ノ工費累計ハ二十一萬六千七百六十四圓ニシテ之ヲ總工費二十二萬七千九百三十八圓ニ比スレバ九割五分ノ竣功ナリ尚將來增額スベキ工費六萬圓ヲ合算シタル二十八萬七千九百三十八圓ニ比スルトキハ七割六分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費		一六四、二一六円		一六、二七六円		一八〇、四九二円	割分
船舶及機械費		四、三〇八		一二五		四、四三三	
測量費		九		二		一一	
營繕費		二〇				二〇	
雜費		二七、八五三		三、二八三		三一、一三六	
臨時手當		二〇七				二〇七	
共濟組合給與金		三五七		一〇八		四六五	
總計		一九六、九七〇		一九、七九四		二一六、七六四	〇・七六

第七　常願寺川流域砂防工事

緒言

常願寺川ハ富山縣屈指ノ大河ニシテ水利ノ恩惠ヲ受クルコト甚大ナリ然ルニ安政五年二月二十六日越前、越中兩國ノ大地震ニ依リ本川水源地上新川郡立山溫泉附近ナル大鳶山、小鳶山崩裂シテ常願寺川上流ノ湯川、眞川ノ溪流ヲ壅ギシガ三月十日ニ至リ決潰シ家屋百二十餘軒流失ス震後二箇月ヲ經テ四月二十六日再ビ泥川ノ決潰アリ百三十五箇村ヲ通ジテ溺死者百四十人、流失浸泥家屋一千四百五十八軒ニ及ベリ爾來河狀一變シ逐年砂礫ノ流出夥シク下流沿岸ノ被害亦甚シキニ依リ同縣ニテハ國庫ノ補助ヲ仰ギ工費百十三萬一千餘圓ヲ投ジ明治三十九年度ヨリ大正十一年度迄繼續事業トシ鋭意砂防工事ニ努メ殆ンド完成ノ域ニ達セシニ偶々大正十一年七月ノ豪雨ニ際會スルヤ十七箇年度間ニ施行セシ前記工事ハ根柢ヨリ破壞セラレ益々工事ノ至難トナリシニ依リ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度間繼續事業トシ總工費二百七十三萬六千圓(內富山縣負擔金九十一萬二千圓)ヲ以テ直接施行スルコトトナレリ

河狀並計畫大要

常願寺川ハ源ヲ富山縣藥師ヶ嶽標高二九二六米)及立山(標高二九九二米)ニ發シ上瀧町附近ニ至リ平野ニ出デ上新川、中新川兩郡界ヲ貫流シテ日本海ニ注グ其流路延長五十六粁餘、平坦部ヲ流ルルコト十九粁餘

ニ過ギザルモ此間灌漑ノ利潤夥シク灌田面積一萬二千四百ヘクタールニ及ブ而シテ本川ノ平坦部ハ往古河幅漸ク二百米内外ニシテ堤防ハ僅カニ點在スルニ止マリ流身深ク自然ノ護岸ニ依リテ容易ニ沿岸ヲ保護シ得タリ然ルニ安政年間ニ於ケル大地震ニ因リ河狀著シク變化シ逐年砂礫ヲ押流シ下流川幅廣キ箇所ニ堆積シテ流身ノ變動ヲ招キ亂流ハ沿岸ヲ缺損シ治水上種々ノ障害ヲ惹起シツツアリ故ニ本川ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施行センニハ極メテ多額ノ工費ヲ要スルニヨリ差當リ本川上流部ニ於テ堰堤ヲ設ケ川床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止スルモノトス

而シテ其計畫ハ湯川本流中唯一ノ岩盤露出セル箇所ニ一大堰堤ヲ施行シ以テ兩岸山腹ノ崩壞ヲ防止スルト共ニ多量ノ土石ヲ堆積セシメ河床ノ一定勾配形成ヲ待チ其上流ニ順次十數個ノ堰堤ヲ設置シ白岩ヨリ立山溫泉下流部ニ至ル湯川本流筋ノ崩壞ヲ治メ又最モ荒廢セル出シ原ニ對シテハ同溪流ト湯川本流ノ合流點ニ設クル堰堤ヲ基礎トシテ是亦數箇所ノ堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施工狀況

本工事ハ大正十五年五月ヨリ諸般ノ準備ヲ整ヘ同年六月十八日立山溫泉場ニ砂防事務所ヲ設置シ直チニ施工地ノ測量ニ著手スルト共ニ富山縣中新川郡立山村藤橋ヨリ同村水谷平ニ至ル約十一粁ノ區間ニ工事材料運搬道路工事ニ著手セリ

運搬道路路線ハ主トシテ從前富山縣ニテ施設セル道路ニ依リ之ヲ路面幅二米ニ修築スルモノニシテ本年度ハ前年度ニ引續キ施行シ尙材料運搬配給ノ圓滑ヲ期スベク瓦斯倫機關車ヲ運轉セシムルコトニ計畫ヲ變更シ前年度施行道路路面ヲ勾配二十分一、曲線最小半徑五米ニ修築シ沿線ニハ蛇行線延長約四粁

ヲ築設シ隧道ノ開鑿及隧道一部ノ附換各支溪ニ於ケル架橋竝ニ擴張等ヲ爲シタリ本施工地ハ標高四百五十米乃至千米ノ高地ニシテ而カモ冬期積雪多量ニシテ融雪期ニハ雪崩ノ害アリ一箇年ヲ通ジ作業ノ期間極メテ僅少ニシテ工事進捗上不便尠カラザルモノアリ本年度モ漸ク五月二日ニ至リ工事ニ著手シ夏季頻々タル降雨出水ノ爲メ工事ノ進捗ヲ著シク阻害セラレシモ鬼ケ城隧道(長サ三百七十九米)妙壽隧道(長サ三百四米)ヲ貫通シ妙壽竝ニ七郎谷等極メテ困難ナル蛇行線ノ竣功ヲ見シ外路線ノ大部分ヲ竣功セルモ十一月ニ至リ水谷、鬼ケ城等ノ施行箇所ハ降雪ノ爲メ施行不可能トナリ十一月二十六日本年度ノ工事ヲ打切リテ下山シ富山市内ノ假事務所ニ於テ執務スルコトトセリ而シテ本年度竣功セルモノ工費十九萬七百三十二圓ニシテ前年度ヨリノ累計三十二萬七千百四圓ナリ之ヲ總工費二百七十三萬六千圓ニ比スレバ一割三分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
		円		円		円	厘分
用地費	—	八	—	一〇	—	一八	—
船舶及機械費	—	四四、三二〇	—	二六、〇八一	—	七〇、四〇一	—
測量費	—	一、四七〇	—	二、一五〇	—	三、六二〇	—
營繕費	—	三、〇二六	—	一四、七五七	—	一七、七八三	—
雜費	—	八七、三六九	—	一四七、三一三	—	二三四、六八二	—
共濟組合給與金	—	一七九	—	四二一	—	六〇〇	—
總計	—	一三六、三七二	—	一九〇、七三二	—	三二七、一〇四	〇・一三

第八　木津川流域砂防工事

緒言

本流域内ノ砂防工事ハ淀川流域全體ノ砂防工事トシテ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年度ニ於テ同年度以降二十三箇年度ノ繼續事業ト改マリ年額三萬圓總工費六十九萬圓ノ内ヲ以テ瀬田川流域ト合同施行中ノ處更ニ昭和二年度ヨリ本流域ニ對シ增額ノコトトナリ同年以降十三箇年度間ノ繼續トナシ總工費四十四萬七千三百圓ヲ以テ本川單獨ニ施行ノコトトナレリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ箇所ハ前年來ヨリ引續キ施行セル箇所ニシテ木津川上流小支河合川水源三重縣阿山郡玉瀧村(伊賀砂防工場)及木津川小支名張川水源山地奈良縣山邊郡豐原村(豐原砂防工場)ノ二工場ニテ施行シ其竣功セル兀崩面積ハ新設約十七ヘクタールニシテ之ニ對スル本工事費二萬二千四百八十八圓(一アール當平均約十三圓三十六錢)ナリ本年度竣功額二萬六千九百四十二圓ニシテ總工費四十四萬七千三百圓ニ比シ〇割六分ノ竣功ニ當ル其竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 積苗			五五、九四四米	一二、五〇一円	五五、九四四米	一二、五〇一円	割分
山腹石積			九四	六一	九四	六一	
苗木植付			二三、八八〇本	二、九五六	二三、八八〇本	二、九五六	
筋工			一九、九〇〇米	三、五二八	一九、九〇〇米	三、五二八	
崖法切			五、七一六立方米	一、〇〇六	五、七一六立方米	一、〇〇六	
粗朶伏工			一二、〇〇〇平方米	二、四三六	一二、〇〇〇平方米	二、四三六	
船舶及機械費				五二二		五二二	
測量費				八二		八二	
營繕費				九七		九七	
雜費				三、六〇三		三、六〇三	
共濟組合給與金				一五〇		一五〇	
總計				二六、九四二		二六、九四二	〇・〇六

第九　揖斐川流域砂防工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ工事費百二十五萬圓ヲ以テ揖斐川支流根尾川ニ施行スルモノトス

河狀並計畫大要

根尾川ハ源ヲ岐阜、福井兩縣ノ境溫見峠ニ發シ山間、溪谷ヲ縫流シ熊郷、河内東等ノ溪流ヲ集メ流ルルコト約四十六粁餘ニシテ山間部ヲ放レ藪川トナリ揖斐川ニ注グ勾配甚ダ急ニシテ河床概ネ崩壞セル土石ノ沈澱セルモノヨリ成リ河幅狹キ箇所ハ兩岸岩盤ヲ露出シ深谷ヲ成ス所尠カラズ其流域面積約三百八十平方粁ナリトス

根尾川流域ハ明治二十四年濃尾大地震ノ震源地ニシテ既ニ三十餘年ヲ經過スト雖モ震災ニ起因セル禿崩未ダ其儘ニ放棄セラレ其範圍亦甚ダ廣シ從ツテ土砂ノ流出極メテ多ク下流藪川ノ河床ヲ高カラシメ堤防ニ危害ヲ及ボスノミナラズ河床隆起ノ爲メ滲透水夥シク沿岸耕地ヲシテ徒ラニ水濕過度ノ惡田ト化セシメツツアリ延テハ其害ヲ揖斐川ニモ及ボシ木曾川上下流改修工事ノ效果ヲ空フスルノ虞レアルヲ以テ之ガ施工ハ一日モ忽ニスベカラザルモ其工費巨額ニシテ國費多端ノ折柄全部ノ施工ハ到底望ムベカラザルヲ以テ先ヅ砂害最モ大ナル熊郷谷、宮井谷、初鹿谷ノ三箇所ニ施工スルコトトセリ該三溪流ハ

何レモ河床概ネ崩壞セル土石ヨリ成リ兩岸岩盤露出シ堰堤築設ニ好適ナル場所ヲ有スルヲ以テ適當ナル所ニ堰堤數十箇所築設シ土石ノ流下ヲ阻止シ岸腹ノ崩壞ヲ防ギ又二千餘米ノ護岸工事及數十ヘクタールノ山腹工事ヲ施シ以テ土石ノ崩落、河岸ノ侵蝕ヲ防禦セントス

施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニシテ昭和二年五月九日岐阜縣本巢郡根尾村大字樽見ニ工場ヲ設置シ直チニ諸般ノ準備竝ニ諸機械材料ノ購入ニ著手スルト共ニ能郷、初鹿、宮井ノ各谷ニ順次工事ヲ起セリ左ニ其概況ヲ述ベン

能郷谷禮野堰堤工事ハ能郷谷川口ヨリ二千四百四十八米ノ箇所ニ築設スルモノニシテ高九米、長八十三米、築立立積三千四十立方米ニシテ昭和二年六月著工セリ次デ八月初鹿谷川口ヨリ六百六十二米ノ箇所ニ火洞堰堤工事ヲ起セリ該工事ハ高十二米、長四十九米、築立立積二千八十立方米ナリ又宮井谷ニ於テハ川口ヨリ一千米ノ箇所ニ高畑石堰堤工事及同工事施工箇所ヨリ約四百五十米上流左支西ケ谷ニ石堰堤工事ヲ起工セリ前者ハ高三米、長十四米、後者ハ高十四米、長三十八米ナリ高畑山腹工事ハ宮井谷左岸前記高畑石堰堤工事ノ附近ニ施工スルモノニシテ面積五千二百平方米ニテ十月其工ヲ起セリ

以上各工事中高畑石堰堤工事ノミ年度内ニ竣功シ他ハ全部未竣功ノ儘次年度ヘ繰越シタリ

本年度内揖斐川流域砂防工事竣功高ハ六萬二千二百九十五圓ニシテ之ヲ總工費百二十五萬圓ニ比スレバ約五分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 堰堤	—	—	竣功 三一箇所 未竣功	三六、一五七円	竣功 三一箇所 未竣功	三六、一五七円	〇・〇四割分
本工事費 山腹	—	—	五アール	三、九五七	五アール	三、九五七	〇・〇二
船舶及機械費	—	—	—	七・四五五	—	七・四五五	—
測量費	—	—	—	二六七	—	二六七	—
營繕費	—	—	—	六・三八一	—	六・三八一	—
雜費	—	—	—	七・八四七	—	七・八四七	—
共濟組合給與金	—	—	—	二三二	—	二三二	—
總計	—	—	—	六二、二九五	—	六二、二九五	〇・〇五

第一〇　手取川流域砂防工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ十三箇年度繼續事業トシ總工費百九十一萬一千圓(內石川縣負擔六十三萬七千圓)ヲ以テ石川縣能美郡白峰村字柳谷、甚之助谷及龍ケ馬場溪ニ施行スルモノナリ而シテ本工事ハ既ニ明治四十四年石川縣ニ於テ其ノ調査ヲ爲シ砂防工事施行ノ必要ヲ認メ大正元年度ヨリ大崩壞地域タル柳谷上流及甚之助谷ニ於テ練積堰堤、山腹工事等ヲ施行シ昭和元年度ニ及ビタルモノニシテ其工費七十萬六千餘圓ヲ費シタリ

河狀並計畫大要

白山ハ加賀、飛驒ノ兩國ニ跨リ頂上ハ御前、劍、大汝ノ三峰ニ岐ル就中御前岳ハ最高峰ニシテ國幣中社白山比咩神社奧宮ヲ祀ル標高二千七百二米地質ハ侏羅層中ノ中世紀層ヲ主トスル所謂手取層ト稱スルモノニシテ半鹹半淡水中ニ沈成シ礫岩、粘盤岩、頁岩等ノ累層ヨリ成レリ而シテ上記三峰ハ卽チ外輪山ニシテ環狀ヲナシテ相連リ內側ニ向テ急傾斜ヲ爲シ中ニ盃狀ヲナセル噴火口ノ跡アリ御前岳ト大汝トノ間ニハ小噴火口又ハ硫氣洞ノ跡ト認メラルルモノ尠カラズ有史以來白山噴火屢々ニシテ就中延應元年、天文二十三年ニ起リタルモノ等ハ最モ著明ナリ

御前岳ノ裳ニ展開セル彌陀ケ原ハ高山植物ノ繁生ヲ以テ名アリ而シテ此高原ノ東側ニ發スル溪流ハ萬

歳谷ト稱シ不動瀧ノ水源ヲ爲ス甚之助谷ハ其兩側ニ發シ左支龍ケ馬場溪ヲ合シ大崩壞地域ヲ通過シテ不動瀧ノ水ト合ス此合流點以下ヲ柳谷ト稱ス崩壞地域ハ甚之助谷、龍ケ馬場溪及柳谷ニ亙リ延長約四粁、崩壞面積約六十六萬平方米餘、標高一千三百米乃至二千米ノ間ニ位置ス地勢極メテ嶮峻ニシテ其溪流勾配ハ龍ケ馬場溪及甚之助谷ハ共ニ約二分一、柳谷ハ約五分一トス

而シテ是等諸溪ノ大崩壞ノ素因ハ主トシテ白山噴火ノ餘響ニ依リ硫氣作用ヲ感受シタルモノニシテ其作用ハ深ク內部ニ及ビ以テ風化水蝕ヲ容易タラシムルモノナリ林相ハ概シテ良好ニシテ柳谷、別當谷合流點附近(標高一千三百米)ハぶな樹ノ密林ニシテ白樺ヲ交ヘ甚之助谷及龍ケ馬場溪方面(同一千六百米乃至二千米)ニ至リテハ白樺、みやまはんの木ニとど松ヲ交ヘ熊笹密生ス

斯ル狀態タルヲ以テ昭和二年度ヨリ直轄施工スル所トナリシガ之ガ計畫ヲ樹ツルニ當リテハ先ヅ白山砂防工事將來ノ大計ヲ策セザルベカラズ按ズルニ白山砂防地崩壞ノ激甚ナルト溪流勾配ノ急ナルトハ既ニ前述セル如ク到底姑息ノ工法ニ據ル能ハザル瞭ニシテ專ラ練積堰堤工事ニ依リ溪流勾配ノ緩和ヲ圖リ以テ山脚ノ侵蝕、崩壞ヲ防止スルノ外途ナク縣ニ於テ施設セル柳谷、甚之助谷ノ各堰堤上流部ニ是等現存堰堤ヲ基礎トシタル階段堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施工狀況

本年度ハ準備ノ爲メ昭和二年六月起工箇所ノ實測ヲ開始ス而シテ現場ハ全然無人ノ深山中ナルヲ以テ先ヅ掛員詰所及人夫收容小屋等ノ建設ヲ爲サザルベカラザルニ依リ從前石川縣ニ於テ使用セル諸建物(同縣ヨリノ寄附)ノ修繕增築等ヲ爲シ一面工事用材料運搬ハ車道終點地タル白峰村小字一之瀨ヨリハ人

背ニ據ルノ外途無キヲ以テ砂防工場倉庫迄約五粁ノ間山道ノ修繕ヲモ併セテ施行セリ是等諸般ノ準備モ略々整ヒタルヲ以テ八月一日ヨリ柳谷第七號堰堤築造工事ニ著手次デ甚之助谷第七號堰堤築造工事ニ著手セシモ十月下旬ニ及ビ寒氣早來下山ノ已ムナキニ至レルガ故ニ未竣功ニシテ本年度ヲ越シタリ本年度ニ於ケル竣功額ハ三萬五千四百五十六圓ニシテ之ヲ總工費百九十一萬一千圓ニ比スレバ二分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費				一九、六七一円		一九、六七一円	類分
船舶及機械費				二、五二二		二、五二二	
測量費				一、二六五		一、二六五	
營繕費				一、七六七		一、七六七	
雜費				一〇、〇七三		一〇、〇七三	
共濟組合給與金				一五八		一五八	
總計				三五、四五六		三五、四五六	〇・〇二

第四章　港灣改良工事

第一　關門海峽改良工事

緒言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ當初一千二百萬圓ノ工費ヲ以テ明治四十三年度ニ起工シ十箇年度間ニ竣功セシムル豫定ナリシモ財政ノ都合ニ依リ繼續費トセズ同年度以降大正四年度ニ至ル迄ハ年々所要豫算額ヲ要求シ工事ヲ施行シ來リ其額合計三百七十四萬圓ニ達セシガ大正五年度ニ至リ四百三十六萬圓ノ豫算ヲ以テ同年度以降十二年度ニ至ル八箇年度ノ繼續事業ト定メ次デ大正八年度ニ於テ海底電線移設費及同年度以降十一年度迄ニ於テ物價騰貴ニ因ル不足額ヲ追加シ合計一千三十六萬圓ト爲シ大正十二年度ニ至リ更ニ豫算總額ヲ一千三百七十六萬圓ニ增加シ工期ヲ大正十五年度迄延長シ超エテ大正十四年度ニ至リ事業繰延ノ爲メ更ニ工期ヲ二箇年度延長シ竣功期限ヲ昭和三年度トシ昭和二年度ニ於テ水深維持ノ爲メ工費二十八萬六千圓ヲ追加シ豫算總額一千四百四萬六千圓トナレリ

港狀竝計畫大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナレドモ幅員狹隘不規則ニシテ且潮流强ク而モ岩礁諸所ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリ加之輓近通航船舶ノ增加及船型ノ增大ハ益々

其困難ノ度ヲ高メ且一面關門兩港ニ於ケル泊地モ亦狹隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙內外貿易ノ發展ニ伴ヒ益々之ガ改良ノ急ヲ促スニ至レリ本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ樹テ之ガ改善ヲ圖ラムニハ海峽內ノ航路ヲ水深十一米以上ニ浚渫シ其幅員ヲ少クトモ三鏈乃至五鏈トシ關門兩港內モ夫々九米及十一米ノ水深ヲ保タシメ又岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完フスル要アルベキモ其工費ハ頗ル多額ニ上ルベク且一擧是等ノ工事ヲ遂行スルノ必要ナカルベキニヨリ先以テ第一期工事トシテ本工事ヲ起シ他ハ漸ヲ追テ施行スルコトトセリ

本工事ハ周防灘ヨリ六連島ニ通ズル航路ノ改良及海峽內泊地ノ擴張ヲ施行セントスルモノニシテ航路ノ改良ニアリテハ海峽東口部埼沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル十一浬間ヲ幅員二鏈半乃至五鏈半平均四鏈ニ規定シ水深十米ヲ保タシムル爲メ浚渫及除礁工事ヲ施行シ又周防灘ヨリ部埼沖ニ至ル通路約二浬間ハ幅員三鏈水深九米ニ浚渫セントス又泊地ニ關シテハ門司前面ニ於テ水深十米以上ノ水面積百三十二萬平方米ヲ得下關側ニアリテハ停車場前面ニ於テ若干ノ浚渫ヲ施シ三十三萬平方米ノ水面ヲ得ンガ爲メ浚渫工事ヲ施行スルモノトス

施工狀況

本工事ハ起工以來十八箇年度ノ星霜ヲ經テ工事ノ大體ハ旣ニ竣功シ點々所々ニ殘存セル小區域ノミ未著手ナリ而シテ本年度ノ事業ハ左表ノ如シ

種別	數量	施行箇所
土砂浚渫	二〇九、四八四 立方米	滿珠沖、小横瀨、壇之浦沖、門司港、大里沿岸
碎岩	六〇、四二六	小横瀨、尼ヶ瀨、高瀨、俎瀨
碎岩浚渫	二二二、一一四	金伏瀨、小横瀨、大里沿岸、尼ヶ瀨、高瀨、俎瀨、六連出
埋立	八〇、八八〇	彦島埋立
水深維持	二六五、三五〇	門司港、彦島沿岸

今各箇所別ニ工事ノ概況ヲ摘記スレバ左ノ如シ

門司港　本港浚渫ハ前年度迄ニ於テ其大部分ヲ竣功シ本年度ハ未著手箇所トシテ門司鐵道棧橋沖合ニ僅カニ殘レル面積九百九十平方米ノ浚渫ヲ施行シタルニ過ギズ斯テ總面積百三十萬平方米ノ廣キニ亙ル本港ノ浚渫ハ茲ニ全ク完了スルニ至レリ

大里沿岸　大里側法線ニ沿ヒ帶狀ヲ成シテ東西ニ繫ガレル狹長ノ區域ニシテ中央ニ尼ヶ瀨ト稱スル小岩礁アレドモ他ハ概シテ砂礫ノ混入多キ土砂ヨリ成ル尼ヶ瀨ハ岩質極メテ硬ク年々極力除礁作業ニ努メ居レドモ今尚僅少ノ未竣功部殘存ス尼ヶ瀨以西ハ大正十四年度迄ノ作業ニ依リ全部竣功シ同瀨以東ノ區域ハ先年碎岩船ヲ用ヒテ地盤ヲ緩メ置キタル部分ノ浚渫ヲ昨年度ヨリ施行シ本年度ニ於テハ面積約二萬九千三百七十平方米ニ亙リテ浚渫シ其内約一萬九千八百平方米ヲ計畫深度ニ約九千五百七十平方米ヲ水深七米六乃至九米七餘ニ浚了シ昨年度ノ分ヲ合シテ竣功面積約二萬六千四百平方米ニ達セリ本年度ニ於テハ此外前記碎岩船作業區域ノ東ニ隣接セル部分ニ於テ碎岩船ヲ使用セズ直接浚渫船ヲ使用シテ面積約一萬二千五百四十平方米ヲ浚了セリ

彦島沿岸　彦島町田之首附近ノ法線ニ沿ヒ東方山底ノ鼻沖ヨリ西方大山ノ鼻沖ニ亙ル區域ニシテ其内ニ鳴瀨ト稱スル岩盤及狙瀨ト稱スル岩盤又ハ硬土盤ヨリ成ル部分アリ是等ノ部分ニハ碎岩船ヲ使用シ岩盤ハ之ヲ破碎シ硬土盤ハ之ヲ緩メタル後浚渫シ大正十四年度迄ニ鳴瀨ハ全部狙瀨ハ大部分竣功シ其他ノ部分ハ概ネ小石交リ貝殼又ハ軟粘土ヨリ成リ浚渫容易ニ行ハレ同年度迄ニ大部分竣功セリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ專ラ狙瀨ノ殘礁除却ニ努メタル結果同瀨ノ未竣功部分ノ面積ハ約二萬四百六十平方米迄ニ減少セリ

高瀨　大里沿岸ノ西ニ連ナル岩礁ニシテ前年度迄ニ大部分竣功シ極メテ僅少ノ未竣功部分ヲ殘シ居リシガ本年度ニ於テ更ニ此部分ノ浚渫ヲ施行シ殆ンド全部ノ竣功ヲ見ルニ至レリ此外本瀨ノ離礁トモ稱スベキ航路ノ中心ニ近キ位置ニ點在スル淺瀨アリ本年度ニ於テ初メテ之ガ浚渫ヲ試ミ大部分浚了スルコトヲ得シモ作業困難ノ爲メ遂ニ竣功スルニ至ラザリキ

六連出　高瀨ノ西ニ位スル砂洲並ニ硬土盤ニシテ前者ハ先年全部竣功シ後者ハ年々一部分宛竣功シ來リ本年度ニ於テ面積約一萬三千八百六十平方米ヲ浚了シ遂ニ全部竣功スルニ至レリ

壇之浦沖　下關市壇之浦町沖合法線ニ沿ヒ東西ニ連レル帶狀ノ區域ニシテ硬粘土及脆弱ナル岩盤ヨリ成リ本年度ニ於テ初メテ之ガ浚渫ニ著手セリ其施工區域ハ面積約四千六百二十平方米ニ達セシガ内一小部分ヲ計畫深度ニ浚了シタルニ過ギズ

小横瀨　長府町前田沖ニ於テ法線ニ沿ヒ帶狀ヲ爲シ長ク東西ニ連レル區域ナリ土質ハ大部分硬粘土、一部岩盤ヨリ成ルヲ以テ多クハ碎岩船ヲ使用シタル後浚渫ヲ行ヒ前年度迄ニ計畫區域ノ四割ヲ浚了シタリシガ更ニ本年度ニ於テ面積三萬五千九百七十平方米ニ亙リテ浚渫ヲ施行シ内約二萬六千平方米ヲ計

盡深度ニ浚了シ其結果計畫區域ノ六割以上ヲ竣成セシムル事ヲ得タリ

金伏群礁　長府町前田沖ノ航路ニ接近シテ弧立點在スル、ハゲノ瀨、スキアガリ瀨、野山瀨、細瀨、高芋瀨、金伏瀨等ノ總稱ナリ何レモ硬質ノ岩礁ニシテ作業甚ダ困難ナリシガ逐年除去シテ殆ンド竣功スルニ至レリ就中金伏瀨ハ元金伏挂燈立標ノ設置シアリシトコロニシテ作業最モ困難ナリシ部分ナリ而シテ前記立標移轉後其跡ニ汽船大正丸擱坐シ一時作業中止ノ已ムナキニ至リシガ同船ノ解體除却ノ終ルヲ待チテ再ビ作業ヲ開始シ爾來鋭意工事ヲ進メ昨年度末ニハ纔カニ猫額ノ小區域ヲ殘スノミトナリ最小水深九米七ニ達シ本年度ニ於テ更ニ之ガ浚了ニ努メ今ヤ殆ンド全部ヲ竣功セシムルニ至レリ

滿珠沖　部埼、滿珠島間ニ於テ航路ガ南北ヨリ東西ニ急曲セル部分ノ兩側ニ横ハレル淺洲ニシテ前年度迄ニ主要部分ヲ竣功セシメ本年度ハ法線ニ沿ヘル狹長ノ區域ヲ浚渫セリ

彦島埋立　本埋立ハ關門海峽改良工事ヨリ生ズル浚渫土砂及碎岩ノ捨場ニ供スル爲メ彦島東岸前面ニ於テ海面約五十二萬八千平方米ヲ區劃シ沿岸トノ間ニ幅約五十四米ノ水路ヲ殘シ周圍ニ捨石、假護岸ヲ築キ碎岩ハ直接投棄シ土砂ハ一旦其前面海中ニ投棄シ吸揚船ニ依リ之ヲ吸揚ゲ埋立ヲ爲スノ計畫ヲ立テ大正二年度捨込ヲ開始シ前年度迄ニ二百四十三萬三千二百四十六立方米、本年度ニ於テ八萬八百八十立方米、累計二百五十一萬四千百二十六立方米ノ土砂又ハ碎岩ヲ搬入シ九割四分通リ埋立テタリ

水深維持　本工事ハ門司港彦島沿岸東部、六連出、塵寄洲等關門海峽改良工事ニテ既ニ浚渫シタル區域ニ潮流ノ關係ニ依リ年々尠ナカラザル漂砂堆積シ漸次水深ノ減退ヲ來タシ此儘放置スルニ於テハ數年ヲ出デズシテ忽チ船舶ノ航行、碇泊ニ支障ヲ及ボシ遂ニ改良工事ノ效果ヲ激減セシムル虞アルヲ以テ是等ノ箇所ニ於ケル堆積土砂ヲ浚渫シ以テ所定ノ水深ヲ維持セントスルモノナリ而シテ本年度初メテ之ニ

著手シ先ヅ以テ緊急施行ヲ要スル門司港ニ於テ十五萬六千七百八十立方米、彥島沿岸ニ於テ十萬八千五百七十立方米、合計二十六萬五千三百五十立方米ノ土砂ヲ浚渫セリ

其他彥島埋立地假護岸ノ補修及當所專用船溜內ノ浚渫ヲ施行シタルモ共ニ輕微ノ工事ニシテ記スベキ事項ナシ

本年度竣功高ハ六十四萬一千九百七十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ一千二百五十七萬六百七圓トナリ既定工事豫算高一千三百三十八萬八千十一圓ニ對シ九割四歩ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ナリトス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	割分
浚渫費	立方米 一四、〇七九、九九六	円 三〇一、〇九四、四八三、八八九	立方米 七五七、三七四	円 一二、九三九、三三二	立方米 一四、八三七、三七〇	円 三一〇、七三六、八二七、〇七七	〇・九七
埋立及護岸費		△ 四〇三、九一二、四六一、二五一		△ 一二、九二二、四九二、五九二		△ 四一、一七一、九五四、四一、一七一	〇・九五
船舶及機械費		△ 六、五八八、六二二、一三一、〇〇二		△ 二七七、四四八、六、一七六		△ 六、八六六、〇七〇、一三七、一七八	
測量及檢潮費		△ 一七、六六、六四〇、九、五九八		△ 一四、〇七八、四二九		△ 一九〇、七一八、一〇、〇二七	
雜費		一四、九〇八				一四、九〇八	
營繕費		△ 四七、四五〇、七、九〇六		△ 二五三		△ 四七、七〇三、七、九〇六	
共濟組合給與金		三九、二二五		九、七六四		四八、九八九	
海底電線移設費		△ 一二六、五一一、二八、六二五		△		△ 一二六、五一一、二八、六二五	
臨時手當		四九、九二七				四九、九二七	
總計		△ 一二、九二八、六三二、五一七、三五〇		△ 六四一、九七五、一八、八三九		△ 一二、五七〇、六〇七、五三六、一八九	〇・九四

第二　鹽釜港修築工事

緒言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費三百四十五萬圓ヲ以テ大正三年度ヨリ工事實施中ナリシガ同六年度ヨリ本省ニ於テ直接施行スルコトトナリ即チ同年度ヨリ豫算額二百九十三萬三千圓ヲ以テ同十一年度迄ノ繼續事業トシテ施行中同十一年度ニ道路費ノ内ヘ三萬圓ヲ增額シ又歐洲大戰亂以來物價騰貴ノ影響ヲ受ケ工費ニ不足ヲ來セルニ依リ同十二年度ニ二百五十萬圓ノ增額ヲ行ヒテ總工費ヲ五百四十六萬三千圓ト爲シ竣功年度ヲ同十八年度ニ延長セシガ同十二年九月帝都及其附近ニ未曾有ノ大震災起レルガ爲メ國庫財政ノ都合上更ニ一箇年度ヲ繰延ベ竣功期限ヲ昭和五年度トセリ

港狀並計畫大要

本港ハ仙臺市ノ東方約十六粁松島灣ノ西南隅ニ位シ西、北、南ノ三面ハ殆ド丘陵ヲ以テ圍繞セラレ僅カニ東方松島灣ニ面ス港内水面狹ク市街地小ナリト雖モ本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ當リ鐵道運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍々良好ナリトス港内四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ常ニ風波ノ虞ナキモ灣内淺クシテ大船ヲ入ルルニ至ラズ灣ト外海トヲ聯絡スル水道四アリ其主要ナルモノヲ代ケ崎水道トス其東北約二粁ニ石濱錨地アリ水深大ニシテ巨船ノ碇泊ニ適ス

修築工事ノ大體ヲ記述セバ石濱錨地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ來ル風浪ニ對シ代ケ崎以東ノ外港水面ヲ掩護シ同錨地ノ碇泊及航行ヲ安全ナラシムルニアリシガ外洋ニ於ケル防波堤ノ築造ハ施行容易ナラザルト築港ノ將來トニ鑑ミ寧ロ内港ノ充實ヲ圖ルノ利ナルヲ認メ大正十三年度ニ於テ既定計畫ノ變更實施ト同時ニ之ガ築造ヲ中止セリ航路ハ港口ヨリ殆ド一直線ニ代ケ崎ニ至リ少シク折レテ内港泊地ニ達セシム其延長五千六百米ニシテ幅員(底幅)九十一米水深最大干潮面下六米七トス

内港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約三十三萬一千平方米ヲ有シ之ヲ最大干潮面下七米六及四米六ノ水深ニ浚渫ス

埋立地ハ現在鐵道用地ノ東方ニ面積五十二萬九千六百平方米ヲ築造スルモノニシテ其高サハ朔望平均滿潮面上一米七(最大干潮面上三米七)トス其東方ニ濕渠及貯木場ヲ設ク

埋立地ノ沿岸西方ハ魚類處理場上屋倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭・木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道ノ聯絡ヲ期スルト共ニ埋立地内ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地ヘ水運ノ便ヲ圖ルモノトス其幅十八米乃至五十五米トス而シテ埋立地ノ道路ハ幅九米乃至十八米トシ縱横ニ築設シ以テ交通ノ便ヲ圖ル

要スルニ本計畫ハ新ニ五十二萬九千六百平方米ノ市街地及倉庫地ヲ埋築シ延長約二千米ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年度約八十萬噸ノ貨物ヲ處理シ得ベカラシメ而シテ内港ニ出入シ得ル船舶ハ三千噸級迄ニ止メ石濱錨地ハ三千噸級以上ノ碇繫場トシテ使用セントスルニアリ

施工狀況

本工事ハ大正六年度内務省所管ニ移リテ依リ既ニ十一箇年度ヲ閲シ爾來年ト共ニ工事ノ進行セルモノ多ク港勢頓ニ上リ最近巨舶ノ入港ヲ見ルニ至ル前年度中内港荷役ニ依ル貨物ハ約二十八萬噸ニ達ス今工事ノ概況ヲ左ニ記ス

浚渫工事ハ航路船溜及代ケ崎水道狹窄部ノ擴張等ヲ通ジテ最大干潮面下四米六ノ水深ヲ有シ航路ノ一部ニハ六米七ニ達セル箇所アリ而シテ本年度中施行セルハ前記代ケ崎以東ノ外港航路竝ニ内港航路ノ一部ナリトス

埋立工事ハ大部分竣功ヲ告ゲ本年度ニ於テモ前年度同様未成ノ局部ヲ整理シ工事上支障ナキ既成ノ一部分ハ前年宮城縣ニ引繼ギ利用ヲ開始セリ而シテ計畫ニ對比シ數字上土量ノ超過ヲ見タルガ地盤軟弱ナル箇所ノ沈下ニ因ルモノニシテ尚相當ノ土量ヲ要スル見込ナリ

岸壁及護岸工事ハ鹽釜町屋島地内ニ施行セル鐵筋混凝土壁及混凝土物揚場護岸ハ本年度ノ竣功五米六ヲ併セ延長三百一米六ニ達シ而シテ同法線ニ基礎ノ安定ヲ俟チツツ施行中ナリ多賀城村地先ニハ鐵筋混凝土枠組立四米六岸壁九十一米下部竣功)アリ本年度ニ於テハ同地内ニ水深四米六ノ鐵筋混凝土壁及鐵矢板岸壁延長二百八十三米ノ築造ニ著手ス

道路工事ハ前年度迄ニ鹽釜町現市街地ト埋立地トノ連絡ヲ告ゲ本年度ニ於テハ港橋ニ達スル幹線二百二十米及埋立地ノ西方水路附近ニ三百二十九米ヲ築設シ新設縣道ト連絡ヲ遂ゲタリ

防砂堤工事ハ代ケ崎水道ヨリ内港ニ侵入スル漂砂ノ防遏ニ供フルモノニシテ前年度延長四百二十七米(馬放島ト地藏島間ヲ封鎖スル百三十六米ヲ含ム)ヲ竣功シ本年度ニ於テハ長二百米ニ對シ捨石一千八立方米ト航路浚渫ヨリ生ジタル碎岩九千八百二十立方米ヲ利用セルモ尚所定ノ幅員ニ達セザル箇所アリ

爲メニ竣功長ノ揭グベキモノナシ

水路掘鑿工事モ亦大部分竣功ヲ告ゲ殊ニ貞山運河トノ連絡ハ大代及蒲生方面ト鹽釜間ノ水路ノ距離ヲ短縮シ頗ル舟楫ノ便ヲ得タリ

其他花淵岬ノ防波堤ハ大正十三年度ニ於テ計畫變更ヲ行ヒ築造ヲ中止シ航路標識ハ地藏島ニ燈臺一基、鹽釜町山手ニ竿燈二本ヲ設ケ先年縣ニ引繼ギ利用サレツツアリ尙本年度ニ於テ挂燈浮標三個ノ購入（未碇置）ヲモ了シタリ

斯ノ如ク鹽釜築港ニ於ケル諸般ノ工事ハ漸次進捗セルト同時ニ三千噸級船舶ノ接岸荷役ヲ爲ス濕渠內ノ浚渫其他ノ工事ニモ全力ヲ注ギ施行シツツアリ

本港本年度ノ竣功總額ハ三十萬四千五百五十三圓起工以來ノ累計三百九十一萬六千百三十三圓ニシテ事業費總豫算額五百十五萬二千八百十四圓ニ對比セバ七割六分ノ竣功ヲ告グ其工事竣功表次ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	三、三五〇、五六八 立方米	六〇六、九五八 円	三一五、七六七 立方米	七七、〇四九 円	三、六六六、三三五 立方米	六八四、〇〇七 円	〇、六五 割歩
埋立費	二、二〇七、五三三	八一一、二四六	六三、九〇三	三三、七七七	二、二七一、四三六	八四五、〇二三	一、〇〇
防波堤費	五四、一七三	二一、〇九〇	—	—	五四、一七三	二一、〇九〇	一、〇〇
航路標識費	三個	八、二一四	—	—	三個	八、二一四	—
道路費	一、一九六、五 米	八四、一二〇	五五、一 米	一、三一〇	一、七五五、六 米	八五、四三〇	—
岸壁及護岸費	二九六、〇	五一、五三四	五、六	五四、三七三	三〇一、六	一〇五、九〇七	—
防砂堤費	四二七、〇	三三、一九三	—	一、四七八	四二七、〇	三四、六七一	—

水路費	九七一	一六七、九二〇	七三〇	二三、三九三	一、七〇一	一九一、三一三	—
雜工事費	—	九一、一七五	—	一、三一五	—	九二、四九〇	—
材料製造及採取費	—	二七五、四〇七	—	—	—	二七五、四〇七	—
用地費	—	五一、五〇一	—	—	—	五一、五〇一	—
船舶及機械費	—	九一九、三三四	—	五八、八五五	—	九七八、一八九	—
營繕費	—	四五、五二一	—	一、七九〇	—	四七、三一一	—
雜費	—	四二七、二六〇	—	四六、九九九	—	四七四、二五九	—
共濟組合給與金	—	一七、一〇七	—	四、二一四	—	二一、三二一	—
總計	—	三、六一一、五八〇	—	三〇四、五五三	—	三、九一六、一三三	〇、七六

第三　神戸港修築工事

緒言

神戸港ハ本邦貿易港ノ一ニシテ其發展駿々トシテ止マザルモノアリ曩ニ政府ハ本港修築計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治三十九年度以來神戸稅關海陸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船突堤四條ヲ築設シテ上屋其他ノ陸上設備ニ及ボシ爾來年ヲ經テ其竣功部分ハ大正二年以來稅關ニ於テ其利用ヲ開始シ舊來ノ面目一新シタリト雖モ歐洲大戰ニ於ケル本港對外貿易ノ發展ハ更ニ現計畫ノ擴張ヲ促シ且港內ノ靜穩ヲ期スベキ防波堤ノ築造及對內貿易設備等ニ至リテハ一日ヲ忽諸ニ付スベカラザルモノアリ玆ニ於テ神戸市ハ切リニ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向テ經費ノ一部ヲ負擔センコトヲ稟請スルニ至レリ卽チ政府ハ之ヲ採納シ總工費當初二千七百十萬圓ノ豫算ヲ以テ大正八年度工事ニ著手シタリシガ大正十三年度ニ於テ既定計畫ニ更改增補ヲ加ヘテ工費五百七十七萬八千二百八十二圓ヲ追加シタリ而シテ其工期ハ元十箇年度ナリシガ第一次繰延二箇年度同第二次三箇年度、前後五箇年度ヲ延長シ十五箇年度ノ繼續事業トナレリ斯クシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初トシ兵庫地先及國產波止場附近ニ於ケル內國貿易設備竝沖合防波堤ノ築造等將來本港ノ發展ニ資スベキ施設ノ完備ヲ期セントス其工費豫算ヲ計上スレバ左記ノ如シ

費目	大藏省施行竝同省ヨリ引繼豫算	當期豫算	追加豫算	現豫算	摘要
外國貿易設備費	一円	一一、〇〇〇、〇〇〇円	一、一六三、三〇三円	一二、一六三、三〇三円	負擔歩合　國庫二分一　神戸市二分一

內國貿易設備費	—	九、三〇〇、〇〇〇	一、四一三、四七八	一〇、七一三、四七八
防波堤築造費	△× 一、九二〇、〇〇〇 二、七五〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	三、二〇一、五〇一	一四、六七一、五〇一
總計	四、六七〇、〇〇〇	二七、一〇〇、〇〇〇	五、七七八、二八二	三七、五四八、二八二

同　上（國庫三分一　神戸市三分二）

全部國費「×」ハ大藏省施行額「△」ハ引繼額

內俸給及事務費二、三七九、六八一圓ヲ包含ス

港狀並計畫大要

神戸港ハ北緯三十四度四十一分東經百三十五度十一分、攝津國ノ西南ニ位シ兵庫、神戸ノ兩灣ヲ以テ形成セラレ其經界ハ從來ノ北東脇ノ濱海岸ニ建設シタル立標ト南西和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港內ノ面積九百九十萬平方米ナリシガ大正十三年三月一日勅令第四十七號ヲ以テ北東新在家町ノ南角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト南西和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界ト爲シタル區域內ニ擴張セラレタルヲ以テ此水面積ハ一千九百八十萬平方米ヲ算スル外海岸線ノ延長八千六百九十米ナリトス而シテ港內ヲ二區ニ分チ第一區ハ舊湊川尻南端ニ建設シタル頭部三角形二基ノ紅色塗立標ヲ見透シタル一直線ノ北方一圓トシ第二區ハ前記ノ南方一圓トス其第一區及第二區ノ極南部トヲ軍艦ノ碇泊所ニ其他ヲ商船ノ碇繫場ニ充ツ又雜船及小型船等ハ第一區及第二區ノ沿岸一帶ニ繫留セシム

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積二十六萬三千百四十平方米、海岸通地先ニ於テ面積四萬六千八十平方米ヲ低水面上三米三ニ埋立テ而シテ濱邊通地先ニハ十米乃至十二米一ノ

繫船岸壁延長二千六百一米ヲ築造シテ二萬噸級以下ノ汽船繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸ニ於テハ水深二米七乃至三米六ノ物揚場延長二千七百十四米ヲ築造スルモノトス

內國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テハ面積六萬三百四十平方米、兵庫地先ニ於テ面積二十六萬九千七百五十平方米、干潮面上三米三ニ埋立テ之ニ水深五米四乃至九米繫船岸壁延長三千百六十八米ヲ築造シ以テ八千噸級以下ノ汽船繫留ノ便ニ供スル外水深二米七乃至三米六物揚場延長二千四百五十六米ヲ築造シ尙現在ノ鐵道棧橋ヲ改築スルモノトス

上記計畫中改良ヲ施シタルモノハ濟邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ百四十五米五ニ擴大シ南側上屋ノ中間ニ幅員三十六米四ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ常時上屋內ノ貨物掃盡ニ利便ヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ百六十三米六トシ其中央ニ幅員五十四米五、長サ四百九米ノ水路ヲ設ケ其南岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ艀船荷役ヲ併行シ得ベキ嶄新ナル設備ヲ施シ以テ水路運送貨物荷捌上多大ナル便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ南及東ノ二堤ヨリ成リ之ニ假防波堤ヲ加ヘ總延長六千六百四十九米ニ達ス而シテ南堤ハ半島堤ヲ合シテ延長一千五百六十四米、東堤ハ其一、其二及既成堤一千百四十九米(大藏省施工)ヲ合シ延長三千九百九十三米ニシテ假防波堤ハ延長一千九十一米ナリ今其法線ヲ記スレバ大要次ノ如シ

南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬立標ヨリ東微北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ二百七十四米ヲ隔テタル位置ヲ以テ起點トシ東西ニ延長一千二百十九米ヲ築造シ其終端七尋以上ノ箇所ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ二百七十四米ノ港門ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ副門ヲ存シ仍ホ西方ノ半島堤ヲ合シ延長三百四十五米ノ堤ヲ築キ以テ陸岸ニ達セシム

東堤ハ一直線ニ北微西ニ延長一千五百十三米ヲ走リ既成防波堤トノ間ニ幅員九十米九ノ東副門ヲ存置ス之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描キテ走ルコト約五百二十六米之ヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ約八百四米ヲ延長シ尚其終端ヨリ北四十七度東ノ方向ニ於テ二百七十四米ノ第二港門ヲ設ケ夫レヨリ北ニ向ツテ一千九十一米ノ假防波堤ヲ築造スル計畫ナルヲ以テ此堤ニテ抱擁スル水面積ハ約九百九十萬平方米ヲ算ス就中艀船及小蒸汽船ノ碇繫場ニ適スル船溜水面積ハ濱邊通約四萬七千三百七十平方米、米利堅波止場附近約十九萬三千七百二十平方米、國產波止場附近約五萬一千五百七十平方米、兵庫新川沖約十八萬九千七百五十平方米ナルヲ以テ合計約四十八萬二千六百五十平方米ニ達スルナリ

前記諸計畫ヲ更ニ表記スレバ左ノ如シ

種別	位置	干潮面以下ノ水深	面積又ハ延長	摘要
埋立 外國貿易設備	海岸通地先		四六、〇八三平方米	遊園地及第二波止場前面 此土量二九五、二三七立方米
	濱邊通地先		二六三、一四〇	濱邊通前面 此土量四、〇三三、〇五七立方米
	小計		三〇九、二二三	
埋立 內國貿易設備	兵庫地先		二六九、七五二	兵庫地先前面 此土量三、三九八、六七八立方米
	海岸通地先		六〇、三四〇	第二波止場及國產波止場 此土量五〇四、三一三立方米
	小計		三三〇、〇九二	
合計			六三九、三一五	

種別	位置	干潮面以下ノ水深	面積又ハ延長	摘要
岸壁 外國貿易設備	濱邊通地先	米 一二・一	米 四一八・二	大小船舶十五隻繫維繫
同上		一〇・〇	二、一八三・一	
小計			二、六〇一・三	
內國貿易設備	兵庫地先	九・〇	六〇〇・〇	大小船舶十六隻繫維繫
同上		八・四	三〇九・一	
同上		七・二	一、三〇九・一	
海岸通地先		八・四	五八〇・〇	大小船舶七隻繫維繫
同上		五・四	三七〇・〇	
小計			三、一六八・二	
合計			五、七六九・五	
物揚場 外國貿易設備	海岸通地先	三・六	四一二・七	米利堅波止場增築
同上		二・七	七五七・三	延長三四六米四ヲ含ム
濱邊通地先		三・六	一、三四三・六	
同上		二・七	二〇〇・〇	
小計			二、七一三・六	
內國貿易設備	兵庫地先	三・六	五一八・二	
同上		二・七	一、一八一・八	
海岸通地先		二・七	七五五・五	國產波止場增築 延長六九三米九ヲ含ム
小計			二、四五五・五	
合計			五、一六九・一	

假護岸	外國貿易設備	濱邊通地先		二九〇・九	
	內國貿易設備	兵庫地先		二四五・五	
船溜防波堤	外國貿易設備	海岸通地先		一八一・八	
防波堤	東防波堤	既設		一、一四九・一	
	同上ノ一			一、三三一・七	
	同上ノ二			一・五一二・六	
	南防波堤			一・五六四・四	
	假防波堤			一、〇九〇・九	
	合計			六・六四八・七	長
棧橋	鐵道棧橋			三、七一九・〇立方米 二二七・三米	
				堤頭一箇所二七米三ヲ含ム（既成上部工ヲ除ク堤頭二箇所五四・六ヲ含ム）	
				同二箇所五四米六ヲ含ム	
				同三箇所八一米八ヲ含ム	
				同二箇所五四米六ヲ含ム	
				內一、六五二平方米九改築 二、〇六六平方米一擴張	

施工狀況

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備、內國貿易設備、防波堤築造及材料採取竝ニ材料製造ノ各項ニ分類シ尙必要ニ應ジ更ニ之ヲ細別シ以下順次其概要ヲ記述セントス

一　岸壁工事

（イ）外國貿易設備

本工事ノ施工ハ基礎掘鑿、鐵筋混凝土函据付、上部工ノ三種ニ實施計畫ヲ樹テ施工上ノ圓滑ト進捗トヲ期セリ

基礎掘鑿ハ濱邊通ニ於ケル岸壁築造法線ニ基キ岸壁築造位置ニ相當スル現在ノ地盤上層ニ於ケル軟泥

ヲ硬質地層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテ之ガ施工ニハブリストマン式浚渫船大輪田丸及同第一、二、三號浚渫船ヲ運用シ之ニ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬セシメテ第五突堤水深十米部延長六十八米ヲ掘鑿シテ土量一萬三百五十立方米ヲ得之ヲ濱邊通地先ノ下埋ニ利用シ同第六突堤水深十米部ニ於テハ延長五百米ヲ掘鑿シテ土量二萬百三十立方米ヲ得之ヲ同ク濱邊通ノ下埋ニ利用セリ此直接工費二萬二百三十四圓ナリ但シ該工費ニハ吸揚式喞筒船敏馬號ヲ運用シテ第五突堤水深十米及同十二米一部ノ軟泥排除ニ要シタル工費二千二百五十七圓ヲ包含ス

岸壁函据付工事ハ第一突堤及第五突堤トヲ施工シ就中第一突堤ニ於テハ上部工ヲ開始スルニ至レリ濱邊通ニ於ケル第一突堤函据付工事ハ大正十二年七月ノ起工ニシテ爾來續工本年度ハ水深十米九ニ於テ延長二十三米八ヲ据付ケ塡充延長三十八米及裏詰十八米又水深十二米一ニ於テ函据付延長三米四、塡充延長八米九ヲ施工シテ本突堤ハ上部工ヲ除キ昭和二年十一月竣功ヲ告ゲタリ本年度ノ直接工費二千八百九十七圓ニシテ此累計ハ五萬七百九十六圓ヲ算ス

第五突堤ニ於テハ水深十米部ニテ床拵延長二百米函五個ヲ沈置シテ延長百九十六米ニ及ビ其他塡充延長百六十六米、裏詰延長三百十二米ヲ施工ス水深十二米一ニテハ基礎床拵延長百四十五米、函沈置延長百八十三米四塡充延長百七十三米、裏詰延長百三十四米ヲ施工ス此直接工費二萬八百四十四圓ヲ算ス

岸壁上部工ハ本年度ヨリ開始ス卽チ濱邊通第一突堤水深十米部ニ於テ上部基礎延長二十六米六、混凝土工延長百三十米八又同水深十米九ニテハ上部基礎延長三米八、混凝土工延長十六米二ヲ施工ス此直接工費一萬四千六百二十六圓ヲ算ス此岸壁上部工ノ構造ノ大要左記ノ如シ

鐵筋混凝土函ヲ据付ケタル上部ニ混凝土壁ヲ築造シテ笠石ヲ据付ケ其天端高ヲ干潮面上三米三ニ達セ

シメ所期ノ如ク防舷材繫船柱繫船環及梯子等ヲ取付ケ以テ船舶繫留設備ニ供スルモノトス

以上諸工事施行ノ爲メ運用シタル船舶機械ノ運轉費ハ別ニ一萬八千七百圓ヲ算スル外第一突堤接續部整理工事ノ施行費及第六突堤ニ於ケル施工中諸費六千六百八十三圓ヲ算スルヲ以テ本年度外國貿易設備ニ屬スル岸壁工費ハ八萬三千九百八十三圓ナリ

二　物揚場築造

本年度ハ主トシテ海岸通物揚場ノ殘工事ヲ施行ス卽チ石垣延長二十七米二階段一箇所防舷材三箇所及附帶取付工(米利堅波止場整理ニ屬ス)二十二米七ヲ施工ス此直接工費ハ所要船舶機械ノ運轉費五百四十圓ヲ合シテ七千六百二圓ニ過ギザルナリ

三　埋立工事

海岸通上埋ニ於テ五千四百立方米ヲ埋築シタル外在來ノ米利堅波止場ト埋立地表トノ取付箇所ニ張石及場所詰混凝土ニテ鋪裝工面積八十三平方米ヲ施工ス而シテ埋築ハ物揚場背後ニ屬スルガ故ニ土砂ハ總テ市內各建築基礎工事ヨリ生ジタルモノヲ無償投棄セシメタルヲ以テ特ニ工費ヲ要セザルナリ但シ鋪裝工ニ要シタル直接工費ハ一千十五圓ナリ

濱邊通下埋ニハ浚渫船茅渟丸ヲ運用シテ港內ヲ浚渫シ同プリストマン式浚渫船大輪田丸ヲ運用シテ防波堤敷ヲ浚渫シ土量併テ十五萬八千九百十六立方米ヲ埋築シテ直接工費四萬五千六百二十圓ヲ支出ス此外濱邊通突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル土量三萬四百八十立方米及兵庫突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル土量七千八十立方米直營採取砂礫五千六百九十八立方米ヲ以テ之ニ充ツ此埋築總土量ハ二十萬二千百七十四立方米ナリ

濱邊通上埋ニハ喞筒式浚渫船洞海丸及同和泉丸ヲ運用シ加古川尻、武庫川尻及紀ノ川口ヨリ採砂ス洞海丸ニテ加古川尻ヨリ土量三萬三千二百五十二立方米、和泉丸ニテ武庫川尻ヨリ土量七千九百八立方米、同船ニテ紀ノ川口ヨリ土量七千六百八立方米、合計土量四萬八千七百六十八立方米ヲ濱邊通地先第一突堤上埋ニ充當ス此直接工費通計三萬一千七百九十六圓ナリ

埋立地地均ニ於テハ海岸通地先五千二百八十平方米、濱邊通地先第一突堤ニテ三千九百二十七平方米ノ地均ヲ施工ス此直接工費二千三百十九圓ナリ

以上本年度外國貿易設備ニ屬スル諸工事ニ要シタル直接工費ハ十七萬二千六百三圓ニシテ此竣功累計ハ百八十五萬六千六百七十六圓ヲ算ス之ニ別設計採取材料使用高十一萬四千五百三十六圓及同製造材料使用高百十九萬九千八百八十五圓ヲ加算スルトキハ累計三百十七萬一千九十七圓ニ達スルヲ以テ計畫工費ニ對比スルトキハ約三割四分ノ步通竣功ナリトス

（ロ）內國貿易設備

一　岸壁工事

既定方針ニ基キ岸壁築造位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ兵庫第一突堤水深七米二ニ於テ延長二百一米八ノ基礎掘鑿ヲ爲シ（運用船舶機械、外國貿易設備工事ニ同ジ）土量二萬一千百五十立方米ヲ得內二千七百立方米ハ濱邊通ノ下埋ニ一萬八千四百五十立方米ハ兵庫地先ノ下埋ニ利用又水深九米ニ於テハ延長百四十二米ヲ掘鑿シテ土量一萬八千三百六十立方米ヲ得內四千三百八十立方米ハ濱邊通地先ノ下埋ニ一萬三千九百八十立方米ハ兵庫地先ノ下埋ニ利用セリ此直接總工費一萬三千六百三十一圓ニシテ內二千二百七十八圓ハ第一突堤水深七米六及同九米部ニ於ケル軟泥排除ニ要シタル費用ナリ

兵庫第一突堤水深七米二函据付工事ニ於テハ基礎床拵延長二百四十七米六ヲ施工ス之ニ別設計採取砂礫六萬五千三百七十立方米使用函据付延長二百五十三米使用鐵筋混凝土函七個同塡充延長二百五十六米ニ對シ別設計採取砂礫八千百十二立方米及混凝土二千九百四十八立方米ヲ使用尙荷重据置延長百三十八米及裏詰延長二百四十七米ヲ施工シテ別設計採取砂礫一萬五千二百十六立方米使用水深九米ニ於テハ基礎床拵延長二十七米施工ニ對シ別設計採取砂礫四千五百二十四立方米ヲ使用ス兵庫第二突堤岸壁函据付工事ニ於テハ前年度殆ンド完成シ本年度ハ其補强工事ト塡充ノ殘工事延長三米六ヲ施工シ裏詰工ノ殘部ヲ繰越スニ至レリ

兵庫七米六甲岸壁工事ニ於テハ裏詰延長三十七米ヲ施工シテ本工ヲ完成セシム

以上諸工事施工ノ爲メ運用シタル船舶機械ノ運轉費二萬八千八百八十八圓ヲ合シタル本年度岸壁工事ノ直接工費ハ四萬三千二百五十九圓ナリ

二　物揚場築造

兵庫二米七丙物揚場ニ於テ基礎床掘ヲ施工シテ土量二千六百五十八立方米ヲ得之ヲ第一突堤下埋ニ利用而シテ捨石延長九十八米施工ニ對シ別設計採取割石二千百十六立方米同礫四十七立方米及砂礫三千百六十八立方米使用荷重据置延長五十六米方塊沈積延長三十六米石垣三米六施工同三米六物揚場ニ於テ石垣延長三十七米同五米六物揚場ニ於テ石垣延長二十三米六ヲ施工ス是等諸工施工ノ爲メ運用シタル船舶機械ノ運轉費三千四圓ヲ算スルガ故ニ本年度物揚場築造ニ要シタル直接工費ハ一萬五千百九十六圓ナリ

三　埋立工事

兵庫埋築工事中其主部下埋ニハ主トシテ鋤鏈式浚渫船茅渟丸ヲ運用シテ之ニ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬セシメテ神戸港内ヲ竣渫シタルモノヲ埋築ス此土量九千三百六十立方米外ニ兵庫突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用土砂二萬四千五百七十立方米ヲ算ス又第一突堤下埋ニハ專ラプリストマン式浚渫船大輪田丸ヲ運用（前記茅渟丸モ隨時運用ス）シテ神戸港内ヲ竣浚シ土量四萬六千三百五十立方米ヲ埋築シタル外突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用埋築土砂七千八百六十立方米及物揚場床拵ヨリ生ジタル利用埋築土砂二千六百五十八立方米ヲ算スルヲ以テ此埋立總土量ハ九萬七百九十八立方米ナリ

兵庫埋築工事中主部上埋ニハ喞筒式浚渫船和泉丸ヲ運用シテ紀ノ川口ヨリ採砂ノ上輸送埋築ニ供シタル土量二萬一千七百二立方米又喞筒式浚渫船洞海丸ハ加古川尻ヨリ採砂ノ上輸送埋築ニ供シタル土量三萬二千四百八十四立方米ニ對スル直接工費通計四萬七千三十八圓ナリ又第二突堤上埋ニハ同ジク洞海丸ハ加古川尻ヨリ四萬八千九百立方米ヲ和泉丸ハ武庫川尻ヨリ二萬二千百七十立方米ヲ同紀ノ川口ヨリ九千五百七十立方米、通計十三萬四千八百二十六立方米ヲ採砂輸送ノ上埋築ニ供シタル直接工費五萬一千百四十四圓ヲ算ス右ノ外曳船費六千五百四圓ヲ支出シタリ

兵庫埋立地地均工事ハ面積三百十平方米ヲ施工ス此工費七十二圓ナリ

以上本年度内國貿易設備工事施工ノ爲メ支出シタル直接工費ハ十七萬九千五百二十六圓ニシテ此竣功累計ハ百六十八萬一千百四十一圓ヲ算ス之ニ別設計採取材料使用高三十五萬六千七十五圓及製造材料使用高百五萬七千四百十八圓ヲ加算スルトキハ竣功累計高三百九萬四千六百三十四圓ニシテ計畫工費ニ對比スルトキハ約四割二分ノ竣功ナリトス

（ハ）防波堤築造

本年度ハ東防波堤之二基礎工事ニ於テ基礎掘鑿延長一千三百二十六米ヲ施工シテ土量三萬立方米ヲ得テ之ヲ港外ニ投棄ス次デ捨石延長三百七十米、荷重据置延長三百八十八米及上部床均延長四百二十七米施工又同鐵筋混凝土函据付工事ニ於テハ据付延長三百五十米塡充工延長三百五十米及根固方塊据付延長三百四十八米施工シタル外同北頭部基礎工事ニ於テ延長八米ノ基礎掘鑿ヲ爲シテ土量一千九百二十立方米ヲ得之ヲ港外ニ投棄シ捨石延長一米三施工上記諸工事施行ノ爲メ運用シタル船舶機械ノ運轉費三萬五千四百七十一圓ヲ算スルガ故ニ本年度本工施行ノ爲メ支出シタル直接工費ハ二十一萬五千百三十八圓ニシテ起工以來ノ竣功累計ハ四百五十二萬七千九百五十七圓ニ達ス更ニ別設計採取材料使用高六十四萬四千六百四十三圓及同製造材料使用高百五十九萬八百七十九圓ヲ算スルヲ以テ事實上ノ竣功額ハ六百七十六萬三千四百七十九圓ナルガ故ニ計畫工費ニ對比スルトキハ約五割三分ノ竣功ナリトス

(二) 材料採取

直營採取ニ係ル材料ハ割石、砂礫、砂利、砂礫及砂ノ五種ニシテ既定方針ニ基キ施工ス其成績左記ノ如シ

割石及砂礫ハ兵庫縣淡路國岩屋町字鵜崎海岸ニテ人力及爆藥ヲ使用シテ斫出シ一定ノ陸路ヲ輕運車ニテ積出シ運搬船ニ積込ミ神戸港內所定ノ場所マデ海路片道約十二浬ノ間ヲ曳船ヲ介シテ輸送シタルモノニシテ本年度ノ功程ハ割石六萬五千二百九十立方米、砂礫二十萬七千三百十立方米ニシテ工費十九萬三千二百八十四圓又採取量ノ累計ハ割石二十八萬四千七百六立方米、砂礫八十二萬七千六百四立方米ナリ

砂利及礫ハ兵庫縣加古川筋ニ於テ人力採取(本年度末ヨリ機械船採取ヲ試ミタルニ結果良好ニ付爾後機械採取ヲ爲サントス)高砂港口マデ小舟ニテ積出シ更ニ運搬船ニ積換ヘ曳船ヲ介シテ神戸港マデ海路片

路約二十八浬ノ間ヲ輸送シテ所定ノ置場ニ陸揚ヲ爲シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ砂利三萬四千七十五立方米、礫四百六十二立方米、工費七萬二百三圓、採取累計ハ砂利二十一萬八千二百五十立方米、礫一萬八千三百九十立方米ヲ算ス

砂ハ混凝土用ニ適スル清砂ヲ要スルヲ以テ特ニ兵庫縣下武庫川尻ヲ選ミ喞筒式浚渫船和泉丸ヲ運用シテ採砂シ自航神戸港ニ輸送ヲ遂ゲ所定ノ置場ニ藏置シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ一萬五千三百九十立方米、工費一萬二千百四十五圓ナリ

上記ノ外石材採取設備中ノ石枠ヲ補修シタル費用三千六百四十五圓ヲ算スルヲ以テ本年材料採取ニ支出シタル直接工費ハ二十九萬五千八百七十九圓（船舶機械ノ運轉費ヲ含ム）ニ達セリ

（ホ）材料製造

材料製造ハ岸壁及防波堤用鐵筋混凝土函ヲ主トシ各種ノ方塊及混凝土ノ三種ニ分カタル施工概要左記ノ如シ

一　鐵筋混凝土函製造

本年度ノ製造ハ岸壁用トシテ水深十二米一函五個直接工費九萬三百八十九圓、同水深十米函六個直接工費八萬六千三百八十九圓、同水深九米函一個直接工費一萬二千八十九圓、水深七米二函七個直接工費七萬九千五百四圓及防波堤用函（小型）二十八個直接工費七萬三千三十九圓ナリ而シテ混凝土容積ハ通計二萬九百立方米此直接工費三十四萬一千四百十圓ニシテ配合ハ總テ一、二、四ノ割合ナリ

二　方塊製造

本年度ハ各種方塊ヲ通ジテ五百七十四個ノ製造ト五百三十三個ノ陸上送出トヲ施工ス内大方塊四百七

十四個工費三萬二千四百九十二圓、石張異型方塊五十九個工費二千八百八十五圓此混凝土容積通計五千五百六十八立方米工費三萬五千三百七十七圓ナリ而シテ配合ハ大方塊一、二、五石張異型方塊ハ一、四、一〇ノ割合ナリ

三　混凝土製造

鐵筋混凝土函內及函間塡充用トシテ製造シタル本年度ノ混凝土量ハ一萬八千八百八十二立方米ニシテ工費八萬二千百七十五圓ヲ支出シ此配合ハ一、二、五ノ割合ナリ

上記材料製造ニ要シタル本年度ノ直接工費ハ通計四十五萬八千九百六十二圓ヲ算スル外此種製造ニハ何レモ直營採取ニ係ル砂利及砂ノ使用數多量ナルヲ以テ之ヲ計上スレバ函製造ニハ三萬九千六百二十圓、各種方塊製造ニハ一萬一千十八圓、混凝土製造ニハ四萬一千八百二十九圓ヲ使用シタリ

(ヘ)雜　件

一　船舶及機械費

本年度當所機械工場ニ於ケル直營施工額ハ十一萬五千五百二十一圓、其他二、三工場ニ於テ輕易ナル機械類ノ手入修繕額一萬三千三百十七圓ヲ算スルノ外機械工場ノ設備程度ニ適セザル船舶、機械ノ大修理ヲ請負ニ付シ施工シタル額二十萬四千三百四十八圓ニ達シタルヲ以テ本年度ノ直接支出ハ三十三萬三千百八十六圓ニ達セリ

二　營繕費

本年度ノ直營施工ハ方塊製造場ノ補修及鐵筋混凝土函製造場ノ棧橋修理及人夫小屋外一棟ノ移轉等ニシテ此直接工費ハ計二千百九十四圓外請負施工額四千五百十二圓ヲ支出シタルニ過ギザルナリ

三　用地買收

兵庫縣淡路國岩屋町字鵜崎海岸ニ於ケル石材採取事業ノ進展ニ伴ヒ接續地ヲ買收シテ事業ノ擴張ヲ要スルモノアリタルヲ以テ民地約一町歩餘ヲ買收ス外ニ家屋二棟ヲ移轉セシメタル費用ヲ命ジ一萬一千七百三圓ヲ支出ス

四　施工中諸費

主ナルモノハセメント、火山灰、石炭及油類ノ試驗費ニ七千二百三十四圓、工事外ノ工場雜費ニ二萬八千四百三十八圓、其他ノ雜件ニ五千五百八十六圓ヲ支出シタル外工事外諸費卽チ諸給與、惠與、死傷手當等ニ十萬二千四百三十九圓ト共濟組合ニ交付シタル給與九千五百七十六圓ヲ支出セリ

以上本年度施工ニ係ル本港修築工事ノ竣功高ハ百八十二萬六千九百七十八圓ニシテ竣功累計高ハ二千二百七十一萬八千七百五十五圓(現在物品代三十二萬六千六百三十五圓ヲ含マズ)ニ達ス之ヲ總工費三千五百十六萬八千六百一圓ニ對比スルトキハ約六割五分ノ竣功ナリトス其工事功程表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料採取及製造費ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取材料代ヲ轉記シタルモノ又「△」ハ同項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル製造品ノ代金ヲ轉記シタルモノナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁		三〇二、一二〇、八一一、〇一〇、七四〇円		八二三、七五三、九一九、八〇二、八二八円		三八五、九三五、一二九、〇二九、九七三円	
		△×		△×		△×	
物揚場		三三五、五五六、三七三円		七、六〇、二六〇、五二		三四二、一一八、六〇、二五	〇・三〇
		△×		△×		△×	

外國貿易設備						內國貿易設備						防波堤費				材料採取及製造費	船舶及機械費	用地費
米利堅波止場增築	船溜防波堤	埋立	締切堤	假護岸	小計	岸壁	物揚場	埋立	締切堤	假護岸	小計	南防波堤	東防波堤ノ二	既設東防波堤	小計			
—	—	一、七八二、五七六立方米	三九七・八米	二五二・〇米	—	—	—	一、九三九、六二六立方米	五五二・六米	二五三・八米	—	一、二二一九米	—	一、一四九	—	—	—	—
一一四、一九八 ×一一、七六九 △三〇、六〇二	一三〇、五〇三 ×七、六九六 △四七、二四五	六五六、五九四 △二七三	八三、七二七 ×九、四七〇	六一、四七八 ×六、四五六	一、六八四、〇七三 ×八六、四三五 △九二五、〇五二	二五九、七〇四 ×一八七、一八一 △八二〇、四五三	五〇九、一六〇 ×六三、六一三 △一二七、八八二	五八七、九三五 ×一五、五六一	八一、四二三 ×一五、八八三	六三、三九三 ×二三、七〇二	一、五〇一、六一五 ×三〇五、九四〇 △九四八、三三五	一、九七六、三一四 ×二七五、八六〇 △一、二三七、六六八	八五三、一一六 ×二五〇、二三七 △一八六、六六三	一、四八三、三八九	四、三一二、八一九 ×五二六、〇九七 △一、四二四、三三一	四、七〇三、三四九 ×四八〇、八〇九	六、三八七、〇九三 ×四四九	一二、八三一
—	—	二五六、三四二立方米	—	—	—	—	—	二二五、六二四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
— ×— △—	二六八 ×— △—	八〇、七五〇 ×二、七一三	— ×—	— ×—	一七二、六〇二 ×二八、一〇一 △二七四、八三三	四三、三五九 ×四五、〇六二 △一〇七、九四二	一五、一九六 ×五、〇七三 △一、二四一	一二一、〇七一 ×—	— ×—	— ×—	一七九、五二六 ×五〇、一三五 △一〇九、〇八三	— ×— △—	二一五、一三八 ×一一八、五四六 △一六六、五四八	—	二一五、一三八 ×一一八、五四六 △一六六、五四八	七五四、八四一 ×九二、四六七	三三三、一八六 ×—	一一、七〇三
—	—	二、〇三八、九一八立方米	二九七・八米	二五二・〇米	—	—	—	二、一六五、二五〇	五五二・六米	二五三・八米	—	一、二二一九米	—	一、一四九	—	—	—	—
一一四、一九八 ×一一、七六九 △三〇、六〇二	一三〇、七七一 ×七、六九六 △四七、二四五	七三七、三四四 ×二、九八六	八三、七二七 ×九、四七〇	六一、四七八 ×六、四五六	一、八五六、六七六 ×一一四、五三六 △一、一九九、八八五	三〇二、九六三 ×二三三、二四三 △九二八、三九五	五二四、三五六 ×六八、六八六 △一二九、〇二三	七〇九、〇〇六 ×一五、五六一	八一、四二三 ×一五、八八三	六三、三九三 ×二三、七〇二	一、六八一、一四一 ×三五六、〇七五 △一、〇五七、四一八	一、九七六、三一四 ×二七五、八六〇 △一、二三七、六六八	一、〇六八、二五四 ×三六八、七八三 △三五三、二一一	一、四八三、三八九	四、五二七、九五七 ×六四四、六四三 △一、五九〇、八七九	五、四五八、一九〇 ×五七三、二七六	六、七二〇、二七九 ×四四九	二四、五三四
一・〇〇	〇・九〇	〇・三一		〇・八五	〇・三四	〇・四六		〇・三五		一・〇〇	〇・四二	〇・四八		一・〇〇	〇・五三	—	—	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營繕費		△×		△×		△×	
		一、〇一九、六二六、六四四、九四一、六四六円		六、七〇二、二七七円		一、〇二六、三三八、七一四、六一六円	割分
雜費		×		×		×	
		一、二一二、三七六、六〇七		一四三、六九八		一、三五六、〇七四、六〇七	
共濟組合給與金						四二、〇四〇	
		三二、四六四		九、五七六			
臨時手當						二五、五二八	
		二五、五二八					
總計		△×		△×		△×	
		二〇、八九一、七七三、四三、九八七、二九七、八六四		一、八二六、九七五、二八九、四七八、〇四六、四六四		二二、七一八、七二、四五五、三一、七八四、二八七	〇・六五

第四　横濱港修築工事

緒言

横濱港ハ元横濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其内外貿易ハ累年增進長足ノ進歩ヲ爲シ神戸港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戸タリ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治二十二年以降漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造、港内ノ浚渫、海面ノ埋立、岸壁物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機其他ノ陸上設備竝ニ防波堤ノ修繕、棧橋ノ改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計約一千八百萬圓(内横濱市負擔額二百七十萬圓)ヲ支出シテ大ニ本港貿易ノ增進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備稍々見ルベキモノアリト雖モ駸々トシテ止マザル本港ノ發展ハ早クモ是ガ不備狹隘ヲ告グルニ至ル玆ニ於テ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ大正十年度以降十箇年度繼續事業トシテ其豫算ヲ第四十四回帝國議會ニ提出シ工費一千三百四十五萬圓ノ協贊ヲ得以テ横濱港第三期擴張工事ノ實現ヲ見ルニ至レリ然ルニ最近鶴見、生麥方面ニ於ケル工業ノ發展著シク出入船舶益々多キヲ加フルニ至リ勢ヒ堤外繫泊船ノ增加ヲ來タシ海運不況ノ當時ニ於テスラ入港船舶ノ一割一分ハ堤外繫泊ノ已ムナキ狀況ニアリ港勢斯ノ如キヲ以テ入港船舶ノ堤外ニ於ケル繫泊竝ニ荷役ノ安全ヲ期スル爲メ更ニ安全ナル外防波堤ヲ施設スルノ要アルモ經費ノ關係上是ガ一部ノ築造ヲ追加シ從來ノ事業年度ヲ延長シ十七箇年度繼續事業トシテ其豫算ヲ第五十二回帝國議會ニ提出シ工費八百三十二萬圓ノ追加協贊ヲ得タリ此合計總工費實ニ二千百七十七萬圓ナリ今其總豫算及更正年度割額ヲ擧グレバ左ノ如シ

横濱港修築費總豫算内譯

種別	金額
外國貿易設備費	
事業費	
岸壁及護岸費	三、六三八、〇七七円
埋立費	四六三、五〇〇
橋梁費	六六八、五三〇
防波堤費	四六九、一五〇
船舶及機械費	七三六、一〇〇
雜費	六二八、二四三
計	六、六〇三、六〇〇
事務費	三八八、四〇〇
合計	六、九九二、〇〇〇
内國貿易設備費	
事業費	
岸壁及護岸費	一、八七七、七七八
埋立費	一五三、六〇〇
船舶及機械費	五四一、七四二
雜費	三七六、八八〇
計	二、九五〇、〇〇〇
事務費	一六〇、〇〇〇
合計	三、一一〇、〇〇〇

種別	金額
浚渫費	
事業費	
浚渫費	一、一四二、〇〇〇円
船舶及機械費	一、三二八、〇〇〇
雜費	二二九、八〇〇
計	二、六九九、八〇〇
事務費	二三八、二〇〇
合計	二、九三八、〇〇〇
繫船浮標費	
事業費	
浮標費	四一〇、〇〇〇
防波堤費	六、八七五、〇〇〇
船舶及機械費	四八〇、〇〇〇
雜費	四五六、六〇〇
計	七、八一一、六〇〇
事務費	五〇八、四〇〇
合計	八、三二〇、〇〇〇
總計	
事業費	二〇、四七五、〇〇〇
事務費	一、二九五、〇〇〇
計	二一、七七〇、〇〇〇

横濱港修築費豫算年度割表

年度	事業費	事務費	合計	國庫負擔	横濱市負擔
大正十年度	九四〇、〇〇〇円	六〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	—円	一、〇〇〇、〇〇〇円
同十一年度	九四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—	一、〇〇〇、〇〇〇
同十二年度	八一八、七七五	六〇、〇〇〇	八七八、七七五	八七八、七七五	—
同十三年度	三〇〇、〇〇〇	—	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	—
同十四年度	七三六、二二五	三五、〇〇〇	七七一、二二五	七七一、二二五	—
昭和元年度	一、四六〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五五〇、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
同二年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
同三年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、二二一、二二五	二七八、七七五
同四年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
同五年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一五五、七七五	一、三四四、二二五
同六年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同七年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同八年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同九年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同十年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同十一年度	一、四一〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同十二年度	一、一八〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一、二七〇、〇〇〇	一、二七〇、〇〇〇	—
累計	二〇、四七五、〇〇〇	一、二九五、〇〇〇	二一、七七〇、〇〇〇	一六、五四七、〇〇〇	五、二二三、〇〇〇

外國貿易設備

埋立　北防波堤内外ニ亙リ面積三十三萬四千五百三十三平方米ヲ朔望平均干潮面上三米八ニ埋築スルモノニシテ延長約一千五百二十米、其幅員三百十二米、二百五十一米及百五十米ノ三段ヨリ成リ且神奈川寄海岸ニ平行シテ港内側ニ小突堤ヲ築設ス

岸壁及物揚場　前記埋立地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航船舶ヲ繫留シ得ベキ大岸壁ヲ築造シ船溜ニ面スル部分ハ水深三米ノ岸壁及斜面物揚場トシ艀船ノ荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ之ヲ護岸トス其内譯左ノ如シ

名稱	朔望平均干潮面下水深	有效延長	繫留船隻數
岸壁	一二・〇米	二九〇米	五萬噸級一隻
繫船岸 同	一一・〇	二八三	三萬噸級一
繫船岸 同	一〇・〇	五二七	二萬噸級三
繫船岸 同	九・〇	三〇九	一萬噸級二
繫船岸 計	—	一、四〇九	七

名稱	朔望平均干潮面下水深	有效延長	繫留船隻數
物揚場 岸壁	三・〇米	一、一九〇米	—
物揚場 斜面物揚場	三・〇	六四二	—
物揚場 計	—	一、八三二	—
護岸	—	六六八	—
總計	—	三、九〇九	—

荷役能力ハ繫船岸ニ於テハ一箇年一米當リ五百五十噸トシ七十七萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十噸トシテ八十萬六千噸、合計一箇年百五十八萬一千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

艀船溜及艀船水路　小突堤ノ内側ト千若町及橋本町沿岸トヲ以テ包圍スル海面並ニ橋本町ノ一部ヲ水深三米ニ浚渫シ艀船溜トス其面積ハ航路ヲ除キ約八萬平方米ナリトス又埋立地背面ト在來防波堤トノ間ニハ平均幅員約七十米、長サ約八百二十米ノ水面ヲ存置シテ水深三米艀船水路ト爲シ其兩端ニハ在

來防波堤ノ一部ヲ除却シテ出入口ヲ設ケ尙ホ新ニ延長百八十米及二百十米ノ防波堤二條ヲ增築シ以テ艀船ノ出入ニ便ス聯絡橋梁、埋立地ト千若町トノ間ニハ徑間三十六米一連、二十米二連、幅員二十四米ノ人道橋及幅員八米ノ鐵道橋ヲ架設ス而シテ其有效高ヲ朔望平均滿潮面上五米トス

內國貿易設備

埋立　表高島町地先ニ於テ面積六萬二千二百三十八平方米、山內町地先ニ於テ同四萬九千九百十一平方米、合計面積十一萬二千百四十九平方米ヲ朔望平均干潮面上三米五ニ埋築ス

岸壁及物揚場　各埋立地ノ前面ニハ何レモ朔望平均干潮面下水深七米三ノ岸壁ヲ築造シ三千噸級汽船ノ接岸荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ水深二米七ノ岸壁及物揚場竝ニ護岸トス其內譯左ノ如シ

名稱	所在	朔望平均干潮面下水深	有效延長	繫船隻數
繫船岸壁	表高島町地先	七・三米	六四八米	三千噸級五隻
同	山內町地先	七・三	四二三	同 三
計		—	一〇七一	八
物揚岸壁	表高島町地先	二・七	三四四	—
同	山內町地先	二・七	四六	—
斜面物揚場	表高島町地先	二・七	二三九	—
同	山內町地先	二・七	九一	—
計		—	七二〇	—
護岸	山內町地先	—	一一八	—
總計		—	一、九〇九	—

荷役能力ハ繫船岸及物揚場一箇年度一米當リ夫々五百五十噸及四百四十噸トシテ合計一箇年九十萬七千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

艀船溜　表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間ハ其沿岸ヲ艀船ノ荷役ニ供スルト共ニ艀船ノ船溜ニ充テ山内町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ幅員七十八米五ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地艀船荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タルヤ地盤ノ關係上潛函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル好適ノ箇所ナルヲ以テ本修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋築シ存置水面ノ幅員ヲ三十五米ニ止メントス

浚　渫

浚渫計畫ハ岸壁ノ水深其他各設備ト相俟テ港内ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十一米トシ且港外ニ於テ幅員二百二十米、長サ九百米ノ航路ヲ水深十一米ニ浚渫ス其他艀船溜等ノ浚渫ハ外國貿易設備地附近ノ部分ヲ水深三米トス而シテ大正十年度以降同十二年八月末日迄ニ於テ面積二百三萬三千三百平方米此浚渫土量九十三萬五千九百三十立方米ノ竣功ヲ見タリシガ同年十二月港内實測ノ結果既成部分ニ變更ヲ來シ面積百萬二千八百平方米此土量六十五萬九千二百立方米トナル卽チ大正十三年度以降浚渫スベキ面積三百二十萬二百平方米ニシテ之ガ浚渫土量四百九十一萬八百立方米トス

繫船浮標　近時大型船舶ノ出入激增シ大型汽船繫留用ノ浮標增設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ一萬噸級七個及三千噸級十個ヲ設置ス

艀船溜新設　本港内大岡川口ニ延長二百米ノ波除堤ヲ築造シ水面積七萬八千百平方米ヲ抱擁シテ艀

船溜場ニ充テ現在艀船ノ混雜ヲ緩和セントス

外防波堤新設　本牧十二天ヨリ鶴見川尻ニ向ヒ起點ヨリ一千九十一米ノ間隔ヲ置キ延長一千米ノ防波堤一基ト夫レヨリ二百七十三米ノ間隔ヲ置キ延長一千二百七十三米ノ防波堤一基トヲ築造シ以テ現在防波堤外繫留船舶ニ最モ危險ナル東々風及東南風ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ前年度ニ引續キ施行セリ其概要左ノ如シ

一　岸壁及護岸工事

(イ)外部護岸築造工事　外國貿易設備地ノ一部北水堤外ニアル延長六百四十六米ノ護岸ヲ築造スルモノニシテ大正十四年六月著手シ前年度迄ニ於テ延長六百三十五米ヲ完成シ本年度ハ其殘部十一米ヲ施工シ昭和二年五月全工事ヲ竣功セリ此工費九萬四千三百八圓ヲ要セリ

(ロ)三米岸壁及三米物揚場工事　施工延長前者ハ五百三十一米、後者ハ五百八十米ニシテ大正十四年十二月工事ニ著手シ前年度迄ニ於テ兩者ヲ合シ延長百十九米、本年度ハ同三百七十二米ヲ竣功セリ

(ハ)十米岸壁工事　延長五百二十八米ニシテ大正十五年六月其西北端ヨリ工事ニ著手シ本年度ハ延長百八十八米ヲ竣功セリ

(ニ)九米岸壁工事　延長三百二十七米ニシテ昭和二年三月五日工事ニ著手シ前年度ハ僅ニ基礎、根掘ヲ爲シタルノミナリシガ本年度ハ延長百十三米ヲ竣功セリ

(ホ)二米七岸壁及物揚場工事　內國貿易設備地ノ一部山內町地先埋立ノ西側ニ延長九十五米ヲ施工スル

モノニシテ昭和二年十一月工事ニ著手シ本年度ハ全長ニ亙ル基礎工、扶壁體工ヲ竣功シ又一部ノ裏込工ヲ完成セリ

（ヘ）橋詰護岸工事　橋梁ノ兩側ニ延長百六十米ノ護岸ヲ築造スルモノニシテ昭和二年十一月工事ニ著手シ既ニ十二個ノ扶壁體据付ヲ完了シ又上部場所詰混凝土モ延長二十米ヲ施行セリ

（ト）函及扶壁體製作工事　本年度ハ十米岸壁用函七個、九米岸壁用函十七個、計二十四個又扶壁體ハ三米岸壁及物揚場用四十個、二米七岸壁物揚場用十九個、橋詰護岸用十三個、計七十二個ノ製作ヲ了セリ

二　浚渫工事

浮島丸（鋤簾式）、龍神（掻揚式及二號、五號、六號（以上プリストマン式）五隻ノ浚渫船ヲ使用シ水深十一米、十米、九米、七米三米三及二米七區域ヲ浚渫セリ此土量七十三萬五千九百四十三立方米ナリ而シテ此浚渫土砂ハ底開土運船、側開土運船及甲板張土運船ニ搭載シ外國貿易用埋立地ノ一部及港外沖合竝ニ喞筒船ノ吸込箇所ニ投棄シ或ハ諸工事ニ利用セリ

碎岩工事ハ浚渫ノ一部トシテ施工シタルモノニシテ「ロプニッツ」碎岩船一隻ヲ使用シ水深七米三區域ノ海底土丹岩盤ヲ破碎セルモノニシテ此碎岩土量一萬四千五百八十七立方米ナリ

三　埋立工事

外國貿易設備地ノ一部北水堤内外ノ總面積二十萬五百平方米ニシテ本年度ハ面積一萬一千三百平方米、土量三十九萬三千四百三十三立方米ノ埋立ヲ施行セリ而シテ北東ハ外部護岸、北西ハ三米岸壁及物揚場ニ依リ其他ハ浚渫土丹ヲ利用シテ土留堤ヲ築造シ特ニ南東側ハ波浪ニ耐ユル爲メ上部ハ古方塊ヲ用ヒ根固ニハ古混凝土塊片ヲ使用セリ

四　防波堤工事

(イ)舊防波堤取除工事　外國貿易設備地北水堤附近埋立及北水堤一部變更ニ伴フ該水堤ノ不用部分ヲ取除クモノニシテ大正十四年十二月工事ニ著手シ同年度ニ於テ延長七十三米、本年度ハ三百六十米、計四百三十三米ノ取除キヲ了セリ

(ロ)防波堤築設工事　外國貿易設備地ノ東北部ニ延長二百米ノ防波堤ヲ築造スルモノニシテ昭和二年十一月工事ニ著手シ既ニ中央部分百米ヲ竣功セリ

五　橋梁工事

本工事ハ昭和二年一月起工シ埋立地側第一橋臺(南側)第二(北側)第一橋脚(南側)千若町側第二橋臺ノ順序ニ施工シ本年度中ニ下構工事ノ九割ヲ竣功シ上構工事ハ鐵桁ノ材料ヲ八幡製鐵所ニ求メ其ノ製作ヲ大阪汽車製造株式會社ニ命ジ昭和三年六月完成ノ豫定トス而シテ橋梁ノ橋詰ニ於テハ護岸ヲ突出セシメ兩橋臺前面間距離ヲ七十六米トシ其間ニ橋脚二基ヲ設ケ中央徑間三十六米、兩側ハ夫々二十米トセリ上構ハ上路式鋼鈑桁橋ニシテ兩側ヲ「アンカースパン」トシ中央ニ向ツテ突桁ヲ出シ長二十米ノ「サスペンデットスパン」ヲ支持ス本橋ハ港内側門ニ當ルヲ以テ艀小形船通航ニ便スル爲メ下面水路ハ干潮面下三米ノ水深ヲ保タシメ又中央二十米ノ間ハ滿潮面上鋼桁下端迄ノ高ヲ五米ナラシムルガ故ニ海底上橋面迄ノ高ハ十一米七ニ達ス從テ埋立地ト橋梁トノ取付道路ハ五十分一ノ勾配ヲ附シ延長約二百二十五米ニ達ス

(イ)橋臺工事　第一橋臺及第二橋臺ト分チ施工ス而シテ第一橋臺ハ其地盤水深三米ノトコロニアルヲ以テ幅員十四米、長四十五米ノ長方形ニ鐵矢板ヲ打込ミ締切工ヲ施シ矢板ノ根入ハ干潮面以下六米ニ達セ

シメ米松角材ヲ以テ支柵工ヲ作リ矢板ノ位置ヲ固定シ根掘ヲ行ヒ地均シ基礎混凝土ヲ施シ更ニ鐵筋混凝土ヲ以テ上方ニ進行セリ次ニ第二橋臺ハ其工法第一橋臺ト全然同樣ナルモ唯前者ノ場合程根掘ヲ深クセズシテ松丸太杭ヲ打込ミ之ヲ基礎工トシテ其上ニ混凝土ヲ施シタリ

（ロ）橋脚工事　浚渫船ヲ以テ根掘ヲ行ヒ松丸太杭ヲ打込ミ割栗石ヲ干潮面以下四米五ニ敷均シ底幅六米、長四米八、高六米五ノ截頭角錐形ニ相似ノ無底函七個ヲ列ベ橋脚一基トセリ其無底函底部ノ基礎ニ接スル部分ニハ袋詰混凝土ヲ用ヒ無底函ヲ据付ケ頂部ハ干潮面上二米ニ達ス無底函ノ内部ハ底面ヨリ一米乃至一米半ノ厚ニ水中混凝土ヲ施シ其硬化ヲ待チテ函内ノ水ヲ汲出シ中詰混凝土ヲ施行シ更ニ干潮面上五米二十二ノ高迄場所詰混凝土ヲ施行セリ

六　營繕工事

本年度ハ倉庫、雜建物ノ增築竝ニ其他ノ諸修繕ニ一萬三千八百四十二圓ヲ要セリ

七　船舶及機械修理製作

本年度ニ於ケル工事ハ船舶及機械ノ修理、製作竝ニ工業材料ノ製作トス而シテ船舶及機械ノ修理製作ハ主トシテ直營ヲ以テ施行シタルモ工事ノ都合上其一部ヲ請負ニ附シタリ

前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ本年度ノ竣功額百六十八萬八百十三圓、創業以來本年度迄ノ竣功額六百六十二萬六百三十四圓ニシテ工事費二千四十七萬五千圓ニ比シ約三割二分ノ竣功ヲ見タリ其工事竣功表左ノ如シ但シ雜費中ニ營繕工事竣功金額ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	七五四・三七米	五九一、二一七円	六八五・〇五米	七二六、一三六円	一、四三九・四二米	一、三一七、三五三円	〇・二四割分
浚渫費	七三一、七九五、〇一六立方米	六八五、四六五	七三五、九四三立方米	一六四、〇三〇	二、五三〇、九五九立方米	八四九、四九五	〇・七四
埋立費	一、〇二〇、〇〇八	一三六、一七五	三九三、四三三	五二、一二六	一、四一三、四四一	一八八、三〇一	〇・三〇
防波堤費	二〇〇米	五四、三三九	—	三二、三四〇	—	八六、六七九	〇・〇一
橋梁費	—	七、一六一	—	二四五、四四三	—	二五二、六〇四	〇・三八
繫船浮標費	—	一八三、六二八	—	—	—	一八三、六二八	〇・四五
船舶及機械費	—	二、二八五、一〇六	—	二六四、九九八	—	二、五五〇、一〇四	—
雜費	—	九七四、五九一	—	一八一、三〇九	—	一、一五五、九〇〇	—
共濟組合給與金	—	二二、一三九	—	一四、四三一	—	三六、五七〇	—
總計	—	四、九三九、八二一	—	一、六八〇、八一三	—	六、六二〇、六三四	〇・三二

第五　門司港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算五百二十五萬圓(內八十七萬五千圓門司市負擔)ヲ以テ大正八年度以降八箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ノトコロ豫算ノ關係上大正十二年度ニ於テ工期二箇年度、同十四年度ニ於テ同一箇年度ヲ延長シ竣功期ヲ昭和四年度トスルコトトナレリ

港狀竝計畫大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナル實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム之ヲ以テ同港ノ貿易ハ年々堅實ニ發達シ加フルニ關門海峽整理工事ノ進捗ト北九州工業ノ勃興トハ益々本港ノ眞價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至リテハ何等見ルベキモノナク貨物ノ殆ンド全部ハ沖荷役ニ依リ處分セラルル狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルハ焦眉ノ急ニ屬ス是レ本工事ノ由テ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記スレバ左ノ如シ

白木埼ヨリ北東ニ向ヒ幅平均九十米、延長一千二百九十六米、平均最大干潮面以上三米八ニ埋築シ其前面ニハ水深十米ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充ツルモノトス

現在第一船溜ノ陸舌ヲ撤去シ之ニ代フルニ沖合九十米ノトコロニ岸壁兼用ノ防波堤ヲ築キ其外側ニ水深七米二ノ岸壁ヲ設ケ中國通定期船二隻若クハ三千噸級船一隻ノ繫留ニ便シ內側ハ水深三米六ト爲シ

大形艀船ノ使用ニ供シ船溜内ハ其一部ヲ埋立テ物揚場トシ既成税關埋立地ト共ニ鐵道ノ聯絡ヲ圖ラントス其他護岸ノ水深二米四トス

前記防波堤ト外國貿易用埋立地トノ間ニ介在スル延長三百十五米ヲ以テ鐵道省關門聯絡船及公私汽艇用ノ繫留棧橋設置箇所ニ充テ尚其沿岸幅十八米ヲ埋築シ之ヲ道路敷ニ充ツ而シテ護岸ハ總テ水深二米四ヲ保タシム

白木埼以南外國貿易用埋立地ニ接シテ現在海岸ニ竝行シ沖合幅平均九十米、長八百三十七米ヲ埋立テ在來ノ貯炭場ヲ此所ニ移シ其前面ニ水深三米六ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ニ供スルモノトス前記新貯炭場西南端鐵道省埋立地ノ前面ニ當リ三米六岸壁見透シ線内ニ長六百六十六米ノ防波堤ヲ築造シ以テ艀船ノ碇泊ニ便ナラシメントス

埋築面積總計二十三萬八千九百二十平方米ニシテ内、外國貿易部十二萬七千三百八十平方米、内國貿易部三萬三千平方米、石炭取扱所七萬八千五百四十平方米ナリトス

施工狀況

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ外國貿易部十米岸壁竝ニ内國貿易部二米四岸壁ノ築造及其内部ノ埋立ヲ施行シタル外年度末ニ於テ大正十年以度來休工中ナリシ防波堤工事ノ捨石ニ著手セリ其概況左ノ如シ

岸壁用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ前年度同樣專ラ十米岸壁用函ヲ製作セリ其數八個起工以來ノ累計六十九個ニシテ本岸壁函ノ製作ヲ完了セリ

塊製作工事ハ前年度迄ニ二米四岸壁用L型塊百十九個竝ニ方塊百九十二個ヲ製作シ本年度ニ於テハ二米四岸壁用L型塊四十一個及同岸壁階段用方塊八個ヲ製作セリ

岸壁工事ノ狀況左ノ如シ

(イ)石炭取扱所三米六岸壁(長サ八百二十八米)ハ大正八年度ニ著手シ同十三年度迄ニ工事用假船入場出入口約三十六米ヲ除キ他ハ殆ンド竣功シ本年度ニ於テハ何等施工セズ而シテ本岸壁ノ竣功歩合九割五分餘ナリ

(ロ)外國貿易部十米岸壁(長一千二百九十六米)ハ大正十年度著手シ前年度迄ニ岸壁ノ主體タル混凝土函六十個、延長一千百三十四米ノ据付ヲ終リ本年度ニ於テハ混凝土函九個、延長百七十四米ヲ据付ケ函內部混凝土塡充百七十三米、頂部混凝土二百七十米ヲ施行セリ本年度末ニ於ケル竣功歩合ハ約九割五分ニ達ス

(ハ)外國貿易部東側面小蒸汽船繫留場二米四岸壁延長百八米ハ大正十、十一兩年度ニ於テ竣成セシメ其以東ニ於ケル區域ノ內鐵道關門連絡船用棧橋ニ至ル區域約百八十米ヲ昨年度後半期ヨリ著手セルモ僅ニ基礎床拵ヲ施行セシニ止リシガ本年度前半期間ニ於テ該區域ヲ略々竣功セリ

(ニ)石炭取扱所ノ西方ニ築造スベキ防波堤工事ハ大正十年一部捨石工事ヲ施シ爾來豫算ノ關係上休工中ナリシモ本年度末ヨリ再ビ著手シ捨石十五米七ヲ施行セリ

埋立工事ハ大正八年石炭取扱所西端ヨリ著手シ次デ外國貿易部ニ及ボセリ而シテ前年度迄ニ前者ハ本工事用假船溜場ニ供セル部分ヲ除クノ外全部ヲ竣成シ後者ハ東部ヨリ約三百九十六米西端ヨリ約二百五十二米ヲ竣成セシメタルガ本年度ハ外國貿易部ニ於テ東部既成埋立地ニ續イテ其西方約二百十六米及西部淺野セメント會社工場前面百八米ヲ施行シ內國貿易部ニ於テ二米四岸壁裏約百七十一米ノ埋立

ヲ竣成セリ本年度ノ埋立土量約二十二萬六千五百四十立方米ニシテ起工以來ノ累計ハ約百四十一萬四千七百二十立方米ヲ算シ此外民間等ヨリ投棄シタルモノ累計約七萬九千百六十立方米ヲ合セバ其竣功歩合約六割八分ニ達ス

竣功箇所ノ内石炭取扱所東部長五百六十七米、幅七十二米ヲ門司市ニ對シ利用ヲ承認シ鐵道省ニ於テ此處ニ石炭棧橋ヲ設置シ舊石炭置場ヲ此所ニ移轉シ又外國貿易部東部埋立地長百八十米、幅九十米ノ箇所ニハ大藏省ニ於テ稅關ビルヂングヲ建築シ同西部埋立地ノ一部ハ一時石炭置場ニ供用シ一部ハ淺野セメント工場ニ於ケル假荷役設備施行ノ爲メ一時其ノ使用ヲ許可セリ

其他工事用諸機械ノ運轉、雜石、砂利、砂直營採取及自記檢潮機移設工事等ノ雜工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ二十五萬七千四百六十七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四百十萬四千百九圓ヲ算シ工費總豫算四百九十三萬五千三百二十圓ニ對シ八割三分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「※」ハ民間等ヨリ直接埋立地内ニ投棄シタル土量「△」ハ評價物品見積代價ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ兩工場設備費、型枠費及雜石、砂利及砂等ノ採取費竝ニ工事用諸機械運轉費等ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
岸壁及防波堤費							
埋立費	※	△	※	△	※	△	
	一、二八八、一七二	二、五五六、九六九	二二六、五四八	一八五、四三七	一、四一四、七二〇	二、七四二、四〇六	〇・七五
	六四、四一二	七、三八七	一四、七四八	一、四〇二	七九、一六〇	八、七八九	
浚渫費	▲	▲	△	△	△	△	
	四、三五〇	二、一三四	—	—	四、三五〇	二、一三四	〇・六八
							〇・〇五

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	—	△八三五、八六一五、八一六四円	—	△三六、六八三八五一円	—	△八七二、五四一六、一九九七円	割分 —
營繕費	—	△一一六、七九〇五〇三	—	△一一七	—	△一一六、九〇〇五〇三七	—
雜費	—	△一九七、七七五六、一〇二	—	△一七、九四八八	—	△二一五、七〇三六、一一〇	—
共濟組合給與金	—	八、五九八	—	一、六九二	—	一〇、二九〇	—
臨時手當	—	一二、一九三	—	—	—	一二、一九三	—
總計	—	△三、八四六、六四二三七、七二九	—	△二五七、四六七三、九二二	—	△四、一〇四、一〇九四一、七二一	〇、八三

第六　長崎港修築工事

緒言

本工事ハ長崎市ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ當初ハ總工費百五十萬圓(内七十五萬圓國庫補助)ヲ以テ出島埋立竝ニ其前面浚渫工事ヲ施行スルコトトシ大正九年度ヨリ同十一年度ニ至ル三箇年度ノ繼續事業ナリシガ同十一年度ニ於テ元船町岸壁及埋立費九十萬圓(内四十五萬圓國庫補助)ヲ追加シ工期二箇年度ヲ延長シ更ニ港口大曾根ノ除礁費九萬圓(内六萬圓國庫補助)ヲ追加シ其後事業繰延ノ爲メ工期二箇年度延長セシヲ以テ最終ニ於ケル豫算總額二百四十九萬圓竣功期昭和元年度迄ナリシモ同年度内ニ工事竣功ニ至ラザリシ爲メ更ニ一箇年度ヲ延長シ本年度ニ竣功ヲ告ゲタリ

港狀竝計畫大要

本港ハ九州ノ西岸ニ位シ地形深ク東北方ニ彎入シ四時風浪穩ニシテ我國ニ於ケル天然無比ノ良港ナリト雖モ内外通商貿易ノ發達ハ次第ニ出入船舶ノ增加ト共ニ船型ノ增大ヲ來シ天然ノ形勝ノミニ委スベカラザルニ至リ明治三十年度ヨリ同三十七年度ニ亙リ國費ノ補助ヲ得テ港内ヲ浚渫スルト同時ニ沿岸ヲ埋築整理シ港灣トシテ稍々其面目ヲ一新セリト雖モ水陸聯絡ノ設備ニ至リテハ殆ンド之ヲ缺キ泊地亦狹小ニシテ輓近商工業ノ急激ナル發展ノ爲メ出入貨物增加シ殊ニ歐洲大戰ノ結果支那南洋方面トノ航通漸次頻繁ヲ加フルニ至リ從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ由テ起リシ所以

ナリ今計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

出島沿岸長四百十四米、幅平均四十五米ヲ干潮面上四米二ニ埋立テ其前面ニ水深九米ノ岸壁ヲ築造シ八千噸級汽船二隻又ハ五千噸級汽船三隻ノ接岸ニ便セシメ兩側面ニハ五十二米宛ノ斜面荷揚場ヲ設クルモノトス

元船町沿岸長五百四十米、幅平均四十九米ヲ干潮面上四米二ニ埋立テ其前面ニ水深二米七、一米八及〇米九ノ岸壁ヲ築造シ小型汽艇及帆船ノ接岸荷役ニ便セシメ兩側面ニハ各護岸將來鐵道橋臺敷ニ充テラルル部分ニ假護岸ヲ設クルモノトス

港内第一區内ニ於テ面積約三十三萬平方米ヲ水深九米ニ浚渫シ同水深以上ノ水面積九十九萬平方米ヲ約百三十二萬平方米ニ擴大セントス

港内第三區内ニ存在スル大曾根岩礁ヲ水深十米八ニ碎岩、浚渫シ航行船舶ノ出入ヲ安全ナラシム

次ニ本年度ニ至リ既定豫算ノ範圍ニ於テ大波止前面ニ固定棧橋一箇所及浮棧橋二箇所ヲ追加計畫セリ

埋立地上ニ施行スベキ鐵道其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ待ツモノトス

施工狀況

出島岸壁及埋立工事竝ニ大曾根除礁工事ハ大正十三年度中ニ完成シ元船町岸壁及埋立工事亦前年度迄ニ其大部分ヲ終リ本年度ニ於テハ埋立地北端水上警察署前面ヲ主トシ同南端及中央部ノ殘工事大浦前面ノ浚渫殘工事ヲ施工セル外本年度ニ於テ新タニ追加計畫セル棧橋設置工事ヲ施工シ何レモ完成セリ

今本年度ニ於ケル施工狀況ヲ示セバ左ノ如シ

元船町岸壁工事ハ二米七岸壁、一米八岸壁、〇米九岸壁、護岸及假護岸ニ區分施行スルモノニシテ二米七岸壁ハ前年度ニ完成シ一米八岸壁ハ前年度ニ引續キ大波止前面(長百八米)ノ殘部ヲ施行シ昭和二年五月中完成セシヲ以テ引續キ北部水上警察署前〇米九岸壁ニ接續スル部分(長九米)ニ移リ同年十月迄ニ全部完成セリ

〇米九岸壁(長サ二十五米內階段十八米)ハ昭和二年五月著工シ隣接セル一米八岸壁及護岸竝ニ背面埋立工事ト共ニ同年十月末ヲ以テ完成セリ

護岸及假護岸ハ前年度ニ引續キ南側ノ殘工事ヲ施行シ昭和二年六月之ガ完成ト共ニ北部水上警察署前(護岸長二十五米、假護岸長九米)ニ著手シ同年十月末何レモ完成セリ

浚渫工事ハ前年度ニ引續キ鋤鏈式浚渫船玉浪丸及附屬曳船竝ニ土運船ヲ使用大浦前面ニ於テ石交リ硬土ヲ浚渫シ昭和二年十月末迄ニ九千九百立方米累計五十五萬七千三百五十八立方米ニ達シ茲ニ全部ノ竣功ヲ見タリ

元船町埋立工事ハ前年度ニ於テ其大部分ヲ終了シ名古屋土木出張所ヨリ借入使用中ノ喞筒式浚渫船木曾川丸ハ昭和二年五月返還シ爾來プリストマン式浚渫船二隻(內一隻ハ長崎市ヨリ借入レタリ)ヲ使用同年十月末迄ニ一萬九千九百五十立方米、累計三十一萬四千七百四十四立方米ヲ埋立テ全部ノ竣功ヲ見タリ之ニ出島埋立ヲ合スレバ總土量五十三萬六千四百三十立方米ナリ

棧橋工事ハ大波止前面ニ固定棧橋(長十米八、幅四米五)一箇所及浮棧橋(長十八米、幅七米二)ノ鐵製浮函船二個ヲ連繫)二箇所ヲ設置スルモノニシテ浮函船四隻、可動橋二個及渡橋ハ尾ノ道市向島ドツク株式會社ニテ作製セシメ昭和二年十月取付ヲ了シ完成セリ

右ノ外工事用砂、雜石等ヲ直營採取セリ

本年度內竣功高ハ十三萬五千二百五十七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計二百三十一萬七百八圓ヲ以テ竣功セリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及護岸竣功金額中ニハ函工場設備費、型枠費、出島工場設備費、基礎試驗工事及雜石、砂、砂利等ノ採取費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	割分
岸壁及護岸費		△一、〇〇八、八〇八、〇八五円		△二〇、三九一、一〇七〇円		△一、〇二九、一九九、一九二円	一・〇〇
埋立費	五一六、四八〇立方米	△一五四、一六三、七五八	一九、九五〇立方米	△五、六一九、二六一	五三六、四三〇立方米	△一五九、七八二、〇一九	一・〇〇
浚渫費	五四七、四五八	△二一六、九七二、八〇二	九、九〇〇	△一一、四三〇、八八〇	五五七、三五八	△二二八、四〇二、三、六八二	一・〇〇
棧橋費		△五九七、二五一、一、九五八		△二〇、六四八、一三		△六一七、八九九、一、九七一	
船舶及機械費				△五八、三八七、五九七		△五八、三八七、五九七	一・〇〇
營繕費		八、九〇〇				八、九〇〇	
雜貸		△一八一、六四一、三六四		△一七、九九三、〇九		△一九九、六三四、六七三	
共濟組合給與金		七、七二一		七九〇		八、五一一	
總計		△三、一七五、四五一、一五九、六七		△一三五、二五七、三、一六七		△二、三一〇、七〇八、一九、一三四	一・〇〇

第七　清水港修築工事

緒言

本港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルニモ拘ラズ其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上不便尠カラズ之ガ修築ハ急務ニ屬スルヲ以テ靜岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度ヨリ同十五年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ總工費五百五十萬圓ヲ計上シ其二分ノ一ヲ國庫補助トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ依ル國ニ於テ事業直接施行ノ件ヲ申請シ來リタルヲ以テ是ガ豫算ヲ第四十四帝國議會ニ提出シ其協贊ヲ得タリ

次デ大正十一年度ニ於テ靜岡縣ハ追加工事トシテ清水港內三保村地先ノ海面五十一萬一千七十五平方米ニ係ル埋立費六十七萬七千圓ノ縣費支辨ヲ以テ施行ノ義ヲ申請シ來リ是亦第四十五議會ノ協贊ヲ得テ施行スルコトトナレリ尙同十三年度ニ鐵道省ハ省用炭陸揚設備ノ不備ナル所以ヲ以テ縣ト協議ノ上巴川河口以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ヲ讓リ受ケ其前面ニ繫船岸ヲ築造シ且其前面六萬六千百十六平方米ヲ浚渫スルノ計畫ヲ樹テ之ガ施行方ヲ內務省ニ委託セリ此工費四十八萬二千二百圓ナリ是等清水港修築工事ハ大正十五年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ偶々政府ノ財政緊縮ニ依リ昭和四年度迄卽チ三箇年度ノ延期トナリタリ

港狀並計畫大要

本港ハ本邦東海岸駿河灣內ニアリテ大平洋航路ノ樞要地ニ方リ横濱神戸兩港ノ間ニ介在シ東海道鐵道

ニ沿ヒ能ク海陸ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ベク其地形トシテハ三保半島ニ圍繞セラレ港内廣濶、波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極メテ安全ナル天然ノ良港ナリ

元和元年德川家康豐臣氏ト兵ヲ交ユルニ及ビ艦船ヲ本港ヨリ大阪ニ廻航シ兵器、食糧ヲ送レリ當時町民最モ輸送ニ努ム其功績ニ因リ德川氏保護政策ノ恩惠ヲ享ケ夙ニ海運ノ隆盛ヲ來シ爾來沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治二十九年ニ至リ開港外外國貿易港ニ關スル規定發布セラルルヤ港ノ有志者此機失フベカラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治三十年六月開港外外國貿易港ニ指定セラルルニ至リ同三十二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ

既往ニ於ケル本港修築工事ヲ視ルニ本港ニ於ケル從來ノ設備トシテハ觀ルベキモノ無シト雖モ明治十一年度ノ築造ニ係ル清水波止場アリ舊問屋卽チ當時回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ其後明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年度間ニ亙リ工費總額三十萬七千八百六十二圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ其大要ヲ擧グレバ清水波止場ノ正北ニ當リ海岸ニ沿ヒ水面積約六萬一千百五十七平方米ノ船入場ヲ設ケ水深干潮面下三米六ニ浚渫シ延長六百三十三米ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニモ延長二百三十六米ノ物揚場ヲ增設シ水深二米一トシ而シテ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積十六萬八千七百九十六平方米ノ埋立ヲ施工セリ

本港輸出入貨物ハ年ヲ逐テ增加シ昭和二年ニハ百十一萬二千噸ニ達シタリ又縣下ノ產業狀況ヲ觀ルニ富士、駿東地方ノ製紙、紡績、靜岡市ノ製茶、濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業ノ製產額大正十一年ニハ一億八千四百萬圓ニ達シ尙漁港トシテ本邦屈指ト稱セラル且近時豐富ナル縣下發電力ノ計畫ハ五十餘萬馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ富士身延ノ中央線連絡ハ甲

信二州ノ物資ヲ本港ニ吸收スルニ至リ本港ノ將來益々發展スルノ機運ヲ示シ來レリ翻ツテ本港ニ於ケル設備ヲ視ルニ清水船渠及舊船渠ノ物揚場延長八百九十六米ニ達スト雖モ其設備不完全ニシテ充分ノ利用ヲ爲スコト能ハズ而シテ本港ニ入港スル外國汽船ハ主ニ米國航路ノ大型船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要ヲ感ズルニモ拘ラズ常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハズ貨物取扱上不利不便ナルコト甚大ナリト云フベシ其他ノ入港船舶ニ於テモ同樣ノ狀態ニアルヲ以テ今日ノ儘ニテハ近時內外貿易發展ノ趨勢ニ順應スル能ハズ茲ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レルナリ

左ニ計畫ノ大要ニ就キ述ベン

清水波止場ト巴川トノ間延長六百十八米ノ沿岸ヲ幅百九米ニ埋立テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深十米六ノモノ二百米、同八米五ノモノ百八十二米、同七米三ノモノ二百三十六米ヲ築造シ其前面ヲ水深九米一、八米五、七米三ニ浚渫シ二萬噸數ノ汽船一隻、八千噸級ノ汽船一隻及三千噸級ノ汽船二隻ヲ同時ニ接岸荷役ニ便セントス又巴川以南ノ沿岸延長一千三十六米、幅平均二百五十五米ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供セントス

三保村地先ノ海面五十一萬一千七十五平方米ヲ埋立テ商工業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資スルモノナリ

浚渫ノ箇所及水深ハ十米六岸壁前面及航路幅三百二十七米乃至四百五十五米ヲ差當リ水深九米一ニ、八米五岸壁前面幅三百二十七米ヲ八米五ニ、七米三岸壁前面幅三百二十七米ヲ水深七米三ニ浚渫ス而シテ漁船ノ船溜ニ便センガ爲メ巴川下流清水港橋以下河口ニ至ル延長九百九米ヲ幅三十六米、水深一米八ニ浚渫ス

以上ハ原計畫ノ大要ナルモ大正十四年十二月及昭和二年十月其一部ノ計畫及修築費豫算内譯ヲ左ノ如ク變更セリ

一、原設計ニ於ケル巴川以南ノ物揚場延長三百六十四米ノ内鐵道省委託ニ依ル岸壁工事ヲ施行ノ爲メ此延長二百六十八米ヲ減ズ

一、原設計ニ於ケル護岸ハ將來ノ利用ヲ考慮シ大部分ヲ水深二米七ノ物揚場ニ變更ス

一、原設計ニ於ケル浚渫區域ノ内巴川前面ノ幅員二百三十六米ハ將來航行船舶ノ安全ヲ期スル爲メ幅員三百二十七米ニ變更ス而シテ浚渫幅員變更ノ結果三保辨天地先ノ土地約五千八百二十五平方米ヲ買收スルモノトス

一、甲物揚場延長ノ内南端ヨリ二十二米ト其内側不二見埋立地ノ内面積六千三百五十三平方米トヲ減ジ以テ小舟溜ニ充當セントス

一、貝島埋立地ノ南側ハ將來造船所用地ニ利用センガ爲メ其幅員西側ニ於テ十八米ヲ延長シ埋立面積六千百二十平方米ヲ增加ス而シテ南側ニハ木柵護岸工事ヲ施行セントス

鐵道省委託工事ハ巴川以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ノ前面ニ水深七米三ノ繫船岸ヲ築造シ其前面約六萬六千平方米ヲ同水深ニ浚渫スルモノトス

左ニ修築費及鐵道省委託工事ノ内譯ヲ掲グ

費目	修築費			
	原豫算	大正十四年度變更豫算	現豫算	鐵道省委託工事豫算
岸壁及護岸費	一、四四六、一四〇円	一、二一九、四七五円	一、一九九、一五二円	二五三、六二〇円

事業費					
浚渫費	一、五七〇、〇〇〇	八一三、三三〇	八一三、三三〇	九八、二八〇	
埋立費	六三三、一九五	五〇六、一七九	五〇七、五九八	—	
船舶及機械費	一、六二〇、五〇〇、	二、四四八、二六七	二、四四八、二六七	七二、三〇〇	
營繕費	一〇〇、〇〇〇	一五三、九五九	一五三、九五九	一〇、〇〇〇	
用地費	三〇四、九〇〇	三八三、四五二	三八三、四五二	—	
雜費	一、一二、二六五	一五二、五六二	一七一、四六六	四八、〇〇〇	
共濟組合給與金	—	二四、八七六	二四、八七六	—	
計	五、七八七、〇〇〇	五、七〇二、一〇〇	五、七〇二、一〇〇		
事務費	三九〇、〇〇〇	四七四、九〇〇	四七四、九〇〇	—	
總計	六、一七七、〇〇〇	六、一七七、〇〇〇	六、一七七、〇〇〇	四八二、二〇〇	

施工狀況

岸壁工事トシテハ大函十四個ヲ製作進水シ內十函(十米六)ハ甲岸壁用,四函(七米三)ハ鐵道省岸壁用トシテ夫々所定位置ニ沈設ス而シテ上部工事ハ乙函三個分ノ大部分ヲ完成ス又護岸工事ハ小函三十四個ヲ製作進水シ三保地先貝島北護岸用トシテ所定位置ニ沈設シ三十六個分ノ上部工事ヲ完成ス尙乙物揚場,貝島乙護岸ノ內貝島西護岸ト貝島木柵護岸ハ夫々竣功セリ此工費二十三萬四千二百八十六圓ナリ(內五萬四千八百七十七圓ハ鐵道省負擔額)

埋立工事ハ三保地先三十七萬八千四百八十七立方米,不二見地先二萬四千百五十七立方米,淸開地先二萬二千七百六十三立方米ノ埋立ヲ爲セリ又上均工事ハ二萬八千八百五十八平方米ヲ施工ス此工費十萬二

千七百八十五圓ナリ

浚渫工事ハ椿號、菖蒲號、富士號（以上バケット式）、草薙（喞筒式）、第三號及第四號グリストマン式浚渫船合計六隻ヲ使用シ航路及巴川河口岸壁豫定位置附近ノ浚渫ヲ行ヒ土砂運搬ハ曳船小蒸汽船四隻、石油發動機船二隻及土運船百二十立方米積七隻、六十五立方米積一隻、四十二立方米積二隻、二十四立方米積四隻ヲ使用ス此浚渫土量五十萬六千六百五十一立方米ニシテ工費十一萬一千六百二十七圓ヲ要セリ（內土量十一萬七千七百五十五立方米工費二萬六百三十三圓ハ鐵道省負擔額）浚渫土砂ハ其一部ヲ當港ノ諸工事竝ニ横濱港修築工事ニ利用シ又ハ民間ニ讓渡シ其他ハ港界外沖合ニ投棄セリ

營繕工事ハ主ニ諸修繕ヲ成シタルモノニシテ三百四十六圓ヲ要セリ

船舶機械修理製作トシテ事務所及機械工場所要諸機械ノ製作及浚渫船六隻、小蒸汽船五隻、自動艇及發動機船六隻、土運船十八隻、起重機船二隻、雜船三十七隻及其他諸機械ノ修理ヲ爲セリ此工費二十一萬五千七百六十五圓ナリ（內二萬二百四十四圓ハ鐵道省負擔額）

其他三保辨天假護岸ノ延長百十九米及不二見排水路工事ノ殘部ヲ完成セリ

前記ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ鐵道省委託工事費ヲ合セ工費七十三萬九千五百五十九圓ヲ要セリ

本年度ニ於ケル本修築工事竣功額ハ六十二萬三千八百四十四圓ニシテ累計五百九萬九千百八十圓ニ達セリ而シテ總工費ニ比スレバ八割九分ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「●」ハ鐵道省委託工事ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
		六〇六、七三三		一七九、四〇九		七八六、一一四	〇・六六
		一〇五、二六〇		五四、八七七		一六〇、一三七	
浚渫費	三、一二四、五三七	●	三、八八、八九五	●	三、五一三、四五三	●	〇・九四
	三四〇、七四八	六七三、四七六	一一七、七五六	九〇、九九四	四五八、五〇三	七六四、四七〇	
		五四、九〇八		二〇、六三三		七五、五四一	
埋立費	七八三、一七三	●	四二五、四〇七	●	一、二〇八、五八〇	●	〇・五〇
		一五〇、七八一		一〇二、七八五		二五三、五六六	
營繕費		一四一、七一五		三四六		一四二、〇六一	
船舶及機械費		二、二七一、五八八		一九五、五二一		二、四六七、一〇九	
		八八、六九二		二〇、二四四		一〇八、九三六	
用地費		三七三、八六三		—		三七三、八六三	
雜費		二三、四一七五		四六、八八六		二八一、〇六一	
		一六、六二八		一九、九六一		三六、五八九	
共濟組合給與金		二三、〇〇五		七、九〇三		三〇、九〇八	
總計		●		●		●	〇・八九
		四、四七五、三三六		一六二、三八四		五、〇九九、一八〇	
		二六五、四八八		一五、七一五		三八一、二〇三	

第八　下關港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算三百六十一萬圓(內百八十萬五千圓下關市負擔)ヲ以テ大正十年度以降七箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ナリシガ豫算ノ關係上大正十二年度及同十四年度ニ於テ工期各一箇年度宛ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和四年度トシタリ

港狀並計畫大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來殷盛ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地狹隘ニシテ大船巨舶ヲ容ルルニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至リテハ一部鐵道構內沿岸ヲ除キ殆ンド之ヲ缺キ輓近內外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ增加ト船型ノ增大ハ最早天然ノ形勝ノミニ依ルヲ容サザルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態ハ未ダ遽ニ計畫ノ施設ヲ容ルル能ハザル可キヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ讓リ先ヅ以テ焦眉ノ急ニ應ズル程度ニ於テ修築工事ヲ施サントス其計畫ノ大要左ノ如シ

停車場以東ニ屬スル部分ハ內外貿易用ニ充ツルモノニシテ其東端ハ內務省埋立地ニ接續シ現在海岸ニ沿ヒ幅五十四米內外ヲ干潮面以上三米八ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面以下二米七岸壁延長二百六十五米、五米四岸壁延長二百二十五米、七米二岸壁延長五百九十米ヲ築造シ七米四岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ長百十七米ノ防波堤ヲ設ケ其內部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ三米六岸壁延長百九十四米、一米八

岸壁延長四百五米ヲ築設スルモノトス

停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛西端貨車航送船發著場ノ北方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅百八米内外ヲ干潮面以上三米八ニ埋築シ其前面ニ五米四岸壁延長三百四十米、東側ニ護岸延長百七十五米、西側ニ二米七岸壁延長百三十七米及護岸延長三十米ヲ築造スルモノトス

埋築面積總計十三萬七千二百八十平方米ニシテ内東部八萬二千五百餘平方米、西部五萬四千四百五十餘平方米ナリ而シテ埋築上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路、其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ待ツモノトス

岸壁ノ前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ尚西部埋立地前面ニ横レル淺洲ハ干潮面以下三米ニ同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺瀬ハ同五米四ニ浚渫スルモノトス

施工狀況

本年度ハ前年度ニ引續キ岸壁、埋立及浚渫工事ヲ施行セリ其概況左ノ如シ

岸壁用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ大正十四年度迄ニ五米四岸壁用函全部(二十九個)ヲ製作シ七米二岸壁函ハ前年度迄ニ二十六個九、本年度五個一、合計三十二個ヲ製作完了シ防波堤函ハ本年度ニ於テ計畫數六個ノ内四個ヲ竣功進水シ殘二個ハ製作中ナリ

岸壁及護岸用ノL型塊及方塊製作工事ハ西部埋立地ノモノハ大正十三年度迄ニ全部(二米七岸壁用L型塊八十個及護岸並ニ岸壁曲折部用方塊二百二十四個)東部埋立地ノモノハ大正十五年度ニ七米二岸壁曲折部用方塊十六個ヲ製作シ本年度ニ於テハ三米六岸壁用L型塊百四十二個及二米七岸壁用L型塊百三

十個方塊四十五個ヲ製作セリ

岸壁及護岸築造工事ハ當初西部五米四岸壁ニ著手シ漸次東部ニ及ボシタルガ前年度迄ニ西部ハ殆ンド完成セシヲ以テ本年度ハ專ラ東部工區ヲ施行セリ其狀況左ノ如シ

（イ）西部五米四及二米七岸壁ハ前年度迄ニ竣功セリ

（ロ）西部竹崎及今浦護岸ハ間知石積トシ岸壁ニ接續スル部分ハ方塊ヲ使用調節スルモノニシテ前年度迄ニ殆ンド竣功シ本年度ニ於テハ今浦護岸ノ殘部分ヲ施行シ全部完成セリ

（ハ）東部五米四岸壁ハ前年度迄ニ大部分ヲ完成シ二米七岸壁トノ接續部僅少ヲ殘スノミナリシガ本年度ニ入リテハ該箇所ノ函內部土砂塡充及裏込ヲ施行セシニ過ギズ

（ニ）東部七米二岸壁ハ前年度迄ニ混凝土函二十五個延長四百七十三米曲折部方塊積三米計四百七十六米ノ据付ヲ終リ本年度ニ於テハ其殘部ヲ据付ケ以テ本岸壁ノ函据付ヲ終了セリ而シテ函內塡充及頂部ノ混凝土工事モ漸次進工シ殆ンド完成ニ近ヅケリ

（ホ）東部二米七岸壁ハ大正十三年度ニ於テ三十六米ノ基礎床据ヲ施行セシ儘ナリシガ本年度ニ於テ殘部ノ床据ヲ完成シ引續キ五米四岸壁ニ接續スル西端部ヨリ基礎捨石ニ著手シ九十八米ヲ施行シ五十九米ノ地形均ヲ竣功セリ

（ヘ）東部三米六岸壁ハ防波堤最初ノ函据付ヲ終ルヤ之ト直角ニ基礎捨石ニ著手シ防波堤トノ接續點ヨリ岬ノ町地先ニ亙ル百十三米ノ捨石ヲ施行シ六十三米ノ地形均ヲ終リL型塊三十八個ト階段部方塊十個ノ据付ヲ竣功セリ

（ト）一米八岸壁細江船溜ニ面スル區域全部ハ基礎軟弱且水深淺キヲ以テ其基礎床据ヲプリストマン式

浚渫船ヲ以テ施行シ本年度ノ功程八十四米ニ達セルモ其他ノ工事ハ著手スルニ至ラズ

(チ)防波堤工事ハ昭和二年九月ヨリ捨石ニ著手シ防波堤及七米二岸壁ニ跨ル函ヲ十月ニ据付ケ爾來四函ヲ据付ケタル外函内塡充其他ノ工事ヲ一部分施行セリ

埋立工事ハ當初西部ノ埋立ニ著手シ次デ東部ニ施工シタルガ前年度迄ニ前者ハ完成シ後者ハ五米四岸壁裏二百十六米、七米二岸壁裏三百米ノ竣功ヲ見タリ本年度ハ七米二岸壁裏ノ埋立約百八十米ヲ施工シ同岸壁裏ノ埋立功程累計約四百八十米ニ達セリ東部埋立地竣功部分ノ内下關水上警察署前面二百九十二米ノ地域ハ大正十五年九月下關市ニ其利用ヲ承認シ市ニ於テハ假上屋ヲ建築利用シツツアリシガ本度年ニ入リテ該地域ノ西域百八十九米利用ヲ追加承認セリ

浚渫工事ハ前年度迄ニ西部ニ於テハ彦島埋立地前面ノ淺洲ノ小部分ヲ除ク全區域ヲ東部ニ於テハ停車場東端船溜内ノ一部及東部七米二及五米四岸壁前面ニ沿ヒテ幅約五十四米ヲ浚了セシガ本年度ニ於テハ西部ニ於ケル前記淺洲ノ一部及東部ニ於ケル唐戸町地先二米七岸壁前面ノ計畫區域ヲ浚了セリ

其他下水工事竝ニ機械、運轉、雜石、砂利、砂等ノ直營採取工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ三十四萬五千百六十二圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百二十二萬九千二十二圓ヲ算シ工費總豫算三百三十六萬三千百圓ニ對シ六割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「●」ハ下關市及民間ヨリ搬入投棄シタル土量「△」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂等ノ採取費竝ニ工事用諸機械運轉費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費		九四二、四四八円		二一四、三八〇円		一、一五六、二二八円	〇・九五
埋立費	六六九、五方 三五、四六米 九九、三	九七、一〇三 五、四五三	一五二、二立方米 一九、四二元 八〇	三三、一七一 一八八	八二一、七立方米 五四、九八八 七九	一三〇、二七四 五、六四一	〇・七〇
浚渫費	三九八、六五九	一四三、〇四一 一、五五三	一七、〇四九	五、九四三	一四八、九八四 一、五五三	一四八、九八四 一、五五三	〇・五三
船舶及機械費		五六三、〇〇四 二、八〇三		六三、一三二 一、五九四	六二六、一三六 四、四七七	六二六、一三六 四、四七七	
營繕費		一〇、七八五 一、四		一、〇三八	一一、八二三 一四	一一、八二三 一四	
雜費		一一七、八七四 三一		二四、九九六 四	一四二、八七〇 三五	一四二、八七〇 三五	
共濟組合給與金		九、六〇五		二、五〇二	一二、一〇七	一二、一〇七	
總計		一、八八三、八六〇 一六、一七一		三四五、一六二 二、七五五	二、二二九、〇二二 一八、九二六	二、二二九、〇二二 一八、九二六	〇・六六

第九　敦賀港修築工事

緒言

本工事ハ總工費三百四十萬圓(內事業費三百十九萬圓、事務費二十一圓)ヲ以テ大正十一年度ヨリ昭和四年度大正十八年度)ニ至ル八箇年度繼續事業ナリシモ同十二年度ニ至リ關東大震火災ノ影響ニ因リ竣功期ヲ昭和五年度迄繰延ベ施行スルコトトナレリ次デ昭和二年二月ニ至リ計畫變更セラレ既設棧橋西方岸壁ヲ鐵道省委託工事トシテ施行スルコトトナレリ此工費四十萬圓ナリ

港狀竝計畫大要

本港ハ古來北海ノ要衝ニ當リ其地勢東南西ノ三方ハ連山圍繞シ獨リ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ港內廣濶ニシテ水深ク良ク大船巨舶ノ碇繫ニ便ナルモ尙此地方ニ多キ偏北風ニ對シ安全ナル能ハザルヲ以テ曩ニ金ケ崎突堤ヲ延長シ港內ノ浚渫、埋立、棧橋等當面ノ急ニ應ズル施設ヲ爲セシモ歐洲大戰勃發シタル結果軍事上將タ經濟上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リタルノミナラズ貨客ノ激增ニ依リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ以テ起レル所以ナリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

防波堤　既設防波堤ヲ同一方向ニ三百九十一米延長シ北風ニ對シ笙ノ川見透線以東ノ水面ヲ掩護セントス

岸壁及埋立　既設棧橋西方ニ之ニ接續シテ幅平均五十五米、長百六十四米ヲ埋立テ其前面ニ水深八米五岸壁ヲ築造シ六千噸級汽船一隻ノ接岸荷役ニ供ス又笙ノ川右岸ヨリ長三百四十五米、幅九十一米ノ繫船埠頭ヲ築造シ其内側ニ八米五岸壁百六十四米竝ニ七米三岸壁五十四米ヲ築キ六千噸級汽船一隻又ハ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供ス該埠頭ト兒屋ノ川川口トノ間ニ長四百九十米、幅約七十三米ヲ埋立テ其前面ニ七米三岸壁三百九米、五米四五岸壁二百米ヲ築造シ三千噸級汽船二隻及二千噸級汽船其他小型船ノ接岸荷役ニ供セントス

浚渫　岸壁ニ伴ヒ港内ノ水深モ之ニ相應セシムル様浚渫ヲ施シ以テ水深七米三以上ノ水面三十三萬平方米ヲ得ントス是等浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニテ埋立總土量六十萬立方米、其面積約七萬五千平方米ナリ

上述ノ計畫ニ基キ著々工事ノ進捗ヲ圖リ居リシモ昭和二年二月其計畫ヲ左ノ如ク變更シタリ

防波堤及防砂堤　既定計畫防波堤ヲ更ニ百二十米延長シ笙ノ川左岸ニ長三百八十米ノ防砂堤ヲ新設シ以テ笙ノ川ヲ港内ニ抱擁シテ港内水面積ヲ擴大シ船舶碇繫ノ便ヲ圖ラントス

岸壁及護岸　既定計畫ノ繫船埠頭ハ之ヲ廢シ兒屋ノ川左岸ヨリ笙ノ川右岸迄長約五百八十六米五、幅約七十三米ヲ埋立テ其前面ニ兒屋ノ川左岸ヨリ二百米ニ五米五岸壁其西端ヨリ長約二百二十三米五ニ七米三岸壁ヲ築カントス又七米三岸壁ノ西端ヨリ笙ノ川ニ達スル百六十三米ニ物揚場護岸ヲ設ケ艀船或ハ小型船ノ接岸荷役ノ用ニ充テ將來必要ニ應ジ岸壁ニ變更可能ノモノトス

既設棧橋西方埋立及岸壁工事ハ既定計畫ニ基キ其儘鐵道省委託工事トシテ施工スルコトトナレリ

浚渫　繫船埠頭廢止ノ結果水深八米五ノ浚渫ヲ廢シ約八萬平方米ノ水面ヲ七米三ニ浚渫シ以テ水深

七米三以上ノ水面四十萬平方米ヲ得ントス是等浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニテ埋立總土量二十一萬立方米ニシテ埋立面積内務省工事約四萬四千平方米、鐵道省工事約八千平方米ナリ

施工狀況

本年度施行セシ工事ハ内務省工事トシテ突堤除却工、兒屋ノ川取付護岸工、第二種岸壁用函製造工、防波堤用採石工、同第一回第二回函製造工、同第一回第二回砂及砂利採取工、同野面石採取工、同鷲崎採石工、同第一回砂利採取工、第一回第二回防波堤工、第二回埋立工、方塊積出棧橋工、鐵道省委託工事トシテ砂及砂利採取工、採石工、八米五岸壁工、九米五函製造工、埋立工等ニシテ其概要ヲ述ベンニ左ノ如シ

函製造工事ハ岸壁及防波堤用函ヲ製造スル工事ニシテ前年度ヨリ引續キ施工シ本年度内ニ防波堤用九米五函八個、鐵道省委託工事岸壁用九米五函四個ヲ製作進水シ尚七米三岸壁用トシテ八米函ノ製造ニ著手セシモ功程トシテ掲記スベキモノナシ此工費防波堤用函製造工事六萬一千四百五十三圓、七米三岸壁用函製造工事二千四十八圓、鐵道省委託工事岸壁用函製造工事二萬九千七百五圓ナリ

兒屋ノ川取付護岸工事ハ前年度ニ於テ五米五岸壁トノ取付部分ノ石張護岸ヲ殘シ他ハ大部分竣功セシメタルヲ以テ本年度ニ於テハ該石張護岸ヲ施工シ全部竣成セシメタリ

防波堤工事ハ前年度ヨリ引續キ極力基礎捨石ヲ施スト共ニ保護用方塊四百二個ノ製作新舊防波堤繼手方塊ノ据付ヲ終リ進ンデ函六個ノ据付中埋及繼手混凝土ヲモ施シ尚内外側保護用方塊ノ据付ヲモ完了セリ此工費七萬三千三百五十五圓ナリ

埋立工事本年度ノ工程ハ内務省工事八千六百八十五立方米、鐵道省委託工事三萬八千三百九十八立方米

其工費前者四千百三十二圓、後者二萬五千八百四十四圓ニシテ埋立土砂ハ主トシテ浚渫船ニ依リ豫定區域内ヲ浚渫セルモノヲ利用セリ

鐵道省委託工事八米五岸壁工事ハ前年度ヨリ引續キ施行セルモノニシテ工費二萬八千六百七十圓ヲ支出シテ未竣功ノ儘次年度ヘ繰越セリ

採石工事中割石ハ敦賀港ヨリ海上四粁ヲ距ツル沓及五粁ノ箇所ニアル鷲崎ヨリ採取シ之ヲ運搬船ニ受ケ曳船ヲ介シテ當港ニ曳航シ所要工事ニ配付スルモノニシテ本年度功程ハ内務省工事用トシテ二萬六千八百二立方米此工費十一萬五千六百八十二圓、鐵道委託工事用トシテ二千八百十七立方米此工費一萬八千六十一圓ナリ

野面石ハ敦賀灣内ニテ直營採取スルモノニシテ本年度内ニ於テ三千八百二十三立方米ヲ採取セリ此工費一萬一千三百七十八圓ナリ

砂及砂利ハ敦賀港内及三方郡山東村佐田今市地先沿岸ヨリ直營採取スルモノニシテ本年度功程ハ内務省工事用トシテ砂四千八十立方米、砂利八千六百六十一立方米此工費二萬一千九百三十圓、鐵道省委託工事用トシテ砂二千三百九十四立方米、砂利二千七百十六立方米此工費七千七百五十二圓ナリ

此外兒屋ノ川口左岸突堤除却工、沓採石積出埠頭擴張工、方塊積出棧橋工ハ全部年度内ニ竣功セシメタリ

船舶機械ノ購入ノ重ナルモノハ混凝土混合機一臺、起重機一臺、鋼製土運船二隻等ニシテ修理製作ハ主トシテ附屬機械工場ニ於テ直營施行セルモ一部已ムヲ得ザルモノニ限リ請負ニ附セリ其主ナルモノハ浚渫船、起重機船、汽艇、混和船、土運船等ナリ

本年度敦賀港修築工事竣功額ハ四十九萬五千六百三十二圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百五十二

萬七千五百十二圓トナリ總工費三百十九萬圓ニ比スレバ約四割八分ノ竣功トナル又鐵道省委託工事本年度竣功額ハ十七萬三千四百十四圓起工以來累計二十四萬五千二百六十四圓トナリ總工費四十萬圓ニ比スレバ五割三歩ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「○」ハ製作品、無代價品、直營斫出石材及採取砂、砂利價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費		一五九、四三四円 三七、二六八		二、八三七円		一六二、二七一円 三七、二六八	割分 〇・二八
防波堤費		○		○		○	
埋立費		一五二、〇八九 七七、〇五四		二九二、九三一 一四八、五五〇		四四五、〇二〇 二二五、六〇四	〇・三〇
雜工事費	立方米 九五、二〇九	四四、六七五	立方米 八、六八五	四、一三二	立方米 一〇三、八九四	四八、八〇七	〇・四六
船舶及機械費		○		○		○	
測量及檢潮費		六、三三〇 二、七四七		一四二		六、四七二 二、七四七	
營繕費		○		○		○	
雜費		四六七、五四二 三、七一四		一四〇、七一二 一、一八三		六〇八、二元四 四、八九七	
共濟組合給與金		○		○		○	
		三五、五四一 四〇〇		八、一九九 四二		四三、七四〇 四四二	
		○		○		○	
		一五五、八〇五 二九〇		四三、五九九 一、二三六		一九、四〇四 一、五二六	
		○		○		○	
		三、九一一 三、一一		一三四		四、〇四五 四三	
		○		○		○	
		六、五五三		二、九四六		九、四九九	
總計		○		○		○	○・四八
		一、〇三一、八八〇 一二、四七六		四九五、六三二 一五一、〇一一		一、五二七、五一二 二七二、四八七	

尙鐵道省委託工事竣功表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費		一一、八五〇、六九二円		一二二、八二〇、四六八、九六六円		一九四、六七〇、四八八、五八八円	〇・六六割分
埋立費			三八、三九八立方米	二五、八四四	三八、三九八立方米	二五、八四四	〇・二七
船舶及機械費				一四、一四三		一四、一四三	
測量費				六一		六一	
營繕費				一、六七七		一、六七七	
雜費				二、六〇二、二四〇		二、六〇二、二四〇	
事務費				六、二六七		六、二六七	
總計		一一、八五〇、六九二円		一七三、四一四、四七、一三六		二四五、二六四、四八、八二八	〇・五三

第一〇　高松港修築工事

緒　言

本港ハ香川縣ノ中央部高松市ノ海岸北緯三十四度二十一分、東經百三十四度二分ニ位シ地勢南ニ肥沃ナル讃岐平野ヲ控ヘ屋島山海中ニ突出シ西方ニ王越半島ヲ望ミ前面ハ女木、男木ノ兩島相連リテ港北ヲ扼ス而シテ北東及北西ハ海路ノ深度大船巨舶ノ航行ニ適シ岡山縣宇野港ヲ距ルコト僅ニ十一浬四國四縣中最モ景勝ニ富ム內海ノ要港タリ

高松市ハ今ヲ距ル三百年前卽チ寛永年間ヨリ松平氏ガ生駒氏ニ代リテ居城ト爲シタル地ニシテ當時之ヲ玉藻城ト稱シ附近一帶ノ海岸ヲ玉藻浦ト呼ベリ船舶ノ出入ニハ地勢上自ラ東濱堀川及西濱ノ三港ニ分タレ就中東濱港ハ商船ノ出入ニ充テ西濱港ハ漁業者ノ專用ニ供シ堀川港ハ藩船ノ繫留場タリシガ維新後是等ヲ高松港ト稱スルニ至レリ

明治三十四年七月縣費ノ補助ヲ得高松市ニ於テ修築工事ヲ起シ工費二萬八千餘圓ヲ投ジテ西部堀川港ニ於テ水面積二十六萬四千平方米ヲ抱擁スル東西二條ノ防波堤ヲ築造シ兼テ港內主要部ノ浚渫、堀川港及沿岸ノ埋築、棧橋ノ築設等ヲ企テ同三十七年九月之ヲ完成シ以テ現在ノ東港ヲ形成スルニ至レリ

爾來時勢ノ推移ニ伴ヒ年ト共ニ貨客船舶ノ出入著シク增加シ殊ニ宇野港トノ間ニ船車聯絡ノ設備成リ貨車ノ航送ノ實施セラレシ以來本港ノ利用上ニ一新紀元ヲ劃シ更ニ擴張ノ必要生ジタルガ故ニ大正八年香川縣ニ於テハ港灣調査會ヲ設置シ之ガ調査ヲ進メ越ヘテ同十年六月ニハ內務省ニ於テ本港ヲ第二

種港灣ニ編入シ尋デ第四十五回帝國議會ノ協贊ヲ經テ本港ノ改修計畫全ク樹立セラル卽チ大正十一年度ヨリ同十六年度(當初ノ工期ハ十五年度迄五箇年度)ニ至ル六箇年度ノ香川縣營繼續事業トシテ工費總額二百二十萬圓(內俸給及事務費十三萬三千九百二十五圓ヲ含ム)ヲ豫算シ國庫ヨリ其半額ノ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ內務大臣ニ於テ本事業ヲ直接施行スルニ至レリ

港狀竝計畫大要

現今ニ於ケル高松港ノ狀態ハ東西兩防波堤ヲ以テ限ラレタル區域內ナリト雖モ從來ノ所謂高松港ナルモノハ東濱港及西濱港其他ヲ包含スルモノニシテ其東端ニ位スル柚場川ハ水深極メテ淺ク大潮時干潮ニ於テハ全部川底ヲ露出シ一部ハ貯木場ニ充ツルモ一般船舶ノ出入多カラズ東濱港ハ帆船ノ出入頻繁ニシテ主トシテ農產物及肥料類ノ集散ニ利用セラレ中川港ハ水面積狹ク小船ノ修理及繫留場ニ充ツルニ過ギズ此東西兩防波堤ヲ以テ圍マレタル現在高松港ノ東半部ハ水深淺キ爲メ荷役ノ設備ヲ缺キ剩ヘ陸上ハ舊城趾ニ遮ラレテ運輸交通上ノ不便尠カラズ西半部ニハ縣營棧橋竝ニ鐵道棧橋貨物航送ノ設備、共同荷役場、坂出地方專買局高松出張所等アリ港內ハ大小船舶常ニ輻輳ヲ極ムルニ反シ西濱港ハ單ニ漁船溜ニ過ギザルナリ

本港港外東西ノ二方ハ所謂遠淺ニシテ港口ヨリ沖合ハ急ニ水深ヲ加フ海底ハ概シテ僅少ノ粘土ヲ含ム細砂ニシテ岩盤ナキガ故ニ錨碇、浚渫或ハ構造物ノ基礎トシテハ强チ憂フベキ土質ニアラザルノミナラズ土砂ノ移動モ亦大ナラズ波浪平靜ニシテ潮流速度ハ每時二浬ヲ超ヘズ潮位ハ大潮時平均干潮ノ差二米四、四季降雨少ク氣候溫暖ニシテ夏季稀ニ暴風ノ襲來スルコトアリト雖モ永年ノ記錄ニ徵スルニ北々

東風三十五米ハ其最大風速ニシテ各季ニアリテハ西南西ノ强風多シトス本港ノ計畫左記ノ如シ

北防波堤ハ延長八百米ニシテ舊東防波堤頭部ヲ起點トシ東濱地先計畫埋立地前面ニ併行シテ築造シ又新設東防波堤ハ延長七百九米ニシテ杣場川口右岸ヨリ北方ニ向ツテ築造シ前者ノ東端トノ間ニ幅員三十六米三ノ副港口ヲ存置シ現在ノ東防波堤ハ全部之ヲ撤去シ又中川港ノ港口北東隅ヨリ突出スル突堤ハ其先端ヨリ十八米ヲ除却シ尙東濱港內ノ突堤二箇所ハ之ヲ除却スルモノトス

埋立ハ玉藻町地先ニ於テ幅員十八米、面積一萬五千五百二十六平方米ヲ干潮位上三米ニ埋立テ(棧橋附近ハ適當ノ幅員ニ埋立ツ)又下横町地先ニ於テ面積一萬六千五百平方米、八重垣新地地先ニ於テ面積約二萬六千四百平方米ヲ埋立テ以テ荷揚場倉庫、道路及鐵道敷地ニ供シ埋立ノ前面ハ水深二米七ノ物揚場護岸トシ其他ハ一米八ノ護岸トス

浚渫ハ港內ノ主要部分水面積十三萬二千平方米ヲ最干潮面以下六米四ニ浚渫シ一千五百噸級汽船ノ碇繫場ニ供シ尙港內ヲ各適當ノ水深ニ浚渫ス此浚渫總面積四十六萬二千平方米、土量約百三十八萬立方米ナリ

新設棧橋ハ其根元ヲ現在棧橋ノ位置ヨリ東方百九米ノ地點ニ定メ港口ノ中心ニ向ツテ築設シ其兩側ヲ利用スルコトヲ得セシメ而シテ現在ノ棧橋ハ新設棧橋ノ位置ヨリ更ニ百十八米東方ニ移轉スルモノトス

當初計畫前記ノ如クナリシガ大正十五年八月及昭和二年八月其一部ヲ左記ノ如ク變更ス

一、東濱港口ニ於ケル小突堤部ニ接續スル地域約五千九百四十平方米(內民有ニシテ買收スベキモノ約三千九百六十平方米ヲ算ス)ヲ干潮面下二米四ニ掘鑿浚渫シテ之ヲ擴張シ其沿岸竝ニ之ニ接續スル北方

ヲ水深一米八ノ荷揚場護岸ヲ築造シ尙其一部ヲ埋築ス

二、既定計畫ニ基ク中川港ノ浚渫ヲ廢シ此面積約一萬一千五百五十平方米ヲ干潮位上三米ニ埋立テ其南西隅ニハ土留護岸ヲ築造シ北方前面ハ水深二米七ノ荷揚場護岸ヲ築造ス

三、既定計畫ニ屬スル水深六米四部ノ東方ニ接續スル水深三米六浚渫部分ノ內面積約二萬三千百平方米、浚渫區域外約八千九百十平方米、合計三萬二千十平方米ヲ六米四ニ浚渫シ既定計畫ト共ニ水深六米四ノ泊地面積ヲ合計十六萬五千平方米ニ達セシメントス

四、高松港東濱町地先(東濱港內東側)在來護岸ノ前面ニ平均約十七米六ヲ隔テ水深一米八護岸延長百九十五米ヲ築造シ內部ヲ埋立テ之ヲ荷揚場ニ供シ更ニ浚渫區域ヲ新設護岸ニ沿ヒ約九米ヲ控ヘタル前面ニテ擴張ス

施工狀況

本年度ハ本港ノ工期終年度ナルヲ以テ鋭意之ガ完成ニ努力シ前年度來ノ殘工事タル浚渫埋立等ノ諸工事ヲ初メ之ニ伴フ築造工事及變更計畫ニ伴ヒタル用地買收等進捗ヲ期シタル結果僅ニ浚渫ノ一部分ト護岸工事ノ一小部分ヲ繰越シタリ以下其施行概要ヲ記述セントス

護岸工事ニ於テハ八重垣部ノ二米七護岸中石垣十八米及物揚場二十三米六ノ殘工事ヲ施工シテ之ヲ完成セシメ同一米八護岸ニ於テハ基礎三米六、方塊沈積三米六及物揚場二十一米八ヲ施工又中川港二米七護岸ニ於テハ基礎十二米七、方塊沈積二十二米七、物揚場四十一米八ヲ施行、東濱港一米八護岸ニテハ西側九十米東側ニ屬スル基礎二百四十三米六、荷重二百十一米、方塊沈積百二十三米、物揚場二十七米ニ施工シ

タル外所要ノ矢板三百七十二本及同方塊二百個ノ製造ヲ完成シテ直接工費通計四萬五千八百二十七圓ヲ支出ス就中東濱港護岸ノ一小部分ハ未完成ニシテ其他ハ全部計畫通竣功シタリ

埋立ハ浚渫土砂ヲ利用シテ八重垣地先ニ土量一萬二千十八立方米、中川港ニ三萬四千七百八十二立方米、東濱港内ニ一萬九千八百立方米ヲ埋築シタル外各埋立ノ表面地均三萬三千七百六十平方米ヲ施行シ尙假堰延長四米八ヲ施工シテ埋立計畫ノ大部分ヲ完成セシム此直接工費一萬四千九百四十一圓ヲ要シタリ

防波堤築造工事ハ東防波堤ニ於テ基礎十四米五、石垣七米又北防波堤ニテハ基礎一米八石垣一米八ヲ施行シテ殆ンド完成セシム

防波堤補強工事ニ於テハ下横町ニ於テ六十米、西防波堤ニ於テ百九十六米五ヲ施工シテ計畫通リ完成セシム此直接工費二千百五十五圓ヲ支出ス

浚渫工事ニ於テハプリストマン式浚渫船及鋤鏈式浚渫船ヲ運用シテ土量三十三萬二千百六十六立方米ヲ得此直接工費六萬五千百九十五圓ヲ支出シタリ而シテ浚渫土量ノ内六萬六千六百立方米ハ八重垣地先外二箇所ノ埋築ニ利用シ七萬八千百二立方米ハ福岡町地先ニ於ケル鹽田ノ埋立地ニ投棄シ十八萬七千四百六十四立方米ハ港外ニ投棄セリ

上記鹽田埋立地ニ土砂投棄ニ關シテハ浚渫土砂ヲ一旦港内適當ノ箇所ニ假置ヲ爲シ後ポンプ船ニテ吸揚排砂シタルモノニシテ此土量七萬八千百二立方米ニ對シ直接工費七千九百七十圓ナリ

浮棧橋ハ前年度迄ニ浮函及所要方塊ノ製造ヲ了シタルヲ以テ本年度ハ之ヲ碇繫シ別途請負ニ付シタル渡橋ノ完成ト相待ツテ之ヲ架設シ更ニ浮函上ニハ鐵筋上屋六棟ヲ建設シ昭和二年九月全部竣功ヲ告ゲ

以テ貨物荷捌及旅客昇降ノ便ニ供フ此總工費十一萬八千五十八圓ニシテ寄附材料代八千八百七十圓ヲ算ス內本年度ノ支出ハ一萬九百二十五圓ナリ

既定計畫ニ基ク防波堤除却ハ前年度マデニ殆ンド完成セシメタリシガ本年度ハ東濱港內突出部延長二十七米二ヲ除却ス之ヲ以テ本港ニ於ケル除却工事ハ全部終了ス

燈臺ハ北防波堤西端及西防波堤東端ノ二箇所ニ各一基ヲ建設ス高各干潮面上十三米三、鐵筋混凝土造ニシテ等級無等、燭光數三千八百晴天時ニハ十一浬ノ光達距離ヲ有ス光原ハ常時電燈トシ豫備トシテ「アセトン」ヲ使用ス此直接工費二千四百七十七圓、光明機(取付費共)四千六百十六圓、合計七千九十三圓ナリ

船舶及機械費ニ於テ直接施行費(小修繕及手入等)一萬二十圓、請負施行額四萬三千二百二十六圓ヲ支出ス

雜工事ニ屬スルモノ下橫町地先ニ暗渠延長六百四十二米、玉藻城內ニ於テ延長十八米ヲ施行シタル外中川港沿岸在來石垣延長五百米除却シ之ヨリ生ジタル石材ハ護岸工事ニ利用ス以上ノ直接工費ハ二萬三千二百四十五圓ナリ

本年度施行中諸費ノ直接支出額ハ四千六百六十二圓、同工事外ニ屬スルモノ二萬百九十一圓及共濟組合給與金一千七百十九圓ナルヲ以テ此支出合計ハ二萬六千五百七十二圓ニ達セリ

既定計畫ノ變更ニ伴ヒ東濱港內ノ民地ヲ掘鑿スベキ關係上用地ノ買收及地上物件ノ移轉ヲ要シタリ此實測宅地一千四十二坪、建物一千十坪ヲ算ス右ニ關シ大正十五年十二月協議書ヲ發達ス然ルニ關係者ハ何レモ價額低廉ヲ理由トシテ一致團結シ折衝頗ル困難ヲ極メタリシガ時日ノ經過ト共ニ漸次緩和ニ傾キ四、五名ノ頑强者ヲ除ク外ハ昭和二年五月ニ至リテ一齊ニ承諾スルニ至レリ斯クテ不承諾者ニ對シテハ機ヲ窺ヒ終始一貫交涉ヲ進メタル結果徐々ニ應諾シ同年十二月二十七日ヲ最後ニ全部圓滿ニ解決ヲ

見ルニ至レリ此支出金宅地七萬九千四百三十一圓、地上物件移轉料七萬二千三百七十圓、合計十五萬一千八百二圓ニシテ關係者ハ二十名ナリ

以上諸工事ヲ施行シタル本年度ノ竣功高ハ四十萬八千十一圓ニシテ竣功累計ハ二百萬七千二十五圓ニ達ス之ヲ總工費二百六萬六千七十五圓ニ對比スルトキハ約九割七分ノ竣功ナリ卽チ左表ノ如シ但シ表中「×」ハ直營採取材料代「■」ハ寄附材料代ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
護岸費		二二二、〇二三 九、二二六		四五、八二七 三四五		二六七、八五〇 九、五七一	一・〇〇
埋立費	一八二、九二二	■	六六、七五六	■	二四九、六七八	■	〇・六八
防波堤費		×		×		×	〇・七八
渫浚費	一、一八一、五九二		三三二、一六六	■	一、五一三、七五八	■	〇・六五
棧橋費		■×		■×		■×	〇・五三
防波堤取除費		二二、三一七		三、二七九		二五、五九六	一・〇〇
船舶及機械費		六九四、〇三四		五三、五一五		七四七、五四九	
雜工事費		七、六五五 一六		三〇、三三八		三七、九一三 一六	
營繕費		二五、六六三 二一七		一五四		二五、八一七 二一七	
雜費		六七、八五一		二〇、一九一		八八、〇四二	
共濟組合給與金		四、五〇六		一、七二〇		六、二二六	
材料採取費		二〇、二三九				二〇、二三九	
用地費				一五一、八〇一		一五一、八〇一	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
總計	—	一、五九九、〇一一円 一九、七九七	—	四〇八、〇一一円 一三、八四二	—	二、〇〇七、〇二二円 一三、八四九	〇・九七割分

第一一　境港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算百八十萬圓(內工費百六十九萬百圓、事務費十萬九千九百圓)ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ昭和二年度ニ至ル六箇年度間ノ繼續事業ナリシガ大正十二年九月關東大震火災ノ影響ヲ受ケ工期ヲ二箇年度延長シ昭和四年度ニ竣功セシムルコトトナレリ工事ハ鳥取縣ノ企業ニ係ルモノナルガ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀竝計畫大要

境港ハ日本海ニ於ケル樞要港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニアリト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之ガ利用ヲ完フスルコト能ハズ曩ニ明治三十七年物揚場トシテ市街沿岸一千四百十八米ニ平均幅三米六ヲ埋築セシモ唯小船舶ノ繫留ニ適スルニ過ギズ爾後明治四十一年度航路維持ノ爲メ長一千四百五十四米ノ捨石堤ヲ施工シ同時ニ航路ヲ浚渫セシモ其效果完カラズ然ルニ輓近出入船舶ノ增加ト船形ノ增大ハ最早現狀ニ委スルヲ許サザルニ至レリ殊ニ近來山陰線全通ノ爲メ本港ハ益々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リ之ガ修築ハ一日モ緩フスベカラザルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

一、埋立　停車場地先ニ於テ長サ四百十八米、幅三十六米內外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノト

ス

一、岸壁　埋立地ノ前面ニ干潮面以下六米四岸壁二百七十三米、同五米五岸壁九十一米ヲ設ケ一千噸級乃至二千噸級ノ船舶四隻ヲシテ同時ニ繫留ノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ニハ物揚場及護岸ヲ設ク

一、防波堤　御臺場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百三十六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用增築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス

一、浚渫　埋立地前面ノ水面約十九萬八千三百四十七平方米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之ニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ間幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約三十八萬三千四百七十一平方米、土量百十萬二千百五立方米ナリ

施工狀況

本年度ニ於ケル施行工事ハ前年度ニ引續キ主トシテ防波堤ノ基礎捨石竝ニ上面ノ張石及混凝土方塊ノ疊積工事ト浚渫及岸壁工事トシテ曳船汽艇ハ前年度同樣壽丸外三隻ヲ使用セリ又監督其他雜用ニハ發動機船電車丸ヲ昭和二年十月ヨリ使用スルコトトセリ其他採石工事、方塊製造工事、L形塊製造工事等モ施行セシガ其狀況左ノ如シ

一、防波堤工事　前年度ニ引續キA及C幹部中延長九百八十七米ノ部分竝ニB、C幹部接續部分ニ捨石ヲ施行シA幹部中六百十六米ノ部分ハ上面ノ張石ヲ完了セシヲ以テA幹部ハ全部竣成ヲ告グルニ至レリ又混凝土方塊ノ疊積ヲ了セシハC幹部五百二十二米ノ部分ナリ本年度ニ於ケル捨石數量ハ一萬六

千七百七十三立方米ニシテ混凝土方塊ノ使用數量ハ一千六十三個ナリ

一、浚渫工事　前年度ニ引續キ喞筒式浚渫船櫻島丸及バケット式浚渫船ノ二隻ヲ使用運轉シ前年度同樣境町地先ヨリ森山村大字玉井地先ニ亙ル航路ノ浚渫ヲ爲セシ結果境町地先ヨリ森山村大字福浦地先迄ハ大部分浚渫完了ヲ告グルニ至レリ一方岸壁工事施行箇所前面モ岸壁床掘ニ併セ前年度未著手部分ノ浚渫ニ著手シ是亦大部分竣成セシメタリ而シテ本年度內浚渫土量ハ十八萬八千六百七十八立方米ナリ

一、採石工事　島根縣八束郡森山村大字玉井地內ニ於テ直營ニテ雜石ヲ採取スルモノニシテ主トシテ前年度ニ於テ買收セシ地所ヨリ石材ノ採取ヲ爲セリ本年度ニ於テモ採取石材ノ大部分ハ防波堤基礎捨石ニ使用セシガ岸壁工事基礎捨石及裏込石ニモ使用セリ年度內採石數量ハ一萬二千百九十一立方米ナリ

一、岸壁工事　前年度ニ引續キ六米四岸壁ノ床掘及基礎捨石竝ニ前年度未著手ニ係ル五米五岸壁ノ床掘、基礎捨石ヲ爲シ捨石床均シノ上六米四岸壁ニアリテハ二十噸吊七號起重機船ヲ使用シ長七十七米ノ間L形塊ノ据付ヲ爲シ裏込ノ捨込ヲ爲セリ此等ノ數量ハ床掘九千二百十六立方米、捨石一千二百五十六立方米、L形塊五十一個、裏込六百五立方米ナリ

一、方塊製造工事　本年度ニ於テモ防波堤壘積用方塊ノ製造ヲ爲スト共ニ一方防波堤工事ノ進捗ニ伴ヒ既成方塊ノ送出及積込ミヲ施行セリ年度內ニ於ケル方塊製造數量ハ六百二十六個ナリ

一、L形塊製造工事　本工事ハ岸壁用鐵筋混凝土L形塊ヲ製造スルモノニシテ昭和二年七月一日工事ニ著手シ年度內ニ於テ甲型枠四組及乙型枠五組ヲ製作シL形塊甲二十個、同乙六十一個ヲ製造セリ而シ

テ岸壁工事ノ進捗ニ伴ヒ之ガ移動送出ヲ爲セシガ其數量ハ乙塊五十三個ナリ

一、其他方塊及L形塊製造ノ爲メ直營ニテ採砂ヲ施行セリ

本年度ノ竣功高二十九萬九千二百九十圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百十八萬五千六百二十八圓ナリ總豫算額百六十九萬百圓ノ約七割ニシテ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ハ無代價品評價額「×」ハ直營斫出石材及砂利、砂採取使用價額「△」ハ製作品使用價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費	—	一、一〇〇△	—	〇△	—	一、一〇〇△	〇・六三
浚渫費	四二二、〇七四立方米	三四〇、五二七、二九五五五円	一八八、六七八立方米	一五二、八二七、〇五〇円	六〇九、七二五立方米	四九二、三四五、〇五七、二八〇円	〇・五五
埋立費	—	—	—	—	—	—	—
船舶及機械費		二九九、四六一		四六、一七六		三四五、六三七	
測量費		一、二三八		五七二		一、八一〇	
營繕費		二一、二〇九		三、七一三		二四、九二二	
雜費		一一九、二五一		五一、一二六		一七〇、三七七	
共濟組合給與金		五、一六七		三、六五八		八、八二五	
總計	—	一二五、三六八、二九二、一二九、八六二、九九八、二五五△	—	四一、一七〇、二六九、二九二、六八二、九九〇、七二〇、六五〇〇△	—	一六五、二二八、一五二、八〇四、二七四、八〇五〇円△	〇・七〇

第一二　今治港修築工事

緒言

本工事ハ元今治町ノ企業ニ屬シ大正三年度ニ其起原ヲ發シ爾來幾多ノ曲折ヲ經テ同九年二月今治町ニ於テ隣郷日吉村ヲ併合シ市制施行地ニ指定セラレタルトキヲ以テ本事業ヲ今治市ノ經營ニ移サル當時其工期ヲ同九年度ヨリ同十二年度ニ至ル四箇年度ノ繼續事業トシテ工費八十一萬圓ヲ計上シ港内ノ浚渫及埋立ヲ主トシ兼テ棧橋及防波堤ヲ築造スル計畫ナリシガ今治市ニ於テハ該計畫中最モ速成ヲ要スル防波堤ノ築造ヲ起工シ(本堤ハ全部今治市ニ於テ施行濟)著々工事ヲ進メタリ然ルニ本港ニ於ケル最近發展ノ趨勢ハ現計畫ノ擴張ヲ促スト共ニ一部計畫ノ變更ヲ要スルモノアリタルヲ以テ之ヲ更正追補シテ更ニ工期ヲ同十二年度以降二十一年度(當初計畫ハ大正十二年度ヨリ同十九年度マデ八箇年度ノトコロ財政ノ都合上同二十一年度マデ二箇年度延長)ニ至ル十箇年度ノ工期ナリシガ大正十五年九月用地費繰上ゲノ必要ヨリ年度割ノ變更トナリタル結果竣功期ヲ昭和六年度ニ改メラレタルヲ以テ九箇年度ノ今治市營繼續事業トシテ工費三百萬圓(内俸給及事務費十八萬三千圓ヲ含ム)ニ改訂シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀並計畫大要

今治港ハ北緯三十四度三分四十五秒、東經百三十五度五秒伊豫國ノ北海岸ニ瀕シ高縄半島ノ東南ニ方リ

テ自然ノ灣形ヲ成シ前面ニハ來島海峽ヲ擁シテ瀨戸内海ノ咽喉ヲ扼ス其位置恰カモ阪神關門ノ中間ニアルヲ以テ古來ヨリ東西航路ノ要衝ヲ占ム東ハ燧洋ニ直面シテ遙カニ四坂島ヲ望ミ北ハ大島及三大島等比々點綴シ南ハ總社川ヲ境トシテ立花村ニ接ス而シテ港界ハ天保山ノ突堤基點ヲ中心トシテ一浬ノ半徑ヲ有スル圓圈ヲ以テ劃シ此面積約三百三十一萬平方米(防波堤内約二十一萬四千八百平方米)ヲ算ス氣候溫和ニシテ常ニ波浪少ナク港内ノ水深ハ概ネ最大干潮面下約十二米トス此附近ハ干滿潮位ノ差瀨戸内海中最モ著シキ地方ニシテ最高最低潮位ノ差四米一、大潮時平均潮位ノ差三米四、小潮位平均潮位ノ差一米四ナルモノノ如シ尙沿岸ハ比較的急勾配ナルヲ以テ水深裕ニシテ時々潮流ノ急ナルモノアリト雖モ大船巨舶ノ碇繫難カラズ尙其風位ニ關シテハ西風、西北風及南北風ニ對シテハ些ノ影響ナシト雖モ一朝東風ノ襲來スルニ於テハ港内忽チ激浪奔騰シテ船舶ノ出入、碇繫共ニ危險ナリ然レドモ最近東防波堤ノ完成ニ依リ港内ハ著シク靜穩ニ歸シ此杞憂一掃スルコトヲ得ルニ至レリ

交通ハ本港ヨリ僅カニ二時間餘ニシテ中國尾ノ道港ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ船舶ノ出入、貨客ノ集散比較的繁ク殊ニ伊豫線開通ノ今日ニ於テハ四國西南部及南九州ノ旅客ハ必ズヤ今治、尾ノ道ヲ經テ山陽線ニ聯絡スベク然ルトキハ彼ノ高松、宇野線ニ依ルニ比シ阪神地方ニ到達スル時間ヲ節スルコト必然ナルベシ

當地方ノ發達ハ主トシテ製織業ニ起原シ今ヨリ約三百年前中御門天皇ノ御宇柳瀨義達氏ガ地方ノ産業振興ヲ圖リ細民婦女子ニ勸奬シテ白木綿ヲ製織セシメタルニ起因ス爾來斯業ハ一進一退明治年間ニ至リテハ全ク不況ニ陷リタリシモ同十七、八年ノ頃故矢野七三郎氏奮然意ヲ決シ當時流行セル「紀州ネル」ノ製織ニ著眼シ自ラ産地ニ到リテ其製織法ヲ習得シ歸來之ヲ細民婦女子ニ授ケ其悲境ヲ救濟シタル以來

斯業ハ益々堅實ナル發達ヲ遂ゲ現時「伊豫ネル」ノ名稱ハ織物界ニ於テ頗ル重キヲ加ヘ販路モ亦海外ニ發展スルノ盛況ヲ爲スニ至レリ故ニ此地ハ古來商業地ヲ以テ其名ヲ知ラレ夙ニ松山市ヲ凌駕シ最近ニ於ケル發達ハ一轉シテ商工業地ト目サレ人口約三萬五千ヲ有シ市街頗ル殷賑ヲ極ム今ヤ今治市ハ機業地トシテ本邦屈指ノ地ニ數ヘラレ從テ船舶ノ出入貨物ノ呑吐旅客ノ交通頓ニ增加シ此趨勢ヲ以テ進ムトキハ四國四縣中其首位ヲ占ムルノ機强チ遠キニアラザルベシ而シテ本港ハ大正十一年二月開港場トナリ次デ第二種港灣ニ指定セラレタルヲ以テ見ルモ港灣設備ノ必要蓋シ目睫ノ間ニ迫レルモノト謂フベシ

本工事ハ今治市ニ於テ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル繼續事業トシテ棧橋防波堤ノ築造及浚渫埋立等ノ工事施行中ノトコロ該計畫ヲ左記ノ如ク變更及擴張スルモノトス

船入場ハ天保山ニ於ケル防波堤根元ヨリ南東ニ向ツテ百八十一米八之ヨリ略々南西ニ向ツテ一線ヲ劃シ尙之ニ連續シテ內港ノ周圍ニ物揚場又ハ護岸ヲ築キ住吉町附近ヲ掘鑿シテ在來ノ內港入口幅員九十米ハ之ヲ百四十五米四ニ取擴メ一面中洲ヲ掘鑿除却ノ上現在ノ船溜幅四十五米四ヲ平均八十三米六トシ內港水面積現在約一萬六千五百二十八平方米ヲ五萬五千二百六平方米ニ擴張シテ干潮面下二米七ノ水深ヲ保タシメ以テ帆船及小蒸汽船ノ繫留荷役ノ用ニ供ス

浚渫工事ハ元今治地先前面ニ於テ防波堤トノ間ニ介在セル港內水面積十二萬三千二百六平方米ノ內水深大ナル沖合部三萬三千平方米ヲ干潮面下六米四ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ出入ニ便ナラシメ尙殘餘ノ水面ハ同五米四以上ニ其他ハ同一米五ニ浚渫シ更ニ內港部ハ同二米七ニ浚渫又ハ掘鑿スルモノニシテ此總土量八十五萬五千五百九立方米トス但シ陸地ニシテ掘鑿シテ海面トナル部分ノ面積ハ二萬八千七

百六十平方米ナリ

埋立ハ港内ノ浚渫若ハ掘鑿ヨリ生ズル土砂一部ヲ以テ大字藏敷地先東側沿岸ニ面積七萬五千四百七十五平方米ノ埋立ヲ爲シ以テ倉庫、上屋及臨港鐵道ノ敷地ニ充テ又元今治地先ニハ海岸ニ併行シテ護岸ヲ築造シ其内法ノ面積一萬八千七百十一平方米ヲ埋立テ更ニ内港部ニ於テ大手通惠比須町及新町地先ニ面積一萬三千三百二十二平方米ヲ埋築スルモノトス此總土量ハ三十九萬五立方米ナリ

岸壁、物揚場及護岸トシテハ天保山地先ニ三千噸級汽船一隻、一千噸級汽船二隻ヲ同時ニ繫留シ得ベキ長サ二百二十七米三、水深干潮面下六米六及五米四ノ岸壁ヲ築造シテ將來敷設セラルベキ臨港鐵道トノ聯絡ニ便センガ爲内港周圍ニ水深二米七ノ斜面物揚場延長一千米ヲ設ケ其他元今治地先海岸ニ延長六百米及藏敷埋立地先海岸ニ延長九百米並ニ内港ノ一部ニ亙リ總延長二千七百二十七米餘ノ護岸工事ヲ施スモノトス

浮棧橋ハ元今治地先ニ縱型棧橋ヲ三箇所ニ配置シ其長サ各七十二米、幅各九米（但シ浮函長五十四米、幅九米此面積四百九十六平方米）トシ之ヲ約七十二米四ヲ隔テ櫛形ニ平行突出セシメ小型汽船及一千噸級船舶ノ碇繫荷役並ニ旅客ノ乘降ニ供スルモノトス

前記既定計畫ニ對シ大正十五年九月左記ノ通其一部ヲ變更ス

新町地先突出部（沖洲）ニ於ケル中央地帶約四千九百六十平方米ヲ買收シ道路及倉庫等ノ敷地ニ供ス

内港惠比須町及大手通地先ニ於ケル荷揚場及護岸ヲ現計畫ヨリ前進セシメ重松堀西部護岸ハ其對岸ト約二十一米八ノ間隔ヲ保タシム

天保山ニ於ケル荷揚場ヲ既定計畫ノ荷揚場及岸壁法線ノ交點ヨリ其南方惡水路吐口附近ニ向ツテ現計

畫線ヨリ前進セシム

施工狀況

本年度ノ施工ハ大部分前年度ノ續工ニシテ其主ナルモノハ浚渫、埋立ヲ初メトシ浮棧橋、荷揚場及護岸築造ニ次デ用地買收竝ニ石材採取工事等トス以下其概要ヲ記述スベシ

浚渫ハ元今治地先ニ於テ干潮面下一米五、天保山地先ニ於テ二米七ヲ目途ニブリストマン式浚渫船二隻ヲ運用シ之ニ土運船ヲ配シ曳船ヲ介シテ運搬ス其土量ノ一部ハ埋築ニ他ハ港外投棄セリ本年度ノ功程土量ハ十二萬七千三立方米ニシテ内一萬三千三百三十八立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ一萬三千二百九十六立方米ハ藏敷地先ノ埋立ニ三百三十六立方米ハ第二縱棧橋築造工事ニ利用シタル外一萬二千五百三十三立方米ハ今治市城東耕地整理事業地先ニ八萬七千五百二立方米ハ港外ニ投棄ス此直接工費三萬五百十八圓ナリ

埋立ハ藏敷地先及元今治地先ノ下埋及上埋ヲ施工ス埋立土砂ハ總テ浚渫工事ヨリ生ジタル利用ナルガ故ニ工費低廉ナリ本年度ハ藏敷地先ノ上埋ニ一萬四百九十五立方米、下埋ニ五千百八十七立方米ヲ實施シタル工費ハ四千二百七十圓又元今治地先ノ下埋ニ二千九百八十七立方米、上埋ニハ浚渫利用土量一萬一千四百六十三立方米及元今治地先ノ護岸工事ノ床掘ヨリ生ジタルモノ二千三百八十六立方米ニ及ビ直接工費二千八百九十六圓ナリ

浮棧橋(第二縱棧橋)ハ昭和二年三月ノ著手ニシテ前年度中所要方塊四個ノ製造ヲ了シタルニ過ギザリシガ本年度ハ其進捗ヲ期スル爲浮函及渡橋ハ之ヲ請負ニ付シタル結果鋼製浮函二個ハ五萬二千圓ヲ以テ

大阪市名村造船所ニ落札又鋼製渡橋二個ハ九千五百七十圓ヲ以テ大阪市北村合資會社ニ落札ス是等完成ヲ俟ツテ順次取付等ニ鋭意努力シタルヲ以テ昭和二年六月十日ヲ以テ竣功ヲ見ルニ至レリ又一面ニ於テハ上部ノ電燈設備ヲモ請負施行ト爲シタルガ故ニ本橋架設完成ト同時ニ點燈裝置モ完備シタリ此直接工費請負額ヲ合シ六萬八千七百九十圓ナリ

以上ヲ以テ本港ニ於ケル浮棧橋ハ二條完成シタルヲ以テ本港ハ面目更ニ新タナルモノアリ引續キ本年度ハ第三縱棧橋ノ築造ニ昭和三年三月著手スルニ至レリ本橋ノ浮函ハ鐵筋混凝土製ニ改良シタル爲メ之ガ製造設備ハ高松港修築工事ニ使用シタルモノヲ其儘之ヲ利用スルノ有益ナルニ鑑ミ本橋所要ノ鐵筋混凝土浮函二個ノ製造ヲ同所ニ於テ施工スルコトトシ今ヤ準備工中ナリ

護岸ハ元今治地先ニ於テ水深一米五及階段護岸竝ニ水深二米七ノ築造ト藏敷地先ニ於ケル護岸工事ヲ施工ス而シテ元今治地先ニ於ケル水深一米五ノ護岸ニ對シテハ基礎ノ强固ヲ期スル爲メプリストマン式浚渫船ヲ運用シテ床掘延長八十六米ヲ施工シテ土量三千七百二十七立方米ヲ得内三百三十立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ三百七十九立方米ハ藏敷地先ノ埋立ニ利用シタル外二百四十立方米ハ今治市城東耕地整理地帶ヘ二千七百七十七立方米ハ港外ヘ投棄ス右ノ外基礎延長八十六米、方塊沈積七十二米七、上部壁體三十米、施工階段護岸ニ於テハ床掘延長七十二米七ヲ施工シテ土量六千四百八十立方米ヲ得内七百七十八立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ五千六百九十八立方米ハ港外ヘ投棄シタル外基礎延長七十二米七ト方塊沈積同七十二米七及上部工五十四米五ノ功程ヲ告ゲ又水深二十七米六護岸ニ對シテハ上部工三米六ヲ施工シタル外所要方塊四百三十八個ヲ製造ス

藏敷地先ノ護岸ニ對シテハ基礎床掘延長百七十九米二ヲ掘鑿シテ土量六千五百二十二立方米ヲ得内二

千八立方米ハ同地先ノ埋立ニ四千五百十四立方米ハ港外投棄ヲ爲シタル外基礎捨石延長百七十米四ト方塊沈積同百六米八ト上部工同八十一米八トヲ施工シタル外所要方塊八十八個ヲ製造シテ殘餘ハ翌年度ヘ繰越スニ至ル此直接工費通計三萬八千六百五十圓ナリ

物揚場築造ハ前年度ノ繼續ニシテ本年度ハ僅カニ上部工延長二十一米八ヲ施工シタルニ止マリ他ハ翌年度ヘ繰越シタリ此直接工費ハ三千百五十三圓ナリ

用地買收ハ曩年第一著手トシテ新町地先ノ一部ヲ決行シタリシガ當時ノ事情及周圍ノ環境ニ鑑ミルトキハ數年ニ亙リテ分割買收スルハ不利ニシテ且價額釣リ上ゲノ弊ニ陷ル嫌アルヲ以テ一擧ニ斷行スルコトトナリ從テ買收費豫算ノ繰上ゲヲ見ルニ至リタル結果良好ニ終始シタリ

昭和二年七月第一回發表次デ同年十月第二回發表ヲ以テ終了ヲ告ゲ此關係人員二百四十名ニ及ブ而シテ用地ハ宅地五千百十二坪畑一町五段三畝二十四歩ニシテ此提示額五十九萬六千二百八圓四十錢又地上物件ニ於ケル建坪ハ三千三百四十二坪此移轉料九萬八千五百三十六圓十八錢ト外ニ雜件移轉料九千二十二圓五十五錢ヲ算スルヲ以テ此合計七十萬三千七百六十七圓十三錢ノ總額ニ對シ年度內承諾處理濟金額ハ約九割四分ノ好成績ヲ見ルニ至レリ未承諾者中四、五名ハ結局收用審査會ノ裁決ヲ經ルコトトナルベシ

割石採取ハ事業ノ進展ニ伴ヒ所要量增加シタルヲ以テ一面此方面ニ主力ヲ分割シテ鋭意努力セシメタリシガ本年度ハ二萬一千八百九十八立方米ノ採取並運搬ヲ了シ築造工事施行上多大ナル利便アリタリ

砂利採取ハ前年ニ引續キ總社川筋ヨリ二千九百九立方米ヲ採取ス

砂ハ港內ヨリプリストマン式浚渫船ニテ一千二百五十六立方米ヲ採取シタリ又粘土ハ護岸上部工ニ於

テ雨水、海水等ノ浸透ヲ防グ爲メ使用ヲ要シ附近波止濱港内ヨリ六百二十立方米ヲ採取シタリ

船舶及機械費ニ於テハ所屬船舶等ノ小修繕ノ直營ニ一萬一千七百十七圓又請負施工ニ一萬三千九十七圓、計二萬四千八百十四圓ヲ支出ス

營繕費ニ於テハ本年度ハ事務所所在地タル天保山掘鑿ヲ要スル爲メ該建物ノ移轉ニ伴ヒ雜建物ノ移轉及模樣替等ノ必要アリテ斯カル間接的工事ニ多クノ日子ヲ費シタリ其直營施行ニ係ルモノハ見張小屋二棟、人夫小屋二棟、方塊積出棧橋及同軌道除却並ニ之ニ伴フ棧橋架設換、軌道敷設換、混凝土混和機移轉更ニ新設事務所ニ門及木柵新設並ニセメント風化小屋及ミキサー小屋ノ移轉及模樣換ヲ施工シタル外第三縱棧橋築造ニ關シ浮函二個ノ製造ヲ高松港内ニ於ケル該製造設備ヲ利用スル關係上該設備ノ修繕工事ヲ施工ス又請負施行ニテハ既設物件ノ修繕ニシテ工費僅カニ八百四十二圓之ニ直營工費六千五百十一圓ヲ合シタル本年度ノ直接工費ノ支出高ハ七千五百五十三圓ナリ

施行中諸費ハ事務所雜費、發動機運轉費、用地買收諸費、港内測量、既設防波堤ニ於ケル方塊除却及砂留石垣並ニ天保山掘鑿ノ前程作業ニ屬スル同所ノ石垣護岸、同潮止石垣等ノ除却ヲ爲シタル外セメント、火山灰、石炭等材料試驗ニ要シタル經費ニシテ工事外諸費一萬四千五百七圓ヲ合シタル本年度ノ支出額ハ計二萬二千二百四十九圓ニ達シタル外共濟組合給與金ハ九百三十九圓ナリ

以上諸工事ヲ施工シタル本年度ノ竣功高ハ九十萬三千七百圓ニシテ竣功累計ハ百四十四萬二千八百四十四圓ニ達スルヲ以テ之ヲ總工費二百八十一萬七千圓ニ對比スルトキハ五割一分ノ功程ナリ卽チ左表ノ如シ但シ表中「×」ハ直營採取材料代ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	四七〇、九八八 立方米	一一六、七九〇 円	一二七、七三四 立方米	三〇、五一八 円	五九八、七二二 立方米	一四七、三〇八 円	〇・五五 割分
埋立費	一七九、六二二	九、七二九	一一、七三六	七、一六六	一九一、三五八	一六、八九五	〇・二三
浮桟橋費		一〇二、六三四 九、〇六二		六九、三九三 六八		一七二、〇二七 九、一〇三	〇・七八
荷揚場費		一三、九九四 五、五七八		三、一五三 五四五		一七、一四七 六、一二三	〇・〇七
護岸費		七二、七六九 三〇、八一一		三八、六五四 三六、四三三		一一一、四二三 六七、二四四	〇・九四
用地費		五九、一三三		六六二、五八三		七二一、七一六	
船舶及機械費		四七、九三三		二四、八一四		七二、七四七	
營繕費		七、四二九 八〇		七、三五三 一八二		一四、七八二 二六二	
雜工事費		二三、七一三 八一〇				二三、七一三 八一〇	
雜費		五三、九五一		二二、二四九		七六、二〇〇	
共濟組合給與金		二、二一七		九三九		三、一五六	
材料採取費		四八、八五二		三六、八七八		八五、七三〇	
總計		五三九、一四四 四八、三四一		九〇三、七〇〇 三七、二〇八		一、四四二、八四四 八五、五六九	〇・五一

第一三　鹿兒島港修築工事

緒言

本工事ハ鹿兒島縣ノ事業ヲ內務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費三百萬圓內半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十二年度ヨリ昭和四年度ニ至ル七箇年度ノ繼續事業トシテ施行スベキ計畫ナリシモ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期限ヲ昭和七年度迄延長スルコトトナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ九州南部ノ重要港灣ニシテ其背面地域ニ鹿兒島、宮崎ノ二縣ヲ控ヘ沖繩大島其他南海諸島ニ至ル唯一ノ港灣ナリ本港ハ舊藩政時代ヨリ夙ニ港灣ヲ修築シ三五郎波止、新波止、一丁臺場等ノ防波堤ヲ築設シテ北東及南東ノ激浪ヲ防ギ船舶ノ碇繫ヲ安全ナラシメシモ爾來歲月ノ經過ニ從ヒ港內埋沒シ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ明治三十三年度ヨリ同三十八年度ニ亙リ縣費八十五萬圓ヲ投ジ港內ノ浚渫ヲ行ヒ船舶ノ碇繫、貨物ノ集散ニ多大ノ便益ヲ與ヘ稍ゝ其面目ヲ新ニセリト雖モ輓近內外通商貿易ノ發達ハ出入船舶ノ增加ト船型ノ增大ヲ來シ殊ニ沖繩、大島諸島ノ開發ト本港背面地域ノ交通機關ノ發達トハ本港將來ノ貿易額ヲ著シク增加セシムベキヲ以テ現在ノ港狀ニテハ到底其使命ヲ全フスルコト能ハズ是本計畫ノ起リシ所以ニシテ當初ノ計畫ハ工費三百萬圓ヲ以テ港內ヲ浚渫埋築シ水深七米二岸壁三百七十八米ヲ築設シ專ラ荷役施設ヲ改善シ以テ本港貿易ヲ發展ニ適應セシメントスルニア

リシモ最近ニ至リ出入船舶ノ增加、船型ノ增大著シク前述ノ計畫ニテハ港區ノ狹小ヲ感ズルニ至リシヲ以テ大正十五年六月計畫ヲ變更シ先以テ南北防波堤ヲ築設シ辨天臺場及洲崎町埋立地ノ一部ヲ掘鑿シテ港內水面積ノ擴張ヲ圖リ以テ大型汽船ノ碇繫ニ便セシメ岸壁埋立等ノ荷役、施設ノ改善ハ地方財政ノ回復ヲ待チ工費ノ增額ヲ行ヒ之ガ完成ヲ期スルコトトセリ

今修築計畫各部ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

防波堤　北防波堤長二百六十米ヲ一丁臺場先端ヨリ南東ニ又南防波堤長百十米ヲ洲崎埋立地ヨリ北東ニ向ケ築設シ港口百米ヲ隔テテ兩防波堤ヲ相對セシメ以テ波浪ヲ防ギ併セテ甲突川口漂砂ノ侵入ニ備フルモノトス北港口ハ其幅員廣キニ過ギ北東ノ激浪ニ際シ往々港內船舶及護岸ニ損害ヲ與フルヲ以テ新波止ヲ北ニ三十米延長シ幅員ヲ七十米ニ縮小スルモノトス

掘鑿及浚渫　港內中央部ニ介在スル辨天臺場同渡道屋久島岸岐ヲ除却シ洲崎埋立地ノ北半部ヲ掘鑿シ以テ港內水面積ヲ約二十九萬平方米ニ擴張シ生產町ヨリ潮見町ニ至ル海面約九萬平方米ヲ干潮面以下七米五ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ碇泊ニ便セシメ其南部約三萬平方米ヲ干潮面以下三米ニ浚渫シ發動汽船及帆船ノ碇繫所トス

棧橋　生產町一號棧橋ヲ築町ニ移轉シ固定棧橋及浮函一個ヲ增設シ三千噸級汽船ヲ繫留セシメ又築町棧橋ヲ生產町ニ渡道二號棧橋ヲ住吉町ニ移轉シ夫々一千噸級汽船及灣內交通汽船ノ繫留ニ便セシム

施工狀況

本年度ニ於テ施工セル主ナル工事ハ浚渫工事、防波堤工事、函工場設備工事、函製作工事及方塊製作工事ニ

シテ其施工狀況左ノ如シ

函工場設備工事ハ昭和二年四月下旬ヨリ著手シ同年十二月ニ至リ各種建築物ノ竣功ト相俟ツテ略々其完成ヲ見直チニ函製作ニ著手セリ而シテ本工事及機械費ヲ以テ施工シタル主ナル設備ヲ列擧スレバ次ノ如シ

地盛四千五百立方米、防波壁五十米、斜路一箇所、型枠組立裝置一箇所、機械基礎五箇所、函進水用固定臺一組、函製作臺二臺、滑臺一組、混凝土捲揚塔一臺其他綱取等

防波堤用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ昭和二年十二月函工場及函製作用諸機械ノ設備略々完成スルヲ待テ著工シ三年三月北防波堤用函二個ヲ完成進水シ引續キ二個ノ製作ヲ了セシモ進水スルニ至ラザリキ防波堤用各種方塊製作工事ハ昭和三年二月ヨリ函製作用諸機械ヲ利用施行シタルガ作業日數僅少ナリシ爲メ年度末迄ニ北防波堤用ノモノ二十八個ヲ製作シタルニ過ギズ

防波堤工事ハ昭和二年十月北防波堤基礎工ニ著手シ先ヅ掘鑿工事ヨリ生ズル石材ヲ中心部捨石ニ利用シタルガ本年度ニ於テモ引續キ之ヲ施行シタル外灣内櫻島ヨリ硬質ノ熔岩ヲ採取シ前記掘鑿石材ノ上部ニ捨込ミ順次工ヲ進メ昭和三年三月ニ至リ混凝土函二個ヲ据付ケ其内部塡充混凝土モ略々完了セリ

掘鑿及浚渫工事ハ前年度ニ引續キ掻揚式浚渫船錦江號ヲ使用シ波浪ニ對スル港内保安及港内利用ノ狀態ヲ考ヘ辨天臺場ノ掘鑿、港務所前面及住吉町地先ノ浚渫等逐次作業箇所ヲ變更施行シタルガ港内狹隘ナル爲メ危險多ク作業困難ヲ極メシト雖モ工事頗ル順調ニ進工シ本年度内ニ掘鑿四萬五千五百八立方米、浚渫十一萬八千五百五十二立方米、計十六萬四千六十立方米ノ土量ヲ除却シ年度末ニ於ケル累年竣功土量ハ合計約二十六萬立方米ヲ算シ計畫總土量ニ對シ三割二分ノ竣功ニ達セリ

其他運河浚渫工事竝ニ自記檢潮機移轉、工事用雜石及砂ノ直營採取等ノ雜工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ二十五萬七千百七十七圓ニシテ起工以來ノ累計ハ六十九萬七千八百三十三圓ヲ算シ工費總豫算二百八十萬五千六百圓ニ對シ二割五分ノ竣功ナリ其工費竣功表ハ左ノ如シ但シ「△」ハ評價品見積價額ニシテ防波堤及護岸費竣功金額中ニハ函工場設備費、雜石及砂ノ採取費竝ニ工事用諸機械運轉費等ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤及護岸費	九五、八三八立方米	三一四円	一六四、〇六〇立方米	五五、一五二円	二五九、八九八立方米	五五、四六六円	〇・二〇割分
浚渫費		二四、三六二		四五、〇九四		六九、四五六	〇・三二
船舶及機械費		△三七三、四二〇		△一一六、五四四		△四八九、九六四	
家屋移轉費		一、四七九		二、一七二		三、六五一	
營繕費		六、〇〇〇		二、八三五		八、八三五	
雜費		一四、三五五		一二、五五四		二六、九〇九	
共濟組合給與金		二一、四五八		二三、五四〇		四四、九九八	
		七四七		一、四五八		二、二〇五	
總計		△四四〇、六五六		△二五七、一七七		△六九七、八三三	〇・二五
		一、四七九		二、一七六		三、六五五	

第一四　小松島港修築工事

緒言

本港ハ明治四十四年度ヨリ德島縣ニ於テ港灣修築ニ關スル調査ヲ開始シ大正二年度ニ至リテ工費十四萬四千六百餘圓ヲ投ジ四箇年度ニ亙ル工期ヲ以テ内港部ノ整理修築ヲ遂行シ次デ同六年度ヨリ同十年度ニ亙リテ更ニ工費十九萬九千四百餘圓ヲ以テ港口ヲ扼スル南北兩突堤ヲ增築シタル外海底ノ浚渫ヲ施シタル結果現ニ一千噸級汽船ノ出入ヲ容易ナラシメタリト雖モ最近本港發展ノ趨勢ハ進ンデ現設備ノ擴張ヲ促スヤ急ナルモノアリ茲ニ於テ德島縣ハ本港將來ノ發展ニ資スベキ新計畫ヲ樹テ更ニ總工費三百四十四萬九千五百圓(當初豫算三百二十萬二千圓ノトコロ大正十五年四月大字小松島及中田地先海面ノ埋立費トシテ二十四萬七千五百圓追加)ヲ豫算シ其半額ハ國庫ヨリ補助(但シ追加豫算ニハ國庫補助ナシ)ヲ得同十二年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度ノ縣營繼續事業(當初大正十二年度ヨリ同十九年度マデノ八箇年度ノ工期ナリシガ財政ノ都合上二箇年度延長)トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀竝計畫大要

本港ハ四國ノ東部北緯三十四度東經百三十四度二十六分ニ位シ阪神兩港トノ聯絡ヲ初メ夙ニ本邦沿岸各地トノ交通開ケ四國東海岸唯一ノ重要港灣ナリ而シテ本港ノ外港部タルヤ小松島灣ハ北東ニ向ツテ

展開シ北西東山岬ト東方和田鼻トハ相對峙シテ港口ヲ扼シ其幅員約二千七百米ヲ有ス灣內水深クシテ大船巨舶ノ出入碇泊ニ適シ天然ノ良灣ヲ成スト雖モ其內港部ハ僅カニ神代瀨川河口ヲ利用スルニ過ギザルヲ以テ深度不充分ニシテ海陸ノ聯絡設備整ハズ小型船舶ニシテ仍ホ且出入自由ナラザルノ憾ミアリ然レドモ商工業ノ著シキ發展ハ船舶及貨客ノ增加ヲ來シ現在ノ內港設備ニテハ既ニ狹隘ヲ告ゲ到底時代ノ趨勢ニ順應スル能ハズ加フルニ近キ將來阿土鐵道完成ノ曉ハ愈々本港ハ四國ノ東門ヲ司リ本州トノ聯絡ハ益々重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベキヲ以テ之ガ修築擴張ハ本港ノ最モ急務トスルトコロナリ其計畫ノ大要左記ノ如シ

防波堤ハ現在港外北東突堤部ヨリ長九十一米ヲ施設シ又東方ハ長五百八十米ヲ築造シ港內幅員二百七十三米ヲ保タシム此港門ハ將來必要アルトキハ之ヲ百八十米ニ短縮シ此防波堤ヲ更ニ約九十一米ニ增築スルモノトス而シテ此兩防波堤ニ依リ抱擁セラルル水面積ハ約八十七萬六千六百平方米トス

岸壁ハ現在繫船岸ノ北側ナル池沼及耕地ヲ浚渫シテ凹字形ノ船溜ヲ設ケ其周圍ニ岸壁ヲ築造ス船溜ハ東部入口ニ於テ幅員百二十七米、西部ニ於テ九十一米トシ岸壁ハ入口ニ近キ北側百二十七米、南側百二十九米ハ干潮面下六米四ニ其奧北側十一米、南側九十二米ハ五米五ニ築造シ其兩側ニ二千五百噸汽船一隻、一千五百噸級汽船二隻ヲ繫留シ得ベカラシメ尙凹字形ノ前面南方ノ岸壁ハ帆船又ハ小型汽船繫留ノ便ニ供スル爲メ水深三米ニ築造ス

浚渫及掘鑿ハ港內約三十九萬六千七百平方米ヲ干潮面下六米四ニ浚渫シ又現在港內南隅ノ田面約一萬四千九百平方米ヲ水深干潮面下二米五ニ掘鑿シ漁船ノ繫留場ニ充ツルモノトス

埋立ハ岸壁左右ノ耕地ヲ埋立テ工場敷地トシテ工事完成後ハ鐵道敷地上屋及倉庫等ノ敷地ニ充テント

ス

以上當初計畫ノ外追加若クハ計畫ヲ變更シタルモノ左記ノ如シ

一　大正十五年四月同港內大字小松島中田地先ノ海面六萬九千五百平方米ノ埋立追加工事トシテ工費二十四萬七千五百圓ヲ計上シタリ

二　昭和二年十一月前記埋立計畫ヲ縮小シタル一面元根井地先ニ於テ面積約二萬五十平方米ノ埋立ヲ爲スト共ニ更ニ橫須地先ニ於テ面積四萬六千百七十平方米ノ埋築ヲ爲シ其各周圍ニ護岸又ハ物揚場ヲ築造シ以テ港灣陸上設備用地ニ供ス

當初計畫ニ屬スル漁船溜ノ位置ヲ橫須地先埋立地ノ前面ニ變更シタル結果其東角ヨリ延長百六十米ノ防波堤ヲ突出セシメ之ニ接續シテ築造スル物揚場ノ內延長百六十米ヲ漁船用ニ充テ且在來ノ南突堤ヲ其先端ヨリ新埋立地ノ取付マデ除却スルモノトス

三　昭和三年二月小松島字港口ニ於ケル當初計畫ノ三米岸壁中其屈曲部ヨリ南西ニ亙ル延長百九米ヲ廢シ代フルニ其北部岸壁二百三十一米ヲ一直線ニ南方ヘ九十九米延長シテ此總延長ヲ三百三十米トシ而シテ其終端ト在來護岸ノ先端トヲ接續セシムル爲メ延長二十米ノ護岸ヲ築造シテ此內部ニ於ケル面積一千六百平方米ニ對シテハ干潮面上三米ニ埋築スルモノトス

施工狀況

本年度ハ新タニ岸壁及物揚場築造工事ニ著手シタル外ハ總テ前年度來ノ繼續施行ニシテ其主ナルモノハ防波堤築造、港內浚渫、石材採取及用地買收等ナリ以下其概要ヲ記述スベシ

一　防波堤築造

防波堤築造計畫中前年度ニ於テ東防波堤ノ基礎工事ニ著手シテ延長百八十九米完成セシメタリシガ本年度ハ之ニ續工シテ基礎延長八十九米、荷重据置延長百七十六米施行シタル外所要方塊二百七個ヲ製造シテ直接工費三萬四千十圓ヲ支出ス

二　岸壁築造

小松島港字港口ニ築造スベキ水深三米岸壁計畫延長三百三千米ニ對シ其北端ヨリ五十米距テタル點ヨリ昭和二年八月著手ス構造ハ基礎捨石上ニ混凝土方塊ヲ三段重積シ上部ハ場所詰混凝土ヲ施シ干潮面上二米十糎ニ達セシメ之ヨリ八分一ノ勾配ヲ附シタル斜面物揚場ヲ構成シ背後ヲ割石ニテ裏詰工ヲ施ス計畫ナリ之ニ對シ本年度ハ先ヅ以テ海底ノ軟泥排除ノ目的ヲ以テプリストマン式浚渫船ヲ運用シテ延長百五十米ノ床掘ヲ爲シ此浚渫土砂三千七百五十立方米ノ内一千六百四十一立方米ハ横須地先ノ埋立ニ利用シ他ハ港外ニ投棄シテ床掘延長百五十米ニ對シ基礎九十米及荷重八十八米完成ス

三　物揚場築造

横須地先ニ築造スベキ水深二米物揚場計畫延長二百七十二米ノ内其西端ヨリ三十六米隔テタル點ヨリ東方ヘ延長二百米ノ築造ニ對シ昭和三年一月ヨリ著手ス其構造ハ基礎捨石上ニ混凝土方塊二段重積シ其上部ハ場所詰混凝土ヲ施シテ干潮面上二米五糎ノ高ニ達セシメ之ヨリ六、五分一ノ勾配ヲ附シタル斜面混凝土物揚場ヲ構成シ背後ハ割石ニテ裏詰ヲ爲ス計畫ニ對シ本年度ハ延長二百米ノ床掘ヲプリストマン式浚渫船ニテ掘鑿シ土砂二千九百立方米ヲ得テ之ヲ直チニ横須地先ノ埋立ニ利用シタル外基礎捨石延長五十間完成ス

四　浚渫

本年度ハ小松島港字港口地先水深三米岸壁前面ヲ朔望干潮面以下三米ニ浚渫スル計畫ノ下ニプノストマン式浚渫船ヲ昭和二年八月ヨリ運用シテ年度内土量一萬一千二百十五立方米ヲ浚渫シタル内四千七百八十五立方米ヲ横須地先ノ埋立ニ利用其他ハ港外ニ投棄ス又突堤除却ニ於テハ北突堤延長十八米ヲ除却シテ古割石一千五百十六立方米及南突堤延長二米ヲ除却シテ古割石百四十二立方米ヲ得之ヲ直ニ東防波堤及三米岸壁ノ基礎ニ利用ス

五　埋立

本年度ハ小松島港沿岸計畫埋立ノ一部横須地先ノ下埋ヲ施工ス土砂ハ總テ浚渫及床掘ヨリ生ジタル利用ニシテ功程土量九千三百二十六立方米ニ及ビタルモ工費ハ僅カニ百五圓ニ過ギズ

六　用地買收

前年度來調査發表シテ暫クハ相互形勢觀望ノ姿ナリシガ新年度ニ入ルト同時ニ交渉ニ努力ジタリシガ其間相當波瀾ヲ見タルモ遂ニ圓滿ニ承諾セシムルコトヲ得タリ尙用地ハ宅地、田、畑及原野等通ジテ二萬四千九百六十二坪餘此買收金額十四萬六千六百六十三圓トス又建物ハ四百四十四坪七合此移轉料二萬二千八百九十六圓ナリ

七　材料採取

割石斫出ノ目的ヲ以テ前年度來ヨリ採取ヲ續行ス本年度ハ一萬二百四十八立方米ノ採取ト運搬トヲ遂行シ内七千五百十四立方米ハ東防波堤ノ基礎ニ一千六百五十二立方米ハ三米岸壁基礎ニ一千八十二立方米ハ二米物揚場基礎ニ投入シタリ

八　雜　件

船舶及機械ニシテ其修繕程度輕易ナルモノハ總テ直營ニテ施工他ハ請負ニ付セリ本年度ハプリストマン式浚渫船一隻建造シタル外修繕其大部分ヲ占ム而シテ直接工費五萬四千二百七十七圓ノ內六千四百七圓ハ直營ニシテ他ハ請負施行金額ナリ

施行諸費中主ナルモノハ事務所雜費及不就役船舶機械管守費ニシテ石炭及セメントノ試驗費ヲモ包含ス其他檢潮ニ要シタル費用及共濟組合給與金等ナリ

以上諸工事ヲ施工シタル本年度ノ竣功高ハ三十萬一千六百九十七圓ニシテ竣功累計ハ六十三萬一千九百五圓ニ達スルヲ以テ之ヲ總工費三百二十四萬六千圓ニ對比スルトキハ約一割九分ノ竣功ニシテ左表ノ如シ但シ「×」ハ直營採取ニ係ル材料代ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤費	一八九米	七、六四五円 三七、一一三	八九米	三四、〇一一円 一四、二二〇〇	二七八米	四一、六五五円 五一、三三三	〇・〇九割分
岸壁費	×	×	×	×	×	×	
揚場費			八九	三、四七六 三、一二五	八九	三、四七六 三、一二五	〇・〇四
浚渫費			五〇	一、八五一 二、〇四八	五〇	一、八五一 二、〇四八	〇・一五
埋立費	二一三、四五一立方米	七八、〇一九	一二、四一三	五、七五一	二二五、八六四	八三、七七〇	〇・一九
用地費	一六、〇八五	一三、三〇六	九、三二六	一〇五	二五、四一一	一三、四一一	〇・〇八
船舶及機械費		八、五四九		一六六、六四五		一七五、二九四	
測量及檢潮費		一三三、一七八		五四、二七七		一八七、四五五	
營繕費		三、九一一		三七〇		四、二八一	
		八、六三五				八、六三五	

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
雜費	—	三七、三〇八円	—	一五、一三〇円	—	五二、四三八	割分 —
共濟組合給與金	—	二、〇一九	—	六八九	—	二、七〇八	—
材料採取費	—	三七、五三八	—	一九、三九三	—	五六、九三一	—
總計	—	三三〇、二〇八 三七、一一三 ×	—	三〇一、六九七 一九、三九三 ×	—	六三一、九〇五 五六、五〇六 ×	〇・一九

第一五　伏木港修築工事

緒言

本港ハ富山縣ノ南西隅庄川ノ河口ニ位シ古ク裏日本ニ於ケル良港ノ一トシテ其名高ク維新後益々發展ノ域ニ至リ舊來ノ設備ニテハ荷役ノ困難ヲ感ジ遂ニ明治三十三年政府ハ同港ニ注入スル庄川ノ改修工事ヲ施行スルト共ニ現今ノ如ク庄川ト分離セシメ一面棧橋、繫船岸、突堤、浚渫等ノ諸工事ヲ施シ以テ港内設備ヲ完備シ三千噸級ノ船舶ハ優ニ出入スルヲ得昔日ノ俤ヲ一新セリ然ルニ近時港勢大ニ進ミ近港ナル新潟、七尾、敦賀等ノ諸港ヲ凌駕シ既往ノ設備ニテハ將來港灣ノ使命ヲ全フスルヲ得ザルベキニ依リ富山縣ハ更ニ擴張計畫ヲ企テ政府ニ稟請セシニ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ大正十三年度ヨリ昭和十年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ總工費五百萬圓(內事務費三十三萬一千圓)ヲ以テ大正十三年十一月一日ヨリ直接施行スルコトトナレリ

港狀並計畫大要

本港ハ富山灣ノ中樞ヲ占メ小矢部川ノ水運ヲ利用シ舊庄川ノ河口ニ發展セル港市ニシテ海岸ヨリ三百五十米ヲ隔テテ水深六米夫ヨリ海底緩ニシテ約一千八百米ヲ離レ水深十五米乃至十八米、新湊方面ハ三百五十米ノ沖ニテ二十一米乃至四十五米ノ水深ヲ保ツ又庄川河口約二千三百米ノ所ハ俗稱藍甕ト稱シ水深三百米以上ニ達スル深所ヲ有ス小矢部川ハ源ヲ加賀國境大門山ノ東麓ニ發シ北流十數里ノ間東西

兩礪波郡ノ平野ヲ貫流シ幾多ノ細流支川ヲ合セ本港ニ注グ其水量豐富且溪流ナルヲ以テ舟揖ノ便良ク本川左右沿岸庄川以西高岡以北ノ貨物ヲ蒐集スル自然ノ良港ヲ爲スヲ以テ寛文年間幕府ハ内國ニ十三港ヲ指定セル時本港モ其一ニ列セラル夫ヨリ後天保、弘化年間ニ佐渡ニ次デ大阪ト共ニ開港シ益々港灣ノ眞價ヲ認メラレタリ明治八年三菱會社ノ汽船入港ヲ始メトシ逐年發展ヲ促シ東京、大阪、下關、北海道ノ各港、沿海州、薩哈嗹、朝鮮等ト通航シ船舶ノ出入頻繁トナリシモ本港ハ庄川ノ河口ニ位シ年々同川ヨリ流出スル土砂ノ爲メ河口埋塞セラレ僅ニ百噸内外ノ船舶ヲ繫グノミナリキ然ルニ同三十三年度庄川改修工事ヲ施行スルニ方リ本港ノ修築ヲ爲シ庄川ト小矢部川トヲ分離シ土砂ノ流入ヲ防ギ港口ニ防波堤ヲ内港ニ岸壁ヲ築造シ水深維持上浚渫ヲ施ス等港灣ノ設備ニ意ヲ注ゲリ又富山縣ハ横棧橋、上屋ヲ施設シ軌條ノ敷設ヲ爲シ中越線ト連絡ヲ保チ荷役ニ便ナラシメ本港面目ノ一新ニ努力セシヲ以テ船舶及貨物ノ出入激增シ大正元年度ニ二十六萬五千噸ニ過ギザリシガ爾來逐年多キヲ加ヘ大正十年度ニハ七十萬噸ニ及ビ其增加率ハ毎年一割二厘ニ相當セリ而シテ今後如何ナル率ヲ以テ增加スベキカハ素ヨリ推定スルコト頗ル困難ナリト雖モ本計畫ニ於テハ飛越鐵道ノ完成、縣内諸工業ノ發達及新潟、敦賀二港ニ於ケル擴張工事竣功後本港ガ受クベキ影響等ヲ考察シ增加率ヲ八分ニ算定セリ卽チ大正十年度ニ於ケル輸出入貨物合計七十萬噸ヲ標準トシテ今後八分ノ增加ヲ示スモノトセバ昭和六年度ニハ百五十一萬餘噸ニ達スベキヲ以テ本計畫ニ於テハ百五十萬噸ヲ基礎トシ之ニ應ズル設備ヲ爲スモノニシテ伏木河口ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋間ヲ内港區域トシ水深ノ增加ヲ圖リ船舶繫留區域ヲ擴大シ繫船岸延長增加ノ目的ヲ以テ船渠ノ新設、棧橋及繫船壁ノ增築ヲ爲シ接岸荷役能率ノ增進ヲ圖ラントス

防波堤ノ擴築トシテハ左岸ニ於ケル現在ノ防波堤ヲ三十六米延長シ其根元三十六米ヲ改築ス而シテ右

岸防波堤ハ之ヲ九十一米擴築シ左岸防波堤トノ間ニ港口幅員百五十米ヲ存セシメ以テ港口ニ生ズル土砂ノ堆積ヲ防ギ且右岸新湊海岸ヨリ移動シ來ル土砂ノ侵入ヲ防止スルモノトス

横棧橋ノ增設ハ左岸伏木港地先防波堤根元附近ヨリ現在横棧橋ニ至ル間ニ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米、同七米八ノ横棧橋長百九米及右岸新湊町地先渡船場上流ニ於テハ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米ヲ新設シ其後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス

船渠ノ新設ハ右岸新湊町六渡寺地内縣有貯木場ヲ利用シ入口ニ於テ幅員百九米後方ニ於テ幅員九十一米、奥行二百十八米ノ船渠ヲ新設シ其兩岸ニ水深七米、延長各二百十八米ノ繫船壁ヲ築造シ接岸船ノ便ニ供シ其奥ニハ延長百三十六米ノ物揚場ヲ築設シテ艀船荷役ニ供ヘ且繫船壁及物揚場ノ後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路ノ築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス尙以上ノ外伏木橋上流右岸舊庄川落口附近ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋ニ至ル間ニ於テ各入口幅百九米、奥行二百五十四米及三百二十七米竝ニ入口幅百二十七米、奥行二百十八米ノ三船渠ヲ新設シ左岸鐵道橋下流ニ於テモ入口幅九十米、奥行百九米ノ船渠ヲ新設スルモノトス而シテ此等船渠ハ總テ假工事ヲ爲スニ止メ專ラ木材置場ニ供シ將來港ノ發展ニ伴ヒ其周圍ヲ繫船壁ニ改造スルモノトス

浚渫ハ港口ヨリ上流約六百三十六米迄ヲ水深八米五ニ夫ヨリ上流九十一米ヲ七米九ニ其上流二百七十三米ヲ七米三ニ新湊町地内新設船渠ヲ七米三ニ浚渫シ伏木港上流ニ新設ノ四船渠ハ之ヲ水深〇米九ニ浚渫スルモノトス

埋立ハ新湊町六渡寺地先右岸防波堤ヨリ庄川左岸ニ至ル間約六萬六千百十五立方米ヲ浚渫ニ依リ生ジタル土砂ヲ利用シ埋築スルモノトス

施工狀況

本年度施工セルモノハ浚渫工事竝ニ雜工事ニシテ左ニ其概要ヲ述ベン

浚渫工事　本工事ハ大正十三年度伏木港修築工事起工以來施行シ來リタルモ平水時ハ勿論融雪期及夏期出水時ニ於ケル流下土量尠カラザルガ故ニ水深ノ增加ヲ見ルコトナク單ニ其維持ニ止マル狀態ナリシヲ以テ工費ノ點ヨリ考慮シ本年度以降一時本工事ニ力ヲ注ガズシテ兩三年後一氣ニ施行シテ水深ヲ增加スルヲ得策ト認メ差當リノ水深維持ニ對シテハ富山縣ヲシテ施行セシムルコトトシ本年度ニ於テハ縣ハ昭和二年七月以後四萬一千八百圓ヲ支出シ當省新潟土木出張所ヨリハ從來信濃川河口工事ニ使用セル喞筒式浚渫船阿賀丸ヲ貸與シ船員及吏員ヲ囑託トシテ作業セシメタリ尙前年度來使用セルバケツト式第五號浚渫船ハ昭和二年四月十日ヨリ船體竝ニ機關ノ修理ニ取掛リ同月末日其完了ト共ニ同年五月一日ヨリ十月三十一日迄六箇月間氷見漁港工事ニ使用ノ目的ヲ以テ富山縣ニ貸與セリ歸港後直チニ十一月一日ヨリ暫時本工事ニ從事シタルモ本船ハ製造後二十餘年ヲ經過シ汽罐ノ腐朽甚シキヲ以テ大修理ヲ施スコトトシ豫定ノ作業タル東突堤除却箇所延長百米ノ浚渫終了スルヲ待チ十一月二十五日以後休業セリ

雜工事　本年度施工セルモノハ舊東突堤除却工事、舊貯木場荷揚場張石除却工事、舊貯木場竝ニ水路護岸石積除却工事及用地地均工事ノ四ナリトス

舊東突堤除却工事　本工事ハ右岸新湊町地內新設船渠工事施行上先年庄川改良工事ニ際シ施工セル東突堤ノ一部延長百二十米ヲ除却スルモノニシテ昭和二年六月一日著手シ水面上ノ張石ヲ剝取リ中込

石ヲ取除キ續イテ潛水夫ニ依リ水中捨石及沈床ヲ引揚ゲシメ翌三年三月十一日迄ニ延長百米ヲ成功シテ翌年度ニ繰越セリ

舊貯木場荷揚場張石除却工事　本工事ハ新湊町地内新設船渠工事竝ニ港灣用地地均工事ニ先チ縣有舊貯木場ノ一部ニ存在セル荷揚場張石ヲ除却セルモノニシテ昭和三年一月著手シ三月六日迄ニ全部一千平方米ヲ除却竣功セリ

舊貯木場竝ニ水路護岸石積除却工事　本工事モ亦前記貯木場ノ外惡水路護岸石積ヲ除却スルモノニシテ昭和三年三月著手シ年度末迄ニ百八十平方米ノ成功ヲ見テ翌年度ニ繰越セリ

港灣用地地均工事　本工事ハ港灣用地トシテ買收セル地域ノ内伏木町字湊町地内面積五千百三十平方米ニ於ケル地上物件移轉跡ヲ整理シ凹凸ヲ均ラサントスルモノニシテ先ヅ混凝土土臺石等ノ障害物ヲ取除キ土運車ヲ使用シテ地均シセリ昭和三年三月著手シ年度末迄ニ四千五百平方米ヲ成功シ翌年度ニ繰越シタリ

以上本年度ニ於テ雜工事ニ使用シタル工費合計五千七百七十二圓ナリトス

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ新湊町、中伏木、中伏木新及六渡寺地内ニ於テ土地一萬四千百七十平方米餘ヲ買收シ又物件移轉費ヲ支出セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ三十八萬七千二百九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計百二萬二千五十八圓ニシテ之ヲ總工費四百六十六萬九千圓ニ比スレバ二割二分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	四〇六、一四〇 立方米	五二、一四四 円	一、三、三三六 立方米	三、三九一 円	四一八、四七六 立方米	五四、五三五 円	〇・二一 割分
雜工事費	—	—	—	五、七七二	—	五、七七二	—
船舶機械費	—	七二、六三〇	—	二一、三二〇	—	九三、九五〇	—
測量費	—	三、〇四三	—	一、三七一	—	四、四一四	—
雜費	—	四九、一二七	—	二九、六六五	—	七八、七九二	—
營繕費	—	一、八二八	—	一、三一三	—	三、一四一	—
地用費	二、九七二 坪	四五三、八三二	四、二九三 坪	三二三、八六八	七、二六五 坪	七七七、七〇〇	—
共濟組合給與金	—	二、二四五	—	一、五〇九	—	三、七五四	—
總計	—	六三四、八四九	—	三八七、二〇九	—	一、〇二二、〇五八	〇・二二

第五章　復舊工事、應急工事及補修工事

第一　相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事

緒言

本工事ハ大正十三年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費四百九十八萬六千八百七十一圓(事務費四十三萬六千八百七十一圓ヲ含ム)ヲ以テ施行スルモノトス而シテ本工費ハ震災府縣ニ於テ其負擔ニ耐ヘザルヲ以テ全部之ヲ國庫支辨トセリ

河狀竝計畫大要

相模川ハ源ヲ富士東麓山中湖ニ發シ山梨、神奈川ノ兩縣ヲ經テ相模灣ニ注グ流路延長四百六十粁、流域面積一千六百二十二平方粁アリ上流部ヲ桂川ト稱シ下流部ヲ馬入川ト稱ス工事ヲ施行セントスル區域ハ支川道志川、中津川、桂川及笹子川トス

道志川ハ源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ道志、丹澤兩山塊ノ溪間ヲ北東ニ貫流シ山梨、神奈川ノ縣界ニ於テ丹澤山塊ノ盟主蛭ヶ嶽(標高一千六百七十三米)ヨリ發スル支流神ノ川ヲ合セ以下蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ至リ相模川ニ合流ス流路延長四十三粁、流域面積百四十四平方粁アリ流域內山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ地勢急峻ニシテ林相良好ナラズ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ右岸ナル丹澤山塊ニ於テ甚シク殊

ニ神ノ川流域山地ノ如キハ其面積ノ約三割ヲ崩壞ニ歸セリ本川ハ横濱市水道水源地ニシテ同市ニ對シ極メテ密接ナル關係ヲ有ス然ルニ震災以來河水溷濁甚シク之ガ沈澄ニ同市ハ多大ノ經費ヲ投ジツツアリ其復舊ハ一日モ猶豫スベキニ非ザルナリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費八十萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流神ノ川ニ四箇所、室久保澤ニ二箇所、西ノ澤、井口澤、横山澤、此間澤、大群澤、椿澤及三ケ瀨澤ニ各一箇所、計十八箇所ノ堰堤竝ニ三ケ瀨澤ニ二箇所ノ床固ヲ設置スルコトトセリ

中津川ハ源ヲ丹澤山、塔ケ嶽、大山等ニ發シ流路延長十五粁、宮ケ瀨村落合ニ於テ支流早戸川ト合ス合流以奥ノ流域面積五十三平方粁アリ流域内山地ハ從來森林密茂シ殆ンド崩壞ナク河水常ニ清澄ニシテ各所ニ深淵ヲ形成シツツアリシガ一朝大震災ニ會スルヤ全山到ル所大崩壞ヲ生ジ土石及倒木ハ河流ヲ堰キ宮ケ瀨村附近ニ於テハ一時間以上流水ヲ見ザリシト謂ヘリ而シテ大正十二年九月十五日ノ出水ハ再ビ多量ノ土石及流木ヲ下流ニ押送シ或ハ家屋ヲ流シ田畑ヲ埋メ河床ノ增嵩ハ下流ニ於テ二米、中流ニ於テ五米ニ達セリ支流早戸川ハ源ヲ蛭ケ嶽、丹澤山等ニ發シ流路延長十二粁、流域面積三十七平方粁アル流域山地ノ大部分ハ烏屋村村有林ニ屬シ官行造林ニ據リ年々杉及扁柏ヲ植栽シツツアリシガ大震災ニ因リ被害最モ甚シク三平方粁六ノ村有林中約其四割タル一平方粁五ハ崩壞ニ歸セリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十萬圓ヲ以テ本流（早戸川合流點ノ上流）ニ七箇所、早戸川ニ八箇所、計十五箇所ノ堰堤ヲ築設スルコトトシ早戸川ニ於テハ川口ヨリ上流二粁六ノ地點ヨリ其上流七粁ノ區間ニ六箇所ヲ尙支流宮ケ瀨、金澤及水澤ニ各一箇所ヲ築設スルコトトセリ

桂川流域中崩壞最モ甚シキハ其支流鹿留川及小佐野川トス鹿留川ハ源ヲ道志山塊皆形山ニ發シ流路延

長十一粁、東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急流河川ニシテ流域面積三十八平方粁アリ地質ハ支流倉見澤以奥石英閃綠岩下流ハ凝灰岩トス大震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ激甚ニシテ九月十五日ノ出水ニ際シテハ從來十米ニ過ギザリシ川幅ハ一躍百米乃至五百米ニ擴大シ土石及倒木ノ流出甚シク大野ヨリ門原ニ至ル約二粁ノ區間ハ土石流ノ爲メ沿川ノ耕地殆ンド荒廢ニ歸シ家屋ノ流失亦不尠之ガ爲メ流身一定セズ爾來耕地ヲ脅シツツアリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費二十二萬圓ヲ以テ鹿留川大野部落ノ上流ニ四箇所、其支流倉見澤ニ一箇所、計五箇所及小佐野川ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設シ以テ土石ノ流出ヲ防止セントス

笹子川ハ源ヲ笹子峠ニ發シ東南流シ追分ニ至リ狩谷澤ヲ合セテ東流シ笹子、初狩、廣里ノ諸村ヲ經大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合流ス流路延長十五粁、流域面積九十四平方粁アリ震災ニ因ル崩壞ハ右岸ニ多ク就中右支柳澤、辰巳澤及庭洞澤ヨリ押出セル土石ハ九月十五日ノ出水ニ際シ中央線ノ鐵道ヲ埋メ汽車ノ不通二日間ニ及ベリ

本川砂防計畫ハ本工事費五萬圓ヲ以テ辰巳澤及庭洞澤ニ各四箇所、計八箇所ノ小堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

酒匂川ハ源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流部ニ於テ河內川及鮎澤川ノ二大支流ニ分岐ス工事ヲ施行セントスル區域ハ河內川及鮎澤川支流野澤川流域トス

河內川ハ源ヲ中部及西部丹澤山塊ニ發シ上流ニ於テ玄倉川、中川、世附川ノ三川ニ分岐ス流域面積百七十二平方粁アリ流域山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ之ヲ覆フニ火山灰ヲ以テス、玄倉川ハ源ヲ蛭ケ嶽、丹澤山、塔ケ嶽等ニ發シ流路延長十七粁、流域面積四十六平方粁アリ中川ト共ニ河內川ニ合流ス河床勾配

ハ合流口附近ニ於テ約五十分一トス中川ハ源ヲ大群山、加入道其他ニ發シ流路延長十三粁ニシテ河内川ニ合流ス流域面積四十二平方粁アリ世附川ハ源ヲ西丹澤山塊ニ發シ流路延長十四粁ニシテ河内川ニ合流ス流域面積六十七平方粁アリ震災ニ因ル河内川流域山地ノ崩壞ハ極メテ甚シク震災地方第一位ニアリ就中玄倉川水源地ノ如キハ全山殆ンド崩壞シ盡シ慘澹タル光景ヲ呈セリ加之震災直後九月十五日ノ出水ニハ多量ノ崩落土石及倒木ハ山津浪ト成リテ流下シ各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費七十三萬圓ヲ以テ本流ニ一箇所、支流玄倉川ニ三箇所、中川ニ四箇所、世附川ニ七箇所ノ堰堤ヲ適當ノ地點ニ築設シ河床ノ侵蝕ヲ防止スルト共ニ流下土石ヲ扞止セントス然レドモ以上ノ工事ハ此大面積ノ流域及崩壞ニ對スル施設トシテハ餘リニ小規模ニ失シ其目的ヲ達スルコト困難ナルニ依リ竣功後ハ更ニ數倍ノ追加工事ヲ必要トスルモノナリ

野澤川ハ源ヲ湯船山（標高一千四十二米）、山伏山、其他ニ發シ流路延長七粁、小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流スル小河川ニシテ流域面積十四平方粁アリ流域内山地ハ御坂層ヨリ成リ其上層ハ厚ク火山灰ヲ以テ被覆セラル震災ニ因ル崩壞ハ相當激甚ナリシモ地勢竝ニ河床勾配緩ナルガ爲メ其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ輕シ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費十二萬圓ヲ以テ本流及支流湯船澤、小野畑澤、竝ニ棚澤ニ計七箇所ノ堰堤ヲ築設セントス蓋シ本川ノ荒廢ハ之ニ依リ大體防止セラルベシ

早川ハ源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖ニ發シ仙石原ヲ灌漑シ銚子ノ口ニテ一瀉絶壁ヲ下リ宮城火口原ニ入リ底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ東部外輪山タル明星、淺間ノ兩山間ヲ過ギ湯本ニ於テ須雲川火口瀨ト合シ小田原町ノ南方ニテ相模灣ニ注グ急流河川ナリ流域面積百六平方粁ヲ有シ流域内最高地點ハ中央

火口丘神山ノ絶頂標高一千四百三十八米トス而シテ蘆ノ湖ヨリ海ニ至ル流路延長二十四粁、河床勾配ハ平均三十三分一トス流域山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩トアリ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化侵蝕ノ作用ヲ受ク地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ粗ニ未立木地多シ震災前流域山地ハ崩壊少ク土石ノ流出亦多カラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ到ル處大崩壊ヲ爲シ山容ヲ一變セシメタリ就中須雲川右岸ノ崩壊ハ最モ甚シク丹澤山塊ノ大崩壊ニ比スベキモノアリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十五萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流常盤澤ニ三箇所、須雲川及大澤ニ各二箇所、蛇骨川ニ一箇所、計十三箇所ノ堰堤ヲ築造シ多量ノ流下土石ヲ扞止スルノ外河床ヲ高メテ兩岸崩壞ノ增大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且國道ノ安全ヲ期セントス

堰堤中大平臺上流堰堤ハ五河川流域中最大且最高ノモノニシテ高三十米、長四十二米、築立立積一萬立方米、工費二十四萬圓ヲ要シ貯砂量六十萬立方米ニ達シ出山堰堤(高二十米、長五十米、築立立積五千五百立方米、貯砂量二十萬立方米)及觀音坂堰堤(須雲川、高十米、長五十一米、築立立積二千百三十五立方米)ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス計畫遂行ノ曉ニ於テハ河狀大ニ改マリ塔ノ澤以下ノ沿川ハ甚シキ水害ナカルベク同時ニ上流ニ於テハ水流緩トナリ侵蝕作用歇ミ復昔日ノ狂暴ヲ見ザルニ至ルベシ然リト雖モ工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流ニ對シ追加工事ヲ施行スルハ勿論各支流ニ對シテモ尙多數ノ堰堤ヲ築設セザルベカラズ

花水川ハ源ヲ東部及中部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玉川、鈴川、金目川、葛葉川及水無川ノ五箇川ニ分岐シ下流ニ至リ諸川合流シテ花水川トナリ大磯町ニ於テ相模灣ニ注グ流域面積二百二十平方粁アリ玉川ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壞ヲ生ジ震災

直後ノ豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ尚今後危險ノ狀態ニアル家屋十數戸アリ鈴川ハ源ノ大山(標高一千二百四十六米)ニ發シ南東流ス傾斜急ナル水源山地ハ震災ニ因リ大面積ノ崩壞ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニハ多量ノ崩落土石及倒木ハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ其大半ヲ倒潰セリ爾來一年町民ハ復舊ニ努力シツツアリシガ同十三年九月暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壞ヲ增大シ又々多量ノ土石ヲ流下シテ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ金目川ハ源ヲ大山ノ支峯タル春嶽ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニハ土石流蓑毛彎曲部ノ堤防ヲ決潰シテ部落ニ侵入シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ葛葉川ハ源ヲ三ノ塔山(標高一千二百六米)ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ入角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛ニ歸セシメ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ同十三年九月ノ豪雨ハ又々多量ノ土石ヲ流下シ其被害ハ前年ニ倍シ且益々增大セントスル狀態ニアリ水無川ハ源ヲ塔ケ嶽(標高一千百十米)ニ發シ南流後南東流シ秦野町ノ南部ヲ過グ花水川ノ最大支流ニシテ宇大倉ニテ山間部ヲ離ルルヤ河水ハ廣大ナル河原地ニ滲透シ其姿ヲ失ヒ荒廢最モ甚シ然リト雖モ沿川低地ニ人家ナキヲ以テ大被害無カリシハ幸ナリキ花水川ノ水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナリシト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壞ヲ生ジ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ會シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ河積極メテ狹隘ナリシヲ以テ之ヲ流過スルヲ得ズ遂ニ沿川ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委スルニ至リシナリ事態如斯ナルヲ以テ直ニ本川ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止セザルベカラズ依テ本工事費二十八萬圓ヲ以テ玉川金目川及水無川ニ各二箇所葛葉川ニ一箇所鈴川ニ十箇所計十七箇所ノ堰堤ヲ築設シ其目的ヲ達セントスルモ右ノ程度ニテハ其效果充分ナラズ更ニ增補工事ヲ施行スルノ要アリトス

多摩川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小菅日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅町ニ至リ右折シ

テ東南ニ向ヒ拜島村ニテ秋川、日野町ニテ淺川ノ二大支流ヲ合セ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ成シテ東京灣ニ注グ砂防工事ヲ施行セントスル流域ハ全部秩父古生層ニ屬シ地勢急峻ナレドモ土地豐饒ニシテ森林ノ生長良好ナリ而シテ本川ハ東京市水道水源地ナルヲ以テ同市ハ水源涵養ノ目的ニテ山林ヲ買收シ又ハ借入レ其經營ニ努力スレドモ大消費地タル同市ニ遠カラザル關係上他ノ森林ハ濫伐セラレ山地ハ極度ニ荒廢シ甚ダ寒心スベキ狀況ヲ呈スルニ至レリ依テ東京府ニ於テハ同七年度以來本川流域ノ砂防工事ニ著手シ同十二年度迄繼續施行セリ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ他ノ四箇川流域ニ比シ遙ニ輕キモ山地到ル所ニ龜裂ヲ生ジ將來益々崩壞面積ヲ增大スルノ虞アリ殊ニ東京市上水道ニ對シ重大ナル關係アルヲ以テ其砂防ハ一日モ忽諸ニ附シ難シ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費五十五萬圓ヲ以テ青梅町以奥多摩川本流流域四百五十七平方粁、五日市以奥秋川流域百四十一平方粁及八王子以奥淺川流域百三平方粁、合計七百一平方粁ノ流域內河川適當ノ箇所ニ五十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ侵蝕ヲ防グト共ニ土石ノ流下ヲ扞止シ尙崩壞ノ增大ヲ防止シ且將來行ハルベキ山腹工事ノ基礎タラシメントス

施工狀況

本工事ハ大正十三年度ノ創業ニ係リ同年度ニ於テハ道志川、桂川（以上相模川流域）、河內川（酒匂川域流）、早川、花水川及多摩川ノ六工場ヲ置キ各流域工事ニ著手シ翌十四年度ニ於テ中津川、笹子川（以上相模川流域）、鮎澤川（酒匂川流域元年度閉鎖）、小菅川（多摩川流域）ノ四工場ヲ增置シ鋭意工事ノ進捗ヲ圖リ本年度ニ於テハ更ニ秋川（多摩川流域）工場ヲ設置シ前年度迄ニ未竣功トナリシ堰堤三十四箇所及床固三箇所ヲ施工セル外新タニ堰堤十六箇所及床固十三箇所ヲ

起工シ内堰堤二十四箇所ヲ竣功セシメタリ而シテ起工以來本年度迄ニ竣功セシハ堰堤五十一箇所ニシテ之ヲ各河川ニ區別スレバ相模川流域十箇所、酒匂川流域四箇所、早川流域四箇所、花水川流域七箇所、多摩川流域二十六箇所ナリ

本年度施工ノ堰堤及床固設計竝ニ竣功等各河川別明細表左ノ如シ

本川	支川	小支	小々支	名稱	設計高 高	設計高 長	設計高 立積	設計高 工費	前年度迄竣功高 立積	前年度迄竣功高 工費	本年度竣功高 立積	本年度竣功高 工費	合計 立積	合計 工費	竣功歩合
					米	米	立方米	円	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
相模	道志川	神ノ川		小瀬戸堰堤	一五	三二	二、〇七七	四六、五〇〇	一、五三二	四〇、二一二	四九四	五、七一八	二、〇二六	四五、九三〇	〇、九九
				大瀬戸堰堤	一六	三二	二、六八一	六五、六〇〇	二、七六七	六三、二六〇		二九三	二、七六七	六三、四五三	〇、九七
				社宮司堰堤	一〇	三八	一、九二七	四六、〇〇〇			八一〇	二〇、〇一四	八一〇	二〇、〇一四	〇、四四
		井口澤	袖平澤	袖平澤堰堤	一一	二六	九七一	二〇、〇〇〇		二、六五〇	九八八	一六、三二四	九八八	一八、九七四	一、〇〇
				井口澤堰堤	一五	四二	二、四五九	五六、〇〇〇	四二七	一二、一六二	一、六一五	二四、三八〇	二、〇四二	三六、五四二	〇、六五
	中津川	早戸川		クグリノフチ堰堤	一二	二四	一、八五五	五三、八〇〇	一、五六七	三八、一一四	一三八	五、四〇三	一、七〇五	四三、五一七	〇、八一
				鞍平堰堤	八	二六	五二六	一一、〇〇〇		六七四	五三六	一〇、三二三	五三六	一〇、九九七	一、〇〇
				瀬戸堰堤	一〇	一八	七七四	一八、六〇〇			三四五	一一、四一四	三四五	一一、四一四	〇、六一
			宮ケ瀬金澤	宮ケ瀬金澤堰堤	七	二九	六四〇	一四、〇〇〇	四二一	八、七〇一	一三〇	二、四一三	五五一	一一、一一四	一、〇〇
	桂川	鹿留川		一之瀬堰堤	一〇	四五	一、四九四	二八、八〇〇	一、五六七	二七、九〇九		八一八	一、五六七	二八、七二七	一、〇〇
				雁渡堰堤	九	四五	一、三二八	二六、〇〇〇	三三四	六、八〇五	九〇一	一四、〇五四	一、二三五	二〇、八五九	〇、八〇
				水棚堰堤	一二	四四	一、七七三	三五、八〇〇			一六一	七、三二〇	一六一	七、三二〇	〇、二〇
	笹	巳辰澤		巳辰澤堰堤	八	二八	五三四	一一、一〇〇	四七一	七、八八六			四七一	七、八八六	一、〇〇
				岩空堰堤	四	二六	一三七	三、二〇〇	一四二	二、八七三			一四二	二、八七三	一、〇〇
				高畑堰堤	六	二六	三六一	七、七〇〇			三二一	五、七五一	三二一	五、七五一	〇、七五

川	子川			東澤堰堤	六	一九	一四五	三、九〇〇	—	—	—	五一三	—	五一三	〇・一三
				朝日窪堰堤	七	二七	三一三	六、三〇〇	五五	一、五〇〇	二五八	三、九〇六	三一三	五、四〇六	一・〇〇
		庭洞澤		早出堰堤	五	二二	二一〇	五、〇〇〇	—	—	一七三	三、二五九	一七三	三、二五九	〇・六五
				庭洞澤床固第一、第二、第三	三 三 二	一三 一三 八	一五一	三、九〇〇	八四	二、一三一	四三	六三四	一二七	二、七六五	〇・七〇
	小計				—	—	二〇、三五六	四六三、二〇〇	九、三六七	二一四、七七七	六、九一三	一三二、五三七	一六、二八〇	三四七、三一四	〇・七五
酒匂川	河内川	玄倉川	—	立間堰堤	一三	五一	二、七八八	六八、二〇〇	二、三七四	五九、九一一	—	—	二、三七四	五九、九一一	〇・八八
			—	第二立間副堰堤	四	二一	二三五	一〇、〇〇〇	—	—	二二〇	八、六五六	二二〇	八、六五六	〇・八七
			—	小畑堰堤	一二	三七	二、七二七	七一、〇〇〇	—	三、〇四九	二、二四二	三七、一九四	二、二四二	四〇、二四三	〇・五七
			小菅澤	向澤堰堤	八	四四	二、一六〇	四八、六〇〇	一、九一四	三六、一八二	—	—	一、九一四	三六、一八二	〇・七四
			小川	小川堰堤	一三	二四	一、三六二	二八、〇〇〇	—	—	四三九	一一、三八四	四三九	一一、三八四	〇・四一
		中川	棚澤	小塚堰堤	一三	二二	九五三	二一、一〇〇	—	—	八五六	一二、二九四	八五六	一二、二九四	一・〇〇
	鮎澤川	野澤川	湯船澤	湯船澤堰堤	八	三二	一、〇〇五	二三、〇〇〇	七三三	一三、七九六	—	—	七三三	一三、七九六	〇・六〇
	小計				—	—	一一、二三〇	二六九、九〇〇	五、〇二一	一一二、九三八	三、七五七	六九、五二八	八、七七八	一八二、四六六	〇・六六
早川	—	—	—	出山堰堤	二〇	五二	五、七九一	一二〇、〇〇〇	一、九一二	二七、四七九	三、九三七	六三、一五五	五、八四九	九〇、六三四	〇・七五
	—	—	—	大平臺上流堰堤	三〇	四二	一〇、三六一	二四〇、〇〇〇	三、〇四八	四六、八三二	—	—	三、〇四八	四六、八三二	〇・一九
	須雲川	—	—	觀音坂堰堤	一〇	五一	二、一三五	四六、五〇〇	五七四	一二、七二九	六二〇	八、一〇六	一、一九四	二〇、八三五	〇・四五
		猿澤	—	花ノ木堰堤	一五	四四	三、七一七	七七、〇〇〇	二、二八六	四三、五七七	九〇二	一五、一五九	三、一八八	五八、七三六	〇・七六
	小計				—	—	二二、〇〇四	四八三、五〇〇	七、八二〇	一三〇、六一七	五、四五九	八六、四二〇	一三、二七九	二一七、〇三七	〇・四五
花水川	玉川	—	—	藤原端堰堤	七	四七	一、三三七	二六、六〇〇	一四四	四、六〇八	一、一八七	一八、二八八	一、三三一	二二、八九六	一・〇〇
	鈴川	—	—	八段堰堤	一〇八	三七	一、〇三四	二四、〇〇〇	—	—	七〇二	一四、二八五	七〇二	一四、二八五	〇・五九

本川	支川	小支	小々支	名稱	設計高 高	設計高 長	設計高 立積	設計高 工費	前年度迄竣功高 立積	前年度迄竣功高 工費	本年度迄竣功高 立積	本年度迄竣功高 工費	計 立積	計 工費	竣功歩合
					米	米	立方米	円	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
多摩川	金目川			中尾堰堤	三・三	三〇	九五五	一九、〇〇〇			四二〇	七、五五二	四二〇	七、五五二	〇・四〇
	葛葉川			テシロゴ堰堤	八	三一	六八三	一七、四〇〇	四二七	七、七八六	一六七	三、一四八	五九四	一〇、九三四	一・〇〇
	小計						四、〇〇九	八七、〇〇〇	五七一	一二、三九四	二、四七六	四三、二七三	三、〇四七	五五、六六七	〇・六四
	入澤川			唐澤堰堤	四	一四	六七	一、三三〇	四四	一、〇〇五			四四	一、〇〇五	一・〇〇
				後山堰堤	九	二六	七一〇	一四、二〇〇	四五六	六、六七六	一二五	四、六五二	五八一	一一、三二八	一・〇〇
				栃ケ谷戸堰堤	四	二二	一四八	三、六〇〇	一二三	三、五三五			一二三	三、五三五	一・〇〇
				舟川澤床固	二	二個所 一七九	三五四	八、六〇〇			二七五	五、九八二	二七五	五、九八二	〇・七七
	日原川	栃久保澤		前山堰堤	七	二九	四四五	七、八二〇	四三四	六、七六一			四三四	六、七六一	一・〇〇
				大指堰堤	六	二一	二六五	四、三五〇	二六五	四、二九一			二六五	四、二九一	一・〇〇
				日向薙堰堤	六	一九	二七二	四、四二〇	二七二	三、九三九			二七二	三、九三九	一・〇〇
				澤入堰堤	六	二一	二九五	五、〇九〇	二九五	四、九二六			二九五	四、九二六	一・〇〇
	秋川	養澤川		本須堰堤	七	二三	四八〇	九、四〇〇			二八六	三、六二六	二八六	四、九九七	一・〇〇
		盆堀川		盆堀堰堤	八	三五	七〇四	一三、〇〇〇			二〇二	四、三六四	二〇二	四、三六四	〇・三三
	大澤川	瀧本入		瀧本入堰堤	五	二四	二二七	四、〇〇〇	一八七	三、五二七	五五	四六九	二四二	三、九九六	一・〇〇
		琴澤		琴澤堰堤	六	二二	三一八	六、七〇〇			二二八	五、七七二	二二八	五、七七二	一・〇〇
	小菅川	白澤		笹畑堰堤	八	三一	五九六	一四、七〇〇	六二五	一三、二九六			六二五	一三、二九六	一・〇〇
				降矢戸堰堤	八	三二	六〇〇	一四、七〇〇	三九五	七、九九四	一七六	四、一九一	五七一	一一、一八五	一・〇〇
				奈良倉堰堤	八	三四	六九三	一六、六〇〇			六五八	一三、四二四	六五八	一三、四二四	〇・八四
				矢瀬尾堰堤	一〇	一八	五七〇	一四、四〇〇	四七一	九、九二九			四七一	九、九二九	一・〇〇
				甲斐渡戸堰堤	一〇	二三	五七九	一五、〇〇〇	二六三	五、一二〇	一五四	三、八三八	四一七	八、九五八	一・〇〇

平山堰堤	一〇	二六	八六四	二一、七〇〇	—	—	五六一	一二、二一一	五六一	一二、二一一	〇・七三
計	—	—	一、八、一八七	一七九、六一〇	三、八三〇	七二、三七〇	二、七二〇	五八、五二九	六、五五〇	一三〇、八九九	〇・七三
計	—	—	六五、七八六	一、四八三、二一〇	二六、六〇九	五四三、〇九六	二一、三二五	三九〇、二八七	四七、九三四	九三三、三八三	〇・六三

本年度竣功高ハ四十七萬一千八百三十七圓ニシテ創業以來ノ累計ハ百五十七萬八千百十一圓トナリ之ヲ總事業費豫算四百五十五萬圓ニ比較スル時ハ三割五分ノ竣功トナレリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高			本年度竣功高			合計			竣功歩合
	數量		金額	數量		金額	數量		金額	
本工事費 堰堤	竣功	二七所	八八一、五六九 円	竣功	二四所	三八三、六七〇 円	竣功	二六一所	一、二六五、二三九 円	割分
床固	未竣功	三	二、一三一	未竣功	一六	六、六一六	未竣功	一六	八、七四七	〇・三二
船舶及機械費			四一、〇九九			六、九九五			四八、〇九四	
測量費			八、四四九			三、六〇八			一二、〇五七	
營繕費			二〇、四八三			一、一七九			二一、六六二	
雜費			一四七、八三一			六七、六四〇			二一五、四七一	
共濟組合給與金			四、七一二			二、一二九			六、八四一	
總計			一、一〇六、二七四			四七一、八三七			一、五七八、一一一	〇・三五

第二　信濃川大河津自在堰應急工事

緒言

本川開鑿工事ハ明治四十年度ヨリ昭和二年度ニ至ル二十一箇年度繼續事業ニシテ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル延長約十粁ノ分水路ヲ開鑿スルト共ニ分水路起點三島郡大河津村地先ニ於テ水位調節ノ爲メニ分水路ヲ横斷シテ自在堰及固定堰、本流ヲ横斷シテ洗堰及閘門ヲ築造スルヲ以テ目的トシ大正十年度ニ於テ略々其功ヲ竣リ大正十一年八月本川左岸ノ舊堤ヲ爆破シテ分水路ニ通水シ爾來能ク分水工事所期ノ目的ヲ完フスルコトヲ得タリシガ昭和二年六月下旬突如トシテ自在堰第六號乃至第八號ピーヤノ陷沒ヲ起シ次デ七月上旬第三號乃至第五號ピーヤ亦陷落シ自在堰扉ノ完全ニ操作シ得ルモノ僅カニ第一號及第二號ノ二徑間ヲ剩スノミトナリテ全ク水位調節ノ機能ヲ失ヒ本川全水量ハ分水路ニ放流セラレテ一時大河津下流ノ本流及ビ派川中ノ口川沿岸ノ灌漑ト航運トニ支障ヲ及ボスニ至レリ時恰モ農家ノ灌漑時期ニ際會シ洗堰下流ノ通水ハ焦眉ノ急ヲ訴ヘタルガ故ニ工費豫算八十七萬四百十一圓(外ニ事務費七千二百二十五圓)ヲ支出シテ應急工事ヲ施行シ辛ウジテ本流ノ通水ヲ圖リタリ

昭和二年六月下旬自在堰陷沒ト同時ニ工事ニ著手シ同十一月下旬ニ至リ大體應急工事ノ目的ヲ達シ引續キ應急維持工事竝ニ跡仕末ヲ施行シ昭和三年三月三十一日ヲ以テ竣功ヲ告ゲタリ

河狀竝計畫大要

本工事ハ之ヲ二部ニ分ツ其一ハ急速ニ分水路ヲ締切リ本川下流ノ灌漑ト航運トヲ保證セントスルモノニシテ之ヲ第一假締切工事ト名ヅケ其二ハ破壞セル自在堰徑間ヲ締切リテ之ヲ固定堰ニ改造スルト共ニ殘存セル徑間ハ之ヲ補强シ以テ補修工事期間中ノ水位調節ヲ司ラシメントスルモノニシテ之ヲ第二假締切工事ト稱ス

第一假締切工事ハ自在堰上流約二百八十米ノ位置ニ分水路ヲ横斷シテ延長約九百七十米ノ締切堤ヲ築造スルニアリ土俵堤、蛇籠堤、石堤及川倉枠ヲ以テ其主體トシ其下流ニハ木工沈床及粗朶沈床ヲ沈設シテ締切溢流水ニ依ル洗掘ヲ防止ス

自在堰陷沒ノ結果洗堰下流ノ本川ハ通水全ク杜絶セシヲ以テ前記締切堤ノ進捗スルニ伴ヒ急速ニ大河津下流ニ灌漑用水ヲ送ランガ爲メニ西蒲原郡島上村大字笈ケ島地先ニ於テ約七百三十米ノ區間ノ浚渫ヲ行ヒ低水路ヲ堆砂中ニ開鑿ス

第二假締切工事ハ自在堰上流ニ施行スルモノニシテ完全ナル第一號及第二號徑間ヲ補强スルト共ニ損傷比較的輕微ナル第三號及第四號徑間ハ之ヲ夫々ニードル堰及角落堰ニ改造シ以テ焦眉ノ急ニ應ゼシメンガ爲メニ第一號乃至第四號扉ノ上流ニハ長十二米鋼矢板ヲ打込ミ之ト自在堰基礎トノ間ニハ混凝土工ヲ施行シテ上流ヨリスル透水ヲ防ギ又第五號乃至第八號扉ハ修復ノ途ナキガ故ニ之ヲ固定堰ニ改造スルコトトシ其上流ニ長サ十二米乃至十四米三ノ鋼矢板ヲ二列ニ打込ミ中埋ニハ砂及砂利ヲ塡充シ上端ハ石張トシ洪水時ニハ其上ヲ溢流セシムルコトトス

附帶工事ハ第一假締切下流ニ取入口ヲ有スル蒲原用水樋管ニ對シ用水取入ノ爲メノ假工事ヲ施行スルト共ニ洗堰下流西蒲原郡小池村外五十一箇町村水利組合ニ對シ應急的揚水機取付ノ補助費ヲ交付スルモノトス

施工狀況

應急工事施工概要次ノ如シ

第一假締切工事

自在堰ノ陷沒ヲ見ルヤ直ニ計畫ニ從ヒ本工事ニ要スル材料ノ蒐集人夫ノ徵募ニ全力ヲ注ギ翌六月二十五日ニハ右岸寄低水路締切石堤ノ基礎木工沈床沈設ニ著手シ引續キ川倉枠締切及左岸寄高水敷締切ニ相當スル土堤蛇籠堤ノ工事ヲ一齊ニ起シ信濃川本川筋ノ浚渫作業ト共ニ晝夜兼行進工ニ努メタリ而シテ七月中ニハ數次ノ出水アリテ工事遂行上多大ノ支障アリシト雖モ八月中旬ニハ大體締切ノ目的ヲ達シ陷沒ノ爲メ低下セル水位二米ノ内約一米五ヲ締上グルコトヲ得タリ

本工事ニテ施行セル締切堤ハ土俵堤六百米、蛇籠堤百五十米、石堤百五十米、川倉枠締切七十米計九百七十米ニシテ其下流ニハ木工沈床二十八平方米、粗朶沈床三千六百十七平方米ヲ施工シ洗堰下流ノ浚渫ハ船運搬ニ依ルモノ一萬四千七百七十立方米、三立方米積土運車ニ依ルモノ八千二百二十七立方米籠負ニ依ルモノ八千七百九十五立方米、刎付ニ依ルモノ四萬一千九百二立方米、吸揚浚渫船ニ依ルモノ、一千十五立方米計土量七萬四千七百九立方米ヲ處理シタリ

第二假締切工事

自在堰上流ニ於ケル鋼矢板打込作業ハ右岸ヨリ著手シテ順次左岸ニ向ツテ進行セシガ矢板締切工ノ進捗スルニ伴ヒ水流幅ヲ縮小セシムル結果自在堰破壞部ノ洗掘ヲ增進シ遂ニ矢板ノ建込ヲ不可能ナラシムルニ至リシヲ以テ第五號乃至第八號徑間ニ亙リ床固石堤ヲ作リ之ニ依リテ一時水流ヲ遮斷シタル後辛フジテ其上流ニ矢板締切工ヲ施行スルコトヲ得タリ床固ノ爲メニ割石二千七百三十三立方米、砂利五百六十二立方米、蛇籠四千百四十五本ヲ使用シタリ鋼矢板ハ長九米五乃至十四米三ニシテ延長六百十三米ニ達シ第五號乃至第八號徑間上流ノ矢板圍堰ノ中埋ニハ砂五千九百二十八立方米、砂利三百十三立方米、上面石張用割石三百四十二立方米ヲ使用シタリ

自在堰上流ハ陷沒時ノ激流ト締切工事中ノ横流トノ爲メニ著シク洗掘セラレタルガ故ニ鋼矢板ノ前後ニ亙リテ埋戻ヲ施行シ砂三千七百五十九立方米、割石五千五百八十二立方米、混凝土八百四十一立方米、土俵四萬七千二百三十九俵ヲ使用シタリ

本締切工事ハ主トシテ自在堰殘存部ノ安全ヲ保持スル爲メ其上下流ニ鋼矢板ヲ打込ミ之ニ附伴スル諸般ノ工事ヲ施行セントスルモノナルガ此種工事所要機具ノ設備ナク是等準備ノ爲メ時日ヲ經過スルトキハ瀑流スル水勢ノ爲メ漸次殘存堰ノ根底部ヲ洗掘セラレ益々危險ヲ招來スルノ虞ナキヲ保シ難キニ依リ比較的經歷ヲ有スルト認ムル者ヲ選ビ請負工事トシテ極メテ急速ニ施了スルハ緊要適切ノ處置ト認メタルヲ以テ工事ノ一部ヲ大倉組ニ請負ハシメ之ヲ施行シタリ

採石工事

應急工事ニ使用セル割石ハ一部ハ寺泊町大字野積海岸ヨリ直營採用シ一部ハ之ヲ購入シタリシガ直營採集量二萬五百十八立方米トス

運搬工事

工事用材料ヲ二十瓲機關車ヲ以テ地藏堂驛ヨリ大河津ニ運搬シ直營採取ニ係ル割石ヲ野積海岸ヨリ大河津ニ運搬シ又ハ工事用材料其他ヲ自動車及ランチヲ用ヒテ新潟ヨリ大河津ニ運搬シタリ

附帶工事

附帶工事ハ上記蒲原用水取入口工事ニ就テハ其二分ノ一ヲ補助シテ直接施行トシ又小池村外五十一箇町村水利組合揚水機取付工事ニ就テモ同シク其二分ノ一ヲ補助シタリ其工事竣功表左ノ如シ「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	竣功高 數量	竣功高 金額	竣功歩合
本工事費 第一假締切		二〇五、九二九 円	割分
第二假締切		三七九、三四六	
採石	立方米 二〇、五一八	二八、五五八	
材料運搬		一六、五〇八	
地用費		一二三	
船舶及機械費		五三、八四九	
測量費		七三〇	

費目	竣功高 數量	竣功高 金額	竣功歩合
營繕費		四、七六五 円	割分
雜費		四八、六九三	
附帶工事費	箇所 五三	□ 一〇八、二九五	
計		□ 八四、六九六	
維持費		一五、一〇三	
總計		□ 一、一八九、四八三	一・〇〇

第三　信濃川補修工事

緒言

本川改修工事ハ明治四十年度ヨリ昭和二年度ニ至ル二十一箇年度繼續事業トシテ工費豫算二千三百五十四萬一千九百五圓(内新潟縣負擔額六百十二萬九千圓)ヲ以テ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル延長約十粁ノ分水路ノ開鑿竝ニ新潟市信濃川河口ノ改良工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防止スルコトヲ目的トシ此内分水路ノ開鑿工事ハ大正十年度ニ於テ略々其功ヲ竣リ大正十一年八月本川左岸ノ舊堤ヲ爆破シテ新水路ニ通水シ爾來能ク分水工事所期ノ目的ヲ完フスルコトヲ得タリシガ昭和二年六月突如トシテ分水路起點三島郡大河津村地先ニ設置セラレタル自在堰ノ陷沒ヲ起シ全ク水位調節ノ機能ヲ失ヒ本川全水量ハ分水路ニ放流セラレテ一時大河津下流ノ本流及ビ派川中ノ口川沿岸ノ灌漑ト航運トニ障害ヲ及ボスニ至レリ時恰モ農家ノ灌漑時期ニ際會シ洗堰下流ノ通水ハ焦眉ノ急ヲ訴ヘタルガ故ニ工費豫算八十七萬四百十一圓(外ニ事務費七千二百二十五圓)ヲ支出シテ應急工事ヲ施行シ辛ウジテ本流ノ通水ヲ圖リタリ

本補修工事ハ破壞セル自在堰ノ復舊ヲ主トシ之ニ附隨シテ必要ナル諸工事ヲ施行スルモノニシテ本年度ハ工費豫算八十八萬二千圓(外ニ事務費七千二百圓)ヲ以テ其一部ヲ實施セリ

河狀竝計畫大要

新堰堤可動堰ハ現自在堰上流百米ノ位置ニ築造シ堰長百八十米、之ヲ十個ノ水路ニ分チ各水路ニハスト

ーニー式鋼扉ヲ備ヘ洪水時ニハ之ヲ捲揚ゲ固定堰上ノ溢流ト相俟テ毎秒五千五百七十立方米ノ計畫洪水量ヲ分水路ニ放流スルニ支障ナカラシム構造ハ鐵骨又ハ鐵筋混凝土造トシ基礎ノ四周ハ鋼矢板ヲ以テ締切リ水ノ滲透ト砂ノ移動トヲ防止ス

固定堰ハ現在ノ堰ヲ補強改造シ其下流ハ水叩ヲ延長スルト共ニ洪水敷ヲ掘上ゲ充分ノ護岸工及床留工ヲ施シタル導水路ヲ作リ緩勾配ヲ以テ低水路ヲ傾斜セシム

分水路ハ通水以來河床ノ洗掘甚シク且自在堰陷沒ノ結果ハ四箇月餘ノ久シキニ亙リテ激流ノ洗フトコロトナリ河床ハ異常ナル洗掘作用ヲ蒙リ之ヲ自然ニ放任スルコトヲ許サズ乃チ分水路ヲ維持シ以テ新堰堤ヲ保護センガ爲メニ床固工ヲ施ス第一床固ハ現自在堰基礎ヲ補強改造シテ新堰堤ニ對スル副堰堤ノ作用ヲ爲サシメ第二床固ハ分水路終端西蒲原郡國上村大字渡部地先ニ混凝土堰堤ヲ作リ河底ノ岩盤ヲ保護スルト共ニ其上流ノ水蝕ヲ防止ス此等二個ノ床固工ノ中間ニハ更ニ適宜ノ位置ニ構造簡易ナル床留工事ヲ施スモノトス

洗堰下流ノ本川ハ累年河床上昇シテ通水量ヲ減少シ灌漑ト航行トニ困難ヲ感ジタリシガ自在堰陷沒ノ結果流勢分水路ニ集中シテ本流ハ土砂ノ沈澱頓ニ增加シ通水杜絶スルニ至リシヲ以テ蒲原平野約二萬六千ヘクタールノ灌漑ト航運トヲ保障センガ爲メ洗堰ヨリ中ノ口川分派口ニ至ル延長八粁ノ區間ノ附帶地低水工事ヲ施行ス卽チ低水幅ヲ八十米乃至百米ト定メテ水路ヲ浚渫シ兩岸ニハ水刎兼用ノ護岸ヲ設ケ水流誘導ノ爲メニハ導流堤ヲ作リ流水ノ自然作用ニ依リテ水路ヲ維持セントス

施工狀況

本工事ハ昭和二年十二月九日ノ創業ニシテ年度内ハ殆ンド準備作業ニ忙殺セラレ且北越特有ノ風雪ハ操業ヲ困難ナラシメ運輸機關ノ杜絶ハ材料配給ニ支障ヲ及ボシ著シク功程ノ進捗ヲ阻害シタリシガ本年度施工概要次ノ如シ

堰堤工事

可動堰下流水叩工ハ可動堰基礎ト現自在堰トノ全區間ニ亙リ粘土褥及粗朶沈床ヲ以テ耐水層ヲ作リ透水ト洗掘トヲ防止セントスルモノニシテ年度内施工ノ粘土褥ハ浚渫土ヲ轉用セシモノ二千六百九十一立方米、國上村大字渡部地先採取ノ土丹岩ヲ投入シタルモノ五千五百二十七立方米、計八千二百十八立方米ニシテ沈床ハ三千九百五十平方米ヲ沈設シタリ

國定堰補强工ハ僅カニ下流法面ノ終點ニ鋼矢板ヲ打込ムガ爲メノ準備作業ヲ行ヘルニ過ギズ

床固工事

第一床固工ハ本年度ニ於テハ破壞セル自在堰鋼扉ノ一部ト混凝土橋脚ノ一部トヲ除却シタル外水叩ハ、蛇籠、捨石及混凝土ヲ以テ補强修理ヲ加ヘ水叩下流ノ深掘部ハ粗朶沈床ヲ沈設シテ砂押ヘト爲シタル上ニ捨石、蛇籠、木工沈床ヲ以テ石堤ヲ作ルモノニシテ各其一部ヲ施工シ年度内施工ノ粗朶沈床ハ一千二百三十平方米、木工沈床ハ三百九十平方米、捨石(割石及土丹岩)ハ九千六百十六立方米ニ上レリ

自在堰下流約六百米ノ位置ニ低水路ノ全幅ニ亙リテ五千石床留工ヲ作リ粗朶沈床、木工沈床、蛇籠ヲ用ヒテ流水ト土砂ノ掩留ヲ計リタリシガ極メテ良好ナル成績ヲ示シ上流ニハ堆砂ヲ見ルニ至レリ

採石工事

割石ハ野積地先ニ於テ採取シ四瓲又ハ四瓲五ガソリン機關車及二十瓲機關車ヲ以テ運搬シ土丹岩ハ渡

部地先ニ於テ採取シ二十瓲機關車ヲ以テ運搬シ各工事場ニ配給ス玉石ハ長岡市地先信濃川上流ニ於テ採取シ之ヲ機械付運搬船ヲ以テ大河津ニ運搬シタルモノニシテ年度内採取量割石九千七十七立方米、土丹岩一萬二千四百三十立方米、玉石一千八百二十九立方米トス

運搬工事

本工事ハ二十瓲機關車及四瓲五ガソリン機關車ヲ用ヒテ購入セシ綱矢板、粗朶、木材、割石、玉石等ヲ地藏堂驛ヨリ專用線路ニ依リテ大河津工事場ニ運搬シ又ハ洗堰下流物揚場ニ陸揚シタル玉石ヲ大河津工事場ニ運搬シタルモノトス

附帶工事

本年度ノ施工ニ係ルモノハ熊ノ森機械浚渫工、導流堤工、中之島護岸工ノ三ニシテ熊ノ森機械浚渫工ハ電動吸揚浚渫船一隻及汲揚浚渫船二隻ヲ以テ西蒲原郡島上村字笈ケ島及熊ノ森地先ニ於テ水路ノ淤淺最モ甚シキ區間ノ浚渫ヲ施工シ土量一萬二千四百五十七立方米ヲ處理ス土砂ハ直接又ハ小舟ヲ用ヒテ沿川ノ低濕地ニ投棄シタリ

導流堤工ハ既設應急工事第一假締切ヲ利用シテ之ヲ補修シ水流ヲ洗堰ニ誘導スルモノニシテ年度内施工ノ粗朶沈床二千九百五平方米トス

中之島護岸工ハ上記機械浚渫工事ノ進捗ニ伴ヒ水路ヲ整理シテ亂流ヲ防グ目的ノ下ニ水刎兼用ノ護岸ヲ施工スルモノニシテ適宜ニ粗朶沈床、鐵線猪ノ子、柳籠包柴工ヲ用ヒ年度内ニアリテハ其一部ヲ實施シタルニ過ギズ

本年度ニ於ケル竣功額ハ三十九萬六千五百六十八圓ニシテ工費豫算八十八萬二千圓ニ比スレバ四割五

分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ「□」ハ新潟縣負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費							
堰堤				円 二八、四五一		円 二八、四五一	割分
床固				六八、一四四		六八、一四四	
採石			二三、三三六 立方米	四四、〇七八	二三、三三六 立方米	四四、〇七八	
材料運搬				二、八一八		二、八一八	
附帶工事費			未竣功 箇所一	□ 一三、八一二 一五、四八七	未竣功 箇所一	□ 一三、八一二 一五、四八七	
用地費				九三九		九三九	
船舶及機械費				一五〇、七七七		一五〇、七七七	
測量費				二、〇二〇		二、〇二〇	
營繕費				四一、〇六二		四一、〇六二	
雜費				四二、七三四		四二、七三四	
共濟組合給與金				一、七三三		一、七三三	
總計				□ 三九六、五六八 一五、四八七		□ 三九六、五六八 一五、四八七	〇・四五

昭和二一年度直轄工事年報（終）

昭和四年二月十八日印刷
昭和四年二月二十日發行

内務省土木局

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷者　島　連　太　郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷所　三　秀　舍
（電話神田(25)二八五九・二八六九・三五三〇番）